
菖蒲町

神ノ木2遺跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事に伴う
菖蒲地区埋蔵文化財発掘調査報告
(第2分冊)

2008

国土交通省 関東地方整備局
財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

目次

(第1分冊)

口絵

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要 …………… 1

1. 発掘調査に至る経過 …………… 1

2. 発掘調査・報告書作成の経過 …………… 2

3. 発掘調査・報告書作成の組織 …………… 3

II 遺跡の立地と環境 …………… 4

III 遺跡の概要 …………… 10

IV 遺構と遺物 …………… 18

1. 旧石器時代 …………… 18

2. 縄文時代 …………… 36

(1) 住居跡 …………… 36

(第2分冊)

(2) 掘立柱建物跡 …………… 359

(3) 土壌 …………… 376

(4) 埋甕 …………… 468

(5) ピット …………… 470

(6) グリッド出土遺物 …………… 474

(7) 遺構・遺物計測表 …………… 487

3. 古墳時代 …………… 529

(1) 古墳 …………… 529

(2) 土壌 …………… 541

(3) 周溝状遺構 …………… 550

4. 中・近世 …………… 552

(1) 土壌 …………… 552

(2) 井戸跡 …………… 556

(3) 溝跡 …………… 557

(4) 炭焼窯跡 …………… 571

(5) グリッド出土遺物 …………… 572

V 石器の理化学的分析 …………… 573

VI 調査のまとめ …………… 577

1. 旧石器時代 …………… 577

2. 縄文時代 …………… 578

(1) 縄文中期土器の変遷

(2) 縄文中期遺構の変遷

3. 古墳時代 …………… 589

(1) 柴山枝郷古墳群と土壌墓

(2) 第107号土壌出土の鉄製品について

(第3分冊)

写真図版

插图目次

(第2分册)

第355图	第1号掘立柱建物跡	359	第389图	土壙出土遺物(8)	400
第356图	第2号掘立柱建物跡	360	第390图	土壙出土遺物(9)	401
第357图	第3号掘立柱建物跡	361	第391图	土壙出土遺物(10)	402
第358图	第4号掘立柱建物跡	362	第392图	土壙(8)	404
第359图	第5号掘立柱建物跡	363	第393图	土壙(9)	405
第360图	第6号掘立柱建物跡	364	第394图	土壙出土遺物(11)	407
第361图	第7号掘立柱建物跡	365	第395图	土壙(10)	409
第362图	第8号掘立柱建物跡	366	第396图	土壙(11)	411
第363图	第9号掘立柱建物跡	367	第397图	土壙(12)	413
第364图	第10号掘立柱建物跡	368	第398图	土壙出土遺物(12)	414
第365图	第11号掘立柱建物跡	369	第399图	第181号土壙遺物出土狀況	415
第366图	第12号掘立柱建物跡	370	第400图	土壙(13)	417
第367图	第13号掘立柱建物跡	371	第401图	土壙出土遺物(13)	418
第368图	第14号掘立柱建物跡	372	第402图	土壙(14)	421
第369图	第15号掘立柱建物跡	373	第403图	土壙(15)	422
第370图	第17号掘立柱建物跡	374	第404图	土壙(16)	423
第371图	掘立柱建物跡出土遺物	375	第405图	土壙出土遺物(14)	424
第372图	土壙(1)	377	第406图	土壙(17)	427
第373图	土壙出土遺物(1)	378	第407图	第245·253号土壙遺物出土狀況	428
第374图	土壙(2)	380	第408图	土壙出土遺物(15)	429
第375图	土壙(3)	381	第409图	土壙出土遺物(16)	430
第376图	第37号土壙遺物出土狀況	383	第410图	土壙(18)	432
第377图	土壙出土遺物(2)	384	第411图	土壙出土遺物(17)	433
第378图	土壙出土遺物(3)	385	第412图	土壙出土遺物(18)	434
第379图	第40号土壙遺物出土狀況	386	第413图	土壙(19)	436
第380图	土壙出土遺物(4)	387	第414图	土壙(20)	437
第381图	土壙出土遺物(5)	388	第415图	土壙出土遺物(19)	438
第382图	土壙(4)	390	第416图	土壙(21)	441
第383图	土壙(5)	391	第417图	土壙出土遺物(20)	442
第384图	土壙出土遺物(6)	393	第418图	土壙(22)	444
第385图	土壙(6)	395	第419图	土壙(23)	445
第386图	土壙(7)	396	第420图	土壙出土遺物(21)	446
第387图	第75·76·89号土壙遺物出土狀況	398	第421图	土壙(24)	449
第388图	土壙出土遺物(7)	399	第422图	土壙(25)	450
			第423图	土壙出土遺物(22)	451

第424図	土壙 (26) ……………	453	第461図	第107号土壙 (2) ……………	546
第425図	第398号土壙遺物出土状況 ……………	454	第462図	第107号土壙出土遺物 (1) ……………	547
第426図	土壙出土遺物 (23) ……………	455	第463図	第107号土壙出土遺物 (2) ……………	548
第427図	土壙出土遺物 (24) ……………	456	第464図	第1号周溝状遺構 ……………	550
第428図	土壙 (27) ……………	458	第465図	第2号周溝状遺構 ……………	551
第429図	第420号土壙遺物出土状況 ……………	459	第466図	土壙 (1) ……………	553
第430図	土壙 (28) ……………	463	第467図	土壙 (2) ……………	554
第431図	土壙 (29) ……………	464	第468図	土壙出土遺物 ……………	555
第432図	第444号土壙遺物出土状況 ……………	465	第469図	井戸跡 ……………	556
第433図	土壙出土遺物 (25) ……………	466	第470図	溝跡 (1) ……………	559
第434図	第1号埋甕 ……………	468	第471図	溝跡 (2) ……………	560
第435図	第1号埋甕出土遺物 ……………	469	第472図	溝跡 (3) ……………	561
第436図	ピット全体図 (1) ……………	471	第473図	溝跡 (4) ……………	562
第437図	ピット全体図 (2) ……………	472	第474図	溝跡 (5) ……………	563
第438図	ピット全体図 (3) ……………	473	第475図	溝跡 (6) ……………	564
第439図	グリッド出土土器 (1) ……………	474	第476図	溝跡出土遺物 (1) ……………	565
第440図	グリッド出土土器 (2) ……………	475	第477図	溝跡出土遺物 (2) ……………	566
第441図	グリッド出土土器 (3) ……………	477	第478図	溝跡出土遺物 (3) ……………	567
第442図	グリッド出土土器 (4) ……………	478	第479図	溝跡 (7) ……………	568
第443図	グリッド出土土器 (5) ……………	480	第480図	溝跡 (8) ……………	569
第444図	グリッド出土土器 (6) ……………	481	第481図	溝跡出土遺物 (4) ……………	569
第445図	グリッド出土土器 (7) ……………	483	第482図	炭焼窯・出土遺物 ……………	571
第446図	グリッド出土石器 (1) ……………	485	第483図	グリッド出土古銭 ……………	572
第447図	グリッド出土石器 (2) ……………	486	第484図	X線回折のプロファイル (1/2) ……	575
第448図	第1号墳 (1) ……………	530	第485図	X線回折のプロファイル (2/2) ……	576
第449図	第1号墳 (2) ……………	531	第486図	神ノ木2遺跡出土中期土器 変遷図 (1) ……………	580
第450図	第1号墳出土遺物 ……………	532	第487図	神ノ木2遺跡出土中期土器 変遷図 (2) ……………	581
第451図	第2号墳・出土遺物 ……………	533	第488図	周辺遺跡出土の中期土器 ……………	583
第452図	第4号墳 (1) ……………	535	第489図	神ノ木2遺跡中期遺構変遷図 (1) ……	586
第453図	第4号墳 (2) ……………	536	第490図	神ノ木2遺跡中期遺構変遷図 (2) ……	587
第454図	第4号墳出土遺物 ……………	537	第491図	埼玉県内に所在する二段墓壙例 ……	593
第455図	第6号墳 (1) ……………	538	第492図	古墳群内の土壙墓例と栃木県に 所在する二段墓壙例 ……………	594
第456図	第6号墳 (2)・出土遺物 ……………	539	第493図	熊谷市 (旧江南町) 榎現坂遺跡 戈戟を持つ盾持人埴輪 ……………	595
第457図	第6号墳 (3) ……………	540			
第458図	土壙 (1) ……………	542			
第459図	土壙 (2) ……………	543			
第460図	第107号土壙 (1) ……………	545			

表 目 次

(第2分冊)

第5表	住居跡一覧表	487	第15表	第4号墳出土遺物観察表	537
第6表	住居跡ピット一覧表	489	第16表	第6号墳出土遺物観察表	538
第7表	掘立柱建物跡一覧表	507	第17表	第107号土壙出土遺物観察表	549
第8表	土壙一覧表	507	第18表	第27号土壙出土遺物観察表	554
第9表	グリッドピット一覧表	516	第19表	第70号土壙出土遺物観察表	556
第10表	石器計測表	521	第20表	溝跡出土遺物観察表	557
第11表	黒曜石分析一覧表	526	第21表	溝跡出土古銭観察表	569
第12表	剥片・石核一覧表	527	第22表	溝跡一覧表	570
第13表	第1号墳出土遺物観察表	532	第23表	グリッド出土古銭観察表	572
第14表	第2号墳出土遺物観察表	532	第24表	X線回折装置の設定	573
			第25表	試料観察結果と判定した岩石種	574

(2) 掘立柱建物跡

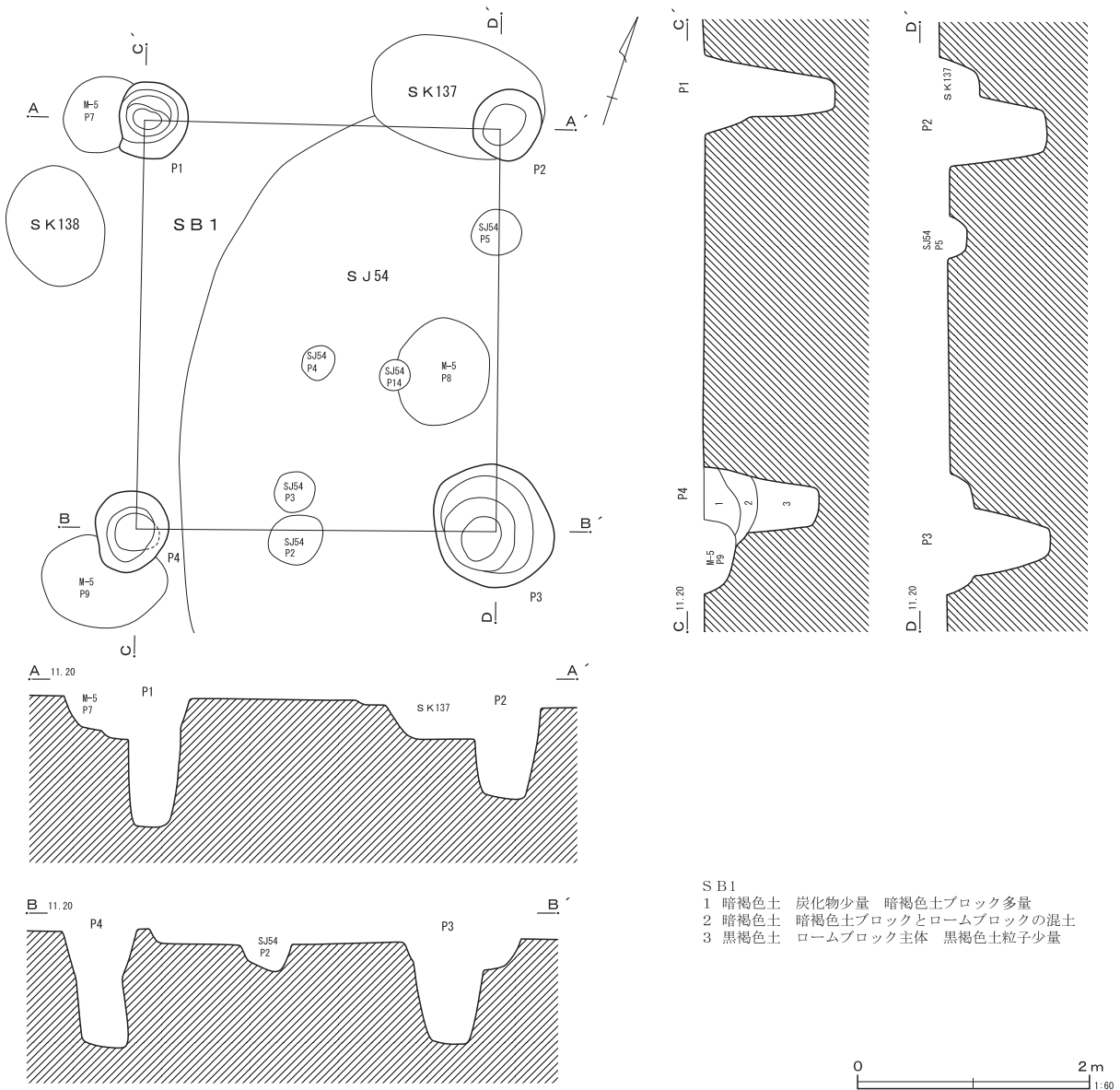
調査区からは16棟が検出された。調査時は17棟とされたが、1棟の掘立柱建物跡の柱穴が土壌であることが確認されたため欠番とすることとした。掘立柱建物跡の主軸方向は、便宜上北を上として出した数値である。柱穴の深さについては、掘り込み面からの数値である。掘り込み面の高さについては柱穴すべてに対して共通の値にして深さを測ったものである。

第1号掘立柱建物跡 (第355・371図)

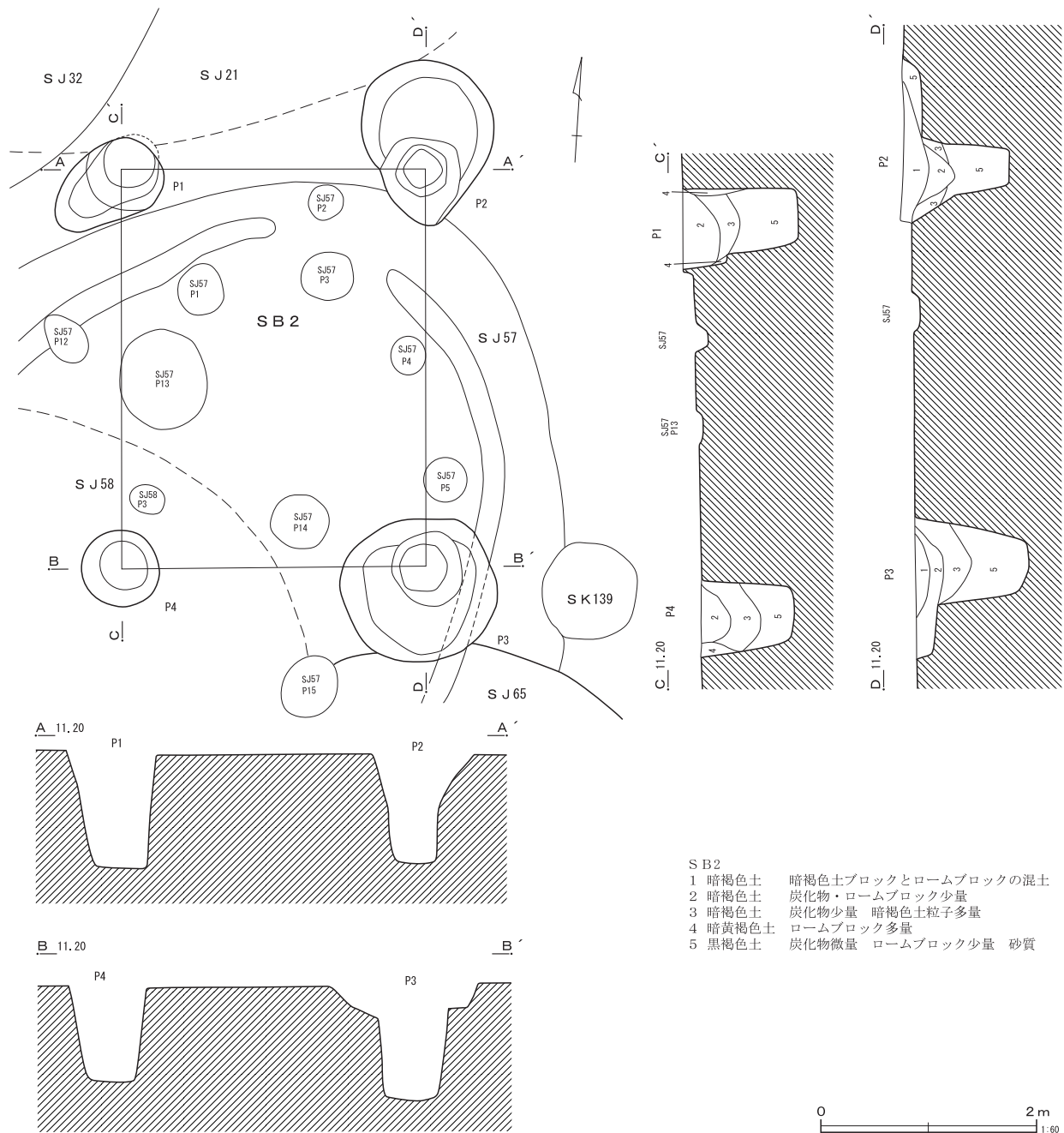
M-5グリッドに位置する。柱穴は4本検出さ

れ、4本の柱穴は長方形に並ぶものである。柱穴のうちP2、P3は第54号住居跡内から重複して検出されている。またP2は第137号土壌とも重複している。住居跡の土層断面から、P2は第54号住居跡や第137号土壌よりも古いものであることが認められる。そのことから第1号掘立柱建物跡は第54号住居跡以前に建てられたものと考えられる。

4本の柱穴の中心を結んだ柱穴間の距離は、北南方向ではP1・P4間で3.54m、P2・P3間で3.54mを、西東方向ではP1・P2間で3.06m、



第355図 第1号掘立柱建物跡



第356図 第2号掘立柱建物跡

P4・P3間で2.98mを計る。北南方向に長軸を持つものである。主軸方向はN-19°-Wである。

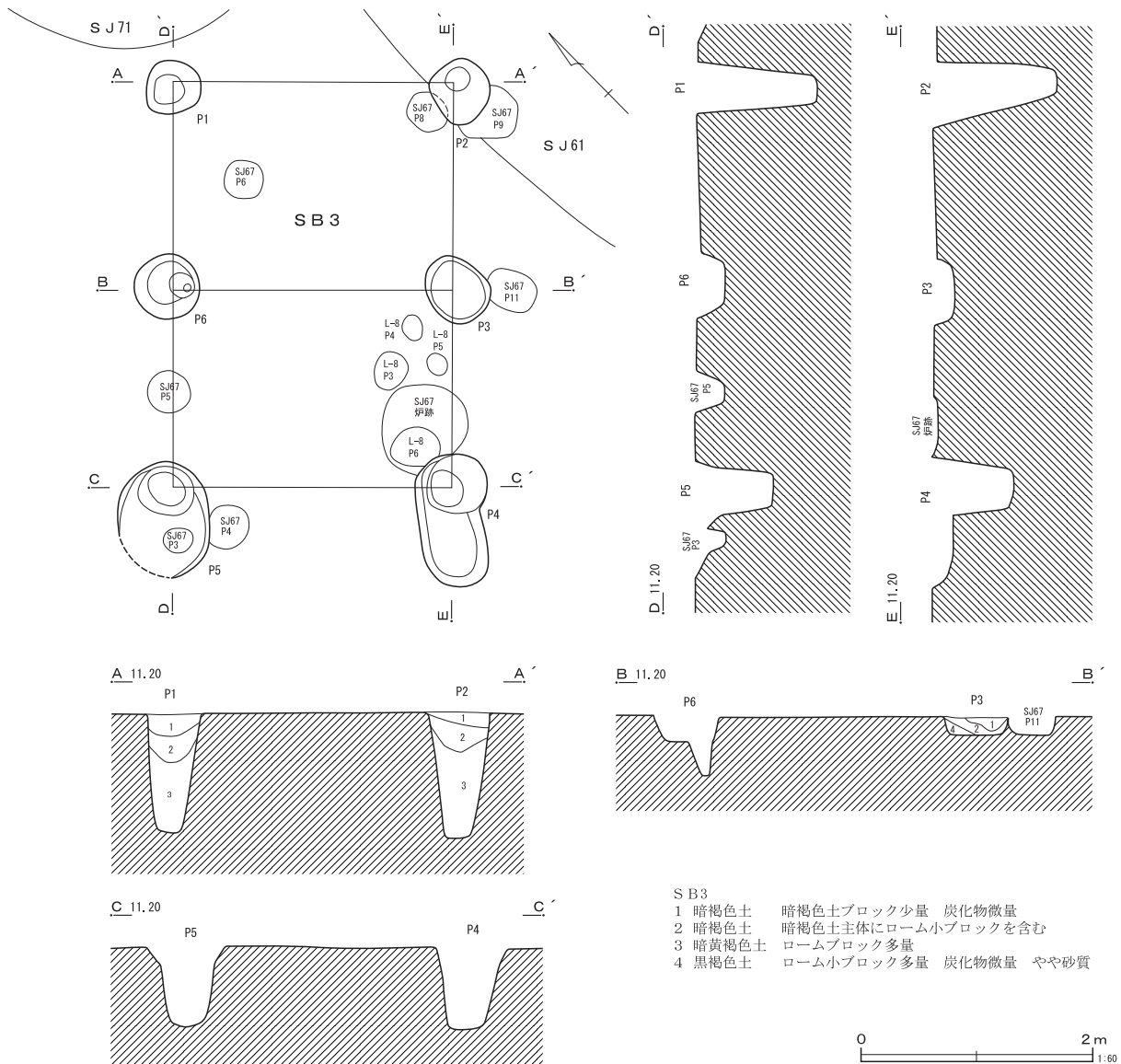
柱穴の掘り込み面からの深さはP1が1.11m、P2が0.92m、P3が0.96m、P4が0.99mである。

遺物は柱穴内から1点検出された。第371図1は浅鉢形土器の口縁部の破片である。地文のみが残存するもので、楕円状の条線を縦方向に施文しているものである。

時期は遺構の重複関係や出土遺物から中期後葉であると考えられる。

第2号掘立柱建物跡 (第356図)

L-5グリッドに位置する。柱穴は4本検出され、4本の柱穴は長方形に並ぶものである。柱穴のうちP2は第57号住居跡内から、P3は第57・65号住居跡から、P4は第57・58号住居跡と重複



して検出されている。住居跡の土層断面から、P 3は第57号住居跡よりも古いものであることが認められる。そのことから第1号掘立柱建物跡は第57号住居跡以前に建てられたものと考えられる。

4本の柱穴の中心を結んだ柱穴間の距離は、北南方向ではP 1・P 4間で3.66m、P 2・P 3間で3.70mを、西東方向ではP 1・P 2間で2.70m、P 4・P 3間で2.74mを計る。計測値から北南方向に長軸を持つものである。主軸方向はN-4°-Wである。

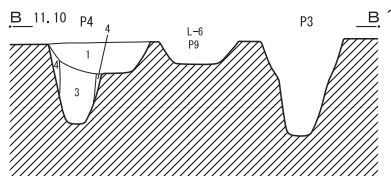
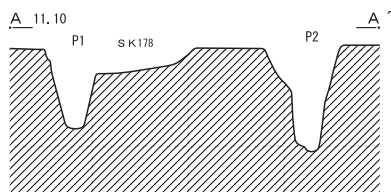
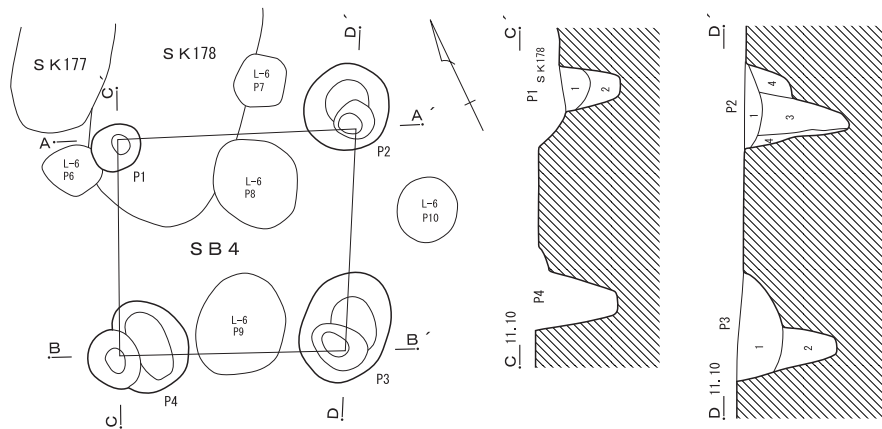
柱穴の掘り込み面からの深さはP 1が1.10m、

P 2が0.99m、P 3が1.16m、P 4が1.01mである。遺物は検出されなかった。

時期は遺物が検出されなかったため明確ではないが、第57号住居跡との重複関係からすると、中期後葉であると考えられる。

第3号掘立柱建物跡 (第357図)

L-7・8、M-8グリッドに位置する。柱穴は6本検出され、6本の柱穴は長方形に並ぶものである。柱穴のうちP 1・P 3・P 4・P 5・P 6は第67号住居跡と、P 2は第61・67号住居跡と



- S B 4
- 1 暗褐色土 ロームブロック少量
 - 2 黒色土 暗褐色土ブロックとロームブロックの混土
 - 3 黒色土 黒色粒子・ロームブロック少量 柱痕
 - 4 暗褐色土 ロームブロック多量 柱掘り方への充填



第358図 第4号掘立柱建物跡

重複している。住居跡との新旧関係については不明である。

建物跡の角にあたる4本の柱穴の中心を結んだ柱穴間の距離は、北南方向ではP1・P5間で3.40m、P2・P4間で3.52mを、西東方向ではP1・P2間で2.48m、P5・P4間で2.38mを計る。計測値から北南方向に長軸を持つものである。主軸方向はN-45°-Eである。

柱穴の掘り込み面からの深さはP1が1.09m、P2が1.14m、P3が0.24m、P4が0.78m、P5が0.72m、P6が0.60mである。北南方向の中間の柱穴は、比較的浅めに掘り込まれて検出されている。

遺物は検出されなかった。

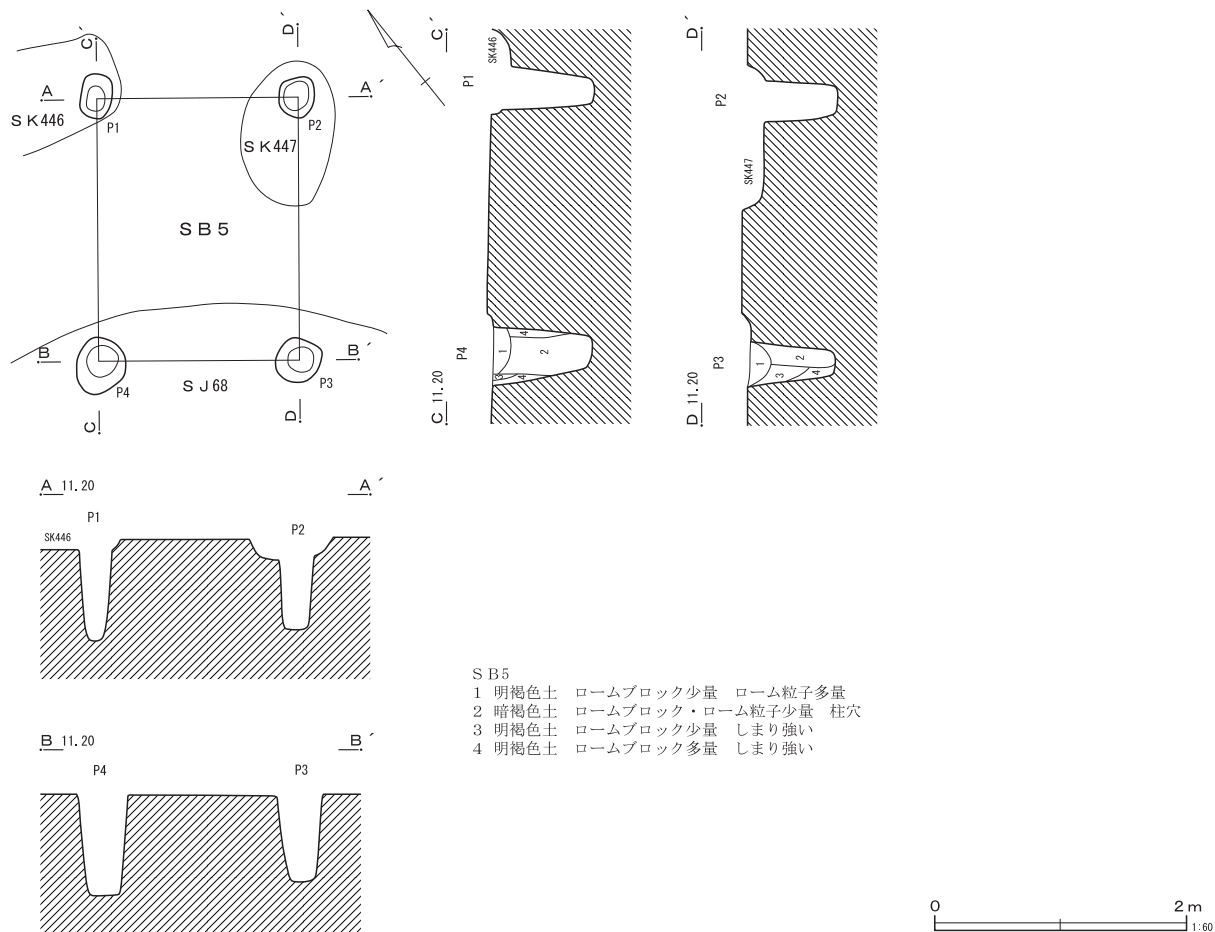
時期は遺物や遺構の重複関係からは不明である

が、土層などの状況から中期後葉であると考えられる。

第4号掘立柱建物跡 (第358図)

K・L-6グリッドに位置する。土壌群の中から検出されているもので、南側には第68号住居跡が近接して検出されている。柱穴は4本検出され、4本の柱穴は正方形に近い形状に並ぶものである。柱穴のうちP1は第178号土壌と重複して検出されている。第178号土壌との新旧関係については不明である。

4本の柱穴の中心を結んだ柱穴間の距離は、北南方向ではP1・P4間で1.70m、P2・P3間で1.70mを、西東方向ではP1・P2間で1.84m、P4・P3間で1.72mを計る。計測値から西東方



第359図 第5号掘立柱建物跡

向にわずかに長軸を持つものである。主軸方向はN-25°-Eである。

柱穴の掘り込み面からの深さはP 1が0.62m、P 2が0.83m、P 3が0.76m、P 4が0.64mである。遺物は検出されなかった。

時期は遺物や遺構の重複関係からは不明であるが、土層などの状況から中期後葉であると考えられる。

第5号掘立柱建物跡 (第359図)

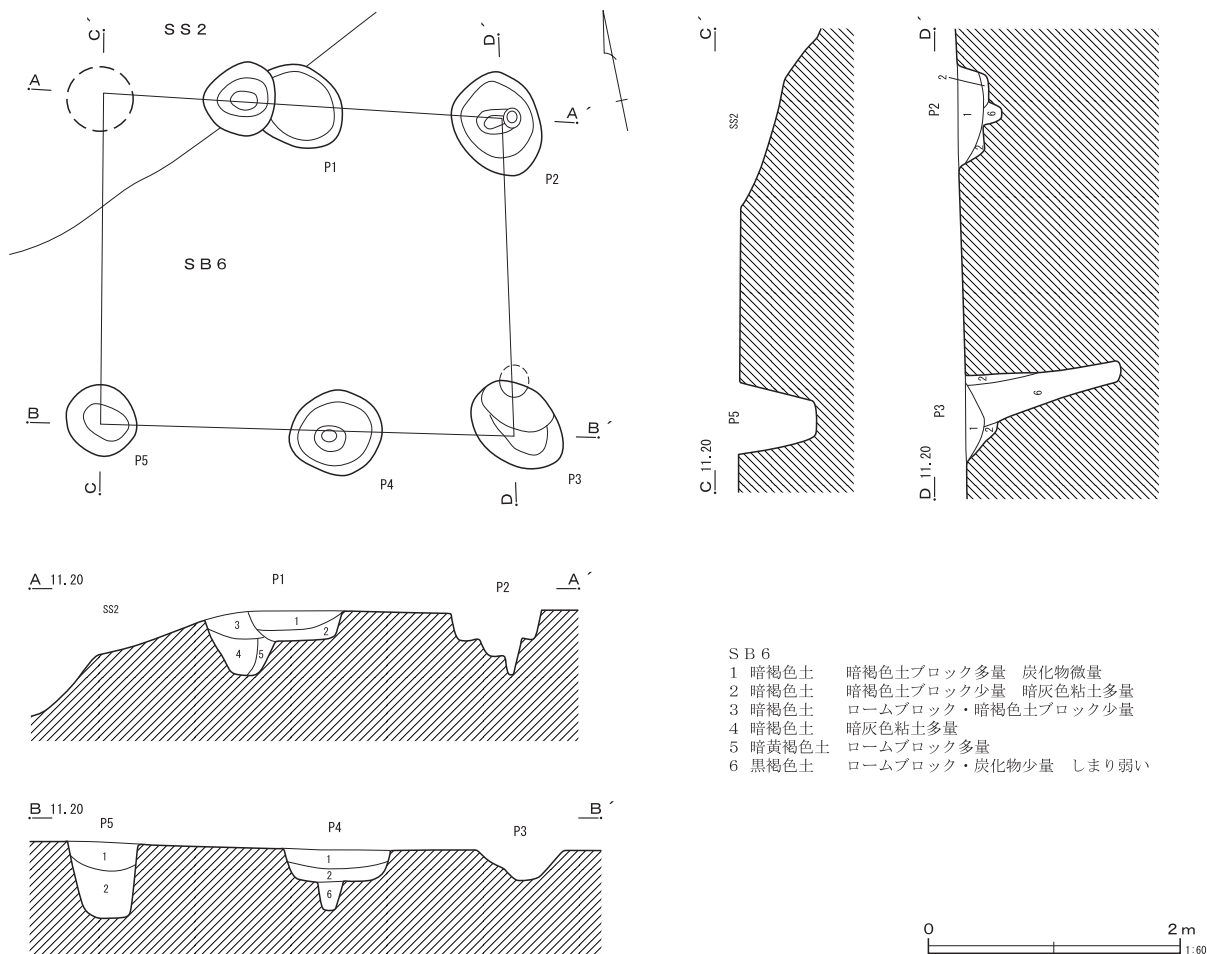
L-6・7グリッドに位置する。柱穴は4本検出され、4本の柱穴は長方形に並ぶものである。柱穴のうちP 3・P 4は第68号住居跡の北東側から重複して検出されている。P 1は第446号土壙、P 2は第447号土壙と重複している。重複してい

る遺構との新旧関係については、いずれも不明であった。また西側には第56号住居跡が隣接して検出されている。

4本の柱穴の中心を結んだ柱穴間の距離は、北南方向ではP 1・P 4間で2.06m、P 2・P 3間で2.07mを、西東方向ではP 1・P 2間で1.57m、P 4・P 3間で1.56mを計る。北南方向に長軸を持つものである。主軸方向はN-31°-Eである。

柱穴の掘り込み面からの深さはP 1が0.87m、P 2が0.83m、P 3が0.84m、P 4が0.91mである。遺物は検出されなかった。

時期は遺物や遺構の重複関係からは不明であるが、土層などの状況から中期後葉であると考えられる。



第360図 第6号掘立柱建物跡

第6号掘立柱建物跡 (第360図)

G-5グリッドに位置する。柱穴は5本検出された。本来は6本の柱穴が配置されていたと考えられるが、1本の柱穴は第2号古墳の周溝によって壊されているものである。推定される1本を含め柱穴は長方形に並ぶものと考えられる。また柱穴は縄文時代の住居跡や土壇とは重複していなかった。周辺からは住居跡は検出されていない。

推定される柱穴を含めて建物跡の角にあたる4本の柱穴の中心を結んだ柱穴間の距離は、北南方向では推定される柱穴とP5間で2.52m、P2・P3間で2.22mを、西東方向では推定される柱穴とP2間で3.23m、P5・P3間で3.19mを計る。計測値からは西東方向に長軸を持つものである。主軸方向はN-12°-Eである。

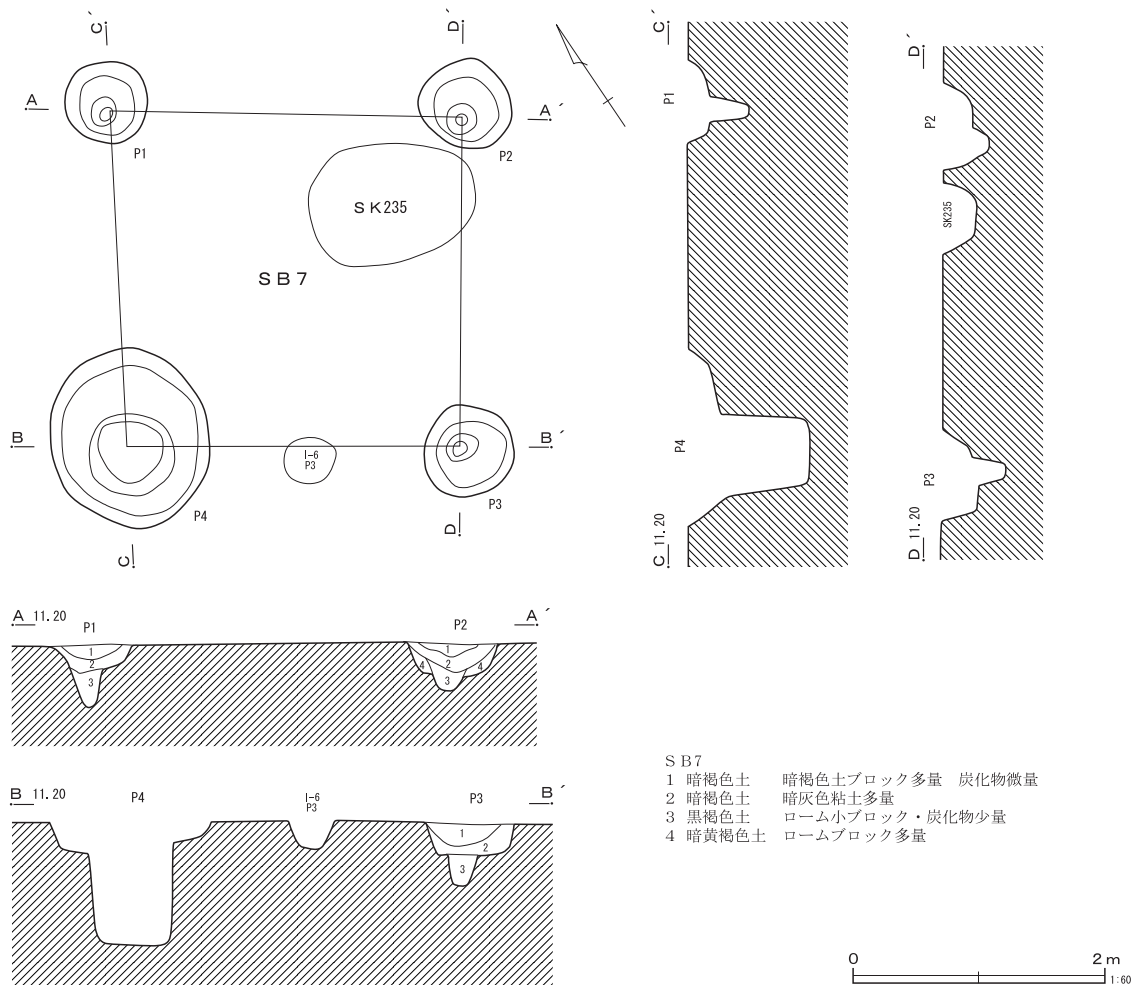
柱穴の掘り込み面からの深さはP1が0.49m、P2が0.50m、P3が1.19m、P4が0.48m、P5が0.61mである。

遺物は検出されなかった。

時期は遺物や遺構の重複関係からは不明であるが、土層などの状況から中期後葉であると考えられる。

第7号掘立柱建物跡 (第361図)

I・J-5・6グリッドに位置する。遺構は土壇群の中に位置している。柱穴は4本検出され、4本の柱穴は正方形に近い形状で並ぶものである。北側には第20号住居跡が隣接して検出されている。柱穴のうちP2のすぐ南西側には第235号土壇が検出されている。



第361図 第7号掘立柱建物跡

4本の柱穴の中心を結んだ柱穴間の距離は、北南方向ではP1・P4間で2.64m、P2・P3間で2.58mを、西東方向ではP1・P2間で2.78m、P4・P3間で2.58mを計る。計測値からはやや西東方向に長軸を持つものである。主軸方向はN-34°-Eである。

柱穴の掘り込み面からの深さはP1が0.52m、P2が0.37m、P3が0.51m、P4が0.98mである。遺物は検出されなかった。

時期は遺物や遺構の重複関係からは不明であるが、土層などから中期後葉であると考えられる。

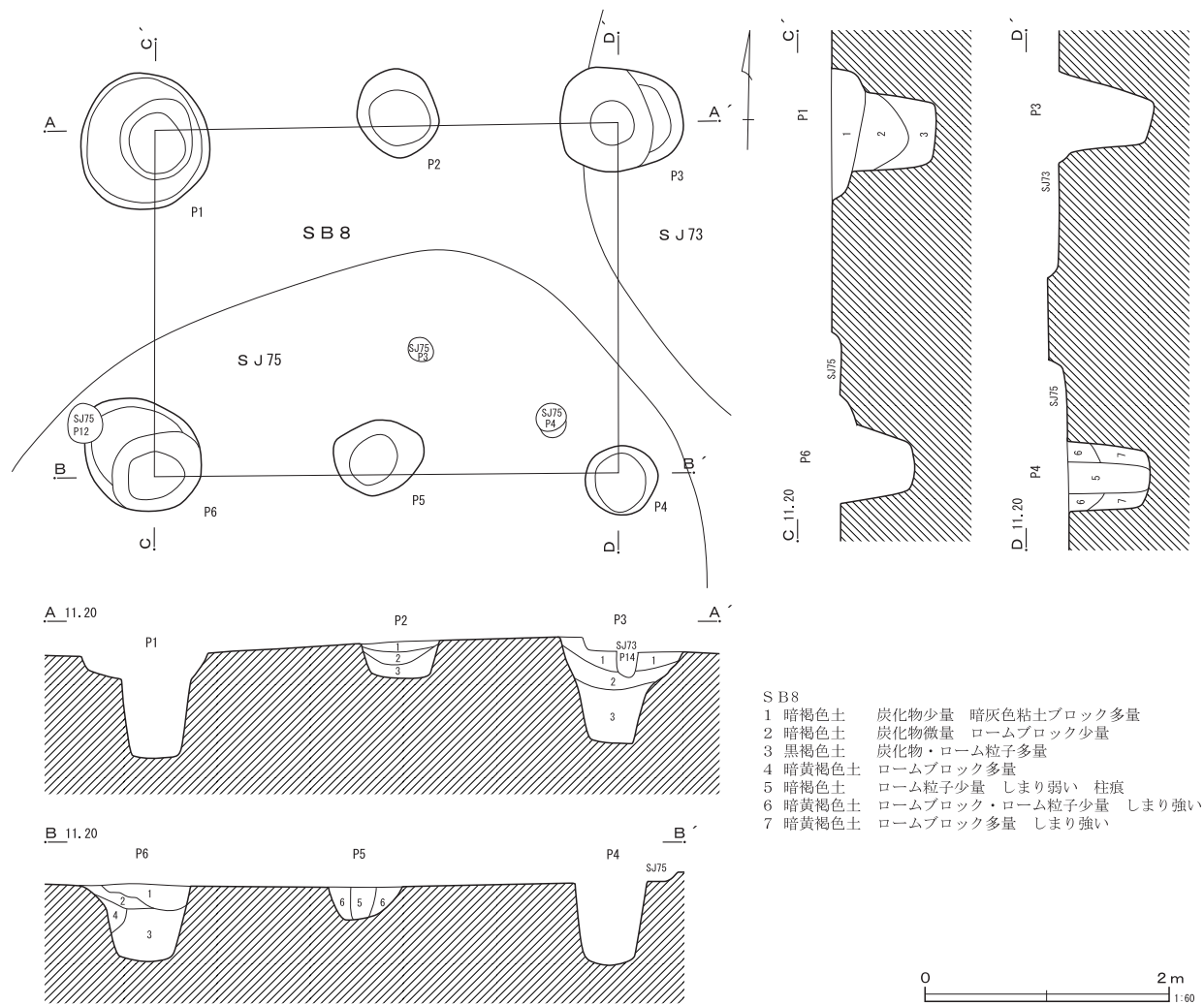
第8号掘立柱建物跡 (第362・371図)

I・J-8グリッドに位置する。柱穴は6本検出され、6本の柱穴は長方形に並ぶものである。

柱穴のうちP3は第73号住居跡と、P4・P6は第75号住居跡と重複している。第73号住居跡との新旧関係は不明であるが、第75号住居跡とは土層断面図から、第8号掘立柱建物跡が住居跡よりも古いことが認められた。

建物跡の角にあたる4本の柱穴の中心を結んだ柱穴間の距離は、北南方向ではP1・P6間で2.68m、P3・P4間で2.88mを、西東方向ではP1・P3間で3.67m、P6・P4間で3.77mを計る。計測値からも西東方向に長軸を持つもので柱穴も3本検出されている。主軸方向はN-1°-Wである。

柱穴の掘り込み面からの深さはP1が0.85m、P2が0.29m、P3が0.88m、P4が0.75m、P5が0.38m、P6が0.64mである。長軸である西東



第362図 第8号掘立柱建物跡

方向に3本並ぶ中間の柱穴については、比較的浅めに掘り込まれて検出されている。

遺物は柱穴内から少量が検出されている。第371図2～5は深鉢形土器の破片である。2は口縁部の破片で、口縁部直下に刺突文を巡らし、胴部には磨消沈線文で文様を施文している。3～5は胴部の破片で、磨消沈線文を施文するものである。4は胴部下半に逆U字状文を施文している。地文は単節RLの縄文を施文している。

7・9は地文に条線を施文するもので、浅鉢形土器の胴部の破片である。9は底部に近いもので、胴部の文様は部分的に残存している。

6・8は深鉢などのミニチュア土器の破片である。地文として6は無節Lの縄文を施文している。

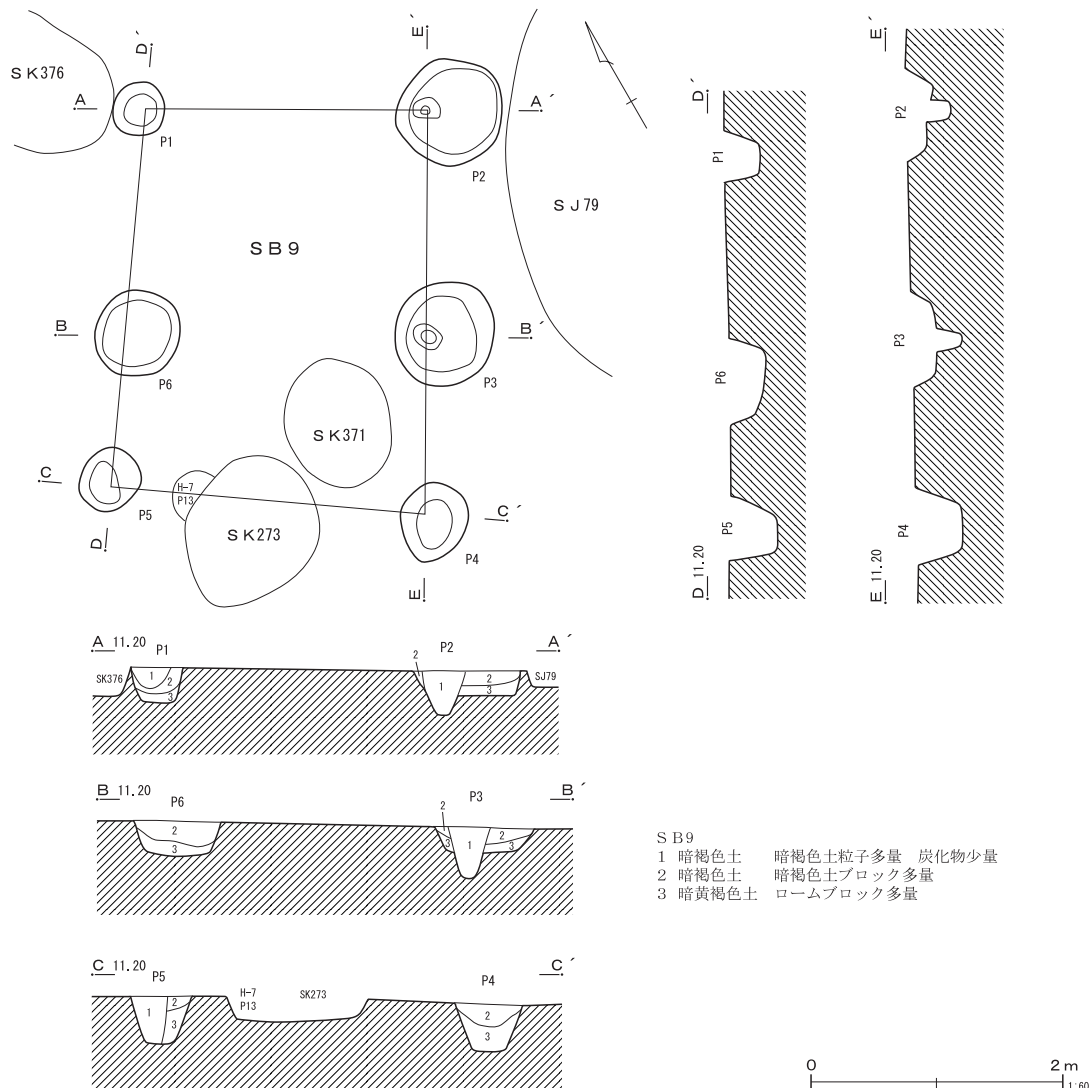
8は無文である。

時期は出土している遺物や、遺構との重複関係から中期後葉であると考えられる。

第9号掘立柱建物跡（第363・371図）

H・I-7グリッドに位置する。周辺には土壌群が検出されている。またほぼ同じ主軸方向である第10号掘立柱建物跡が北側に並列するように検出されている。第79号住居跡が隣接して検出されている。柱穴は6本が検出されている。検出された6本の柱穴は、ほぼ長方形に柱穴が並ぶものである。

建物跡の角にあたる4本の柱穴の中心を結んだ柱穴間の距離は、北南方向ではP1・P5間で



第363図 第9号掘立柱建物跡

2.95m、P2・P4間で3.26mを、西東方向ではP1・P2間で2.24m、P5・P4間で2.60mを計る。計測値から北南方向に長軸を持つものである。主軸方向はN-29°-Eである。

柱穴の掘り込み面からの深さはP1が0.27m、P2が0.35m、P3が0.41m、P4が0.38m、P5が0.38m、P6が0.32mである。

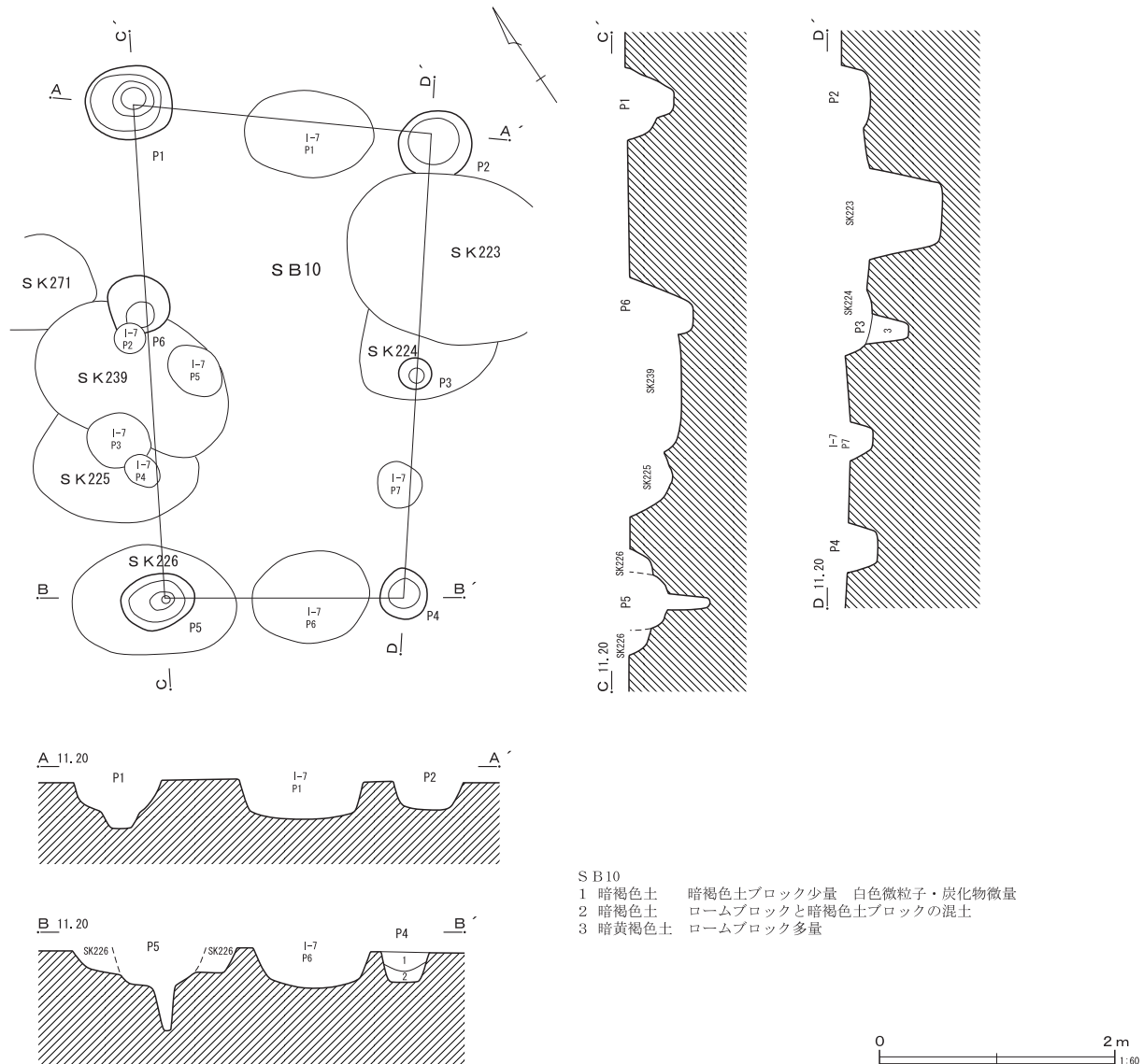
遺物は柱穴内からわずかだが検出されている。第371図10・11は深鉢形土器の破片である。10は口縁部の破片で、口縁部には隆帯と沈線で渦巻き文や楕円区画文などの文様を施文するものと考えられる。地文は単節RLの縄文を施文している。11は胴部の破片で、胴部上半の沈線による

波状文が認められる。地文は単節LRの縄文を施文している。

時期は遺物や遺構から中期後葉であると考えられる。

第10号掘立柱建物跡 (第364図)

H・I-7、I-6グリッドに位置する。周辺には土壌群が検出されている。ほぼ同じ主軸方向である第9号掘立柱建物跡が南側に並列するように検出される。また南側で第79号住居跡が隣接している。柱穴は6本検出されて、柱穴はほぼ長方形に並ぶものである。柱穴のうちP2は第223号土壌と、P3は第224号土壌と、P5は第226号土



第364図 第10号掘立柱建物跡

壙と、P 6 は第239号土壙と重複している。第226号土壙については、第10号掘立柱建物跡のほうが新しいものであるが、他の重複する土壙との新旧関係は不明である。

建物跡の角にあたる4本の柱穴の中心を結んだ柱穴間の距離は、北南方向ではP 1・P 5間で4.21m、P 2・P 4間で3.81mを、西東方向ではP 1・P 2間で2.56m、P 5・P 4間で2.00mを計る。計測値から北南方向に長軸を持つものである。主軸方向はN-30°-Eである。

柱穴の掘り込み面からの深さはP 1 が0.42m、

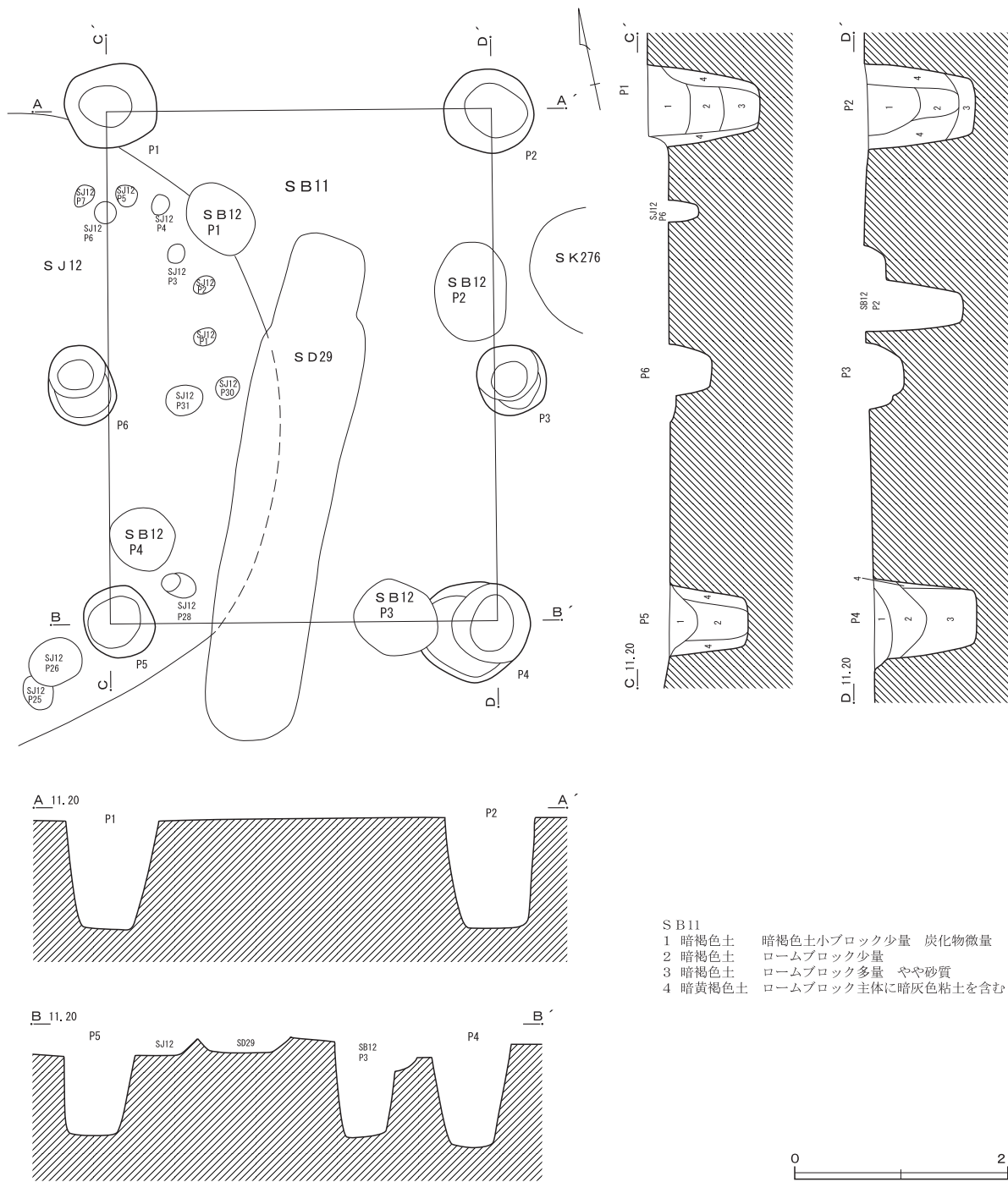
P 2 が0.24m、P 3 が0.53m、P 4 が0.25m、P 5 が0.68m、P 6 が0.60mである。

遺物は検出されなかった。

時期は遺物や遺構の重複関係からは不明であるが、土層などの状況から中期後葉であると考えられる。

第11号掘立柱建物跡 (第365・371図)

F-5・6グリッドに位置する。第12号掘立柱建物跡とは、主軸方向を変えてほぼ同じ位置から検出されている。柱穴は6本検出され、6本の柱



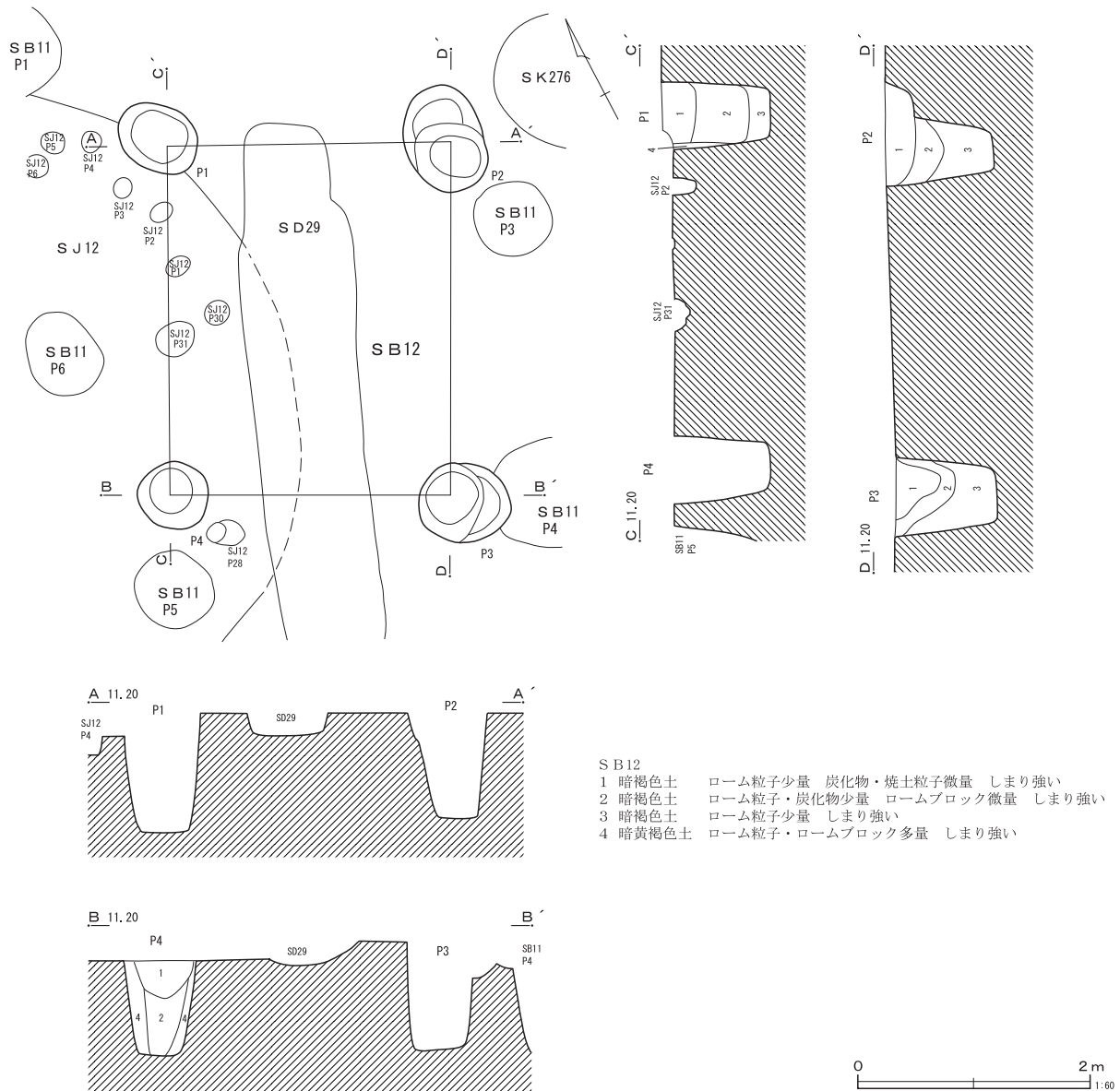
第365図 第11号掘立柱建物跡

穴はほぼ長方形に並ぶものである。柱穴のうち、P1・P5・P6は第12号住居跡と重複するものである。住居跡の土層断面から、第12号住居跡よりも古いことが明らかになった。また北側には第16号住居跡が隣接して検出されている。

建物跡の角にあたる4本の柱穴の中心を結んだ

柱穴間の距離は、北南方向ではP1・P5間で4.78m、P2・P4間で4.80mを、西東方向ではP1・P2間で3.60m、P5・P4間で3.50mを計る。計測値から北南方向に長軸を持つものである。主軸方向はN-12°-Eである。

柱穴の掘り込み面からの深さはP1が0.98m、



第366図 第12号掘立柱建物跡

P 2 が0.97m、P 3 が0.34m、P 4 が0.97m、P 5 が0.95m、P 6 が0.52mである。長軸方向から検出された3本の柱穴のうち真ん中の柱穴2本については、他と比較すると掘りこみが浅いものとなっている。

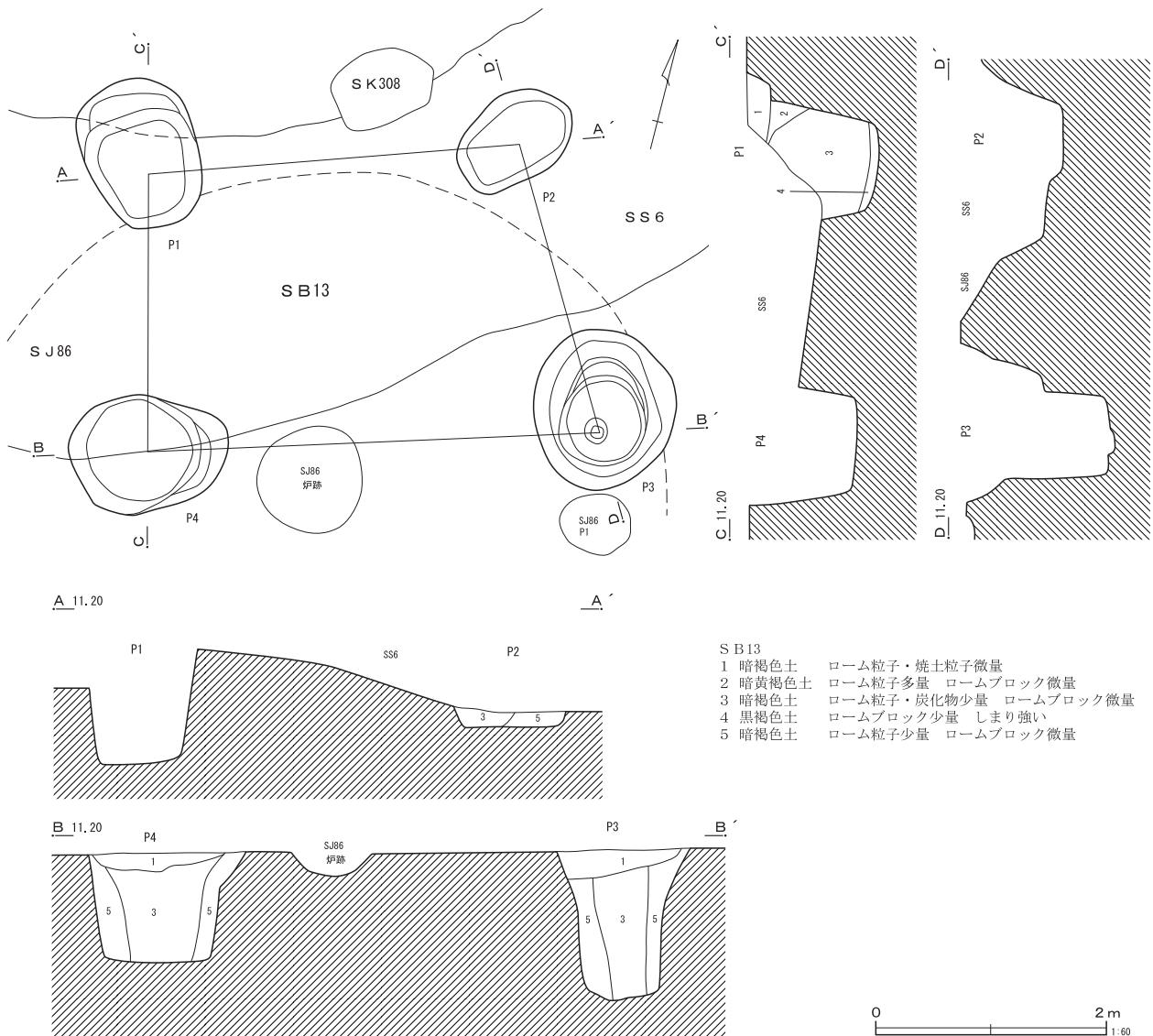
遺物は柱穴からわずかに検出されている。第371図12は深鉢形土器の胴部の破片である。地文のみが残存するもので、地文として単節RLの縄文を施文している。

時期は出土した遺物や遺構との重複関係から推

定すると、中期後葉であると考えられる。

第12号掘立柱建物跡 (第366・371図)

F-5・6グリッドに位置する。北側には第16号住居跡が隣接して検出されている。第11号掘立柱建物跡とは、主軸方向を変えてほぼ同じ位置から検出されている。柱穴は4本検出され、4本の柱穴は長方形に並ぶものである。柱穴のうちP 1・P 4は第12号住居跡内から重複して検出されている。第12号住居跡と第12号掘立柱建物跡との



第367図 第13号掘立柱建物跡

新旧関係については不明である。

4本の柱穴の中心を結んだ柱穴間の距離は、北南方向ではP1・P4間で3.12m、P2・P3間で2.91mを、西東方向ではP1・P2間で2.52m、P4・P3間で2.39mを計る。計測値から北南方向に長軸を持つものである。主軸方向はN-28°-Eである。

柱穴の掘り込み面からの深さはP1が0.99m、P2が0.96m、P3が0.90m、P4が1.04mである。

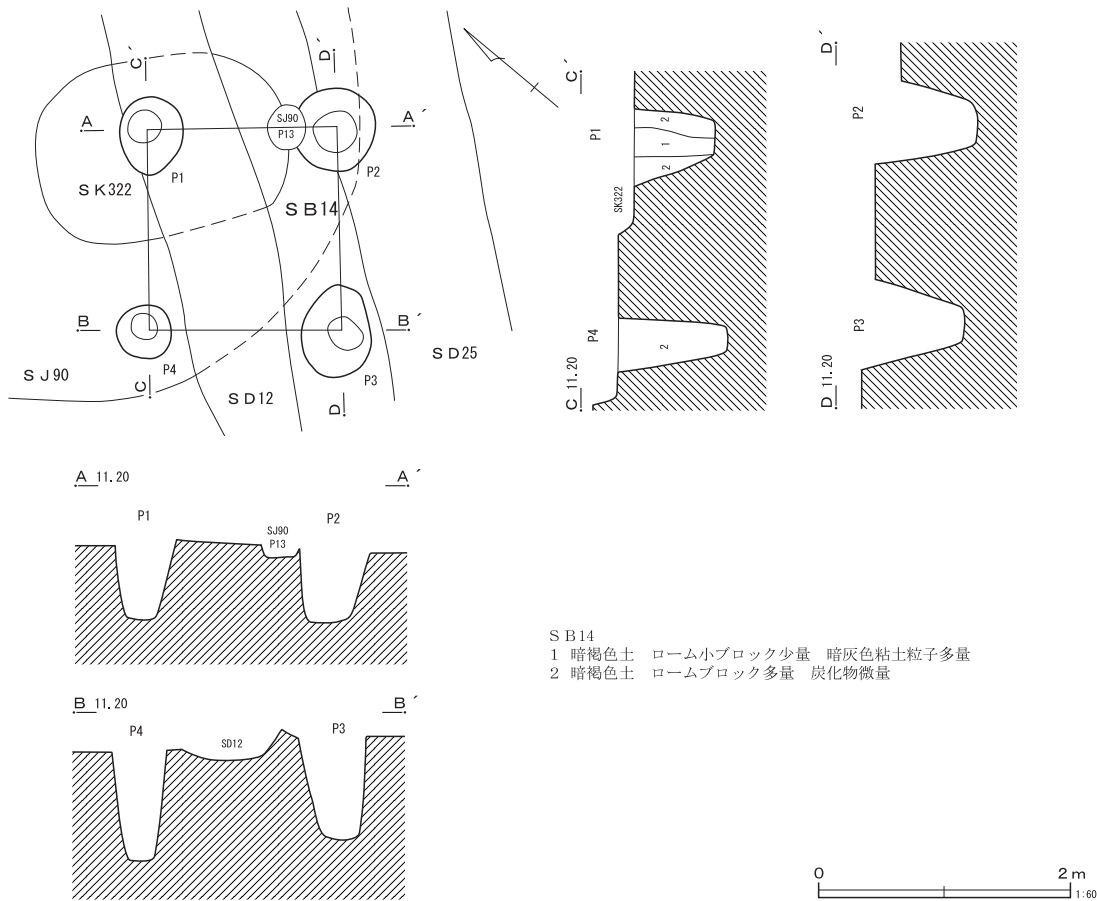
遺物は柱穴内から2点検出された。第371図13は浅鉢形土器の口縁部の破片である。地文のみが残存するもので、楕円状の条線を斜めから縦方向

に施文しているものである。14は深鉢形土器の胴部の破片である。胴部には沈線で文様を垂下させている。地文は単節LRの縄文を縦方向に施文している。

時期は遺構の重複関係や出土遺物から中期後葉であると考えられる。

第13号掘立柱建物跡 (第367・371図)

G-8グリッドに位置する。建物跡の東側には土壌群が広がっている。西側には第84・94号住居跡が近接して検出されている。柱穴は4本検出され、4本の柱穴は台形状に並ぶものである。



第368図 第14号掘立柱建物跡

P1・P3は第6号古墳の周溝内から検出されている。柱穴のうちP2・P3は第86号住居跡内から重複して検出されている。住居跡との新旧関係は不明である。

4本の柱穴の中心を結んだ柱穴間の距離は、北南方向ではP1・P4間で2.41m、P2・P3間で2.59mを、西東方向ではP1・P2間で3.20m、P4・P3間で3.92mを計る。計測値から西東方向に長軸を持つものである。主軸方向はN-14°-Wである。

柱穴の掘り込み面からの深さはP1が1.14m、P2が0.86m、P3が1.32m、P4が0.94mである。

遺物は柱穴内から7点検出された。第371図15～19、21は深鉢形土器の破片である。15は口縁部の破片で、口縁部には文様はなく胴部には磨消沈線文で、波状文や逆U字状文を施文するものである。地文は単節RLの縄文を施文している。16～

19は胴部の破片である。16・17は逆U字状文などの文様を、胴部の上下に分けて施文している。

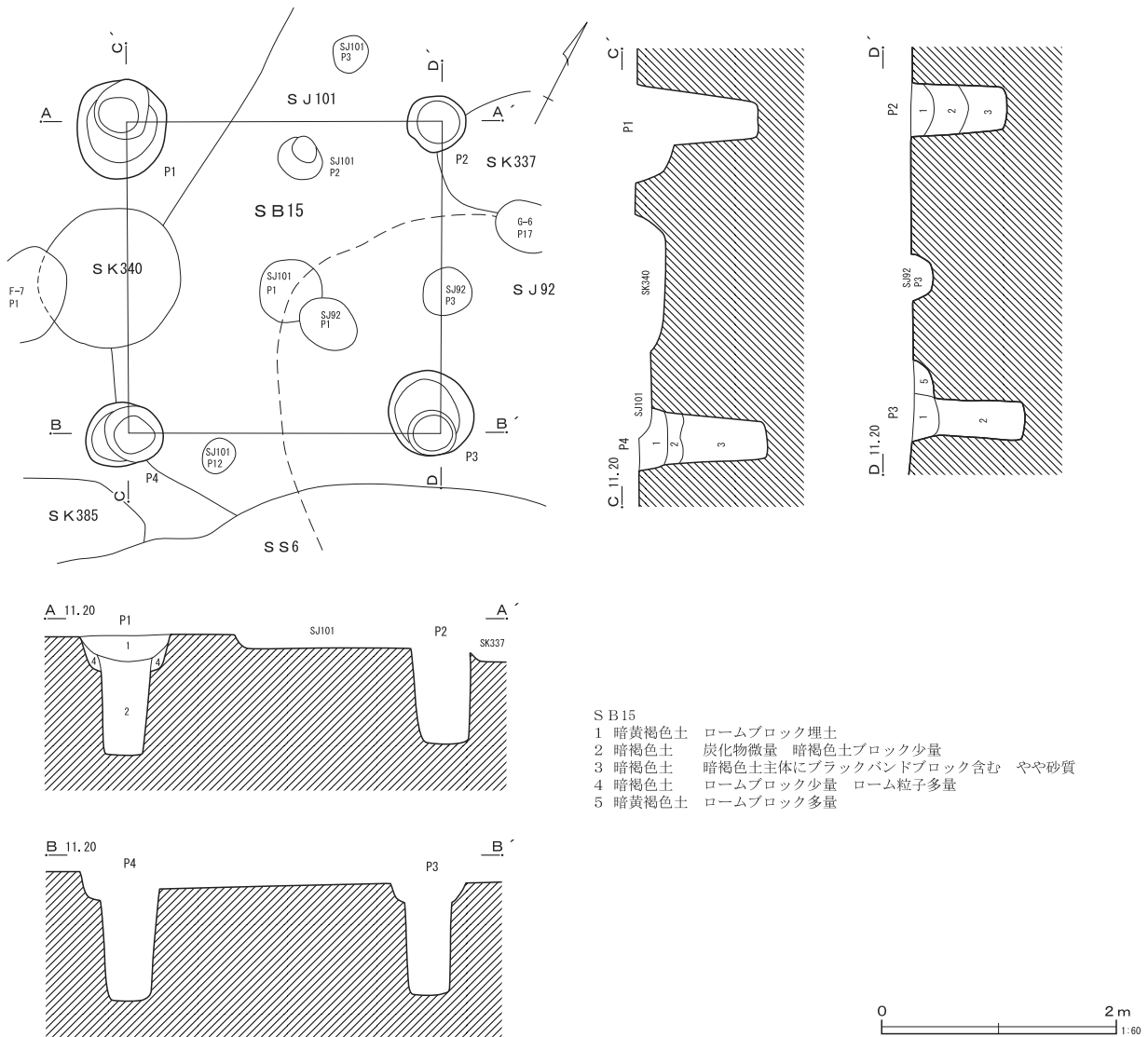
20は地文のみが残存するもので、楕円状の条線を縦方向に施文しているものである。

時期は遺構の重複関係や出土遺物から中期後葉であると考えられる。

第14号掘立柱建物跡（第368・371図）

G-7グリッドに位置する。柱穴は4本検出され、4本の柱穴はほぼ正方形に並ぶものである。柱穴のうちP1・P2・P4は第90号住居跡内から重複して検出されている。またP1は第322号土壌とも重複している。重複している住居跡や土壌との新旧関係は不明である。

4本の柱穴の中心を結んだ柱穴間の距離は、北南方向ではP1・P4間で1.57m、P2・P3間で1.60mを、西東方向ではP1・P2間で1.52m、



第369図 第15号掘立柱建物跡

P4・P3間で1.58mを計る。北南方向にわずかに長軸を持つものである。主軸方向はN-50°-Eである。

柱穴の掘り込み面からの深さはP1が0.96m、P2が0.96m、P3が0.86m、P4が1.02mである。

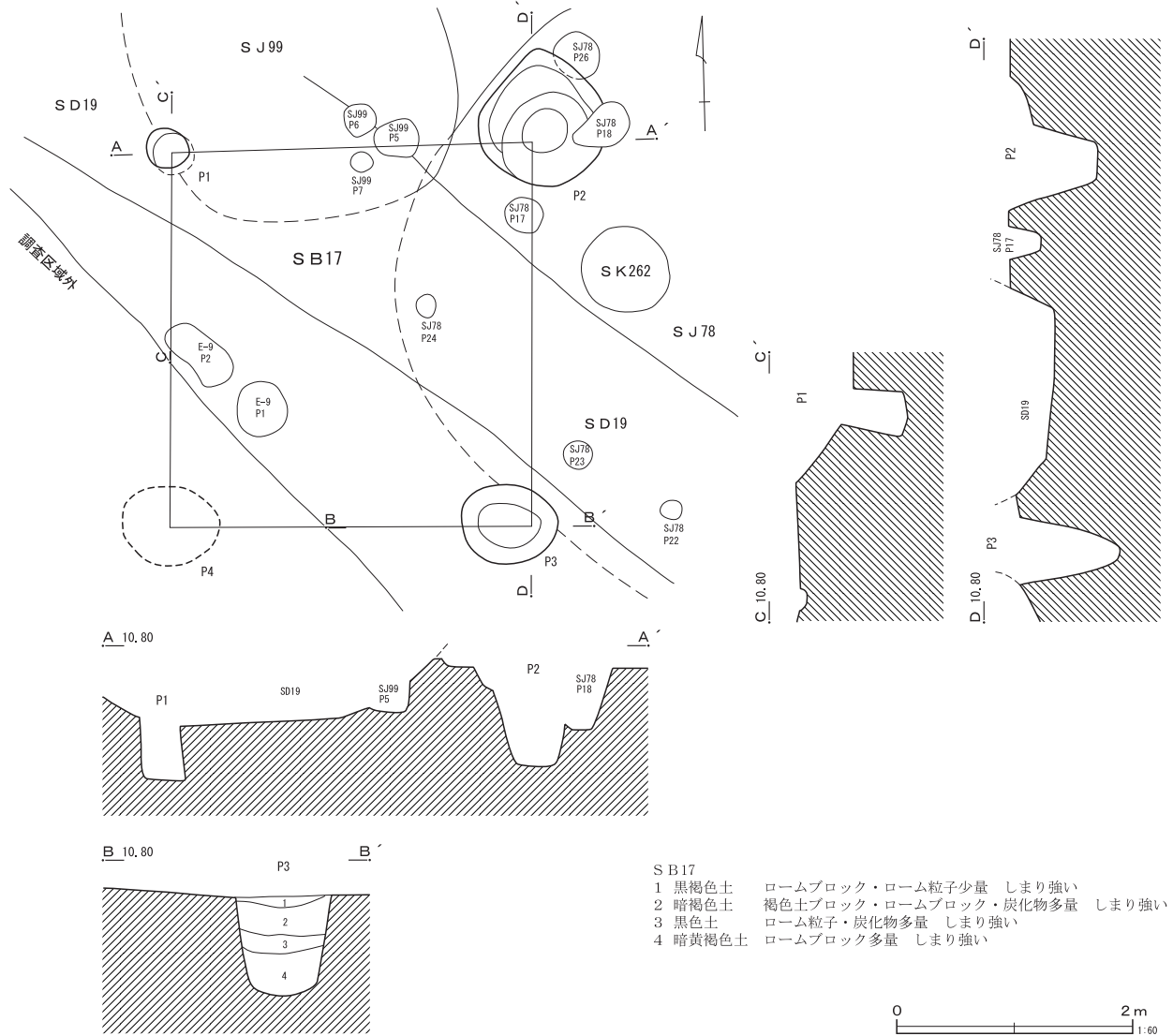
遺物は柱穴内などからわずかに検出された。第371図25~29は深鉢形土器の破片である。25は胴部に逆U字状文を施文している。26~28は胴部に磨消沈線文を垂下させるもので、26にはその他に蔵手文あるいは蛇行沈線文を施文している。地文は25・28が単節RLの縄文を、26は単節LRの縄文を施文している。29は地文のみが残存するもの

で、深鉢形土器の胴部の破片であると考えられる。地文は無節Lの縄文を施文している。

時期は主に出土遺物から、中期後葉であると考えられる。

第15号掘立柱建物跡 (第369図)

F・G-6・7グリッドに位置する。柱穴は4本検出され、4本の柱穴はほぼ正方形に並ぶものである。柱穴のうちP2・P4は第101号住居跡と重複して検出されている。またP2は第377号土壙とも重複している。P3は第92・101号住居跡と重複している。また西側には第88号住居跡、



第370図 第17号掘立柱建物跡

南側には第91号住居跡が近接して検出されている。柱穴が重複している住居跡との新旧関係は不明である。

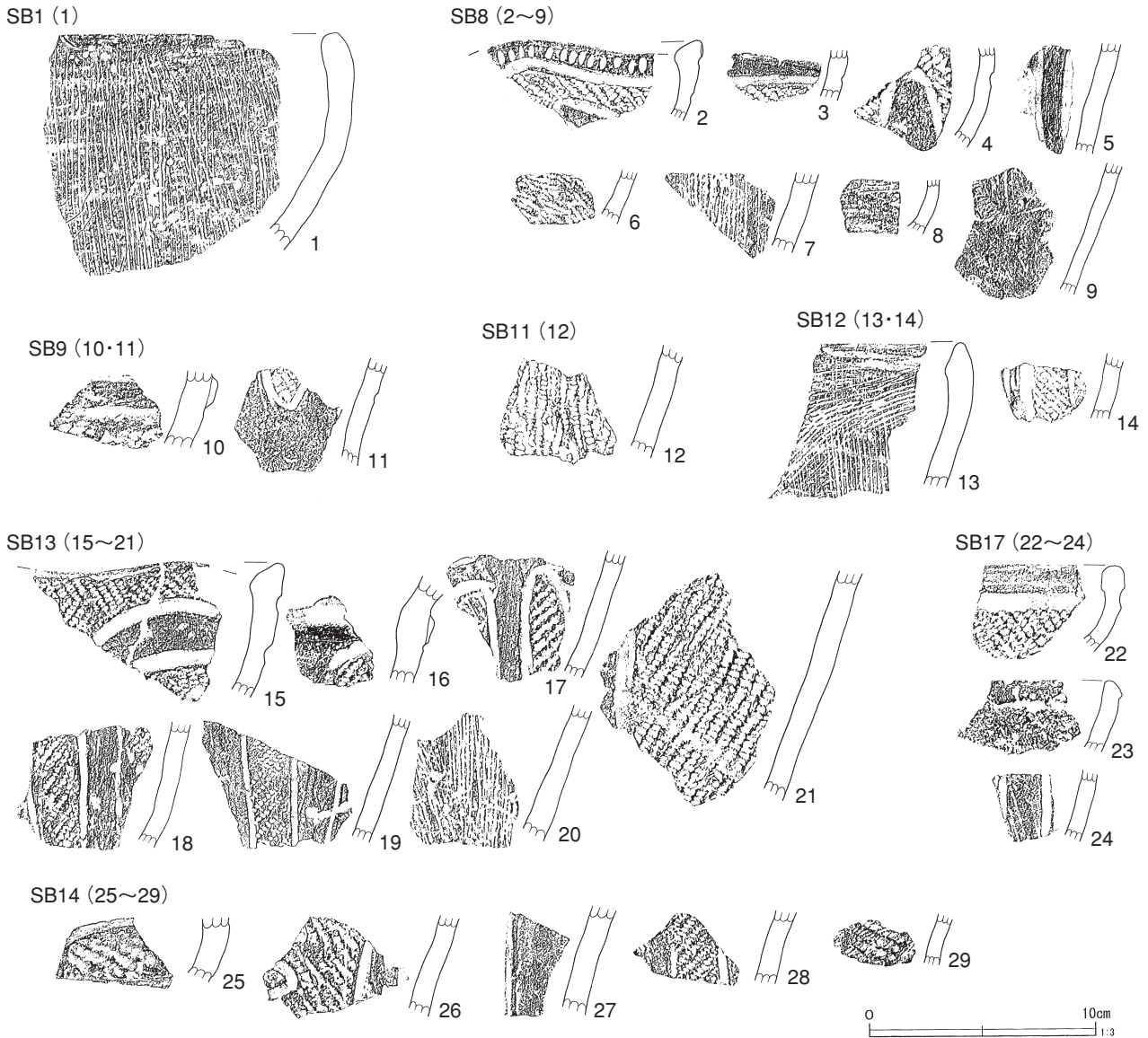
4本の柱穴の中心を結んだ柱穴間の距離は、北南方向ではP1・P4間で2.70m、P1・P3間で2.63mを、西東方向ではP1・P2間で2.73m、P4・P3間で2.57mを計る。計測値では北南方向に長軸を持つものである。主軸方向はN-26°-Wである。

柱穴の掘り込み面からの深さはP1が1.03m、P2が0.93m、P3が1.07m、P4が1.09mである。遺物は検出されなかった。

時期は遺物や遺構の重複関係からは不明であるが、土層などの状況から中期後葉であると考えられる。

第17号掘立柱建物跡 (第370・371図)

E-9グリッドに位置する。比較的大きく深く掘られた柱穴が3本検出された。4本目の柱穴は調査区域外に存在するため、検出することが出来なかった。今回は位置を推定することができる4本目の柱穴を、P4として便宜的に扱うこととする。4本の柱穴を結ぶとほぼ正方形に並ぶものである。柱穴のうちP1は第99号住居跡と、P2・



第371図 掘立柱建物跡出土遺物

P 3は第78号住居跡内から重複して検出されている。また周辺には近世以降の溝跡が多く検出されている。柱穴と重複している住居跡との新旧関係については不明である。

4本の柱穴の中心を結んだ柱穴間の距離は、北南方向ではP 1・P 4間で3.13m、P 2・P 3間で3.30mを、西東方向ではP 1・P 2間で3.12m、P 4・P 3間で2.83mを計る。計測値からわずかに北南方向に長軸を持つものである。主軸方向はN-2°-Eである。

柱穴の掘り込み面からの深さはP 1が0.92m、P 2が0.76m、P 3が0.85mである。

遺物は柱穴内などから数点が検出されたのみである。

第371図22・24は深鉢形土器の破片で、22は口縁部の破片で、沈線によって楕円区画文様を施文している。地文は単節RLの縄文を区画内に横方向に施文している。24は胴部の破片で、磨消沈線を施文している。

23は浅鉢形土器の口縁部の破片である。器面は丁寧に調整がなされている。

時期は遺構の重複関係や出土遺物から中期後葉であると考えられる。

(3) 土壙

調査区からは縄文時代の土壙としては398基が検出された。遺物などが検出されなかったものも含まれているが、出土状況や土層などから縄文時代であると判断した。土壙は住居跡が希薄となる調査区の中央より西側の区域で密集して検出されており、計画的に配置されていたものと考えられる。398基の中には伏甕が検出されたものなども含まれているが、調査時に土壙としたものは混乱を避けるため、基本的に埋甕などに変更は行わなかった。また古墳時代や近世以降の土壙についても、時期ごとに番号の変更は行っていない。土壙として報告されなくなったものは欠番としている。

第1号土壙 (第372・373図)

T・U-3グリッドに位置する。第1号住居跡の東側で重複している。平面形は楕円形で、長径1.85m、短径0.84m、深さ0.24mである。

遺物は第373図1の浅鉢形土器が検出されている。口縁部から胴部の破片で、底部は検出されなかった。無文で丁寧に器面は調整がなされている。推定される口径は46cmである。時期は中期後葉である。

第3号土壙 (第372・373図)

U-5グリッドに位置する。第11号住居跡と重複している。平面形は楕円形で、長径1.46m、短径1.12m、深さ0.20mである。

遺物は第373図2の浅鉢形土器の口縁部の破片が出土している。時期は中期後葉である。

第4号土壙 (第372・373図)

U-5グリッドに位置する。第11号住居跡の南東側で重複している。平面形は楕円形で、長径1.75m、短径1.49m、深さ0.20mである。

第373図3～5は検出された深鉢形土器の破片である。3は口縁部で隆帯と沈線によって文様を施文している。4・5は胴部の破片で、4は隆帯を垂下させている。5は地文のみ残存している。地文は単節RLの縄文を3は横方向に、4・5は

縦方向に施文している。時期は中期後葉である。

第7号土壙 (第372・373図)

U-4グリッドに位置する。第8号土壙が北側に隣接している。南西側には第9号土壙が検出されている。平面形は楕円形で、長径1.45m、短径1.18m、深さ0.21mである。

第373図6・7は検出された深鉢形土器で、6は口縁部の、7は胴部の小破片である。7は磨消沈線文を胴部に垂下させている。地文は単節RLの縄文で、6は横方向に、7は縦方向に施文している。時期は中期後葉である。

第8号土壙 (第372図)

U-4グリッドに位置する。第7号土壙が南側に隣接している。平面形は楕円形で、長径0.77m、短径0.65m、深さ0.26mである。

第9号土壙 (第372・373図)

U-4グリッドに位置する。北東側に第7号土壙が隣接している。平面形は円形で、長径1.03m、短径1.02m、深さ0.20mである。

遺物は第373図8の深鉢形土器の胴部の破片が検出されている。口縁部とは微隆起状の隆帯で区画するもので、胴部には地文として無節Lの縄文を縦方向に施文している。時期は中期後葉である。

第10号土壙 (第372図)

U-4グリッドに位置し、第6号住居跡の北側から重複して検出されている。平面形は楕円形で、長径1.24m、短径1.06m、深さ0.21mである。

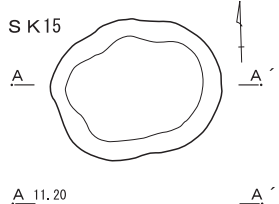
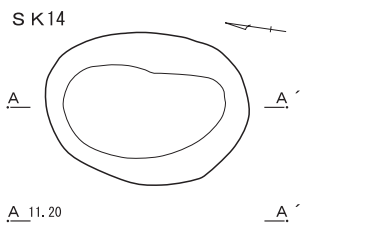
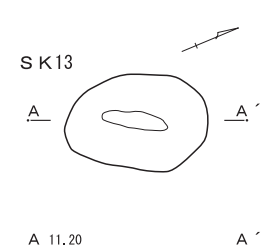
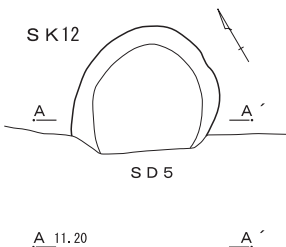
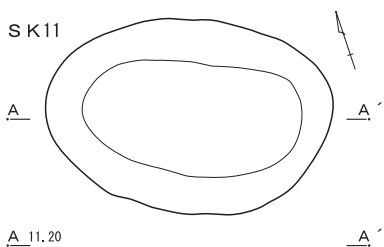
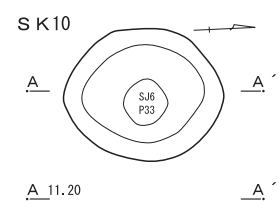
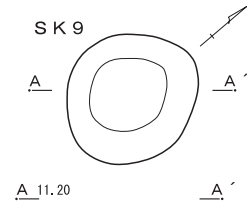
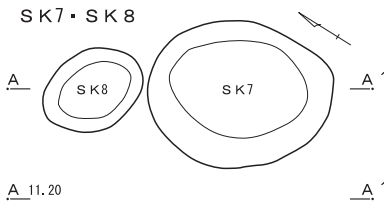
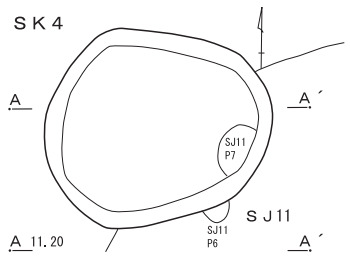
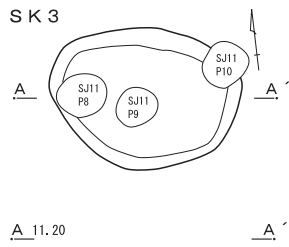
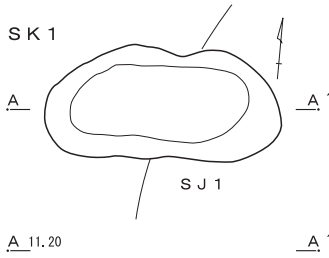
第11号土壙 (第372図)

U-4グリッドに位置する。南東側には第8号土壙が近接している。平面形は楕円形で、長径2.23m、短径1.53m、深さ0.28mである。

第12号土壙 (第372・373図)

U・V-4グリッドに位置する。北側部分は第5号溝跡と重複している。平面形は楕円形で、長径1.48m、短径1.11m、深さ0.25mである。

第373図9・10は検出された深鉢形土器の胴部の破片である。地文のみが残存しているもので、



- SK1
 1 暗褐色土 ローム粒子微量 しまり弱い
 2 暗褐色土 ローム斑状に含む しまり弱い
 3 暗黄褐色土 ローム主体 炭化物微量 しまり強い
- SK4
 1 暗褐色土 焼土粒子微量 炭化物少量
 2 暗褐色土 ローム粒子・暗灰色粘土粒子少量
 3 暗黄褐色土 ローム粒子多量
- SK7
 1 暗褐色土 白色微粒子・炭化物少量
 2 暗褐色土 ローム粒子多量 褐色土ブロック少量

- SK8
 1 暗褐色土 暗灰色粘土粒子・炭化物少量
 2 暗褐色土 ローム粒子・暗灰色粘土粒子少量
- SK9
 1 暗褐色土 暗灰色粘土粒子多量
 2 暗黄褐色土 ロームブロック少量
- SK10
 1 暗褐色土 ローム粒子多量 暗灰色粘土粒子少量
- SK11
 1 暗褐色土 ローム小ブロック少量 暗灰色粘土粒子多量 炭化物少量
 2 暗黄褐色土 ローム粒子多量 暗灰色粘土粒子少量

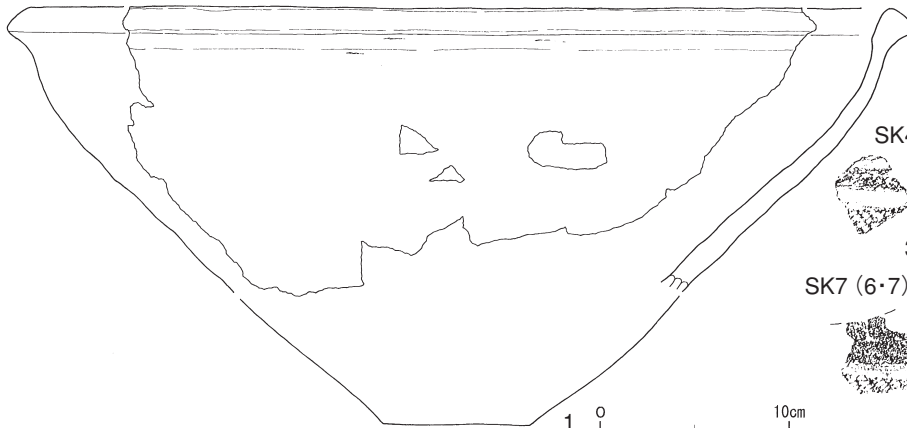
- SK12
 1 暗褐色土 白色微粒子・炭化物少量
 2 暗褐色土 ローム粒子少量 暗灰色粘土粒子多量
 3 暗黄褐色土 ローム粒子多量
- SK13
 1 暗褐色土 白色微粒子・炭化物少量
 2 暗褐色土 ローム粒子・褐色土ブロック少量
 3 暗黄褐色土 ローム粒子・白ブロック多量
- SK14
 1 暗褐色土 暗灰色粘土粒子・白色微粒子・炭化物少量
 2 暗褐色土 暗灰色粘土粒子多量 褐色土小ブロック少量
 3 暗黄褐色土 ローム粒子多量

- SK15
 1 暗褐色土 暗灰色粘土粒子多量 白色微粒子少量 炭化物微量
 2 暗黄褐色土 ローム粒子多量



第372図 土壌 (1)

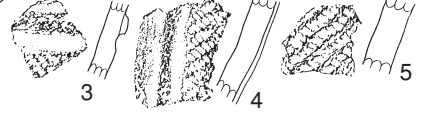
SK1 (1)



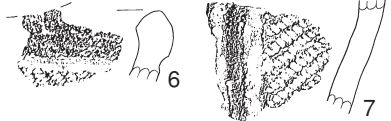
SK3 (2)



SK4 (3~5)



SK7 (6-7)



SK9 (8)



SK12 (9-10)



SK14 (11~13)



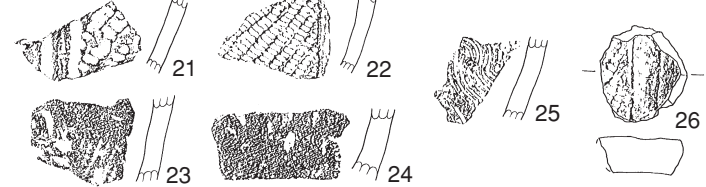
SK15 (14~17)



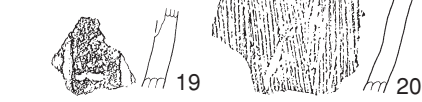
SK17 (18)



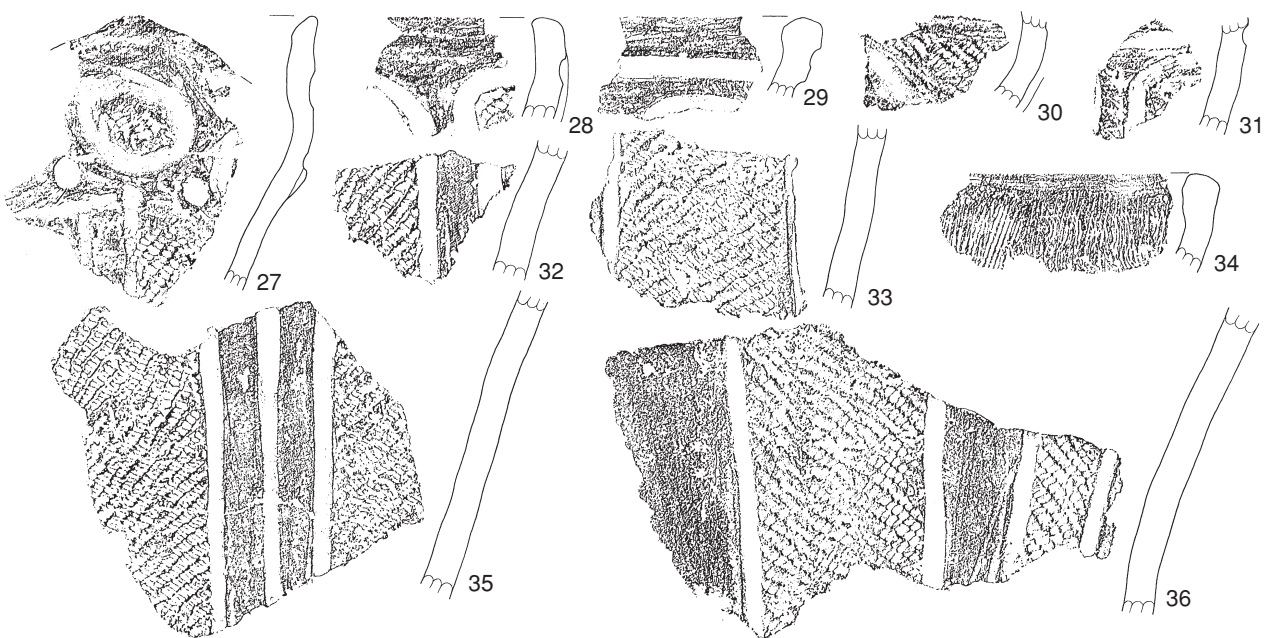
SK39 (21~26)



SK26 (19-20)



SK38 (27~36)



第373图 土城出土遺物 (1)



9は単節LRの縄文を、10は無節Rの縄文を縦方向に施文している。時期は中期後葉である。

第13号土壙 (第372図)

U-3グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.10m、短径0.77m、深さ0.46mである。

第14号土壙 (第372・373図)

T・U-4グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.57m、短径1.19m、深さ0.26mである。

第373図11～13は検出された遺物である。11は深鉢形土器の胴部の破片で、蛇行沈線文を施文し、地文は単節RLの縄文を施文している。12は壺形土器の口縁部の破片である。13は磨石の小破片で、表面には敲打の痕跡が認められる。時期は中期後葉である。

第15号土壙 (第372・373図)

T-4グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.32m、短径1.02m、深さ0.13mである。

第373図14～17は検出された土器である。14～16は深鉢形土器で、14・16は胴部の破片、15は口縁部の破片である。14は磨消沈線文を施文している。地文として14・15は単節RLの縄文を14は縦方向、15は横方向に施文している。17は壺形土器の破片で、地文は単節RLの縄文を施文している。時期は中期後葉である。

第16号土壙 (第374図)

T-5グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.43m、短径1.12m、深さ0.23mである。

第17号土壙 (第373・374図)

S-5・6グリッドに位置し、平面形は楕円形で長径1.47m、短径1.23m、深さ0.25mである。

遺物は第373図18の堀之内1から2式の粗製の深鉢形土器の破片が出土したが、流れ込みと考えられる。

第18号土壙 (第374図)

R・S-5グリッドに位置する。平面形は円形で、長径1.07m、短径1.02m、深さ0.20mである。

第19号土壙 (第374図)

S-5グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.74m、短径1.41m、深さ0.19mである。

第23号土壙 (第374図)

T-3グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.77m、短径1.33m、深さ0.27mである。

第24号土壙 (第374図)

T-3グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.03m、短径0.74m、深さ0.21mである。

第25号土壙 (第374図)

S-2・3グリッドに位置する。北側部分の一部が第10号溝跡によって失われている。平面形は楕円形で、長径1.27m、短径1.05m、深さ0.22mである。

第26号土壙 (第373・374図)

R-3グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.36m、短径0.87m、深さ0.26mである。

遺物は第373図19・20が検出された。19は深鉢形土器の胴部の破片で、2本1組の磨消沈線文が施文されている。20は浅鉢形土器の胴部の破片で、地文は条線を施文している。時期は中期後葉である。

第29号土壙 (第374図)

F-5グリッドに位置する。北側で第445号土壙と重複している。土層からすると第445号土壙よりも、第29号土壙が新しい。底部付近で幅が広がる袋状土壙で、底面には円形の掘り込みがされている。平面形は楕円形で、残存する長径1.38m、短径1.17m、深さ1.74mである。

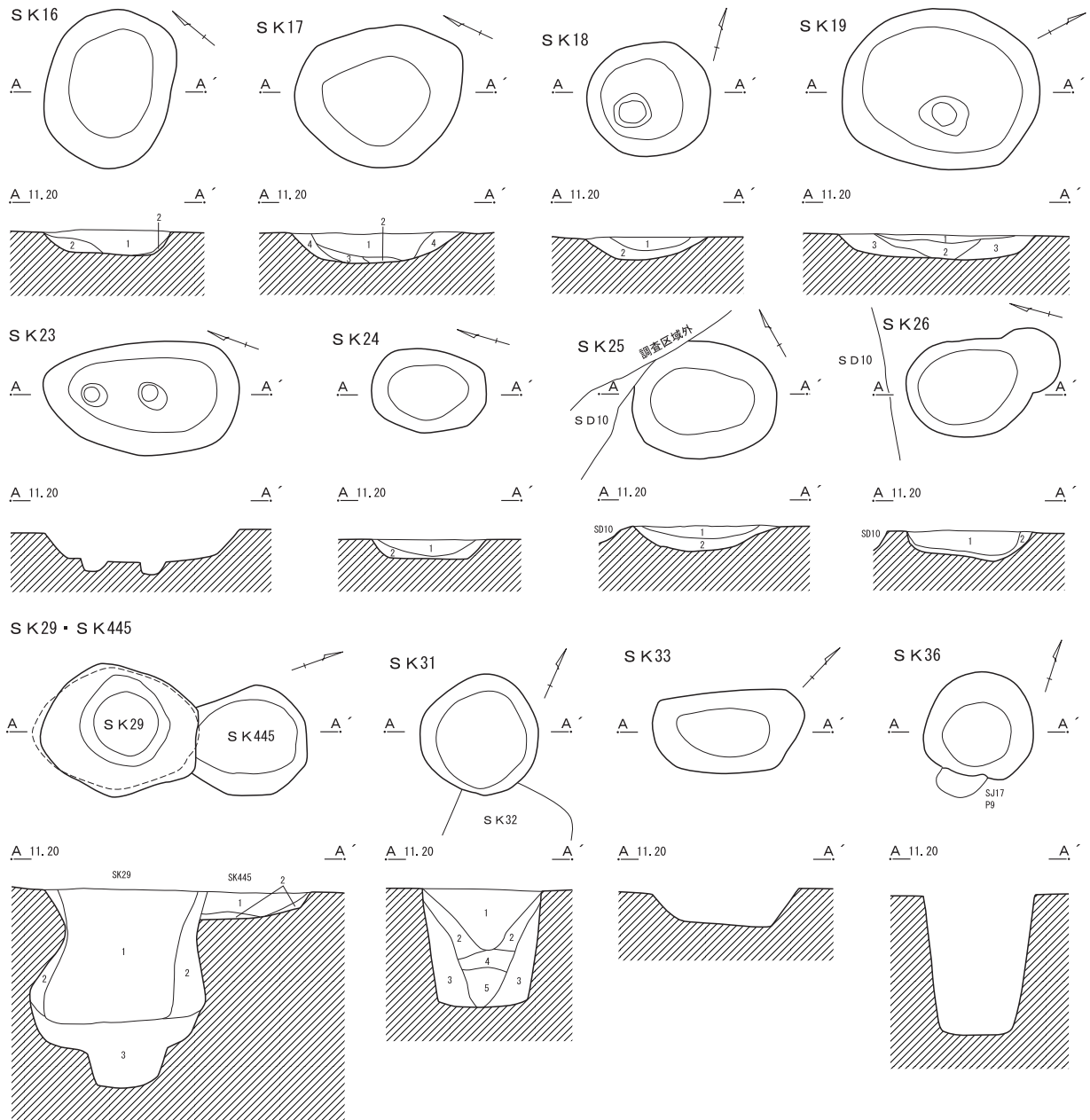
第31号土壙 (第374図)

D-5・6グリッドに位置する。古墳時代の第32号土壙と重複している。平面形は円形で、長径1.08m、短径1.05m、深さ1.03mである。円筒状に深く掘られるものである。

第33号土壙 (第374図)

C-5グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.28m、短径0.76m、深さ0.34mである。

第36号土壙 (第374図)



SK16
 1 暗褐色土 灰色粘土粒子多量 炭化物少量
 2 暗黄褐色土 ローム粒子多量

SK17
 1 暗褐色土 褐色土ブロック・白色微粒子・炭化物少量
 2 暗褐色土 灰色粘土粒子多量 炭化物少量
 3 暗黄褐色土 ローム小ブロック少量 灰色粘土粒子多量
 4 黄褐色土 ローム粒子多量

SK18
 1 暗褐色土 白色微粒子少量 炭化物微量
 2 暗黄褐色土 ローム粒子多量

SK19
 1 暗褐色土 褐色土小ブロック・炭化物少量
 2 暗褐色土 灰色粘土小ブロック多量 焼土粒子・炭化物微量
 3 暗黄褐色土 ローム小ブロック・灰色粘土粒子多量

SK24
 1 暗褐色土 白色微粒子・炭化物少量
 2 暗黄褐色土 ローム粒子多量 灰色粘土粒子少量

SK25
 1 暗褐色土 白色微粒子・炭化物少量
 2 暗黄褐色土 ローム粒子多量 灰色粘土粒子少量

SK26
 1 暗褐色土 白色微粒子・炭化物少量
 2 暗黄褐色土 ローム粒子多量 灰色粘土粒子少量

SK29
 1 暗褐色土 ローム粒子少量 しまり強い 粘性弱い
 2 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量 しまり弱い 粘性弱い
 3 暗褐色土 1層よりローム粒子大きく、ロームブロック微量 しまり弱い 粘性弱い

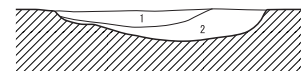
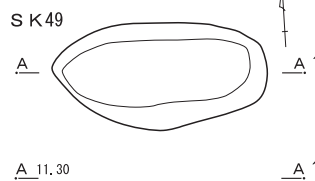
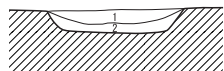
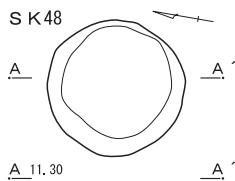
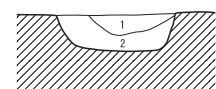
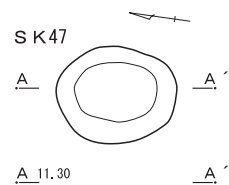
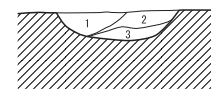
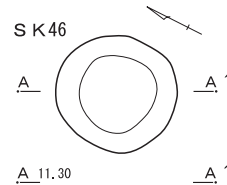
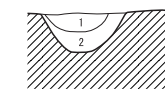
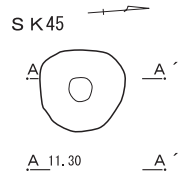
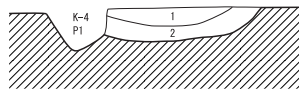
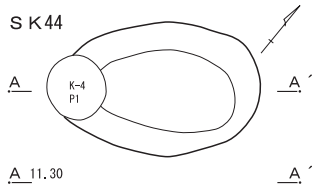
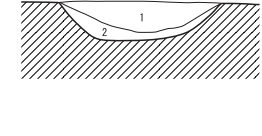
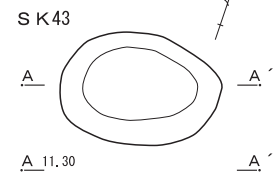
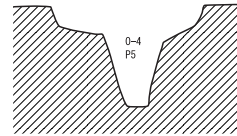
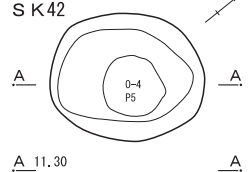
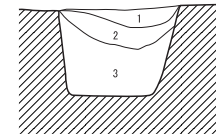
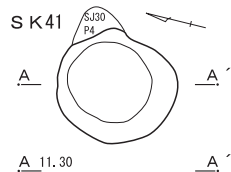
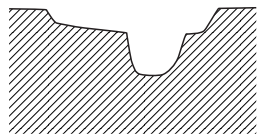
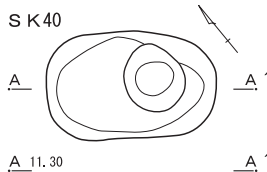
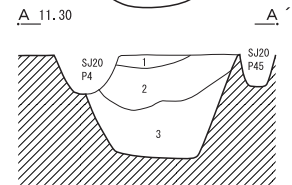
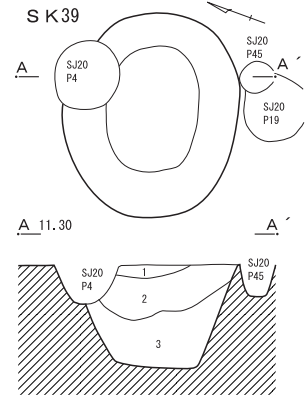
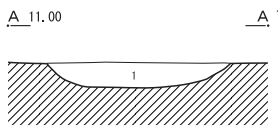
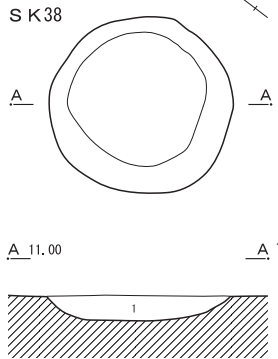
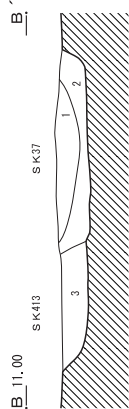
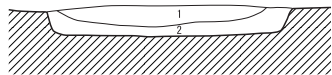
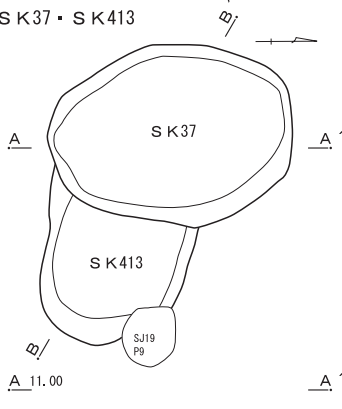
SK31
 1 黒褐色土 ローム粒子多量 炭化物少量 しまり強い
 2 暗灰褐色土 ロームとの混土進む ロームブロック混入 しまり強い
 3 褐色土 ローム粒子多量 粘性あり しまりやや強い
 4 黄褐色土 ややくすんだローム単層 ローム粒子少量
 5 黒色土 ロームブロック少量 粘性あり 均質な土質

SK445
 1 褐色土 ローム粒子多量 斑状に堆積 しまり強い 粘性弱い
 2 暗黄褐色土 ローム主体 崩落土 しまり強い 粘性弱い



第374図 土壌 (2)

SK37・SK413



SK44
1 黄褐色土 ロームブロック少量
2 黄褐色土 ローム粒子少量

SK45
1 黄褐色土 ローム粒子少量
2 黄褐色土 ローム粒子多量

SK46
1 黄褐色土 ローム粒子少量
2 黄褐色土 ロームブロック少量
3 黄褐色土 ローム粒子多量

SK47
1 黄褐色土 ローム粒子少量
2 黄褐色土 ローム粒子少量

SK48
1 黄褐色土 ローム粒子少量
2 黄褐色土 ローム粒子少量

SK49
1 黄褐色土 ロームブロック少量
2 黄褐色土 ロームブロック少量

SK37
1 黒褐色土 ローム粒子少量 焼土粒子微量
しまり強い
2 暗黄褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック混入
焼土粒子・炭化物微量
1層とロームの混土

SK413
3 黒褐色土 ローム粒子少量 しまり強い

SK38
1 暗黄褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック微量
炭化物少量 粘性あり しまり強い

SK39
1 暗黄褐色土 白色微粒子少量
2 暗褐色土 ロームブロック・炭化物少量
3 暗褐色土 ロームブロック多量 炭化物微量

SK41
1 黄褐色土 ロームブロック微量
2 黄褐色土 ロームブロック微量
3 黄褐色土 ロームブロック微量

SK43
1 暗褐色土 灰色粘土粒子多量 炭化物少量
2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量



第375図 土壙 (3)

E-5グリッドに位置する。第17号住居跡内から検出されている。平面形は円形で、長径1.16m、短径0.95m、深さ1.25mである。円筒状に深く掘られるものである。

第37号土壇（第375～378図）

B-5・6グリッドに位置する。第19号住居跡内から第413号土壇と重複して検出されている。平面形は楕円形で、長径1.93m、短径1.39m、深さ0.24mである。

第377図1～32、第378図1～22は検出された遺物である。

1は深鉢形土器の胴部下半から底部である。胴部には2本1組の磨消沈線文が垂下している。地文は1段Rと0段1を撚り合わせた条と1段Rの条を3段まで撚り合わせて施文している。

2は底部の破片で、3本1組の磨消沈線文を垂下させ、地文には条線を波状に施文している。

3は浅鉢形土器の底部の破片で、地文として条線を施文している。

4～25は深鉢形土器の破片である。4～8は口縁部の破片で、隆帯や沈線によって渦巻き文や楕円区画文などを施文している。胴部には磨消沈線文を垂下させている。地文は単節RLの縄文を施文している。9～25は胴部の破片で、磨消沈線文を施文するものである。23～25は他に1本沈線によって蛇行沈線文や蕨手文を施文している。地文として、9～19、21・23・25は単節RLの縄文を、20は無節Lの縄文を、22は単節LRの縄文を、24は複節RLRの縄文を施文している。

26～29は口縁部に文様を持たない深鉢形土器の口縁部の破片である。26・27は波状口縁で、胴部との区画に沈線を2段巡らし、その間には26は円形の刺突文、27は半截竹管による刺突を施している。28は胴部との区画に沈線を巡らしている。

29は無文の口縁部につまみ状の突起を加えるものである。地文として単節RLの縄文を縦方向に施文している。

30・31は地文に条線を使用する深鉢形土器の胴部で、磨消沈線文を垂下させている。

32、第378図1～10は浅鉢形土器の破片である。32は胴部の破片で、磨消沈線文を垂下させている。地文は単節RLの縄文を施文している。1～9は地文に条線を施文するものである。1は口縁部の破片で、他は胴部の破片である。10は無文の口縁部の破片である。

11～14は壺形土器の破片である。11は両耳壺の破片で把手部分が剥がれている。14は瓢箪の形を考えると考えられ、器面には把手部分が残存している。赤色塗彩の痕跡が認められる。地文として11は複節RLRの縄文を、12・13は単節RLの縄文を施文している。

15～17は深鉢形土器の底部の破片である。磨消沈線文を垂下させる。地文として15は単節LRの縄文を、17は無節Lの縄文を施文している。

18は土製円盤である。深鉢の胴部の破片を使用している。

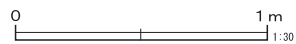
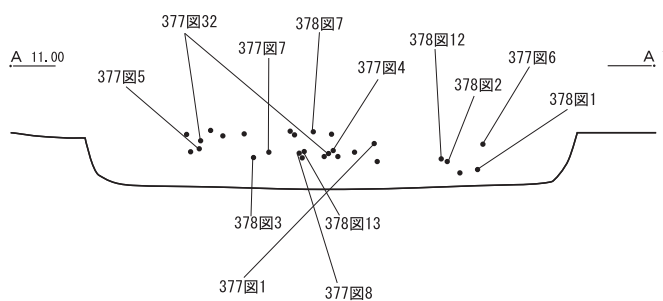
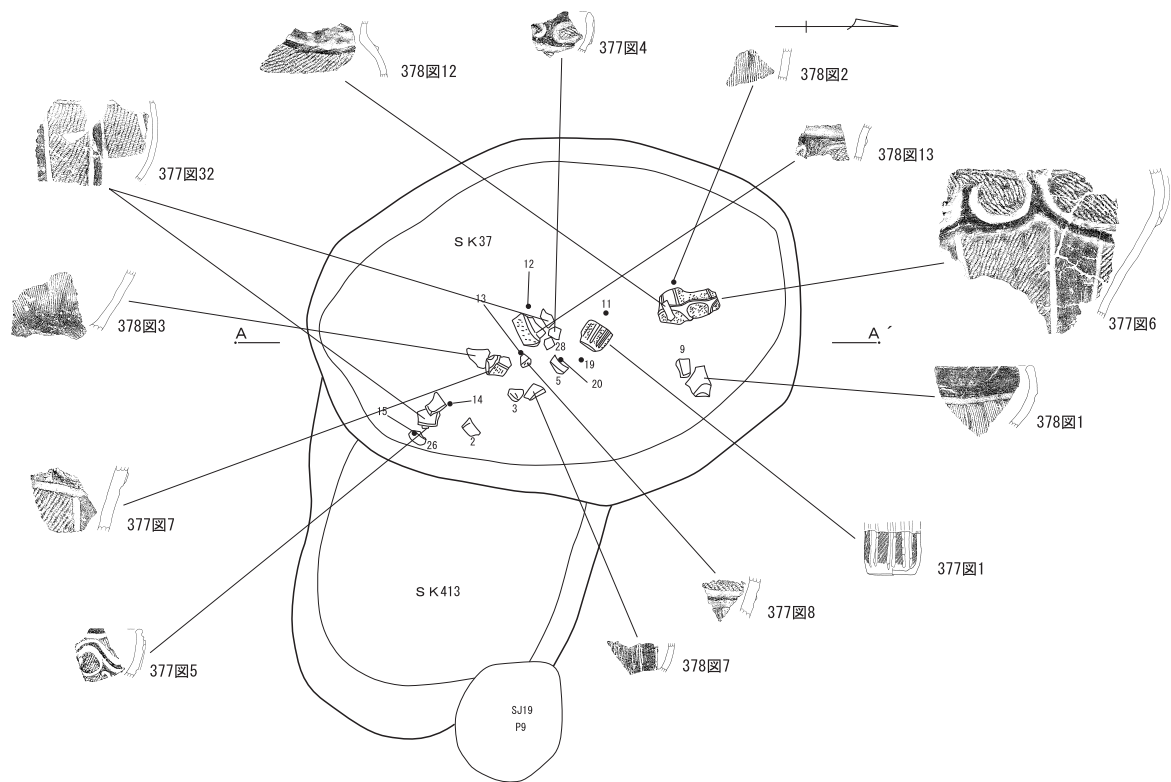
19～22は出土した石器である。19は無茎の石鏃で、表面の風化が著しいものである。20は加工痕のある剥片である。21は砥石の破片である。22は石皿の小破片で、裏面には漏斗状の凹部が複数認められる。

時期は中期後葉である。

第38号土壇（第373・375図）

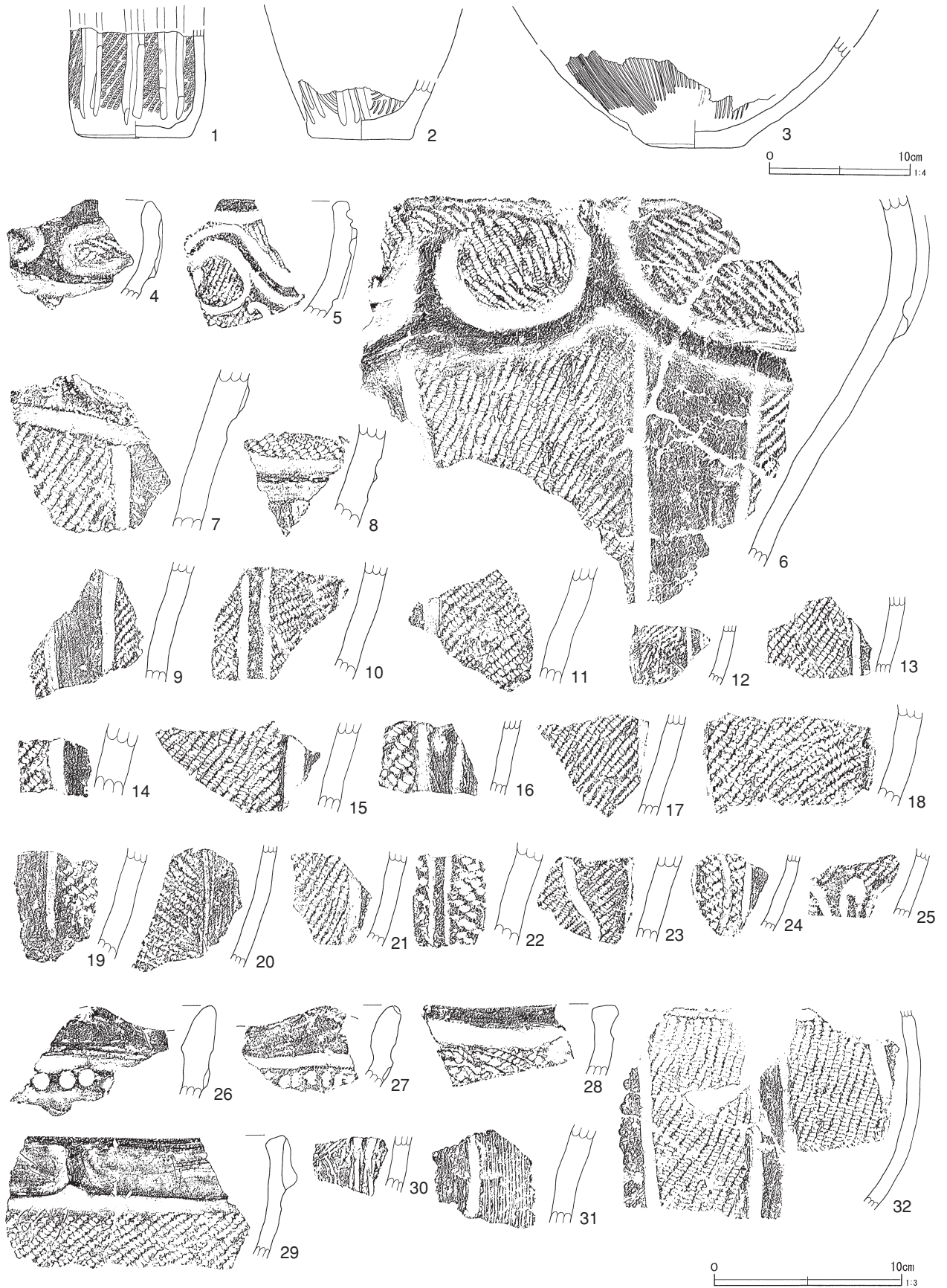
B-5グリッドに位置する。第19号住居跡内に重複して検出されている。平面形は円形で、長径1.44m、短径1.37m、深さ0.19mである。

第373図27～36は検出された遺物である。27～33、35・36はキャリパー系の深鉢形土器の破片である。27～30は口縁部で、隆帯と沈線によって渦巻き文や楕円区画文を施文している。27は波状口縁を持つもので、波頂部下には渦巻き文を配している。地文として単節RLの縄文を施文している。31～33、35・36は胴部の破片で、31は逆U字状文を、他は2本1組や3本1組の磨消沈線文を垂下



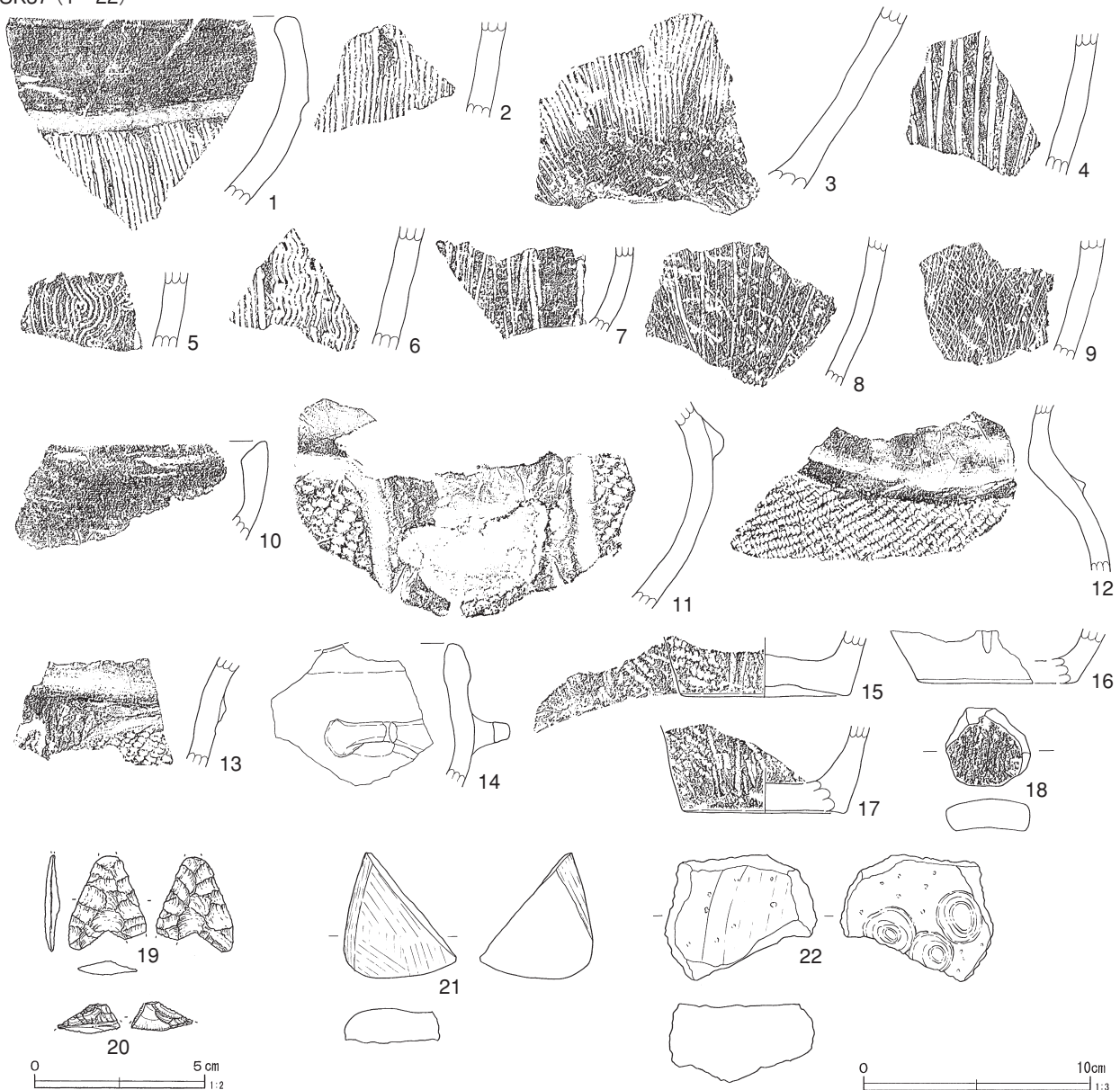
第376图 第37号土坑遺物出土状况

SK37 (1~32)



第377图 土壙出土遺物 (2)

SK37 (1~22)



第378図 土壙出土遺物 (3)

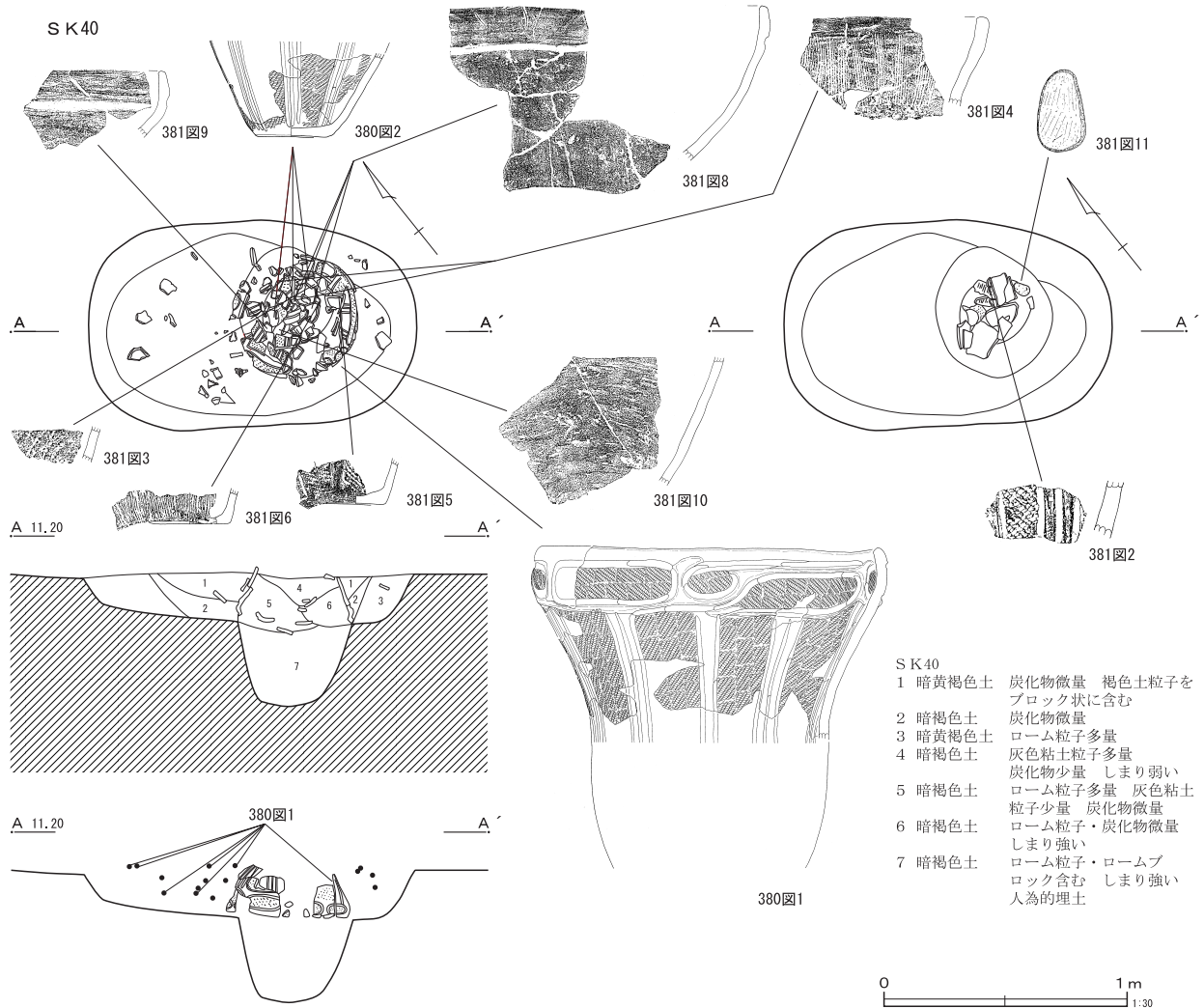
させている。地文として32・35は単節RLの縄文を、33は0段多条の縄文を、36は単節LRの縄文を施文している。34は浅鉢形土器の口縁部の破片である。地文は条線である。時期は中期後葉である。

第39号土壙 (第373・375図)

I-4・5グリッドに位置する。第20号住居跡と重複して検出されている。住居跡の柱穴が土壙の覆土を掘り込んでおり、土壙は住居跡以前の遺

構である。平面形は楕円形で、長径1.62m、残存する短径1.24m、深さ0.81mである。

第373図21~26は検出された遺物である。21~24は深鉢形土器の胴部の破片である。21~23には磨消沈線文を施文している。地文として単節RLの縄文を縦方向に施文している。25は浅鉢形土器の胴部の破片で、地文は条線である。26は土製円盤で、深鉢の胴部の破片を利用している。時期は中期後葉である。



第379図 第40号土壌遺物出土状況

第40号土壌 (第375・379~381図)

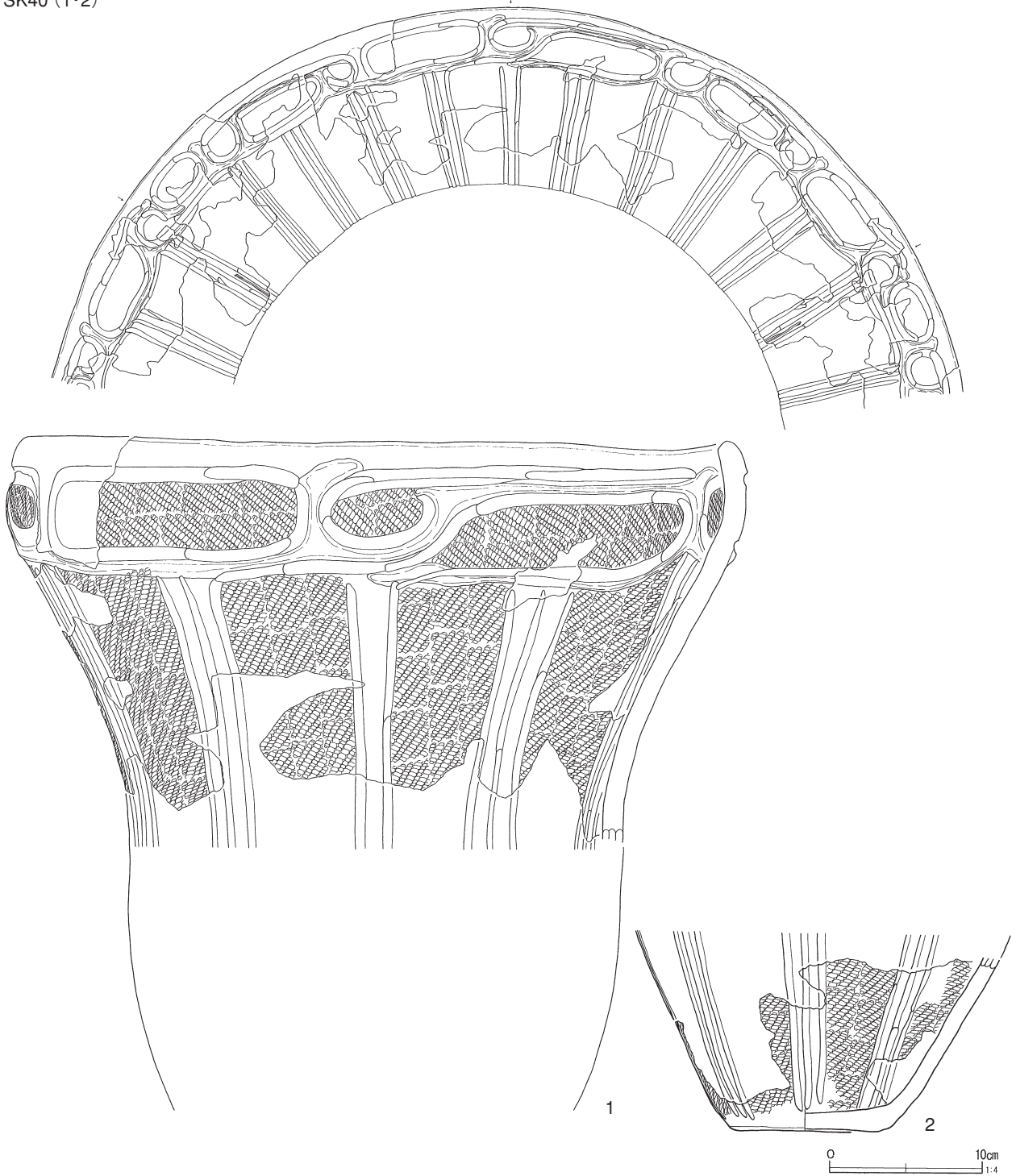
J-5グリッドに位置する。第20号住居跡の東側で部分的に重複している。平面形は楕円形で、長径1.33m、短径0.84m、深さ0.55mである。

土壌内にはピット状の落ち込みがあり、その真上には第380図1の深鉢形土器が逆位に伏せて埋設されていた。胴下半から底部は検出されなかったが、埋設時に存在していたかは不明である。

第380図1はキャリパー系の大型の深鉢形土器で、胴下半から底部は欠損している。口縁部には隆帯と沈線で渦巻き文や楕円区画文を施文する。口唇部に沿って沈線を施文し、その正面左側の端部のみを渦巻く文様を1単位正面に配置する。ま

た両端部に向き合わせに渦巻き文を施文するものを2単位、胴部との区画から上に向けて左側のみ渦巻き文を施文する文様を1単位口縁部に施文している。各々の渦巻き文の間には楕円区画文を施文している。また1ヶ所渦巻き文間が狭くなり、楕円区画文の幅を狭く施文している。胴部には2本または3本1組の磨消沈線を垂下させる。部分的に沈線文間を結んで逆U字状文を施文している。地文は太細の条を離れた単節RLの縄文を施文している。

2は深鉢形土器の底部で胴部には3本1組の磨消沈線を垂下させている。地文は単節RLの縄文を縦方向に施文している。

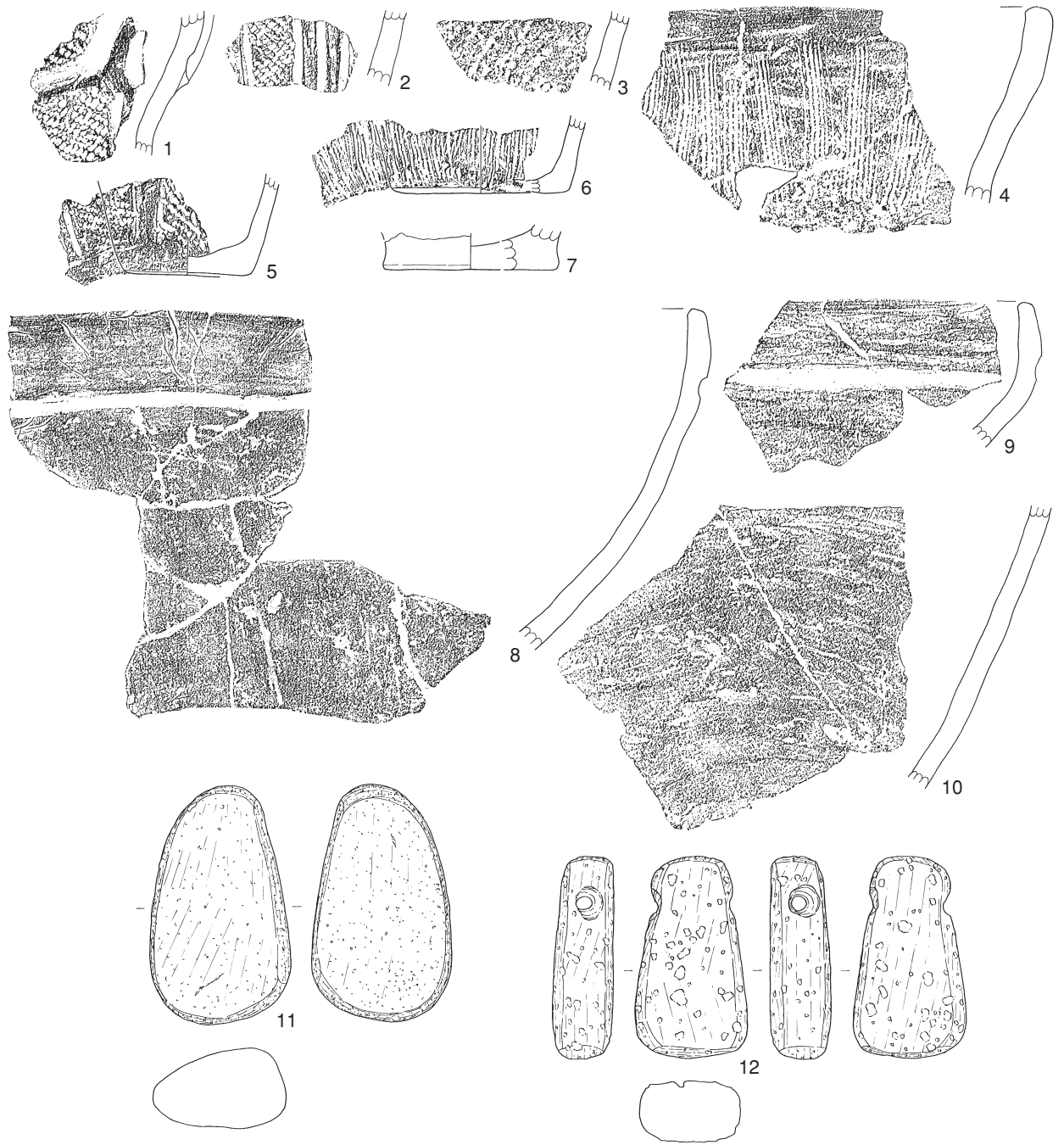


第380図 土壙出土遺物（4）

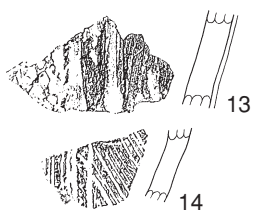
第381図1～10は検出された土器片である。1～3は深鉢形土器の口縁部や胴部の破片である。地文として1・2は単節LRの縄文を施文している。3は器面が風化しており、不明である。4は

地文が条線の深鉢形土器の口縁部の破片である。5～7は深鉢形土器の底部の破片である。8～10は浅鉢形土器の口縁部や胴部の破片である。器面は無文でよく磨かれている。8・9には赤彩の跡

SK40 (1~12)



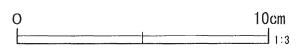
SK41 (13-14)



SK42 (15-16)



SK49 (17-18)



第381図 土壙出土遺物 (5)

が残っている。

11・12は検出された石器や石製品である。11は磨石で、器面はよく磨かれている。12は石製品である。軽石製で基部には孔が貫通している。垂飾品として使用していたと考えられる。

時期は中期後葉である。

第41号土壙 (第375・381図)

J-4グリッドに位置する。第30号住居跡と重複している。平面形は円形で、長径0.98m、短径0.87m、深さ0.68mである。

第381図13・14は検出された遺物で、13は深鉢形土器の胴部の破片で隆帯を貼付するもので、地文は単節RLの縄文である。14は浅鉢形土器の破片で、地文は条線を施文する。時期は中期後葉である。

第42号土壙 (第375・381図)

O-4グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.22m、短径1.00m、深さ0.28mである。

第381図15・16は検出された深鉢形土器の破片である。15は口縁部、16は胴部の破片である。地文として15は単節RLの縄文を横方向に施文する。16は単節LRの縄文を斜めから縦方向に施文している。遺物の時期は中期後葉である。

第43号土壙 (第375図)

N-4グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.27m、短径0.86m、深さ0.31mである。

遺物は検出されなかった。

第44号土壙 (第375図)

K-4グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.67m、短径1.05m、深さ0.36mである。

第45号土壙 (第375図)

J-4グリッドに位置する。平面形は円形で、長径0.68m、短径0.64m、深さ0.31mである。

第46号土壙 (第375図)

J-4グリッドに位置する。平面形は円形で、長径0.95m、短径0.88m、深さ0.22mである。

第47号土壙 (第375図)

J-4グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径0.93m、短径0.75m、深さ0.28mである。

第48号土壙 (第375図)

J-4グリッドに位置する。平面形は円形で、長径1.09m、短径1.05m、深さ0.19mである。

第49号土壙 (第375・381図)

J-4グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.69m、短径0.88m、深さ0.24mである。

第381図17・18は検出された土器で、17は深鉢形土器の胴部の破片で、地文は条線を施し器面には赤彩の痕跡が認められた。18は浅鉢形土器の破片で、地文は単節RLに0段rを付加させた縄文を施文している。時期は中期後葉である。

第50号土壙 (第382図)

J-4グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.10m、短径0.95m、深さ0.27mである。

第51号土壙 (第382・384図)

I-4グリッドに位置する。平面形は不整形で、長径1.95m、短径1.85m、深さ0.48mである。

第384図1～3は検出された遺物で、1・2は深鉢形土器の破片である。2は地文単節RLの縄文を施文する。3は磨石の破片で、器面全面を磨面として使用している。部分的に敲打痕が認められる。時期は中期後葉である。

第53号土壙 (第382・384図)

H-4グリッドに位置する。平面形は円形で、長径1.04m、短径0.98m、深さ0.45mである。

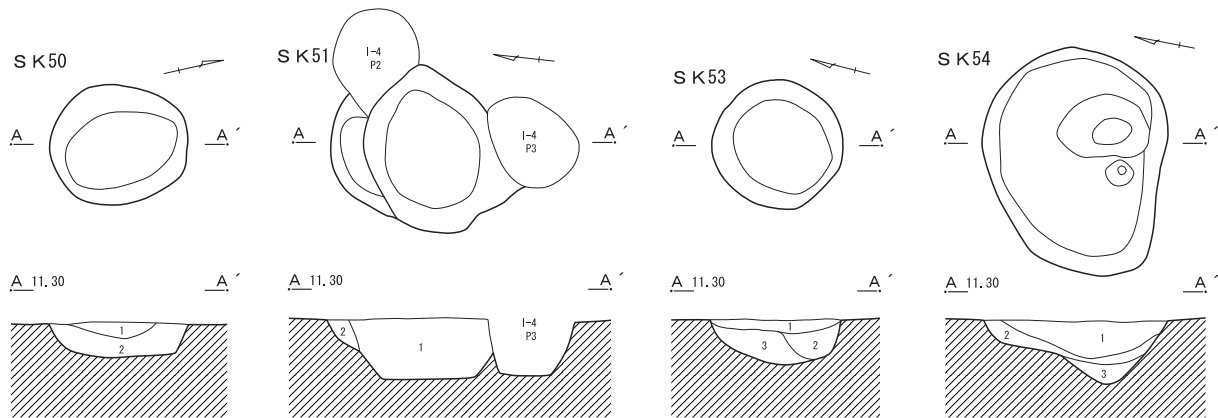
第384図4は検出された深鉢形土器の口縁部の破片で、無文の口縁部と胴部は沈線で区画され、胴部には逆U字状文が沈線によって施文される。地文は条の細かい単節LRの縄文を施文する。時期は中期後葉である。

第54号土壙 (第382図)

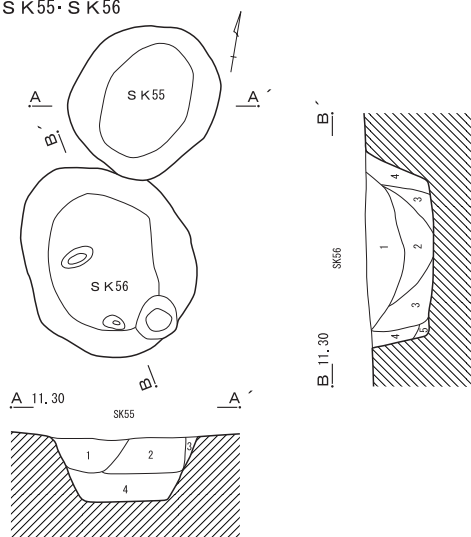
H-4・5グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.83m、短径1.45m、深さ0.50mである。

第55号土壙 (第382・384図)

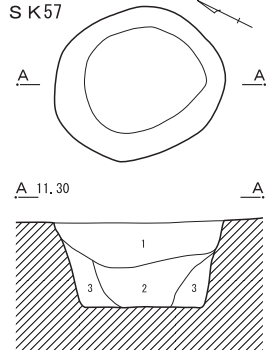
H-5グリッドに位置する。南側には第56号土



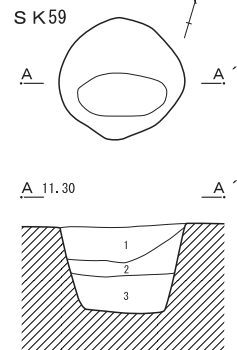
SK55・SK56



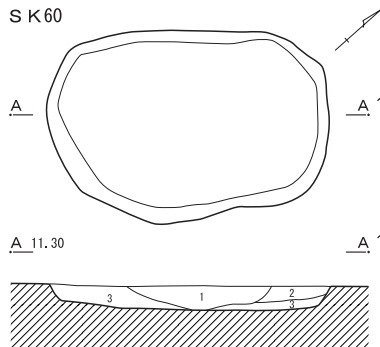
SK57



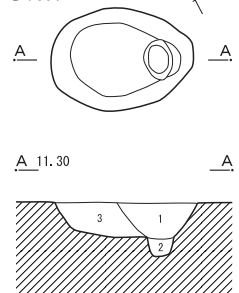
SK59



SK60



SK61



SK50

- 1 黄褐色土 ロームブロック少量
- 2 黄褐色土 ロームブロック多量

SK51

- 1 黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量
- 2 黄褐色土 1層に比してロームブロックが多い

SK53

- 1 黄褐色土 ローム粒子微量
- 2 黄褐色土 地山ローム主体
- 3 黄褐色土 地山ローム主体

SK54

- 1 黄褐色土 ローム粒子少量
- 2 黄褐色土 ロームブロック多量
- 3 黄褐色土 ロームブロック多量

SK55

- 1 黄褐色土 ローム粒子多量 旧表土を少量
- 2 黄褐色土 ローム粒子・炭化物少量
- 3 黄褐色土 2層に似るが、ロームの風化がより進行している
- 4 黄褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック多量

SK56

- 1 黄褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
- 2 黄褐色土 1層に比してローム粒子・焼土粒子少量
- 3 黄褐色土 1層に比してローム大きく多い
- 4 黄褐色土 1層に比してローム多い
- 5 黄褐色土 4層と同様でローム粒子多い

SK57

- 1 黄褐色土 ロームブロック少量
- 2 黄褐色土 1層に似るが、ややロームブロックが風化
- 3 黄褐色土 1層に似るが、ロームブロックが多い

SK59

- 1 黄褐色土 ローム粒子少量
- 2 黄褐色土 ロームブロック多量
- 3 黄褐色土 ロームブロック多量

SK60

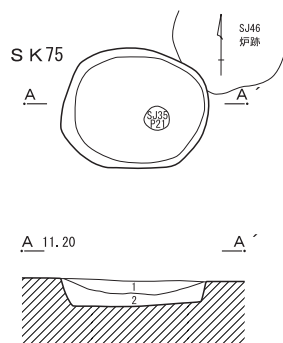
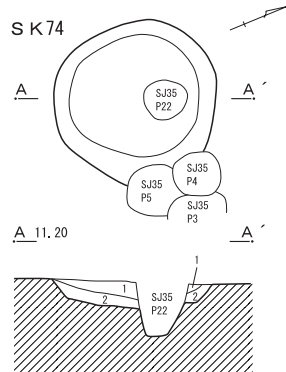
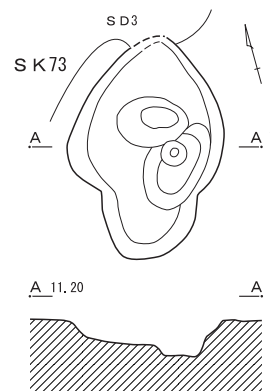
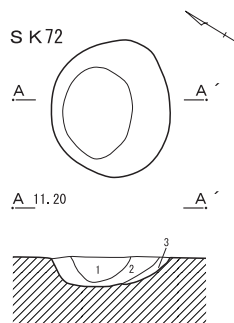
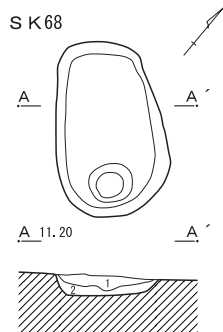
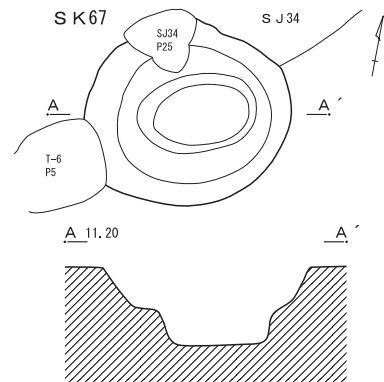
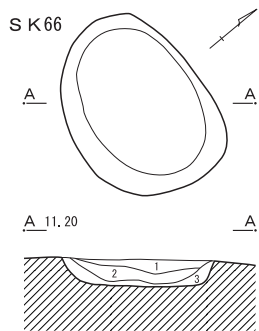
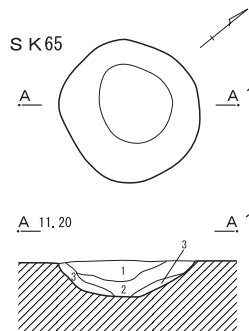
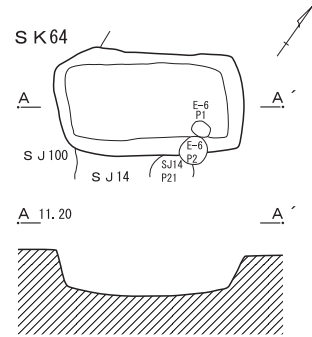
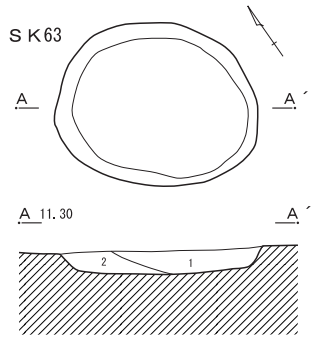
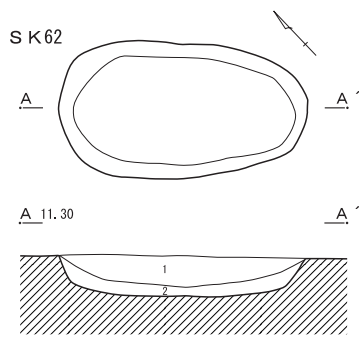
- 1 黄褐色土 ローム粒子少量
- 2 黄褐色土 焼土粒子多量
- 3 黄褐色土 ロームブロック少量 旧表土も多少含む

SK61

- 1 黄褐色土 ローム粒子少量
- 2 黄褐色土 ロームブロック少量
- 3 黄褐色土 ローム粒子多量



第382図 土壌(4)



SK62・63
 1 暗褐色土 ローム粒子微量 しまり強い
 2 暗黄褐色土 ローム主体 1層混入 しまり強い

SK65
 1 暗褐色土 暗褐色土小ブロック少量 炭化物微量
 2 暗褐色土 ロームブロック・暗灰色粘土粒子少量
 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK66
 1 暗褐色土 暗褐色土小ブロック・炭化物少量
 2 暗褐色土 ローム粒子・暗灰色粘土粒子少量 炭化物微量
 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量 暗灰色粘土粒子少量

SK68
 1 暗褐色土 暗灰色粘土粒子少量 炭化物微量
 2 暗黄褐色土 ローム粒子多量

SK72
 1 黒褐色土 ロームブロック・暗灰色粘土粒子・炭化物少量
 2 暗褐色土 ロームブロック・暗灰色粘土粒子多量
 3 暗黄褐色土 ローム粒子多量

SK74
 1 黒褐色土 ロームブロック・炭化物少量
 2 暗褐色土 ロームブロック少量

SK75
 1 黒褐色土 ローム粒子・炭化物微量
 2 暗褐色土 ロームブロック・炭化物少量



第383図 土壌 (5)

壙が接している。平面形は円形で、長径1.22m、短径1.13m、深さ0.52mである。

第384図5～7は出土した土器で、5・6は深鉢形土器の破片である。5は無文の口縁部で、6は磨消沈線文を施文する胴部で地文として単節RLの縄文を施文する。7は浅鉢形土器の破片で、地文は条線を施文する。時期は中期後葉である。

第56号土壙 (第382・384図)

H-5グリッドに位置する。北側には第55号土壙が接している。平面形は楕円形で、長径1.58m、短径1.34m、深さ0.72mである。

第384図8～19は検出された遺物で、8～15は深鉢形土器の破片である。8～12は口縁部の破片で、8～10は沈線によって口縁部に楕円区画文など施文するもので、地文として8は複節RLRの縄文を、9は単節RLの縄文を、10は単節RLに1段の条Rを付加する縄文を施文している。11・12は無文の口縁部で、11は胴部との区画に円形刺突文を施している。13～15は胴部の破片で、13は沈線で逆U字状文を施文している。14・15は磨消沈線文を施文する。地文として13は0段多条の縄文を、14・15は単節RLの縄文を施文する。16は地文に条線を施文する深鉢形土器の胴部の破片で、刺突文を加えた隆帯を垂下させている。17は有孔鏝付土器の鏝部分である。18は深鉢の底部である。19は無茎の石鏝である。遺物の時期は中期後葉である。

第57号土壙 (第382図)

H-5グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.37m、短径1.12m、深さ0.69mである。

第59号土壙 (第382・384図)

G・H-5グリッドに位置し、平面形は円形で、長径0.97m、短径0.95m、深さ0.73mである。

第384図20・21は検出された深鉢形土器の胴部の破片である。磨消沈線文を施文するもので、地文として20は単節LRの縄文を、21は条線を施文するものである。時期は中期後葉である。

第60号土壙 (第382図)

G-5グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径2.24m、短径1.48m、深さ0.21mである。

第61号土壙 (第382図)

G-5グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.13m、短径0.80m、深さ0.43mである。

第62号土壙 (第383図)

M-4グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.95m、短径1.05m、深さ0.36mである。

第63号土壙 (第383・384図)

L・M-4グリッドに位置し平面形は楕円形で、長径1.58m、短径1.28m、深さ0.21mである。

第384図22・23は検出された深鉢形土器の胴部の破片である。22は磨消沈線文を垂下させ、23は磨消沈線文を円形に施文する。地文として単節RLの縄文を施文する。時期は中期後葉である。

第64号土壙 (第383・384図)

E-5・6グリッドに位置する。第14・100・104号住居跡と重複する。平面形は長方形で、長径1.46m、短径0.80m、深さ0.38mである。

第384図26～29は検出された土器で、26～28は深鉢形土器の破片である。26は口縁部で胴部との区画に微隆起伏の隆帯を巡らすものである。27・28は胴部で地文として無節Lを施文する。29は後期の土器で、土壙に混入したものである。時期は中期後葉である。

第65号土壙 (第383図)

T-6・7グリッドに位置する。平面形は円形で、長径1.12m、短径1.10m、深さ0.29mである。

第66号土壙 (第383図)

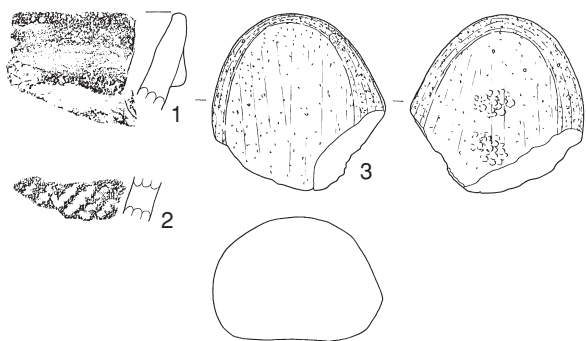
T-7グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.44m、短径1.21m、深さ0.21mである。

第67号土壙 (第383・384図)

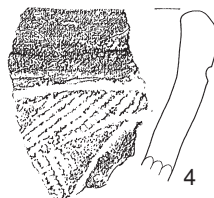
T-6グリッドに位置する。第34号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.61m、短径1.45m、深さ0.62mである。

第384図24・25は検出された深鉢形土器の胴部

SK51 (1~3)



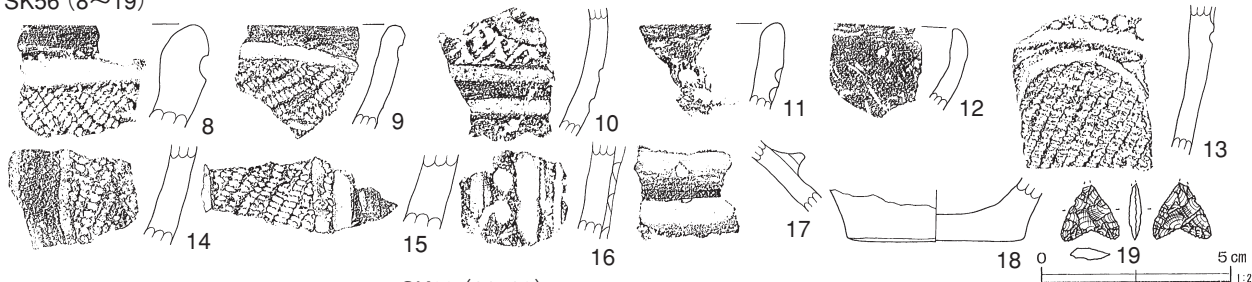
SK53 (4)



SK55 (5~7)



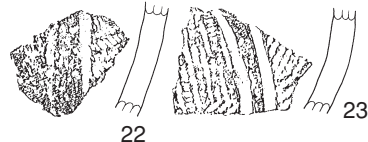
SK56 (8~19)



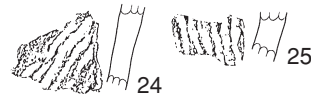
SK59 (20-21)



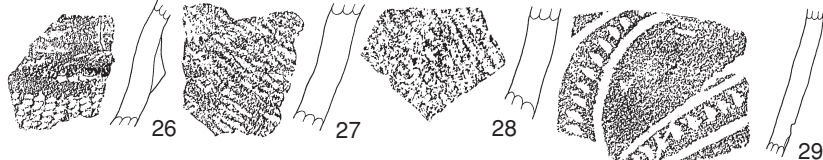
SK63 (22-23)



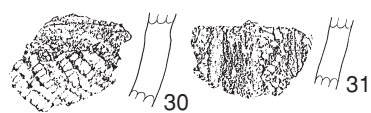
SK67 (24-25)



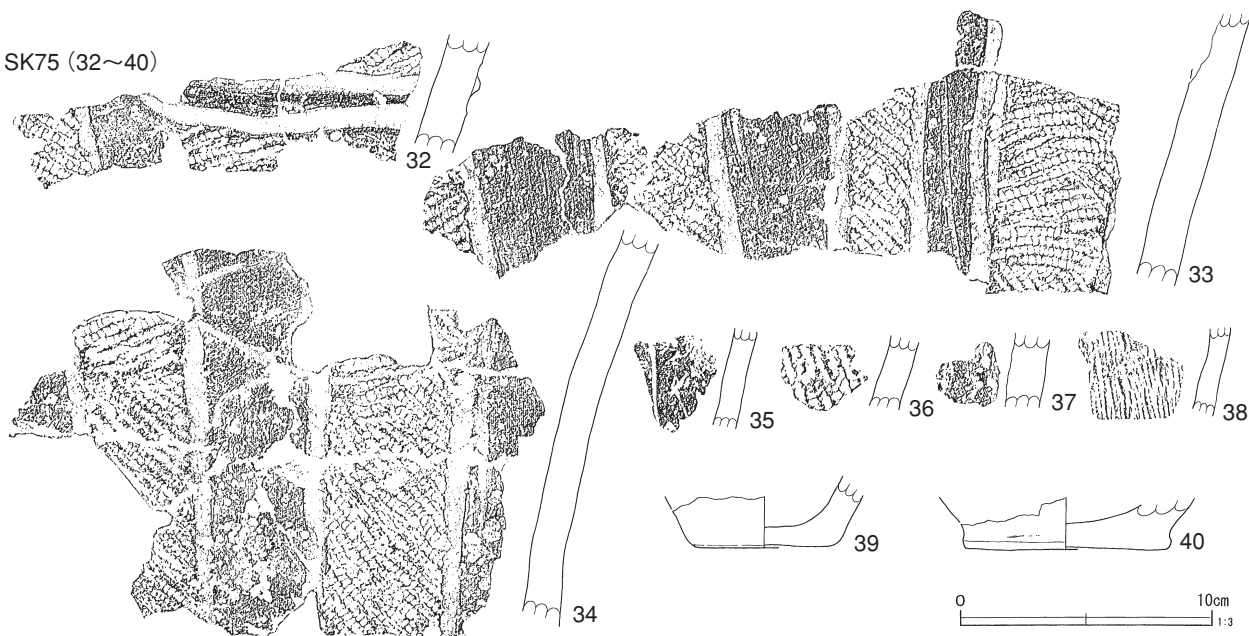
SK64 (26~29)



SK74 (30-31)



SK75 (32~40)



第384图 土壙出土遺物 (6)

の破片である。地文として24は無節Rの縄文を、25は単節LRの縄文を施文する。時期は中期後葉である。

第68号土壙 (第383図)

S-7グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.37m、短径0.79m、深さ0.17mである。

第72号土壙 (第383図)

S-6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.07m、短径0.91m、深さ0.24mである。

第73号土壙 (第383図)

T-6グリッドに位置する。平面形は不整形で、長径1.71m、短径1.22m、深さ0.28mである。

第74号土壙 (第383・384図)

O-7グリッドに位置する。第35・46号住居跡と重複する。平面形は円形で、長径1.30m、短径1.26m、深さ0.23mである。

第384図30・31は検出された深鉢形土器の破片である。30は口縁部で地文は単節RLの縄文を横方向に施文している。31は胴部の破片で、磨消沈線文を垂下させる。地文は単節RLの縄文を縦方向に施文する。時期は中期後葉である。

第75号土壙 (第383・384・387図)

O-7グリッドに位置する。第35・46号住居跡と重複する。土壙の時期は住居跡よりも新しい。平面形は楕円形で、長径1.13m、短径0.94m、深さ0.23mである。

第384図32~40は検出された土器で、土壙の確認面から検出された。32~34は同一個体のキャリパー系深鉢形土器の口縁から胴部の破片である。胴部には2本1組の磨消沈線を垂下させる。地文は単節LRの縄文を縦方向に施文する。35~39は深鉢形土器の胴部の破片で、35は磨消沈線文を施文する。36は内側に炭化物が付着しているもので、地文として単節RLの縄文を横方向に施文する。37は微隆起状の隆帯を貼付する。38は地文として撚糸文Rを施文する。39は深鉢の底部、40は浅鉢の底部である。時期は中期後葉である。

第76号土壙 (第385・387・388図)

O-7グリッドに位置する。第35・40・45・46号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.80m、短径1.34m、深さ0.16mである。

遺物は土壙の北側に深鉢形土器(第388図1)が埋設されていたが、出土状況からは正位か逆位かは不明であった。時期は中期後葉である。

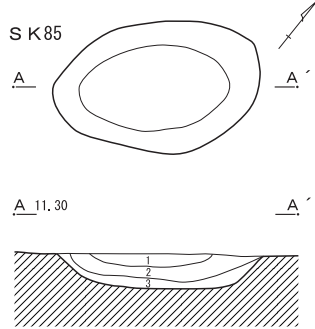
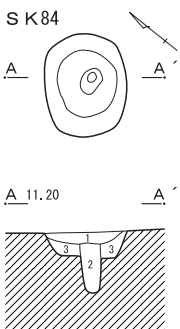
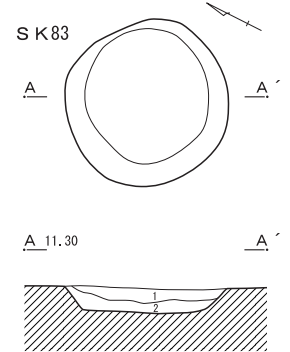
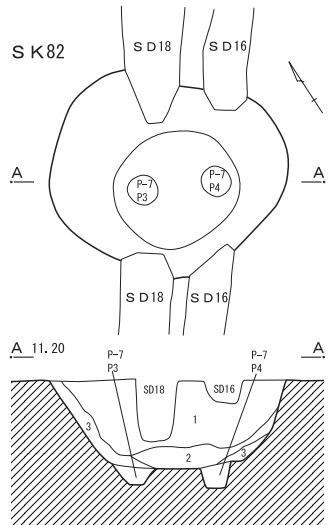
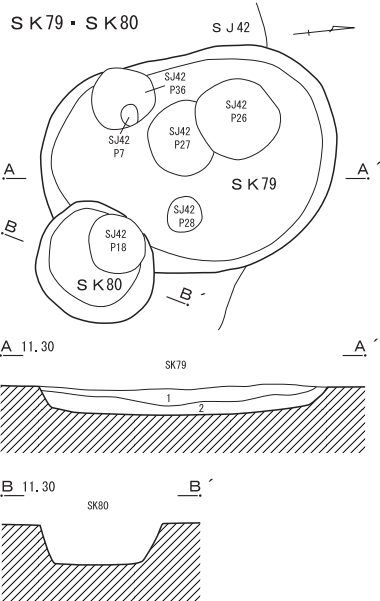
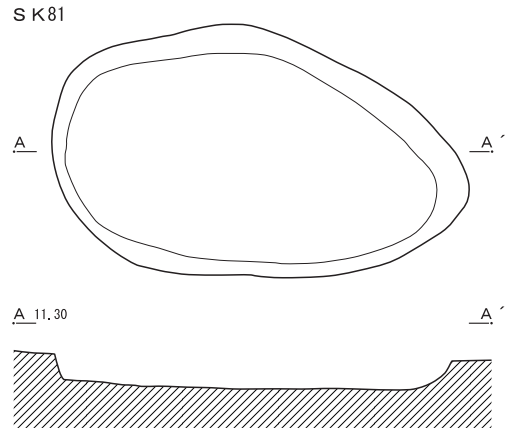
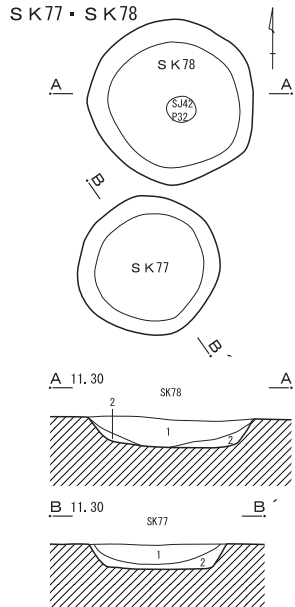
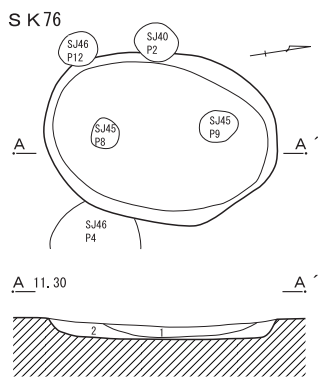
第388図1~17は検出された遺物である。1は深鉢形土器で胴部下半を欠損するものである。口縁部は狭い無文で、胴部とは浅い沈線で区画されている。胴部には2本1組の磨消沈線文が7単位施文され、そのうち1単位は磨消部分の幅が狭いものとなっている。地文は無節Lの縄文を縦方向に施文している。2~13は深鉢形土器の破片で、2~10は口縁部で、そのうち2~5は渦巻き文や楕円区画文などの文様を持つもので、地文は単節RLの縄文を2~4は横方向、5は縦方向に施文している。6~10は口縁部に文様を持たないものである。6~8、10は胴部に波状文や逆U字状文を施文するもので、9は磨消沈線文を直線的に垂下させるものである。地文として6・10は単節RLの縄文を、9は単節LRの縄文を施文している。7は1段の太細の条を撚り合わせて、複節RLRの縄文を施文している。11・12は胴部に磨消沈線文を施文するものである。13は2本1組の微隆起状の隆帯と沈線によって、胴部に大形渦巻き文を施文するものである。地文は単節RLの縄文である。14・16は浅鉢形土器の破片で、14は口縁部、16は地文の条線を施文する胴部の破片である。15は地文が条線の深鉢形土器の胴部の破片である。17は磨石で、側面は敲打で面取り状となる。

遺物の時期は中期後葉である。

第77号土壙 (第385・388図)

P-7グリッドに位置し、土壙以前である第42・46号住居跡と重複する。平面形は円形で、長径1.12m、短径1.08m、深さ0.28mである。

第388図18~23は検出された深鉢形土器の胴部



SK76
 1 黒褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
 2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック・炭化物少量

SK77
 1 暗褐色土 ローム粒子・炭化物少量
 2 暗褐色土 ロームブロック多量 炭化物少量

SK78
 1 暗褐色土 ロームブロック少量
 2 暗褐色土 ロームブロック多量

SK79
 1 暗褐色土 褐色土ブロック・炭化物少量
 2 暗黄褐色土 ローム粒子多量 暗褐色土ブロック少量

SK82
 1 暗褐色土 ローム粒子多量 灰色粘土ブロック・炭化物少量
 2 暗褐色土 ロームブロック・炭化物少量
 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量 暗灰色粘土粒子少量

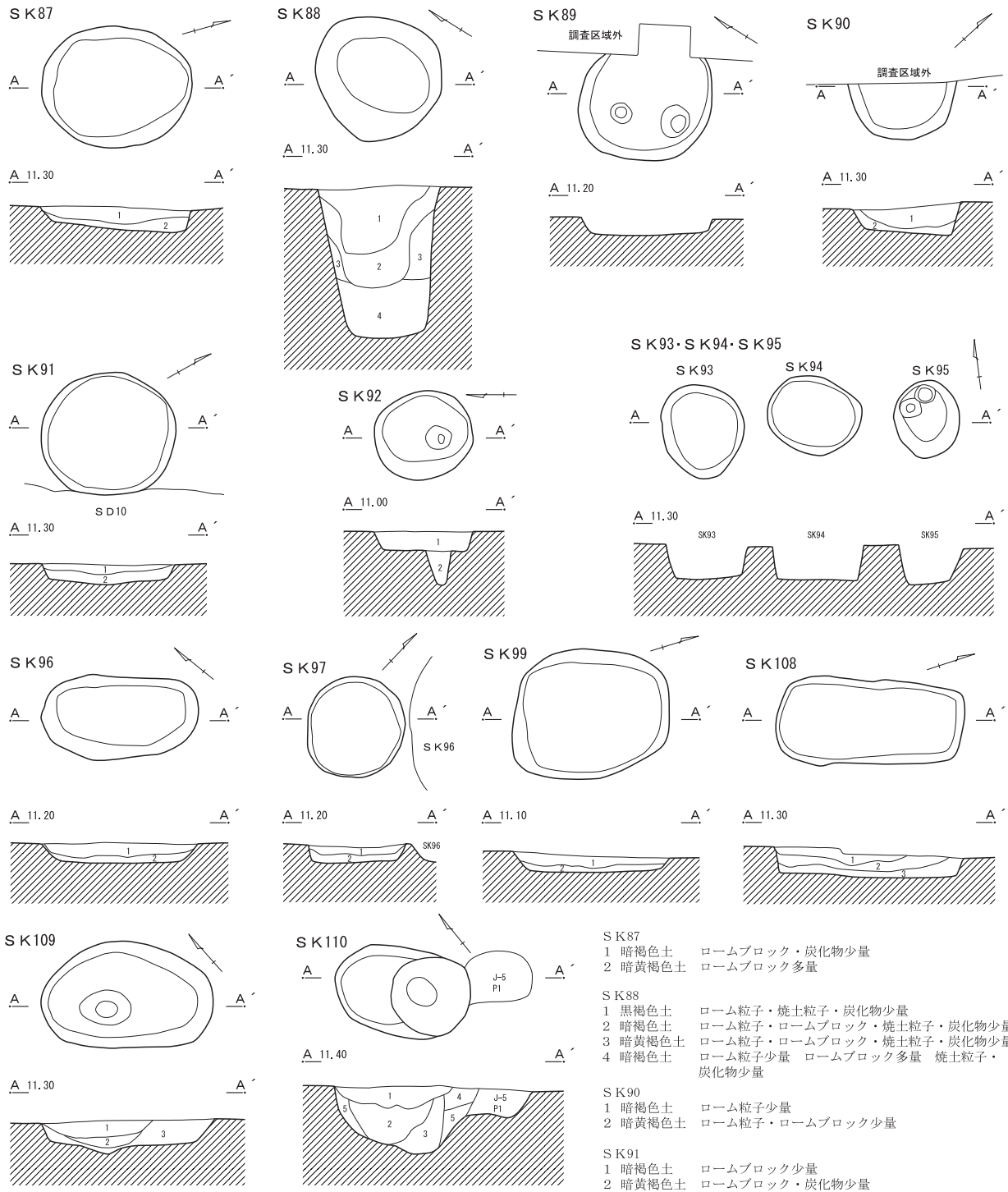
SK84
 1 暗褐色土 ローム粒子少量 炭化物微量
 2 暗褐色土 暗灰色粘土粒子多量 炭化物微量
 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK83
 1 暗褐色土 暗褐色土粒子少量 炭化物微量
 2 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK85
 1 暗褐色土 暗褐色土ブロック・炭化物少量
 2 暗褐色土 ロームブロック・暗灰色粘土ブロック少量
 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量



第385図 土壌 (6)



SK92
 1 黒褐色土 焼土粒子・炭化物微量
 2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量

SK96
 1 黒褐色土 ローム粒子・炭化物少量
 2 暗褐色土 ローム粒子少量

SK97
 1 暗褐色土 ローム粒子・炭化物少量
 2 暗黄褐色土 ローム粒子少量

SK99
 1 暗褐色土 炭化物少量
 2 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量

SK108
 1 暗褐色土 暗灰色粘土粒子多量 炭化物微量
 2 暗褐色土 ロームブロック少量 暗灰色粘土粒子少量
 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK109
 1 暗褐色土 暗褐色土小ブロック・暗灰色粘土粒子少量
 2 暗褐色土 ローム小ブロック少量 暗灰色粘土粒子多量
 3 暗黄褐色土 ローム粒子多量 暗灰色粘土粒子少量

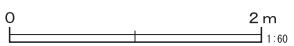
SK87
 1 暗褐色土 ロームブロック・炭化物少量
 2 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK88
 1 黒褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
 2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量
 3 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量
 4 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック多量 焼土粒子・炭化物少量

SK90
 1 暗褐色土 ローム粒子少量
 2 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量

SK91
 1 暗褐色土 ロームブロック少量
 2 暗黄褐色土 ロームブロック・炭化物少量

SK110
 1 暗褐色土 ロームブロック少量
 2 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量
 3 暗褐色土 ロームブロック少量
 4 暗褐色土 ローム粒子・炭化物少量
 5 暗黄褐色土 ロームブロック多量



第386図 土壌 (7)

の破片である。磨消沈線文を垂下させるもので、地文として18・19・21は単節R Lの縄文を、20は無節Lの縄文を、23は条線を施文している。時期は中期後葉である。

第78号土壙 (第385・388図)

P-7グリッドに位置し、土壙以前の第42・45・46号住居跡と重複する。平面形は円形で、長径1.30m、短径1.30m、深さ0.26mである。

第388図24・25は検出された遺物で、24は微隆起伏の隆帯を施文する深鉢形土器の胴部の、25は条線を地文とする浅鉢形土器の胴部の破片である。時期は中期後葉である。

第79号土壙 (第385・389図)

P-7グリッドに位置する。第42号住居跡、第80号土壙と重複する。新旧関係は不明である。平面形は楕円形で、長径2.30m、短径1.76m、深さ0.28mである。

第389図1～9は検出された遺物である。1～6は深鉢形土器で、1・2は口縁部、3～6は胴部の破片である。口縁部には隆帯や沈線で渦巻き文が施文され、胴部には磨消沈線文を垂下させている。地文として1～3、5・6は単節R Lの縄文を、4は単節L Rの縄文を施文する。7～9は地文に条線を施文するもので、7・9は深鉢形土器の胴部で、7は隆帯を垂下させている。8は浅鉢形土器の口縁部である。時期は中期後葉である。

第80号土壙 (第385・389図)

P-7グリッドに位置する。第42号住居跡、第79号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径0.94m、短径0.80m、深さ0.33mである。

第389図10・11は検出された遺物で、磨消沈線文を垂下させる深鉢形土器の胴部の破片である。10の地文は単節R Lの縄文を施文する。時期は中期後葉である。

第81号土壙 (第385・389図)

P・Q-7グリッドに位置する。近世の第17号溝跡と重複する。平面形は楕円形で、長径3.30m、

短径2.00m、深さ0.33mである。

第389図12～16は検出された遺物である。12～14は磨消沈線文を垂下させる深鉢形土器の胴部の破片で、地文は単節R Lの縄文を施文する。15は浅鉢形土器の胴部の破片である。16は無茎の石鏃である。時期は中期後葉である。

第82号土壙 (第385図)

P-7グリッドに位置する。近世の第16・18号溝跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.86m、短径1.49m、深さ0.70mである。

第83号土壙 (第385・389図)

P-5グリッドに位置する。平面形は円形で、長径1.31m、短径1.28m、深さ0.19mである。

第389図17～20は検出された深鉢形土器である。17は胴部下半から底部の破片で、胴部には磨消沈線文を垂下させる。地文は単節L Rの縄文を縦方向に施文する。18・19は口縁部の破片で、隆帯や沈線によって渦巻き文や楕円区画文を施文している。19の地文は単節R Lの縄文を施文する。20は磨消沈線文を垂下させる胴部の破片で、単節L Rの縄文を施文する。地文部分には刺突が認められる。時期は中期後葉である。

第84号土壙 (第385図)

P-5グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径0.80m、短径0.65m、深さ0.47mである。

第85号土壙 (第385図)

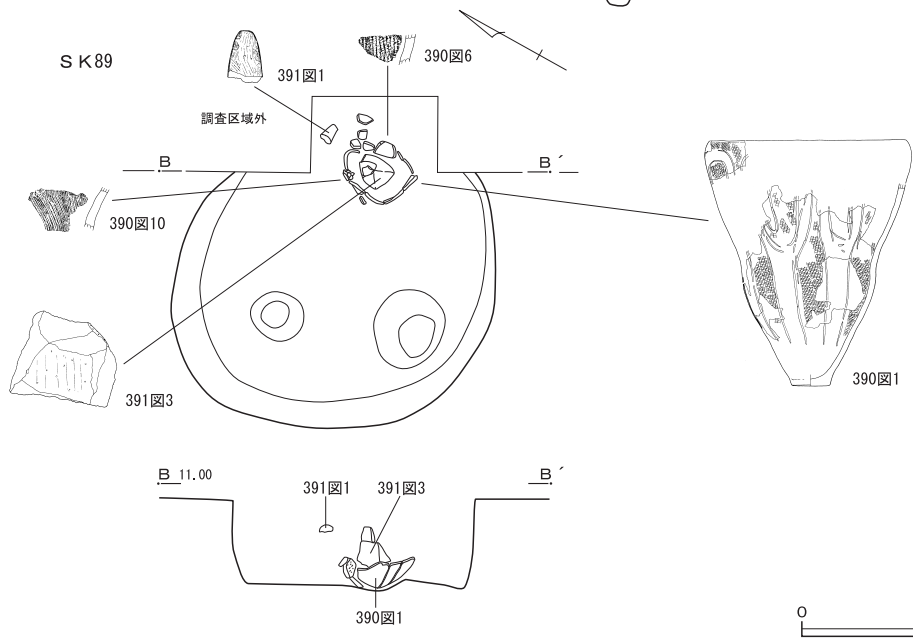
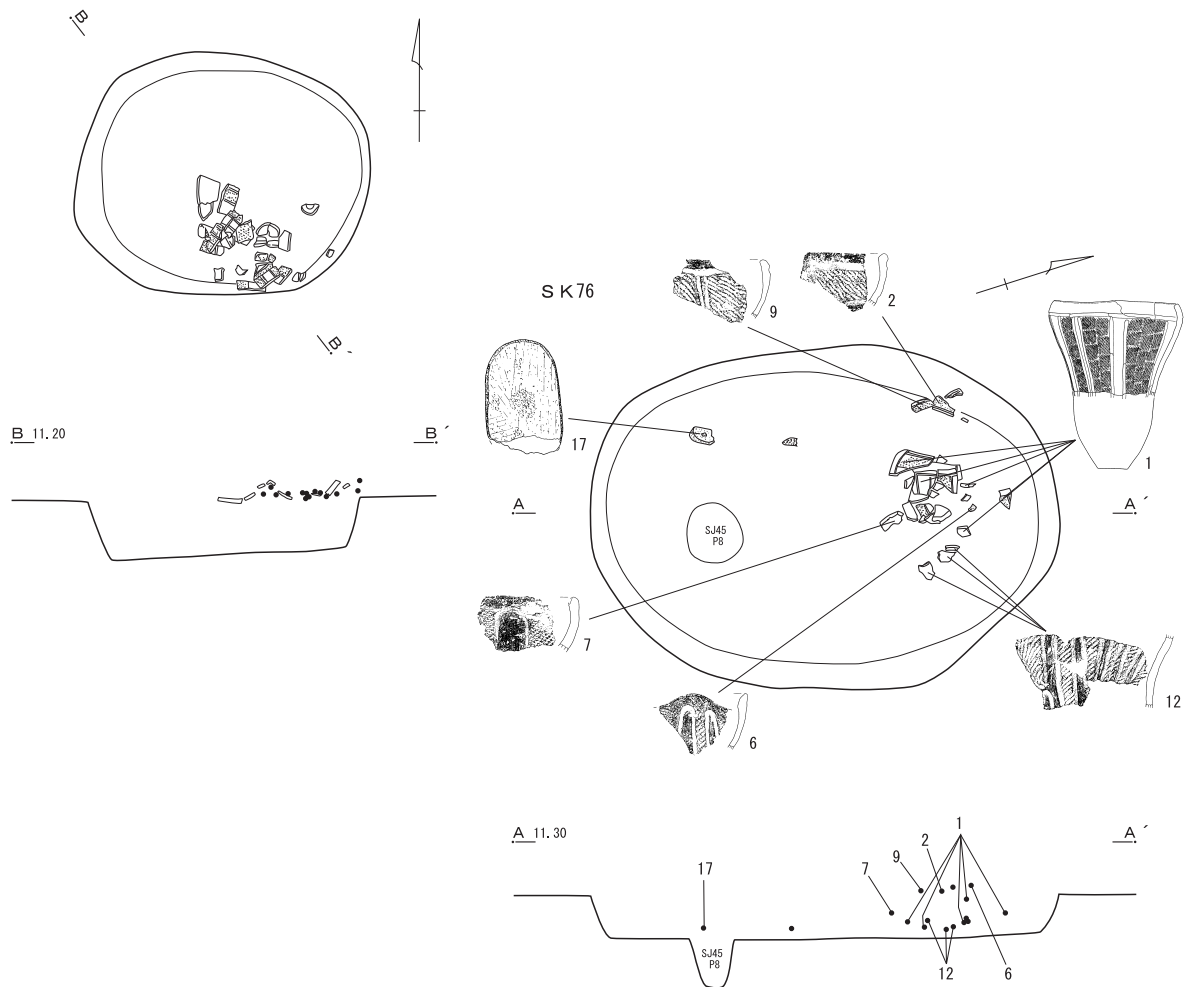
P-5グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.62m、短径1.05m、深さ0.28mである。

第87号土壙 (第386・389図)

P-6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.44m、短径1.15m、深さ0.21mである。

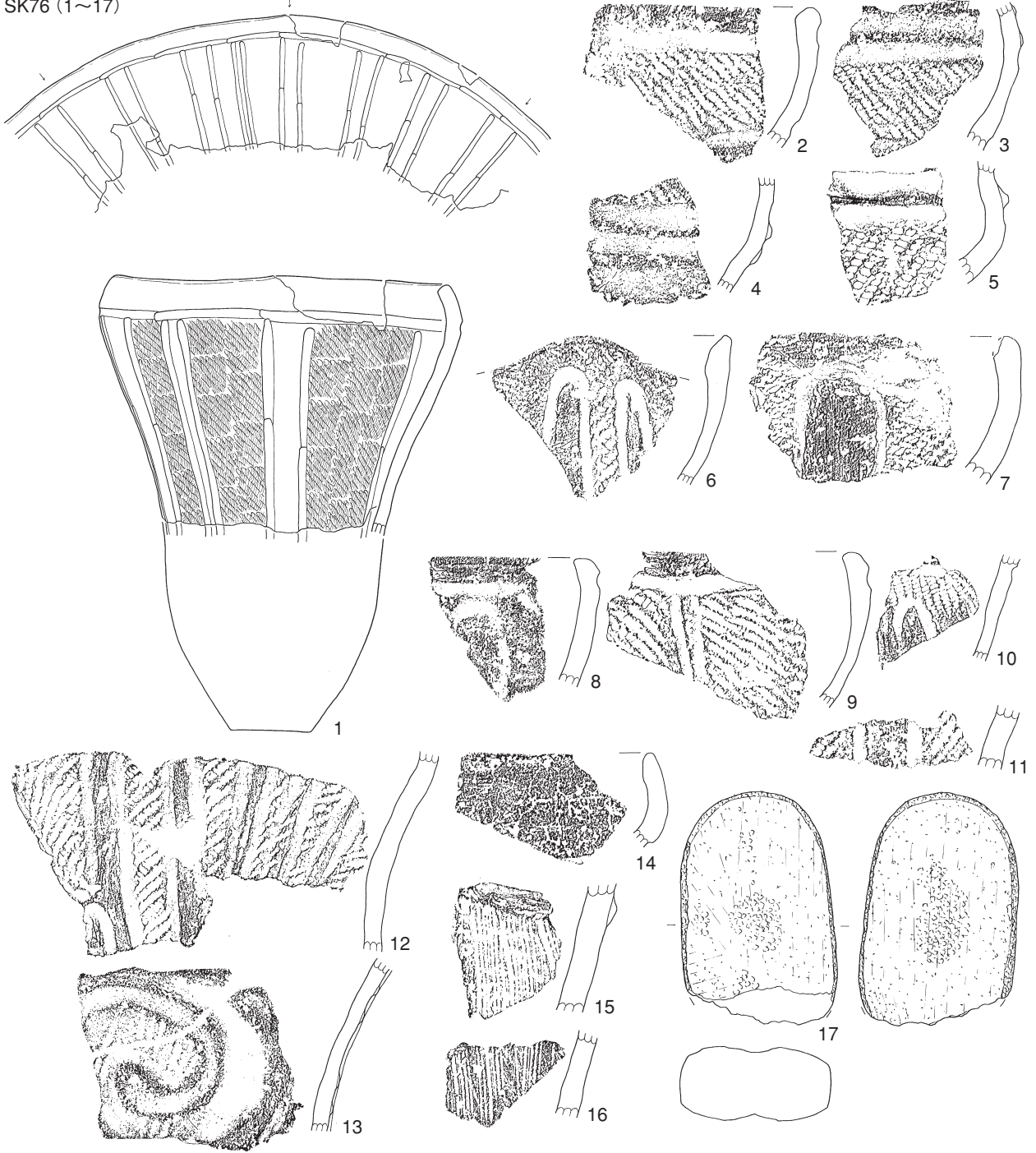
第389図21～23は検出された深鉢形土器の破片である。21・22は口縁部で、21は隆帯と沈線によって渦巻き文が施文される。22は無文となるものである。23は胴部の破片で磨消沈線文を垂下させる。地文は単節R Lの縄文を縦方向に施文している。時期は中期後葉である。

SK75

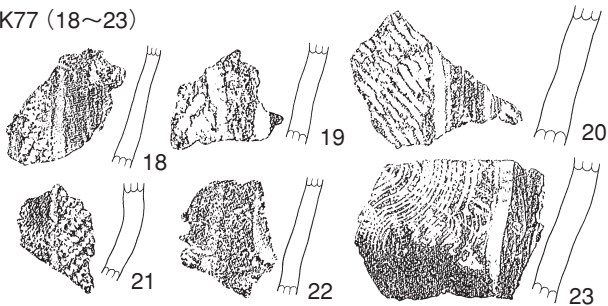


第387図 第75・76・89号土坑遺物出土状況

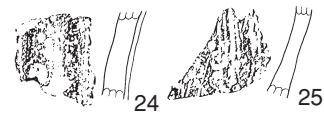
SK76 (1~17)



SK77 (18~23)



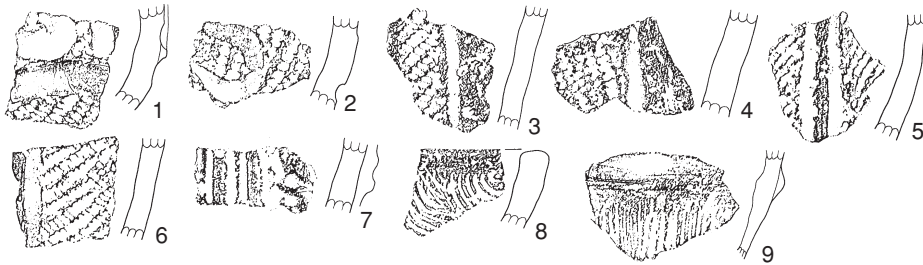
SK78 (24·25)



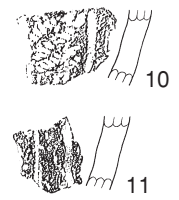
0 10cm
1:3

第388図 土壙出土遺物 (7)

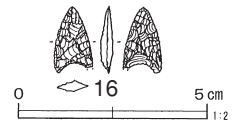
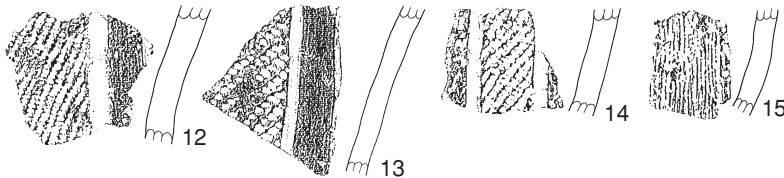
SK79 (1~9)



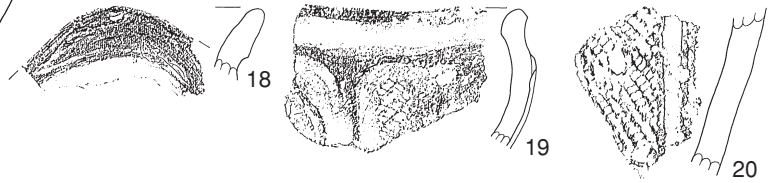
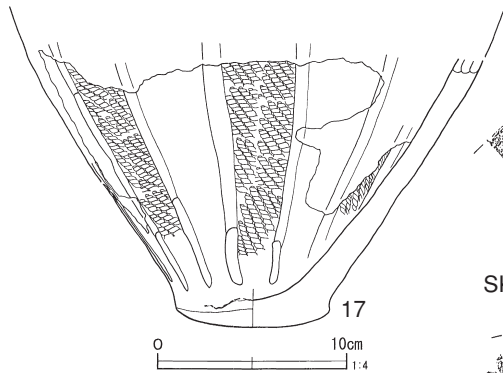
SK80 (10-11)



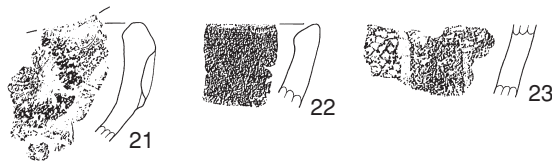
SK81 (12~16)



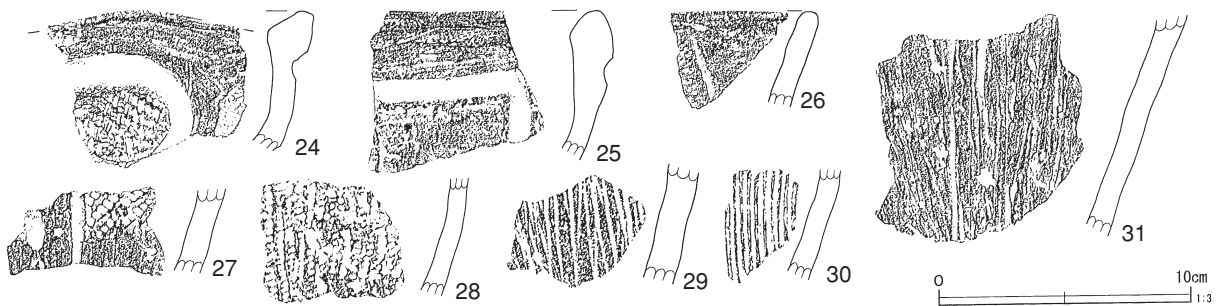
SK83 (17~20)



SK87 (21~23)



SK88 (24~31)



第389図 土壙出土遺物(8)

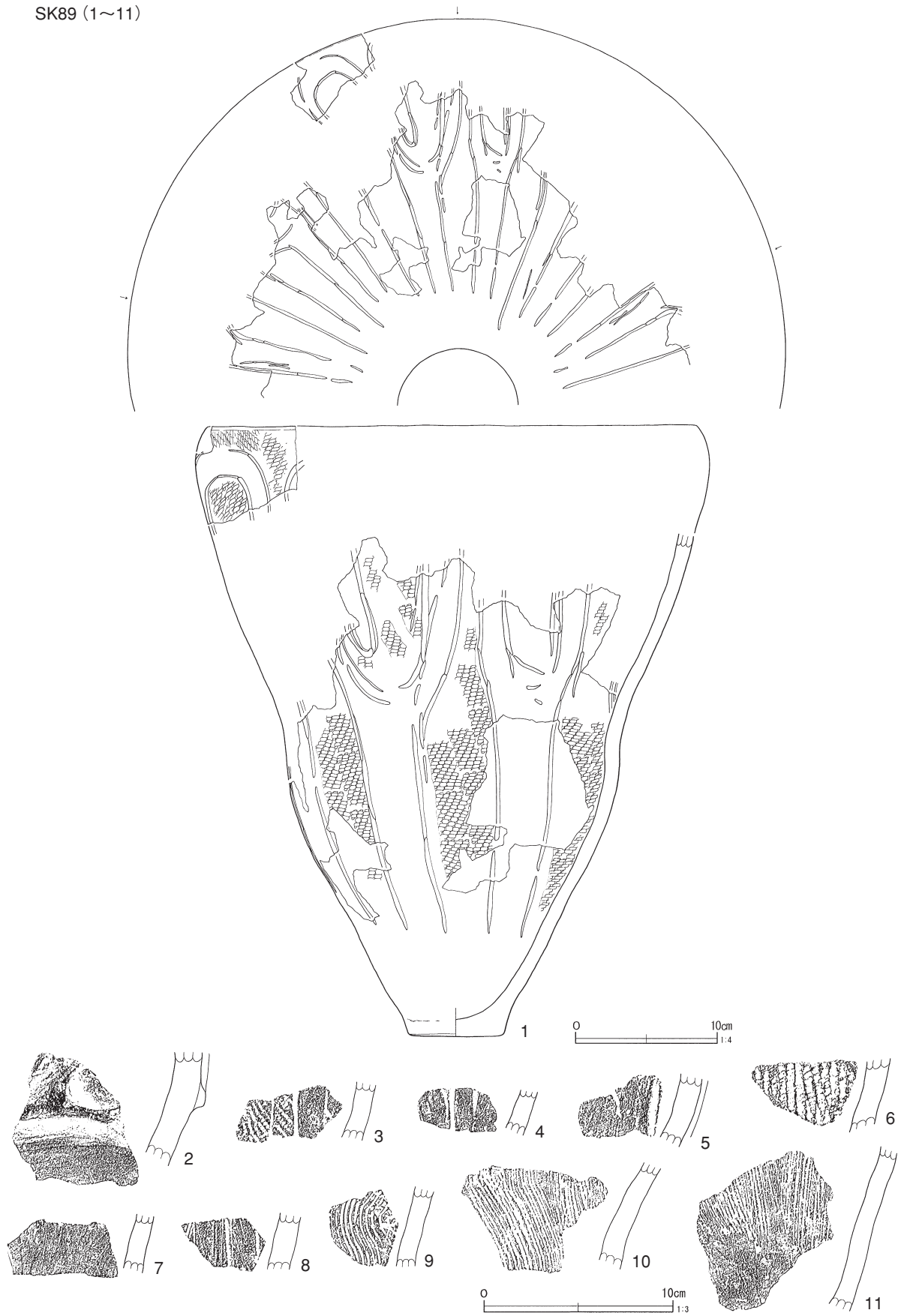
第88号土壙 (第386・389図)

P-5グリッドに位置する。平面形は円形で、長径1.24m、短径1.17m、深さ1.45mである。円筒状に深く掘られている。

第389図24~31は検出された土器である。24~28、31は深鉢形土器の破片である。24~26は口縁

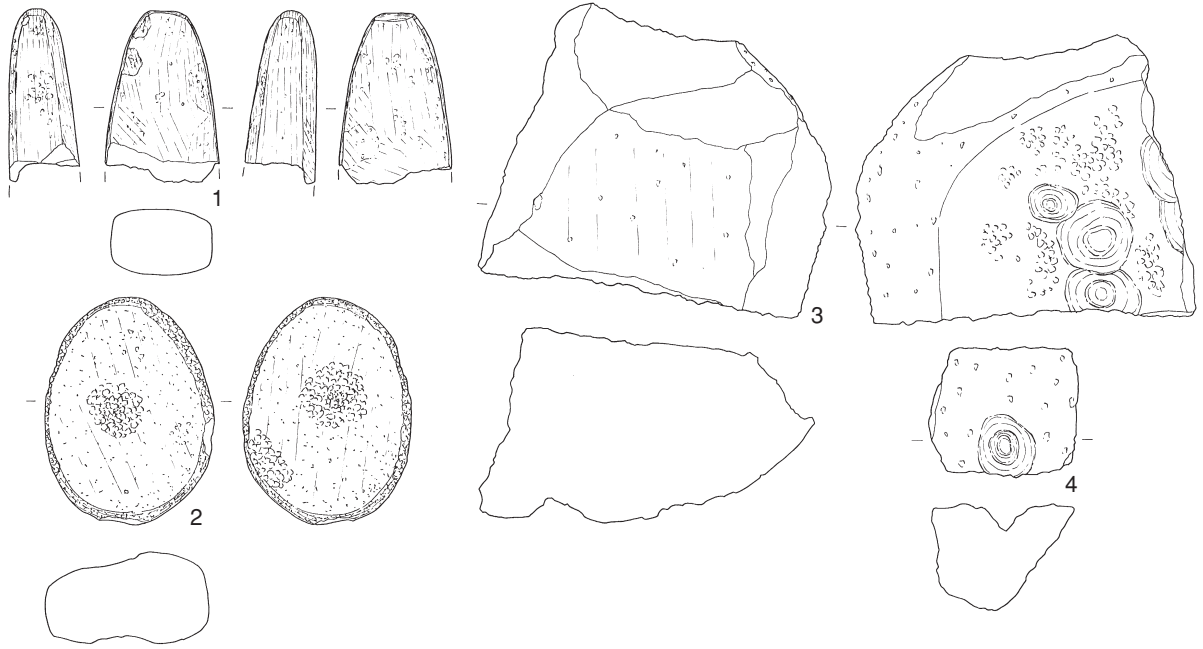
部で、24は波状口縁で、口縁部には沈線で渦巻き文を施文している。地文は節を違えた複節RLRの縄文を施文している。25・26は口縁部が無文のもので、25は胴部に上辺が方形に近い逆U字状文を施文する。27は磨消沈線文を施文するもので、地文として単節RLの縄文を縦方向に施している。

SK89 (1~11)

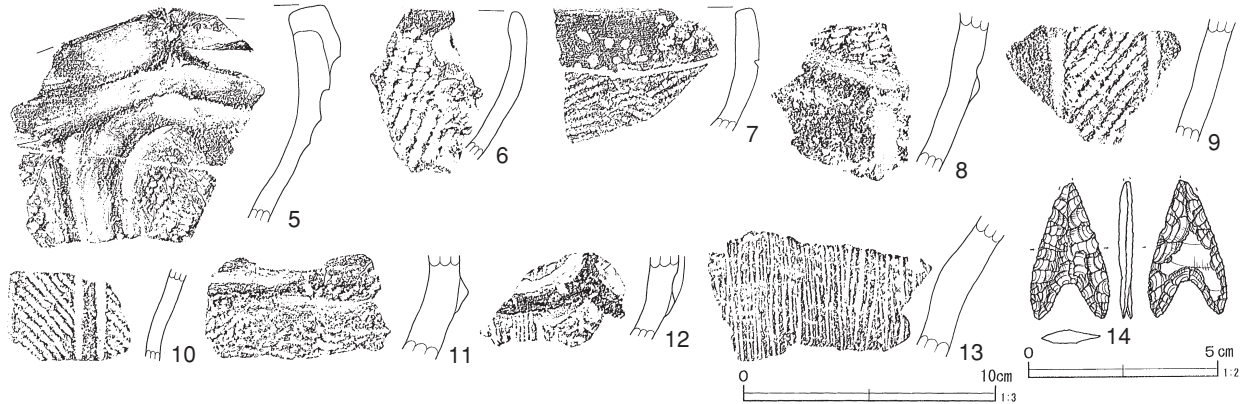


第390図 土壙出土遺物 (9)

SK89 (1~4)



SK92 (5~14)



第391図 土壌出土遺物 (10)

28は地文である単節RLの縄文のみが残存する。31は浅い2本の沈線を垂下させる。地文は認められなかった。29・30は浅鉢形土器の胴部の破片で、地文は条線を施文している。

遺物の時期は中期後葉である。

第89号土壌 (第386・387・390・391図)

P-5グリッドに位置する。東側の一部が調査区域外のため検出されなかった。平面形は円形と推定され、長径1.27m、残存する短径0.97m、深さ0.45mである。土壌の西側には深鉢形土器(第390図1)が正位に埋設されていた。また土器の内側からは、石皿(第391図3)の礫状の破片が検出されている。

第390図1~11は検出された土器である。1は深鉢形土器で、口縁部周辺は削平などにより大部分が失われている。口縁部には文様を持たないもので、胴部には磨消沈線によって文様を施文する。口縁部側の欠損が激しいため施文された文様の形状は不明である。沈線は浅く細いもので施文は粗雑である。また地文の施文も粗く、地文は単節RLの縄文を沈線文の形状に沿って施している。2は浅鉢形土器の肩部で、隆帯と沈線によって渦巻き文などを施文している。3~8は深鉢形土器の胴部の破片である。3・4・8は磨消沈線文を垂下させる。3の地文は単節LRの縄文である。5は隆帯を胴部に垂下させる。6は地文のみが施文

される破片で、0段多条の縄文を施文している。9～11は浅鉢の胴部の破片で地文は条線である。

第391図1～4は検出された石器である。1は基部が残存する磨製石斧である。器面は丁寧に磨かれている。2は磨石で、周縁は敲打を受けて面取り状となっている。表裏面の中央には敲打による浅い凹部が認められる。3・4は石皿の破片である。遺物の時期は中期末葉である。

第90号土壙 (第386図)

P-5グリッドに位置する。北側の半分以上が調査区域外のため検出できなかった。平面形は不明で、長径1.03m、残存する短径0.54m、深さ0.26mである。

第91号土壙 (第386図)

P-6グリッドに位置する。平面形は円形で、長径1.28m、短径1.04m、深さ0.18mである。

第92号土壙 (第386・391図)

P-6グリッドに位置する。第39号住居跡と重複しており、遺物からは土壙の方が新しい。平面形は楕円形で、長径0.94m、短径0.85m、深さ0.25mである。

第391図5～14は検出された遺物である。5～13は深鉢形土器の破片である。5～8は口縁部で、5～7は口縁部に文様を持たないものである。5は波状口縁で波頂部につまみ出すように突起を付ける。微隆起状の隆帯と沈線で、胴部に大形渦巻き文を施文するものである。8は口縁部に隆帯や沈線で、渦巻き文などを施文するものである。地文として5・7・8は単節RLの縄文を、6は単節LRの縄文を施文するものである。9・10は胴部の破片で、磨消沈線文を垂下させている。地文として9は単節RLの縄文を、10は細かい単節LRの縄文を施文する。11はバケツ状の器形となるもので、口縁部と胴部は微隆起状の隆帯で区画される。胴部には無節Rの縄文が施文されている。12・13は地文が条線となるもので、12は口縁部、13は胴部の破片である。13の器面には炭化物が付

着していた。14は石鏃で、基部に大きく逆U字状の抉りが入る。遺物の時期は中期末葉である。

第93号土壙 (第386図)

H-8グリッドに位置する。平面形は円形で、長径0.79m、短径0.79m、深さ0.32mである。

第94号土壙 (第386図)

H-8グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径0.90m、短径0.76m、深さ0.32mである。

第95号土壙 (第386図)

H-8グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径0.74m、短径0.62m、深さ0.38mである。

第96号土壙 (第386図)

P-6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.48m、短径0.91m、深さ0.20mである。

第97号土壙 (第386図)

P-6グリッドに位置する。平面形は円形で、長径0.97m、短径0.93m、深さ0.15mである。

第99号土壙 (第386図)

C・D-6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.50m、短径1.23m、深さ0.17mである。

第108号土壙 (第386図)

G-5・6グリッドに位置し平面形は長方形で、長軸1.68m、短軸0.78m、深さ0.32mである。

第109号土壙 (第386・394図)

J-5グリッドに位置する。第20号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.64m、短径1.01m、深さ0.31mである。

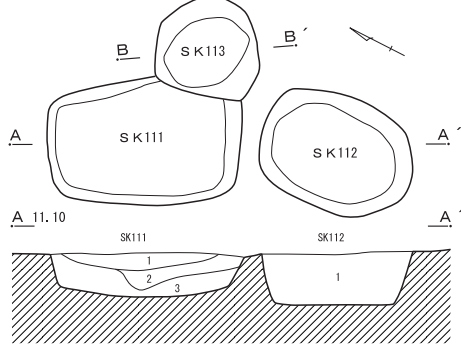
第394図1・2は検出された深鉢形土器の胴部の破片である。1は磨消沈線文を垂下させ、地文は単節RLの縄文を施文する。2は地文のみで単節LRの縄文を施文する。時期は中期後葉である。

第110号土壙 (第386・394図)

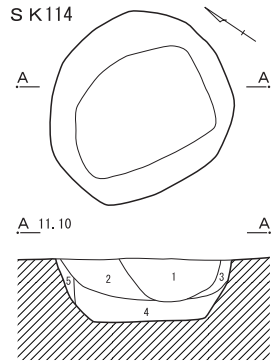
J-5グリッドに位置する。第20号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.90m、短径0.85m、深さ0.68mである。

第394図3・4は検出された土器である。3はキャリパー系深鉢形土器の口縁部の破片で、隆帯

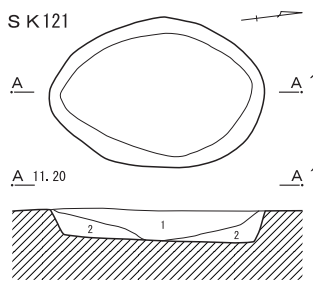
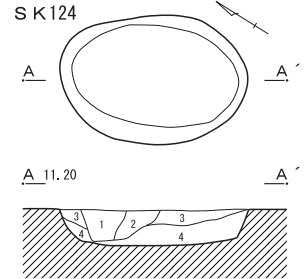
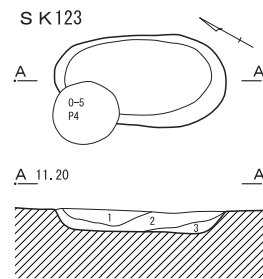
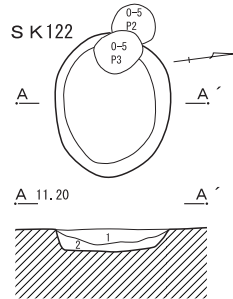
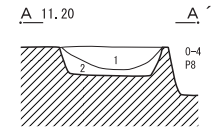
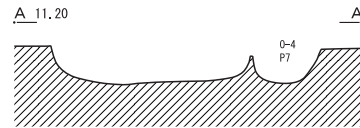
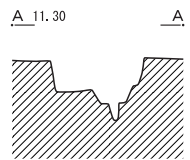
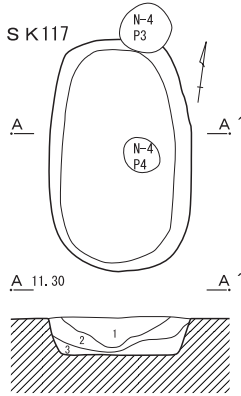
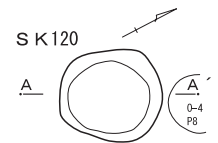
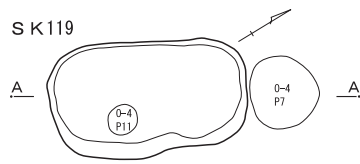
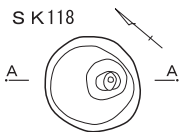
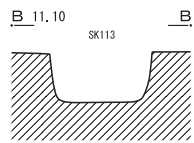
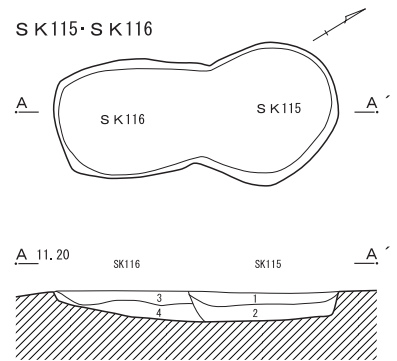
SK111・SK112・SK113



SK114



SK115・SK116



SK111
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 暗褐色土

SK112
1 暗褐色土

SK114
1 黒褐色土
2 暗褐色土
3 暗褐色土
4 暗黄褐色土
5 暗黄褐色土

SK115・116
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 暗褐色土
4 暗黄褐色土

SK117
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 暗黄褐色土

SK120
1 暗褐色土
2 暗褐色土

SK121
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土

暗褐色土粒子少量 炭化物微量
暗褐色土ブロック多量
ロームブロックと暗褐色土ブロックの混土

SK122
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土

暗褐色土主体 ロームブロック多量一括埋土

SK123
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 暗黄褐色土

暗褐色土ブロック多量炭化物少量
ローム小ブロック少量
暗褐色土粒子多量
ローム粒子多量

SK124
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 暗褐色土
4 暗黄褐色土

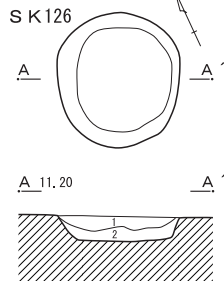
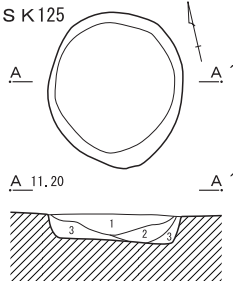
暗褐色土ブロック多量炭化物微量
暗褐色土
暗褐色土ブロック多量炭化物少量
ローム小ブロック・暗褐色粘土粒子少量
暗褐色粘土粒子多量
ローム粒子多量

SK125
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 暗黄褐色土

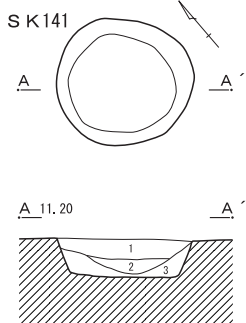
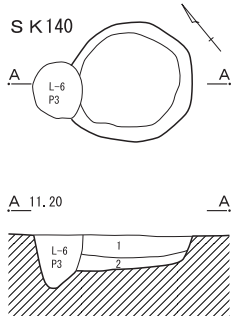
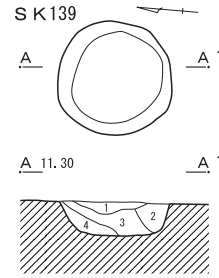
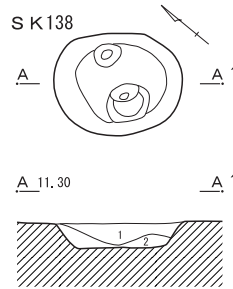
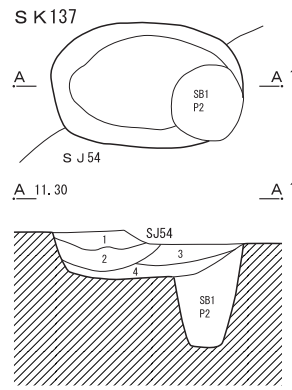
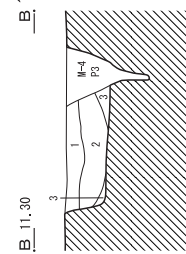
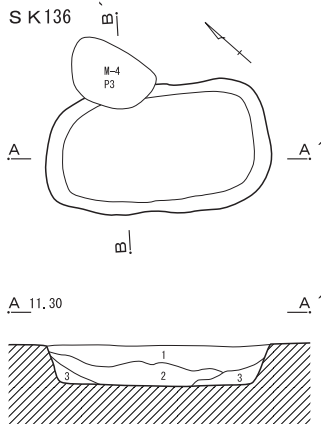
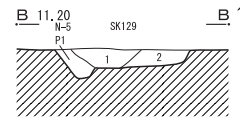
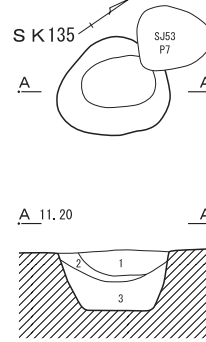
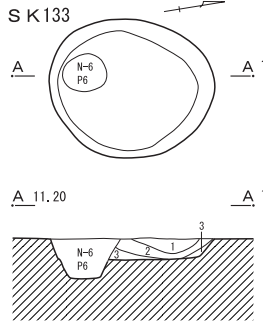
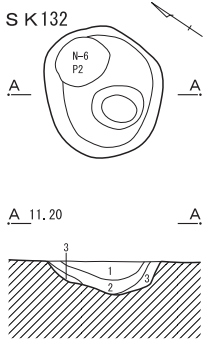
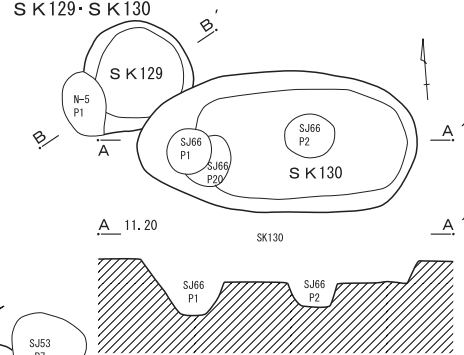
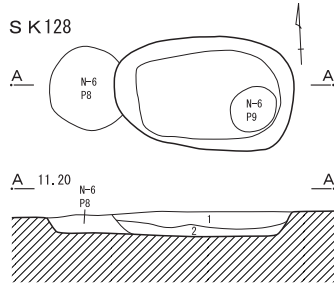
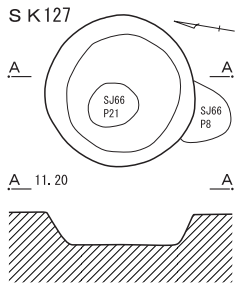
暗褐色土ブロック少量
焼土粒子・炭化物少量
ロームブロック多量

SK126
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土

暗褐色土粒子多量 炭化物微量
ローム小ブロック・暗褐色粘土粒子少量



第392図 土壌 (8)



SK128
1 暗褐色土 暗褐色土ブロック少量 暗灰色粘土粒子多量
2 暗黄褐色土 ローム粒子多量

SK129
1 暗褐色土 暗褐色土ブロック少量 炭化物微量
2 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK132
1 暗褐色土 ローム粒子少量 暗灰色粘土粒子多量
2 暗褐色土 暗灰色粘土ブロック多量
3 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量

SK133
1 暗褐色土 暗褐色土小ブロック多量 炭化物少量
2 暗褐色土 ローム小ブロックと暗褐色土ブロックの混土
3 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK135
1 暗褐色土 暗褐色土主体 ロームブロック少量
2 黒褐色土 炭化物少量
3 暗褐色土 ロームブロック・暗褐色土粘土少量 炭化物微量

SK138
1 暗褐色土 暗褐色土ブロック多量 炭化物微量
2 暗褐色土 ローム粒子多量

SK139
1 暗褐色土 ローム粒子微量 暗褐色土ブロック少量
2 暗褐色土 暗褐色土ブロック多量 炭化物少量
3 暗褐色土 暗灰色粘土ブロック多量
4 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK141
1 暗褐色土 暗褐色土ブロック多量 炭化物微量
2 暗褐色土 暗褐色土ブロックと暗灰色粘土粒子の混土
3 暗黄褐色土 ローム小ブロック多量 暗灰色粘土粒子少量

SK136
1 暗褐色土 炭化物少量 黒褐色土粒子をブロック状に含む
2 暗褐色土 暗褐色土粒子主体にロームをブロック状に含む
3 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK140
1 暗褐色土 暗褐色土ブロックと黒褐色土粒子の混土
2 暗褐色土 暗褐色土ブロック主体 暗灰色粘土粒子微量
3 暗褐色土 暗灰色粘土粒子多量
4 暗黄褐色土 暗灰色粘土粒子多量



第393図 土壌 (9)

と沈線により渦巻き文や楕円区画文を施文している。地文は単節RLの縄文を施文する。4は浅鉢形土器の口縁部の破片で、口縁部には円形刺突文と沈線を交互に施文して巡らしている。胴部には地文の条線を施文する。時期は中期後葉である。

第111号土壙 (第392図)

G-5グリッドに位置する。第113号土壙と重複する。平面形は長方形で、長軸1.51m、短軸1.00m、深さ0.34mである。

第112号土壙 (第392図)

G・H-5グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.25m、短径0.92m、深さ0.53mである。

第113号土壙 (第392図)

G・H-5グリッドに位置する。第111号土壙と重複する。平面形は円形で、長径0.81m、短径0.81m、深さ0.40mである。

第114号土壙 (第392・394図)

H-5グリッドに位置する。平面形は円形で、長径1.50m、短径1.47m、深さ0.50mである。

第394図5～20は出土した土器である。5～14は深鉢形土器の破片で、5～7は口縁部で隆帯や沈線で、渦巻き文や楕円区画文を口縁部に施文している。8～14は深鉢形土器の胴部の破片で、8～13は磨消沈線文を施文するものである。14は地文のみが施文されるものである。地文として8・10・14は単節RLの縄文を、9は複節RLRの縄文を、12は無節Lの縄文を、13は単節LRの縄文を施文している。15～18は浅鉢形土器の破片である。15は胴部下半で、内外面に赤彩の痕跡が認められた。地文は単節RLの縄文を斜め方向に施文している。16は無文の口縁部の破片である。17・18は胴部の破片で、地文は条線を施文している。19は深鉢形土器の底部で、20は浅鉢形土器の底部である。遺物の時期は中期後葉である。

第115号土壙 (第392図)

G-5グリッドに位置する。第116号土壙と重複するもので、土層から第115号土壙が新しい。

平面形は円形に近いと推測される。長径1.16m、短径1.08m、深さ0.19mである。

第116号土壙 (第392図)

G-5・6グリッドに位置する。第115号土壙と重複するもので、土層から第115号土壙が新しい。平面形は楕円形と推測される。残存する長径1.20m、短径0.93m、深さ0.24mである。

第117号土壙 (第392・394図)

N-4グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.82m、短径1.12m、深さ0.30mである。

第394図21・22は検出された深鉢形土器の胴部の破片である。31は磨消沈線文を垂下させるもので、地文は単節RLの縄文を縦方向に施文する。22は地文に沈線状の条線を施文するものである。重弧文系の器形で、胴部には刺突を加えた隆帯を垂下させている。時期は中期後葉である。

第118号土壙 (第392図)

N-4グリッドに位置する。平面形は円形で、長径0.75m、短径0.73m、深さ0.23mである。

第119号土壙 (第392・394図)

O-4グリッドに位置する。東側には第120号土壙が接して検出されている。平面形は長方形で、長軸1.55m、短軸0.88m、深さ0.27mである。

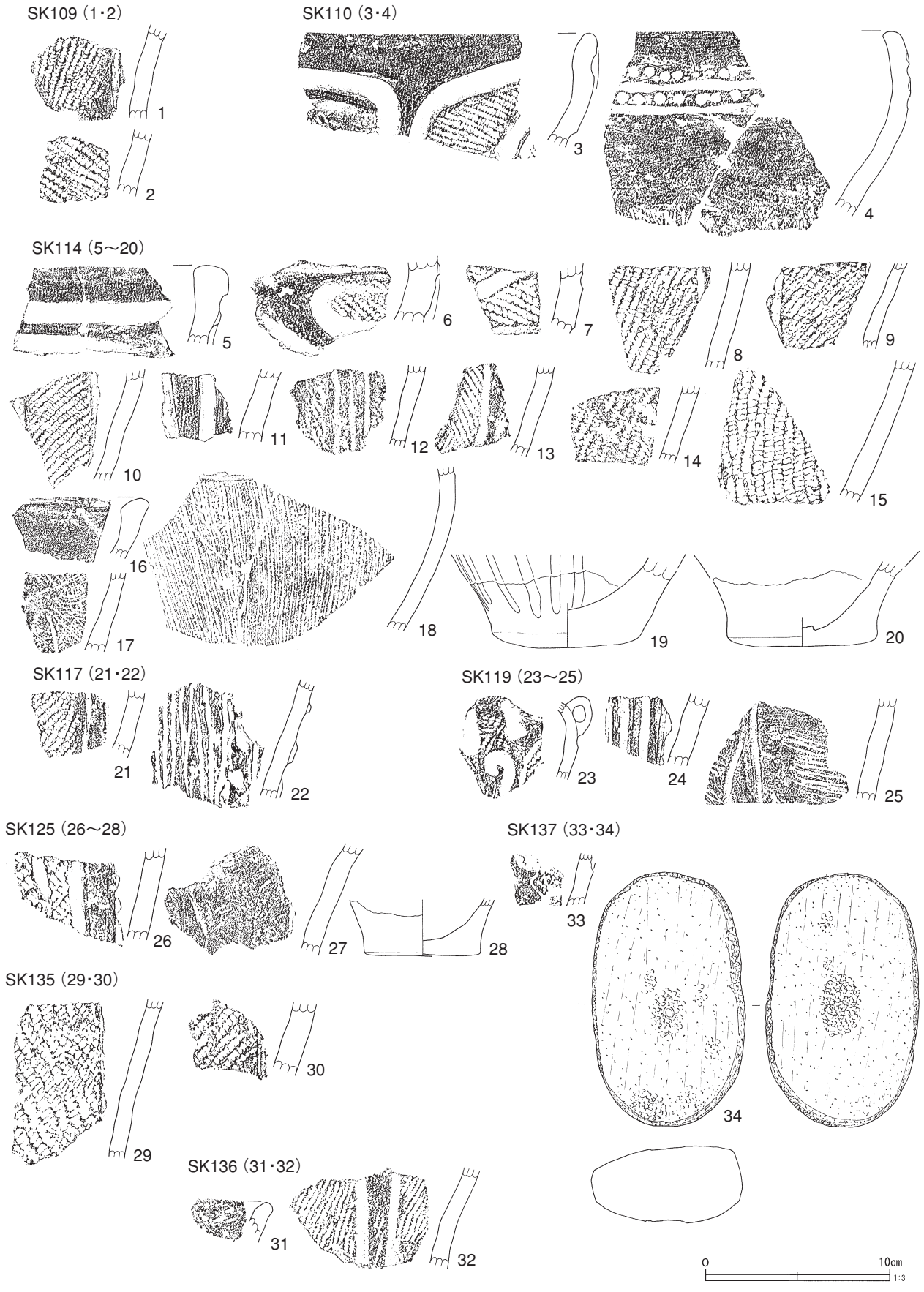
第394図23～25は検出された土器で、23はミニチュアの深鉢形土器の破片である。口縁部には橋状把手が貼付される。口縁部は無文で、胴部には沈線文が施文される。地文は単節RLの縄文を施文している。24・25は深鉢形土器の胴部の破片で、磨消沈線文を垂下させる。25の地文は横方向に施文する条線である。時期は中期末葉である。

第120号土壙 (第392図)

O-4グリッドに位置する。西側には第119号土壙が接して検出されている。平面形は楕円形で、長径0.81m、短径0.70m、深さ0.23mである。

第121号土壙 (第392図)

O-4グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.67m、短径1.19m、深さ0.24mである。



第394图 土壙出土遺物 (11)

第122号土壙（第392図）

O-5グリッドに位置する。平面形は円形で、長径1.14m、短径0.91m、深さ0.17mである。

第123号土壙（第392図）

O-5グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.34m、短径0.72m、深さ0.17mである。

第124号土壙（第392図）

O-5グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.46m、短径1.01m、深さ0.27mである。

第125号土壙（第392図）

N・O-5グリッドに位置する。南側には第55号住居跡の壁が接している。平面形は円形で、長径1.20m、短径1.05m、深さ0.20mである。

第394図26～28は検出された遺物である。26・27は深鉢形土器の胴部の破片である。磨消沈線文を胴部に垂下させるもので、26は地文部分に蔵手文などを施文する。27は磨消部分が幅広となるものである。26の地文は単節RLの縄文である。28は深鉢形土器の底部である。

遺物の時期は中期後葉である。

第126号土壙（第392図）

O-5グリッドに位置する。第55号住居跡と部分的に重複する。平面形は円形で、長径1.05m、短径1.00m、深さ0.19mである。

第127号土壙（第393図）

N-6グリッドに位置する。第66号住居跡と重複している。平面形は円形で、長径1.19m、短径1.14m、深さ0.14mである。

遺物は検出されなかった。

第128号土壙（第393図）

N-6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、残存する長径1.27m、短径0.89m、深さ0.52mである。

第129号土壙（第393図）

N-5グリッドに位置する。第66号住居跡、第130号土壙と重複する。平面形は円形で、長径1.04m、残存する短径0.70m、深さ0.23mである。

第130号土壙（第393図）

N-5グリッドに位置する。第66号住居跡、第129号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径2.18m、短径1.11m、深さ0.29mである。

第132号土壙（第393図）

N-5・6グリッドに位置し、平面形は円形で、長径1.03m、短径0.89m、深さ0.26mである。

第133号土壙（第393図）

N-6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.30m、短径1.08m、深さ0.30mである。

第135号土壙（第393・394図）

M-6グリッドに位置する。第53号住居跡と重複する。平面形は円形に近いもので、長径0.88m、短径0.67m、深さ0.50mである。

第394図29・30は検出された深鉢形土器の胴部の破片である。沈線文を垂下させるもので、地文として29は単節LRの縄文を、30は単節RLの縄文を施文している。時期は中期後葉である。

第136号土壙（第393・394図）

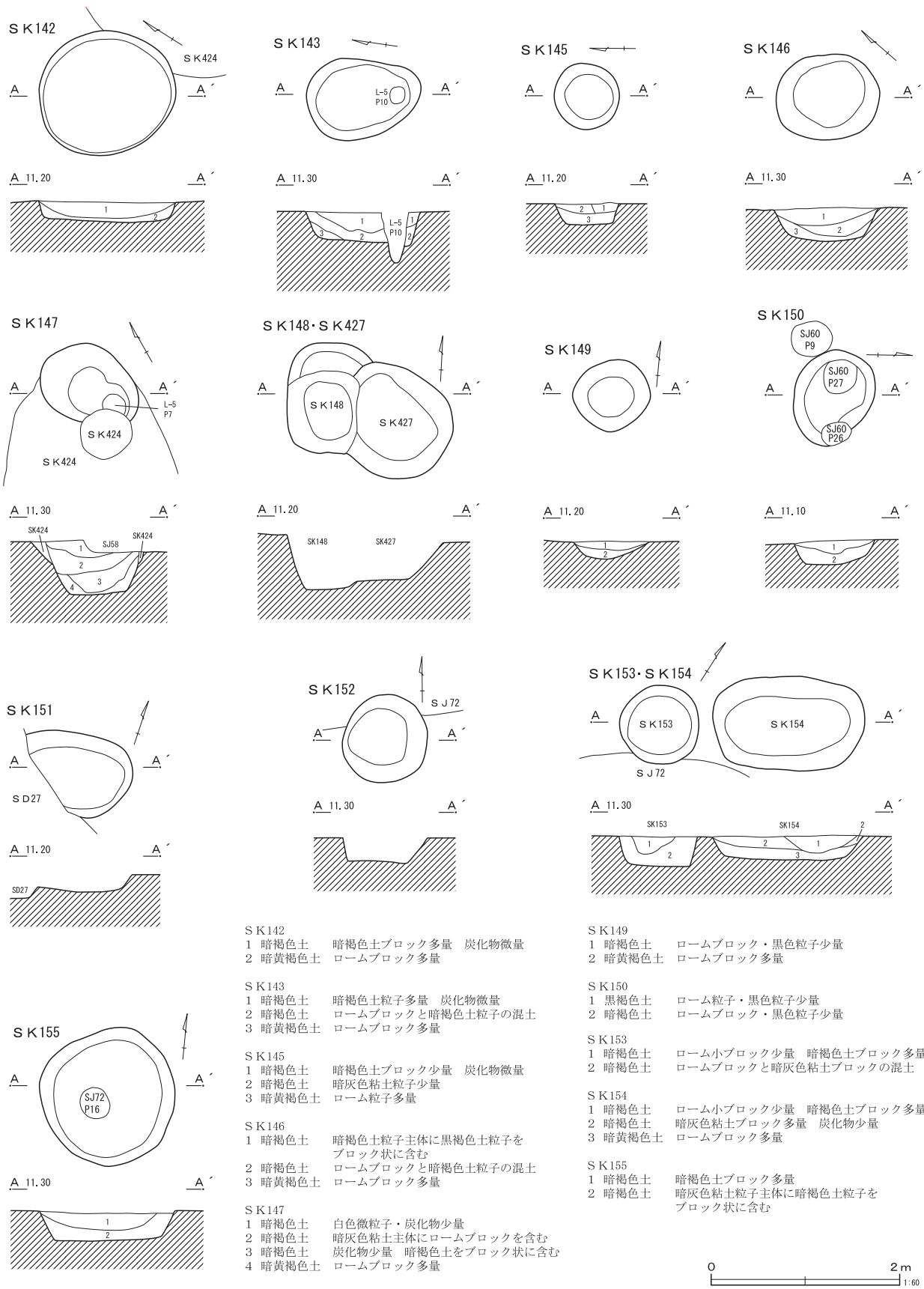
M-4・5グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.76m、短径1.00m、深さ0.33mである。

第394図31・32は検出された深鉢形土器の口縁部と胴部の破片である。31の口縁は無文で、32は胴部に磨消沈線文を垂下させている。地文は細かい節と条の単節RLの縄文を施文している。遺物の時期は中期後葉である。

第137号土壙（第393・394図）

M-5グリッドに位置する。第54号住居跡、第1号掘立柱建物跡と重複する。土層からすると住居跡よりは古く、掘立柱建物跡よりは新しい。平面形は楕円形で、長径1.50m、短径0.96m、深さ0.38mである。

第394図33・34は検出された遺物である。33は深鉢形土器の胴部の破片で、地文として条線を施文している。34は磨石で、周縁は敲打のため面取り状となっている。磨面として使用された表裏面にも敲打がなされている。



SK142
 1 暗褐色土 暗褐色土ブロック多量 炭化物微量
 2 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK143
 1 暗褐色土 暗褐色土粒子多量 炭化物微量
 2 暗褐色土 ロームブロックと暗褐色土粒子の混土
 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK145
 1 暗褐色土 暗褐色土ブロック少量 炭化物微量
 2 暗褐色土 暗灰色粘土粒子少量
 3 暗黄褐色土 ローム粒子多量

SK146
 1 暗褐色土 暗褐色土粒子主体に黒褐色土粒子を
 ブロック状に含む
 2 暗褐色土 ロームブロックと暗褐色土粒子の混土
 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK147
 1 暗褐色土 白色微粒子・炭化物少量
 2 暗褐色土 暗灰色粘土主体にロームブロックを含む
 3 暗褐色土 炭化物少量 暗褐色土をブロック状に含む
 4 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK149
 1 暗褐色土 ロームブロック・黒色粒子少量
 2 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK150
 1 黒褐色土 ローム粒子・黒色粒子少量
 2 暗褐色土 ロームブロック・黒色粒子少量

SK153
 1 暗褐色土 ローム小ブロック少量 暗褐色土ブロック多量
 2 暗褐色土 ロームブロックと暗灰色粘土ブロックの混土

SK154
 1 暗褐色土 ローム小ブロック少量 暗褐色土ブロック多量
 2 暗褐色土 暗灰色粘土ブロック多量 炭化物少量
 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK155
 1 暗褐色土 暗褐色土ブロック多量
 2 暗褐色土 暗灰色粘土粒子主体に暗褐色土粒子を
 ブロック状に含む



第395図 土壌 (10)

時期は中期後葉である。

第138号土壙 (第393・398図)

M-5グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.00m、短径0.81m、深さ0.23mである。

第398図1・2は検出された鉢形や浅鉢形土器である。1は口縁部の破片で、2は胴部の破片である。地文は条線を施文している。時期は中期後葉である。

第139号土壙 (第393図)

M-5グリッドに位置する。第57号住居跡と重複する。平面形は円形で、長径0.89m、短径0.88m、深さ0.25mである。

第140号土壙 (第393図)

L-6グリッドに位置する。平面形は円形で、長径1.24m、短径0.84m、深さ0.27mである。

第141号土壙 (第393図)

L-6グリッドに位置する。平面形は円形で、長径1.08m、短径0.99m、深さ0.29mである。

第142号土壙 (第395図)

L-5グリッドに位置する。第424号土壙と重複する。土層の観察から第142号土壙が新しいとされる。平面形は円形で、長径1.44m、短径1.27m、深さ0.22mである。

第143号土壙 (第395・398図)

L-5グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.18m、短径0.83m、深さ0.31mである。

第398図3・4は検出された深鉢形土器の胴部の破片である。3は沈線文を垂下させ、地文は単節LRの縄文を施文する。4の地文は条線である。時期は中期後葉である。

第145号土壙 (第395図)

N-6グリッドに位置する。第66号住居跡と重複するもので、住居跡の土層からは第145号土壙が新しい。平面形は円形で、長径0.68m、短径0.68m、深さ0.21mである。

第146号土壙 (第395図)

M-5グリッドに位置する。平面形は楕円形で、

長径1.07m、短径0.87m、深さ0.35mである。

第147号土壙 (第395・398図)

L-5グリッドに位置する。第58号住居跡、第424号土壙と重複する。土層から第424号土壙より第147号土壙が新しい。平面形は楕円形で、長径1.80m、短径1.08m、深さ0.55mである。

第398図5・6は検出された土器で、5は深鉢形土器の胴部の破片で、磨消沈線文を垂下する。地文は単節RLの縄文を施文する。6は浅鉢形土器の胴部の破片で、地文は条線である。時期は中期後葉である。

第148号土壙 (第395図)

J・K-6グリッドに位置する。第427号土壙と重複する。平面形は楕円形と推定され、長径1.80m、短径1.10m、深さ0.58mである。

第149号土壙 (第395・398図)

M・N-7グリッドに位置する。第60号住居跡と重複する。平面形は円形で、長径0.80m、短径0.76m、深さ0.19mである。

第398図7・8は出土した深鉢形土器の胴部の破片である。7は磨消沈線文を施文し、地文は条線である。8は地文である単節RLの縄文が施文される。時期は中期後葉である。

第150号土壙 (第395図)

M-7グリッドに位置する。第60号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.01m、短径0.81m、深さ0.27mである。

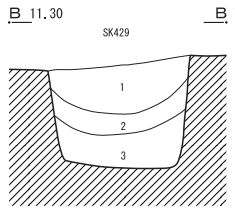
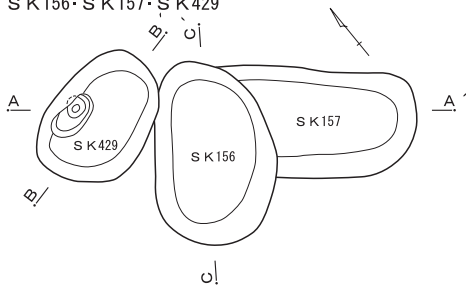
第151号土壙 (第395図)

L-8グリッドに位置する。第27号溝跡に西側を壊されている。平面形は楕円形と推定される。残存する長径0.98m、短径0.86m、深さ0.21mである。

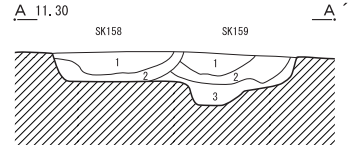
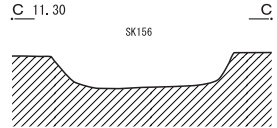
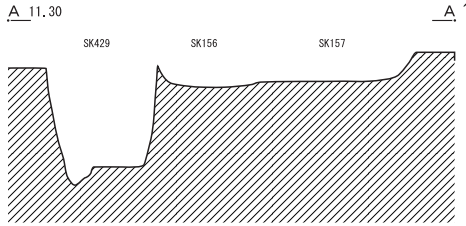
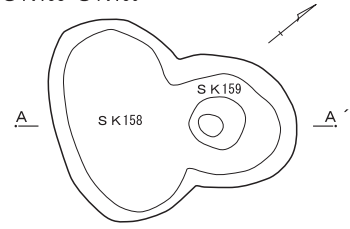
第152号土壙 (第395図)

K・L-7・8グリッドに位置する。第72号住居跡と重複する。平面形は円形で、長径0.90m、短径0.90m、深さ0.27mである。

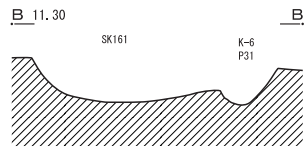
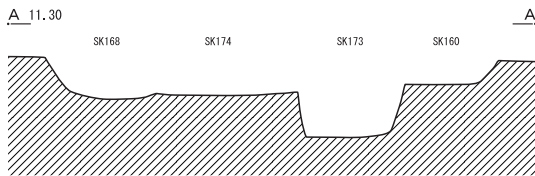
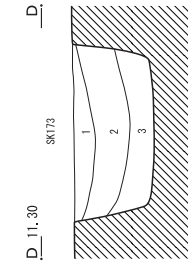
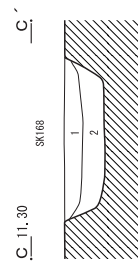
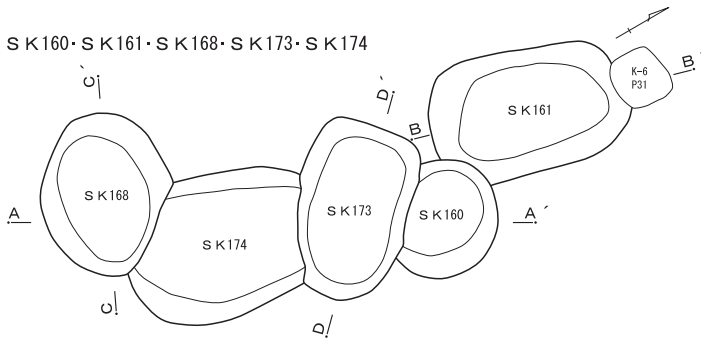
SK156・SK157・SK429



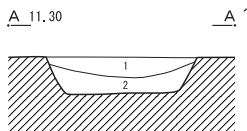
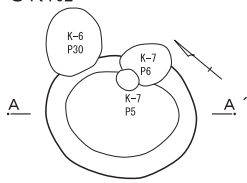
SK158・SK159



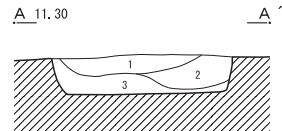
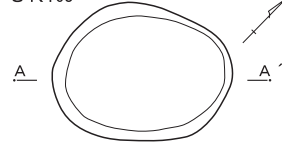
SK160・SK161・SK168・SK173・SK174



SK162



SK163



SK158

- 1 暗褐色土 暗灰色粘土ブロック多量 白色微粒子少量
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK159

- 1 暗褐色土 暗褐色土粒子多量 炭化物微量
- 2 暗褐色土 暗褐色土ブロック多量 白色微粒子少量
- 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK162

- 1 暗褐色土 暗褐色土粒子多量 炭化物少量
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK163

- 1 暗褐色土 白色微粒子・炭化物少量
- 2 暗褐色土 暗灰色粘土ブロック多量
- 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK168

- 1 黒褐色土 ローム粒子・黒色粒子少量
- 2 暗褐色土 ローム粒子多量 黒色粒子少量

SK173

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック多量
- 2 暗褐色土 ロームブロック・黒色粒子少量
- 3 黒褐色土 ロームブロック・黒色粒子少量

SK429

- 1 黒褐色土 黒色粒子少量
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック・黒色粒子少量
- 3 暗褐色土 ロームブロック多量



第396図 土壌 (11)

第153号土壙（第395・398図）

K-7グリッドに位置する。第72号住居跡と重複する。住居跡の土層断面からは土壙が新しい。平面形は円形で、長径0.82m、短径0.82m、深さ0.31mである。

第398図9・10は出土した土器で、9は深鉢、10は浅鉢形土器の胴部の破片である。地文として9は単節LRの縄文を、10は条線を施文する。

時期は中期後葉である。

第154号土壙（第395・398図）

K・L-7グリッドに位置し平面形は楕円形で、長径1.58m、短径0.98m、深さ0.25mである。

第398図11・12は出土した土器で、11は深鉢形土器の胴部、12は浅鉢形土器の底部の破片である。11は磨消沈線文を施文し、地文として単節LRの縄文を施文する。時期は中期後葉である。

第155号土壙（第395・398図）

K-7グリッドに位置する。第72号住居跡と重複し、住居跡の土層断面からは土壙が新しい。平面形は円形で、長径1.44m、短径1.42m、深さ0.71mである。

第398図13～17は検出された深鉢形土器の破片である。13は口縁部の破片で隆帯と沈線で渦巻き文を施文する。地文は燃糸Rである。他の土器よりも古い段階の土器である。14は無文の口縁部は沈線と円形刺突文で区画し、地文は無節Rの縄文を施文する。15～17は胴部の破片で、15・16は磨消沈線文を施文する。地文として15は複節LRの縄文を、16は単節RLに1段の条Lを附加した縄文を、17は単節LRの縄文を施文する。

時期は中期後葉である。

第156号土壙（第396図）

K-7グリッドに位置する。第157・429号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.48m、短径0.98m、深さ0.24mである。

第157号土壙（第396図）

K-7グリッドに位置する。第156号土壙と重

複し、平面形は楕円形で長径1.22m、短径0.88m、深さ0.26mである。遺物は検出されなかった。

第158号土壙（第396・398図）

L-7グリッドに位置する。第159号土壙と重複する。土層断面から第159号土壙より新しい。平面形は楕円形で、長径1.60m、短径1.00m、深さ0.24mである。

第398図18・19は検出された土器である。18は深鉢形土器の胴部の破片で、地文は無節Lである。19は浅鉢形土器の口縁部の破片である。器面は無文である。時期は中期後葉である。

第159号土壙（第396図）

L-7グリッドに位置する。第158号土壙と重複する。土層断面から第158号土壙より古い。平面形は不明で、長径1.01m、短径1.00m、深さ0.40mである。

第160号土壙（第396図）

K-6・7グリッドに位置する。第161・173号土壙と重複する。平面形は円形で、長径0.94m、短径0.84m、深さ0.21mである。

第161号土壙（第396図）

K-6・7グリッドに位置する。第160号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.48m、短径0.98m、深さ0.31mである。

第162号土壙（第396図）

K-7グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.20m、短径0.94m、深さ0.30mである。

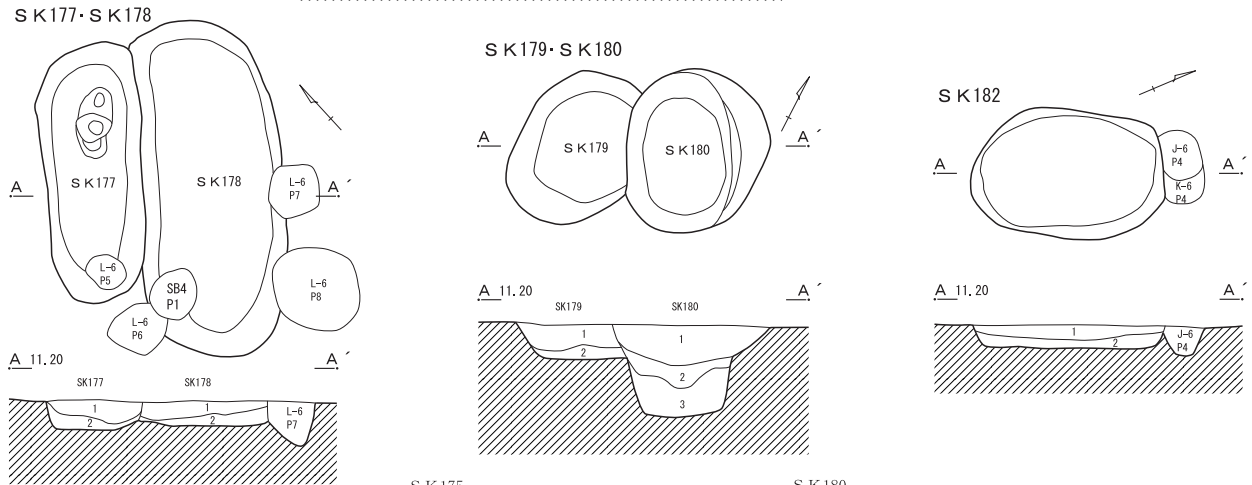
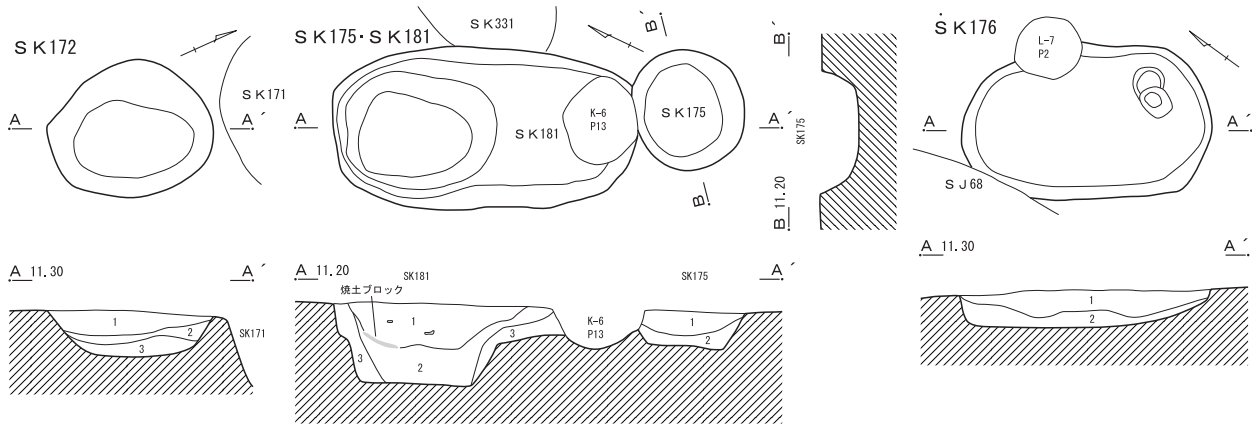
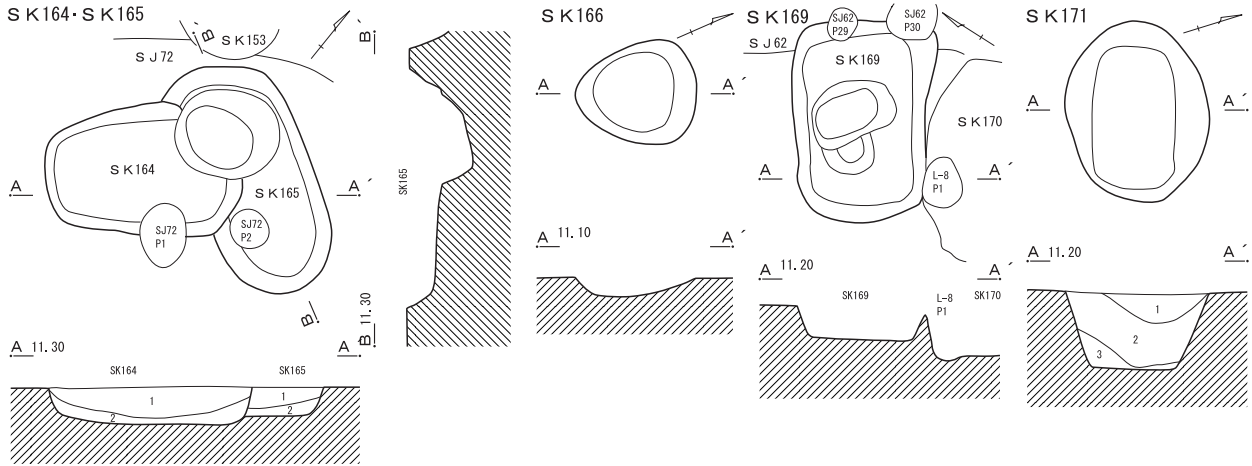
第163号土壙（第396図）

L-7グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.40m、短径1.07m、深さ0.34mである。

第164号土壙（第397・398図）

K-7グリッドに位置する。第72号住居跡、第165号土壙と重複する。住居跡よりは新しい。平面形は楕円形で、長径1.88m、短径1.08m、深さ0.53mである。

第398図20～24は検出された土器で、20～22は深鉢形土器の破片である。20は口縁部に隆帯と沈



SK164
1 暗褐色土 炭化物少量 ロームブロックと暗褐色土ブロックの混土
2 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK165
1 暗褐色土 暗褐色土ブロック多量
2 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK171
1 暗褐色土 ロームブロック・黒色粒子少量
2 黒褐色土 ロームブロック多量 黒色粒子少量
3 暗褐色土 ローム粒子・黒色粒子少量

SK172
1 暗褐色土 ロームブロック・黒色粒子少量
2 暗褐色土 ロームブロック少量
3 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK175
1 黒褐色土 ローム粒子・黒色粒子少量
2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量

SK176
1 黒褐色土 ローム粒子・黒色粒子少量
2 暗褐色土 ロームブロック多量

SK177
1 黒褐色土 ローム粒子・黒色粒子少量
2 暗褐色土 ロームブロック・黒色粒子少量

SK178
1 暗褐色土 ローム粒子・黒色粒子少量
2 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK179
1 暗褐色土 ローム粒子・黒色粒子少量
2 暗褐色土 ロームブロック多量

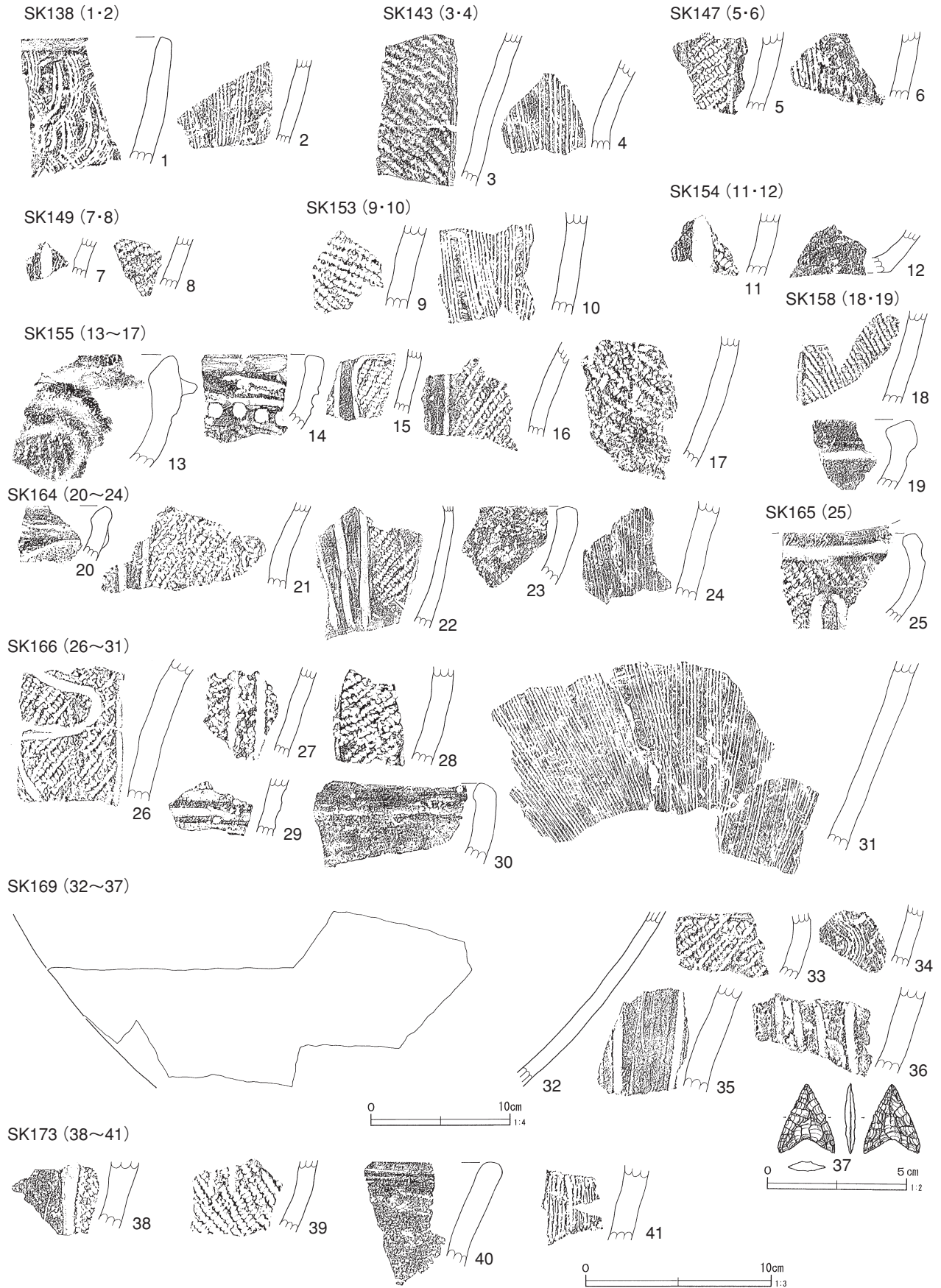
SK180
1 黒褐色土 ローム粒子少量 焼土粒子少量 黒色粒子少量
2 黒褐色土 ロームブロック・焼土粒子少量 黒色粒子少量
3 暗褐色土 ロームブロック少量

SK181
1 暗褐色土 ローム粒子多量 白色微粒子・炭化物少量
2 暗褐色土 暗褐色土粒子多量 焼土粒子少量
3 暗褐色土 暗褐色土主体にロームブロックを含む

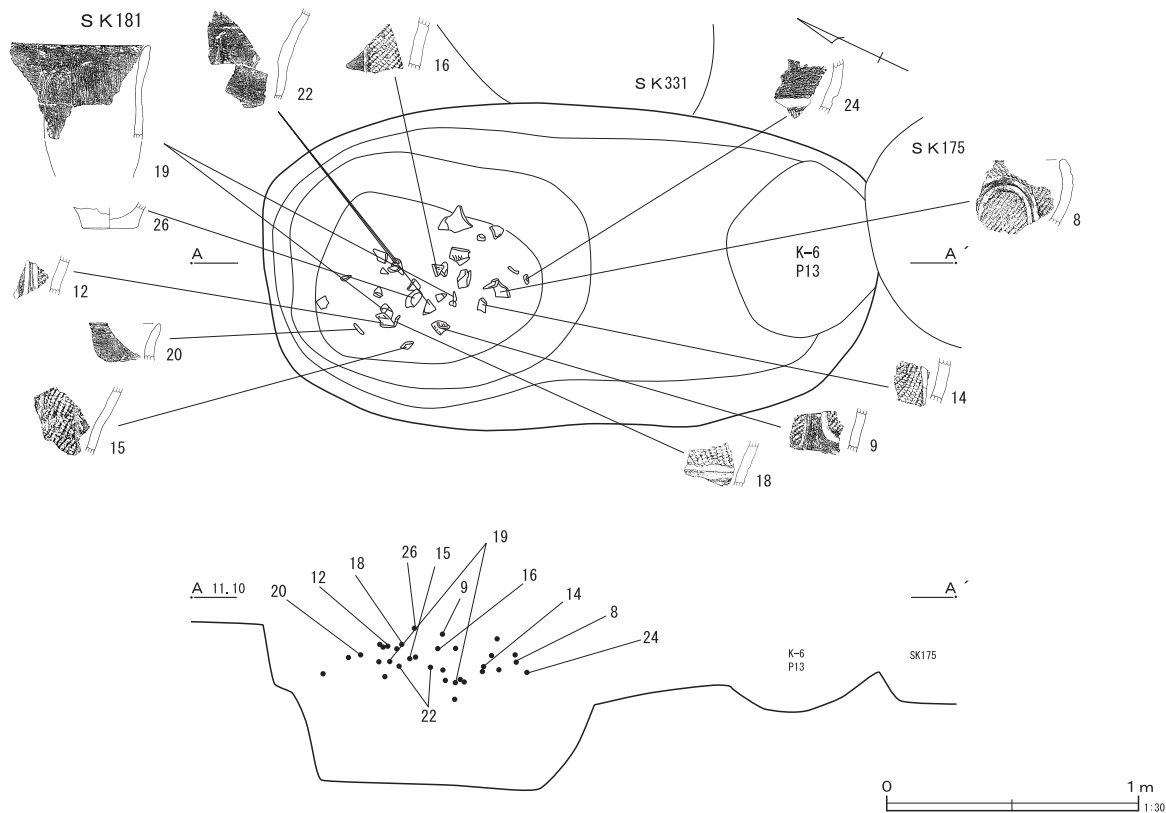
SK182
1 暗褐色土 暗褐色土ブロック・白色微粒子少量
2 暗黄褐色土 ロームブロック多量



第397図 土壌 (12)



第398図 土城出土遺物 (12)



第399図 第181号土坑遺物出土状況

線で文様を施文する。21・22は胴部に磨消沈線文を垂下させる。21の地文は単節RLに1段の条Lを付加させたもので、22は単節RLの縄文を施文する。23・24は浅鉢形土器の破片で、24の地文は条線である。時期は中期後葉である。

第165号土坑 (第397・398図)

K・L-7グリッドに位置する。第72号住居跡、第164号土坑と重複する。住居跡よりは新しい。平面形は楕円形で、長径1.88m、短径0.92m、深さ0.25mである。

第398図25は検出された深鉢形土器の口縁部である。無文の口縁とは沈線で区画し、胴部には磨消沈線文で逆U字状文を施文する。地文は単節RLの縄文を施文する。時期は中期後葉である。

第166号土坑 (第397・398図)

K-7グリッドに位置する。第72号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径0.94m、短径0.80m、深さ0.16mである。

第398図26～31は検出された土器である。26～28は深鉢形土器の胴部の破片で、沈線で文様を施文する。地文は単節RLの縄文を施文する。29は連弧文系の深鉢の頸部の破片である。30・31は浅鉢形土器の破片で、31は地文として条線を施文する。時期は中期後葉である。

第168号土坑 (第396図)

K-7グリッドに位置し、第174号土坑と重複する。平面形は楕円形で、長径1.28m、短径1.04m、深さ0.33mである。遺物は検出されなかった。

第169号土坑 (第397・398図)

L-8グリッドに位置し、第62号住居跡、近世の第170号土坑と重複する。平面形は長方形で、長径1.60m、短径1.03m、深さ0.25mである。

第398図32～37は検出された遺物で、32は無文の浅鉢形土器の胴部の破片である。33・35・36は深鉢形土器の破片で、33は口縁部に条の太細を撚り合わせた単節LRの縄文を横方向に施文する。

35・36は磨消沈線文を垂下させている。34は浅鉢形土器の胴部の破片で、地文は条線である。37は無茎の石鏝である。基部には逆V字状に挟りが入る。時期は中期後葉である。

第171号土壙 (第397図)

K-6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.49m、短径1.13m、深さ0.58mである。

第172号土壙 (第397図)

K-6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.32m、短径1.08m、深さ0.36mである。

第173号土壙 (第396・398図)

K-7グリッドに位置する。第160・174号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.38m、短径0.88m、深さ0.64mである。

第398図38～41は検出された土器で、38・39は深鉢形土器の胴部の破片である。38は磨消沈線文を垂下し、地文は単節RLの縄文を38は縦方向に、39は横方向に施文する。40は壺形土器の口縁部で、41は浅鉢形土器の胴部の破片である。41の地文は条線である。時期は中期後葉である。

第174号土壙 (第396図)

K-7グリッドに位置する。第168・173号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.34m、短径1.04m、深さ0.29mである。

第175号土壙 (第397図)

K-6グリッドに位置する。第181号土壙と重複する。平面形は円形で、長径0.95m、短径0.85m、深さ0.30mである。

第176号土壙 (第397図)

L-7グリッドに位置する。第68号住居跡と壁の一部がわずかに重複している。平面形は楕円形で、長径1.96m、短径1.42m、深さ0.29mである。

第177号土壙 (第397図)

K・L-6グリッドに位置する。第178号土壙と重複し、土層断面から第178号土壙より新しい。平面形は楕円形で、長径2.02m、残存する短径0.74m、深さ0.24mである。

第178号土壙 (第397図)

L-6グリッドに位置する。第177号土壙、第4号掘立柱建物跡と重複する。土層断面で第177号土壙よりも古いものである。平面形は楕円形で、長径2.57m、残存する短径1.12m、深さ0.20mである。

第179号土壙 (第397図)

K-6グリッドに位置する。第180号土壙と重複する。土層断面から第180号土壙より古いものであることがわかる。平面形は円形で、長径1.30m、短径0.97m、深さ0.29mである。

第180号土壙 (第397・401図)

K-6グリッドに位置する。第179号土壙と重複する。土層断面から第180号土壙が新しい。平面形は楕円形で、長径1.38m、短径1.12m、深さ0.70mである。

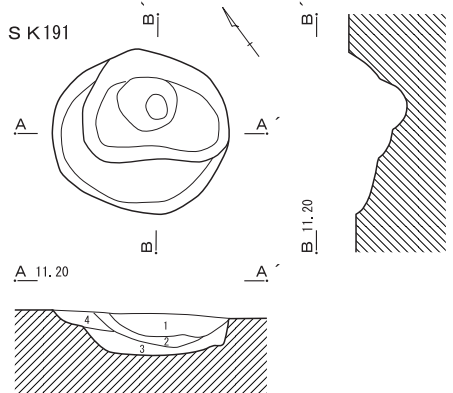
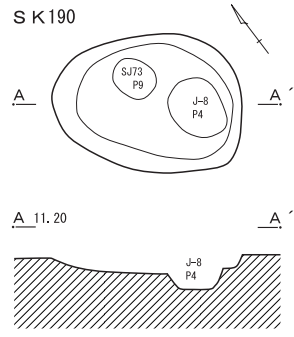
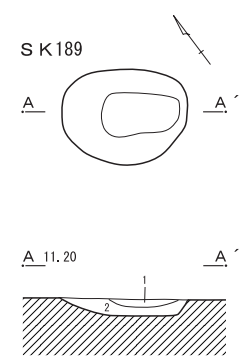
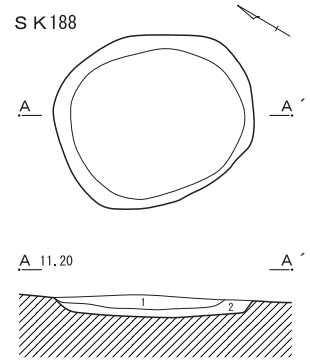
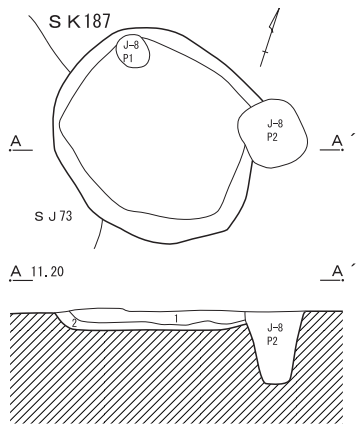
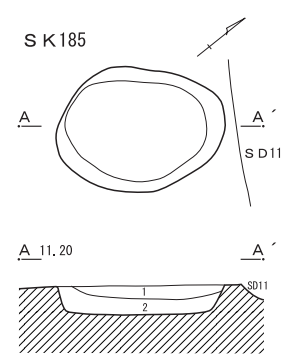
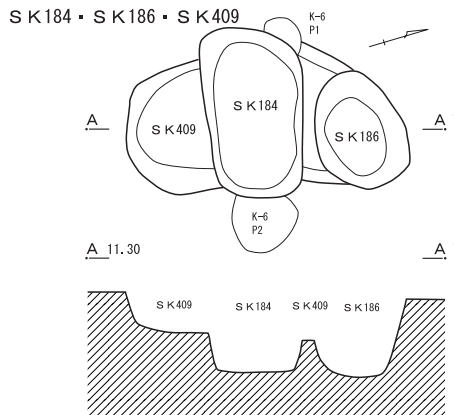
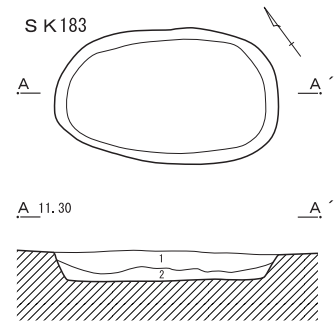
第401図1～6は検出された遺物である。1～4は深鉢形土器の破片である。1・2は口縁部で、1は波状口縁部で、胴部には微隆起状の隆帯と沈線で大形渦巻き文を施文する。地文は単節RLの縄文である。2は沈線で口縁部に文様を施文するもので、単節LRの縄文を横方向に施文する。3・4は胴部の破片で、3は磨消沈線文を垂下させる。3・4の地文は単節RLの縄文である。5は台付鉢の台部分である。6は土製円盤である。深鉢胴部の破片を利用している。時期は中期後葉である。

第181号土壙 (第397・399・401図)

K-6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径2.40m、短径1.25m、深さ0.62mである。

土壙は北側部分で一段低くなっており、上の床面と同じ高さで焼土ブロックが検出され、遺物はその上から集中して検出された(第399図)。

第401図7～26は検出された遺物である。7～17は深鉢形土器の破片で、口縁部の文様帯をもたないものである。7・8は口縁部で、磨消沈線文によって波状文や逆U字状文などを施文するもの



SK183
1 暗褐色土 暗褐色土ブロック・白色微粒子少量
2 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK185
1 暗褐色土 暗褐色土ブロック・白色微粒子少量
2 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK187
1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量
しまり弱い
2 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック・炭化物少量 しまり強い

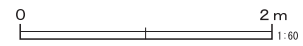
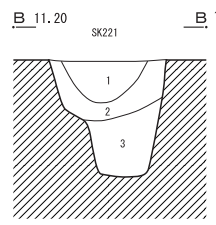
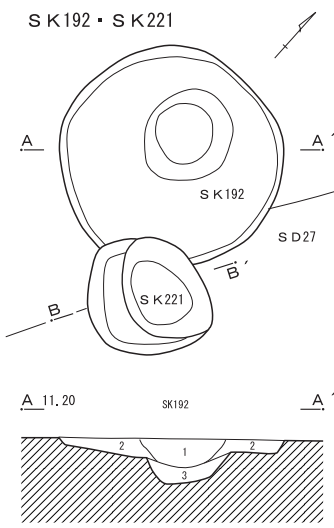
SK188
1 暗褐色土 ローム粒子・炭化物少量 しまり強い
2 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量 しまり強い

SK189
1 暗褐色土 ローム粒子・褐色土ブロック・炭化物少量
2 黄褐色土 ロームブロック少量 しまり強い

SK191
1 暗褐色土 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量 しまり強い
2 暗褐色土 ローム粒子少量 しまり強い
3 暗黄褐色土 ロームブロック少量 しまり強い
4 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック少量

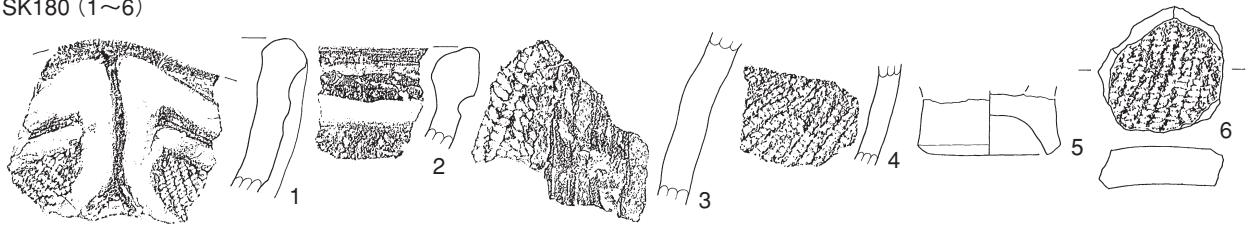
SK192
1 暗褐色土 ローム粒子・黒色粒子少量
2 暗黄褐色土 ロームブロック多量
3 暗褐色土 ロームブロック・黒色粒子少量

SK221
1 暗褐色土 ロームブロック・白色微粒子少量
炭化物微量
2 暗褐色土 暗褐色土主体にロームを
ブロック状に含む
3 暗褐色土 ロームブロック多量

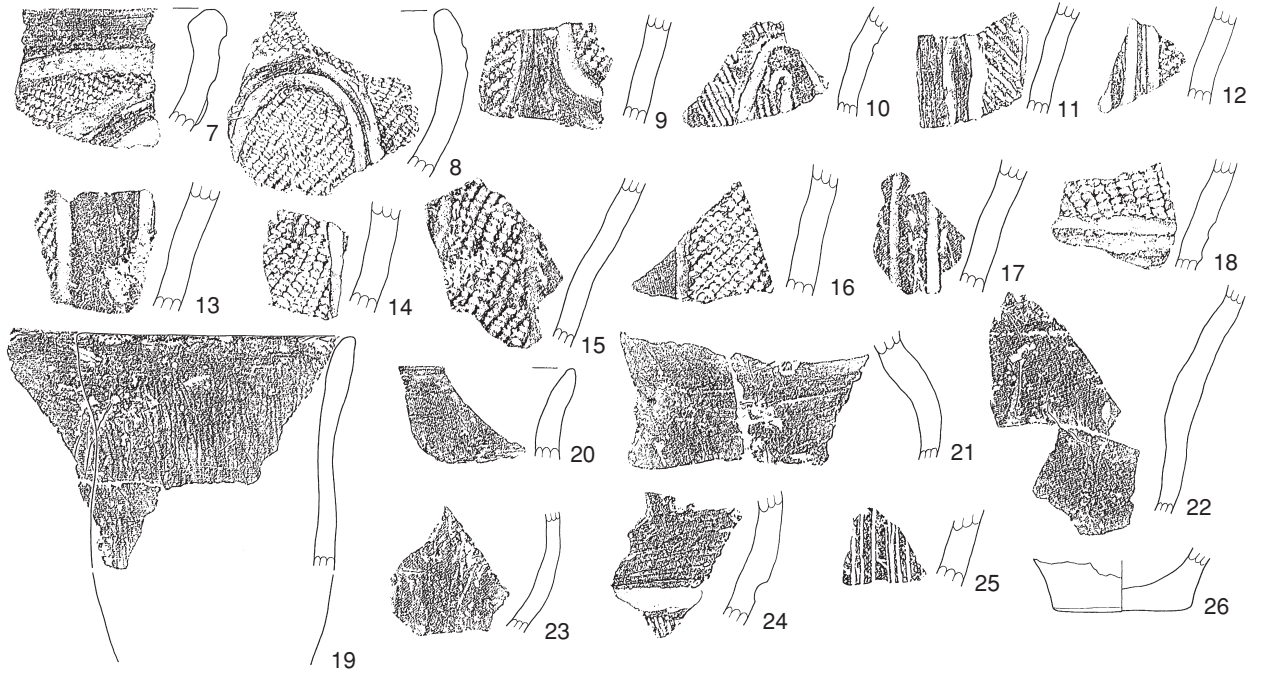


第400図 土壌 (13)

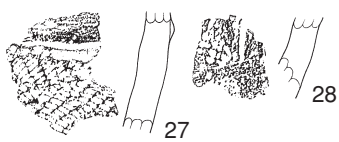
SK180 (1~6)



SK181 (7~26)



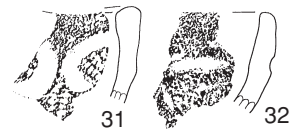
SK183 (27·28)



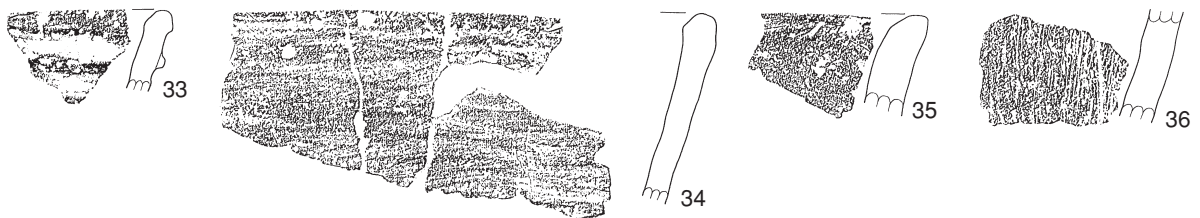
SK185 (29·30)



SK188 (31·32)



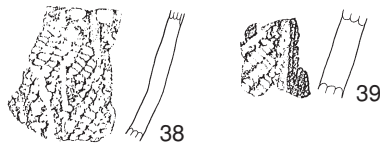
SK187 (33~36)



SK189 (37)



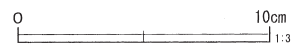
SK190 (38·39)



SK191 (40)



SK199 (41)



第401図 土壙出土遺物 (13)

と考えられる。地文は単節R Lの縄文を施文する。9～17は胴部の破片で、磨消沈線文様を施文する。また蕨手文も施文している。地文として9、12～16は単節R Lの縄文を、10・11は無節Lの縄文を施文する。18は連弧文系の深鉢の頸部の破片である。地文は単節R Lの縄文を施文している。19～23、26はミニチュア土器で、いずれも無文で、器面は丁寧に磨かれ黒光りしている。19・22は深鉢土器で、20・21・23は壺形土器の破片である。26は底部である。24・25は浅鉢形土器の破片で、地文は条線である。

時期は中期後葉である。

第182号土壙 (第397図)

J・K-6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.50m、短径1.00m、深さ0.17mである。

第183号土壙 (第400・401図)

J-6グリッドに位置する。平面形は長方形で、長径1.76m、短径1.07m、深さ0.22mである。

第401図27・28は検出された深鉢形土器で、27は口縁部の破片である。無文の口縁部と胴部は微隆起状の隆帯で区画する。28は胴部の破片で磨消沈線文を垂下する。地文は単節R Lの縄文を施文する。時期は中期後葉である。

第184号土壙 (第400図)

K-6グリッドに位置し、第409号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.40m、短径1.37m、深さ0.61mである。遺物は検出されなかった。

第185号土壙 (第400・401図)

M-7グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.31m、短径0.98m、深さ0.24mである。

第401図29・30は検出された深鉢形土器である。29は蛇行沈線文を施文する胴部の破片で、地文は単節L Rの縄文を施文する。30は底部の破片である。時期は中期後葉である。

第186号土壙 (第400図)

K-6グリッドに位置し、第409号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径0.93m、短径0.72

m、深さ0.63mである。

第187号土壙 (第400・401図)

J-8グリッドに位置する。第73号住居跡と重複する。平面形は円形で、長径1.78m、短径1.77m、深さ0.61mである。

第401図33～36は検出された土器の破片である。33は深鉢形土器の口縁部で、34・35は壺形土器の無文の口縁部である。36は浅鉢形土器の胴部で、地文は条線を施す。時期は中期後葉である。

第188号土壙 (第400・401図)

J-8グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.55m、短径1.33m、深さ0.16mである。

第401図31・32は検出された深鉢形土器の口縁部の破片である。沈線で楕円区画文や渦巻き文を施文している。31の地文は単節R Lの縄文を横方向に施文している。時期は中期後葉である。

第189号土壙 (第400・401図)

J-8グリッドに位置する。第73号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径0.98m、短径0.73m、深さ0.13mである。

第401図37は検出された深鉢形土器の口縁部の破片である。隆帯と沈線によって文様を施文している。時期は中期後葉である。

第190号土壙 (第400・401図)

J-8グリッドに位置する。第73号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.48m、短径1.09m、深さ0.29mである。

第401図38・39は検出された深鉢形土器の胴部の破片である。磨消沈線文を垂下させるもので、地文は単節R Lの縄文を縦方向に施文している。

時期は中期後葉である。

第191号土壙 (第400・401図)

J-8グリッドに位置する。平面形は円形で、長径1.40m、短径1.28m、深さ0.33mである。

第401図40は検出された深鉢形土器の口縁部の破片で、隆帯と沈線で文様を施文し地文は無節Lの縄文を施している。時期は中期後葉である。

第192号土壙 (第400図)

I-6グリッドに位置する。第221号土壙と重複する。平面形は円形で、長径1.76m、短径1.72m、深さ0.36mである。

第193号土壙 (第402図)

I-6グリッドに位置し、第194号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.36m、短径0.83m、深さ0.32mである。

第194号土壙 (第402図)

I-6グリッドに位置する。第193・195号土壙と重複する。平面形は円形で、長径0.90m、短径0.85m、深さ0.17mである。

第195号土壙 (第402図)

I-6グリッドに位置し、第194号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.53m、短径1.01m、深さ0.17mである。

第196号土壙 (第402図)

J-6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.67m、短径1.15m、深さ0.30mである。

第197号土壙 (第402図)

J-6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.60m、短径0.82m、深さ0.21mである。

第198号土壙 (第402図)

J-6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.91m、短径1.38m、深さ0.25mである。

第199号土壙 (第401・402図)

J-6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.34m、短径0.74m、深さ0.35mである。

第401図41は検出された浅鉢形土器の無文の口縁部の破片である。時期は中期後葉である。

第200号土壙 (第402・405図)

J-6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.37m、短径1.21m、深さ0.63mである。

第405図1～6は検出された土器である。1～4は深鉢形土器の破片である。1は口縁部で地文として単節LRの縄文を施文する。2・3は磨消沈線文を垂下させるもので、地文は単節RLの縄

文を縦方向に施文する。4は微隆起状の隆帯で文様を施文するもので、地文は単節RLの縄文を施文する。5・6は浅鉢形土器の胴部の破片で、地文は条線を施文している。時期は中期後葉である。

第201号土壙 (第402図)

J-5グリッドに位置する。第203号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.60m、短径1.10m、深さ0.32mである。

第202号土壙 (第402・405図)

J-5グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.57m、短径1.03m、深さ0.26mである。

第405図7・8は検出された深鉢形土器の胴部の破片である。7は地文である単節RLの縄文を施文する。8は器面に列点状の刺突を加える。時期は中期後葉である。

第203号土壙 (第402図)

J-5グリッドに位置する。第201号土壙と重複する。平面形は楕円形で、残存する長径0.70m、短径0.60m、深さ0.29mである。

第205号土壙 (第402図)

J-6グリッドに位置する。平面形は不整形で、長径1.30m、短径1.09m、深さ0.51mである。

第206号土壙 (第403図)

K・L-6グリッドに位置する。第332号土壙と重複する。土層断面から第206号土壙が新しい。平面形は円形で、長径0.92m、短径0.83m、深さ0.23mである。

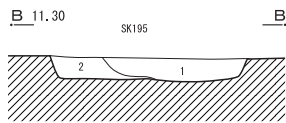
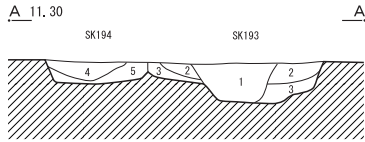
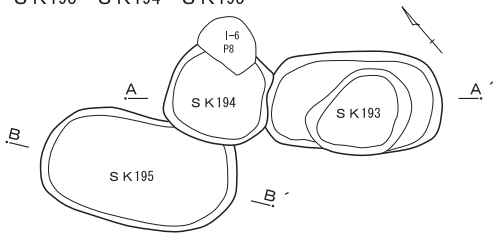
第207号土壙 (第403図)

I-8・9グリッドに位置する。第89号住居跡、第208・209号土壙と重複する。土層断面から住居跡よりは新しく、第209号土壙よりは古い。平面形は楕円形で、長径0.76m、短径0.70m、深さ0.29mである。

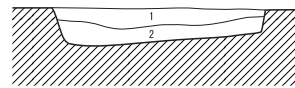
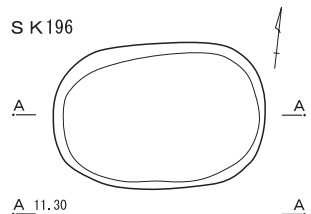
第208号土壙 (第403図)

I-8・9グリッドに位置する。第89号住居跡、第207・209号土壙と重複する。土層断面から住居跡よりは新しく、第209号土壙よりは古い。平面

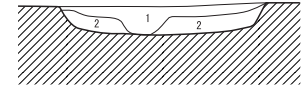
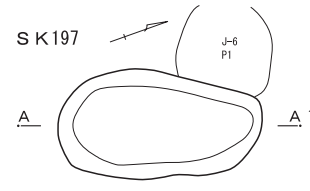
SK193・SK194・SK195



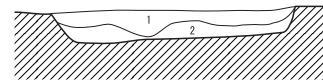
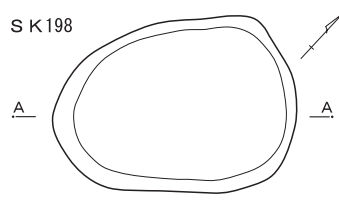
SK196



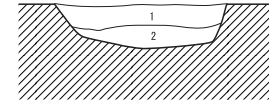
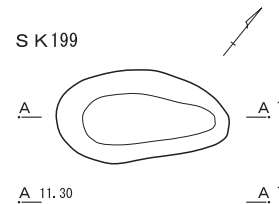
SK197



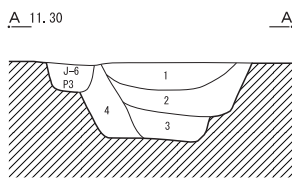
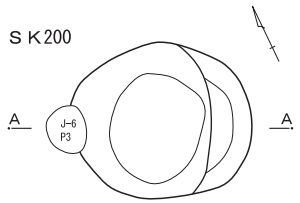
SK198



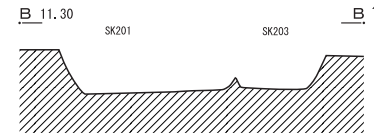
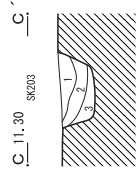
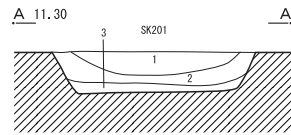
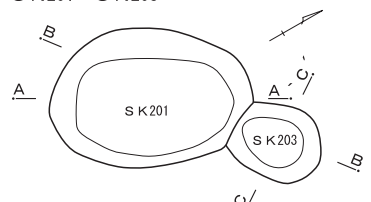
SK199



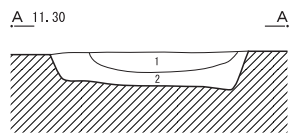
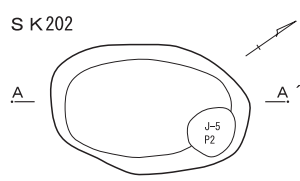
SK200



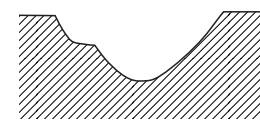
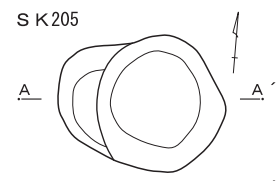
SK201・SK203



SK202



SK205



SK193
1 黒褐色土 ロームブロック・黒色粒子少量
2 暗褐色土 ローム粒子・黒色粒子少量
3 暗褐色土 ロームブロック少量

SK194
4 黒褐色土 ローム粒子・黒色粒子少量
5 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK195
1 暗褐色土 ロームブロック・黒色粒子少量
2 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK196
1 暗褐色土 ロームブロック・褐色ブロック少量 しまり強い
2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量 しまり強い

SK197
1 暗褐色土 ローム粒子少量 しまり強い
2 黄褐色土 ロームブロック多量 しまり強い

SK198
1 暗褐色土 ローム粒子少量 しまり強い
2 黄褐色土 ロームブロック多量 しまり強い

SK199
1 暗褐色土 ローム粒子少量 しまり強い
2 黄褐色土 ロームブロック多量 しまり強い

SK200
1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量 しまり強い
2 暗黄褐色土 ロームブロック多量 しまり強い
3 暗黄褐色土 ロームブロック・褐色土ブロック少量 しまり弱い
4 黄褐色土 ロームブロック多量 しまり強い

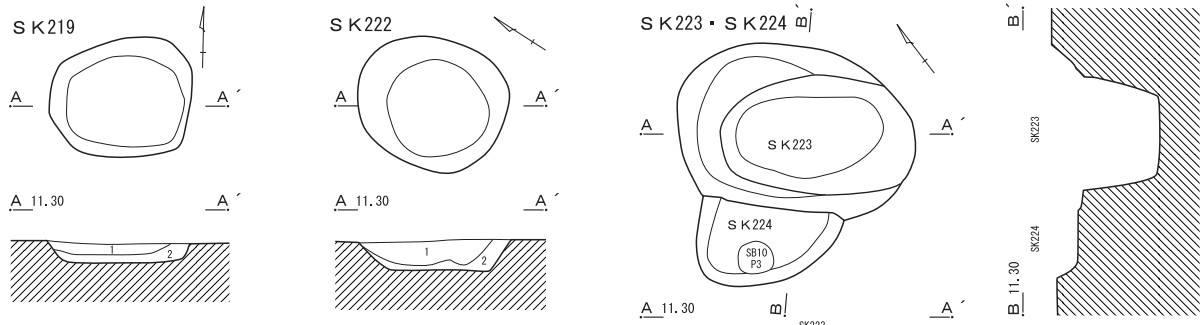
SK201
1 暗褐色土 ローム粒子・炭化物少量 しまり強い
2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量 しまり強い
3 黄褐色土 ロームブロック多量 しまり弱い

SK202
1 暗褐色土 ローム粒子少量 しまり強い
2 暗黄褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック多量 しまり強い

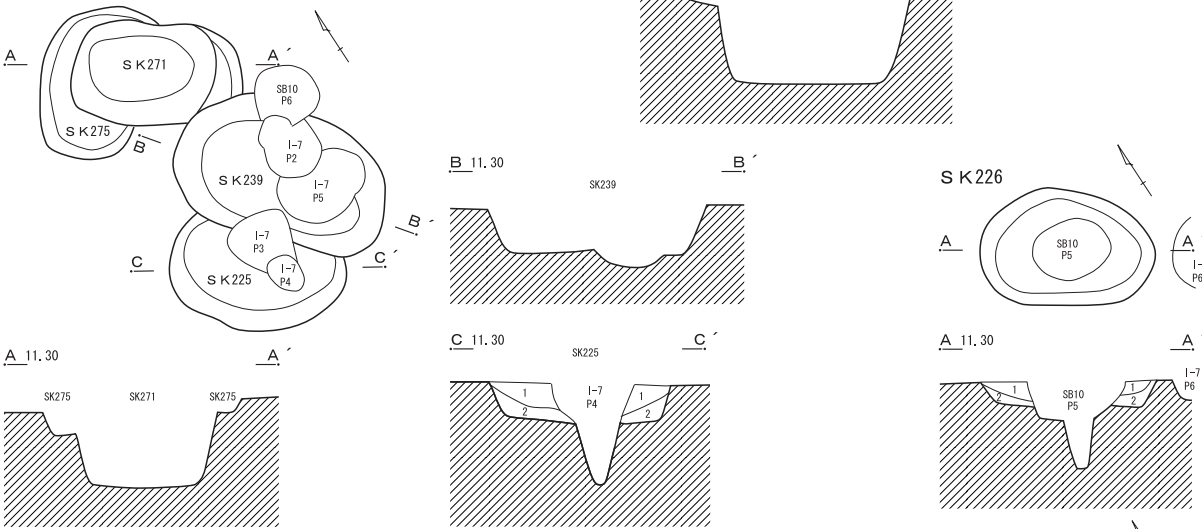
SK203
1 黒褐色土 ローム粒子少量 しまり弱い
2 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量 しまり強い
3 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量 しまり強い



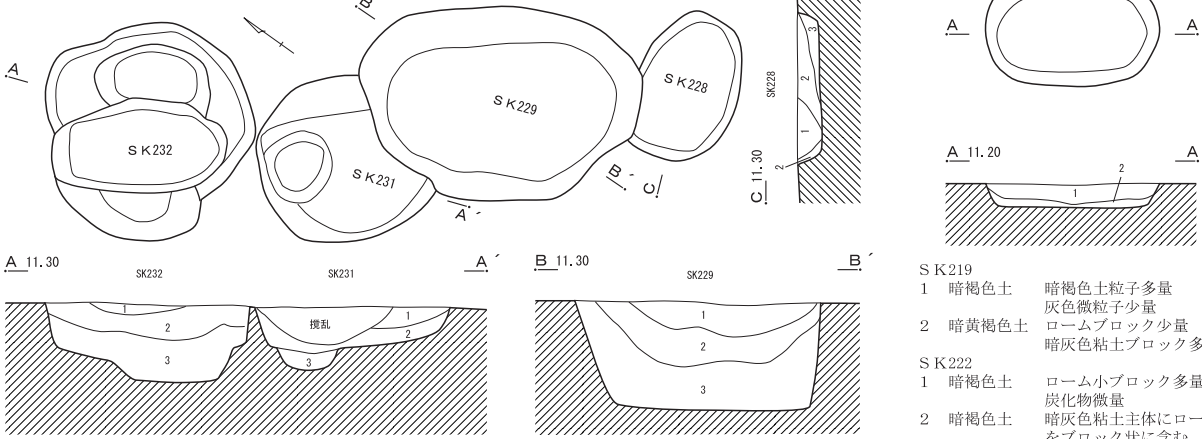
第402図 土壌 (14)



SK225・SK239・SK271・SK275



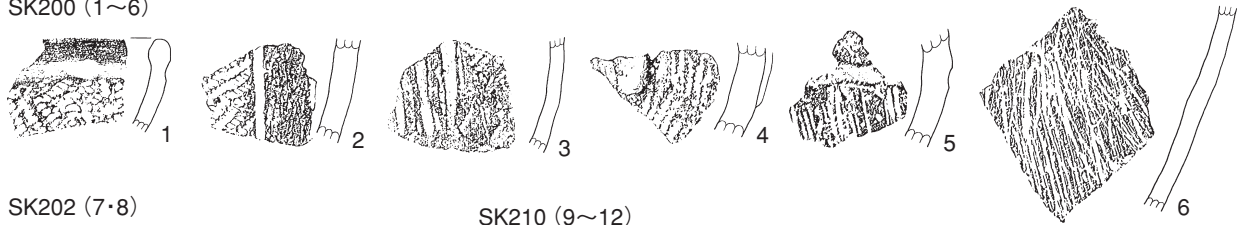
SK228・SK229・SK231・SK232



- | | | |
|---|---|---|
| <p>SK225</p> <p>1 暗褐色土 暗褐色土ブロック多量 白色微粒子・炭化物少量</p> <p>2 暗褐色土 炭化物微量 暗褐色土粒子主体にロームをブロック状に含む</p> | <p>SK228</p> <p>1 暗褐色土 暗褐色土ブロック・炭化物少量</p> <p>2 暗褐色土 白色微粒子少量 炭化物微量</p> <p>3 暗黄褐色土 ロームブロック少量 暗灰色粘土ブロック多量</p> | <p>SK231</p> <p>1 暗褐色土 ローム小ブロック少量 しまり強い</p> <p>2 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック少量 しまり強い</p> <p>3 暗黄褐色土 ロームブロック多量</p> |
| <p>SK226</p> <p>1 暗褐色土 暗褐色土ブロック多量 白色微粒子・炭化物少量</p> <p>2 暗褐色土 炭化物微量 暗褐色土粒子主体にロームをブロック状に含む</p> | <p>SK229</p> <p>1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量 褐色土ブロック多量 しまり強い</p> <p>2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック・褐色土ブロック少量 しまり強い</p> <p>3 暗褐色土 ローム小ブロック少量 ロームブロック多量 しまり強い</p> | <p>SK232</p> <p>1 暗褐色土 ローム粒子少量 しまり弱い</p> <p>2 暗褐色土 ロームブロック・ローム小ブロック少量 しまり弱い</p> <p>3 暗黄褐色土 ロームブロック・ローム小ブロック多量</p> |
| <p>SK227</p> <p>1 暗褐色土 暗褐色土粒子多量 白色微粒子少量</p> <p>2 暗黄褐色土 ロームブロック少量 暗灰色粘土ブロック多量</p> | <p>0 2m 1:60</p> | |

第404図 土壌 (16)

SK200 (1~6)



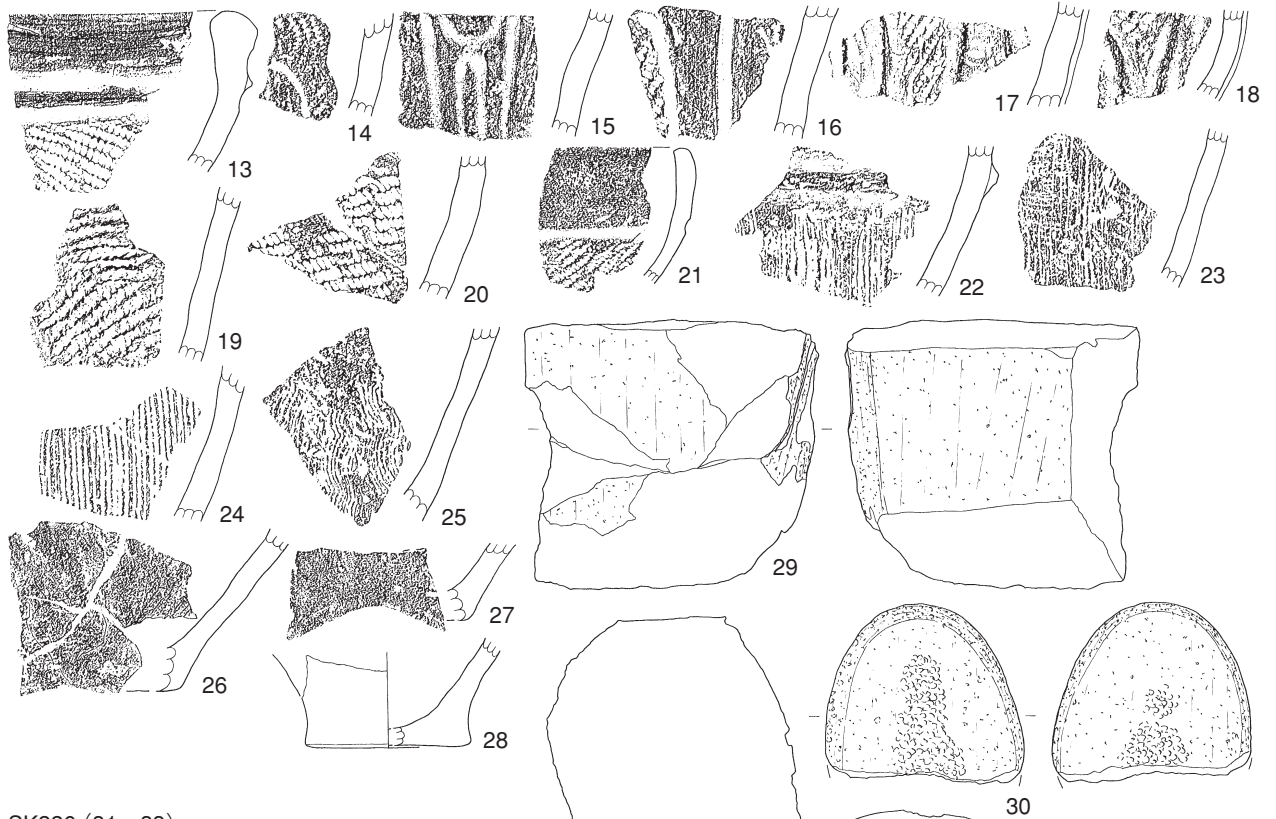
SK202 (7·8)



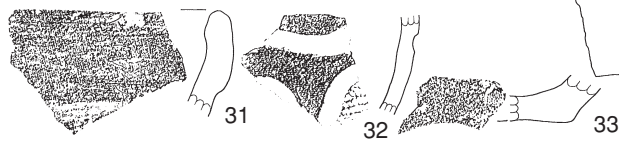
SK210 (9~12)



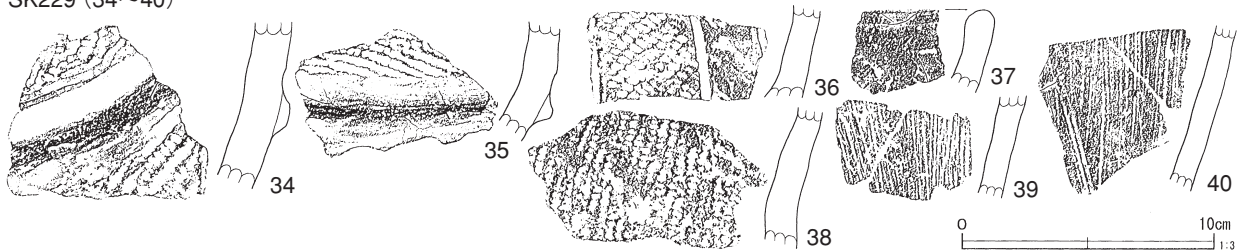
SK223 (13~30)



SK226 (31~33)



SK229 (34~40)



第405図 土壙出土遺物 (14)

形は楕円形で、長径1.00m、短径0.88m、深さ0.34mである。

第209号土壙 (第403図)

I-8グリッドに位置する。第89号住居跡、第207・208号土壙と重複する。重複する中で一番新しい遺構である。平面形は楕円形で、長径0.94m、短径0.78m、深さ0.27mである。

第210号土壙 (第403・405図)

J-7グリッドに位置し第76号住居跡と重複する。土層断面から土壙が新しい。平面形は円形で、長径1.60m、短径1.50m、深さ0.43mである。

第405図9～12は検出された土器である。9は深鉢形土器の胴部の破片で、単節RLの縄文を施文する。10は浅鉢形土器の無文の口縁部の破片である。11は連弧文系の深鉢形土器の頸部の破片で、頸部には沈線を巡らしている。地文は撚糸文Rを施文する。12は頸部で大きく括れる深鉢形土器の頸部の破片で、隆帯を2列頸部に巡らす。時期は中期後葉である。

第211号土壙 (第403図)

J-5グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.15m、短径0.87m、深さ0.40mである。

第212号土壙 (第403図)

J-6グリッドに位置する。平面形は円形で、長径1.06m、短径0.90m、深さ0.17mである。

第213号土壙 (第403図)

J-6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.20m、短径0.84m、深さ0.22mである。

第214号土壙 (第403図)

I-6グリッドに位置する。平面形は円形で、長径0.98m、短径0.95m、深さ0.35mである。

第215号土壙 (第403図)

I-6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.30m、短径0.82m、深さ0.27mである。

第216号土壙 (第403図)

I-6グリッドに位置する。平面形は円形で、長径0.86m、短径0.82m、深さ0.21mである。

第217号土壙 (第403図)

I-5グリッドに位置する。平面形は円形で、長径1.05m、短径1.02m、深さ0.24mである。

第218号土壙 (第403図)

I-6グリッドに位置する。平面形は円形で、長径1.38m、短径1.27m、深さ0.17mである。

第219号土壙 (第404図)

I-6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.12m、短径0.94m、深さ0.15mである。

第221号土壙 (第400図)

I・J-6グリッドに位置する。第192号土壙、近世の第27号溝跡と重複している。平面形は不整形円形で、長径1.08m、短径0.90m、深さ0.90mである。

第222号土壙 (第404図)

H-7グリッドに位置する。平面形は円形で、長径1.20m、短径1.04m、深さ0.25mである。

第223号土壙 (第404・405図)

I-7グリッドに位置し、第10号掘立柱建物跡、第224号土壙と重複する。掘立柱建物跡よりは新しい。平面形は楕円形で、長径1.90m、短径1.28m、深さ0.84mである。

第405図13～30は検出された遺物である。13～20、28は深鉢形土器である。13は口縁部の破片で、14～16は磨消沈線文を施文する胴部、17・18は微隆起状の隆帯と沈線で文様を施文する胴部の破片である。地文は単節RLの縄文を施文している。19は無節Lの縄文を、20は単節LRの縄文を地文として施文している。28は底部の破片である。21～27は浅鉢形土器で、21は口縁部の破片で、胴部に地文である単節RLの縄文を施文している。22～25は胴部の破片で、地文は条線である。26・27は無文の底部である。29は石皿、30は磨石の破片である。

遺物の時期は中期後葉である。

第224号土壙 (第404図)

I-7グリッドに位置し、第10号掘立柱建物跡、

第223号土壙と重複する。掘立柱建物跡より新しい。平面形は楕円形で、長径1.11m、短径0.64m、深さ0.26mである。

第225号土壙（第404図）

I-7グリッドに位置し、第239号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.38m、短径0.77m、深さ0.39mである。

第226号土壙（第404・405図）

H・I-7グリッドに位置する。第10号掘立柱建物跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.38m、短径0.90m、深さ0.19mである。

第405図31～33は検出された土器である。31・33は浅鉢形土器の破片で、31は無文の口縁部で、33は底部である。32は壺形土器の胴部の破片で、器面は丁寧に磨かれている。地文は単節LRの縄文を横方向に施文する。時期は中期後葉である。

第227号土壙（第404図）

I-7グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.36m、短径0.90m、深さ0.20mである。

第228号土壙（第404図）

I-6グリッドに位置し、第229号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.20m、短径0.87m、深さ0.17mである。遺物は検出されなかった。

第229号土壙（第404・405図）

I-6グリッドに位置する。第228・231号土壙と重複する。平面形は不明で、長径1.94m、短径1.55m、深さ0.85mである。

第405図34～40は検出された土器で、34～37は深鉢形土器の破片である。34・35は口縁部で隆帯と沈線によって文様を施文している。地文は単節RLの縄文を施文する。36・37は胴部の破片で、36は磨消沈線文を垂下させている。37は地文のみ施文される。地文は単節RLの縄文を施文する。38～40は浅鉢形土器の破片で、38は口縁部で無文となるものである。39・40は胴部で、地文である条線を縦方向に施文している。時期は中期後葉である。

第230号土壙（第406図）

I-6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径0.97m、短径0.84m、深さ0.29mである。

第231号土壙（第404・408図）

H・I-6グリッドに位置する。第229号土壙と重複する。平面形は不明で、長径1.45m、短径1.31m、深さ0.49mである。

第408図1～3は検出された深鉢形土器の胴部の破片である。1・2には磨消沈線文が垂下している。地文として2は単節RLの縄文で、3は単節LRの縄文である。時期は中期後葉である。

第232号土壙（第404図）

H・I-6グリッドに位置する。平面形は不整形で、長径1.72m、短径1.48m、深さ0.60mである。

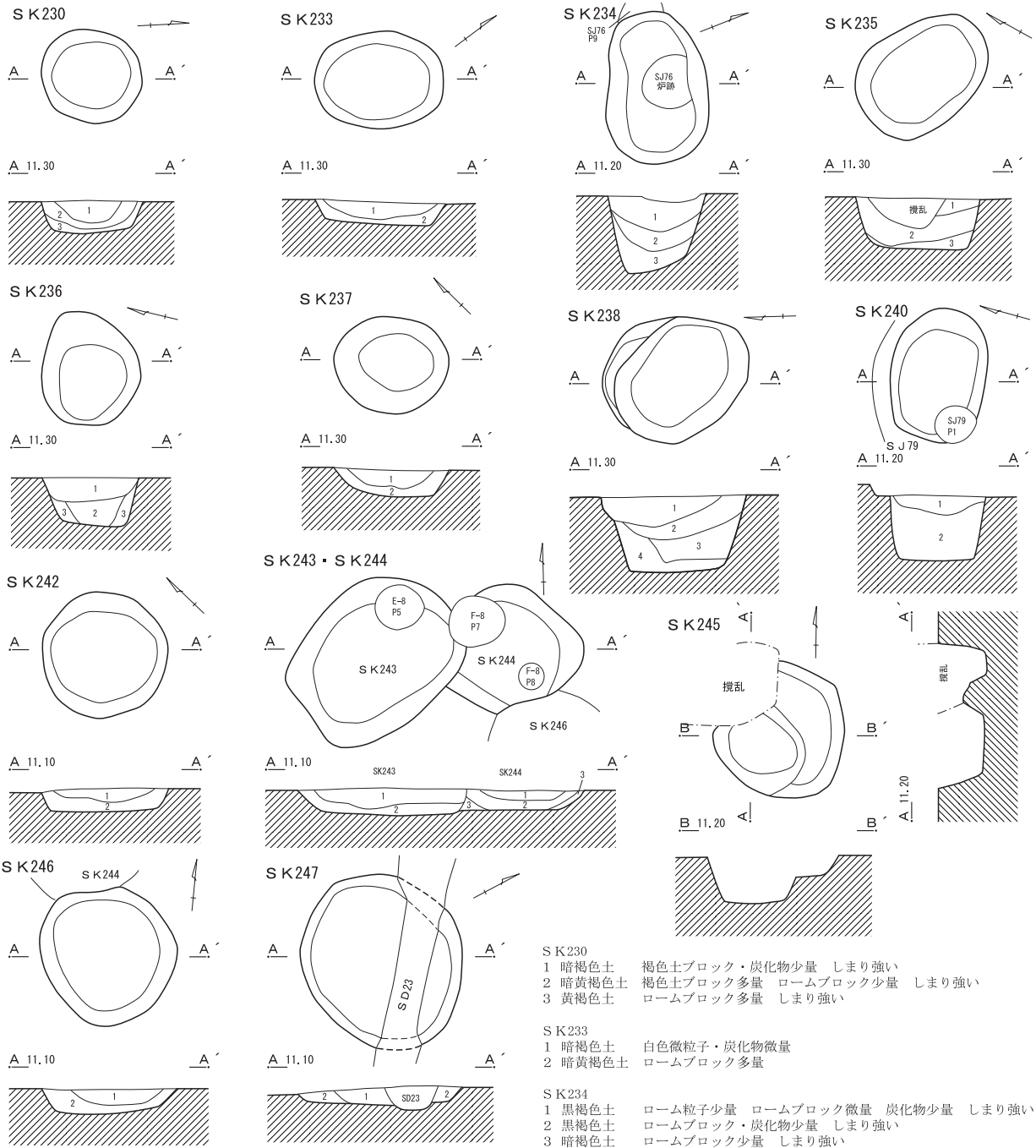
第233号土壙（第406図）

H-6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.20m、短径0.90m、深さ0.22mである。

第234号土壙（第406・408図）

I・J-7グリッドに位置する。第76号住居跡と重複する。土層断面から土壙の方が古い遺構である。平面形は楕円形で、長径1.42m、短径0.96m、深さ0.79mである。

第408図8～25は検出された土器である。8と16は他と比較し古いものである。8は口縁部の破片で、口縁部に文様を施文する隆帯の中央には沈線を施し2本隆帯にしている。地文は無節Lの縄文を施文する。16は胴部で、2本1組の沈線と蛇行沈線文を垂下させている。磨消しは行わない。地文は無節Lの縄文を縦方向に施文する。9～15、17～21、24は胴部に磨消沈線文を垂下させる深鉢形土器の破片である。9～13は口縁部の破片で、隆帯と沈線によって渦巻き文や楕円区画文を施文する。地文として9～11、13は単節RLの縄文を施文している。14・15、17～21、24は胴部の破片である。21は蛇行沈線文も施文している。地文として14・17・20・21は単節RLの縄文を、15・19は複節RLRの縄文を、18は無節Lの縄文を施文



- SK235**
 1 暗褐色土 暗褐色土ブロック多量 炭化物少量
 2 暗褐色土 暗褐色土ブロック少量 炭化物多量
 3 暗褐色土 ロームブロック多量 暗褐色土ブロック少量
- SK236**
 1 暗褐色土 ロームブロック多量 白色微粒子少量
 2 暗褐色土 炭化物微量
 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量
- SK237**
 1 暗褐色土 ローム小ブロック多量 炭化物微量
 2 暗褐色土 暗灰色粘土粒子主体にロームをブロック状に含む
- SK238**
 1 暗褐色土 ロームブロック・ローム小ブロック少量 しまり強い
 2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量 しまり強い
 3 暗褐色土 ロームブロック少量 しまり強い
 4 暗黄褐色土 ロームブロック多量

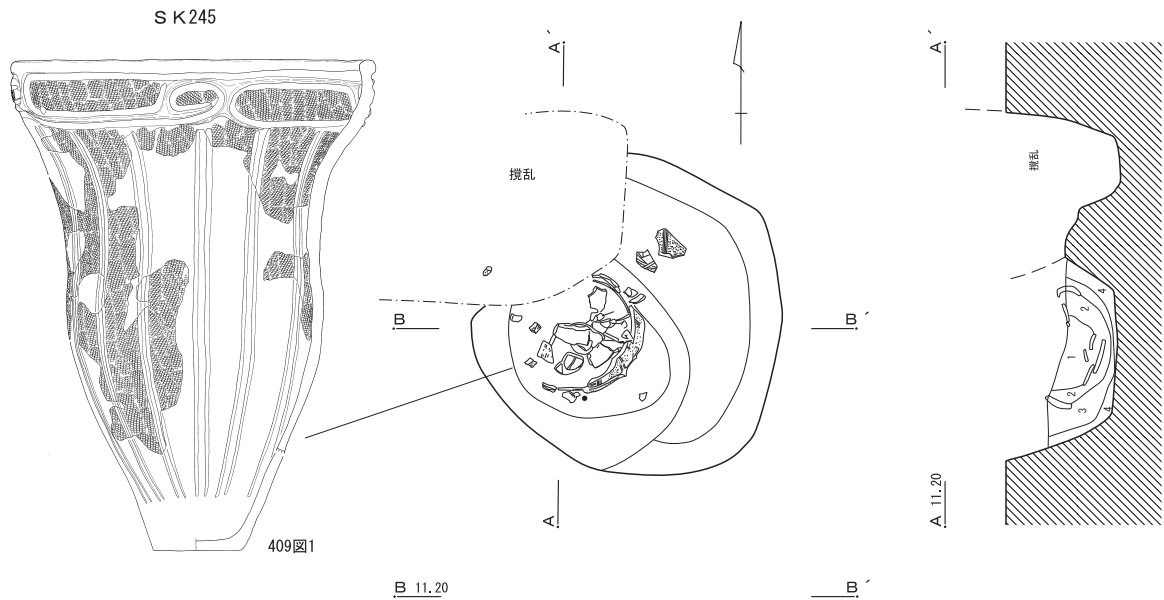
- SK240**
 1 暗褐色土 ロームブロック少量 焼土粒子微量 炭化物少量
 2 黒褐色土 ロームブロック・焼土粒子少量 炭化物微量
- SK242**
 1 暗褐色土 ローム粒子少量 褐色土ブロック多量 炭化物少量 しまり強い
 2 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック・褐色土ブロック少量 しまり強い
- SK243**
 1 暗褐色土 褐色土ブロック多量 炭化物少量 しまり強い
 2 暗黄褐色土 ロームブロック・褐色土ブロック少量
- SK244**
 1 暗褐色土 ローム粒子・褐色土ブロック少量 しまり強い
 2 暗褐色土 ロームブロック・褐色土ブロック少量 しまり強い
 3 暗黄褐色土 ロームブロック少量 しまり強い

- SK246**
 1 暗褐色土 褐色土ブロック少量
 2 暗黄褐色土 ロームブロック・褐色土ブロック多量 しまり強い
- SK247**
 1 暗褐色土 ローム粒子・褐色土ブロック少量 しまり強い
 2 暗黄褐色土 ロームブロック・褐色土ブロック少量 しまり強い

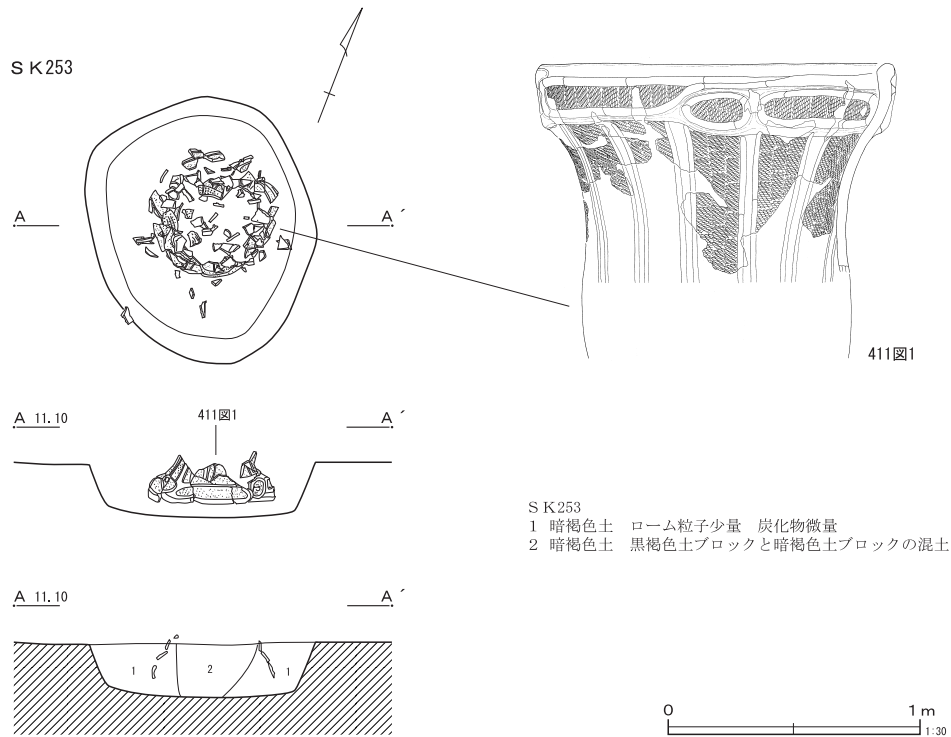
- SK230**
 1 暗褐色土 褐色土ブロック・炭化物少量 しまり強い
 2 暗黄褐色土 褐色土ブロック多量 ロームブロック少量 しまり強い
 3 黄褐色土 ロームブロック多量 しまり強い
- SK233**
 1 暗褐色土 白色微粒子・炭化物微量
 2 暗黄褐色土 ロームブロック多量
- SK234**
 1 黒褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック微量 炭化物少量 しまり強い
 2 黒褐色土 ロームブロック・炭化物少量 しまり強い
 3 暗褐色土 ロームブロック少量 しまり強い



第406図 土壌 (17)



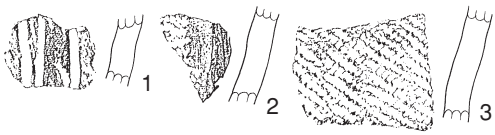
- S K245
- | | |
|---------|--------------------------|
| 1 暗褐色土 | 焼土粒子・焼土ブロック少量
炭化物多量 |
| 2 暗褐色土 | 暗褐色土ブロック少量
焼土粒子・炭化物微量 |
| 3 暗褐色土 | 焼土ブロック多量
炭化物少量 |
| 4 暗黄褐色土 | ローム粒子多量 暗灰色
粘土粒子少量 |



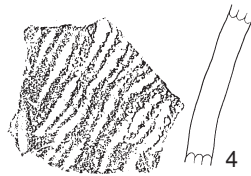
- S K253
- | | |
|--------|----------------------|
| 1 暗褐色土 | ローム粒子少量 炭化物微量 |
| 2 暗褐色土 | 黒褐色土ブロックと暗褐色土ブロックの混土 |

第407図 第245・253号土壌遺物出土状況

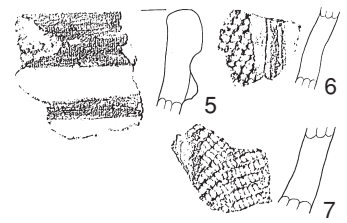
SK231 (1~3)



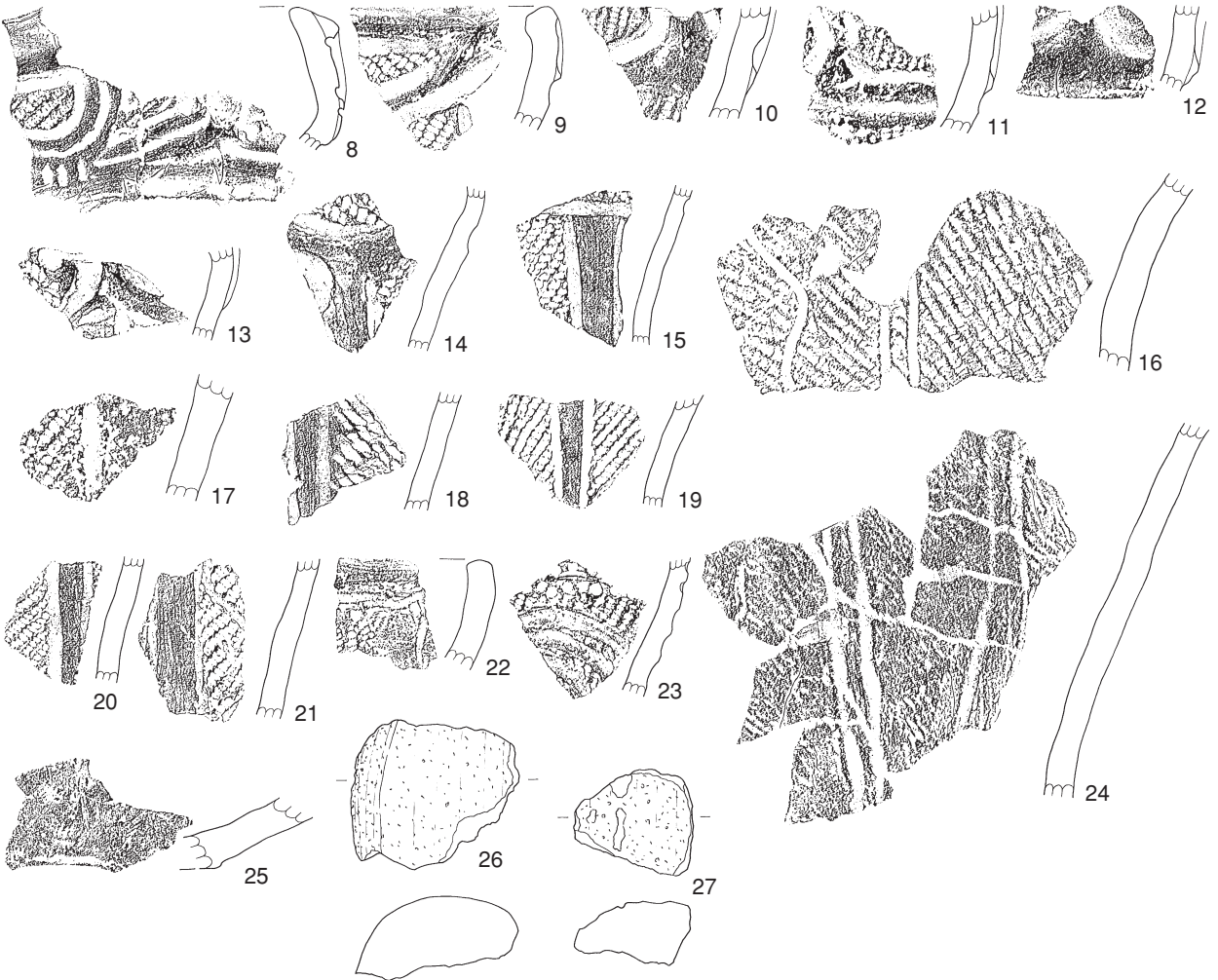
SK235 (4)



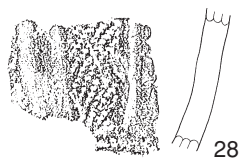
SK239 (5~7)



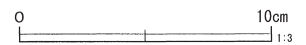
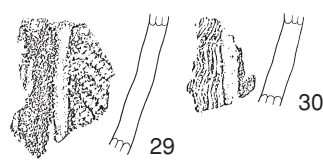
SK234 (8~27)



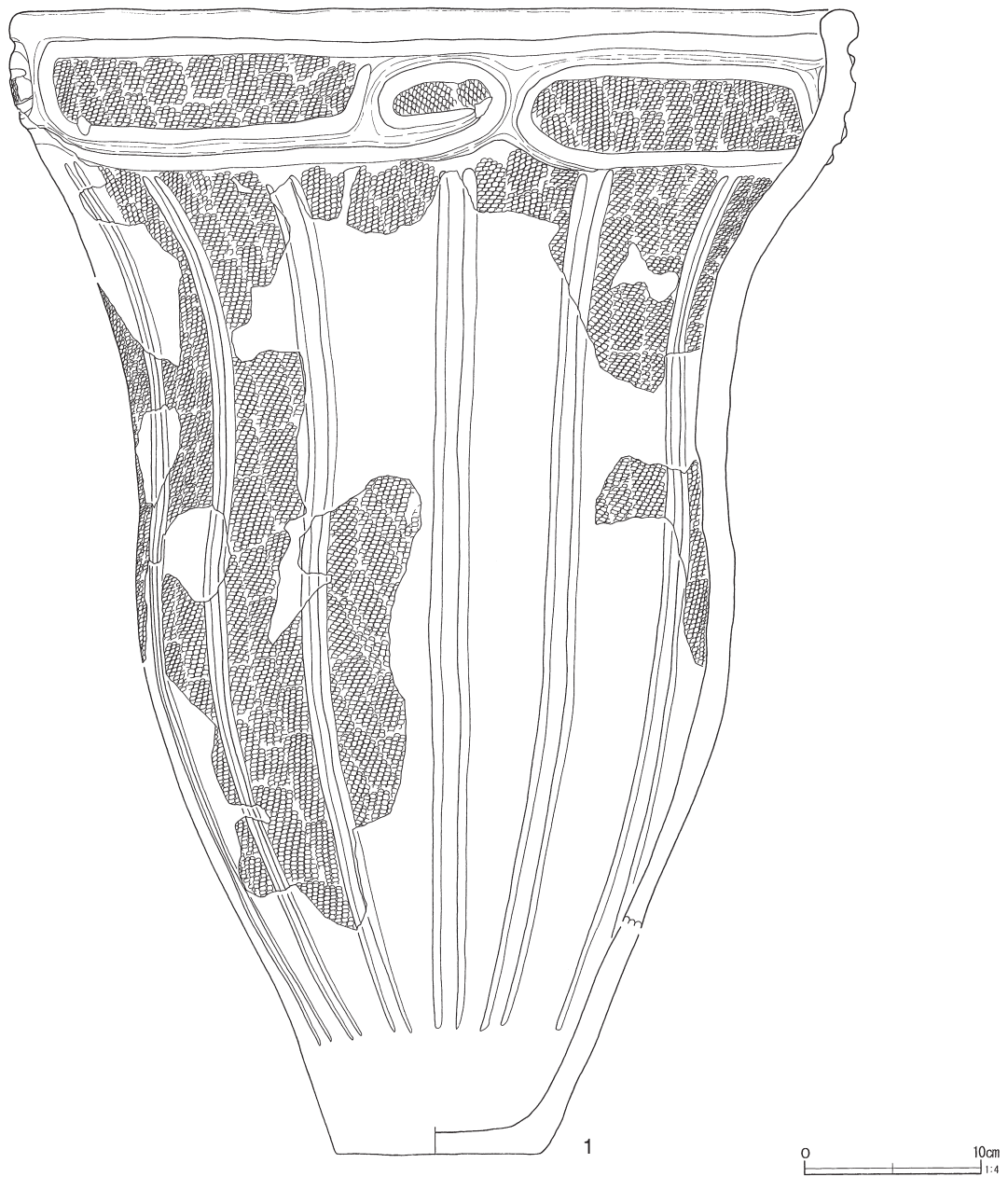
SK240 (28)



SK243 (29-30)



第408図 土壙出土遺物 (15)



第409図 土壙出土遺物 (16)

している。24は器面が風化しており、地文は不明であった。22・23は口縁部に文様を持たないもので、22は胴部に磨消沈線文を垂下させている。23は波状文などを施文すると考えられる。25は浅鉢形土器の底部の破片である。

26・27は検出された石器である。いずれも磨石の小破片である。

遺物の時期は中期後葉である。

第235号土壙 (第406・408図)

J-6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.32m、短径0.95m、深さ0.46mである。

第408図4は検出された深鉢形土器の胴部の破片である。磨消沈線文を垂下させるもので、太細の条を撚り合わせた単節RLの縄文を施文している。時期は中期後葉である。

第236号土壙 (第406図)

I-5・6グリッドに位置し、平面形は円形で、長径1.08m、短径0.93m、深さ0.44mである。

第237号土壙 (第406図)

H-7グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.06m、短径0.90m、深さ0.26mである。

第238号土壙 (第406図)

I-6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.38m、短径1.15m、深さ0.70mである。

第239号土壙 (第404・408図)

I-7グリッドに位置する。第225・275号土壙、第10号掘立柱建物跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.04m、短径0.88m、深さ0.63mである。

第408図5～7は深鉢形土器の破片である。5は口縁部で、隆帯と沈線によって文様を施文している。6・7は磨消沈線文を施文する胴部の破片で、地文は単節RLの縄文を施文する。時期は中期後葉である。

第240号土壙 (第406・408図)

I-7グリッドに位置する。第79号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.23m、短径0.88m、深さ0.63mである。

第408図28は検出された深鉢形土器の胴部の破片で、器面には磨消沈線文を垂下させている。地文は単節RLの縄文を縦方向に施文している。時期は中期後葉である。

第242号土壙 (第406図)

E-8グリッドに位置する。平面形は円形で、長径1.18m、短径1.15m、深さ0.20mである。

第243号土壙 (第406・408図)

E-8グリッドに位置する。第244号土壙と重複する。土層断面からは第243号土壙が新しい。平面形は長方形で、長径1.60m、短径1.30m、深さ0.29mである。

第408図29・30は検出された深鉢形土器の胴部の破片で、磨消沈線文を垂下させる。地文として29は単節LRの縄文を、30は条線を施文する。時期は中期後葉である。

第244号土壙 (第406図)

E・F-8グリッドに位置する。第243・246号土壙と重複する。土層断面から第243号土壙よりは古い。平面形は不明で、長径1.14m、短径1.16m、深さ0.24mである。

第245号土壙 (第406・407・409図)

J・K-5グリッドに位置し、平面形は楕円形で長径1.21m、短径0.80m、深さ0.46mである。

遺構の南半分は一段低く掘り込まれ、深鉢形土器(第409図1)が逆位に埋設されていた。

第409図1は埋設されていた大型のキャリパー系深鉢形土器である。攪乱のため全体の50%程度が失われている。底部は検出されなかった。口縁部には隆帯と沈線で渦巻き文と楕円区画文を施文している。胴部には2本1組の磨消沈線文を垂下させる。地文は単節RLの縄文を施文している。

時期は中期後葉である。

第246号土壙 (第406図)

F-8グリッドに位置する。第244号土壙と重複する。平面形は円形で、長径1.24m、短径0.24m、深さ0.24mである。

第247号土壙 (第406図)

E-8グリッドに位置する。近世以降の第23号溝跡が縦断する。平面形は円形で、長径1.55m、残存する短径1.48m、深さ0.14mである。

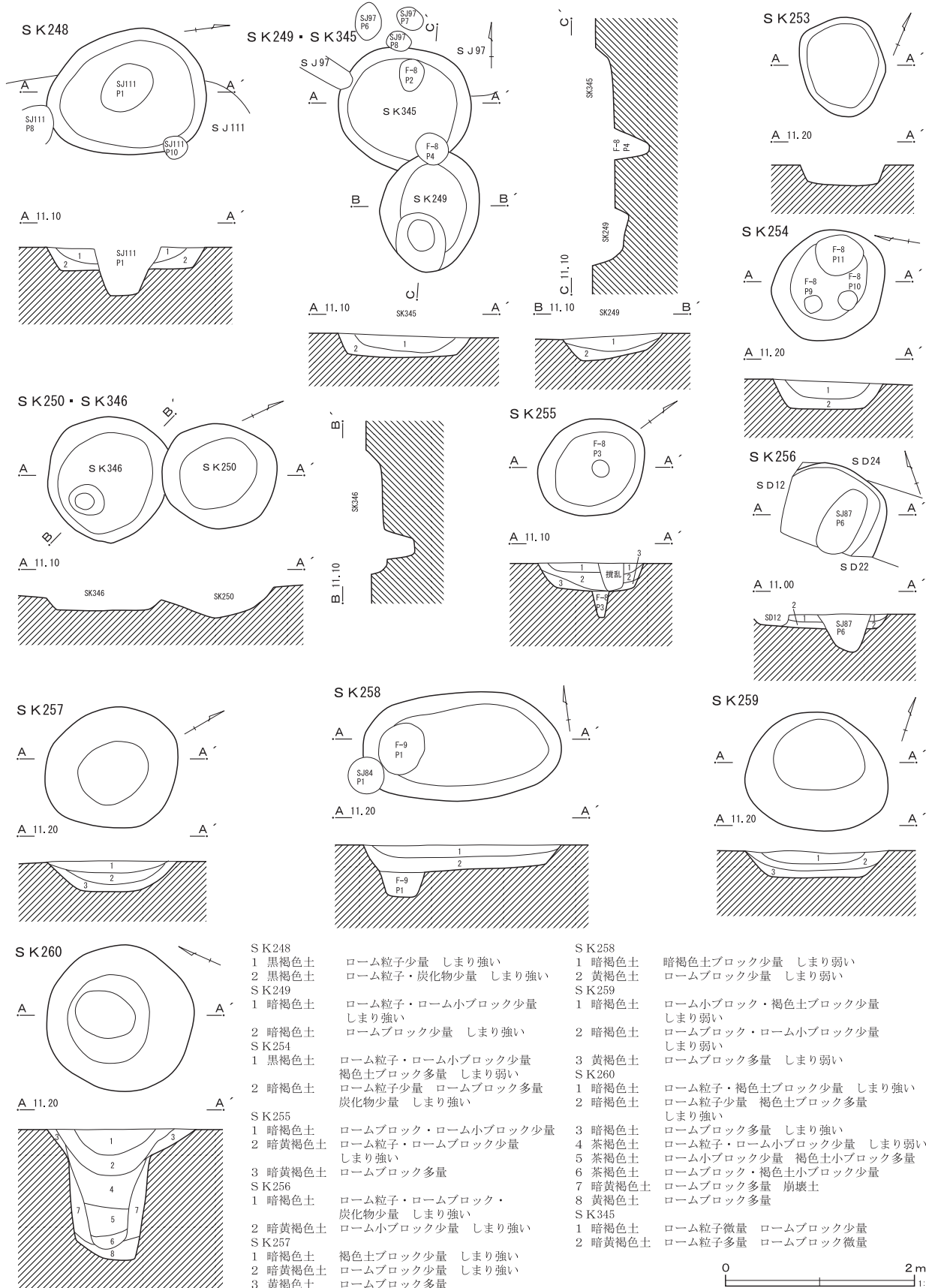
第248号土壙 (第410図)

F-8グリッドに位置する。第111号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.66m、短径1.34m、深さ0.24mである。

第249号土壙 (第410・412図)

F-8グリッドに位置する。第345号土壙と重複している。平面形は楕円形で、長径1.24m、短径1.04m、深さ0.40mである。

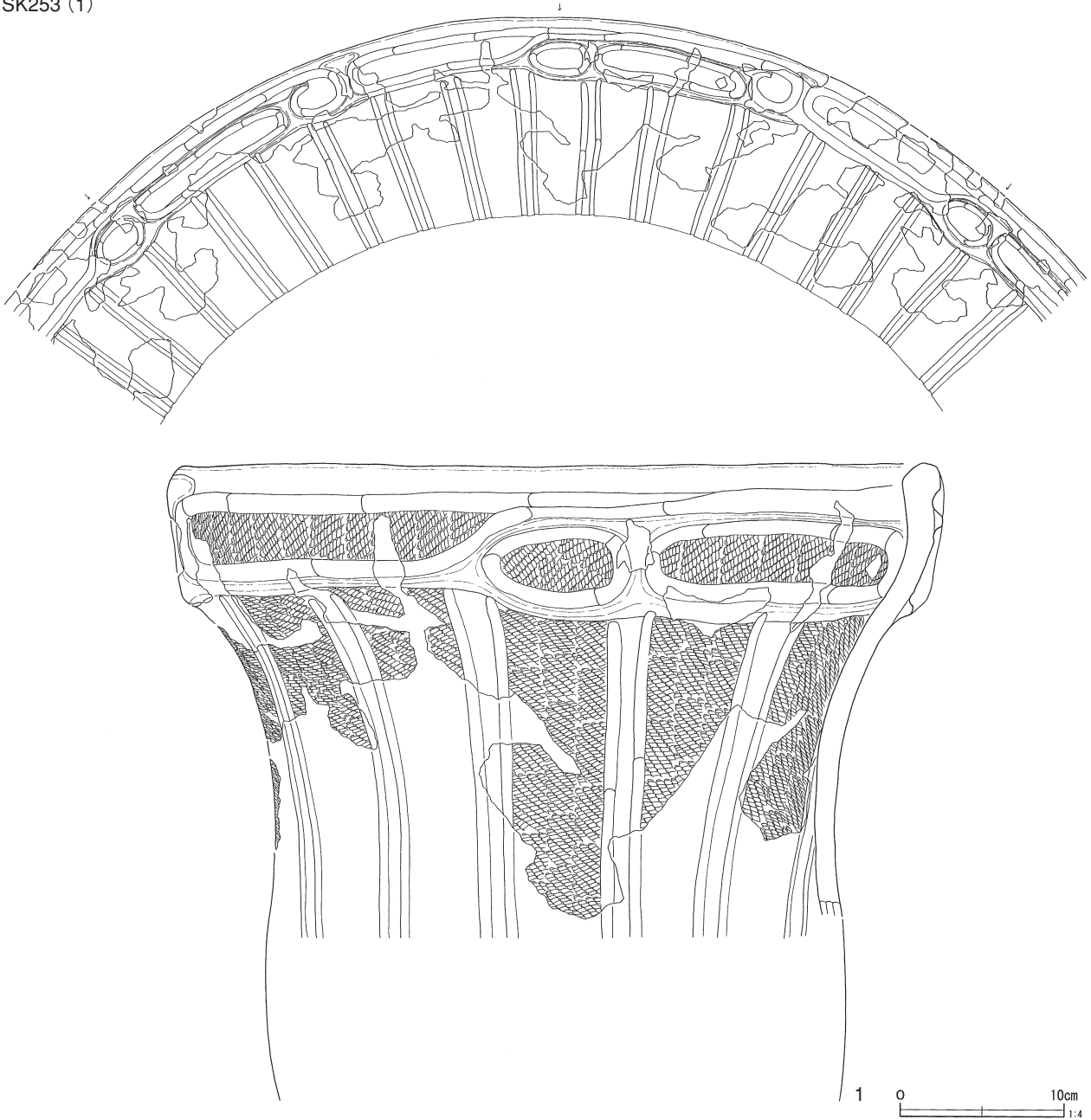
第412図1・2は検出された深鉢形土器の胴部の破片で、磨消沈線文を施文する。地文として1は単節RLの縄文を、2は無節Rの縄文を施文する。時期は中期後葉である。



- | | | | | | |
|-------|---------|--------------------|-------|---------|------------------------|
| SK248 | 1 黒褐色土 | ローム粒子少量 しまり強い | SK258 | 1 暗褐色土 | ローム粒子・褐色土ブロック少量 |
| | 2 黒褐色土 | ローム粒子・炭化物少量 しまり強い | | 2 暗褐色土 | ローム粒子少量 褐色土ブロック多量 |
| | SK249 | | | 3 暗黄褐色土 | ローム粒子少量 褐色土ブロック多量 |
| | 1 暗褐色土 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 | | SK259 | 1 暗褐色土 |
| | 2 暗褐色土 | ロームブロック少量 しまり強い | | 2 暗褐色土 | ローム粒子・褐色土ブロック少量 しまり強い |
| | SK254 | | | 3 黄褐色土 | ローム粒子少量 褐色土ブロック多量 |
| | 1 黒褐色土 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 | | SK260 | 1 暗褐色土 |
| | 2 暗褐色土 | 褐色土ブロック多量 しまり弱い | | 2 暗褐色土 | ローム粒子・褐色土ブロック少量 しまり強い |
| | SK255 | | | 3 暗黄褐色土 | ローム粒子少量 褐色土ブロック多量 |
| | 1 暗褐色土 | ロームブロック・ローム小ブロック少量 | | SK256 | 1 暗褐色土 |
| | 2 暗黄褐色土 | ローム粒子・ロームブロック少量 | | 2 暗黄褐色土 | ローム粒子少量 褐色土ブロック多量 |
| | 3 暗黄褐色土 | ロームブロック少量 しまり強い | | 3 暗黄褐色土 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 しまり弱い |
| | SK256 | | | 4 茶褐色土 | ローム小ブロック少量 褐色土小ブロック多量 |
| | 1 暗褐色土 | ローム粒子・ロームブロック・ | | 5 茶褐色土 | ローム小ブロック少量 褐色土小ブロック多量 |
| | 2 暗黄褐色土 | 炭化物少量 しまり強い | | 6 茶褐色土 | ロームブロック・褐色土小ブロック少量 |
| | SK257 | | | 7 暗黄褐色土 | ロームブロック多量 崩壊土 |
| | 1 暗褐色土 | 褐色土ブロック少量 しまり強い | | 8 黄褐色土 | ロームブロック多量 |
| | 2 暗黄褐色土 | ロームブロック少量 しまり強い | | SK345 | 1 暗褐色土 |
| | 3 黄褐色土 | ロームブロック多量 | | 2 暗黄褐色土 | ローム粒子微量 ロームブロック少量 |
| | | | | | ローム粒子多量 ロームブロック微量 |



第410図 土壌 (18)



第411図 土壙出土遺物 (17)

第250号土壙 (第410図)

F-8グリッドに位置する。第346号土壙と重複する。平面形は円形で、長径1.20m、短径1.10m、深さ0.32mである。

第253号土壙 (第407・410・411図)

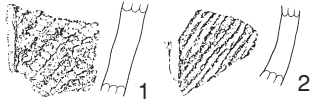
J・K-5グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.03m、短径0.86m、深さ0.20mである。

遺構の中央からは深鉢形土器 (第411図1) が

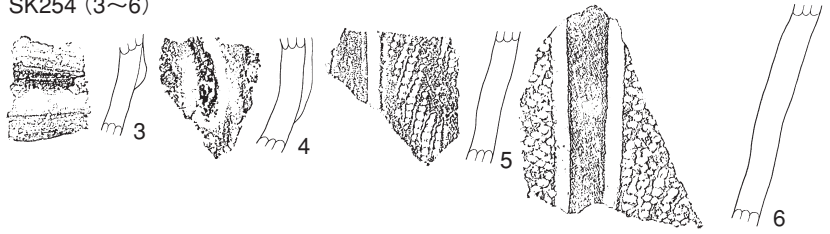
逆位に埋設されて検出された。胴部下半部は欠損しているが、掘り込み面が削られたため失われたのか、故意に使用されなかったのかは不明である。

第411図1は埋設されていたキャリパー系深鉢形土器である。口縁部には隆帯と沈線で、渦巻き文を2単位、渦巻き文と同じ大きさの小楕円区画文を2単位施文する。横長の楕円区画文は4単位施文される。胴部には間が狭い磨消沈線文を、13

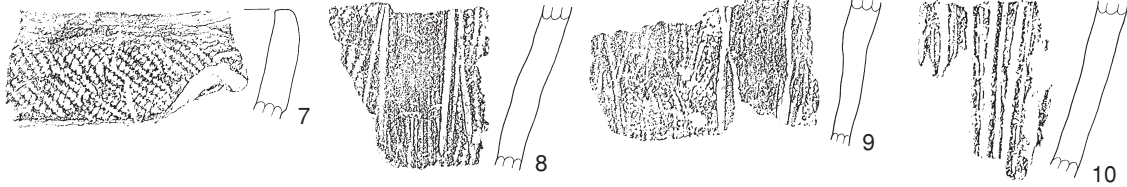
SK249 (1·2)



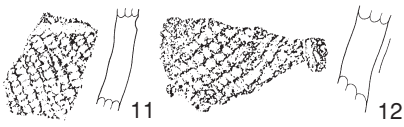
SK254 (3~6)



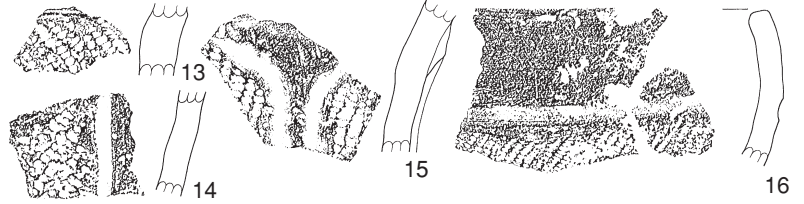
SK256 (7~10)



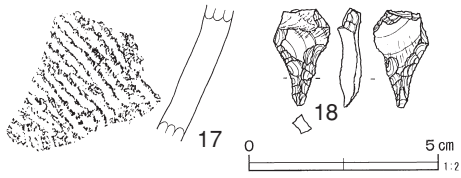
SK257 (11·12)



SK258 (13~16)



SK259 (17·18)



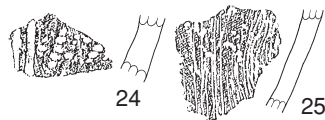
SK260 (19~22)



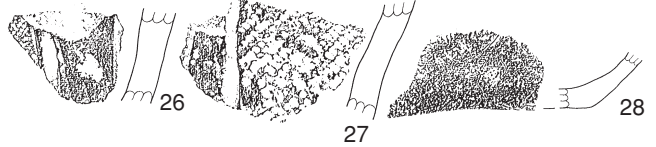
SK262 (23)



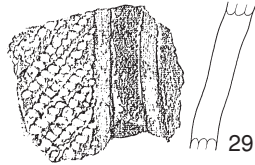
SK263 (24·25)



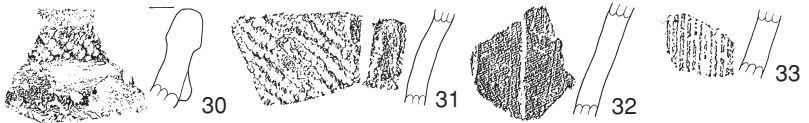
SK265 (26~28)



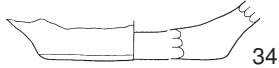
SK267 (29)



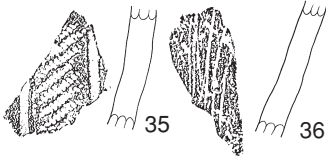
SK268 (30~33)



SK272 (34)



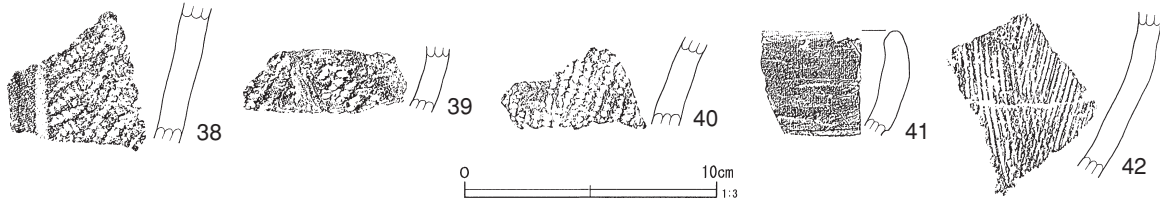
SK273 (35·36)



SK275 (37)



SK274 (38~42)



第412図 土城出土遺物 (18)

単位施文される。地文として単節LRの縄文を、口縁部は横方向に、胴部には縦方向に施文する。

時期は中期中葉である。

第254号土壙 (第410・412図)

F-8グリッドに位置する。第93・97号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.22m、短径1.12m、深さ0.32mである。

第412図3～6は検出された深鉢形土器の破片である。3・4は口縁部で隆帯と沈線で渦巻き文などを施文すると考えられる。5・6は胴部に磨消沈線文を垂下させる。地文は単節RLの縄文を施文する。時期は中期後葉である。

第255号土壙 (第410図)

F-8グリッドに位置する。第97号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.16m、短径1.00m、深さ0.31mである。

第256号土壙 (第410・412図)

F-9グリッドに位置する。近世以降の第12・22・24号溝跡や、第87号住居跡と重複する。住居跡よりは新しい。平面形は不明で、長径1.06m、短径0.86m、深さ0.17mである。

第412図7～10は検出された深鉢形土器の破片である。7は文様を持たない口縁部で胴部には波状文などが施文される。地文は単節RLの縄文を施文する。8・9は同一個体である。磨消沈線文が垂下するが粗雑である。地文は単節RLの縄文である。10は地文として沈線状に条線を施文するもので、曾利系の土器である。時期は中期末葉である。

第257号土壙 (第410・412図)

F-9グリッドに位置する。平面形は円形で、長径1.46m、短径1.28m、深さ0.31mである。

第412図11・12は検出された深鉢形土器の破片である。11は口縁部で地文は単節RLの縄文を施文する。12は隆帯を貼付するもので、時期は中期後葉である。

第258号土壙 (第410・412図)

F・G-9グリッドに位置する。第84号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径2.10m、短径1.16m、深さ0.24mである。

第412図13～16は検出された土器である。13～15は深鉢形土器の胴部の破片である。15は隆帯によって大形渦巻き文などを施文する。地文はいずれも単節RLの条文である。16は浅鉢形の土器である。地文は単節RLの縄文を横方向に施文している。時期は中期後葉である。

第259号土壙 (第410・412図)

F・G-9グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.48m、短径1.26m、深さ0.30mである。

第412図17・18は検出された遺物である。17は深鉢形土器の破片で、地文のみが残存し無節Lを縦方向に施文する。18は石錐でつまみ部を持つものである。時期は中期後葉である。

第260号土壙 (第410・412図)

G-9グリッドに位置する。平面形は円形で、長径1.55m、短径1.54m、深さ1.38mである。

第412図19～22は検出された遺物である。19は深鉢の口縁部の破片で、単節RLが横方向に施文される。20は台付の深鉢形土器で、底部である。21は石鏃で、左半部と先端部を欠損する。22は石核である。時期は中期後葉である。

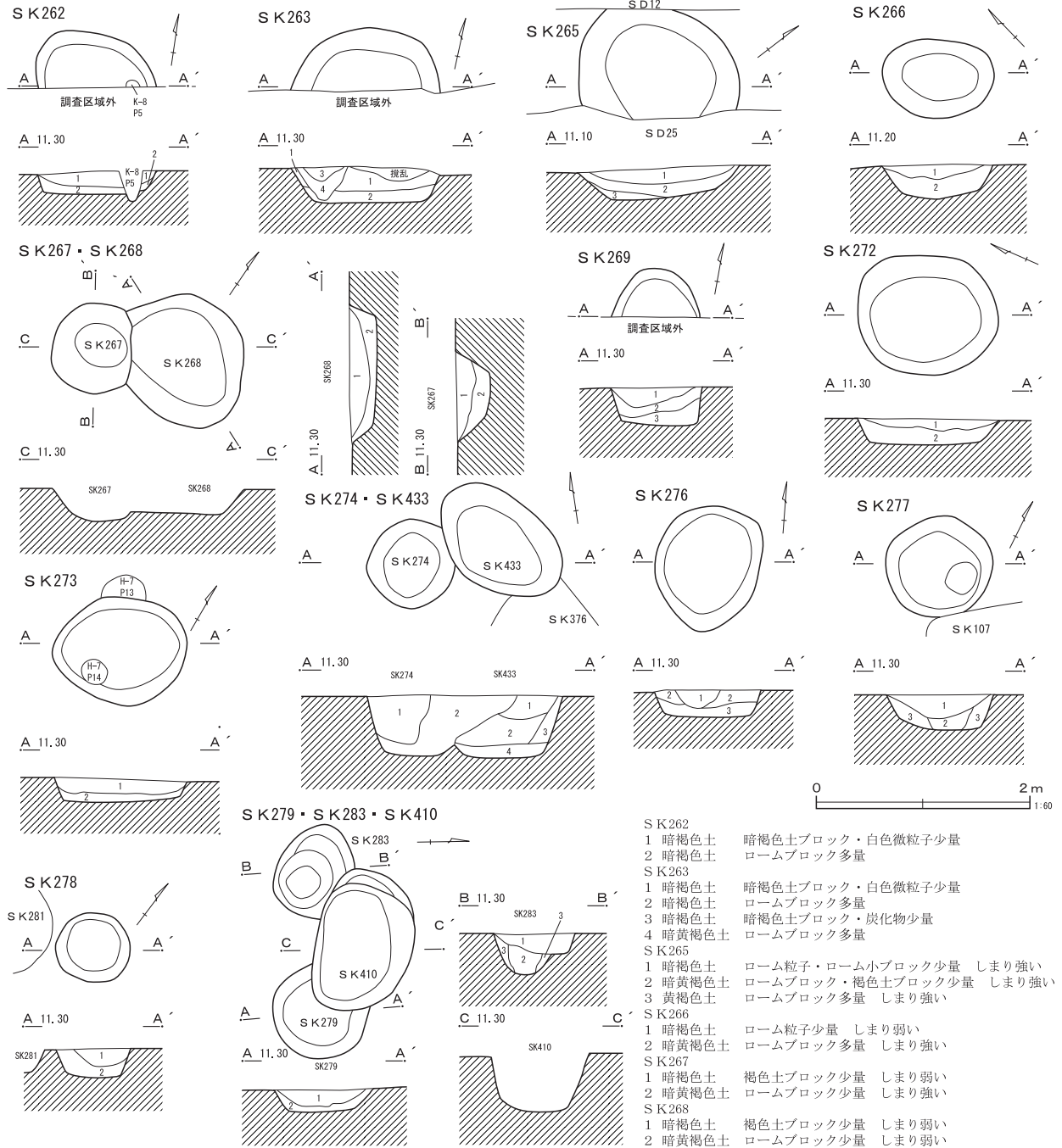
第262号土壙 (第412・413図)

K-8グリッドに位置する。南半分が調査区域外のため検出できなかったため平面形は不明で、長径1.09m、残存する短径0.52m、深さ0.22mである。

第412図23は検出された深鉢形土器の口縁部の破片で、沈線で区画文を施文している。地文は単節RLの縄文を横方向に施文している。時期は中期後葉である。

第263号土壙 (第412・413図)

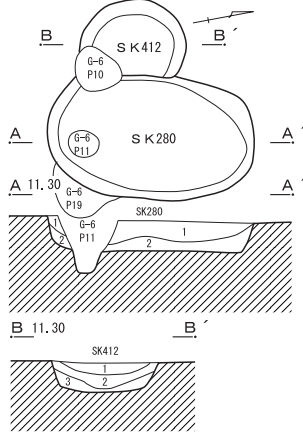
K-8グリッドに位置する。南半分が調査区域外のため検出できなかったため平面形は不明で、長径1.38m、残存する短径0.57m、深さ0.33mであ



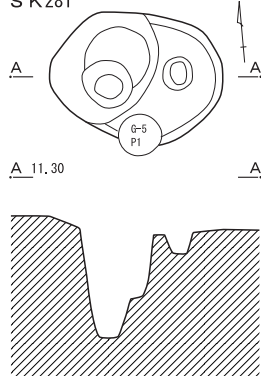
- | | | |
|--------|---------|--------------------------|
| SK 262 | 1 暗褐色土 | 暗褐色土ブロック・白色微粒子少量 |
| | 2 暗褐色土 | ロームブロック多量 |
| SK 263 | 1 暗褐色土 | 暗褐色土ブロック・白色微粒子少量 |
| | 2 暗褐色土 | ロームブロック多量 |
| | 3 暗褐色土 | 暗褐色土ブロック・炭化物少量 |
| | 4 暗黄褐色土 | ロームブロック多量 |
| SK 265 | 1 暗褐色土 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 しまり強い |
| | 2 暗黄褐色土 | ロームブロック・褐色土ブロック少量 しまり強い |
| | 3 黄褐色土 | ロームブロック多量 しまり強い |
| SK 266 | 1 暗褐色土 | ローム粒子少量 しまり弱い |
| | 2 暗黄褐色土 | ロームブロック多量 しまり強い |
| SK 267 | 1 暗褐色土 | 褐色土ブロック少量 しまり弱い |
| | 2 暗黄褐色土 | ロームブロック少量 しまり強い |
| SK 268 | 1 暗褐色土 | 褐色土ブロック少量 しまり弱い |
| | 2 暗黄褐色土 | ロームブロック少量 しまり弱い |
| SK 269 | 1 暗褐色土 | 褐色土ブロック少量 しまり弱い |
| | 2 暗褐色土 | ロームブロック・褐色土ブロック少量 しまり弱い |
| | 3 暗黄褐色土 | ロームブロック多量 しまり弱い |
| SK 272 | 1 暗褐色土 | ローム粒子・ロームブロック微量 |
| | 2 暗褐色土 | ローム粒子・ロームブロック少量 焼土粒子微量 |
| | 3 暗黄褐色土 | ローム粒子少量 ロームブロック微量 |
| SK 273 | 1 暗褐色土 | ローム小ブロック少量 暗褐色土ブロック多量 |
| | 2 暗褐色土 | ローム小ブロック・炭化物少量 |
| | 3 暗黄褐色土 | ロームブロック多量 |
| SK 274 | 1 暗褐色土 | ローム粒子微量 ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| | 2 暗褐色土 | ローム粒子少量 ロームブロック微量 |
| SK 276 | 1 暗褐色土 | ローム粒子微量 |
| | 2 暗黄褐色土 | ローム粒子・ロームブロック微量 焼土粒子少量 |
| SK 277 | 1 暗褐色土 | ローム粒子・ロームブロック微量 |
| | 2 暗褐色土 | ローム粒子・ロームブロック少量 焼土粒子微量 |
| | 3 暗黄褐色土 | ローム粒子少量 ロームブロック微量 |
| SK 278 | 1 暗褐色土 | ローム粒子微量 |
| | 2 暗黄褐色土 | ローム粒子・ロームブロック微量 焼土粒子少量 |
| SK 279 | 1 暗褐色土 | ロームブロック・暗褐色土ブロック少量 |
| | 2 暗黄褐色土 | ロームブロック多量 |
| SK 283 | 1 暗褐色土 | ロームブロック・暗褐色土ブロック・炭化物少量 |
| | 2 暗褐色土 | 暗褐色土ブロックとロームブロックの混土 |
| | 3 暗黄褐色土 | ロームブロック多量 |
| SK 433 | 1 暗褐色土 | ローム粒子微量 ロームブロック少量 |
| | 2 暗褐色土 | ローム粒子・ロームブロック少量 |
| | 3 暗褐色土 | ローム粒子・ロームブロック多量 |
| | 4 暗褐色土 | ローム粒子微量 ロームブロック少量 |

第413図 土壌 (19)

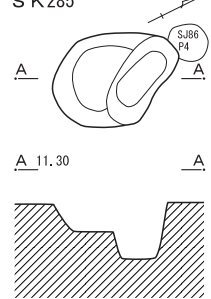
SK280・SK412



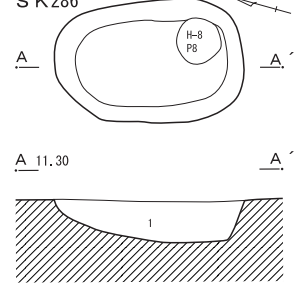
SK281



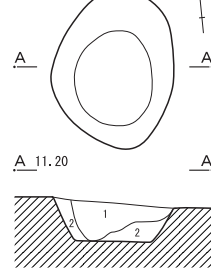
SK285



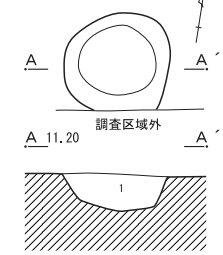
SK286



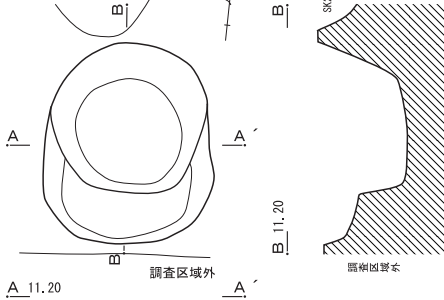
SK288



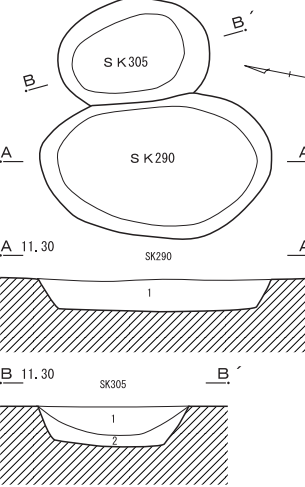
SK289



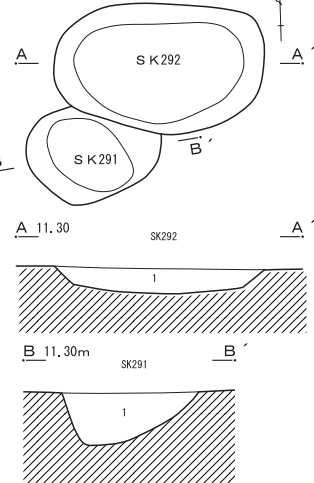
SK287



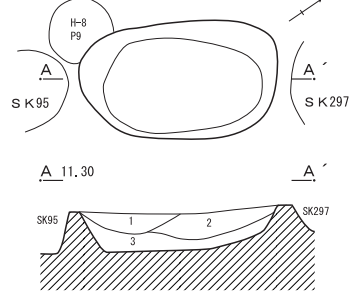
SK290・SK305



SK291・SK292



SK296



SK280

- 1 暗褐色土 ロームブロック少量 炭化物微量
- 2 暗褐色土 暗褐色土ブロック多量

SK286

- 1 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック少量

SK287

- 1 暗褐色土 ローム粒子微量 ロームブロック少量
- 2 暗褐色土 ローム粒子微量 ロームブロック多量
- 3 暗褐色土 ローム粒子微量 ロームブロック少量

SK288

- 1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック微量
- 2 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック微量

SK289

- 1 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック少量

SK290

- 1 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック少量

SK291

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック微量

SK292

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック微量

SK296

- 1 暗褐色土 暗褐色土ブロック・白色微粒子少量
- 2 暗褐色土 暗灰色粘土粒子多量
- 3 暗黄褐色土 焼土ブロック微量

SK297

- 1 暗褐色土 暗褐色土粒子多量 白色微粒子少量
- 炭化物微量
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック・暗灰色粘土粒子少量

SK305

- 1 暗褐色土 暗褐色土粒子多量 白色微粒子少量
- 炭化物微量
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック・暗灰色粘土粒子少量

SK315

- 1 暗褐色土 暗褐色土粒子多量 白色微粒子少量
- 炭化物微量
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック・暗灰色粘土粒子少量

SK412

- 1 暗褐色土 炭化物・白色微粒子少量
- 2 暗褐色土 暗褐色土ブロック多量
- 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量

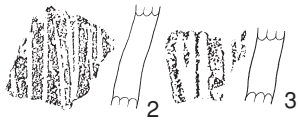


第414図 土壙 (20)

SK281 (1)



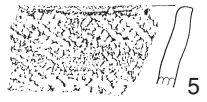
SK285 (2·3)



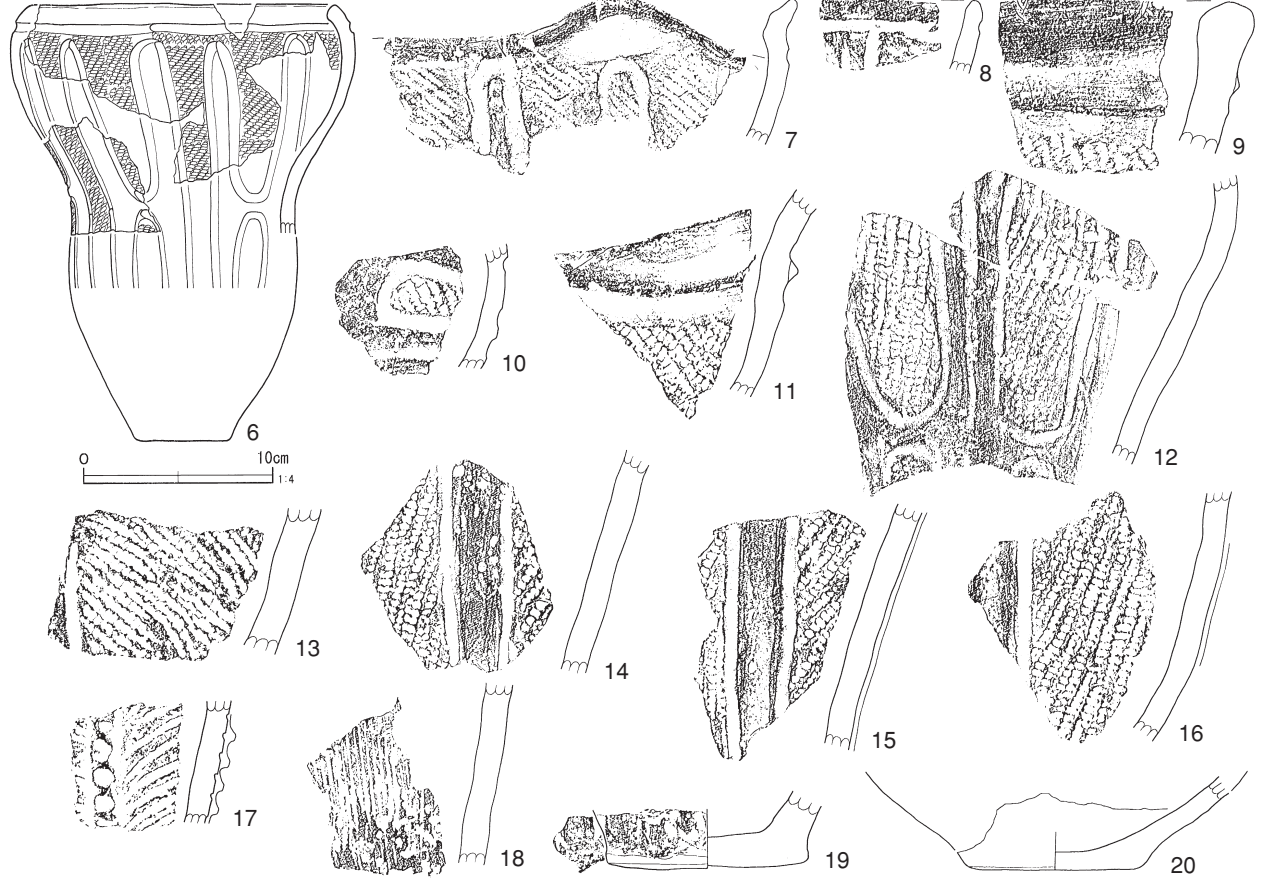
SK286 (4)



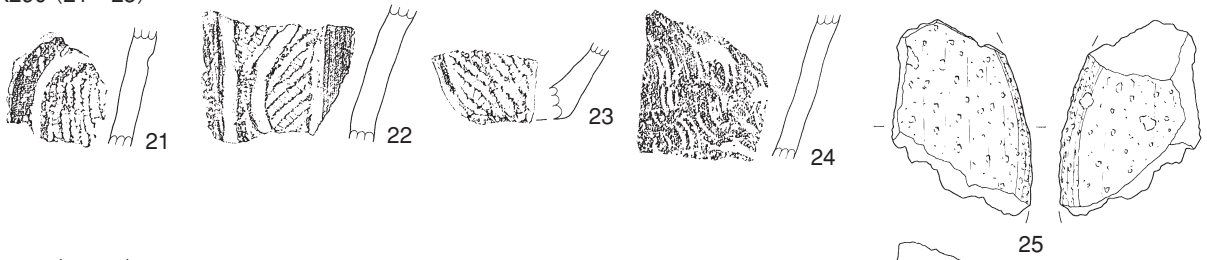
SK288 (5)



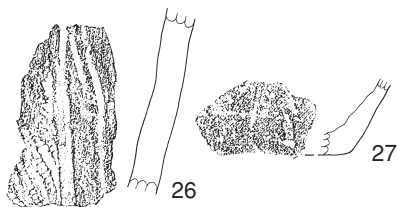
SK287 (6~20)



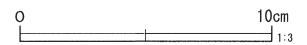
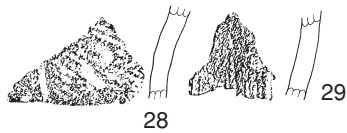
SK290 (21~25)



SK289 (26·27)



SK291 (28·29)



第415図 土壙出土遺物 (19)

る。

第412図24・25は検出された土器で、24は深鉢形土器の胴部の破片で、磨消沈線文を垂下させる。地文は単節R Lの縄文を施文する。25は浅鉢形土器の胴部の破片で、地文は条線である。時期は中期後葉である。

第265号土壙 (第412・413図)

F-9グリッドに位置する。近世以降の第12・25号溝跡が北西側と南東側を壊している。平面形は不明で、長径1.48m、短径1.02m、深さ0.31mである。

第412図26～28は検出された土器の破片である。26・27は深鉢形土器の胴部で、磨消沈線文を垂下させる。地文は単節R Lの縄文を施文する。28は浅鉢形土器の底部である。時期は中期後葉である。

第266号土壙 (第413図)

G-9グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.04m、短径0.72m、深さ0.32mである。

第267号土壙 (第412・413図)

G-9グリッドに位置する。第268号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径0.84m、短径0.74m、深さ0.32mである。

第412図29は検出された深鉢形土器の胴部の破片である。磨消沈線文を垂下させており、地文は単節R Lの縄文を縦方向に施文する。時期は中期後葉である。

第268号土壙 (第412・413図)

G-9グリッドに位置する。第267号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.26m、短径1.14m、深さ0.27mである。

第412図30～33は検出された土器で、30～32は深鉢形土器の破片である。30は口縁部で、胴部とは沈線と隆帯で区画している。口縁部には単節R Lの縄文を横方向に施文する。31・32は胴部で磨消沈線文を垂下させる。31は単節L Rの縄文を施文する。33は地文が条線の土器で浅鉢形土器の破片と考えられる。時期は中期後葉である。

第269号土壙 (第413図)

G-9グリッドに位置する。南半分が調査区域外のため検出できなかったため平面形は不明で、長径0.80m、短径0.45m、深さ0.36mである。

第271号土壙 (第404図)

I-7グリッドに位置する。第239・275号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.34m、短径0.82m、深さ0.85mである。

第272号土壙 (第412・413図)

H-7グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.30m、短径1.10m、深さ0.30mである。

第412図34は検出された浅鉢形土器の底部の破片である。時期は確定できなかった。

第273号土壙 (第412・413図)

H-7グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.26m、短径1.02m、深さ0.32mである。

第412図35・36は検出された土器で、35は深鉢形土器の胴部の破片で、磨消沈線文を垂下させる。地文は単節R Lの縄文を縦方向に施文する。36は地文が条線の浅鉢形土器の胴部の破片である。時期は中期後葉である。

第274号土壙 (第412・413図)

H-7グリッドに位置する。第433号土壙と重複し、土層断面から第274号土壙が新しい。平面形は円形で、長径0.82m、短径0.80m、深さ0.56mである。

第412図38～42は検出された土器で、38～40は深鉢形土器の胴部の破片で、38は磨消沈線文を垂下させる。地文として38は向きの違う太細の条を撚り合わせて単節R Lの縄文を施文している。39・40は単節R Lの縄文を施文している。41・42は浅鉢形土器の破片で、41は無文の口縁部、42は地文として条線を施文する胴部である。時期は中期後葉である。

第275号土壙 (第404・412図)

I-7グリッドに位置する。第239・271号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.20m、短

径0.72m、深さ0.36mである。

第412図37は検出された深鉢形土器の胴部の破片で、磨消沈線文を垂下させる。地文は単節RLの縄文を施文している。時期は中期後葉である。

第276号土壙 (第413図)

F-5グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.16m、短径0.97m、深さ0.25mである。

第277号土壙 (第413図)

G-5グリッドに位置する。古墳時代の第107号土壙と接している。平面形は円形で、長径1.00m、短径0.93m、深さ0.55mである。

第278号土壙 (第413図)

G-5グリッドに位置する。平面形は円形で、長径0.69m、短径0.69m、深さ0.26mである。

第279号土壙 (第413図)

G-6グリッドに位置する。第410号土壙と重複する。平面形は不明で、長径0.90m、短径0.90m、深さ0.21mである。

第280号土壙 (第414図)

G-6グリッドに位置する。第102号住居跡、第412号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.62m、短径0.95m、深さ0.24mである。

第281号土壙 (第414・415図)

G-5グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.36m、短径1.03m、深さ1.05mである。

第415図1は検出された粗製の浅鉢形土器の口縁部の破片で、時期は特定できなかった。

第283号土壙 (第413図)

G-6グリッドに位置する。第410号土壙と重複する。平面形は不明で、長径0.87m、短径0.84m、深さ0.38mである。

第285号土壙 (第414・415図)

G-8・9グリッドに位置する。第86号住居跡と重複する。平面形は不整形で、長径0.89m、短径0.74m、深さ0.49mである。

第415図2・3は検出された深鉢形土器の胴部の破片である。重弧文系の器形で、地文は沈線状

の条線を施文している。時期は中期後葉である。

第286号土壙 (第414・415図)

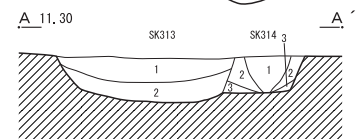
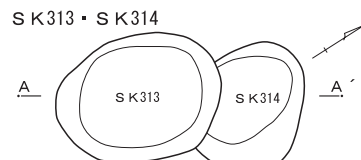
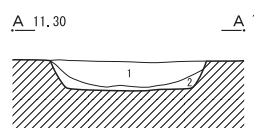
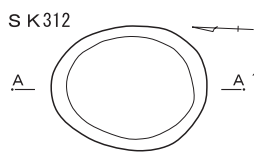
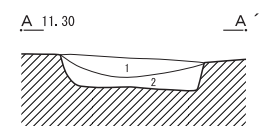
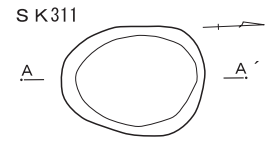
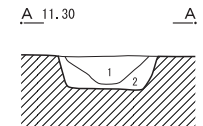
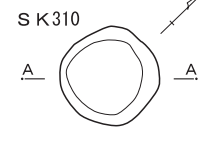
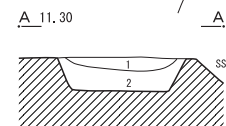
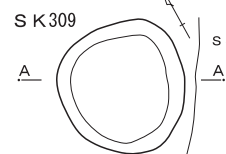
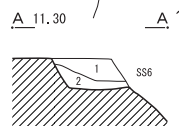
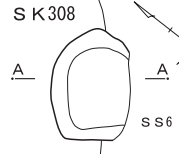
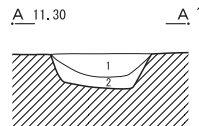
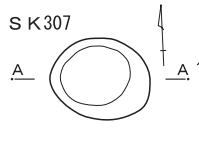
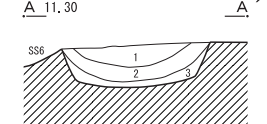
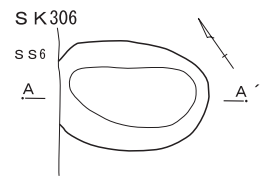
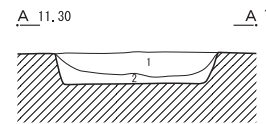
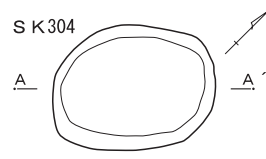
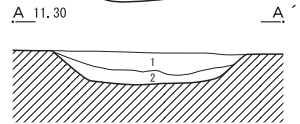
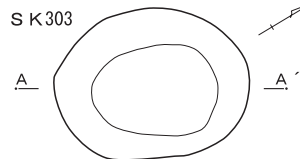
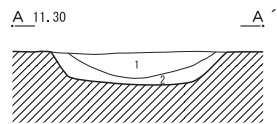
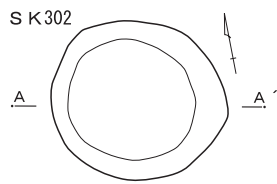
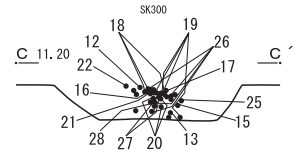
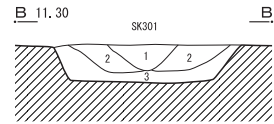
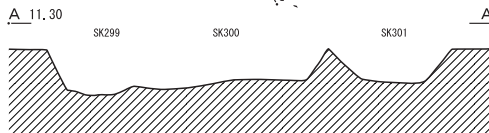
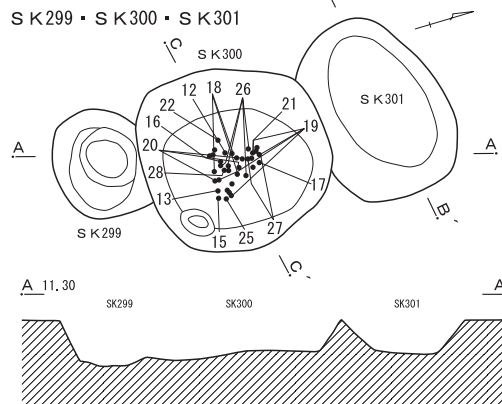
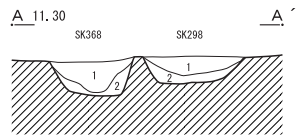
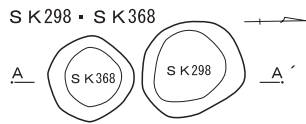
G・H-8グリッドに位置し、平面形は楕円形で長径1.48m、短径0.95m、深さ0.30mである。

第415図4は検出された深鉢形土器の口縁部の破片である。隆帯と沈線によって文様を施文している。時期は中期後葉である。

第287号土壙 (第414・415図)

H-9グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.56m、短径1.34m、深さ0.70mである。

第415図6～20は検出された土器である。6は深鉢形土器で、胴部下半は欠損する。口縁部は無文で、胴部と沈線を巡らして区画している。胴部には磨消沈線文によるH字状の文様を施文している。地文は単節RLの縄文を充填する。7～16は深鉢形土器の破片である。7～10は口縁部で、7～9は無文の狭い口縁部を持つ。7は波状口縁で、胴部には磨消沈線で波状文や逆U字状文を施文する。地文として単節LRの縄文を施文する。8・9はバケツ状の器形で8は胴部に磨消沈線文を垂下させる。9は口縁部と胴部を微隆起伏の隆帯で区画するもので、地文は単節RLの縄文を施文する。10は口縁部に文様を持つもので、地文は区画文内に単節RLの縄文を横方向に施文している。11～16は胴部の破片で、11は微隆起伏の隆帯で文様を施文する。地文は複節RLRの縄文を施文している。12は波状文と逆U字状文を組み合わせで施文し、間には蕨手文を施文する。地文は単節RLの縄文である。13は磨消沈線文を垂下させる。地文は単節LRの縄文である。14～16は同一個体で2本1組の微隆起伏の隆帯と沈線を胴部に垂下させている。地文は単節RLの縄文である。17・18は地文に条線を施文する深鉢形土器の胴部である。17は重弧文系の器形で、刺突が加えられた隆帯を胴部に垂下させる。19は深鉢形土器、20は浅鉢形土器の底部の破片である。時期は中期後葉である。



S K 298
 1 暗褐色土 暗褐色土粒子多量 白色微粒子少量 炭化物微量
 2 暗黄褐色土 ロームブロック・暗灰色粘土粒子少量

S K 301
 1 暗褐色土 炭化物少量 暗褐色土ブロックとロームブロックの混土
 2 暗褐色土 暗褐色土粒子多量 白色微粒子少量 炭化物微量
 3 暗黄褐色土 ロームブロック・暗灰色粘土粒子少量

S K 302
 1 暗褐色土 暗褐色土粒子多量 白色微粒子少量 炭化物微量
 2 暗黄褐色土 ロームブロック・暗灰色粘土粒子少量

S K 303
 1 暗褐色土 暗褐色土粒子多量 白色微粒子少量 炭化物微量
 2 暗黄褐色土 ロームブロック・暗灰色粘土粒子少量

S K 304
 1 暗褐色土 暗褐色土粒子多量 白色微粒子少量 炭化物微量
 2 暗黄褐色土 ロームブロック・暗灰色粘土粒子少量

S K 306
 1 暗褐色土 暗褐色土粒子多量 白色微粒子少量 炭化物微量
 2 暗黄褐色土 ロームブロック・暗灰色粘土粒子少量

S K 307
 1 暗褐色土 白色微粒子少量 炭化物微量
 2 暗褐色土 暗褐色土ブロック多量

S K 308
 1 暗褐色土 暗褐色土粒子多量 白色微粒子少量 炭化物微量
 2 暗黄褐色土 ロームブロック・暗灰色粘土粒子少量

S K 309
 1 暗褐色土 暗褐色土粒子多量 白色微粒子少量 炭化物微量
 2 暗黄褐色土 ロームブロック・暗灰色粘土粒子少量

S K 310
 1 暗褐色土 ローム粒子・暗灰色粘土粒子多量
 2 暗黄褐色土 ロームブロック多量

S K 311
 1 暗褐色土 暗褐色土粒子多量 白色微粒子少量 炭化物微量
 2 暗黄褐色土 ロームブロック・暗灰色粘土粒子少量

S K 312
 1 暗褐色粘土 焼土粒子・焼土ブロック・炭化物多量
 2 暗黄褐色土 ロームブロック少量 暗灰色粘土粒子多量

S K 313
 1 暗褐色土 暗褐色土粒子多量 白色微粒子少量 炭化物微量
 2 暗黄褐色土 ロームブロック・暗灰色粘土粒子少量

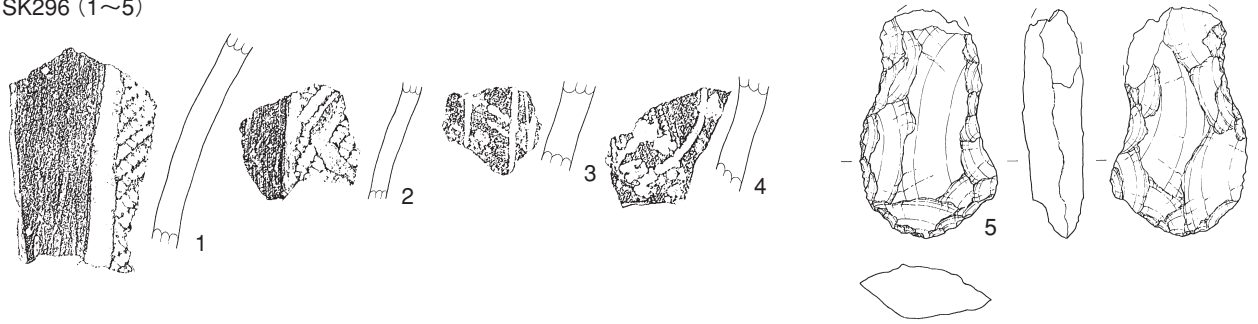
S K 314
 1 暗褐色土 炭化物少量 ロームブロックと暗褐色土ブロックの混土
 2 暗褐色土 暗褐色土粒子多量 白色微粒子少量 炭化物微量

S K 368
 1 暗褐色土 暗褐色土ブロック多量
 2 暗黄褐色土 ロームブロック多量

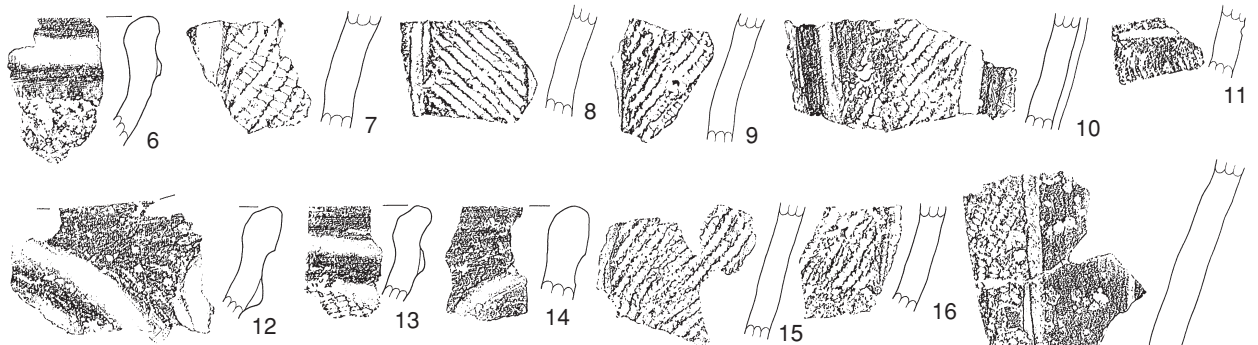


第416図 土壌 (21)

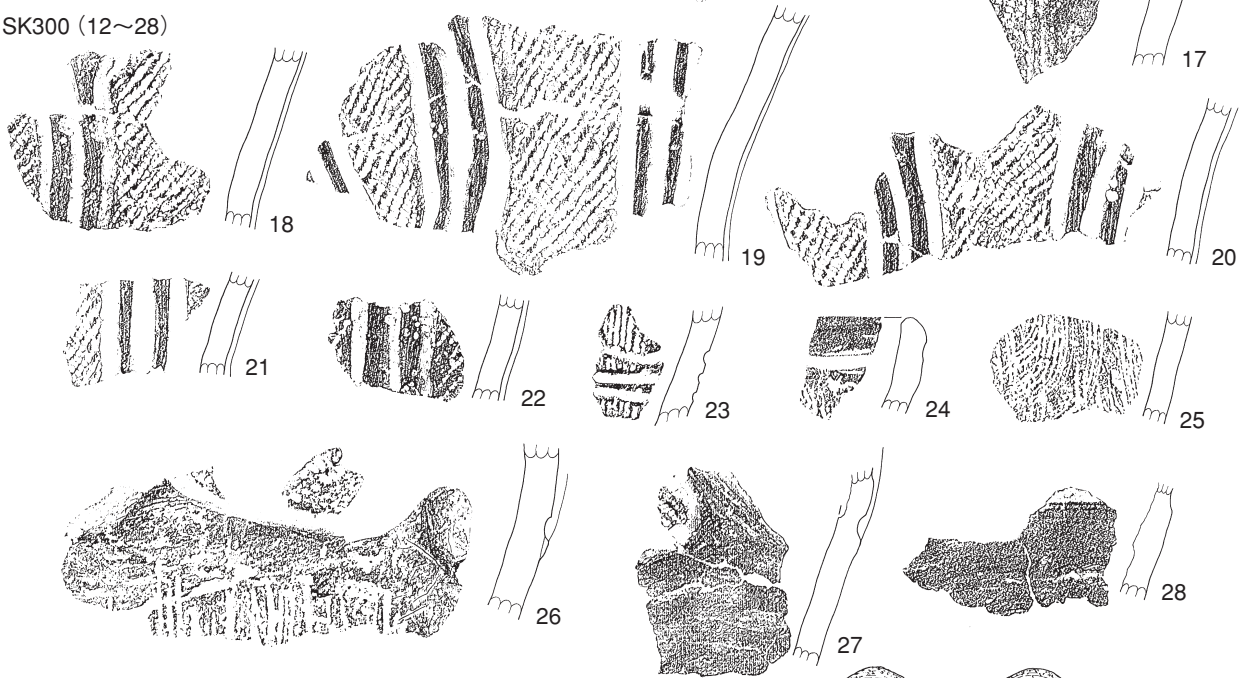
SK296 (1~5)



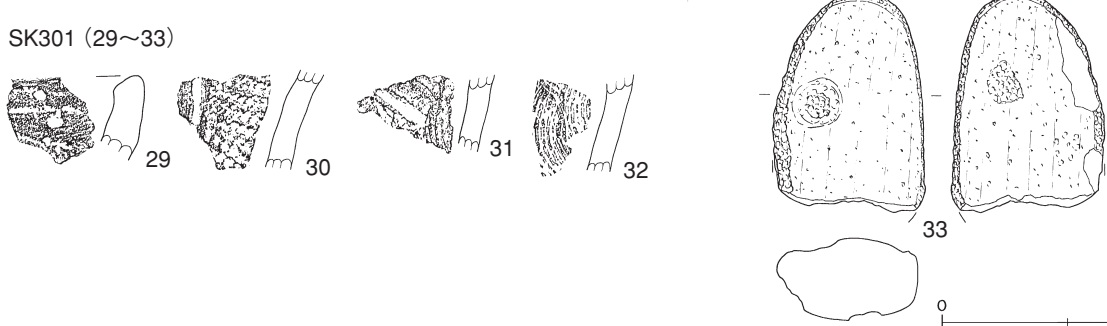
SK299 (6~11)



SK300 (12~28)



SK301 (29~33)



0 10cm 1:3

第417图 土城出土遺物 (20)

第288号土壙 (第414・415図)

H-8・9グリッドに位置し、平面形は楕円形で長径1.26m、短径0.96m、深さ0.39mである。

第415図5は検出された前期の諸磯a式の深鉢形土器の口縁部の破片である。地文は単節RLの端部を結んで結節状に施文している。

第289号土壙 (第414・415図)

G-9グリッドに位置する。平面形は円形で、長径0.89m、短径0.84m、深さ0.31mである。

検出された第415図26は深鉢形土器の胴部の破片で、地文は単節LRの縄文を施している。27は底部の小破片である。時期は中期後葉である。

第290号土壙 (第414・415図)

G・H-8グリッドに位置する。第305号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.82m、残存する短径1.08m、深さ0.25mである。

第415図21～25は検出された遺物である。21・22は深鉢形土器の胴部の破片で、地文として単節RLの縄文を施す。23はミニチュアの深鉢形土器の胴部の破片で、地文は単節LRの縄文を施文する。24は浅鉢形土器の胴部の破片で、地文は条線である。25は磨石の破片である。遺物の時期は中期後葉である。

第291号土壙 (第414・415図)

H-8グリッドに位置する。第292号土壙と重複する。平面形は楕円形で、残存する長径1.05m、短径0.77m、深さ0.40mである。

第415図28・29は検出された深鉢形土器の胴部の破片で、28は地文として単節LRの縄文を施文する。時期は中期後葉である。

第292号土壙 (第414図)

H-8グリッドに位置する。第291号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.64m、短径1.02m、深さ0.19mである。

第296号土壙 (第414・417図)

H-8グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.54m、短径0.92m、深さ0.26mである。

検出された第417図1～4は深鉢形土器の胴部の破片で、1～3は磨消沈線文を垂下させる。2は地文部分に蛇行沈線文を施文し、地文は単節RLの縄文を施文する。4は蛇行沈線文を施文し、地文は単節RLの縄文である。5は基部を欠損する打製石斧である。時期は中期後葉である。

第297号土壙 (第414図)

H-8グリッドに位置する。第315号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.63m、短径0.92m、深さ0.26mである。

第298号土壙 (第416図)

H-8グリッドに位置する。平面形は円形で、長径0.81m、短径0.74m、深さ0.22mである。

第299号土壙 (第416・417図)

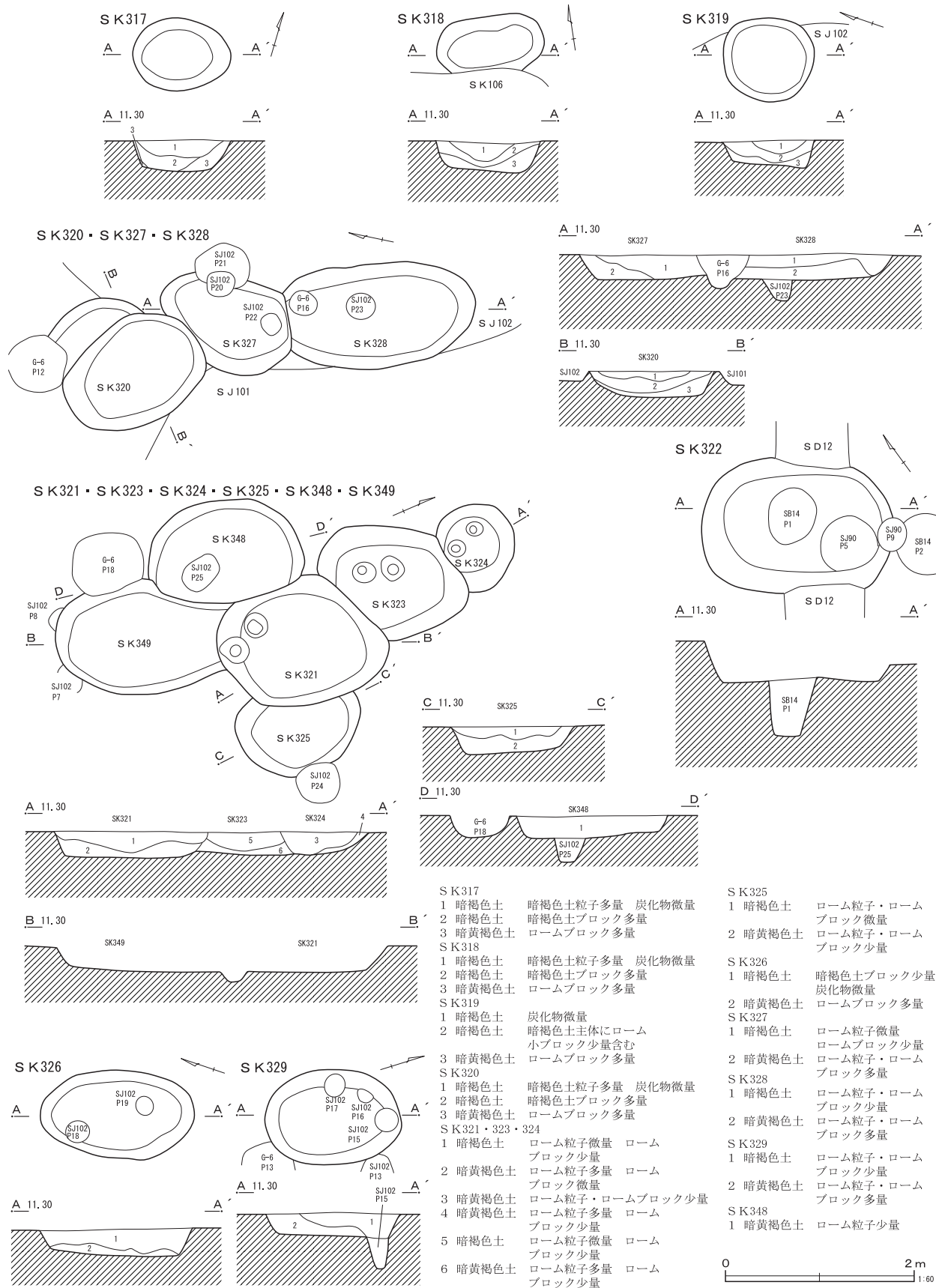
H-8グリッドに位置する。第300号土壙と重複する。平面形は円形で、長径0.85m、残存する短径0.69m、深さ0.35mである。

検出された第417図6～10は深鉢形土器の破片である。6は口縁部で隆帯と沈線によって文様が施文される。7～9は胴部で磨消沈線文を垂下させ、地文として7・9は単節RLの縄文を、8は無節Lの縄文を施文する。10は隆帯と沈線を垂下させる。地文は単節RLの縄文を施文する。11は浅鉢形土器の胴部で、地文は条線を施文する。時期は中期後葉である。

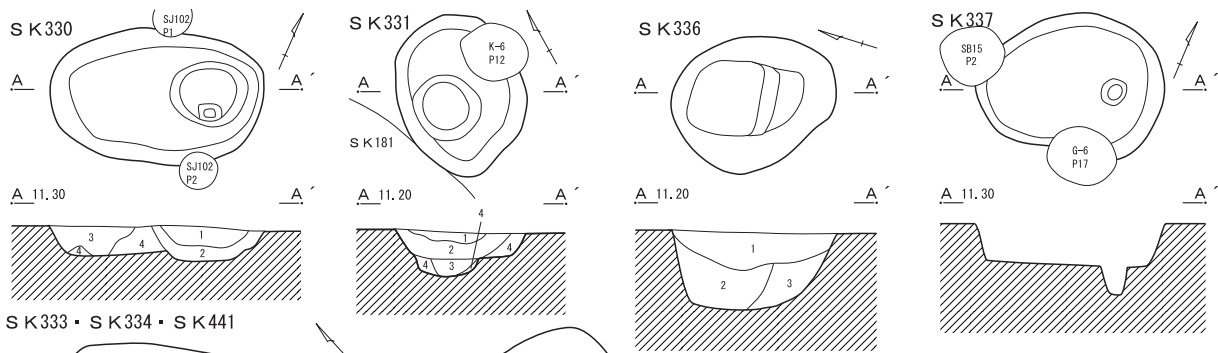
第300号土壙 (第416・417図)

H-8グリッドに位置する。第299・301号土壙と重複する。平面形は円形で、長径1.51m、短径1.40m、深さ0.29mである。

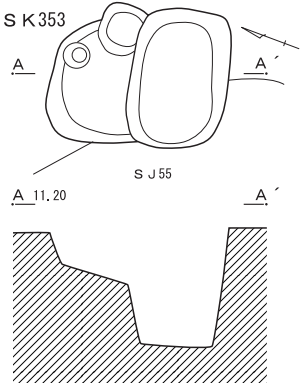
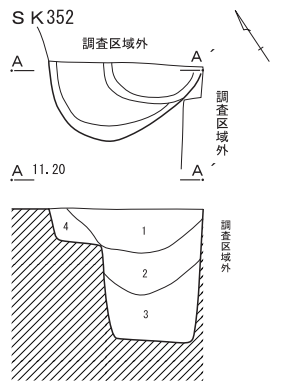
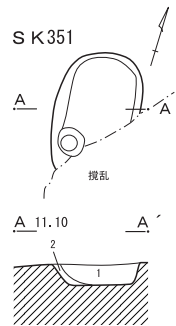
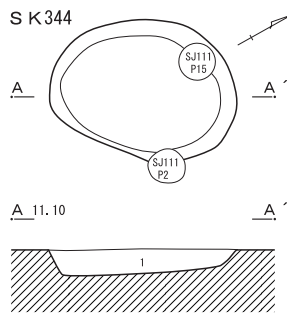
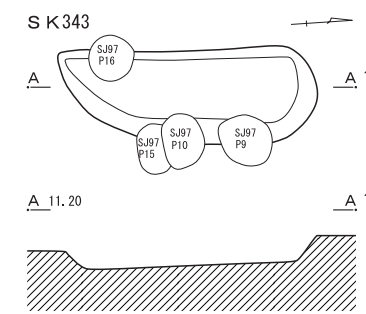
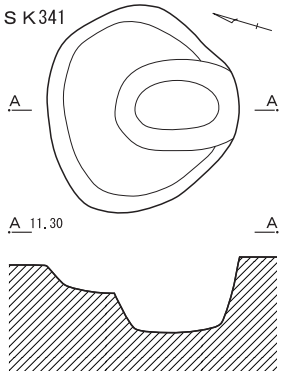
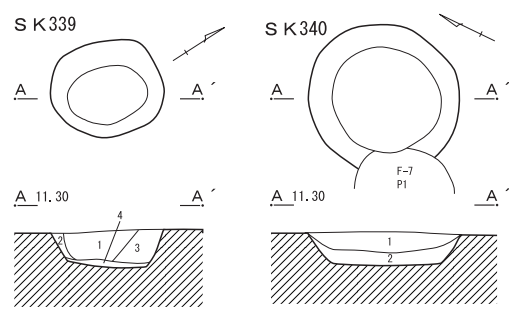
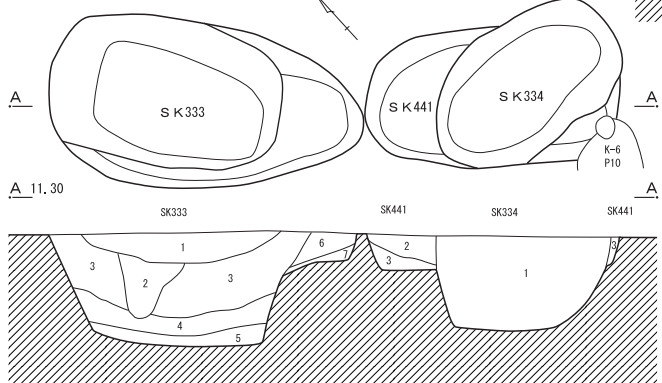
検出された第417図12～22は深鉢形土器の破片である。12～14は口縁部で、13の地文は単節RLの縄文で、横方向に施文している。15～17は胴部で、磨消沈線文を施文する。地文は単節RLの縄文を施す。18～22は同一個体で、胴部に微隆起伏の隆帯で文様を施文している。地文は単節RLの縄文を充填する。23は連弧文系の深鉢形土器の頸部の破片である。地文は撚糸文Rを施文している。



第418図 土壌 (22)



SK 333・SK 334・SK 441



SK 330
 1 暗褐色土 ローム粒子微量 ロームブロック少量
 2 暗黄褐色土 ローム粒子微量 ロームブロック少量
 3 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック微量
 4 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量

SK 331
 1 暗褐色土 暗褐色土ブロック多量 炭化物微量
 2 暗褐色土 暗灰色粘土ブロック・炭化物少量
 3 暗褐色土 ロームブロックと暗灰色粘土粒子の混土
 4 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK 333
 1 暗褐色土 暗褐色土粒子多量 炭化物少量
 2 暗褐色土 ロームブロック少量 炭化物微量
 3 暗褐色土 暗褐色土ブロックを主体にロームブロックを含む
 4 暗褐色土 暗褐色土ブロックとロームブロックの混土
 5 暗褐色土 ロームブロック少量 ロームブロック多量
 6 暗褐色土 暗灰色粘土粒子少量
 7 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK 334・441
 1 暗褐色土 ロームブロックと暗褐色土ブロックの混土
 2 暗褐色土 暗灰色粘土粒子少量
 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK 339
 1 暗褐色土 ローム粒子少量
 2 暗褐色土 ロームブロック微量
 3 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量
 4 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量

SK 351
 1 暗褐色土 暗灰色粘土粒子多量
 2 暗黄褐色土 ローム粒子多量

SK 336
 1 暗褐色土 暗褐色土ブロック多量 炭化物微量
 2 暗褐色土 ロームブロックと暗褐色土ブロックの混土
 3 暗黄褐色土 ロームブロックの一括埋土

SK 340
 1 暗褐色土 ロームブロック微量
 2 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量

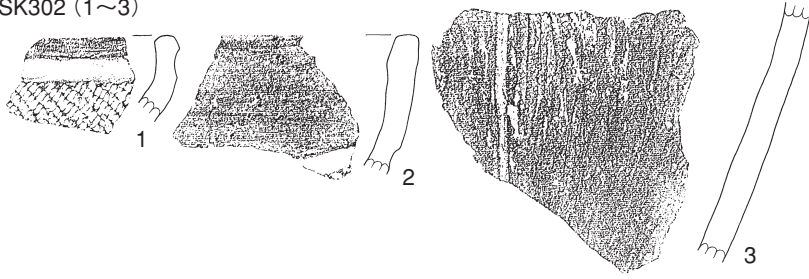
SK 352
 1 黒褐色土 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化物少量
 2 暗褐色土 暗褐色土ブロック多量 炭化物微量
 3 暗褐色土 暗褐色土ブロックとロームブロックの混土
 4 暗黄褐色土 ロームブロック多量

SK 344
 1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量

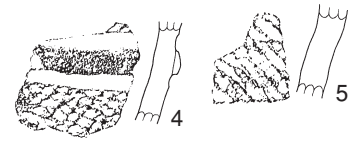


第419図 土壌 (23)

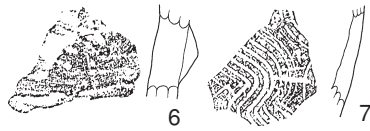
SK302 (1~3)



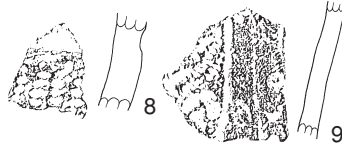
SK303 (4-5)



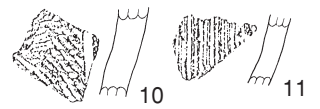
SK304 (6-7)



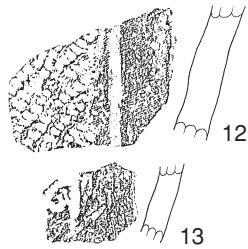
SK305 (8-9)



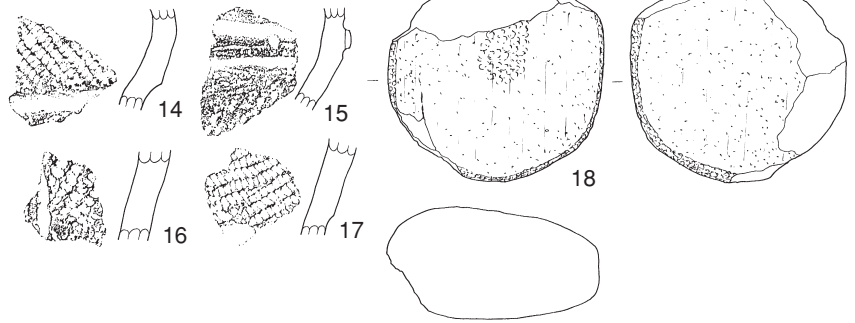
SK309 (10-11)



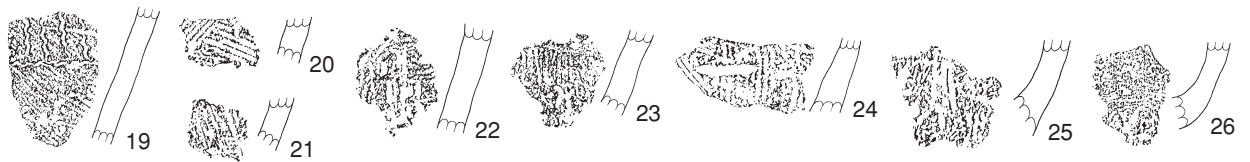
SK306 (12-13)



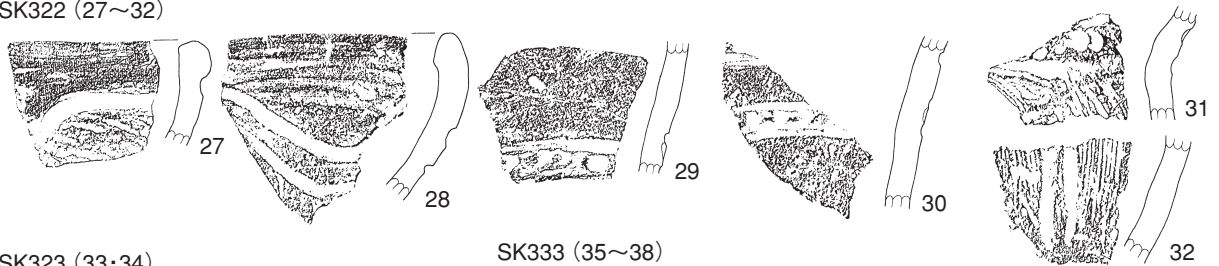
SK315 (14~18)



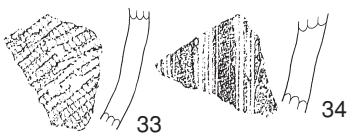
SK321 (19~26)



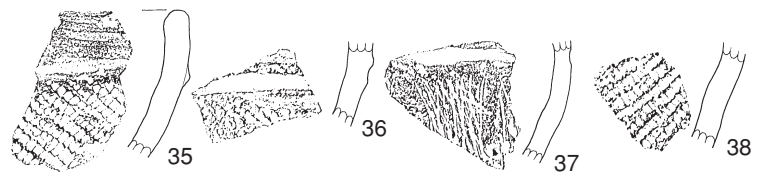
SK322 (27~32)



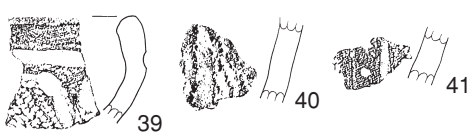
SK323 (33-34)



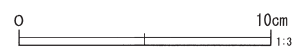
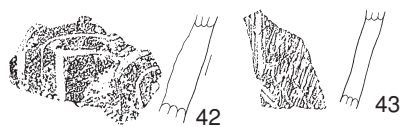
SK333 (35~38)



SK337 (39~41)



SK340 (42-43)



第420図 土城出土遺物 (21)

24～28は浅鉢形土器の破片である。24・25は地文に条線を施文している。26～28は肩部に文様を施文する。26は肩部に単節LRの縄文を横方向に施文し、胴部には条線を施文する。27・28は同一個体で、肩部には単節RLの縄文を施文する。時期は中期後葉である。

第301号土壙 (第416・417図)

H-8グリッドに位置する。第300号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.48m、残存する短径0.98m、深さ0.31mである。

検出された第417図29～32は深鉢形土器の破片である。29は口縁部で、30～32は胴部で、30・31は磨消沈線文を施文する。地文として30は単節LRの縄文を、31は単節RLの縄文を施文する。32の地文は条線である。33は磨石である。側縁には敲打を加えている。時期は中期後葉である。

第302号土壙 (第416・420図)

H-8グリッドに位置する。平面形は円形で、長径1.38m、短径1.24m、深さ0.25mである。

第420図1～3は検出された深鉢形土器の破片である。1・2は口縁部で、1は地文として単節RLの縄文を横方向に施文する。2は無文の口縁部で、胴部とは沈線で区画されている。3は胴部で、沈線文が垂下する。時期は中期後葉である。

第303号土壙 (第416・420図)

H-7・8グリッドに位置し、平面形は楕円形で長径1.52m、短径1.16m、深さ0.25mである。

第420図4・5は検出された深鉢形土器の胴部の破片で、地文は4に単節RLの縄文を、5に無節Lの縄文を施文する。時期は中期後葉である。

第304号土壙 (第416・420図)

H-7グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.28m、短径0.98m、深さ0.25mである。

検出された第420図6は隆帯を貼付した深鉢形土器の頸部の破片で、7は地文が条線の浅鉢形土器の胴部の破片である。時期は中期後葉である。

第305号土壙 (第414・420図)

H-8グリッドに位置する。第290号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.20m、残存する短径0.70m、深さ0.31mである。

第420図8・9は検出された深鉢形土器の胴部の破片で、9は磨消沈線文を施文する。地文は単節RLの縄文を施文する。時期は中期後葉である。

第306号土壙 (第416・420図)

H-8グリッドに位置し、第6号古墳により西側の一部が失われる。平面形は楕円形で、残存する長径1.16m、短径0.86m、深さ0.33mである。

第420図12・13は検出された深鉢形土器の胴部破片である。磨消沈線文を垂下させ、地文は単節RLの縄文を施文する。時期は中期後葉である。

第307号土壙 (第416図)

H-7グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径0.78m、短径0.64m、深さ0.31mである。

第308号土壙 (第416図)

G-8グリッドに位置する。第6号古墳により南東半部を失っている。平面形は不明で、長径0.88m、残存する短径0.62m、深さ0.25mである。

第309号土壙 (第416・420図)

G-8グリッドに位置する。平面形は円形で、長径1.02m、短径1.00m、深さ0.26mである。

検出された第420図10は深鉢形、11は胴部の破片で、無節Lの縄文を施文する。11は浅鉢形土器の胴部の破片である。時期は中期後葉である。

第310号土壙 (第416図)

H-6・7グリッドに位置する。平面形は円形で長径0.74m、短径0.74m、深さ0.26mである。

第311号土壙 (第416図)

H-6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.12m、短径0.86m、深さ0.25mである。

第312号土壙 (第416図)

H-7グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.22m、短径0.96m、深さ0.24mである。

第313号土壙 (第416図)

H-7グリッドに位置する。第314号土壙と重

複し、土層断面から第313号土壙が新しい。平面形は楕円形で、長径1.94m、短径0.98m、深さ0.36mである。

第314号土壙（第416図）

H-7グリッドに位置する。第313号土壙と重複し、土層断面から第313号土壙が新しい。平面形は楕円形で、長径1.08m、残存する短径0.66m、深さ0.29mである。

第315号土壙（第414・420図）

H-8グリッドに位置する。第297号土壙と重複する。平面形は楕円形で、残存する長径1.01m、短径0.90m、深さ0.24mである。

検出された第420図14～17は深鉢形土器の破片で、14は口縁部に沈線で文様を施文する。地文は単節RLの縄文を施文する。15・16は胴部で、単節RLの縄文を施文する。17は連弧文系土器の頸部の破片で、地文は単節LRの縄文を横方向に施文する。18は磨石の破片で、側面は敲打によって面取り状となる。遺物の時期は中期後葉である。

第317号土壙（第418図）

H-6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.04m、短径0.77m、深さ0.32mである。

第318号土壙（第418図）

G-6グリッドに位置し、第102号住居跡、第106号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.18m、残存する短径0.55m、深さ0.30mである。

第319号土壙（第418図）

G-6グリッドに位置する。第47・102号住居跡と重複する。平面形は円形で、長径0.95m、短径0.87m、深さ0.25mである。

第320号土壙（第418図）

G-6グリッドに位置する。第101・102号住居跡、第327号土壙と重複する。平面形は楕円形で長径1.51m、短径1.49m、深さ0.26mである。

第321号土壙（第418・420図）

G-6グリッドに位置する。第102号住居跡、第323・325・348・349号土壙と重複する。平面形

は不整形で、残存する長径1.83m、短径1.35m、深さ0.28mである。

検出された第420図19～26は条痕文を施文するもので、19は貝殻腹縁文を縦に施文し、その下側に横方向に施文して区画している。遺物の時期は早期後半であるが、土壙は住居跡より新しく掘り込まれ、遺構には伴わないと考えられる。

第322号土壙（第418・420図）

G-7グリッドに位置し、近世以降の第12号溝跡が南北に縦断している。第90号住居跡、第14号掘立柱建物跡と重複する。平面形は楕円形で、長径2.00m、短径1.40m、深さ0.40mである。

第420図27～32は検出された深鉢形土器の破片である。27は口縁部で、沈線で楕円区画文などを施文する。地文として単節RLの縄文を横方向に施文している。28～30は連弧文系の土器で、28は口縁部で2本1組の沈線を波状に施文している。29・30は頸部で、内側に刺突を加える2本1組の沈線文を巡らしている。31・32は地文に条線を施文するもので、32は胴部に磨消沈線文を垂下するものである。時期は中期後葉である。

第323号土壙（第418・420図）

G-6グリッドに位置する。第102号住居跡内から検出され、第321・324号土壙と重複している。平面形は楕円形と考えられ、残存する長径1.40m、短径1.22m、深さ0.24mである。

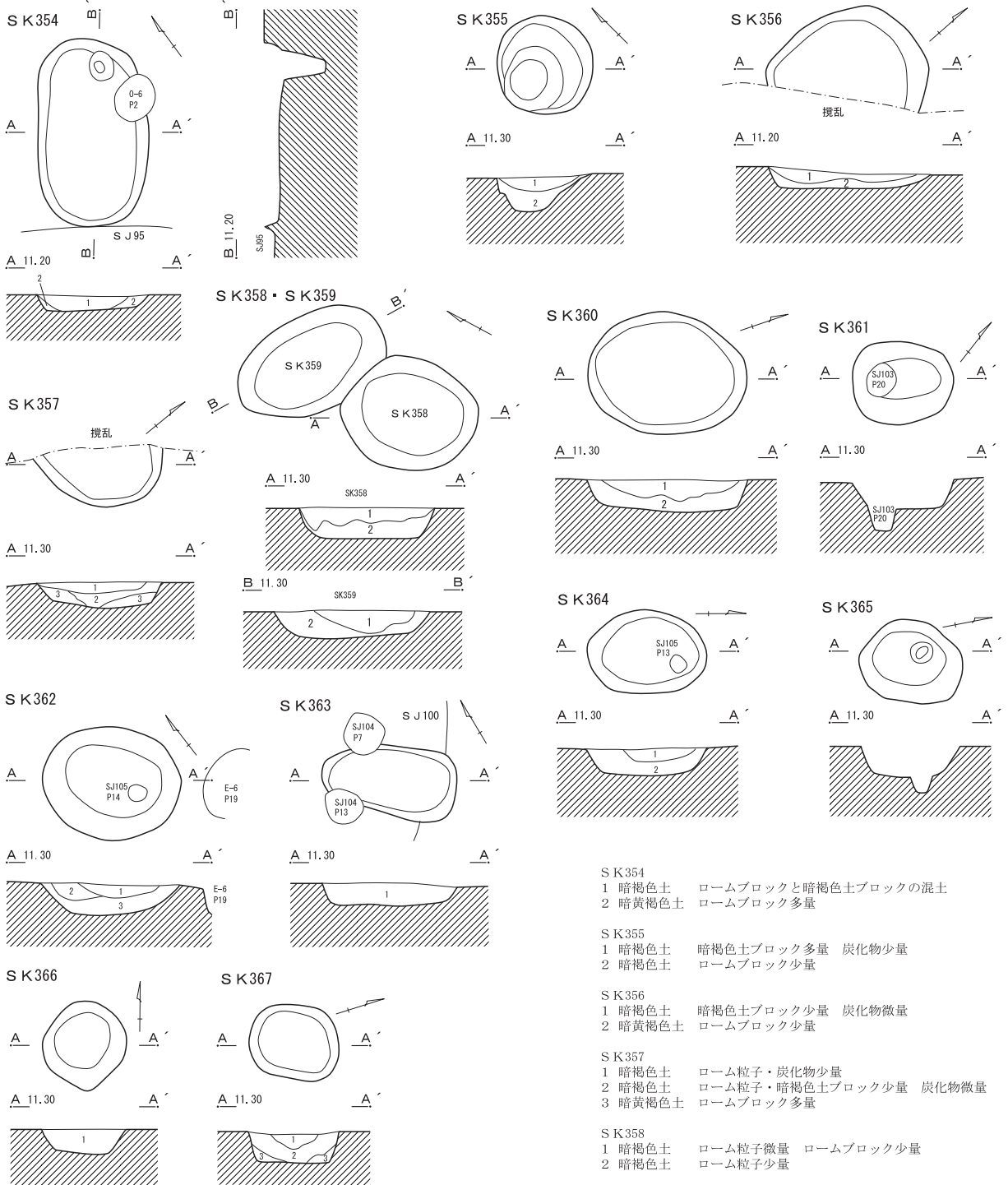
検出された第420図33は深鉢形、34は浅鉢形土器の胴部の破片である。33は単節RLの縄文を地文として施文する。時期は中期後葉である。

第324号土壙（第418図）

G-6グリッドに位置する。第102号住居跡、第324号土壙と重複する。平面形は円形で、長径0.87m、残存する短径0.74m、深さ0.25mである。

第325号土壙（第418図）

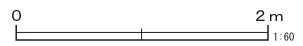
G-6グリッドに位置し、第102号住居跡、第321号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.32m、残存する短径0.65m、深さ0.26mである。



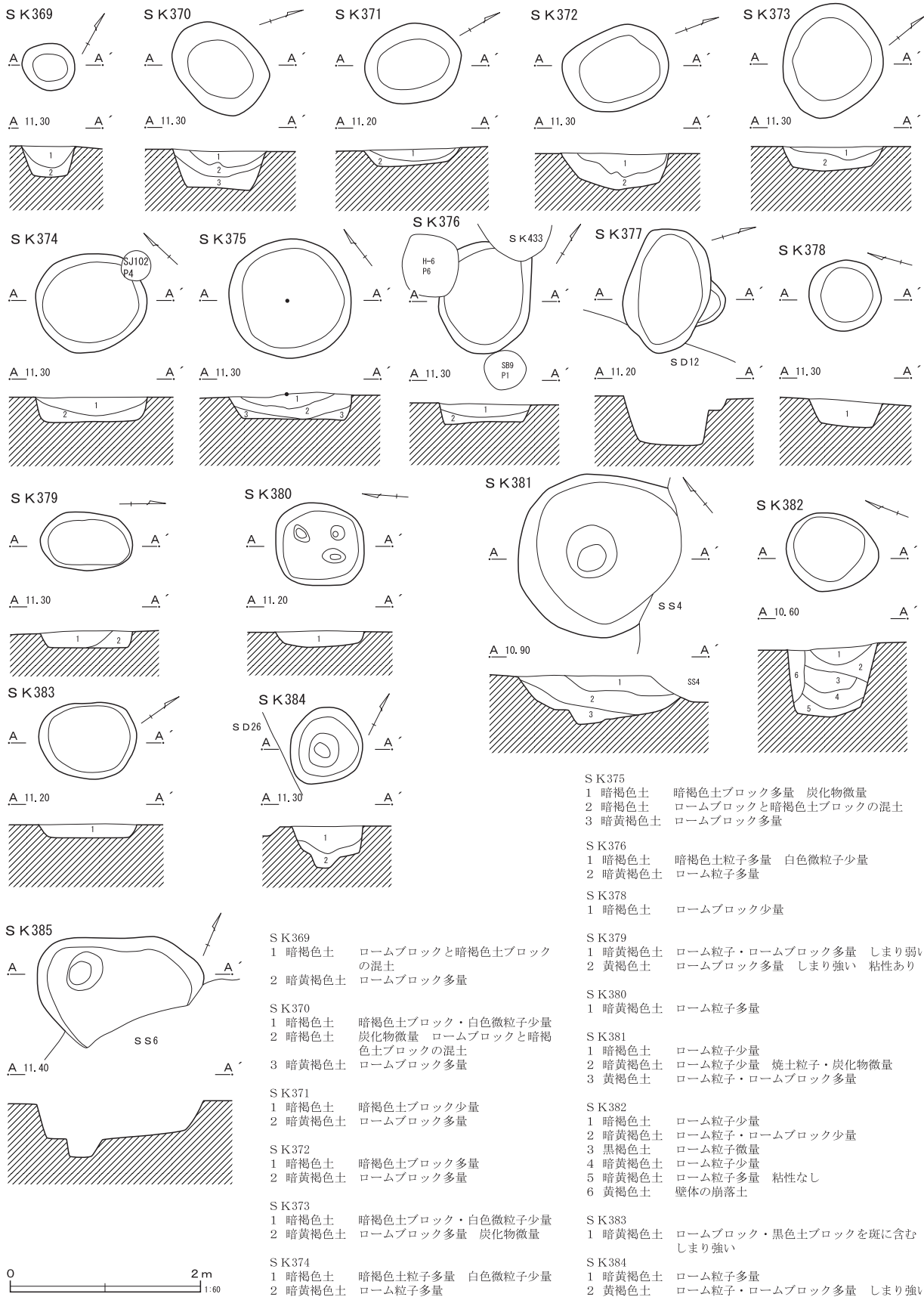
- S K 354**
 1 暗褐色土 ロームブロックと暗褐色土ブロックの混土
 2 暗黄褐色土 ロームブロック多量
- S K 355**
 1 暗褐色土 暗褐色土ブロック多量 炭化物少量
 2 暗褐色土 ロームブロック少量
- S K 356**
 1 暗褐色土 暗褐色土ブロック少量 炭化物微量
 2 暗黄褐色土 ロームブロック少量
- S K 357**
 1 暗褐色土 ローム粒子・炭化物少量
 2 暗褐色土 ローム粒子・暗褐色土ブロック少量 炭化物微量
 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量
- S K 358**
 1 暗褐色土 ローム粒子微量 ロームブロック少量
 2 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量
- S K 359**
 1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量
 2 暗黄褐色土 ローム粒子少量
- S K 360**
 1 暗褐色土 ローム粒子微量 ロームブロック少量
 2 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量
- S K 362**
 1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック微量
 2 暗褐色土 ローム粒子微量 ロームブロック少量
 3 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量

- S K 363**
 1 暗褐色土 ロームブロック少量
- S K 364**
 1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック微量
 2 暗褐色土 ローム粒子微量 ロームブロック少量
- S K 366**
 1 暗褐色土 ローム粒子微量 ロームブロック少量

- S K 367**
 1 暗褐色土 暗褐色土ブロック少量 炭化物微量
 2 暗褐色土 暗褐色土ブロック多量 炭化物微量
 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量



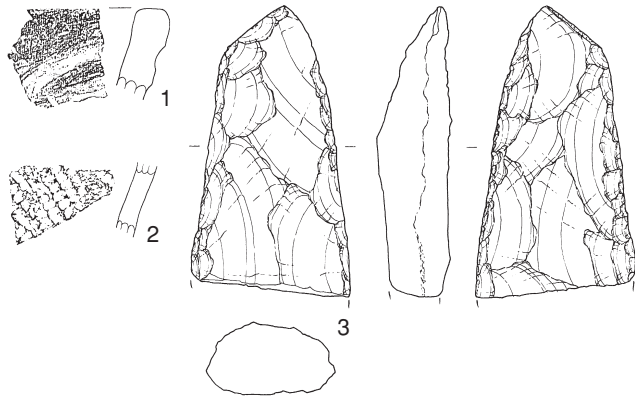
第421図 土壌 (24)



- S K375
 1 暗褐色土 暗褐色土ブロック多量 炭化物微量
 2 暗褐色土 ロームブロックと暗褐色土ブロックの混土
 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量
- S K376
 1 暗褐色土 暗褐色土粒子多量 白色微粒子少量
 2 暗黄褐色土 ローム粒子多量
- S K378
 1 暗褐色土 ロームブロック少量
- S K379
 1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量 しまり弱い
 2 黄褐色土 ロームブロック多量 しまり強い 粘性あり
- S K380
 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量
- S K381
 1 暗褐色土 ローム粒子少量
 2 暗黄褐色土 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化物微量
 3 黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量
- S K382
 1 暗褐色土 ローム粒子少量
 2 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量
 3 黒褐色土 ローム粒子微量
 4 暗黄褐色土 ローム粒子少量
 5 暗黄褐色土 ローム粒子多量 粘性なし
 6 黄褐色土 壁体の崩落土
- S K383
 1 暗黄褐色土 ロームブロック・黒色土ブロックを斑に含む しまり強い
- S K384
 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量
 2 黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量 しまり強い
- S K369
 1 暗褐色土 ロームブロックと暗褐色土ブロックの混土
 2 暗黄褐色土 ロームブロック多量
- S K370
 1 暗褐色土 暗褐色土ブロック・白色微粒子少量
 2 暗褐色土 炭化物微量 ロームブロックと暗褐色土ブロックの混土
 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量
- S K371
 1 暗褐色土 暗褐色土ブロック少量
 2 暗黄褐色土 ロームブロック多量
- S K372
 1 暗褐色土 暗褐色土ブロック多量
 2 暗黄褐色土 ロームブロック多量
- S K373
 1 暗褐色土 暗褐色土ブロック・白色微粒子少量
 2 暗黄褐色土 ロームブロック多量 炭化物微量
- S K374
 1 暗褐色土 暗褐色土粒子多量 白色微粒子少量
 2 暗黄褐色土 ローム粒子多量

第422図 土壌 (25)

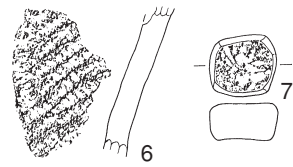
SK344 (1~3)



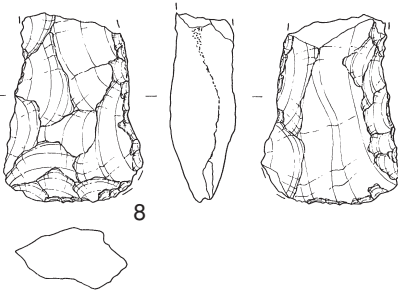
SK348 (4·5)



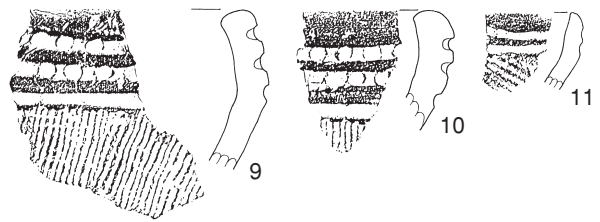
SK351 (6·7)



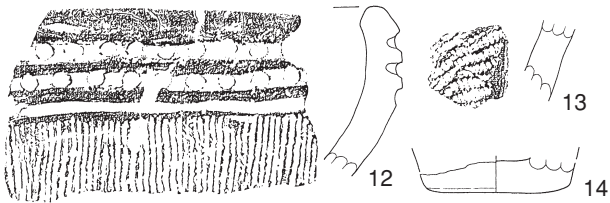
SK356 (8)



SK358 (9~11)



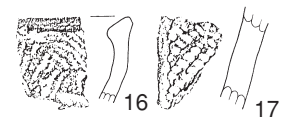
SK359 (12~14)



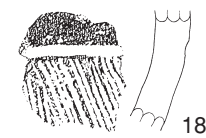
SK360 (15)



SK362 (16·17)



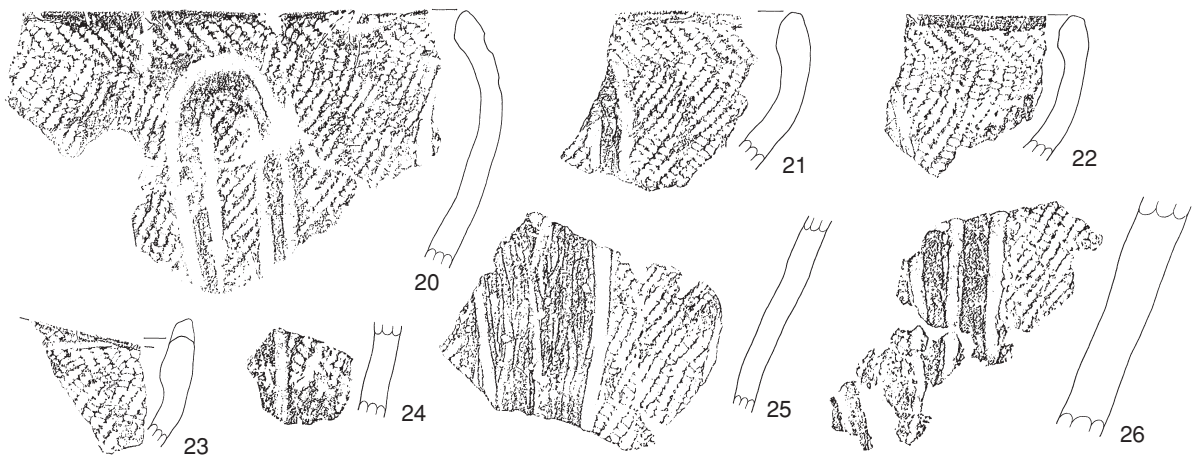
SK365 (18)



SK367 (19)



SK369 (20~26)



0 10cm 1:3

第423図 土壙出土遺物 (22)

第326号土壙 (第418図)

G-6グリッドに位置する。第102号住居跡内から検出された。平面形は楕円形で、長径1.60m、短径0.91m、深さ0.28mである。

第327号土壙 (第418図)

G-6グリッドに位置し、第102号住居跡、第320・328号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.48m、短径1.00m、深さ0.60mである。

第328号土壙 (第418図)

G-6グリッドに位置する。第102号住居跡、第327号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.98m、短径1.11m、深さ0.27mである。

第329号土壙 (第418図)

G-6グリッドに位置する。第102号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.40m、短径1.00m、深さ0.24mである。

第330号土壙 (第419図)

G-6グリッドに位置する。第102号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.67m、短径1.05m、深さ0.22mである。

第331号土壙 (第419図)

K・L-6グリッドに位置する。第181号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.29m、短径1.02m、深さ0.37mである。

第332号土壙 (第403図)

K・L-6グリッドに位置する。第206号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.43m、短径1.10m、深さ0.31mである。

第333号土壙 (第419・420図)

K-5・6グリッドに位置する。第441号土壙と接している。平面形は楕円形で、長径2.50m、短径1.43m、深さ0.89mである。

検出された第420図35・36・38は深鉢形土器の破片である。35は口縁部で微隆起伏の隆帯を施文し、地文は単節RLの縄文である。36は無節Rの縄文を横方向に施文する。38は地文のみで単節RLの縄文を施文する。37は浅鉢形土器の破片で、

地文は条線である。時期は中期後葉である。

第334号土壙 (第419図)

K-6グリッドに位置する。第441号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.64m、短径1.02m、深さ0.73mである。

第336号土壙 (第419図)

K-6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.31m、短径1.04m、深さ0.60mである。

第337号土壙 (第419・420図)

G-6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.49m、短径0.98m、深さ0.32mである。

第420図39~41は検出した深鉢形土器の破片である。39は口縁部で地文は単節RLの縄文を施文する。40・41は胴部で、40は単節LRの縄文を施文する。時期は中期後葉である。

第339号土壙 (第419図)

G-6・7グリッドに位置し、平面形は楕円形で、長径0.88m、短径0.75m、深さ0.32mである。

第340号土壙 (第419・420図)

F-7グリッドに位置する。第101号住居跡と重複する。平面形は円形で、長径1.22m、短径1.16m、深さ0.30mである。

第420図42・43は深鉢形土器の胴部の破片で、42は隆帯を垂下させる。43の地文は条線である。時期は中期後葉である。

第341号土壙 (第419図)

F・G-6グリッドに位置し、平面形は円形で、長径1.62m、短径1.48m、深さ0.46mである。

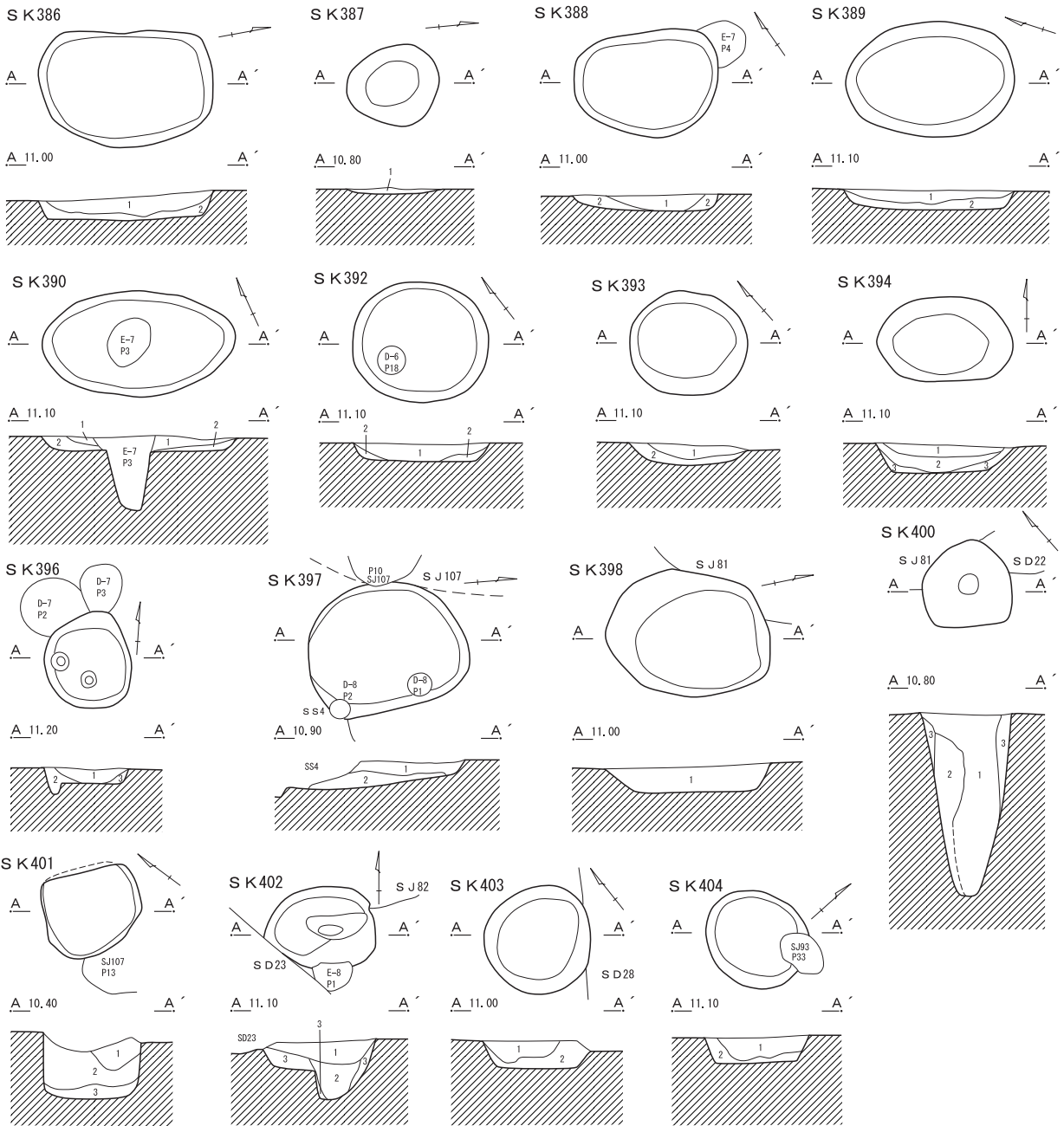
第343号土壙 (第419図)

F-7・8グリッドに位置する。第97号住居跡と重複する。平面形は不整形で、長径1.96m、短径0.75m、深さ0.28mである。

第344号土壙 (第419・423図)

F-8グリッドに位置する。第84・111号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.48m、短径1.12m、深さ0.20mである。

第423図1~3は検出された遺物で、1・2は



S K 386
 1 暗褐色土 ロームブロック微量
 2 暗黄褐色土 ローム粒子多量

S K 387
 1 暗褐色土 ロームブロック多量

S K 388
 1 暗褐色土 暗褐色土ブロック多量 炭化物少量
 2 暗褐色土 ロームブロック多量

S K 389
 1 暗褐色土 暗褐色土ブロック多量 炭化物少量
 2 暗褐色土 ロームブロック多量

S K 390
 1 暗褐色土 暗褐色土ブロック多量
 2 暗黄褐色土 ロームブロック多量 暗灰色粘土少量

S K 392
 1 暗褐色土 暗褐色土ブロック多量 炭化物微量
 2 暗黄褐色土 ロームブロック多量

S K 393
 1 暗褐色土 暗褐色土ブロック多量 炭化物微量
 2 暗黄褐色土 ロームブロック多量

S K 394
 1 暗褐色土 暗褐色土ブロック多量 炭化物微量
 2 暗黄褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック微量
 3 黄褐色土 ローム粒子微量 ロームブロック多量

S K 396
 1 暗褐色土 ローム粒子微量 ロームブロック少量
 2 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック微量
 3 暗黄褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック微量

S K 397
 1 暗褐色土 ローム粒子微量 ロームブロック少量
 2 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量

S K 398
 1 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック微量 炭化物少量

S K 400
 1 暗褐色土 ロームブロック少量
 2 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量
 3 黄褐色土 ローム粒子微量 ロームブロック多量

S K 394
 1 暗褐色土 暗褐色土ブロック・炭化物少量
 2 暗褐色土 炭化物微量 暗褐色土ブロックと暗灰色粘土の混土
 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量

S K 396
 1 暗褐色土 ローム粒子微量 ロームブロック少量
 2 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック微量
 3 暗黄褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック微量

S K 397
 1 暗褐色土 ローム粒子微量 ロームブロック少量
 2 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量

S K 398
 1 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック微量 炭化物少量

S K 400
 1 暗褐色土 ロームブロック少量
 2 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量
 3 黄褐色土 ローム粒子微量 ロームブロック多量

S K 401
 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック少量
 2 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック微量
 3 暗黄褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック微量

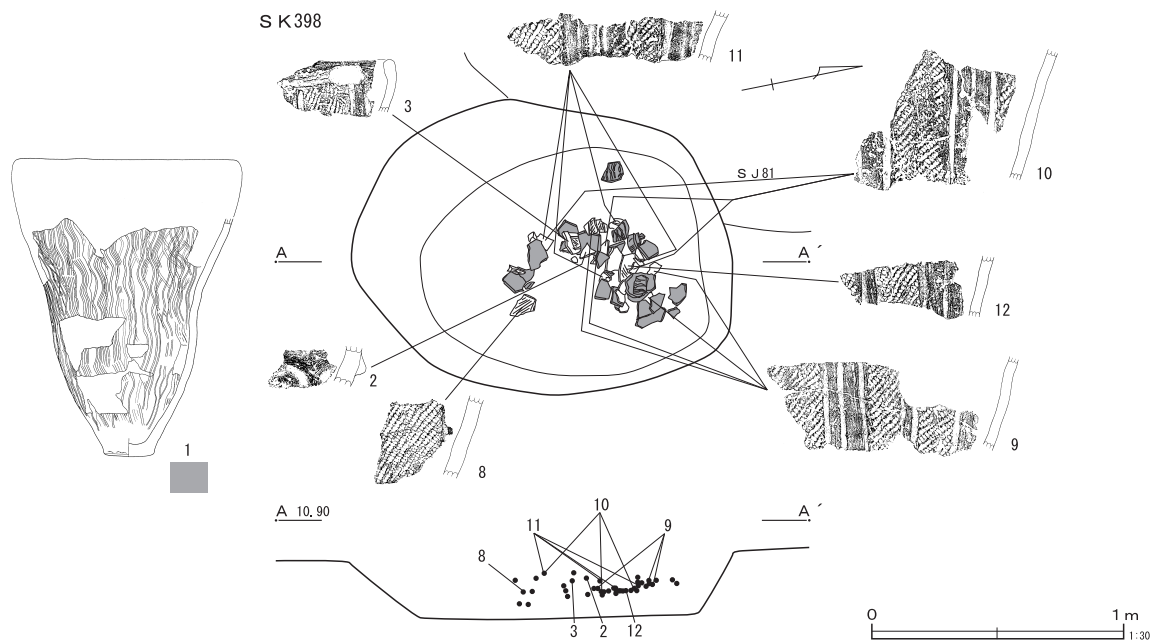
S K 402
 1 暗褐色土 暗褐色土ブロック多量 炭化物微量
 2 暗褐色土 暗褐色土ブロック主体に暗灰色粘土粒子を含む
 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量

S K 403
 1 暗褐色土 ロームブロック少量 炭化物微量
 2 暗黄褐色土 ロームブロック多量

S K 404
 1 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック微量
 2 暗黄褐色土 ローム粒子微量 ロームブロック少量



第424図 土壌 (26)



第425図 第398号土壇遺物出土状況

深鉢形土器の破片で1は口縁部、2は胴部である。2の地文は単節LRの縄文である。3は打製石斧で刃部を欠損する。時期は中期後葉である。

第345号土壇 (第410図)

F-8グリッドに位置する。第97号住居跡、第249号土壇と重複する。平面形は円形で、長径1.38m、短径1.26m、深さ0.26mである。

第346号土壇 (第410図)

F-8グリッドに位置する。第250号土壇と重複する。平面形は円形で、長径1.32m、短径1.26m、深さ0.72mである。

第348号土壇 (第418・423図)

G-6グリッドに位置する。第102号住居跡、第321・349号土壇と重複する。平面形は楕円形と推測され、長径1.59m、残存する短径1.08m、深さ0.23mである。

第423図4・5は検出された深鉢形土器の胴部の破片で、4は磨消沈線文を施文する。地文として単節RLの縄文を施文している。時期は中期後葉である。

第349号土壇 (第418図)

G-9グリッドに位置する。第102号住居跡、

第321・348号土壇と重複する。平面形は楕円形と推測され、残存する長径1.70m、短径1.20m、深さ0.27mである。

第351号土壇 (第419・423図)

P-5グリッドに位置する。南側は攪乱を受けている。平面形は楕円形と推測され、残存する長径0.73m、短径0.64m、深さ0.16mである。

検出された第423図6は深鉢形土器の胴部の破片で、地文は単節RLの縄文である。7は土製円盤である。時期は中期後葉である。

第352号土壇 (第419図)

P-5グリッドに位置する。半分以上が調査区域外に存在するため平面形は不明で、長径1.20m、残存する短径0.64m、深さ1.04mである。

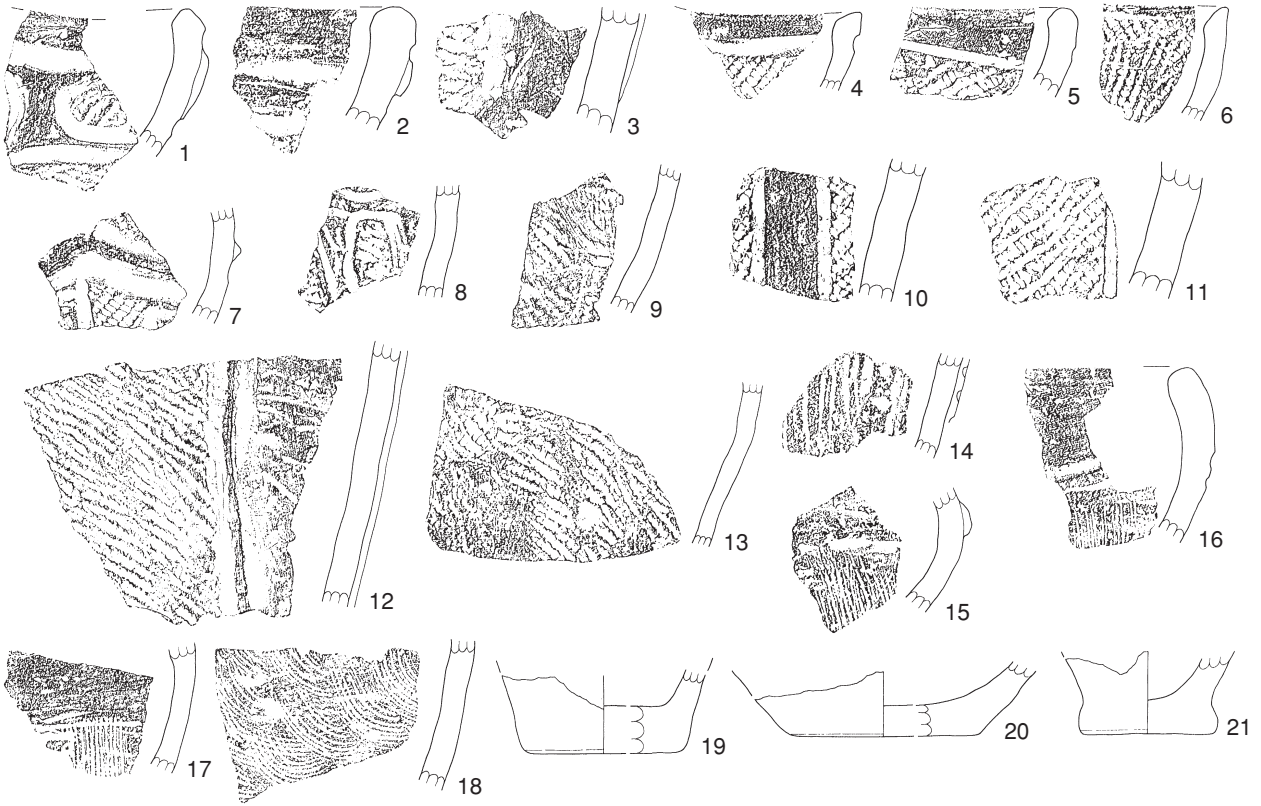
第353号土壇 (第419図)

O-5グリッドに位置する。第55号住居跡と重複する。平面形は不整形で、長径1.41m、短径1.05m、深さ0.90mである。

第354号土壇 (第421図)

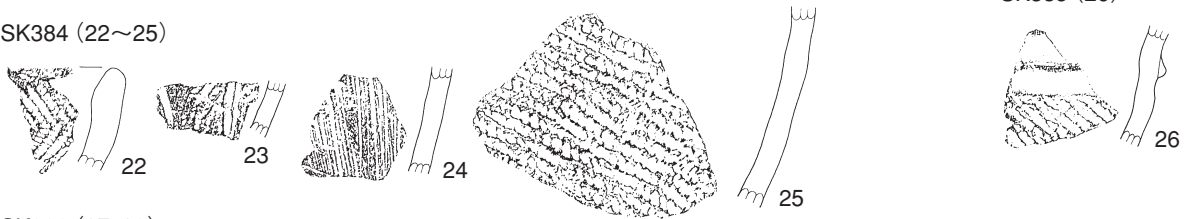
O-5・6グリッドに位置する。第95号住居跡と接している。平面形は楕円形で、長径1.80m、短径1.07m、深さ0.14mである。

SK381 (1~21)

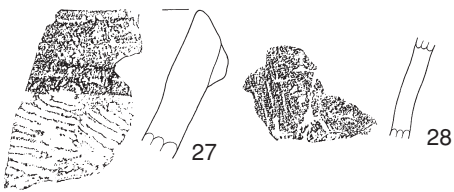


SK385 (26)

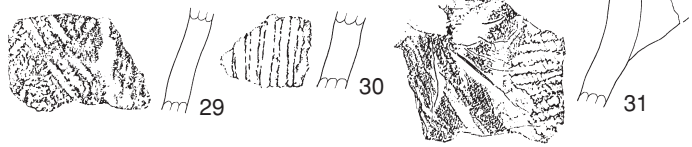
SK384 (22~25)



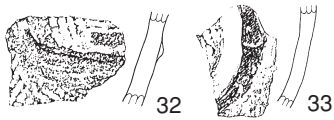
SK386 (27·28)



SK388 (29~31)



SK390 (32·33)



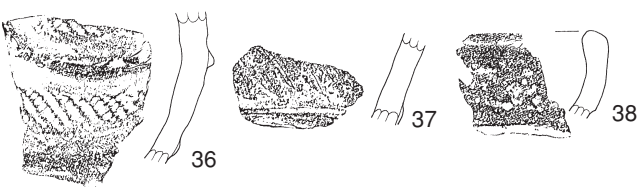
SK392 (34)



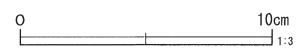
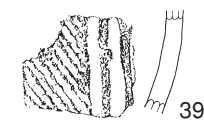
SK394 (35)



SK396 (36~38)

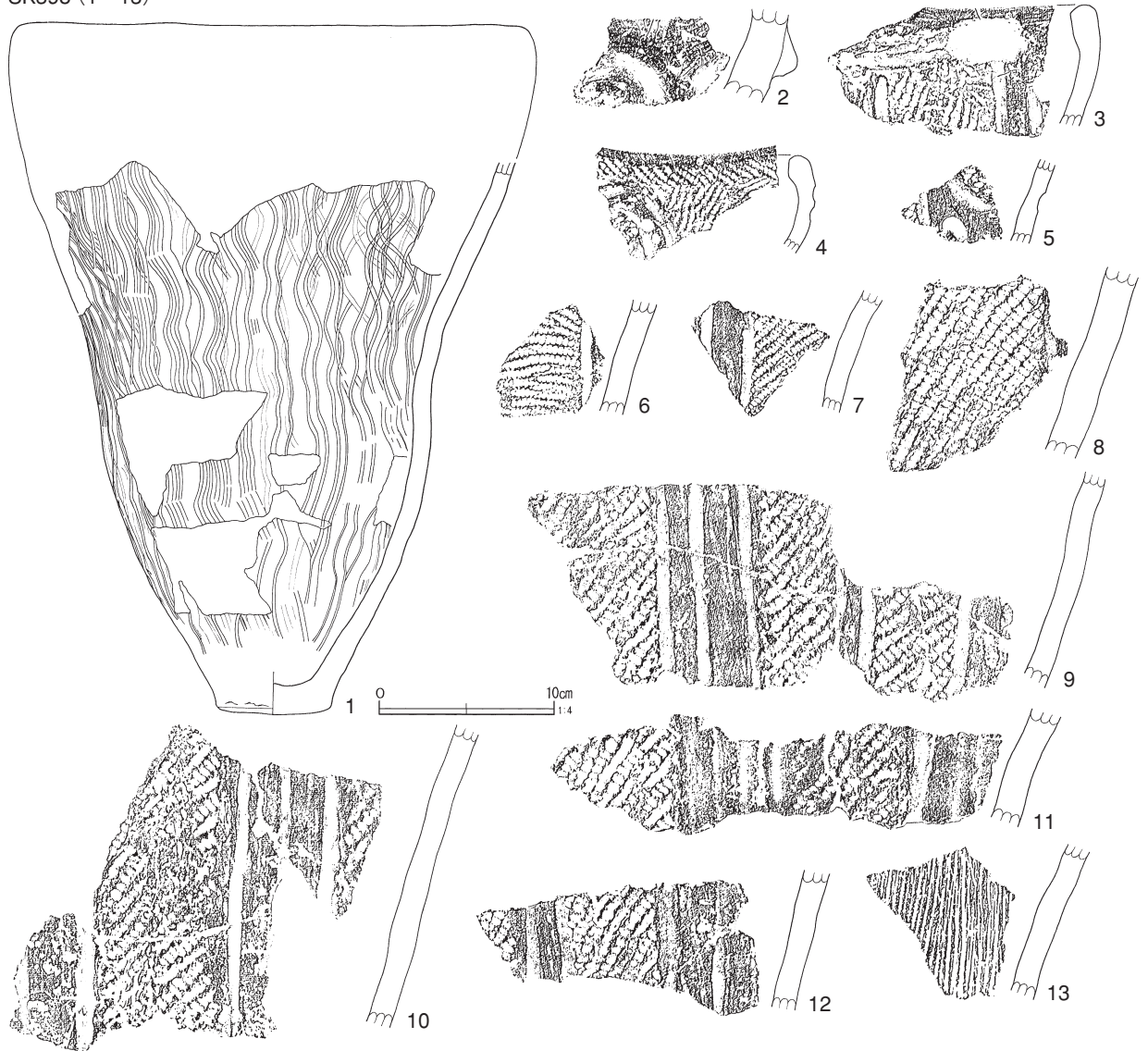


SK397 (39)

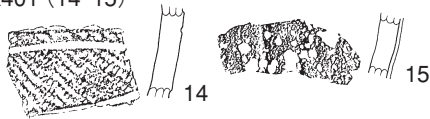


第426图 土壙出土遺物 (23)

SK398 (1~13)



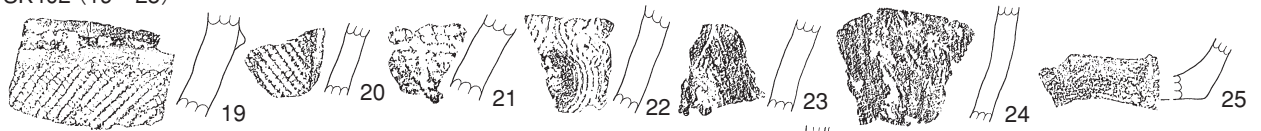
SK401 (14·15)



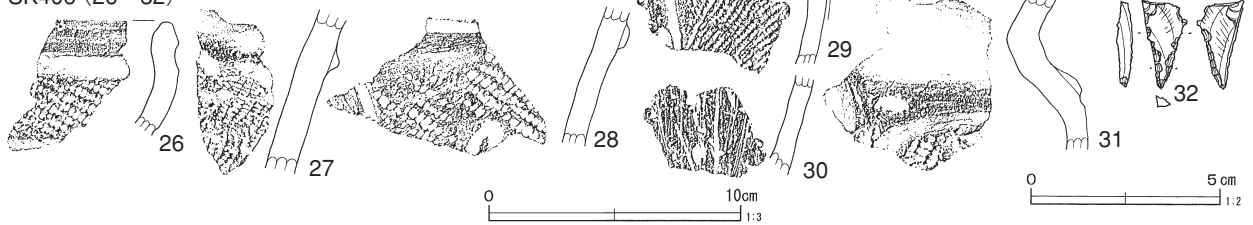
SK404 (16~18)



SK402 (19~25)



SK406 (26~32)



第427図 土壙出土遺物 (24)

第355号土壙 (第421図)

O-6グリッドに位置する。平面形は円形で、長径0.92m、短径0.92m、深さ0.16mである。

第356号土壙 (第421・423図)

N-6・7グリッドに位置する。南側は攪乱を受けているため平面形は不明で、長径1.55m、残存する短径0.91m、深さ0.22mである。

第423図8は検出された打製石斧である。

第357号土壙 (第421図)

N-7グリッドに位置する。攪乱のため平面形は不明で、長径1.20m、残存する短径0.56m、深さ0.26mである。

第358号土壙 (第421・423図)

E・F-6グリッドに位置し、第359号土壙と重複する。平面形は円形で、長径1.30m、短径1.09m、深さ0.30mである。

検出された第423図9～11は連弧文系土器の口縁部である。9・10は同一個体で地文は撚糸文Rの縄文を、11は単節RLの縄文を施文する。時期は中期後葉である。

第359号土壙 (第421・423図)

E・F-6グリッドに位置する。第358号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.50m、短径0.92m、深さ0.27mである。

検出された第423図12は第358号土壙出土の9・10と同一個体である。13・14は深鉢形土器の破片で、13は胴部で地文は単節RLの縄文である。14は底部である。時期は中期後葉である。

第360号土壙 (第421・423図)

E・F-6グリッドに位置し、平面形は楕円形で長径1.52m、短径1.18m、深さ0.31mである。

第423図15は検出された深鉢形土器の口縁部の突起部分である。遺物の時期は中期後葉である。

第361号土壙 (第421図)

E-6グリッドに位置する。第103号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径0.97m、短径0.80m、深さ0.45mである。

第362号土壙 (第421・423図)

E-6グリッドに位置する。第104・105号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.33m、短径1.07m、深さ0.30mである。

第423図16・17は検出された深鉢形土器の破片で、16は口縁部、17は胴部で地文は単節RLの縄文を施文する。時期は中期後葉である。

第363号土壙 (第421図)

E-6グリッドに位置する。第104号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.30m、短径0.65m、深さ0.21mである。

第364号土壙 (第421図)

E-6グリッドに位置する。第105号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.15m、短径0.80m、深さ0.26mである。

第365号土壙 (第421・423図)

E-6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.00m、短径0.78m、深さ0.31mである。

第423図18は検出された地文が条線の浅鉢形土器の胴部の破片で、時期は中期後葉である。

第366号土壙 (第421図)

E-6グリッドに位置する。平面形は円形で、長径0.86m、短径0.80m、深さ0.25mである。

第367号土壙 (第421・423図)

H-8グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径0.85m、短径0.70m、深さ0.27mである。

第423図19は検出された浅鉢形土器の破片である。時期は中期後葉と考えられる。

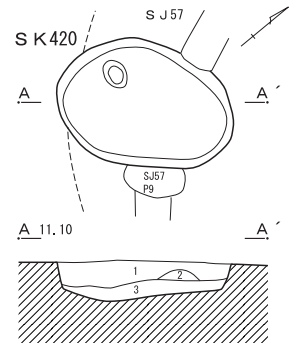
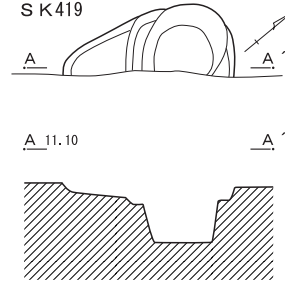
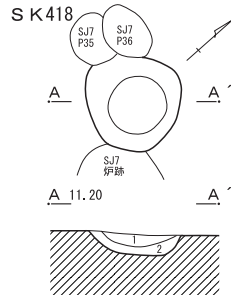
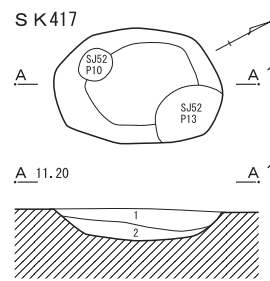
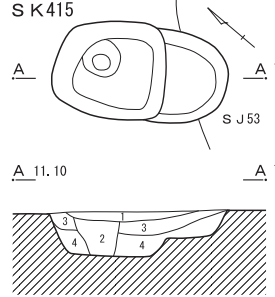
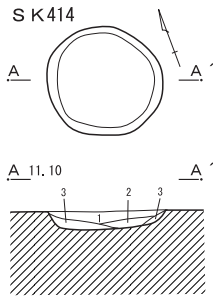
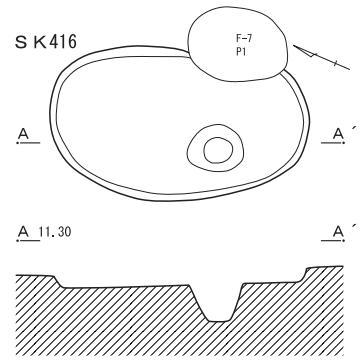
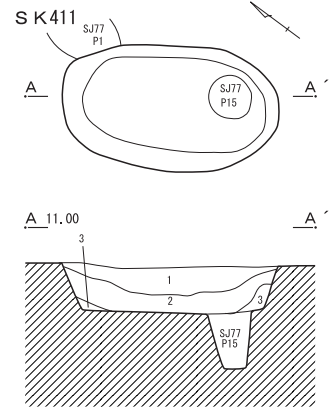
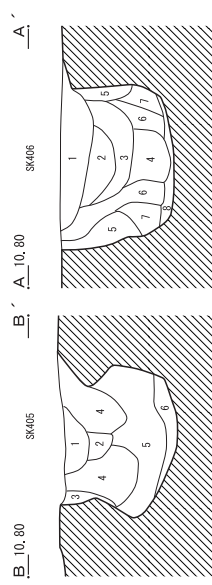
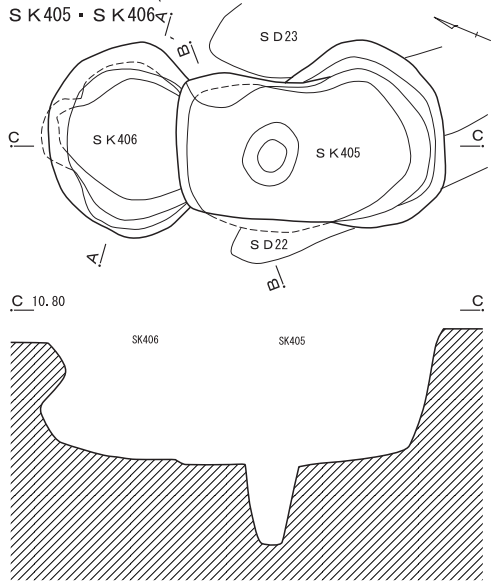
第368号土壙 (第416図)

H-8グリッドに位置する。平面形は円形で、長径0.68m、短径0.66m、深さ0.27mである。

第369号土壙 (第422・423図)

H-8グリッドに位置する。平面形は円形で、長径0.56m、短径0.50m、深さ0.31mである。

第423図20～26は検出された深鉢形土器で、20～22は同一個体の口縁部で胴部には磨消縄文の逆U字状文を施文する。23は波状口縁である。24～

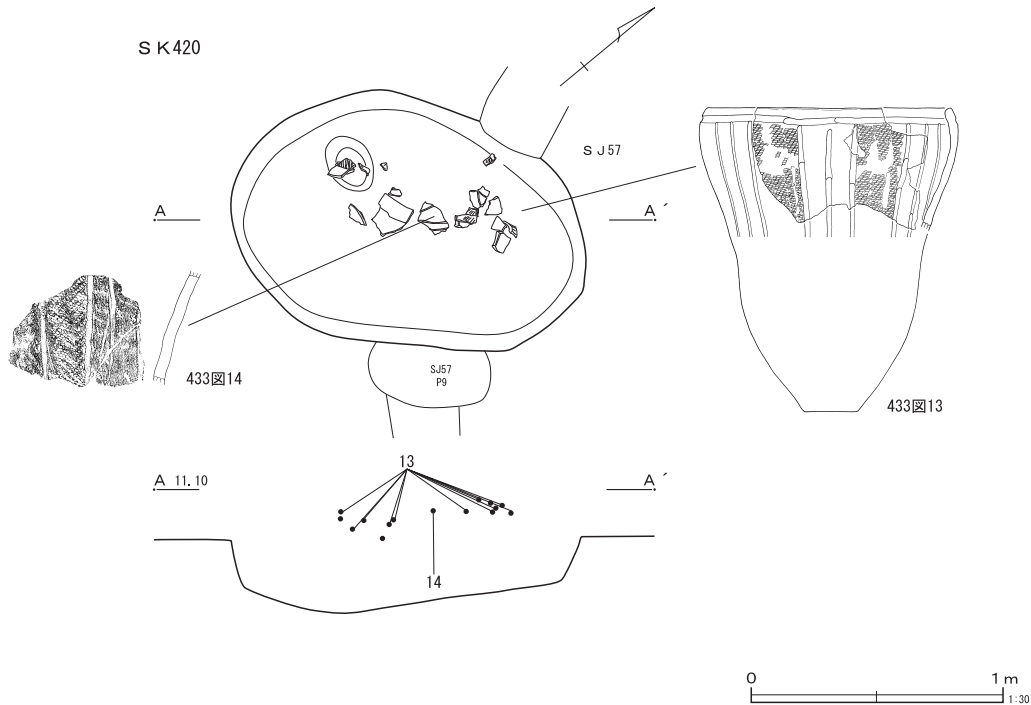


- SK405**
 1 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック・炭化物微量
 2 暗褐色土 ローム粒子少量
 3 暗黄褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック微量
 4 暗黄褐色土 崩落したローム壁
 5 暗黄褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック微量
 6 黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量
- SK406**
 1 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
 2 暗褐色土 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化物少量
 3 暗褐色土 ローム粒子・暗褐色土ブロック・炭化物少量
 4 黒褐色土 暗褐色土ブロック少量 炭化物多量
 5 暗褐色土 ロームブロックと暗褐色土ブロックの混土
 6 暗褐色土 ローム粒子少量 暗褐色土ブロック多量 ローム粒子少量
 7 暗褐色土 暗灰色粘土粒子多量
 8 暗黄褐色土 ロームブロック多量
- SK411**
 1 暗褐色土 ロームブロック・暗褐色土ブロック少量 炭化物微量
 2 暗褐色土 ロームブロック・暗褐色土ブロック多量 炭化物少量
 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量

- SK414**
 1 暗褐色土 暗灰色粘土ブロック多量 炭化物少量
 2 暗褐色土 暗褐色土ブロックとロームブロックの混土
 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量
- SK415**
 1 暗褐色土 暗灰色粘土ブロック多量 炭化物少量
 2 暗褐色土 暗褐色土ブロックとロームブロックの混土
 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量
 4 暗黄褐色土 暗灰色粘土粒子主体にローム粒子を多く含む
- SK417**
 1 黒褐色土 ローム粒子少量
 2 暗黄褐色土 ロームブロック多量
- SK418**
 1 暗褐色土 焼土粒子微量 炭化物少量
 2 暗褐色土 ローム小ブロック・灰色粘土粒子少量 炭化物微量
- SK420**
 1 暗褐色土 暗灰色粘土ブロック多量 炭化物少量
 2 暗褐色土 ロームブロック多量
 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量 暗灰色粘土粒子少量



第428図 土壌 (27)



第429図 第420号土壙遺物出土状況

26は胴部の破片である。いずれも地文は単節R Lの縄文である。時期は中期後葉である。

第370号土壙 (第422図)

H-8グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.00m、短径0.88m、深さ0.40mである。

第371号土壙 (第422図)

H-7グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.02m、短径0.82m、深さ0.20mである。

第372号土壙 (第422図)

H-6・7グリッドに位置し、平面形は楕円形で長径1.10m、短径0.83m、深さ0.39mである。

第373号土壙 (第422図)

G・H-6グリッドに位置し、平面形は円形で、長径1.20m、短径1.03m、深さ0.25mである。

第374号土壙 (第422図)

G-6グリッドに位置する。第102号住居跡と重複する。平面形は円形で、長径1.15m、短径1.04m、深さ0.25mである。

第375号土壙 (第422図)

F-6グリッドに位置する。平面形は円形で、

長径1.27m、短径1.23m、深さ0.27mである。

第376号土壙 (第422図)

H-7グリッドに位置する。第433号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.00m、短径0.96m、深さ0.31mである。

第377号土壙 (第422図)

H-5・6グリッドに位置する。第47号住居跡、第12号溝跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.30m、短径1.07m、深さ0.57mである。

第378号土壙 (第422図)

F-6グリッドに位置する。平面形は円形で、長径0.75m、短径0.73m、深さ0.27mである。

第379号土壙 (第422図)

F-6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径0.97m、短径0.60m、深さ0.18mである。

第380号土壙 (第422図)

F-7グリッドに位置する。平面形は方形で、長径0.91m、短径0.86m、深さ0.16mである。

第381号土壙 (第422・426図)

D-7グリッドに位置し、第112号住居跡、第

4号古墳と重複する。平面形は円形で、長径1.87m、残存する短径1.72m、深さ0.52mである。

第426図1～21は検出された土器である。1～13は深鉢形土器の破片で、1～3は文様帯を持つ口縁部、4～6は文様帯を持たない口縁部である。7～11は磨消沈線文を施文する胴部で、12は微隆起状の隆帯を貼付する。13は地文のみである。1・3・8・9は無節L、4・5・12・13は単節LR、6・7・10は単節RLの縄文を地文として施文する。11は太細の条を撚り合わせた単節RLを施文する。14は曾利系の深鉢形土器である。15～18は地文が条線の浅鉢形土器の破片である。19～21は底部の破片で、19は深鉢、20・21は浅鉢の底部と考えられる。時期は中期後葉である。

第382号土壙（第422図）

D-7グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径0.94m、短径0.83m、深さ0.72mである。

第383号土壙（第422図）

F-7グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.00m、短径0.78m、深さ0.15mである。

第384号土壙（第422・426図）

F-7グリッドに位置する。第88号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径0.86m、短径0.76m、深さ0.44mである。

検出された第426図22・23・25は深鉢形土器の破片で、22は口縁、23・25は胴部で地文は単節RLの縄文である。24は地文条線の浅鉢形土器の胴部の破片である。時期は中期後葉である。

第385号土壙（第422・426図）

F-7グリッドに位置する。第6号古墳が南側を壊している。平面形は不整形で、長径1.72m、残存する短径1.00m、深さ0.40mである。

検出された第426図26は深鉢形土器の口縁部の破片で、地文は単節RLの縄文である。時期は中期後葉である。

第386号土壙（第424・426図）

E-8グリッドに位置する。平面形は楕円形で、

長径1.57m、短径1.03m、深さ0.27mである。

検出された第426図27・28は深鉢形土器の破片で、27は口縁部で地文は無節Lである。28は磨消沈線文を施文する。時期は中期後葉である。

第387号土壙（第424図）

E-8グリッドに位置する。第28号溝跡と重複する。平面形は円形で、長径0.83m、短径0.75m、深さ0.04mである。

第388号土壙（第424・426図）

E-7グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.30m、短径0.96m、深さ0.14mである。

第426図29・30は深鉢形土器の胴部破片で、29は単節LRの縄文、30は条線を施文する。31は両耳壺の破片である。時期は中期後葉である。

第389号土壙（第424図）

E-7グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.52m、短径1.06m、深さ0.20mである。

第390号土壙（第424・426図）

E-7グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.76m、短径0.96m、深さ0.16mである。

検出された第426図32・33は深鉢形土器の口縁部の破片で、地文は単節RLの縄文である。時期は中期後葉である。

第392号土壙（第424・426図）

D・E-6グリッドに位置し、平面形は楕円形で長径1.24m、短径1.10m、深さ0.15mである。

検出された第426図34は無文の口縁部の破片である。時期は中期後葉と考えられる。

第393号土壙（第424図）

D-6グリッドに位置する。平面形は円形で、長径1.08m、短径0.95m、深さ0.20mである。

第394号土壙（第424・426図）

D-7グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.25m、短径0.82m、深さ0.26mである。

検出された第426図35は深鉢形土器の胴部の破片で、地文は単節RLの縄文である。時期は中期後葉である。

第396号土壙 (第424・426図)

D-6グリッドに位置する。平面形は円形で、長径0.88m、短径0.78m、深さ0.26mである。

第426図36～38は土器の破片で、36は深鉢形土器の口縁部で、地文は単節RLの縄文である。37は曾利系の深鉢形土器の頸部で地文は条線である。38は浅鉢形土器の無文の口縁部である。時期は中期後葉である。

第397号土壙 (第424・426図)

D-7・8グリッドに位置する。第107・112号住居跡、第4号古墳と重複する。平面形は楕円形で、長径1.46m、残存する短径1.15m、深さ0.22mである。

第426図39は検出された深鉢形土器の胴部の破片で、地文は無節Lの縄文である。時期は中期後葉である。

第398号土壙 (第424・425・427図)

E-8グリッドに位置する。第81・82号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.50m、短径1.12m、深さ0.26mである。

第427図1は復元された深鉢形土器で、口縁部は欠損する。地文である条線のみが施文される。

2～12は深鉢形土器の破片で、2～4は口縁部である。2は口縁部に文様を持つもので、3・4は口縁部に文様を持たないものである。6～12は磨消沈線文を施文する胴部である。9～12は同一個体である。地文は6が単節LRである以外は単節RLの縄文である。13は地文が条線の浅鉢形土器の胴部の破片である。時期は中期後葉である。

第400号土壙 (第424図)

E-8グリッドに位置する。第81号住居跡、第22号溝跡と重複する。平面形は円形で、長径0.82m、短径0.80m、深さ1.67mである。

第401号土壙 (第424・427図)

D-7・8グリッドに位置する。第107号住居跡、第19号溝跡と重複する。平面形は不整形で、長径0.89m、短径0.75m、深さ0.60mである。

第427図14・15は深鉢形土器の破片で、14は単節RLの縄文を地文とする。15は微隆起伏の隆帯を施文する。時期は中期後葉である。

第402号土壙 (第424・427図)

E-8グリッドに位置する。第82号住居跡と重複する。平面形は不整形で、長径1.02m、短径0.96m、深さ0.56mである。

第427図19～25は検出された深鉢形土器の破片で、19～24は胴部である。19は単節RL、20・21は単節LRの縄文を地文とする。22・23の地文は条線である。25は底部の破片である。時期は中期後葉である。

第403号土壙 (第424図)

E-8グリッドに位置する。平面形は円形で、長径0.98m、短径0.96m、深さ0.21mである。

第404号土壙 (第424・427図)

E・F-8グリッドに位置する。平面形は不整形で、長径1.23m、短径0.88m、深さ0.24mである。

第427図16～18は検出された深鉢形土器の胴部の破片で、16・17は単節RLの、18は単節LRの縄文を地文とする。時期は中期後葉である。

第405号土壙 (第428・433図)

E-8グリッドに位置する。第81号住居跡、第406号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.15m、残存する短径0.60m、深さ1.54mである。

検出された第433図1～8は深鉢形土器の破片で、1～3は口縁部で5～8は胴部である。地文として2・4・7は無節L、3・5・6・8は単節RLの縄文を施文する。9・10は浅鉢形土器の破片で地文は条線である。時期は中期後葉である。

第406号土壙 (第427・428図)

E-8グリッドに位置し、第81号住居跡、第405号土壙と重複する。平面形は円形で、長径1.53m、残存する短径1.23m、深さ0.92mである。

第427図26～29は深鉢形土器の破片で、26は口縁部、27～29は胴部で地文として26・27・29は単節RL、28は単節LRの縄文を施文する。30は地

文条線の浅鉢形土器の破片である。31は壺形土器の破片で、地文は単節LRの縄文である。32は石錐である。時期は中期後葉である。

第409号土壙 (第400図)

K-6グリッドに位置する。第184・186号土壙と重複する。平面形は楕円形で、残存する長径1.80m、短径1.02m、深さ0.33mである。

第410号土壙 (第413図)

G-6グリッドに位置する。第279・283号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.32m、短径0.90m、深さ0.52mである。

第411号土壙 (第428図)

K-5グリッドに位置する。第77号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.79m、短径0.97m、深さ0.43mである。

第412号土壙 (第414図)

G-6グリッドに位置する。第280号土壙と重複する。平面形は円形で、長径0.83m、残存する短径0.60m、深さ0.22mである。

第413号土壙 (第375図)

B-6グリッドに位置する。第37号土壙と重複する。平面形は楕円形で、残存する長径1.20m、短径1.04m、深さ0.21mである。

第414号土壙 (第428図)

L-6グリッドに位置する。第65号住居跡と重複する。平面形は円形で、長径0.92m、短径0.86m、深さ0.14mである。

第415号土壙 (第428図)

L・M-6グリッドに位置する。第53・65号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.58m、短径0.76m、深さ0.54mである。

第416号土壙 (第428図)

F-7グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径2.02m、短径1.20m、深さ0.16mである。

第417号土壙 (第428図)

M-6グリッドに位置する。第52号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.32m、短径

0.90m、深さ0.35mである。

第418号土壙 (第428図)

S-4グリッドに位置する。第7号住居跡と重複する。平面形は円形で、残存する長径0.65m、短径0.63m、深さ0.15mである。

第419号土壙 (第428図)

M-8グリッドに位置する。第61号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、残存する長径1.34m、短径0.51m、深さ0.49mである。

第420号土壙 (第428・429・433図)

L-5・6グリッドに位置する。第57号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.44m、短径1.00m、深さ0.25mである。

第433図12・13は検出された深鉢形土器で、同一個体となるものである。無文の口縁部で、胴部には3本1組の磨消沈線文を垂下させている。地文は単節RLの縄文を施文する。時期は中期後葉である。

第421号土壙 (第430図)

O-7グリッドに位置する。第35号住居跡と重複する。土層断面から第421号土壙が古い。平面形は楕円形で、長径2.12m、短径1.08m、深さ0.11mである。

第422号土壙 (第430図)

C・D-7グリッドに位置し、平面形は円形で、長径0.94m、短径0.92m、深さ0.13mである。

第423号土壙 (第430図)

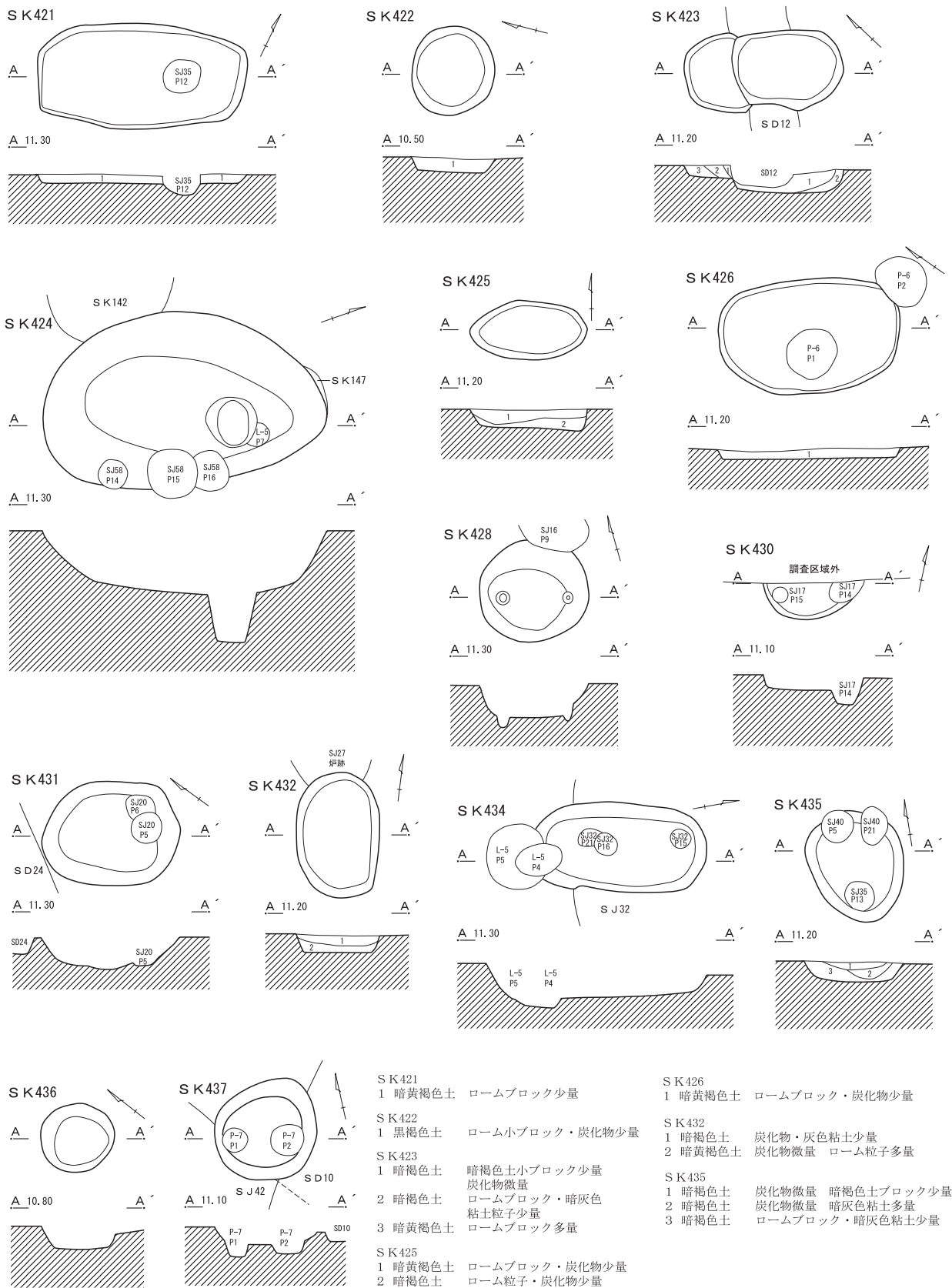
H-6グリッドに位置する。中央部分を近世以降の第12号溝跡が縦断する。第47号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.61m、短径0.85m、深さ0.29mである。

第424号土壙 (第430図)

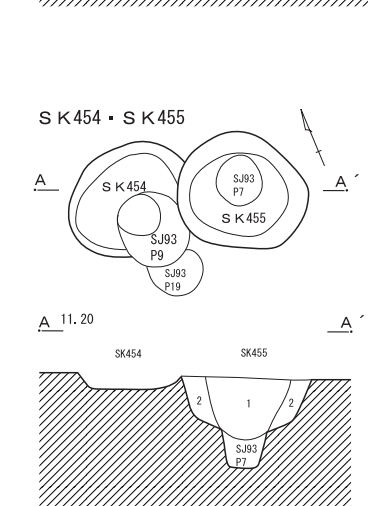
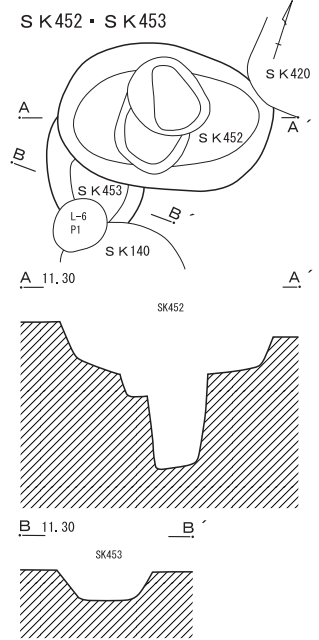
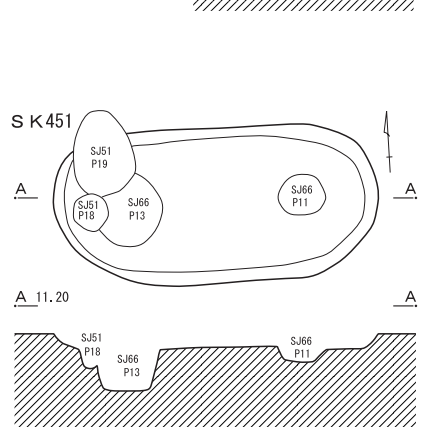
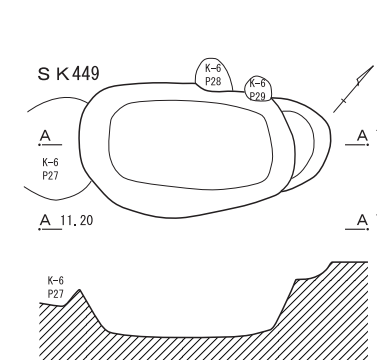
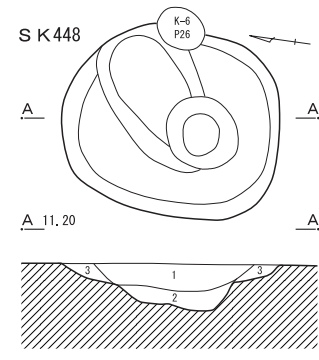
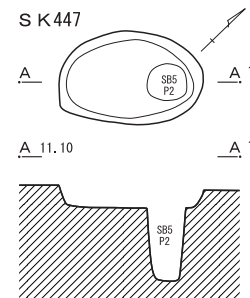
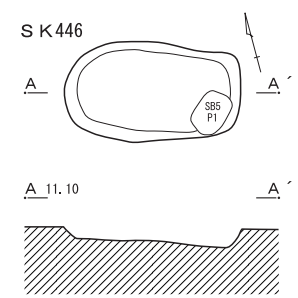
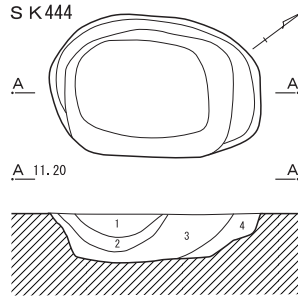
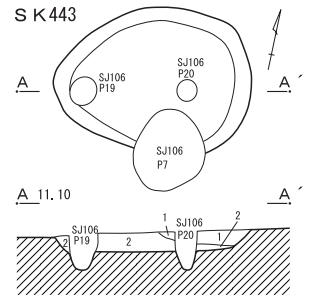
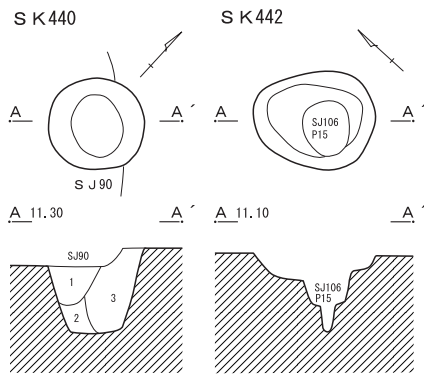
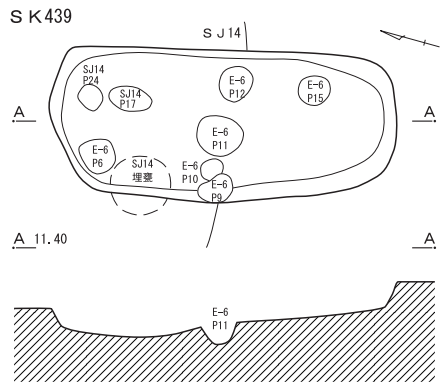
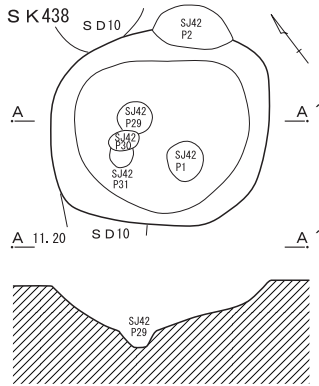
L-5グリッドに位置する。第58号住居跡、第142・147号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径2.86m、短径1.84m、深さ0.65mである。

第425号土壙 (第430図)

O・P-6グリッドに位置し、平面形は楕円形



第430図 土壌 (28)

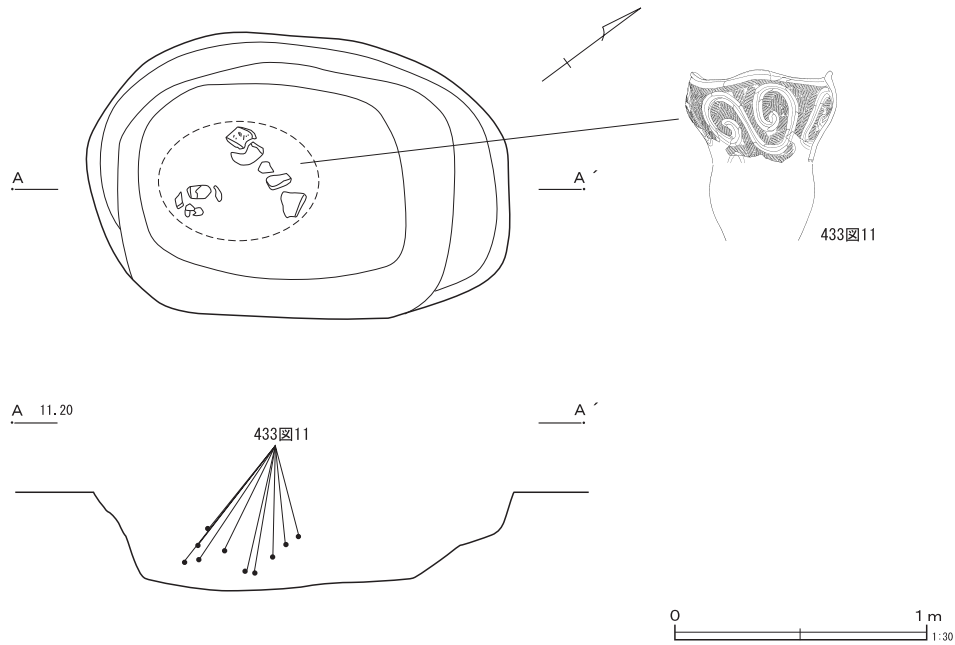


- SK 440
 1 暗褐色土 ローム小ブロック少量 暗灰色粘土粒子多量
 2 暗褐色土 ロームブロック多量 炭化物微量
 3 暗褐色土 暗褐色土ブロック多量 炭化物微量
- SK 443
 1 暗褐色土 暗褐色土ブロック・炭化物少量
 2 暗黄褐色土 ロームブロック多量
- SK 444
 1 黒褐色土 黒色粒子少量
 2 黒褐色土 黒色粒子・焼土粒子・ローム粒子少量
 3 黒褐色土 ロームブロック少量 遺物包含層
 4 暗褐色土 ロームブロック多量
- SK 448
 1 暗褐色土 炭化物・ローム小ブロック少量
 2 暗褐色土 炭化物微量 暗灰色粒子少量
 3 暗褐色土 暗褐色土主体 ロームブロックを含む
- SK 455
 1 暗褐色土 炭化物・白色微粒子・暗褐色土ブロック少量
 2 暗褐色土 暗褐色土主体 ローム小ブロック少量



第431図 土壌 (29)

S K 444



第432図 第444号土壇遺物出土状況

で、長径1.22m、短径0.60m、深さ0.21mである。

第426号土壇 (第430図)

O・P-6グリッドに位置し、平面形は楕円形で、長径1.85m、短径1.15m、深さ0.10mである。

第427号土壇 (第395図)

J・K-6グリッドに位置する。第148号土壇と重複する。平面形は楕円形で、長径1.20m、短径1.11m、深さ0.38mである。

第428号土壇 (第430図)

E・F-5グリッドに位置する。第16号住居跡と重複する。平面形は円形で、長径1.10m、短径1.04m、深さ0.36mである。

第429号土壇 (第396図)

K-6・7グリッドに位置する。第156号土壇と重複する。平面形は楕円形で、長径1.12m、短径0.80m、深さ0.86mである。

第430号土壇 (第430図)

E-5グリッドに位置する。北側部分が調査区域外となっている。第17号住居跡と重複し、住居跡の土層断面から第430号土壇が古い。平面形は

不明で、長径1.02m、短径0.36m、深さ0.15mである。

第431号土壇 (第430図)

I-4グリッドに位置する。第20号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.40m、短径1.16m、深さ0.34mである。

第432号土壇 (第430図)

N-3・4グリッドに位置する。第27号住居跡と重複する。土層からは第432号土壇が古い。平面形は楕円形で、長径1.28m、短径0.86m、深さ0.18mである。

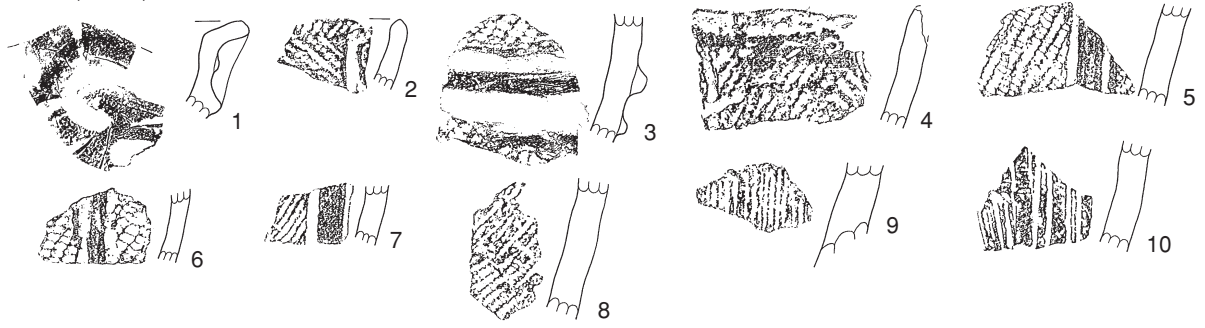
第433号土壇 (第413図)

H-7グリッドに位置する。第274・376号土壇と重複する。土層から第274号土壇より古い。平面形は楕円形で、長径1.30m、短径0.84m、深さ0.58mである。

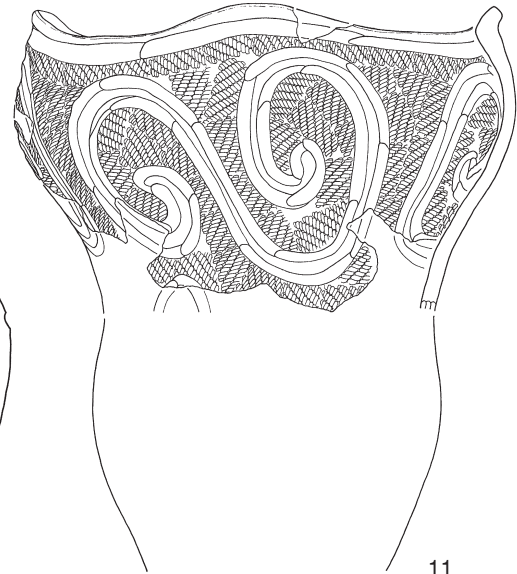
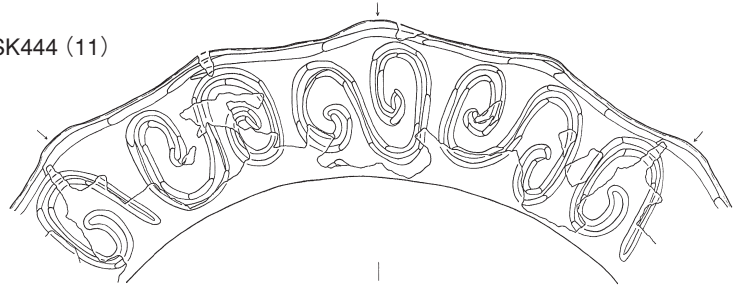
第434号土壇 (第430図)

L-5グリッドに位置する。第32号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.48m、短径0.90m、深さ0.36mである。

SK405 (1~10)

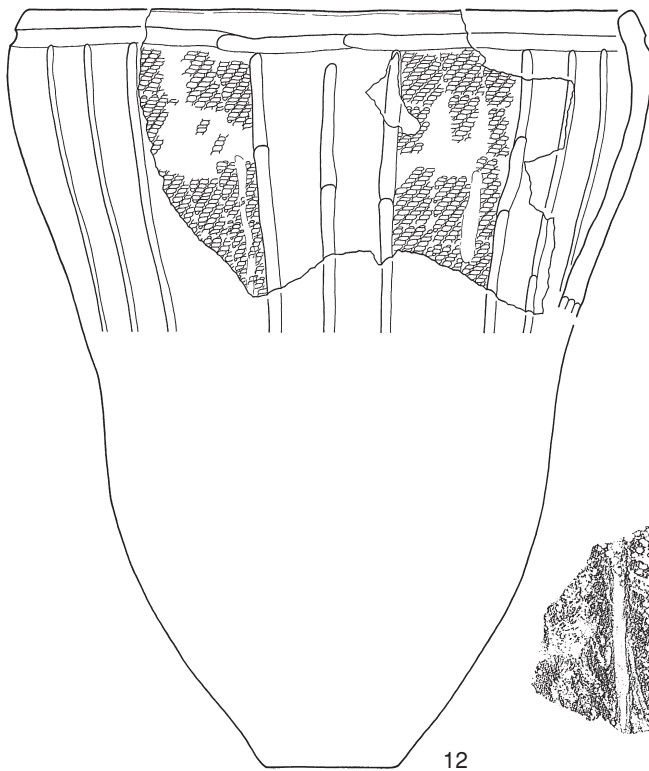


SK444 (11)

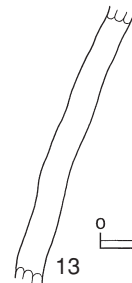


11

SK420 (12·13)



12



13

0 10cm 1:4

0 10cm 1:3

第433図 土壙出土遺物 (25)

第435号土壙 (第430図)

O-7グリッドに位置する。第35・40号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.16m、短径0.96m、深さ0.24mである。

第436号土壙 (第430図)

E-9グリッドに位置する。第78号住居跡と重複する。平面形は円形で、長径0.76m、短径0.70m、深さ0.24mである。

第437号土壙 (第430図)

P-7グリッドに位置する。近世以降の第10号溝跡が東側で重複する。西側で第42号住居跡と重複する。平面形は円形で、長径1.10m、短径1.04m、深さ0.32mである。

第438号土壙 (第431図)

P-7グリッドに位置する。第42号住居跡と重複する。平面形は方形で、長径1.70m、短径1.52m、深さ0.52mである。

第439号土壙 (第431図)

E-6グリッドに位置する。第14・100・104号住居跡と重複する。第14号住居跡の埋甕が第439号土壙の埋没後に掘り込まれている。平面形は長方形で、長径2.74m、短径1.20m、深さ0.48mである。

第440号土壙 (第431図)

G-7グリッドに位置する。第90号住居跡と重複する。平面形は円形で、長径0.76m、短径0.72m、深さ0.70mである。

第441号土壙 (第419図)

K-6グリッドに位置する。第334号土壙と重複する。土層断面から第334号土壙が新しい。平面形は楕円形で、長径2.00m、短径1.08m、深さ0.28mである。

第442号土壙 (第431図)

D-7グリッドに位置する。第106号住居跡と重複する。土層断面から第106号住居跡が新しい。平面形は楕円形で、長径0.96m、短径0.78m、深さ0.20mである。

第443号土壙 (第431図)

D-7グリッドに位置する。第106号住居跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.56m、短径1.10m、深さ0.21mである。

第444号土壙 (第431・432・433図)

K-7グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.66m、短径1.12m、深さ0.39mである。

遺物は深鉢形土器(第433図11)が土壙の南側から、破片の状態でもとまって検出された。

第433図11は復元された深鉢形土器である。口縁部から胴部上半が全周している土器である。胴部下半は検出されなかった。当初はこの状態で埋設されていたと考えられる。狭い無文の口縁部は4単位の波状口縁を持ち、胴部とは幅広の沈線を巡らして区画される。胴部上半には2本1組の磨消沈線文で端部が渦巻く横S字状の文様を2単位と、反転した文様が1単位、渦巻き文が1単位と3種の文様を4単位施文している。胴部下半には逆U字状文が施文されていたと考えられる。地文は単節RLの縄文を口縁部直下では横方向に、他は形状に合わせて充填している。時期は中期末葉である。

第445号土壙 (第374図)

F-5グリッドに位置する。第29号土壙と重複する。土層断面から第29号土壙が新しい。平面形は円形で、長径0.98m、短径0.98m、深さ0.26mである。

第446号土壙 (第431図)

L-6グリッドに位置する。第5号掘立柱建物跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.38m、短径0.80m、深さ0.18mである。

第447号土壙 (第431図)

L-6・7グリッドに位置する。第5号掘立柱建物跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.12m、短径0.74m、深さ0.20mである。

第448号土壙 (第431図)

K-6・7グリッドに位置する。平面形は円形

で、長径1.70m、短径1.48m、深さ0.38mである。

第449号土壌 (第431図)

K-6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径2.00m、短径1.06m、深さ0.58mである。

第451号土壌 (第431図)

N-6グリッドに位置する。第51・66号住居跡と重複する。住居跡の土層断面から第451号土壌が古い。平面形は楕円形で、長径2.54m、短径1.22m、深さ0.11mである。

第452号土壌 (第431図)

L-6グリッドに位置する。第58号住居跡、第420・453号土壌と重複する。平面形は楕円形で、長径1.69m、短径1.14m、深さ1.16mである。

第453号土壌 (第431図)

L-6グリッドに位置する。第58号住居跡、第140・452号土壌と重複する。平面形は楕円形で、長径0.75m、残存する短径0.30m、深さ0.22mである。

第454号土壌 (第431図)

E-8グリッドに位置する。第93号住居跡、第

455号土壌と重複する。住居跡の土層断面から第93号住居跡よりも第454号土壌が新しい。平面形は楕円形で、長径1.04m、残存する短径0.40m、深さ0.15mである。

第455号土壌 (第431図)

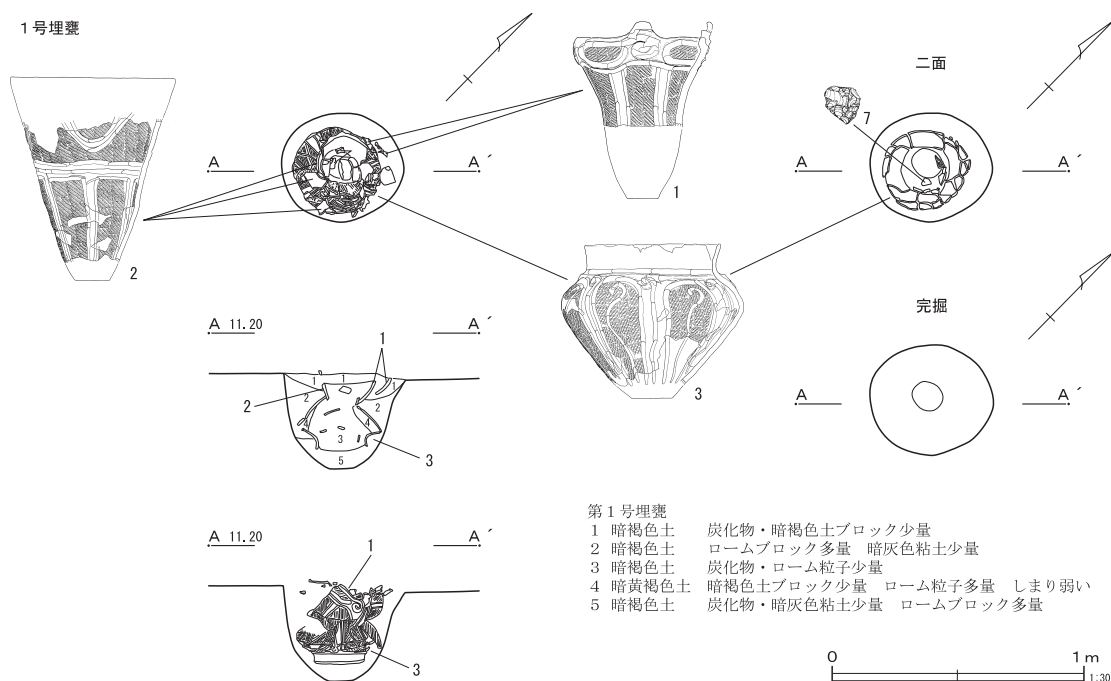
E・F-8グリッドに位置する。第93号住居跡、第454号土壌と重複する。住居跡の土層断面から第93号住居跡よりも新しい。平面形は楕円形で、長径1.03m、短径0.91m、深さ0.36mである。

(4) 埋甕

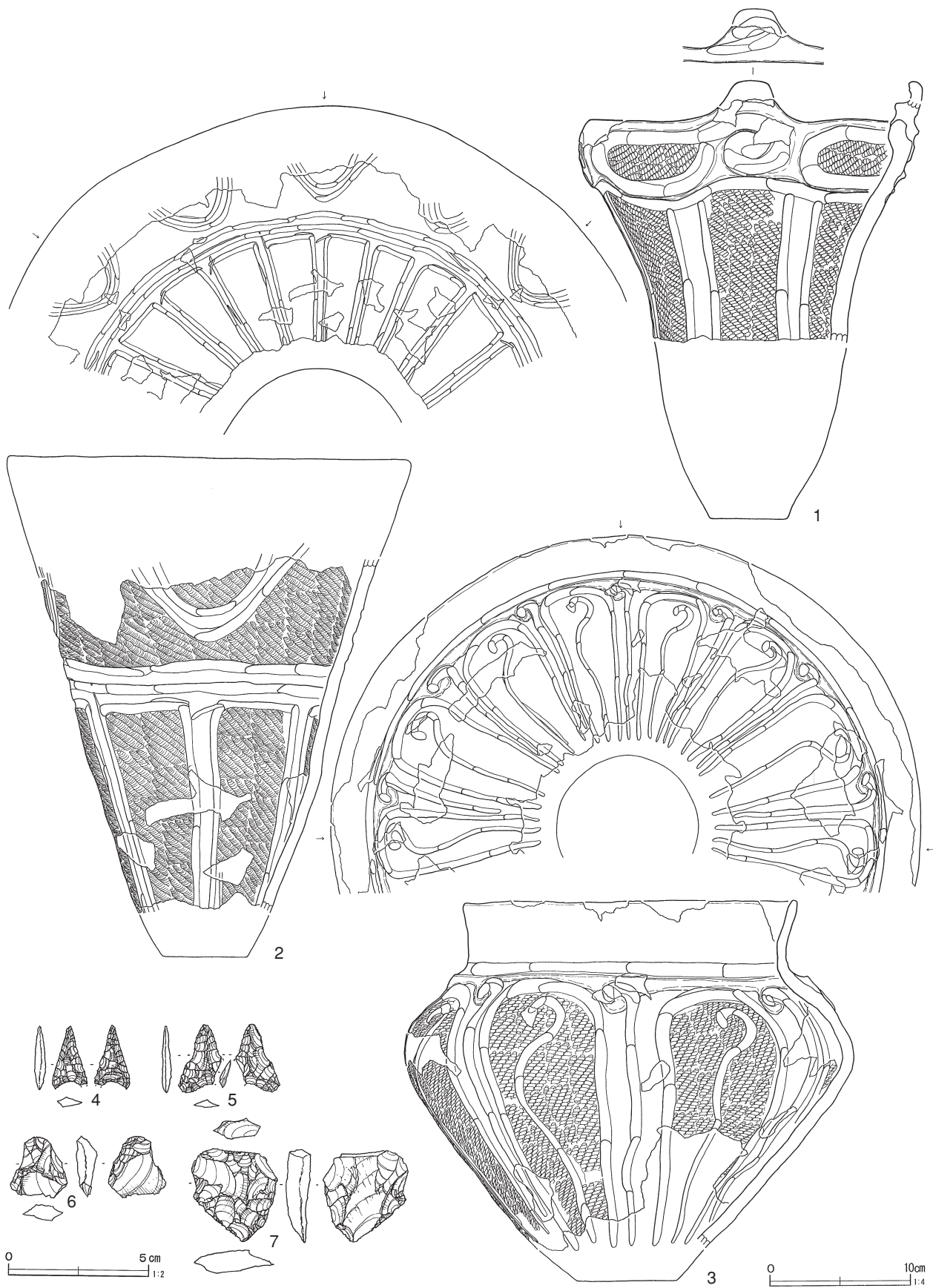
第1号埋甕 (第434・435図)

N-7グリッドから検出された。ピット状の掘り込みとなっており、当初は住居跡の入り口部の埋甕であるとも考えられたが、伴う住居跡がないため、単独の埋甕として報告することとした。長径0.45m、短径0.38m、深さ0.39mである。

遺構内からは埋甕として、器形や系統の異なる土器が3個体埋設されて検出された。いずれも中型のもので、土壌の伏甕などに使用された大型の



第434図 第1号埋甕



第435图 第1号埋甕出土遺物

土器とは異なる検出状況であった。

ピット状の掘り込みの底には、底部を欠損した壺形土器（第435図3）が逆位に埋設されていた。その失われた底部に合わせてるように、深鉢形土器（1・2）が2重に正位で埋設されていた。2が内側の土器で、底部部分は欠損する。口縁部分も欠損するが削平などによって失われた可能性が高い。全周する土器である。さらにその外側に巡らすように埋設された1は、胴部下半が欠損するものである。割れ口のラインが揃っているため、埋設時に故意に欠損させているとも考えられる。口縁部の一部も欠損するが、ほぼ全周している。

また埋設された土器の内部からは、チャート製の石鏃などの小型石器が4点検出された（4～7）。

第435図1は胴部下半を欠損するキャリパー系深鉢形土器である。口縁部には1カ所の突起が付けられ、それ以外は平縁となっている。口縁部の隆帯とそれに沿った幅広の沈線によって施文される文様は、右側の端部を渦巻きとし、左側の端部は大きく曲げて楕円区画文を施すもので、4単位を施文している。また口縁部の突起の内面部分にも、沈線によって渦巻き文を施している。胴部とは口縁部の文様に沿って緩やかな波状となる沈線文によって区画されている。胴部には2本1組の磨消沈線文を7単位垂下させている。地文は単節LRの縄文を口縁部の区画文内は横方向に、胴部は縦方向に施文している。推定される口径は22cmである。

2は口縁部と底部を欠損するもので、器形は口縁部から直線的に底部にいたるバケツ状となるもので、連弧文系の深鉢形土器である。頸部には2本1組の磨消沈線文を横方向に巡らして胴部との区画文としている。口縁部には4単位の波状文が2本1組の磨消沈線によって施文されている。胴部には上部が角状となる逆U字状文を8単位施文している。地文は無節Lの縄文を口縁部、胴部と

もに縦方向に施文している。

3は壺形土器で底部を欠損している。口縁部は無文で、胴部とは幅広の浅い沈線文で区画されている。沈線文下には微隆起伏の隆帯が帯状に施文され、胴部の蕨手文の渦巻き部分では文様に合わせて渦巻き状に隆帯を施文している。胴部には逆U字状文を沈線によって7単位施文し、内側には1単位ずつ蕨手文を沈線で施文している。また逆U字状文の文様間には、渦巻き部分に隆帯を施す蕨手文が7単位施文されている。地文は単節RLの縄文を逆U字状文内のみに縦方向に施している。口径は24cmである。

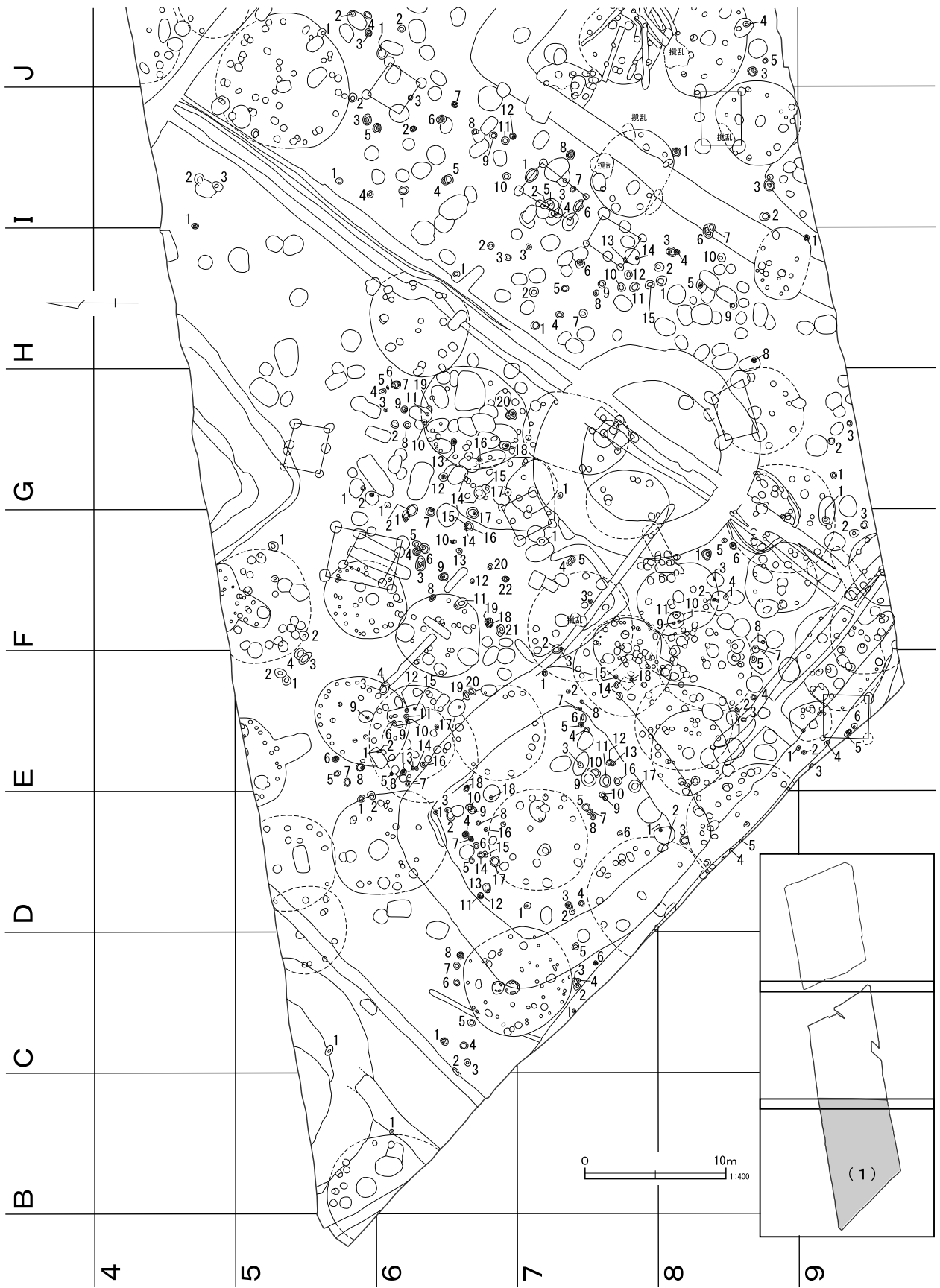
4～7はチャート製の小型石器で、4・5は石鏃、6・7はスクレイパーと考えられる。4は右脚部の先端を欠損するもので、基部には浅い挟りが入っている。両面ともに丁寧な調整がなされている。5は右脚部を欠損するもので、両側縁に浅い挟りが入り、基部にも浅い挟りが入っている。6は剥片の鋭い端部をそのまま刃部として利用している。7は先端がやや尖るもので、側縁から調整を施している。

（5）ピット（第436～438図）

調査区内からは、ピットとよばれる小穴状の遺構が多数検出されている。かたよりはなく、調査区内全体に分布している。そのためその多くが、住居跡や掘立柱建物跡に使用されていたと考えられるが、調査において帰属が不明であったため、ピットとして報告することとした。

またピットのなかには、縄文時代以外の時期のものも含まれることが考えられるが、ここでは一括している。

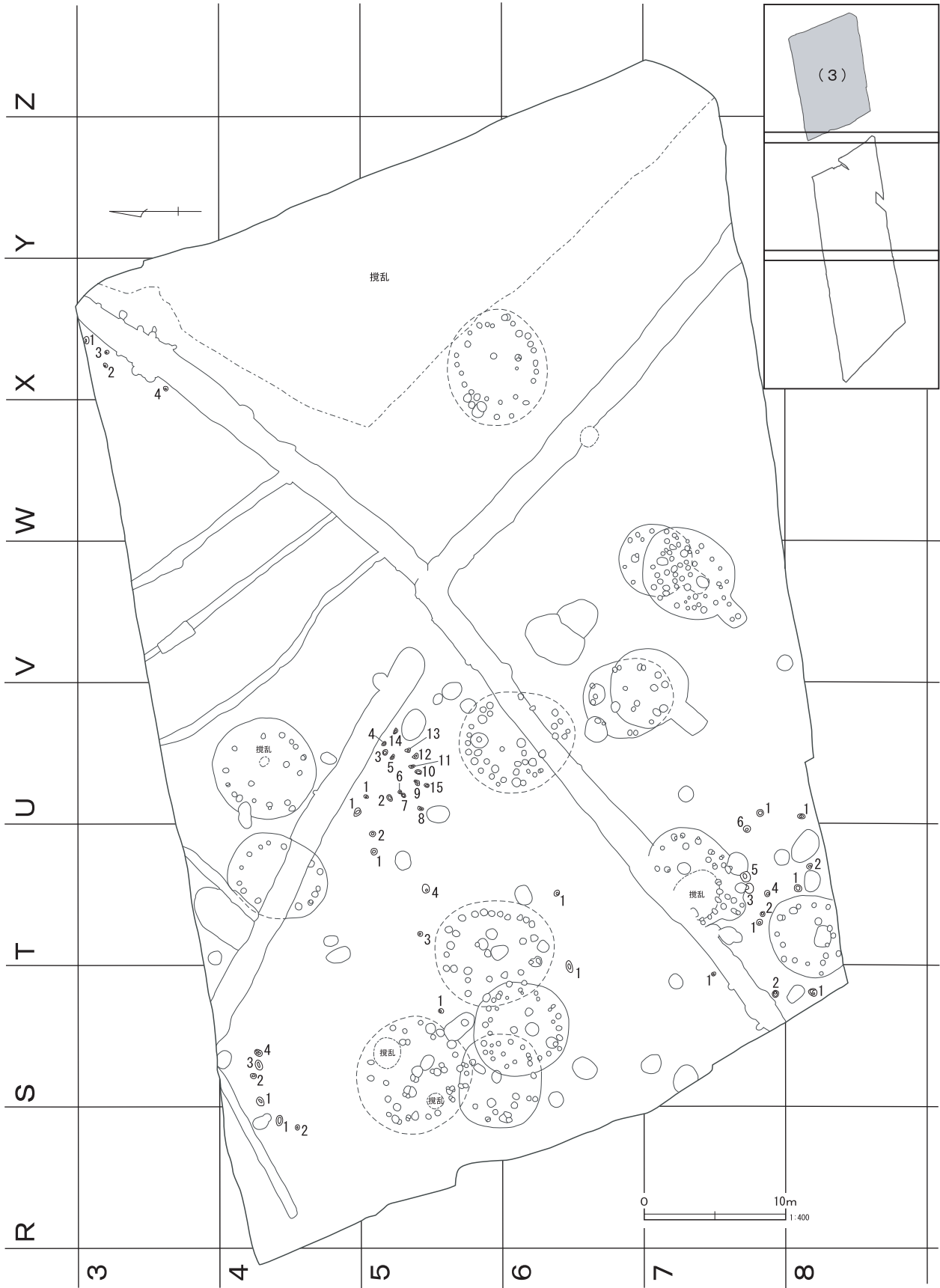
ピットはグリッドでまとめることとし、グリッドごとに番号を1から振っている。ピットの形状や計測値については、グリッドピット一覧表（第9表）に記載している。



第436図 ピット全体図 (1)



第437図 ピット全体図 (2)



第438図 ピット全体図 (3)

(6) グリッド出土遺物

グリッド出土土器

縄文時代の遺構外から検出された土器を一括してまとめた。

第I群土器

縄文時代早期の土器群を一括する。

第1類土器 (第440図4~7)

撚糸文系土器群を一括する。4は肥厚口唇部が強く外反する器形で、口唇部の内面には面取り状の強いナデ状整形を横位に施す。口唇部上面と外端部は約90度の面構成を持ち、それぞれに単節RL縄文を施文する。口縁部は地文に単節RLの条をやや横走気味に施文し、その後、親指を強く当てて口唇部を屈曲させている。それは、口唇屈曲部に残る指頭圧痕内に、やや潰された縄文が観察されることから理解される。口縁部周辺の加飾の順位は、口縁部縄文施文→口唇部屈曲成形→口唇上端部縄文施文→口唇外端部縄文施文の順である。口唇部内面の面取り状整形は、口唇上端部の縄文施文後に行われていることから、口縁部周辺では最後の工程として行われていることが想像される。胎土に石英・長石類の細砂粒を含み、白色粒子が目立つ。井草I式に比定される。

5は若干肥厚する口縁部が緩く外反し、口唇外端部に節の大きい単節RLと思われる縄文を横位施文する。口縁部には指頭圧痕文が強く残され、胴部には単節RLの縦走縄文を施文する。井草II式から夏島式に位置付けられる。

6は肥厚する口縁部が立つ器形で、口縁部に凹線状の整形を施し、口縁部から胴部に通して細くて疎らな撚糸Lを縦走施文する。5と同じ時期に位置付けられよう。

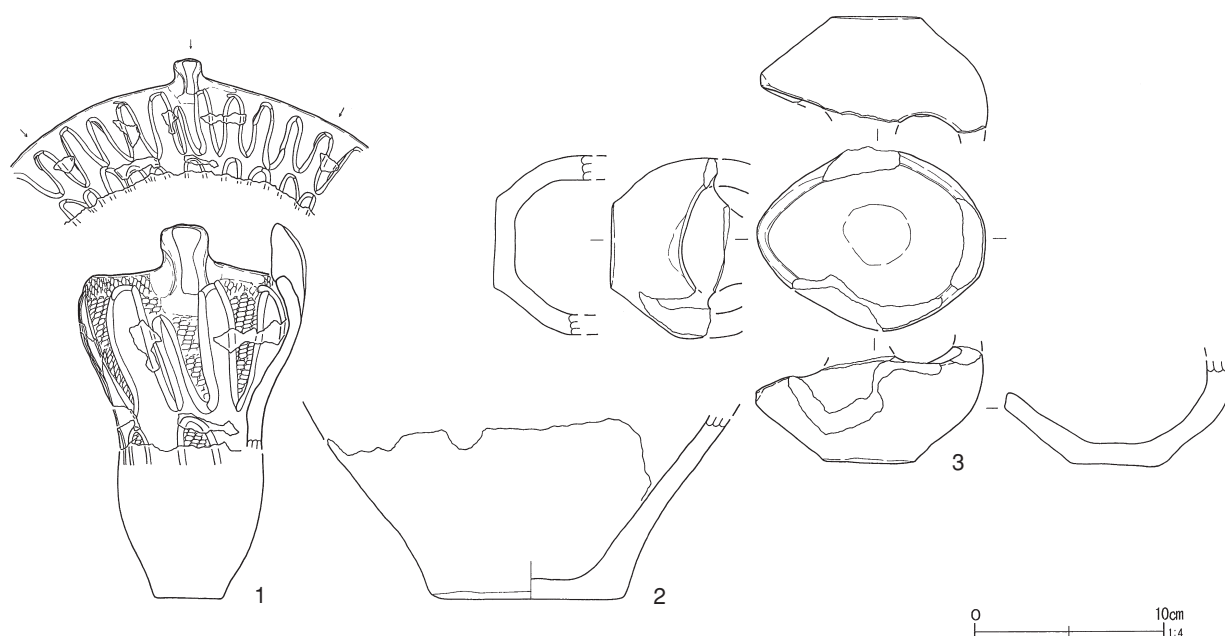
7は底部付近の破片で、単節RLを密に施文するもので、井草式の底部破片と思われる。

第2類土器 (第440図8~41)

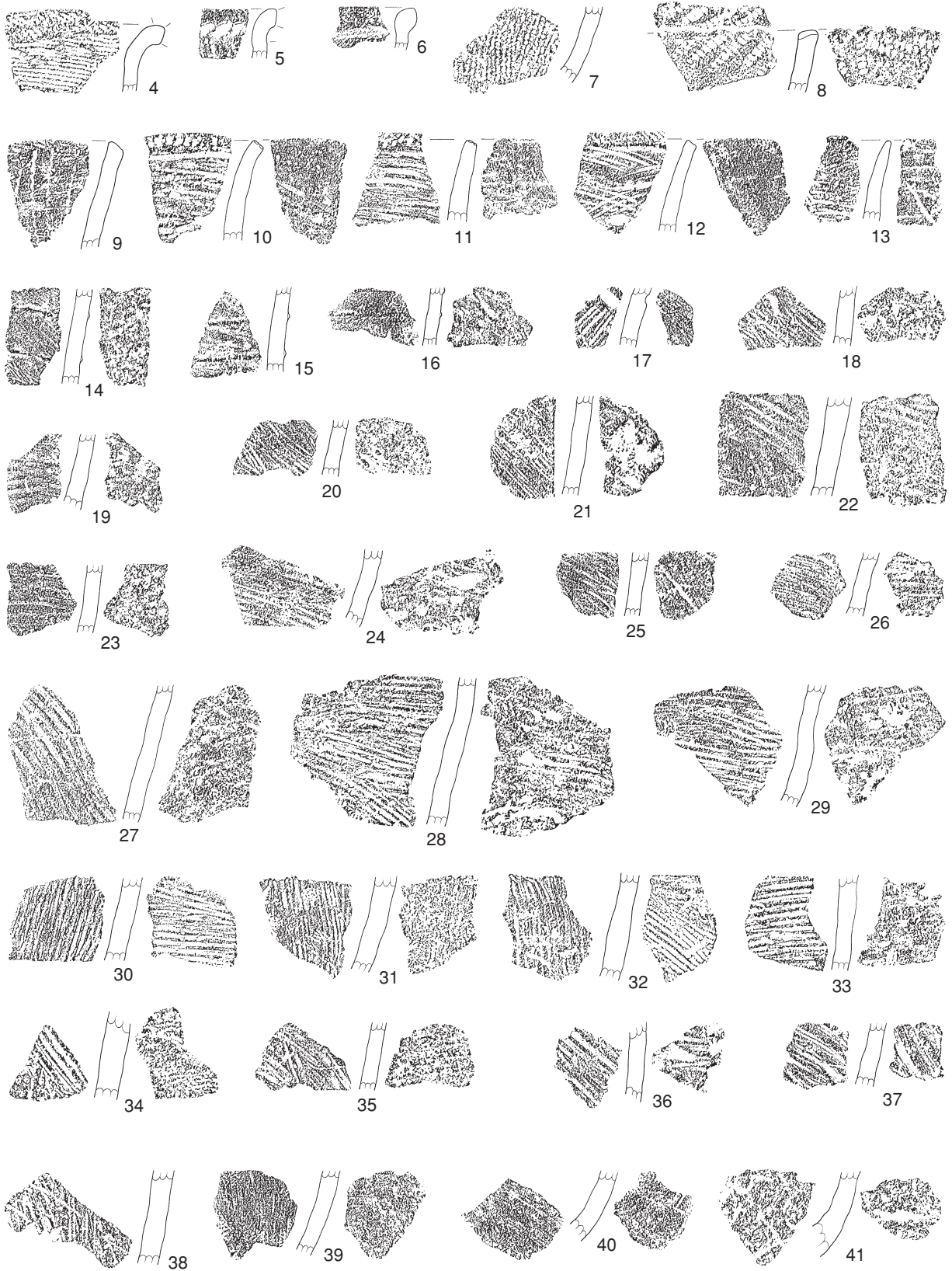
早期後半の条痕文系土器群を一括する。

第1種 (8~13)

子母口式土器を一括する。8は絡条体圧痕文土器で、丸頭状口唇部が緩く外反する器形を呈し、口縁部に斜位の絡条体圧痕文列を施文して、幅狭な口縁部文様帯を構成する。口唇部上にも、斜位の刻み状に絡条体圧痕文を施文する。口縁部裏面にも文様帯を持ち、裏面の口唇直下から2列の絡条体圧痕文を垂下し、左右に斜位の絡条体圧痕文を、対称的に施文するものと思われる。原体は、1段Lの絡条体である。



第439図 グリッド出土土器 (1)



第440図 グリッド出土土器（2）

9～13は角頭状の口縁部が緩く外反する器形を呈し、内外面に擦痕状整形や、粗い条痕整形を施す。9は口唇部が外削状を呈し、口唇上に条痕を施す。口縁部には縦位の貝殻腹縁文をややロック状に施文する。10～12は口唇部に腹縁に近い部分の貝殻背圧痕を、刻みの代わりに施文するもので、内面は擦痕状整形、外面は貝殻条痕整形を施す。11は口唇部が先細り状を呈する。

第2種 (14～17)

野島式土器を一括する。14～16は地文の細かな条痕文上に、水平方向の細隆起線文を施文するもので、内面は擦痕状整形である。17は太い沈線区画内に、集合細沈線を充填施文するものである。14～16の細隆起線文土器はいわゆる木の根A式段階のものであるが、モチーフの構成から子母口式段階に位置付けられる可能性もある。

第3種 (18～41)

条痕文系土器群の胴部、底部破片である。18～26は擦痕状整形を主とし、細かな条痕や、モチーフ状の粗い条痕であることから子母口式の胴部破片と思われる。27～38は貝殻条痕文整形が明瞭で、やや繊維を多く含むものがあることから野島式の胴部破片と判断される。

39～41は底部破片で、39・40は繊維を微量に含み、浅い条痕文整形を施すことから、子母口式の底部破片と思われる。41は繊維をやや多く含み、条痕整形を施すことなどから、野島式の底部破片と思われる。

第Ⅱ群土器

縄文時代前期の土器を一括する。

第1類土器 (第441図42～47)

前期後葉の諸磯式系土器群を一括する。

42～46は半截竹管によって平行沈線文を施文する諸磯a式土器である。42～44は肋骨文を施文するもので、沈線の交差部分に円形竹管文を施している。45・46は平行沈線文のみが施文される。

47は諸磯b式土器で浮線文を貼付している。地

文は単節LRの縄文を施文している。

第2類土器 (第441図48)

浮島式系土器群を一括する。48は胴部の破片で、鋸歯状のロック文様を施文している。

第Ⅲ群土器

縄文時代中期の土器群を一括する。

第1類土器 (第441図49～63)

勝坂式・阿玉台式系の土器群を一括する。

第1種 (49～52)

角押文状の結節沈線を施文する土器群で、阿玉台式と勝坂式の折衷的な土器である。49・50は口縁部の破片で、49は背割れ状の隆帯を貼付している。50・51は隆帯上に結節沈線を施文する。52は隆帯脇に結節沈線を施文している。隆帯上にはキャタピラ文を施文している。

第2種 (53～63)

勝坂式の終末段階の土器群を一括する。隆帯上には刻みを施し、隆帯脇には沈線を施文するものである。53～61は隆帯によって三角形状に区画するもので、区画内には沈線によって、三角文や三叉文などを施文する。62・63は胴部に地文として単節RLの縄文を施文している。

第2類土器 (第441図64・65)

大木式系の土器群を一括する。64・65は大木8a式土器の頸部の破片である。

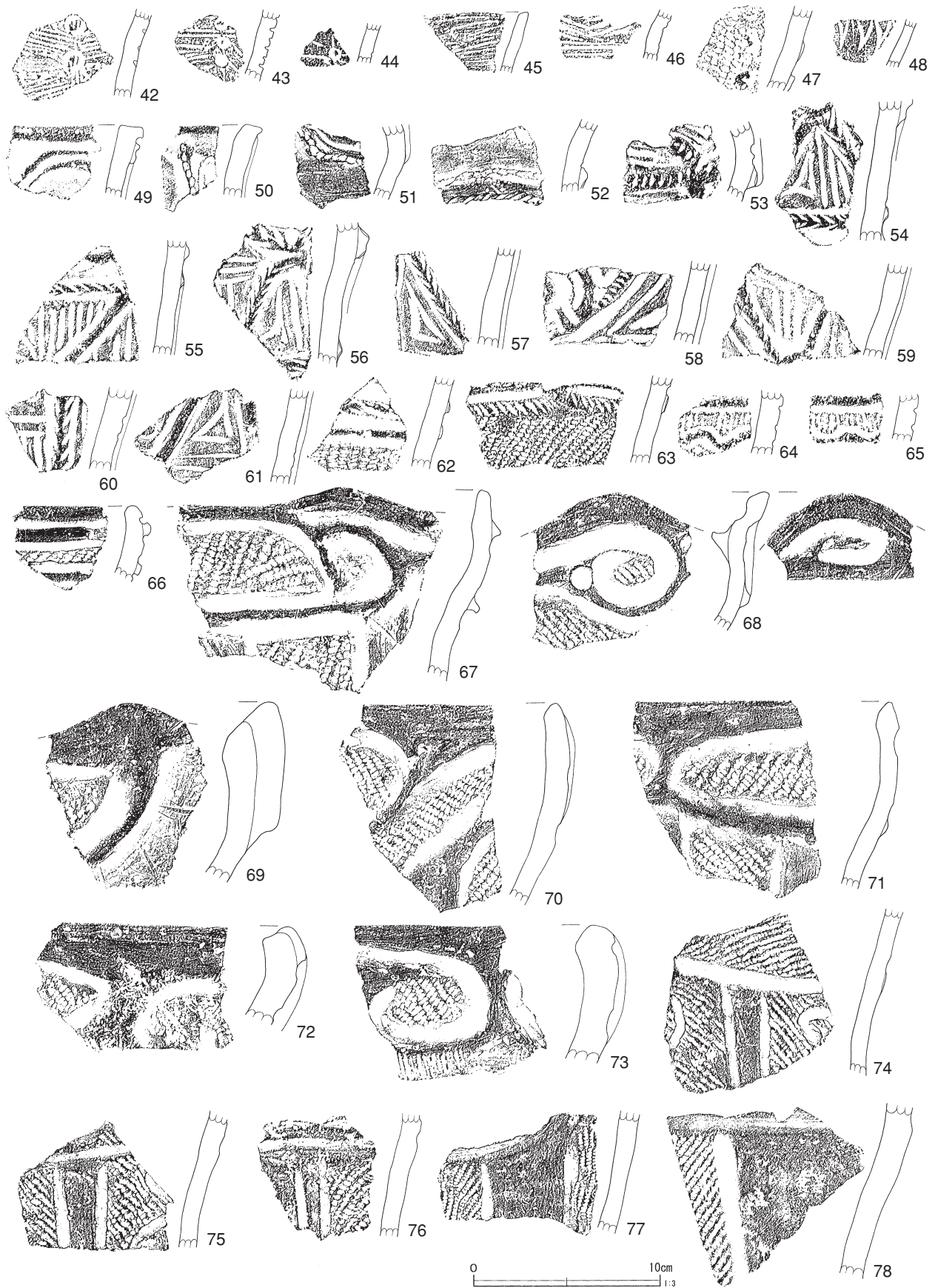
第3類土器 (第439図1～3 第441図66～78 第442図79～100 第443図101～136 第444図137～177)

縄文時代中期後葉から末葉の土器群を一括する。加曾利EⅢ式からEⅣ式に相当する土器群である。

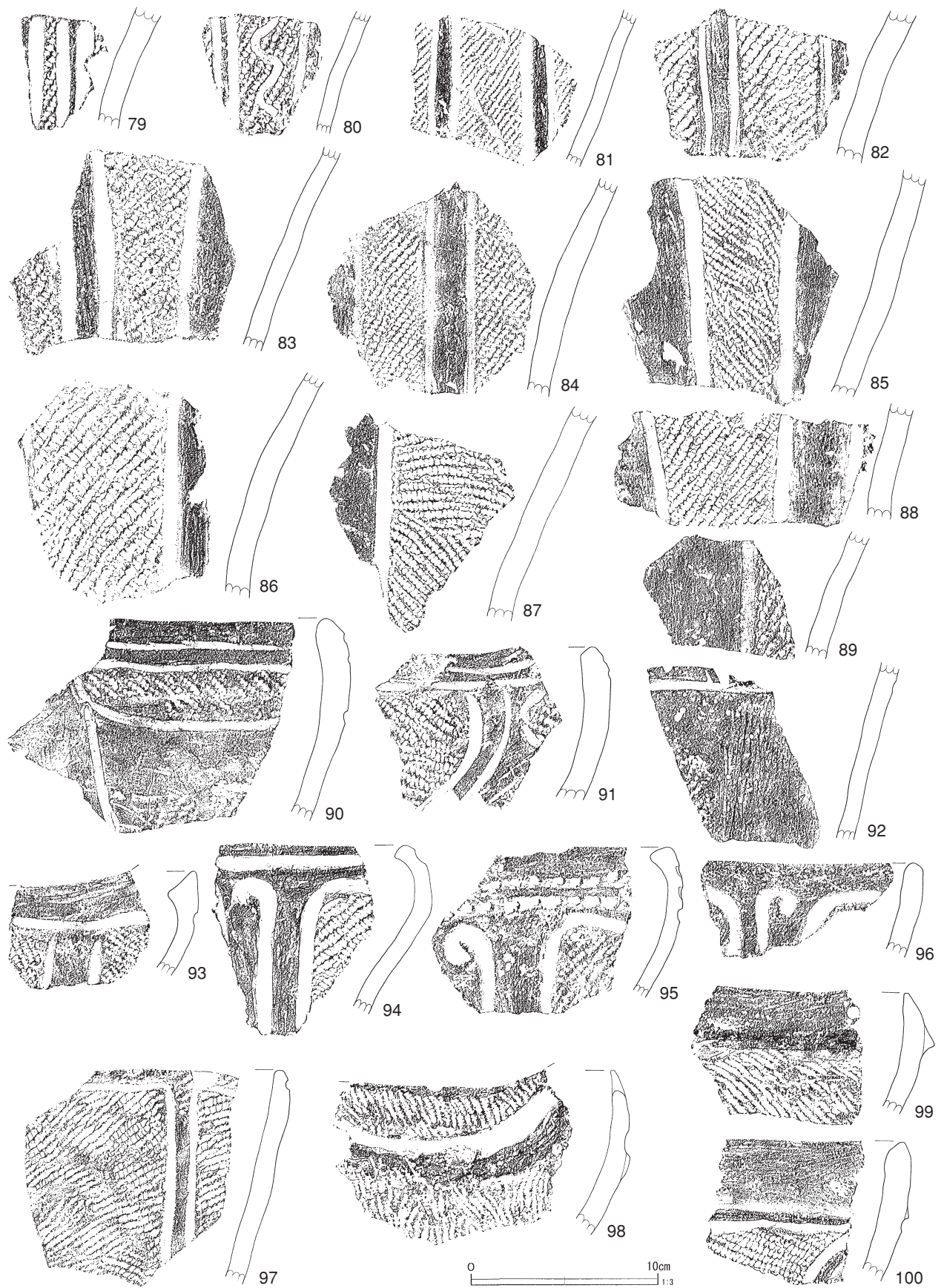
第1種 (1・2、66～136)

加曾利E系の深鉢形土器を一括する。

66～92は口縁部に文様を持つキャリパー系の深鉢形土器の破片である。66～73は口縁部の破片で、口縁部に隆帯と沈線で渦巻き文や楕円区画文を施文するものである。66以外は沈線が浅くなで状に施文される。地文を口縁部の区画内は横方向に施



第441図 グリッド出土土器 (3)



第442図 グリッド出土土器（4）

文する。66・67・71は単節LRの縄文を、68～70、72・73は単節RLの縄文を施文する。また73の胴部には条線が地文として施文されている。74～89は胴部の破片である。浅くなで状の沈線で文様を施文するもので、胴部には2本1組の磨消沈線文を垂下させる。74・80・81は地文部分に蛇行沈線文を施文している。地文として74・75・85・87は単節LRの縄文を、76～78、80～83、86・88・89は単節RLの縄文を、79・84は複節RLRの縄文を施文している。90～92は同一個体で、口縁部の文様帯は狭く、沈線により楕円区画文を施文している。胴部には磨消沈線文を垂下させる。沈線は細浅いもので、胴部の磨消部分の幅は広い。地文は単節RLの縄文を施文する。

1、93～116は口縁部に文様帯を持たない深鉢形土器である。1はミニチュアとも考えられる小型深鉢形土器で、口縁部には1ヶ所把手が貼付される。文様は胴部の括れ部分で上下に分割され、胴部上半には鋸歯状に近い10単位の波頂部を持つ波状文を施文する。波頂部の1ヶ所は低くなっている。胴部下半には逆U字状文を8単位施文している。地文として単節RLの縄文を充填している。93～111は口縁部の破片である。93は口縁部と胴部を区画する沈線文から2本1組の磨消沈線文を垂下させるものである。94～97は胴部に逆U字状文を施文する。94～96は文様間に蕨手文を施文している。97は逆U字状文の内側が幅広で方形状となっている。98～100は口縁部と胴部を微隆起状の隆帯で区画する。98は弧状に施文して口縁部を分割する。101は波状文を施文し、地文部分に蛇行沈線文を施している。102～104は磨消沈線文で、渦巻き文などを施文している。105～107は胴部上半に波状文を細かく施文するもので、105は口縁部の把手部分は橋状となる。108～111は後期初頭に近い土器で、胴部には鋸歯状の磨消沈線文を施文する。地文として93・100・106は単節LR、94・95・98、101～105、107～111は単節RL、97

は無節L、99は無節Rの縄文を施文している。112～116は胴部の破片で、磨消沈線文で逆U字状文や渦巻き文、H字状文などを施文する。地文は単節RLの縄文を施文する。

117～136は微隆起状の隆帯で大型渦巻き文などを胴部に施文するものである。隆帯の両側にはなで状の沈線が施文される。1本の隆帯で施文される122・136以外は2本1組の隆帯によって文様が施文されている。また貼付される隆帯については、123・127・128・130・132・133は隆帯上をなでて平坦に潰している。他の隆帯は両側を沈線でなで付けられて、断面形が三角形状となっている。117～122は口縁部の破片で、123～136は胴部の破片である。口縁部に文様帯は持っていない。地文として117・118、120～123、125～136は単節RLの縄文を、119・124は単節LRの縄文を施文している。

2は胴部下半から、底部の破片である。

第2種 (137～142)

連弧文系の深鉢形土器を一括する。

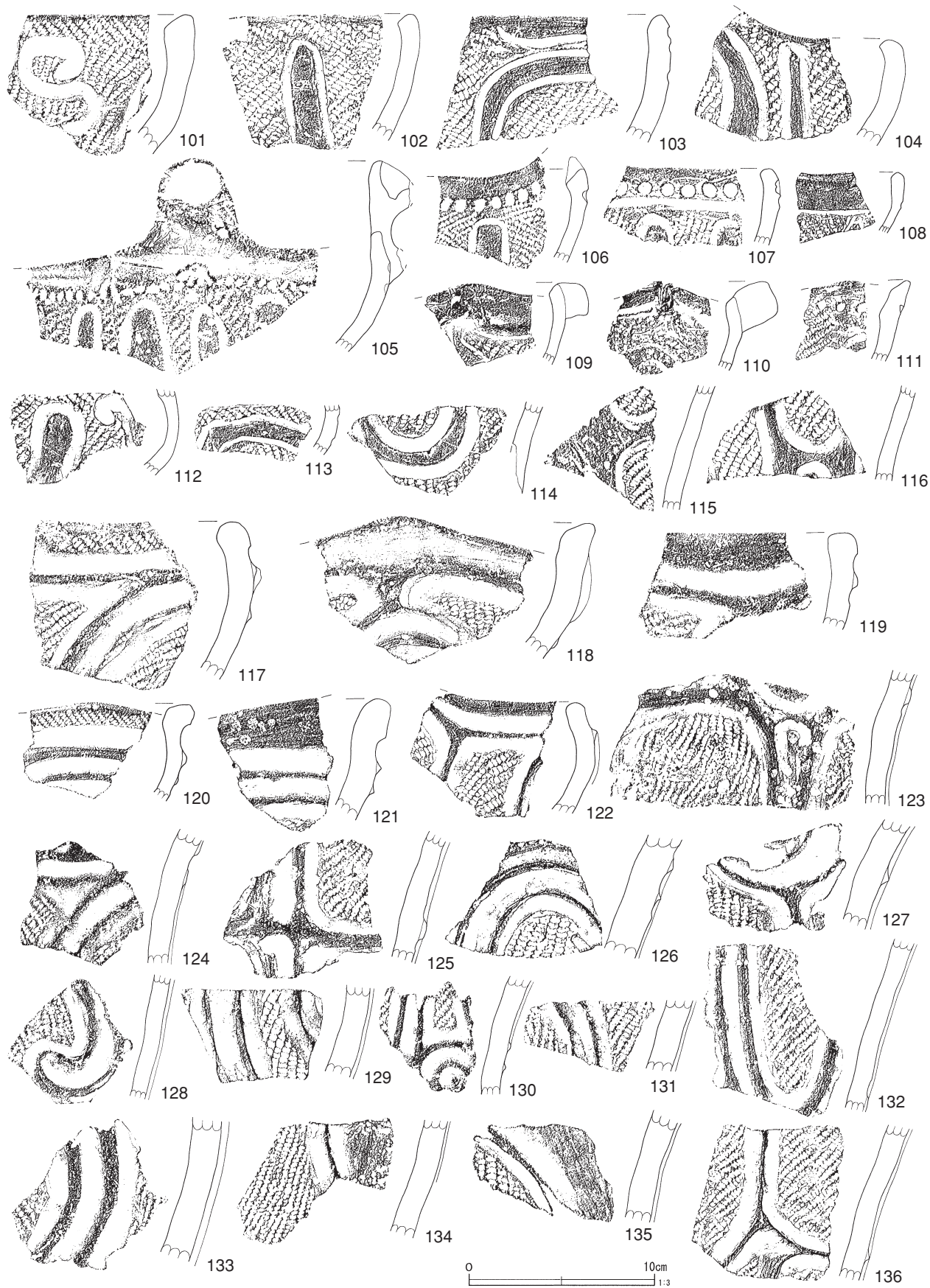
137～140は口縁部の破片である。137は2本1組の沈線で波状に文様を施文し、地文は単節RLの縄文である。138～140の地文は条線である。141・142は頸部の破片で、2本沈線を区画文として巡らしている。地文は条線である。

第3種 (143～161)

地文に条線を使用する曾利系の深鉢形土器を一括する。

143～150はキャリパー系の深鉢形土器の破片で、143は口縁部、144～150は胴部である。143は口縁部に隆帯と沈線で渦巻き文や楕円区画文を施文する。144～148は磨消沈線文を垂下させる。149・150は隆帯によって文様を施文している。

151～161は重弧文系の深鉢形土器である。151～155は口縁部の破片で、151～153は条線を斜方向に施文する。154・155は重弧状に施文する。156～158は頸部から胴部の破片で、頸部には隆帯



第443図 グリッド出土土器 (5)



第444図 グリッド出土土器(6)

を巡らし、胴部には隆帯を垂下させている。隆帯上には円形刺突文を施文している。159～161は胴部の破片で、隆帯を垂下させている。159は隆帯上に円形刺突を、161は刻みを施文する。

第4種 (162～168、177)

浅鉢形土器を一括する。地文はいずれも櫛歯状の条線を施文している。162～168は口縁部の破片である。口縁部は無文で、沈線で区画するもの(162～165)と、区画文のないもの(166～168)がある。177は底部の破片である。

第5種 (169～176)

壺形土器を一括する。169・170は両耳壺の破片である。169は肩部に隆帯と沈線で楕円区画文を施文するものである。170は胴部に地文のみを施文するもので、把手部分は小さくなっている。地文として169は単節LR、170は単節LRの縄文を施文する。171は肩部に文様を持つもので、地文は単節LRの縄文を施文する。172～176は小型の壺形土器で、胴部に微隆起伏の隆帯で渦巻き文を施文する。器面は丁寧に磨かれている。174は肩部に小さな橋状把手が貼付されている。

第6種 (3)

その他の器形の土器を一括する。3は片口付鉢形土器である。上からは楕円形となる形状で、片口側に口縁が傾斜している。口縁部には片口の反対側と中央部に破損した突起の痕跡が認められる。中央部に釣手状の把手が貼付されていた可能性が考えられる。

第IV群土器

縄文時代後期の土器群を一括する。

第1類土器 (第445図178～188)

後期初頭の称名寺式土器を一括する。

178～188は沈線間に縄文や列点文を施す深鉢形土器である。178～182は口縁部である。178は口縁部に縄文帯、貼付文を施す。178～181は単節LRの縄文を施す。183～188は胴部の破片である。183～186は沈線間に単節LRの縄文、187・188は

列点文を施す。

第2類土器 (第445図189～241)

後期前葉の堀之内式土器を一括する。

189～212は堀之内1式の深鉢形土器である。189～193は口縁部の破片である。口縁部、口辺部に沈線による横線が巡り、横線の下に直線文、曲線文を施す。194～199は胴部の破片で縄文、沈線文を施す。200～203も同様に胴部の破片であるが、沈線を多数施す。204～211は沈線のみを施す。212は沈線間に刺突を施す。

213～230は体部から口縁部へ外反気味もしくは直線的に立ち上がる堀之内2式の深鉢形土器である。213～217は口縁部や口縁部付近の破片である。いずれも沈線間に単節LRの縄文を施す。213～215は刺突を施した隆帯が巡る。218～230は胴部の破片である。226～230は多数の沈線を施す。

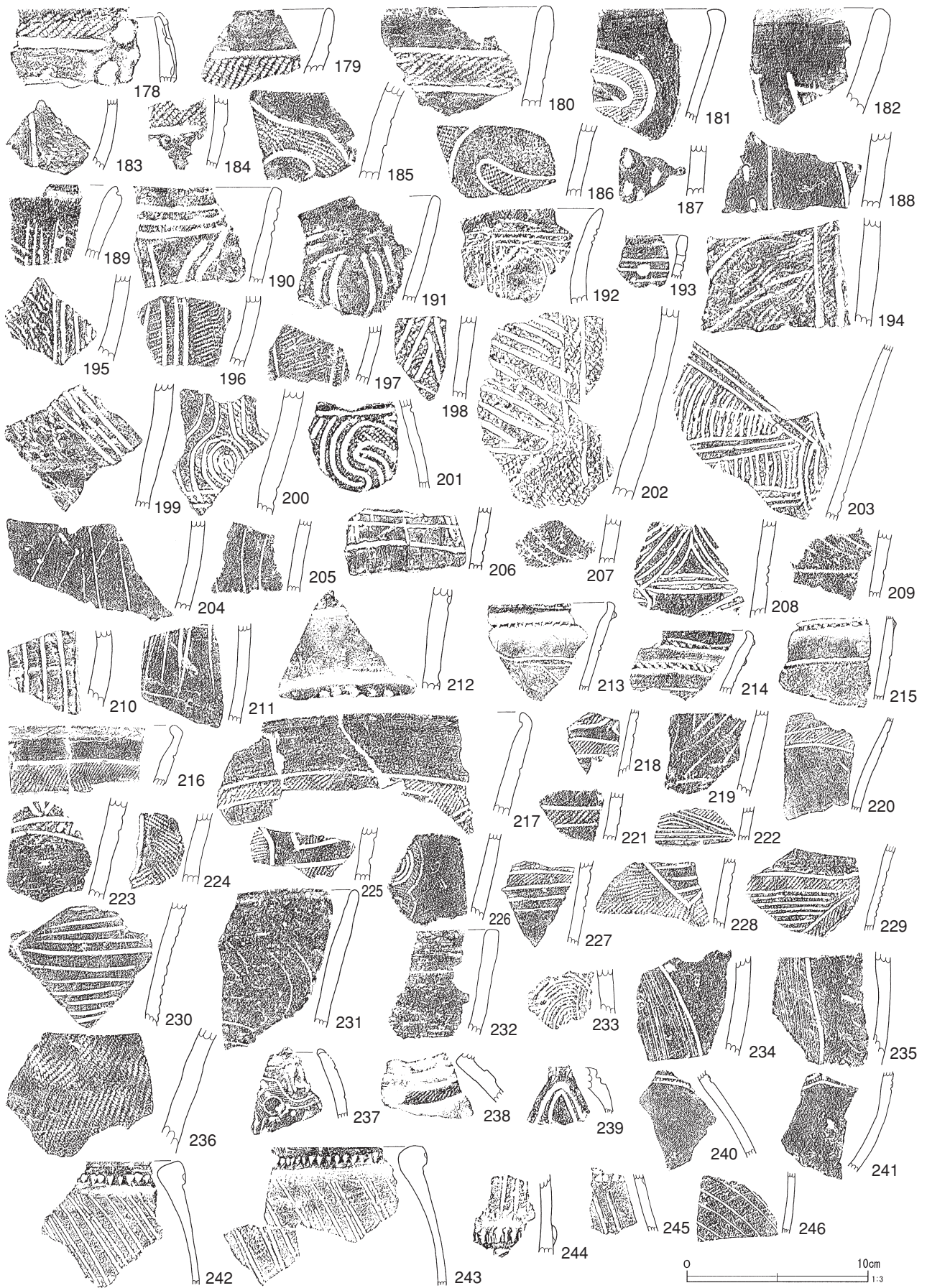
231～236は後期前葉の粗製の深鉢形土器である。231は簡略な沈線文を施す。232は無文、233は櫛歯状工具による文様、234・235は櫛歯状工具による文様と沈線を施す。236は器面全体に単節LRの縄文を施す。

237～241は堀之内2式の注口土器と思われる。237は沈線間に縄文を施す。238は隆帯状の部位に単節LRの縄文を施す。239～241は沈線間に小刺突を施す。239は橋状の把手部分、240・241は体部の破片である。

第3類土器 (第445図242～246)

後期後葉の安行式土器を一括する。

242～246は安行式の粗製紐線文土器である。いずれも条線の施文が明瞭であり、安行2式と思われる。242・243は口縁部の破片である。肥厚する口縁部に沈線と刺突が巡る。断面の形状はやや相違するが、文様施文は類似しており、同一個体かもしれない。244は口辺部下の部位で、刻みのある隆帯が巡る。245は刺突のみが巡る。246は胴部破片である。



第445図 グリッド出土土器(7)

グリッド出土石器

図示されなかった石核や剥片類については、計測を行い一覧表（第11・12表）にまとめることとした。また、調査区内から検出された黒曜石製の石器については全点を対象とし、蛍光X線を用いた産地推定分析を行い、一覧表（第11表）に明記することとした。

尖頭器（第446図1）

1は表面の半分に原礫面を残存させるものである。調整は粗雑である。

石鏃（第446図2～22）

2は無茎の石鏃で、基部に抉りはなく平基となるものである。

3～10、14・15は無茎の石鏃で、基部に抉りが入るものである。3～6は縦長で基部の抉りも比較的大きく入る。7～10はやや小型のものである。14・15は脚部など一部のみ残存している。

11～13は有茎の石鏃で、平面形状がひし形に近いものである。小型となるものである。

16は基部が欠損するもので、細長い器形となる。

17～22は石鏃の未製品と考えられる。

石錐（第446図23・24）

23は先端部を欠損するもので、肉厚なつまみ部分が大きく残る。24は先端部分を欠損する。

スクレイパー（第446図25・第447図40・41）

搔器、削器とされるものを一括した。

25は破片の鋭利な縁辺を刃部として利用していたもので、縁辺部分は刃こぼれ状の微細な剥離が残存している。40は破損した磨製石斧を再利用したものである。41は素材の端部に調整を加えたもので、古い様相を示すもので38と同様の時期と考えられる。

くさび形石器（第446図26～30）

26～30は方形状の素材の上下方向から調整を加えているものである。

石核（第446図31・32）

31は断面形が三角形状となるものである。

磨製石斧（第446図33～37）

33～35は小型のもので、断面形が方形となる定角式となる磨製石斧である。器面は丁寧に研磨されている。33は基部、34・35は刃部のみが残存するもので、完形品は検出されていない。

36・37は断面形が楕円形となる乳棒状の磨製石斧である。36は基部、37は刃部のみが残存するものである。

打製石斧（第447図38・39）

38は扁平な素材の礫の表面側にのみ調整を加えるもので、裏面には自然面がそのまま残存している。早期によく見られる形状で、早期の条痕文系土器群が検出されていることから、それらの時期に伴うと考えられる。

39は剥片素材を使用するもので、表面には自然面が、裏面には1次剥離面が大きく残存している。刃部に最大幅を持ついわゆる撥形となるものである。両側縁部にはゆるやかに抉りが入る。

砥石（第447図42・43）

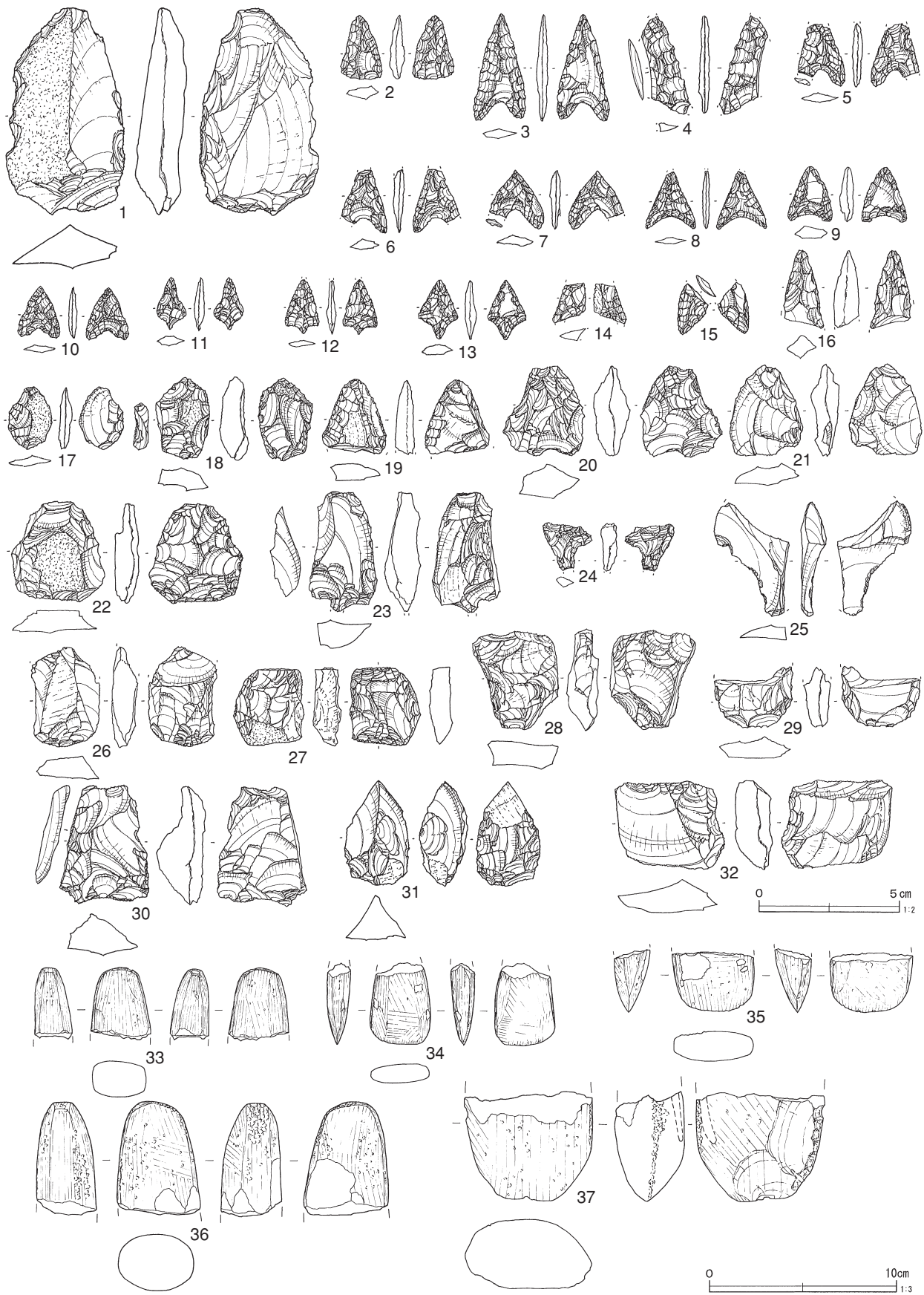
42は両面に、43は表面に溝状の凹みが認められる。図示したものは粒子が粗い素材の砥石であるが、他に粒子が細かい素材の砥石もあることから、研磨の工程において使い分けがなされていると考えられる。

磨石（第447図44・45）

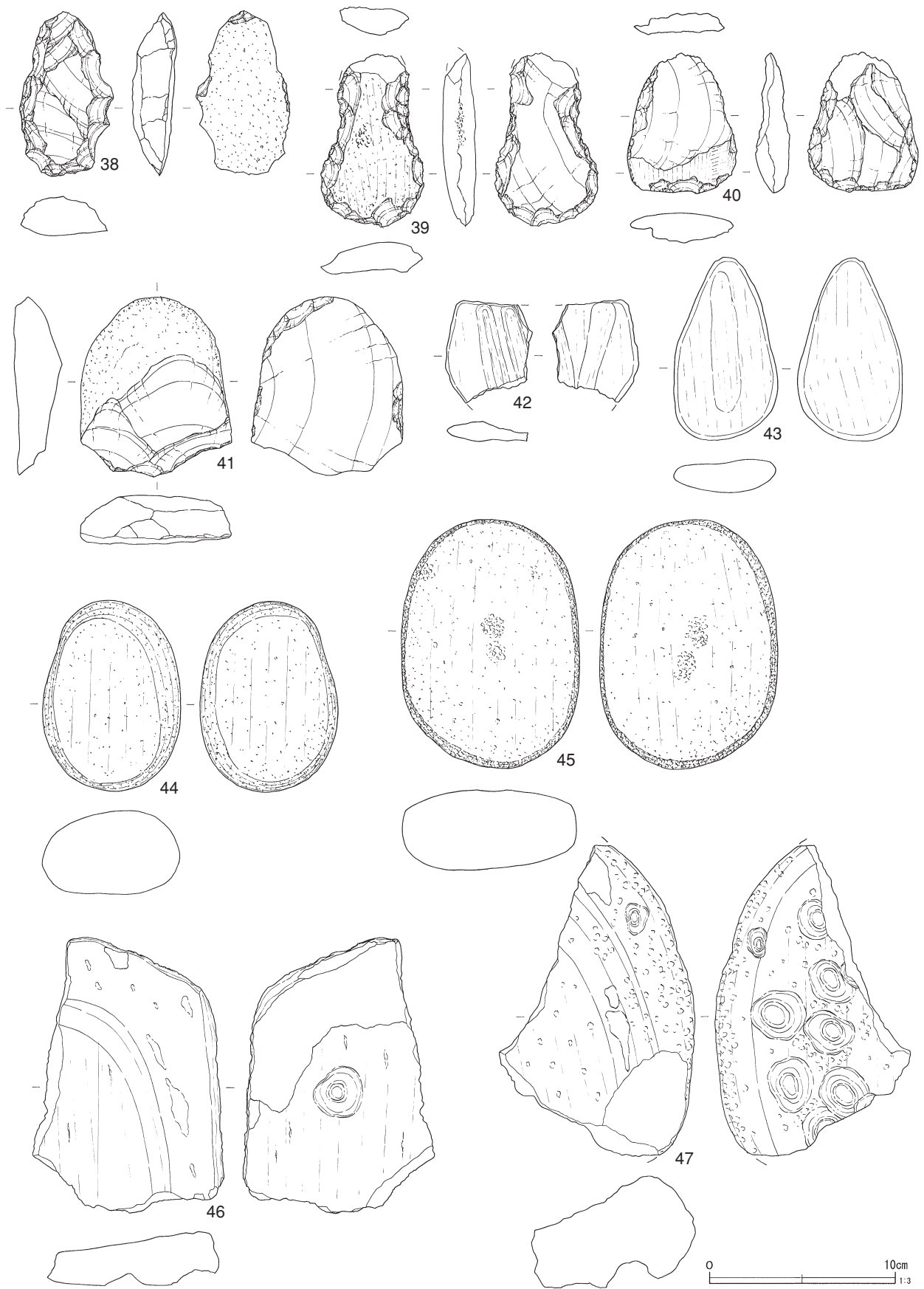
調査区内から磨石類は多量に検出されている。44のように器面に磨面が残存するものと、45のように側面が敲打のため面取り状となるものに大きく二分される。45のような類例を、磨石の範疇に入れるのか、または敲石として分類するかは今後の課題であるが、今回は磨石として分類した。

石皿（第447図46・47）

調査区からは多量の石皿が検出された。その大半が破損品で、大きな破片は炉石などに転用されている。46・47のように縁を有するものが大多数を占め、裏面には漏斗状の凹部が複数確認できる。



第446図 グリッド出土石器(1)



第447図 グリッド出土石器（2）

第5表 住居跡一覧表

住居跡番号	位置	平面形	主軸方向	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	住居跡との重複
SJ1	U-2・3	円形	-	7.44	7.08	0.17	
SJ2	T-3	楕円形	N-20°-E	7.02	(5.65)	0.15	
SJ3	W・X-4・5	円形	N-28°-E	(8.14)	(7.08)	-	
SJ4A	V・W-5・6	柄鏡	N-43°-E	6.98	6.00	0.15	SJ4B
SJ4B	V・W-5・6	柄鏡	N-35°-E	(5.12)	(5.02)	0.14	SJ4A
SJ5	U・V-5・6	柄鏡	N-40°-E	5.52	5.52	0.15	SJ11
SJ6	U-4・5	楕円形	N-0°	(8.23)	(7.14)	-	
SJ7	R-4、S-3・4	円形	N-47°-W	(8.23)	(8.04)	-	SJ10
SJ8	S・T-4・5	楕円形	N-5°-W	(8.40)	(7.34)	-	SJ9
SJ9	S-4・5	円形	N-60°-W	6.94	6.67	0.14	SJ8・10
SJ10	R・S-4・5	楕円形	N-89°-W	(6.80)	6.33	0.15	SJ7・9
SJ11	U・V-5・6	楕円形	N-32°-W	(6.30)	5.58	0.15	SJ5
SJ12	F-5・6	円形	N-3°-W	6.10	(5.43)	0.37	SJ103
SJ13	F-4・5	柄鏡	N-28°-E	(4.75)	1.34	0.25	
SJ14	E-5・6	円形	N-13°-E	6.98	5.94	0.24	SJ100・104
SJ15	D-5・6	楕円形	N-15°-W	8.16	7.48	0.22	SJ25・104
SJ16	E・F-4・5	円形	-	(8.14)	(7.34)	-	SJ13
SJ17	D・E-5	柄鏡	N-20°-W	(6.34)	(2.43)	0.24	
SJ18	C・D-5	円形	-	(6.30)	(5.48)	-	SJ25
SJ19	B-5・6	円形	-	(8.66)	(4.70)	-	
SJ20	I・J-4・5	円形	N-0°	(9.50)	9.44	0.20	
SJ21	L・M-4・5	円形	N-17°-W	(8.48)	(8.34)	-	SJ32
SJ22	K・L-4	円形	N-7°-E	(5.12)	(5.10)	-	
SJ23	L-4、M-3・4	円形	N-6°-W	4.38	3.92	0.35	SJ24
SJ24	L・M-4	柄鏡	N-19°-W	(5.92)	(5.64)	0.13	SJ23
SJ25	C・D-5	円形	-	(6.74)	(4.84)	-	SJ15・18
SJ26	M・N-4	円形	N-12°-W	4.86	4.44	0.45	SJ48A・48B
SJ27	N-3・4	楕円形	N-5°-W	(6.30)	(4.16)	0.09	
SJ28	欠番						
SJ29	J-4	円形	-	(7.04)	(0.32)	-	
SJ30	J-4・5	円形	-	(5.14)	(5.14)	-	
SJ31	N・O-4	円形	N-7°-W	(7.53)	(7.52)	-	
SJ32	L-4・5	楕円形	N-37°-W	7.60	6.66	0.21	SJ21
SJ33	S・T-6・7	円形	N-0°	6.22	(5.58)	0.21	
SJ34	T-6	楕円形	N-36°-E	7.28	(4.58)	0.19	
SJ35	O-7	楕円形	N-28°-W	(7.56)	(6.68)	0.20	SJ40・42・44・45・46
SJ36	O-8	円形	-	2.68	(0.70)	0.17	
SJ37	Q-7	円形	-	(3.56)	(1.11)	0.19	
SJ38	欠番						
SJ39	P-6・7	円形	N-4°-W	5.46	5.02	0.27	SJ44
SJ40	N・O-6・7	円形	N-42°-E	7.43	6.82	0.27	SJ35・45・46
SJ41	O-6・7、P-6	楕円形	N-6°-W	(5.60)	4.70	0.37	SJ44・45・46・95
SJ42	O・P-7	円形	N-59°-W	7.95	7.26	0.13	SJ35・44・45・46
SJ43	欠番						
SJ44	O・P-6・7	円形	N-5°-W	4.86	4.82	0.17	SJ35・39・40・41・42・45・46
SJ45	O・P-6・7	円形	N-0°	5.92	5.72	0.13	SJ35・40・41・42・44・46
SJ46	O・P-7	円形	-	7.80	7.72	-	SJ35・40・41・42・44
SJ47	G-6、H-5・6	円形	-	(7.52)	(6.80)	0.17	
SJ48A	M・N-4・5	柄鏡	N-21°-E	6.12	6.00	0.14	SJ26・48B・64
SJ48B	M・N-4・5	柄鏡	N-50°-W	(5.67)	(5.33)	-	SJ26・48A・50・64
SJ49	O-4	楕円形	-	5.92	(2.33)	0.24	
SJ50	N・O-5	楕円形	N-33°-W	(6.80)	(6.22)	0.18	SJ48B・55
SJ51	M・N-6	楕円形	N-29°-W	7.30	6.63	0.18	SJ59・66
SJ52	M-5・6	楕円形	N-31°-E	6.16	5.46	0.11	SJ53・54・66
SJ53	L・M-6	円形	N-0°	8.18	7.54	0.15	SJ52・56・65

住居跡番号	位置	平面形	主軸方向	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	住居跡との重複
SJ54	M-5	円形	—	7.04	6.72	0.13	SJ52
SJ55	N・O-5・6	楕円形	N-68°-W	(9.66)	(7.25)	0.23	SJ50
SJ56	L・M-6・7	楕円形	N-44°-W	8.46	7.97	0.17	SJ53・60
SJ57	L-5・6、M-5	楕円形	N-40°-E	8.30	6.60	0.14	SJ58・65
SJ58	L-5・6	円形	—	6.28	6.10	0.12	SJ57・65
SJ59	M-6、N-6・7	不定形	—	7.04	(6.56)	0.20	SJ51・60
SJ60	M・N-6・7	楕円形	N-43°-W	7.57	6.62	0.26	SJ56・59
SJ61	M-7・8	楕円形	N-0°	8.92	(3.57)	0.26	SJ67・71
SJ62	L-7・8	柄鏡	N-12°-E	6.20	5.86	0.22	SJ67・68
SJ63	欠番						
SJ64	M・N-4・5	円形	N-13°-E	5.50	5.16	0.13	SJ26・48A・48B
SJ65	L・M-5・6	円形	—	7.30	7.08	0.21	SJ53・57・58
SJ66	M・N-5・6	楕円形	—	7.91	7.08	0.17	SJ51・52
SJ67	L・M-7・8	楕円形	N-6°-W	(7.54)	5.40	0.09	SJ61・62・71
SJ68	L-7	円形	—	6.46	6.16	0.23	SJ62・72
SJ69	欠番						
SJ70	K-7	楕円形	N-0°	(7.64)	(6.36)	0.20	SJ72
SJ71	L・M-7	楕円形	N-0°	5.44	4.93	0.19	SJ61・67
SJ72	K・L-7	楕円形	N-0°	6.02	5.30	0.31	SJ68・70
SJ73	I・J-8	楕円形	N-72°-W	7.54	(5.12)	0.09	
SJ74	J-7・8	柄鏡	N-44°-W	(6.04)	(5.60)	0.06	SJ76
SJ75	I・J-8	円形	N-58°-W	6.08	5.18	0.21	SJ89
SJ76	I・J-7	不定形	N-23°-W	4.00	(2.42)	0.11	
SJ77	K-5	円形	N-8°-E	8.10	7.32	0.33	
SJ78	E・F-8・9	柄鏡	N-44°-W	(6.90)	5.93	0.20	SJ87・99
SJ79	I-7・8	楕円形	N-56°-W	6.20	(4.96)	0.17	
SJ80	F-9	円形	—	5.18	(2.44)	0.23	SJ87
SJ81	E-7・8	円形	N-40°-W	5.98	(5.57)	0.19	SJ82・83
SJ82	E-7・8	楕円形	—	(6.90)	(6.00)	0.15	SJ81・93・108
SJ83	D・E-8	楕円形	—	8.72	(4.68)	0.17	
SJ84	F・G-8・9	円形	N-148°-W	(7.60)	(6.82)	—	SJ94・111
SJ85	H-8・9	楕円形	N-69°-W	5.04	(3.73)	0.26	
SJ86	G-8	円形	N-15°-W	(6.26)	(6.00)	—	
SJ87	E・F-9	柄鏡	N-123°-W	(6.30)	(4.90)	—	SJ78・80
SJ88	E・F-7	円形	N-88°-W	(7.78)	(7.44)	—	SJ108・109・110
SJ89	I-8・9	方形	N-45°-W	6.54	(2.90)	0.12	SJ75
SJ90	G-7	楕円形	N-21°-E	7.40	(5.00)	0.23	SJ102
SJ91	F・G-7・8	楕円形	N-5°-W	5.73	(5.06)	0.15	
SJ92	F-7、G-6・7	隅丸方形	N-42°-W	3.90	(2.65)	0.22	SJ101
SJ93	E・F-8	円形	N-114°-W	(7.46)	(6.45)	—	SJ82・97・108・109・110
SJ94	F・G-8	隅丸方形	N-10°-W	6.00	4.94	0.24	SJ84・111
SJ95	O-6	円形	N-49°-W	5.60	5.07	0.18	SJ41
SJ96	N・O-6	楕円形	N-24°-W	5.40	4.10	0.20	
SJ97	F-7・8	柄鏡	N-114°-W	5.80	4.64	0.36	SJ93
SJ98	C・D-6・7	楕円形	N-91°-E	7.77	7.67	0.20	
SJ99	E-8・9	円形	N-95°-W	(2.92)	(2.57)	0.25	SJ78
SJ100	E-6	円形	N-23°-W	(5.36)	(5.15)	—	SJ14・104
SJ101	F・G-6・7	楕円形	—	6.78	5.10	0.11	SJ92・102
SJ102	G-6・7	楕円形	N-32°-E	7.96	6.94	0.11	SJ90・101
SJ103	E・F-6	円形	N-0°	5.91	5.79	0.12	SJ12
SJ104	E-5・6	円形	—	8.40	(7.38)	0.18	SJ14・15・100・105
SJ105	E-6・7	円形	—	(6.46)	(6.40)	—	SJ104
SJ106	D-6・7	円形	—	(7.06)	(6.98)	—	
SJ107	D-7・8	円形	—	(8.50)	(6.27)	—	
SJ108	E・F-7・8	円形	—	(7.06)	(7.04)	—	SJ82・88・93・97・109・110
SJ109・110	E・F-7・8	柄鏡	N-28°-E	4.74	4.40	0.09	SJ88・93・97・108
SJ111	F-8・9	円形	N-55°-W	5.30	4.96	0.23	SJ84・94

第6表 住居跡ピット一覧表

住居跡番号	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	住居跡番号	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
SJ1	1	0.46	0.38	0.34	SJ3	21	0.42	0.36	0.21
SJ1	2	0.42	0.40	0.21	SJ3	22	0.32	0.30	0.19
SJ1	3	0.42	0.28	0.21	SJ3	23	0.28	0.26	0.20
SJ1	4	0.28	0.28	0.19	SJ3	24	0.46	0.43	0.18
SJ1	5	0.59	0.40	0.30	SJ3	25	0.46	(0.20)	0.17
SJ1	6	0.39	0.34	0.29	SJ3	26	0.34	0.32	0.23
SJ1	7	0.27	0.18	0.19	SJ3	27	0.50	0.46	0.25
SJ1	8	0.44	0.36	0.27	SJ3	28	0.44	0.42	0.21
SJ1	9	0.38	0.32	0.20	SJ3	29	0.42	0.38	0.23
SJ1	10	0.40	0.30	0.18	SJ3	30	0.38	0.36	0.21
SJ1	11	0.42	0.40	0.21	SJ3	31	0.44	0.32	0.21
SJ1	12	0.33	0.30	0.20	SJ3	32	0.46	0.46	0.27
SJ1	13	0.34	0.34	0.24	SJ4A	1	0.36	0.36	0.25
SJ1	14	0.40	0.36	0.24	SJ4A	2	0.30	0.28	0.17
SJ1	15	0.38	0.32	0.25	SJ4A	3	0.28	0.28	0.23
SJ1	16	0.46	0.42	0.19	SJ4A	4	0.31	0.24	0.14
SJ1	17	0.42	0.38	0.22	SJ4A	5	0.33	0.31	0.10
SJ1	18	0.23	0.22	0.13	SJ4A	6	0.46	0.42	0.20
SJ1	19	0.25	(0.11)	0.08	SJ4A	7	0.32	0.29	0.23
SJ2	1	0.38	0.30	0.18	SJ4A	8	0.38	0.32	0.26
SJ2	2	0.46	0.42	0.06	SJ4A	9	0.48	0.48	0.27
SJ2	3	0.38	0.36	0.16	SJ4A	10	0.27	0.26	0.20
SJ2	4	0.52	0.48	0.12	SJ4A	11	0.36	0.36	0.16
SJ2	5	0.44	0.36	0.36	SJ4A	12	0.34	0.32	0.23
SJ2	6	0.42	0.36	0.17	SJ4A	13	0.50	0.38	0.46
SJ2	7	0.36	0.30	0.18	SJ4A	14	0.31	0.29	0.22
SJ2	8	0.26	0.26	0.23	SJ4A	15	0.40	0.34	0.14
SJ2	9	0.36	0.32	0.06	SJ4A	16	0.35	0.32	0.23
SJ2	10	0.32	0.28	0.11	SJ4A	17	0.39	0.36	0.19
SJ2	11	0.28	0.28	0.22	SJ4A	18	0.35	0.35	0.15
SJ2	12	0.42	0.38	0.11	SJ4A	19	0.32	0.27	0.20
SJ2	13	0.52	(0.36)	0.16	SJ4A	20	0.29	0.22	0.05
SJ2	14	0.44	0.40	0.11	SJ4A	21	(0.33)	0.30	0.24
SJ3	1	0.38	0.32	0.17	SJ4A	22	0.37	0.35	0.22
SJ3	2	0.36	0.34	0.14	SJ4A	23	0.50	0.34	0.21
SJ3	3	0.46	0.30	0.15	SJ4A	24	(0.22)	0.22	0.10
SJ3	4	0.32	0.32	0.25	SJ4A	25	0.36	0.26	0.09
SJ3	5	0.32	0.32	0.16	SJ4A	26	0.26	0.22	0.16
SJ3	6	0.40	0.38	0.16	SJ4A	27	0.30	0.26	0.22
SJ3	7	0.31	0.27	0.15	SJ4A	28	0.54	0.52	0.20
SJ3	8	0.80	(0.58)	0.27	SJ4A	29	0.36	0.34	0.17
SJ3	9	0.30	0.28	0.22	SJ4A	30	0.24	0.24	0.11
SJ3	10	0.48	0.44	0.23	SJ4A	31	0.36	0.32	0.21
SJ3	11	0.76	0.60	0.25	SJ4A	32	0.38	0.36	0.22
SJ3	12	0.50	0.44	0.24	SJ4A	33	0.30	0.28	0.16
SJ3	13	0.36	0.33	0.34	SJ4A	34	0.26	0.22	0.15
SJ3	14	0.60	0.56	0.27	SJ4A	35	0.26	0.24	0.14
SJ3	15	0.38	0.35	0.17	SJ4A	36	0.31	0.26	0.19
SJ3	16	0.30	0.30	0.13	SJ4A	37	0.34	0.21	0.10
SJ3	17	0.32	0.32	0.15	SJ4A	38	0.34	0.34	0.22
SJ3	18	0.32	0.30	0.17	SJ4A	39	0.18	0.16	0.16
SJ3	19	0.46	0.43	0.24	SJ4A	40	0.26	0.24	0.23
SJ3	20	0.20	0.18	0.21	SJ4A	41	0.30	0.29	0.19

住居跡番号	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	住居跡番号	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
SJ4A	42	0.20	0.16	0.16	SJ6	34	0.44	0.40	0.08
SJ4B	1	0.28	0.22	0.17	SJ6	35	0.42	0.30	0.22
SJ4B	2	0.28	0.26	0.31	SJ6	36	0.48	0.44	0.23
SJ4B	3	0.26	0.22	0.20	SJ6	37	0.57	0.50	0.35
SJ4B	4	0.36	0.32	0.37	SJ7	1	0.48	0.44	0.23
SJ4B	5	0.35	0.28	0.23	SJ7	2	0.44	0.32	0.19
SJ4B	6	0.32	0.30	0.23	SJ7	3	0.36	0.27	0.27
SJ4B	7	0.33	0.33	0.15	SJ7	4	0.44	(0.36)	0.24
SJ4B	8	0.33	0.30	0.21	SJ7	5	(0.30)	(0.16)	0.34
SJ4B	9	0.54	(0.42)	0.20	SJ7	6	0.32	0.29	0.26
SJ4B	10	0.26	0.26	0.14	SJ7	7	0.42	0.40	0.20
SJ4B	11	0.36	0.33	0.24	SJ7	8	0.40	0.36	0.16
SJ4B	12	0.46	0.35	0.24	SJ7	9	0.62	0.50	0.25
SJ4B	13	0.30	0.30	0.17	SJ7	10	0.28	0.20	0.25
SJ4B	14	0.30	0.26	0.10	SJ7	11	0.34	(0.22)	0.33
SJ4B	15	0.22	0.22	0.14	SJ7	12	0.58	0.50	0.58
SJ4B	16	0.34	0.32	0.15	SJ7	13	0.36	0.29	0.37
SJ4B	17	0.36	0.34	0.15	SJ7	14	0.54	0.50	0.48
SJ5	1	0.32	0.28	0.13	SJ7	15	0.46	0.42	0.51
SJ5	2	0.36	0.28	0.17	SJ7	16	0.38	0.36	0.15
SJ5	3	0.42	0.40	0.28	SJ7	17	0.48	0.40	0.18
SJ6	1	0.36	0.24	0.49	SJ7	18	0.48	0.32	0.17
SJ6	2	0.32	0.32	0.18	SJ7	19	0.42	0.38	0.26
SJ6	3	0.40	0.40	0.23	SJ7	20	0.44	0.44	0.23
SJ6	4	0.62	(0.60)	0.30	SJ7	21	0.32	0.30	0.24
SJ6	5	0.40	0.38	0.18	SJ7	22	0.40	(0.30)	0.17
SJ6	6	0.28	0.26	0.15	SJ7	23	0.32	0.30	0.18
SJ6	7	0.38	0.38	0.17	SJ7	24	0.36	0.34	0.17
SJ6	8	0.38	0.36	0.18	SJ7	25	0.74	0.70	0.68
SJ6	9	0.50	0.48	0.24	SJ7	26	0.60	0.50	0.32
SJ6	10	0.44	0.42	0.22	SJ7	27	0.66	0.58	0.50
SJ6	11	0.38	0.35	0.20	SJ7	28	0.38	0.36	0.15
SJ6	12	0.34	0.32	0.28	SJ7	29	0.46	0.41	0.33
SJ6	13	0.35	0.32	0.19	SJ7	30	0.39	0.34	0.40
SJ6	14	0.43	0.38	0.22	SJ7	31	0.54	0.50	0.41
SJ6	15	0.46	0.46	0.29	SJ7	32	(0.30)	(0.26)	0.29
SJ6	16	0.56	0.56	0.27	SJ7	33	0.56	(0.42)	0.52
SJ6	17	0.42	0.37	0.18	SJ7	34	0.74	0.52	0.64
SJ6	18	0.28	0.22	0.19	SJ7	35	0.40	(0.26)	0.32
SJ6	19	0.40	0.34	0.21	SJ7	36	0.46	0.32	0.34
SJ6	20	0.47	0.33	0.18	SJ7	37	0.28	0.24	0.45
SJ6	21	0.46	0.42	0.22	SJ7	38	0.35	(0.21)	0.19
SJ6	22	0.56	0.51	0.34	SJ7	39	0.32	(0.20)	0.31
SJ6	23	0.40	0.38	0.14	SJ7	40	(0.34)	0.32	0.17
SJ6	24	0.56	0.44	0.27	SJ7	41	0.29	0.28	0.64
SJ6	25	0.64	0.58	0.23	SJ7	42	0.22	(0.13)	0.21
SJ6	26	0.38	0.38	0.18	SJ8	1	0.46	0.43	0.30
SJ6	27	0.34	0.32	0.22	SJ8	2	0.36	0.36	0.21
SJ6	28	0.39	0.37	0.25	SJ8	3	0.56	0.52	0.19
SJ6	29	0.32	0.30	0.19	SJ8	4	0.52	0.50	0.28
SJ6	30	0.44	0.40	0.34	SJ8	5	0.46	0.44	0.30
SJ6	31	0.39	0.32	0.25	SJ8	6	0.38	0.36	0.30
SJ6	32	0.51	0.44	0.22	SJ8	7	0.54	0.54	0.27
SJ6	33	0.38	0.36	0.22	SJ8	8	0.54	0.46	0.23

住居跡番号	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	住居跡番号	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
SJ12	12	0.18	0.18	0.12	SJ14	17	0.36	0.22	0.34
SJ12	13	0.22	0.21	0.09	SJ14	18	0.38	0.38	0.39
SJ12	14	0.19	0.18	0.24	SJ14	19	0.46	0.45	0.24
SJ12	15	0.25	0.24	0.32	SJ14	20	0.28	0.23	0.24
SJ12	16	0.21	0.18	0.14	SJ14	21	(0.34)	(0.32)	0.61
SJ12	17	0.17	0.17	0.08	SJ14	22	0.33	0.30	0.22
SJ12	18	0.26	0.24	0.11	SJ14	23	0.30	0.26	0.27
SJ12	19	0.38	0.36	0.36	SJ14	24	0.22	0.20	0.16
SJ12	20	0.38	0.30	0.11	SJ15	1	0.46	0.40	0.87
SJ12	21	0.32	0.26	0.12	SJ15	2	0.59	0.42	0.74
SJ12	22	0.34	0.34	0.14	SJ15	3	0.82	0.75	1.25
SJ12	23	0.38	(0.23)	0.08	SJ15	4	0.52	0.44	0.83
SJ12	24	0.31	(0.15)	0.11	SJ15	5	0.86	0.82	0.58
SJ12	25	0.32	0.28	0.13	SJ15	6	0.63	0.53	0.85
SJ12	26	0.52	0.41	0.36	SJ15	7	0.32	0.30	0.14
SJ12	27	0.29	0.26	0.44	SJ15	8	0.32	0.25	0.26
SJ12	28	0.32	0.23	0.33	SJ15	9	0.44	0.44	0.34
SJ12	29	0.35	0.28	0.19	SJ15	10	0.30	0.20	0.26
SJ12	30	0.22	0.22	0.13	SJ15	11	0.24	0.21	0.17
SJ12	31	0.35	0.28	0.13	SJ15	12	0.30	0.28	0.51
SJ12	32	0.28	0.20	0.10	SJ15	13	0.26	0.25	0.14
SJ13	1	0.19	0.18	0.16	SJ15	14	0.24	0.24	0.17
SJ13	2	0.16	0.16	0.18	SJ15	15	0.26	0.23	0.23
SJ13	3	0.27	0.36	0.22	SJ15	16	0.24	0.22	0.27
SJ13	4	0.36	0.32	0.31	SJ15	17	0.38	0.34	0.58
SJ13	5	0.29	(0.24)	0.18	SJ15	18	0.65	0.64	0.27
SJ13	6	0.17	0.15	0.13	SJ15	19	0.30	0.28	0.68
SJ13	7	0.26	0.25	0.17	SJ15	20	0.65	(0.46)	0.71
SJ13	8	0.16	0.15	0.25	SJ15	21	0.36	0.27	0.18
SJ13	9	0.31	0.24	0.43	SJ16	1	0.76	0.66	0.30
SJ13	10	0.26	0.24	0.14	SJ16	2	0.48	0.46	0.20
SJ13	11	0.31	0.29	0.16	SJ16	3	0.42	0.38	0.19
SJ13	12	0.34	0.30	0.14	SJ16	4	0.61	0.61	0.37
SJ13	13	0.20	0.17	0.18	SJ16	5	0.54	0.44	0.36
SJ13	14	0.22	0.20	0.14	SJ16	6	0.58	0.56	0.58
SJ13	15	0.37	0.36	0.33	SJ16	7	0.42	0.40	0.21
SJ13	16	0.35	(0.20)	0.27	SJ16	8	0.52	0.46	0.16
SJ13	17	0.89	0.82	0.72	SJ16	9	0.72	0.58	0.29
SJ14	1	0.26	0.22	0.18	SJ16	10	0.65	(0.40)	0.27
SJ14	2	0.34	0.24	0.21	SJ16	11	0.60	0.57	0.30
SJ14	3	0.24	0.22	0.24	SJ16	12	0.78	0.70	0.32
SJ14	4	0.26	0.23	0.11	SJ16	13	0.56	0.53	0.21
SJ14	5	0.32	0.30	0.27	SJ16	14	0.62	0.53	0.38
SJ14	6	0.24	0.22	0.20	SJ16	15	(0.56)	0.53	0.23
SJ14	7	0.28	0.26	0.27	SJ16	16	0.64	0.55	0.19
SJ14	8	0.28	0.26	0.18	SJ16	17	0.64	0.57	0.21
SJ14	9	0.31	0.31	0.15	SJ17	1	0.29	0.27	0.50
SJ14	10	0.24	0.22	0.24	SJ17	2	0.25	0.19	0.27
SJ14	11	0.28	0.27	0.34	SJ17	3	0.28	0.22	0.21
SJ14	12	0.32	0.23	0.26	SJ17	4	0.26	0.26	0.07
SJ14	13	0.35	0.32	0.20	SJ17	5	0.26	0.25	0.13
SJ14	14	0.27	0.26	0.20	SJ17	6	0.21	0.19	0.14
SJ14	15	0.40	0.32	0.14	SJ17	7	0.26	0.23	0.13
SJ14	16	0.33	0.33	0.09	SJ17	8	0.25	0.25	0.16

住居跡番号	番号	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	住居跡番号	番号	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
SJ53	20	0.34	0.26	0.29	SJ55	21	0.38	0.38	0.18
SJ53	21	0.42	0.40	0.36	SJ55	22	0.34	0.34	0.15
SJ53	22	0.30	0.24	0.21	SJ55	23	0.46	0.22	0.44
SJ53	23	0.36	0.32	0.23	SJ55	24	0.36	0.33	0.30
SJ53	24	0.48	0.39	0.53	SJ56	1	0.51	(0.33)	0.31
SJ53	25	0.32	0.30	0.30	SJ56	2	0.46	0.40	0.23
SJ53	26	0.28	0.26	0.25	SJ56	3	0.45	0.42	0.31
SJ53	27	0.28	0.24	0.32	SJ56	4	0.62	(0.32)	0.91
SJ53	28	0.28	0.23	0.35	SJ56	5	0.52	0.47	0.22
SJ53	29	0.28	0.26	0.30	SJ56	6	0.50	0.46	0.27
SJ53	30	0.32	0.25	0.27	SJ56	7	0.34	0.23	0.40
SJ53	31	0.26	0.22	0.27	SJ56	8	0.46	0.46	0.20
SJ53	32	0.78	0.60	0.52	SJ56	9	0.44	0.44	0.35
SJ53	33	0.49	0.48	0.21	SJ56	10	0.56	0.53	0.31
SJ53	34	0.36	0.25	0.36	SJ56	11	0.54	0.45	0.36
SJ53	35	0.36	0.33	0.59	SJ56	12	0.59	0.56	0.67
SJ53	36	0.40	0.34	0.55	SJ56	13	0.74	0.63	1.02
SJ53	37	0.50	0.32	0.70	SJ56	14	0.59	0.50	0.46
SJ53	38	0.36	0.30	0.42	SJ56	15	0.45	0.40	0.30
SJ54	1	0.34	0.32	0.17	SJ56	16	0.50	0.44	0.29
SJ54	2	0.49	0.41	0.42	SJ56	17	0.42	0.42	0.26
SJ54	3	0.36	0.33	0.29	SJ56	18	0.58	(0.47)	0.25
SJ54	4	0.30	0.27	0.18	SJ56	19	0.60	0.60	0.38
SJ54	5	0.42	0.38	0.16	SJ56	20	0.56	0.50	0.52
SJ54	6	0.36	0.36	0.17	SJ56	21	0.61	(0.31)	0.30
SJ54	7	0.33	0.33	0.17	SJ56	22	0.22	0.18	0.39
SJ54	8	0.34	0.34	0.18	SJ56	23	0.25	0.22	0.32
SJ54	9	0.42	0.40	0.22	SJ56	24	0.25	0.25	0.30
SJ54	10	0.43	0.36	0.27	SJ56	25	0.30	0.30	0.47
SJ54	11	0.40	0.34	0.33	SJ57	1	0.45	0.42	0.23
SJ54	12	0.34	0.28	0.22	SJ57	2	0.31	0.32	0.20
SJ54	13	0.36	0.32	0.22	SJ57	3	0.46	0.43	0.13
SJ54	14	0.31	0.30	0.44	SJ57	4	0.33	0.33	0.09
SJ54	15	0.20	0.18	0.29	SJ57	5	0.40	0.40	0.16
SJ55	1	0.56	0.42	0.75	SJ57	6	0.38	0.38	0.19
SJ55	2	0.56	0.46	0.71	SJ57	7	0.44	0.29	0.38
SJ55	3	0.46	0.42	0.40	SJ57	8	0.29	0.29	0.31
SJ55	4	0.61	0.46	0.16	SJ57	9	0.47	0.24	0.16
SJ55	5	0.52	0.51	0.31	SJ57	10	0.46	0.42	0.23
SJ55	6	0.38	0.34	0.32	SJ57	11	0.37	0.32	0.24
SJ55	7	0.59	0.48	0.40	SJ57	12	0.51	0.34	0.16
SJ55	8	0.41	0.38	0.21	SJ57	13	0.90	0.80	0.39
SJ55	9	0.40	0.36	0.35	SJ57	14	0.52	0.49	0.23
SJ55	10	0.40	0.36	0.13	SJ57	15	0.58	0.51	0.42
SJ55	11	0.53	0.45	0.27	SJ57	16	0.60	0.58	0.28
SJ55	12	0.50	0.41	0.64	SJ57	17	0.52	0.47	0.21
SJ55	13	0.40	0.37	0.42	SJ57	18	0.54	0.48	0.83
SJ55	14	0.42	0.34	0.40	SJ57	19	0.38	0.30	0.29
SJ55	15	0.35	0.34	0.21	SJ58	1	0.36	0.32	0.19
SJ55	16	0.34	(0.21)	0.12	SJ58	2	0.27	0.26	0.52
SJ55	17	0.52	0.44	0.31	SJ58	3	0.32	0.26	0.26
SJ55	18	0.48	0.46	0.35	SJ58	4	0.30	0.29	0.17
SJ55	19	0.44	0.36	0.48	SJ58	5	0.31	0.26	0.20
SJ55	20	0.32	0.28	0.15	SJ58	6	0.31	0.30	0.26

住居跡番号	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	住居跡番号	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
SJ58	7	0.30	0.29	0.24	SJ60	20	0.36	0.32	0.17
SJ58	8	0.38	0.30	0.27	SJ60	21	0.40	0.33	0.25
SJ58	9	0.50	0.44	0.31	SJ60	22	0.45	0.34	0.42
SJ58	10	0.33	0.24	0.20	SJ60	23	0.32	0.28	0.17
SJ58	11	0.30	0.28	0.29	SJ60	24	0.23	0.22	0.32
SJ58	12	0.27	0.26	0.27	SJ60	25	0.26	0.20	0.31
SJ58	13	0.34	0.32	0.23	SJ60	26	0.32	0.23	0.27
SJ58	14	0.30	0.28	0.29	SJ60	27	0.38	0.36	0.37
SJ58	15	0.50	0.50	0.52	SJ60	28	0.36	0.33	0.29
SJ58	16	0.41	(0.32)	0.43	SJ60	29	0.30	0.24	0.32
SJ58	17	0.37	0.32	0.30	SJ61	1	0.41	(0.26)	0.41
SJ59	1	0.50	0.38	0.45	SJ61	2	0.35	0.34	0.18
SJ59	2	0.38	0.36	0.42	SJ61	3	0.46	0.39	0.24
SJ59	3	0.38	0.32	0.45	SJ61	4	0.38	0.38	0.29
SJ59	4	0.50	0.44	0.29	SJ61	5	0.51	0.39	0.48
SJ59	5	0.50	0.48	0.26	SJ61	6	0.45	0.35	0.29
SJ59	6	0.76	0.61	0.38	SJ61	7	0.46	0.40	0.19
SJ59	7	0.56	0.52	0.32	SJ61	8	0.33	0.30	0.23
SJ59	8	0.40	0.34	0.30	SJ61	9	0.52	0.38	0.19
SJ59	9	0.62	0.44	0.40	SJ61	10	0.49	0.48	0.23
SJ59	10	0.48	0.32	0.21	SJ61	11	(0.35)	0.39	0.23
SJ59	11	0.40	0.34	0.30	SJ61	12	0.39	0.37	0.20
SJ59	12	0.39	0.32	0.34	SJ61	13	0.38	0.35	0.26
SJ59	13	0.41	0.38	0.37	SJ62	1	0.52	0.44	0.31
SJ59	14	0.45	0.38	0.21	SJ62	2	0.44	0.38	0.20
SJ59	15	0.40	(0.24)	0.33	SJ62	3	0.51	0.39	0.45
SJ59	16	0.34	0.34	0.13	SJ62	4	0.29	0.28	0.21
SJ59	17	0.50	0.35	0.39	SJ62	5	0.32	0.31	0.17
SJ59	18	0.30	0.26	0.34	SJ62	6	0.34	0.29	0.13
SJ59	19	0.38	0.36	0.18	SJ62	7	0.33	0.29	0.16
SJ59	20	0.26	0.26	0.35	SJ62	8	0.35	0.33	0.18
SJ59	21	0.60	0.56	0.27	SJ62	9	0.36	0.35	0.21
SJ59	22	0.32	0.28	0.21	SJ62	10	0.35	0.29	0.16
SJ59	23	0.54	0.48	0.49	SJ62	11	0.40	0.31	0.14
SJ59	24	0.38	0.30	0.38	SJ62	12	0.29	0.29	0.21
SJ60	1	0.34	(0.34)	0.22	SJ62	13	0.35	0.32	0.30
SJ60	2	0.66	0.50	0.27	SJ62	14	0.31	0.29	0.16
SJ60	3	0.34	0.32	0.34	SJ62	15	0.34	0.27	0.18
SJ60	4	0.39	0.39	0.23	SJ62	16	0.31	0.30	0.18
SJ60	5	0.38	0.35	0.45	SJ62	17	0.32	0.32	0.19
SJ60	6	0.61	(0.18)	0.43	SJ62	18	0.29	0.24	0.23
SJ60	7	0.34	0.33	0.18	SJ62	19	0.28	0.28	0.30
SJ60	8	0.36	0.30	0.15	SJ62	20	0.27	0.25	0.34
SJ60	9	0.44	0.38	0.35	SJ62	21	0.54	0.38	0.50
SJ60	10	0.48	0.42	0.23	SJ62	22	0.27	0.27	0.58
SJ60	11	0.42	0.36	0.45	SJ62	23	0.34	0.31	0.33
SJ60	12	0.42	0.38	0.12	SJ62	24	0.31	0.31	0.27
SJ60	13	0.64	(0.60)	0.13	SJ62	25	0.31	0.27	0.12
SJ60	14	0.74	0.52	0.31	SJ62	26	0.41	0.35	0.27
SJ60	15	0.58	0.50	0.24	SJ62	27	0.29	0.28	0.16
SJ60	16	0.30	0.28	0.34	SJ62	28	0.32	0.28	0.19
SJ60	17	0.40	0.40	0.16	SJ62	29	0.26	0.24	0.22
SJ60	18	0.32	0.30	0.23	SJ62	30	0.42	0.39	0.41
SJ60	19	0.38	0.34	0.24	SJ62	31	0.52	0.43	0.60

住居跡番号	番号	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	住居跡番号	番号	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
SJ62	32	0.45	0.36	0.38	SJ66	11	0.38	0.33	0.32
SJ62	33	0.39	0.35	0.18	SJ66	12	0.42	(0.19)	0.22
SJ62	34	0.43	0.35	0.36	SJ66	13	0.58	(0.49)	0.37
SJ64	1	0.38	0.32	0.44	SJ66	14	0.53	0.43	0.38
SJ64	2	0.66	0.58	0.11	SJ66	15	0.37	0.36	0.37
SJ64	3	0.41	0.36	0.17	SJ66	16	0.62	0.57	1.05
SJ64	4	0.64	0.58	0.32	SJ66	17	0.38	0.28	0.46
SJ64	5	0.50	0.33	0.23	SJ66	18	0.49	0.42	0.41
SJ64	6	0.34	0.34	0.58	SJ66	19	0.37	0.37	0.44
SJ64	7	0.26	0.24	0.28	SJ67	1	0.38	(0.31)	0.29
SJ64	8	0.46	0.40	0.50	SJ67	2	0.40	(0.22)	0.35
SJ64	9	0.34	0.30	0.76	SJ67	3	0.26	0.22	0.26
SJ64	10	0.35	0.31	0.25	SJ67	4	0.39	(0.35)	0.31
SJ64	11	0.32	0.18	0.22	SJ67	5	0.37	0.36	0.26
SJ65	1	0.46	0.36	0.17	SJ67	6	0.35	0.34	0.29
SJ65	2	0.32	0.27	0.16	SJ67	7	0.50	0.41	0.51
SJ65	3	0.26	0.25	0.16	SJ67	8	0.37	0.32	0.25
SJ65	4	0.28	0.25	0.42	SJ67	9	0.52	0.52	0.27
SJ65	5	0.34	0.34	0.30	SJ67	10	0.33	0.33	0.19
SJ65	6	0.32	0.30	0.34	SJ67	11	0.44	0.34	0.47
SJ65	7	0.31	0.25	0.50	SJ67	12	0.38	0.38	0.65
SJ65	8	0.33	0.28	0.19	SJ67	13	0.43	0.40	0.32
SJ65	9	0.36	0.33	0.32	SJ67	14	0.44	0.34	0.49
SJ65	10	0.40	0.38	0.23	SJ68	1	0.43	0.42	0.18
SJ65	11	0.34	0.26	0.35	SJ68	2	0.55	0.45	0.39
SJ65	12	0.28	0.26	0.19	SJ68	3	0.36	(0.34)	0.39
SJ65	13	0.26	0.26	0.25	SJ68	4	0.40	0.34	0.24
SJ65	14	0.40	0.31	0.37	SJ68	5	0.29	0.26	0.24
SJ65	15	0.32	0.26	0.28	SJ68	6	0.42	(0.18)	0.21
SJ65	16	0.82	0.56	0.24	SJ68	7	0.46	0.42	0.59
SJ65	17	0.28	0.26	0.17	SJ68	8	0.54	0.46	0.14
SJ65	18	0.50	0.30	0.31	SJ68	9	0.42	0.36	0.14
SJ65	19	0.34	0.24	0.23	SJ68	10	0.40	0.37	0.15
SJ65	20	0.34	0.32	0.23	SJ68	11	0.24	0.21	0.28
SJ65	21	0.44	0.44	0.26	SJ68	12	0.38	0.34	0.17
SJ65	22	0.69	0.30	0.19	SJ68	13	0.32	0.27	0.19
SJ65	23	0.30	0.48	0.50	SJ68	14	0.30	0.29	0.13
SJ65	24	0.42	0.30	0.24	SJ68	15	0.28	0.27	0.20
SJ65	25	0.31	0.31	0.21	SJ68	16	0.46	0.43	0.90
SJ65	26	0.34	0.33	0.36	SJ68	17	0.26	0.25	0.41
SJ65	27	0.60	0.52	0.62	SJ68	18	0.30	0.28	0.45
SJ65	28	0.44	0.38	0.38	SJ68	19	0.45	0.42	0.21
SJ65	29	0.40	0.38	0.26	SJ68	20	0.88	0.65	0.15
SJ65	30	0.62	0.62	0.16	SJ68	21	0.68	0.53	0.18
SJ66	1	0.38	0.35	0.50	SJ68	22	0.32	0.30	0.36
SJ66	2	0.39	0.35	0.40	SJ68	23	0.36	0.32	0.15
SJ66	3	0.37	0.32	0.46	SJ70	1	0.39	0.32	0.23
SJ66	4	0.41	0.33	0.40	SJ70	2	0.57	0.47	0.31
SJ66	5	0.37	0.35	0.18	SJ70	3	0.50	(0.38)	0.14
SJ66	6	0.37	0.35	0.43	SJ70	4	0.46	0.37	0.17
SJ66	7	0.45	0.41	0.33	SJ70	5	0.53	0.40	0.21
SJ66	8	0.44	(0.36)	0.32	SJ70	6	0.61	0.47	0.19
SJ66	9	0.43	0.32	0.29	SJ70	7	0.34	0.30	0.40
SJ66	10	0.40	0.35	0.25	SJ70	8	0.49	0.34	0.23

住居跡番号	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	住居跡番号	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
SJ70	9	0.41	0.40	0.26	SJ73	13	0.39	0.32	0.17
SJ70	10	0.31	0.30	0.37	SJ73	14	0.32	0.28	0.60
SJ70	11	0.42	0.38	0.46	SJ73	15	0.40	0.38	0.13
SJ70	12	0.44	0.36	0.21	SJ74	1	0.28	0.24	0.32
SJ70	13	0.45	0.43	0.30	SJ74	2	0.32	0.31	0.17
SJ70	14	0.52	0.50	0.23	SJ74	3	0.32	0.30	0.22
SJ70	15	0.49	0.39	0.18	SJ74	4	0.40	0.36	0.33
SJ70	16	0.30	0.26	0.31	SJ74	5	0.68	0.54	0.56
SJ70	17	0.27	0.27	0.18	SJ74	6	0.30	0.30	0.50
SJ70	18	0.33	0.32	0.39	SJ74	7	0.27	0.26	0.39
SJ70	19	0.28	0.28	0.32	SJ74	8	0.26	0.24	0.38
SJ71	1	0.52	0.49	0.18	SJ74	9	0.33	0.26	0.52
SJ71	2	0.72	0.51	0.27	SJ74	10	0.43	0.42	0.45
SJ71	3	0.33	0.32	0.19	SJ74	11	0.36	0.32	0.35
SJ71	4	0.34	0.28	0.16	SJ74	12	0.42	0.37	0.58
SJ71	5	0.31	0.29	0.14	SJ74	13	0.50	0.41	0.29
SJ71	6	0.51	0.39	0.40	SJ74	14	0.40	(0.38)	0.23
SJ71	7	0.34	0.33	0.21	SJ74	15	0.40	(0.35)	0.22
SJ71	8	0.57	0.51	0.16	SJ74	16	0.36	0.31	0.10
SJ71	9	0.40	0.35	0.17	SJ74	17	0.46	0.44	0.31
SJ71	10	0.32	0.30	0.16	SJ74	18	0.32	0.26	0.23
SJ71	11	0.44	0.40	0.31	SJ74	19	0.24	(0.13)	0.29
SJ71	12	0.29	0.29	0.32	SJ74	20	0.33	(0.18)	0.30
SJ71	13	0.45	0.35	0.28	SJ74	21	0.28	0.24	0.17
SJ71	14	0.31	0.27	0.14	SJ74	22	0.31	(0.29)	0.17
SJ72	1	0.50	0.35	0.53	SJ74	23	0.33	0.24	0.35
SJ72	2	0.32	0.29	0.39	SJ74	24	0.26	(0.25)	0.12
SJ72	3	0.33	0.33	0.13	SJ75	1	0.40	0.32	0.24
SJ72	4	0.40	0.37	0.40	SJ75	2	0.32	0.30	0.22
SJ72	5	0.46	0.42	0.67	SJ75	3	0.22	0.17	0.11
SJ72	6	0.42	0.33	0.65	SJ75	4	0.28	0.24	0.17
SJ72	7	0.60	0.40	0.36	SJ75	5	0.21	0.20	0.13
SJ72	8	0.24	0.20	0.10	SJ75	6	0.41	0.31	0.35
SJ72	9	0.43	0.31	0.18	SJ75	7	0.26	0.25	0.13
SJ72	10	0.45	0.37	0.33	SJ75	8	0.26	0.22	0.28
SJ72	11	0.31	0.28	0.18	SJ75	9	0.70	0.54	0.30
SJ72	12	0.42	0.36	0.19	SJ75	10	0.50	0.47	0.23
SJ72	13	0.34	0.34	0.29	SJ75	11	0.32	0.26	0.18
SJ72	14	0.44	0.34	0.27	SJ75	12	0.40	0.34	0.07
SJ72	15	0.60	0.57	0.33	SJ75	13	0.43	0.42	0.21
SJ72	16	0.34	0.29	0.23	SJ76	1	0.49	0.36	0.20
SJ72	17	0.26	(0.11)	0.09	SJ76	2	0.51	0.47	0.18
SJ73	1	0.40	0.34	0.22	SJ76	3	0.52	0.42	0.37
SJ73	2	0.44	(0.35)	0.17	SJ76	4	0.55	(0.32)	0.26
SJ73	3	0.31	0.23	0.13	SJ76	5	0.39	0.35	0.34
SJ73	4	0.51	0.42	0.47	SJ76	6	0.45	0.35	0.11
SJ73	5	0.40	0.32	0.47	SJ76	7	0.67	0.46	0.23
SJ73	6	0.40	0.29	0.11	SJ76	8	0.48	0.35	0.32
SJ73	7	0.37	0.32	0.54	SJ76	9	0.45	(0.30)	0.15
SJ73	8	0.26	0.22	0.13	SJ76	10	0.42	0.40	0.42
SJ73	9	0.35	0.32	0.19	SJ77	1	0.64	0.44	0.77
SJ73	10	0.28	0.23	0.13	SJ77	2	0.42	0.38	0.66
SJ73	11	0.28	0.22	0.16	SJ77	3	0.60	0.52	0.78
SJ73	12	0.45	0.40	0.17	SJ77	4	0.70	0.68	0.83

住居跡番号	番号	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	住居跡番号	番号	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
SJ77	5	0.82	0.74	0.74	SJ80	5	0.44	0.33	0.19
SJ77	6	0.76	0.59	0.56	SJ81	1	0.40	0.36	0.66
SJ77	7	0.60	0.52	0.65	SJ81	2	0.42	0.41	0.70
SJ77	8	0.60	0.59	0.66	SJ81	3	0.40	0.35	0.17
SJ77	9	0.35	0.34	0.09	SJ81	4	0.37	0.37	0.24
SJ77	10	0.54	0.38	0.70	SJ81	5	0.27	0.27	0.38
SJ77	11	0.84	0.78	0.80	SJ81	6	0.27	0.25	0.24
SJ77	12	0.68	0.28	0.34	SJ81	7	0.27	0.25	0.29
SJ77	13	0.68	0.64	0.34	SJ81	8	0.38	0.36	0.59
SJ77	14	0.42	(0.30)	0.38	SJ81	9	0.30	0.27	0.14
SJ77	15	0.34	0.32	0.80	SJ81	10	0.31	0.30	0.18
SJ77	16	0.46	0.26	0.18	SJ81	11	0.39	0.35	0.11
SJ77	17	0.32	0.28	0.21	SJ81	12	0.34	0.30	0.15
SJ77	18	0.26	0.22	0.27	SJ81	13	0.31	0.29	0.16
SJ78	1	0.53	0.37	0.32	SJ81	14	0.36	0.35	0.24
SJ78	2	0.34	0.30	0.49	SJ81	15	0.64	0.59	0.43
SJ78	3	0.30	0.24	0.29	SJ81	16	0.50	0.46	0.21
SJ78	4	0.27	0.23	0.34	SJ81	17	0.56	0.55	0.37
SJ78	5	0.23	0.20	0.13	SJ81	18	0.53	0.49	0.29
SJ78	6	0.24	0.22	0.21	SJ81	19	0.20	0.17	0.10
SJ78	7	0.20	0.20	0.26	SJ81	20	0.38	0.31	0.39
SJ78	8	0.39	0.38	0.24	SJ81	21	0.28	0.26	0.23
SJ78	9	0.54	0.48	0.83	SJ81	22	0.33	0.28	0.58
SJ78	10	0.26	0.22	0.28	SJ81	23	0.30	0.27	0.46
SJ78	11	0.36	0.34	0.14	SJ81	24	0.36	0.34	0.14
SJ78	12	0.50	0.30	0.08	SJ81	25	0.23	0.20	0.39
SJ78	13	0.68	0.48	0.36	SJ82	1	0.48	0.42	0.38
SJ78	14	0.55	0.49	0.78	SJ82	2	0.32	0.32	0.66
SJ78	15	0.70	0.64	0.32	SJ82	3	0.32	0.30	0.30
SJ78	16	0.53	(0.22)	0.14	SJ82	4	0.33	0.28	0.49
SJ78	17	0.32	0.30	0.27	SJ82	5	0.36	0.30	0.35
SJ78	18	0.51	0.35	0.51	SJ82	6	0.33	0.26	0.30
SJ78	19	0.50	0.30	0.49	SJ82	7	0.33	0.35	0.72
SJ78	20	0.73	0.66	0.14	SJ82	8	0.39	0.37	0.27
SJ78	21	0.50	0.39	0.75	SJ82	9	0.46	0.40	0.38
SJ78	22	0.20	0.20	0.31	SJ83	1	0.34	0.30	0.39
SJ78	23	0.18	0.16	0.40	SJ83	2	0.29	0.27	0.49
SJ78	24	0.23	0.23	0.46	SJ83	3	0.49	0.39	0.33
SJ78	25	0.18	0.16	0.47	SJ83	4	0.90	0.62	0.48
SJ78	26	0.40	0.37	0.49	SJ83	5	0.46	0.30	0.69
SJ78	27	0.28	0.27	0.50	SJ83	6	0.37	0.36	0.18
SJ79	1	0.28	0.26	0.35	SJ83	7	0.32	0.30	0.22
SJ79	2	0.33	0.32	0.37	SJ83	8	0.54	0.51	0.21
SJ79	3	0.46	0.44	0.55	SJ83	9	0.54	0.45	0.14
SJ79	4	0.34	0.33	0.15	SJ83	10	0.36	0.26	0.85
SJ79	5	0.74	0.40	0.51	SJ83	11	0.30	0.28	0.54
SJ79	6	0.33	0.30	0.25	SJ83	12	0.42	0.32	0.79
SJ79	7	0.46	0.42	0.38	SJ83	13	0.34	0.28	0.41
SJ79	8	0.66	0.61	0.44	SJ83	14	0.42	0.30	0.31
SJ79	9	0.44	0.39	0.49	SJ83	15	(0.54)	0.40	0.58
SJ80	1	0.44	0.33	0.17	SJ83	16	0.37	0.34	0.19
SJ80	2	0.26	0.23	0.24	SJ83	17	0.44	(0.15)	0.43
SJ80	3	0.32	0.31	0.10	SJ83	18	0.84	0.65	0.71
SJ80	4	0.36	0.29	0.10	SJ83	19	0.39	0.31	0.20

住居跡番号	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	住居跡番号	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
SJ83	20	0.58	(0.46)	0.49	SJ88	4	0.33	0.32	0.25
SJ83	21	0.36	0.25	0.29	SJ88	5	0.41	(0.24)	0.39
SJ83	22	0.44	0.32	0.14	SJ88	6	0.58	0.46	0.42
SJ83	23	0.44	0.35	0.21	SJ88	7	0.39	0.38	0.28
SJ83	24	0.39	0.29	0.28	SJ88	8	0.52	0.45	0.39
SJ83	25	0.43	0.36	0.41	SJ88	9	0.46	0.42	0.32
SJ83	26	0.23	0.18	0.31	SJ88	10	0.38	0.28	0.38
SJ84	1	0.38	0.37	0.28	SJ88	11	0.30	0.30	0.48
SJ84	2	0.46	0.42	0.65	SJ88	12	0.34	0.32	0.26
SJ84	3	0.35	0.32	0.30	SJ89	1	0.50	0.44	0.16
SJ84	4	0.38	0.36	0.34	SJ89	2	0.56	0.41	0.15
SJ84	5	0.45	0.41	0.19	SJ89	3	0.42	0.36	0.34
SJ84	6	0.60	0.55	0.30	SJ89	4	0.60	0.50	0.45
SJ84	7	0.47	0.42	0.68	SJ90	1	0.46	0.42	0.70
SJ84	8	0.41	0.40	0.42	SJ90	2	0.52	0.42	0.33
SJ84	9	0.39	0.80	0.19	SJ90	3	0.40	0.40	0.30
SJ84	10	0.40	0.80	0.34	SJ90	4	0.42	0.42	0.36
SJ84	11	0.36	0.36	0.36	SJ90	5	0.62	0.58	0.44
SJ84	12	0.29	0.27	0.18	SJ90	6	0.40	0.40	0.43
SJ84	13	0.38	0.34	0.24	SJ90	7	0.30	0.28	0.24
SJ84	14	0.62	0.56	0.47	SJ90	8	0.30	0.24	0.21
SJ84	15	0.40	0.30	0.54	SJ90	9	0.36	0.30	0.28
SJ85	1	0.38	0.30	0.07	SJ90	10	0.28	0.26	0.18
SJ85	2	0.23	0.20	0.12	SJ90	11	0.40	0.34	0.20
SJ85	3	0.28	0.23	0.11	SJ90	12	0.38	0.35	0.34
SJ85	4	0.22	0.18	0.09	SJ91	1	0.59	0.34	0.22
SJ85	5	0.32	0.29	0.38	SJ91	2	0.38	0.36	0.43
SJ85	6	0.37	0.35	0.79	SJ91	3	0.51	0.50	0.28
SJ85	7	0.22	0.18	0.09	SJ91	4	0.32	0.24	0.25
SJ85	8	0.32	0.28	0.58	SJ91	5	0.53	0.46	0.26
SJ85	9	0.22	0.20	0.23	SJ91	6	0.39	0.37	0.33
SJ85	10	0.53	0.49	0.75	SJ91	7	0.40	0.30	0.58
SJ85	11	0.38	0.38	0.88	SJ91	8	0.42	0.41	0.54
SJ85	12	0.30	0.26	0.59	SJ92	1	0.53	0.41	0.43
SJ85	13	0.30	0.25	0.44	SJ92	2	0.33	0.32	0.21
SJ85	14	0.63	0.46	0.26	SJ92	3	0.42	0.40	0.19
SJ86	1	0.61	0.53	0.23	SJ93	1	0.55	0.53	0.92
SJ86	2	0.42	0.40	0.37	SJ93	2	0.82	0.74	0.50
SJ86	3	0.36	0.32	0.53	SJ93	3	0.52	0.45	0.42
SJ86	4	0.32	0.30	0.31	SJ93	4	0.71	0.57	0.47
SJ86	5	0.43	0.40	0.44	SJ93	5	0.60	0.54	0.87
SJ86	6	0.46	0.46	0.35	SJ93	6	0.33	0.27	0.41
SJ86	7	0.38	0.32	0.29	SJ93	7	0.40	0.37	0.73
SJ87	1	0.62	0.46	0.69	SJ93	8	0.62	0.58	0.94
SJ87	2	0.55	0.48	1.05	SJ93	9	0.62	0.53	0.70
SJ87	3	0.54	0.44	0.88	SJ93	10	0.32	(0.21)	0.54
SJ87	4	0.55	0.46	0.62	SJ93	11	0.31	0.29	0.39
SJ87	5	0.38	0.37	0.71	SJ93	12	0.48	0.41	0.22
SJ87	6	0.76	0.40	0.39	SJ93	13	0.55	0.52	0.29
SJ87	7	0.54	0.47	0.32	SJ93	14	0.63	0.52	0.82
SJ87	8	0.47	0.30	0.24	SJ93	15	0.28	0.28	0.33
SJ88	1	0.29	0.28	0.17	SJ93	16	0.31	0.29	0.41
SJ88	2	0.47	0.40	0.46	SJ93	17	0.25	0.23	0.26
SJ88	3	0.44	0.36	0.29	SJ93	18	0.27	0.25	0.22

住居跡番号	番号	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	住居跡番号	番号	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
SJ93	19	0.42	(0.27)	0.36	SJ96	11	0.60	0.51	0.59
SJ93	20	0.44	0.40	0.44	SJ96	12	0.55	0.46	0.66
SJ93	21	0.37	0.36	0.24	SJ96	13	(0.42)	(0.30)	0.20
SJ93	22	0.38	0.35	0.15	SJ96	14	0.36	0.32	0.43
SJ93	23	0.35	0.33	0.24	SJ96	15	0.46	0.33	0.22
SJ93	24	0.58	0.52	0.89	SJ96	16	(0.56)	(0.54)	0.22
SJ93	25	0.55	0.50	0.32	SJ96	17	(0.50)	0.40	0.26
SJ93	26	0.40	0.39	0.31	SJ97	1	0.48	0.42	0.34
SJ93	27	0.55	0.44	0.51	SJ97	2	0.52	0.46	0.20
SJ93	28	0.50	0.46	0.32	SJ97	3	0.46	0.43	0.60
SJ93	29	0.77	0.67	0.56	SJ97	4	0.40	0.36	0.28
SJ93	30	0.23	0.22	0.22	SJ97	5	0.44	0.40	0.72
SJ93	31	0.37	0.35	0.66	SJ97	6	0.40	0.32	0.35
SJ93	32	0.20	0.17	0.27	SJ97	7	0.27	0.22	0.40
SJ93	33	0.41	0.32	0.44	SJ97	8	0.33	0.22	0.42
SJ93	34	0.50	0.41	0.55	SJ97	9	0.46	0.36	0.79
SJ94	1	0.58	0.38	0.12	SJ97	10	0.42	0.34	0.34
SJ94	2	0.52	0.42	0.14	SJ97	11	0.38	0.32	0.90
SJ94	3	0.31	0.25	0.37	SJ97	12	0.58	0.48	0.82
SJ94	4	0.64	0.40	0.47	SJ97	13	0.40	(0.30)	0.27
SJ94	5	0.52	0.46	0.30	SJ97	14	0.46	0.40	0.30
SJ94	6	0.54	(0.36)	0.15	SJ97	15	0.39	(0.20)	0.17
SJ94	7	0.30	0.29	0.30	SJ97	16	0.36	0.34	0.62
SJ94	8	0.48	0.38	0.43	SJ97	17	0.44	(0.32)	0.19
SJ94	9	0.30	0.26	0.38	SJ97	18	0.50	0.46	0.26
SJ94	10	0.36	0.27	0.14	SJ97	19	0.47	0.46	0.28
SJ94	11	0.25	0.18	0.34	SJ97	20	0.52	(0.44)	0.29
SJ94	12	0.60	0.44	0.29	SJ97	21	0.36	(0.28)	0.18
SJ94	13	0.36	(0.18)	0.45	SJ97	22	0.57	0.43	0.13
SJ94	14	0.36	0.20	0.40	SJ97	23	0.38	(0.18)	0.37
SJ94	15	0.40	0.24	0.16	SJ97	24	0.40	(0.18)	0.27
SJ95	1	0.41	0.37	0.35	SJ97	25	0.26	0.22	0.19
SJ95	2	0.35	0.32	0.36	SJ98	1	0.52	0.51	0.53
SJ95	3	0.46	0.43	0.43	SJ98	2	0.58	0.46	0.66
SJ95	4	0.29	0.26	0.39	SJ98	3	0.64	0.40	0.33
SJ95	5	0.35	0.34	0.30	SJ98	4	0.58	0.42	0.44
SJ95	6	0.43	(0.24)	0.13	SJ98	5	0.30	0.30	0.31
SJ95	7	0.52	0.41	0.14	SJ98	6	0.36	0.34	0.31
SJ95	8	0.49	0.42	0.41	SJ98	7	0.50	0.48	0.48
SJ95	9	0.33	0.31	0.41	SJ98	8	0.68	0.52	0.60
SJ95	10	0.39	0.37	0.18	SJ98	9	0.17	0.17	0.10
SJ95	11	0.34	0.32	0.42	SJ98	10	0.50	0.46	0.36
SJ95	12	0.58	0.41	0.44	SJ98	11	0.31	0.23	0.36
SJ95	13	0.31	0.27	0.30	SJ98	12	0.38	0.27	0.24
SJ96	1	0.78	(0.49)	0.37	SJ98	13	0.26	0.22	0.15
SJ96	2	0.28	0.26	0.24	SJ98	14	0.22	0.22	0.15
SJ96	3	0.38	0.33	0.20	SJ98	15	0.23	0.18	0.13
SJ96	4	0.55	0.39	0.42	SJ98	16	0.25	0.20	0.13
SJ96	5	0.36	0.33	0.27	SJ98	17	0.23	0.20	0.17
SJ96	6	0.44	0.37	0.22	SJ98	18	0.20	0.20	0.07
SJ96	7	0.34	0.28	0.12	SJ98	19	0.18	0.16	0.07
SJ96	8	0.45	0.34	0.12	SJ98	20	0.23	0.22	0.31
SJ96	9	0.48	0.42	0.62	SJ98	21	0.18	0.17	0.30
SJ96	10	0.40	0.34	0.57	SJ98	22	0.30	0.28	0.17

住居跡番号	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	住居跡番号	番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
SJ98	23	0.20	0.16	0.24	SJ102	7	0.34	0.29	0.18
SJ98	24	0.16	0.16	0.28	SJ102	8	0.27	0.27	0.20
SJ98	25	0.16	0.15	0.21	SJ102	9	0.41	0.38	0.28
SJ98	26	0.21	0.16	0.31	SJ102	10	0.48	0.42	0.45
SJ98	27	0.18	0.17	0.22	SJ102	11	0.42	0.30	0.34
SJ98	28	0.18	0.18	0.21	SJ102	12	0.30	0.28	0.29
SJ98	29	0.24	0.24	0.41	SJ102	13	0.40	0.36	0.27
SJ98	30	0.21	0.20	0.16	SJ102	14	0.30	0.29	0.44
SJ98	31	0.22	0.22	0.19	SJ102	15	0.23	0.22	0.53
SJ98	32	0.17	0.17	0.28	SJ102	16	0.16	0.12	0.24
SJ98	33	0.18	0.18	0.15	SJ102	17	0.25	0.21	0.57
SJ98	34	0.18	0.14	0.06	SJ102	18	0.25	0.23	0.29
SJ98	35	0.22	0.20	0.16	SJ102	19	0.20	0.18	0.30
SJ98	36	0.27	0.20	0.19	SJ102	20	0.30	0.26	0.70
SJ98	37	0.20	0.19	0.21	SJ102	21	0.62	0.43	0.24
SJ98	38	0.22	0.22	0.11	SJ102	22	0.22	0.22	0.24
SJ98	39	0.46	0.39	0.13	SJ102	23	0.30	0.26	0.36
SJ98	40	0.20	0.11	0.50	SJ102	24	0.48	0.43	0.34
SJ98	41	0.20	0.13	0.49	SJ102	25	0.42	0.31	0.37
SJ98	42	0.22	0.19	0.11	SJ103	1	0.31	0.28	0.11
SJ99	1	0.27	0.24	0.26	SJ103	2	0.32	0.29	0.19
SJ99	2	0.30	0.26	0.31	SJ103	3	0.34	0.32	0.13
SJ99	3	0.30	0.25	0.12	SJ103	4	0.37	0.35	0.37
SJ99	4	0.32	0.31	0.13	SJ103	5	0.38	0.37	0.46
SJ99	5	0.37	0.32	0.27	SJ103	6	0.25	0.22	0.16
SJ99	6	0.27	0.26	0.37	SJ103	7	0.30	(0.15)	0.18
SJ99	7	0.19	0.18	0.30	SJ103	8	0.28	0.27	0.32
SJ100	1	0.48	0.41	0.33	SJ103	9	0.39	0.31	0.11
SJ100	2	0.54	0.42	0.52	SJ103	10	0.29	0.25	0.21
SJ100	3	0.50	0.52	0.30	SJ103	11	0.68	0.44	0.42
SJ100	4	0.52	0.48	0.57	SJ103	12	0.25	0.25	0.18
SJ100	5	0.68	0.46	0.41	SJ103	13	(0.29)	0.29	0.34
SJ100	6	0.38	(0.24)	0.17	SJ103	14	0.35	0.29	0.39
SJ100	7	0.70	0.54	0.27	SJ103	15	0.28	0.26	0.20
SJ100	8	0.24	0.20	0.21	SJ103	16	0.38	0.30	0.30
SJ101	1	0.55	0.53	0.53	SJ103	17	0.27	0.19	0.37
SJ101	2	0.38	0.33	0.18	SJ103	18	0.27	(0.15)	0.21
SJ101	3	0.33	0.31	0.21	SJ103	19	0.36	0.26	0.43
SJ101	4	0.39	0.34	0.15	SJ103	20	0.32	0.27	0.36
SJ101	5	0.32	0.32	0.12	SJ104	1	0.40	0.34	0.60
SJ101	6	0.40	(0.25)	0.12	SJ104	2	0.48	0.39	0.45
SJ101	7	0.31	0.26	0.11	SJ104	3	0.35	0.34	0.38
SJ101	8	0.51	0.38	0.28	SJ104	4	0.84	0.48	0.38
SJ101	9	0.39	0.34	0.44	SJ104	5	0.68	0.60	0.20
SJ101	10	0.29	0.29	0.16	SJ104	6	0.40	0.39	0.26
SJ101	11	0.31	0.28	0.31	SJ104	7	0.40	0.40	0.70
SJ101	12	0.30	0.27	0.36	SJ104	8	0.33	0.27	0.37
SJ101	13	0.29	0.25	0.18	SJ104	9	0.56	0.42	0.31
SJ102	1	0.31	0.30	0.16	SJ104	10	0.61	0.55	0.34
SJ102	2	0.30	0.28	0.15	SJ104	11	0.46	0.44	0.18
SJ102	3	0.34	0.31	0.16	SJ104	12	0.34	0.24	0.27
SJ102	4	0.31	0.31	0.28	SJ104	13	0.38	0.33	0.28
SJ102	5	0.50	0.50	0.15	SJ105	1	0.37	0.34	0.28
SJ102	6	0.39	0.34	0.16	SJ105	2	0.54	0.47	0.18

住居跡番号	番号	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	住居跡番号	番号	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
SJ105	3	0.50	0.42	0.17	SJ108	5	0.48	0.34	0.50
SJ105	4	0.38	0.38	0.25	SJ108	6	0.54	0.46	0.53
SJ105	5	0.43	0.41	0.28	SJ108	7	0.53	0.41	0.14
SJ105	6	0.39	0.34	0.35	SJ108	8	0.48	0.47	0.21
SJ105	7	0.26	0.24	0.31	SJ109・110	1	(0.50)	0.42	0.11
SJ105	8	0.31	0.29	0.24	SJ109・110	2	0.46	0.43	0.08
SJ105	9	0.55	0.54	0.33	SJ109・110	3	0.54	0.43	0.52
SJ105	10	0.28	0.27	0.54	SJ109・110	4	0.40	0.36	0.11
SJ105	11	0.40	0.39	0.48	SJ109・110	5	0.58	0.50	0.82
SJ105	12	0.36	0.30	0.28	SJ109・110	6	0.36	0.34	0.19
SJ105	13	0.17	0.15	0.24	SJ109・110	7	0.40	0.38	0.10
SJ105	14	0.18	0.16	0.28	SJ109・110	8	0.44	0.38	0.60
SJ106	1	0.36	0.33	0.25	SJ109・110	9	0.62	0.55	0.61
SJ106	2	0.55	0.53	0.15	SJ109・110	10	0.30	0.30	0.74
SJ106	3	0.46	0.44	0.29	SJ109・110	11	0.46	0.40	0.72
SJ106	4	0.47	0.37	0.29	SJ109・110	12	0.66	0.58	0.57
SJ106	5	0.41	0.37	0.21	SJ109・110	13	0.37	0.23	0.48
SJ106	6	0.27	0.25	0.17	SJ109・110	14	0.29	0.26	0.51
SJ106	7	0.41	0.37	0.39	SJ109・110	15	0.34	0.32	0.39
SJ106	8	0.43	0.36	0.45	SJ109・110	16	0.26	0.24	0.11
SJ106	9	0.60	0.49	0.46	SJ109・110	17	0.25	0.20	0.13
SJ106	10	0.72	0.65	0.52	SJ109・110	18	0.19	0.17	0.13
SJ106	11	0.41	0.39	0.21	SJ109・110	19	0.30	0.21	0.13
SJ106	12	0.63	0.54	0.41	SJ109・110	20	0.22	0.18	0.35
SJ106	13	0.46	0.44	0.16	SJ109・110	21	0.48	(0.24)	0.72
SJ106	14	0.63	0.50	0.22	SJ109・110	22	0.46	0.32	0.68
SJ106	15	0.98	0.79	0.61	SJ109・110	23	0.25	0.24	0.18
SJ106	16	0.57	0.56	0.23	SJ109・110	24	0.41	0.32	0.11
SJ106	17	0.66	0.57	0.50	SJ109・110	25	0.26	0.20	0.20
SJ106	18	0.39	0.38	0.15	SJ109・110	26	0.21	0.17	0.19
SJ106	19	0.25	0.20	0.32	SJ109・110	27	0.46	0.33	0.36
SJ106	20	0.18	0.15	0.33	SJ109・110	28	(0.27)	(0.24)	0.63
SJ107	1	0.51	0.44	0.23	SJ109・110	29	0.24	0.22	0.34
SJ107	2	0.42	0.36	0.20	SJ109・110	30	0.38	0.36	0.63
SJ107	3	0.47	0.40	0.62	SJ109・110	31	0.68	0.60	0.67
SJ107	4	0.40	0.37	0.21	SJ109・110	32	0.19	0.18	0.08
SJ107	5	0.38	0.38	0.43	SJ109・110	33	0.22	0.18	0.06
SJ107	6	0.52	0.48	0.43	SJ109・110	34	0.34	0.32	0.06
SJ107	7	0.70	0.42	0.19	SJ111	1	0.61	0.43	0.27
SJ107	8	0.32	0.30	0.23	SJ111	2	0.29	0.26	0.11
SJ107	9	0.34	0.30	0.14	SJ111	3	0.36	0.32	0.13
SJ107	10	0.71	0.50	0.41	SJ111	4	0.32	0.29	0.32
SJ107	11	0.33	0.31	0.86	SJ111	5	0.42	0.37	0.54
SJ107	12	0.56	0.55	0.28	SJ111	6	0.28	0.27	0.12
SJ107	13	1.20	0.60	0.36	SJ111	7	0.19	0.19	0.40
SJ107	14	0.35	0.34	0.39	SJ111	8	0.43	(0.22)	0.39
SJ107	15	0.70	0.50	0.85	SJ111	9	0.64	0.46	0.59
SJ107	16	0.48	(0.28)	0.53	SJ111	10	0.24	0.24	0.18
SJ108	1	0.49	0.44	0.20	SJ111	11	0.26	0.23	0.31
SJ108	2	0.40	0.36	0.33	SJ111	12	0.42	0.46	0.29
SJ108	3	0.41	0.39	0.45	SJ111	13	0.69	0.58	0.52
SJ108	4	0.24	0.20	0.41					

第7表 掘立柱建物跡一覽表

番号	位置	主軸方向	柱間距離 (m)				ピット深度 (m)						重複
			北-南		西-東		P1	P2	P3	P4	P5	P6	
1	M-5	N-19°-W	P1-P4	P2-P3	P1-P2	P3-P4	1.11	0.92	0.96	0.99			S J 54 S K 137
			3.54	3.54	3.06	2.98							
2	L-5	N-4°-W	P1-P4	P2-P3	P1-P2	P3-P4	1.10	0.99	1.16	1.01			S J 57・58・65
			3.66	3.70	2.70	2.74							
3	L-7・8 M-8	N-45°-E	P1-P5	P2-P4	P1-P2	P4-P5	1.09	1.14	0.24	0.78	0.72	0.60	S J 61
			3.40	3.52	2.48	2.38							
4	K・L-6	N-25°-E	P1-P4	P2-P3	P1-P2	P3-P4	0.62	0.83	0.76	0.64			S K 178
			1.70	1.70	1.84	1.72							
5	L-6・7	N-31°-E	P1-P4	P2-P3	P1-P2	P3-P4	0.87	0.83	0.84	0.91			S J 68 S K 446・447
			2.06	2.07	1.57	1.56							
6	G-5	N-12°-E	推P-P5	P2-P3	推P-P2	P5-P3	0.49	0.50	1.19	0.48	0.61		S S 2
			2.52	2.22	3.23	3.19							
7	I-5・6 J-5・6	N-34°-E	P1-P4	P2-P3	P1-P2	P3-P4	0.52	0.37	0.51	0.98			S K 235
			2.64	2.58	2.78	2.58							
8	I・J-8	N-1°-W	P1-P6	P3-P4	P1-P3	P4-P6	0.85	0.29	0.88	0.75	0.38	0.64	S J 73・75 S K 241
			2.68	2.88	3.67	3.77							
9	H・I-7	N-29°-E	P1-P5	P2-P4	P1-P2	P4-P5	0.27	0.35	0.41	0.38	0.38	0.32	S K 273・371
			2.95	3.26	2.24	2.60							
10	I-6・7	N-30°-E	P1-P5	P2-P4	P1-P2	P4-P5	0.42	0.24	0.53	0.25	0.68	0.60	S K 223・224・225・226・239
			4.21	3.81	2.56	2.00							
11	F-5・6	N-12°-E	P1-P5	P2-P4	P1-P2	P4-P5	0.98	0.97	0.34	0.97	0.95	0.52	S J 12 S B 12 S D 29
			4.78	4.80	3.60	3.50							
12	F-5・6	N-28°-E	P1-P4	P2-P3	P1-P2	P3-P4	0.99	0.96	0.90	1.04			S J 12 S B 11 S D 29
			3.12	2.91	2.52	2.39							
13	G-8	N-14°-W	P1-P4	P2-P3	P1-P2	P3-P4	1.14	0.86	1.32	0.94			S J 86 S S 6
			2.41	2.59	3.20	3.92							
14	G-7	N-50°-E	P1-P4	P2-P3	P1-P2	P3-P4	0.96	0.96	0.86	1.02			S J 90 S K 322 S D 12・25
			1.57	1.60	1.52	1.58							
15	F-6・7 G-6・7	N-26°-W	P1-P4	P2-P3	P1-P2	P3-P4	1.03	0.93	1.07	1.09			S J 92・101 S K 340・377
			2.70	2.63	2.73	2.57							
16	欠番												
17	E-9	N-2°-E	P1-P4	P2-P3	P1-P2	P3-P4	0.92	0.76	0.85				S J 78・99 S D 19
			3.13	3.30	3.12	2.83							

第8表 土壇一覽表

土壇番号	位置	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	重複	備考
S K 1	T・U-3	楕円形	1.85	0.84	0.24	SJ1	
S K 2	V-2	長方形	2.72	0.90	0.48		近世
S K 3	U-5	楕円形	1.46	1.12	0.20	SJ11	
S K 4	U-5	楕円形	1.75	1.49	0.20	SJ11	
S K 5	U-6	楕円形	1.76	1.47	0.10		近世
S K 6	V-6・7	円形	1.10	1.09	0.23		近世
S K 7	U-4	楕円形	1.45	1.18	0.21		
S K 8	U-4	楕円形	0.77	0.65	0.26		
S K 9	U-4	円形	1.03	1.02	0.20		
S K 10	U-4	楕円形	1.24	1.06	0.21	SJ6	
S K 11	U-4	楕円形	2.23	1.53	0.28		
S K 12	U・V-4	楕円形	1.48	(1.11)	0.25	SD5	
S K 13	U-3	楕円形	1.10	0.77	0.46		
S K 14	T・U-4	楕円形	1.57	1.19	0.26		
S K 15	T-4	楕円形	1.32	1.02	0.13		
S K 16	T-5	楕円形	1.43	1.12	0.23		

土壌番号	位置	平面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	重複	備考
S K 17	S-5・6	楕円形	1.47	1.23	0.25		
S K 18	R・S-5	円形	1.07	1.02	0.20		
S K 19	S-5	楕円形	1.74	1.41	0.19		
S K 20	欠番						
S K 21	欠番						
S K 22	S-6	楕円形	(1.58)	1.57	1.15		近世
S K 23	T-3	楕円形	1.77	1.33	0.27		
S K 24	T-3	楕円形	1.03	0.74	0.21		
S K 25	S-2・3	楕円形	1.27	1.05	0.22	SD10	
S K 26	R-3	楕円形	1.36	0.87	0.26		
S K 27	T-2・3	楕円形	4.90	2.66	1.00		近世
S K 28	V-5	(楕円形)	(2.37)	2.46	0.46		近世
S K 29	F-5	楕円形	1.38	1.17	1.74	SK445	
S K 30	D-5	長方形	1.96	1.94	0.36		古墳時代
S K 31	D-5・6	円形	1.08	1.05	1.03	SK32	
S K 32	D-6	長方形	1.70	1.19	0.58	SK31	古墳時代
S K 33	C-5	楕円形	1.28	0.76	0.34		
S K 34	欠番						
S K 35	欠番						
S K 36	E-5	円形	1.16	0.95	1.25	SJ17	
S K 37	B-5・6	楕円形	1.93	1.39	0.24	SJ19・SK413	
S K 38	B-5	円形	1.44	1.37	0.19	SJ19	
S K 39	I-4・5	楕円形	1.62	(1.24)	0.81	SJ20	
S K 40	J-5	楕円形	1.33	0.84	0.55	SJ20	
S K 41	J-4	円形	0.98	0.87	0.68	SJ30	
S K 42	O-4	楕円形	1.22	1.00	0.28		
S K 43	N-4	楕円形	1.27	0.86	0.31		
S K 44	K-4	楕円形	1.67	1.05	0.36		
S K 45	J-4	円形	0.68	0.64	0.31		
S K 46	J-4	円形	0.95	0.88	0.22		
S K 47	J-4	楕円形	0.93	0.75	0.28		
S K 48	J-4	円形	1.09	1.05	0.19		
S K 49	J-4	楕円形	1.69	0.88	0.24		
S K 50	J-4	楕円形	1.10	0.95	0.27		
S K 51	I-4	不整形	1.95	1.85	0.48		
S K 52	H-4	長方形	2.25	0.72	0.56		古墳時代
S K 53	H-4	円形	1.04	0.98	0.45		
S K 54	H-4・5	楕円形	1.83	1.45	0.50		
S K 55	H-5	円形	1.22	1.13	0.52	SK56	
S K 56	H-5	楕円形	1.58	1.34	0.72	SK55	
S K 57	H-5	楕円形	1.37	1.12	0.69		
S K 58	G・H-5	長方形	2.66	1.68	0.78		古墳時代
S K 59	G・H-5	円形	0.97	0.95	0.73		
S K 60	G-5	楕円形	2.24	1.48	0.21		
S K 61	G-5	楕円形	1.13	0.80	0.43		
S K 62	M-4	楕円形	1.95	1.05	0.36		
S K 63	L・M-4	楕円形	1.58	1.28	0.21		
S K 64	E-5・6	長方形	1.46	0.80	0.38	SJ14・100・104	
S K 65	T-6・7	円形	1.12	1.10	0.29		
S K 66	T-7	楕円形	1.44	1.21	0.21		
S K 67	T-6	楕円形	1.61	1.45	0.62		
S K 68	S-7	楕円形	1.37	0.79	0.17		
S K 69	欠番						
S K 70	T-7	楕円形	2.42	1.59	0.65		近世
S K 71	T-6	不明	0.56	(0.36)	0.11	SD3	近世

土壌番号	位置	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	重 複	備考
S K 72	S-6	楕円形	1.07	0.91	0.24		
S K 73	T-6	不整形	1.71	1.22	0.28		
S K 74	O-7	円形	1.30	1.26	0.23	SJ35・46	
S K 75	O-7	楕円形	1.13	0.94	0.23	SJ35・46	
S K 76	O-7	楕円形	1.80	1.34	0.16	SJ35・40・45・46	
S K 77	P-7	円形	1.12	1.08	0.28	SJ42・46	
S K 78	P-7	円形	1.30	1.30	0.26	SJ42・45・46	
S K 79	P-7	楕円形	2.30	1.76	0.28	SJ42・SK80	
S K 80	P-7	楕円形	0.94	0.80	0.33	SJ42・SK79	
S K 81	P・Q-7	楕円形	3.30	2.00	0.33	SD17	
S K 82	P-7	楕円形	1.86	1.49	0.70	SD16・18	
S K 83	P-5	円形	1.31	1.28	0.19		
S K 84	P-5	楕円形	0.80	0.65	0.47		
S K 85	P-5	楕円形	1.62	1.05	0.28		
S K 86	P・Q-6	不整形	2.80	1.20	0.57		近世
S K 87	P-6	楕円形	1.44	1.15	0.21		
S K 88	P-5	円形	1.24	1.17	1.45		
S K 89	P-5	(円形)	1.27	(0.97)	0.45		
S K 90	P-5	不明	1.03	(0.54)	0.26		
S K 91	P-6	円形	1.28	1.04	0.18		
S K 92	P-6	楕円形	0.94	0.85	0.25	SJ39	
S K 93	H-8	円形	0.79	0.79	0.32		
S K 94	H-8	楕円形	0.90	0.76	0.32		
S K 95	H-8	楕円形	0.74	0.62	0.38		
S K 96	P-6	楕円形	1.48	0.91	0.20		
S K 97	P-6	円形	0.97	0.93	0.15		
S K 98	欠番						
S K 99	C・D-6	楕円形	1.50	1.23	0.17		
S K 100	G-6	隅丸長方形	2.78	1.42	0.55		古墳時代
S K 101	欠番						
S K 102	F-6	楕円形	2.20	0.49	0.17		近世
S K 103	F-6	長方形	2.17	0.58	0.08		近世
S K 104	F-7	楕円形	1.26	1.01	0.06	SJ88・SK105	近世
S K 105	F-7	長方形	1.04	0.72	0.01	SJ88・SK104	近世
S K 106	G-6	半円形	2.95	1.40	0.60	SJ102・SK318	古墳時代
S K 107	G-6・7	長方形	3.09	1.30	0.80		古墳時代
S K 108	G-5・6	長方形	1.68	0.78	0.32		
S K 109	J-5	楕円形	1.64	1.01	0.31	SJ20	
S K 110	J-5	楕円形	1.90	0.85	0.68	SJ20	
S K 111	G-5	長方形	1.51	1.00	0.34	SK113	
S K 112	G・H-5	楕円形	1.25	0.92	0.53		
S K 113	G・H-5	円形	0.81	0.81	0.40	SK111	
S K 114	H-5	円形	1.50	1.47	0.50		
S K 115	G-5	(円形)	1.16	(1.08)	0.19	SK116	
S K 116	G-5・6	(楕円形)	(1.20)	0.93	0.24	SK115	
S K 117	N-4	楕円形	1.82	1.12	0.30		
S K 118	N-4	円形	0.75	0.73	0.23		
S K 119	O-4	長方形	1.55	0.88	0.27		
S K 120	O-4	楕円形	0.81	0.70	0.23		
S K 121	O-4	楕円形	1.67	1.19	0.24		
S K 122	O-5	円形	1.14	0.91	0.17		
S K 123	O-5	楕円形	1.34	0.72	0.17		
S K 124	O-5	楕円形	1.46	1.01	0.27		
S K 125	N・O-5	円形	1.20	1.05	0.20		
S K 126	O-5	円形	1.05	1.00	0.19	SJ55	

土壌番号	位置	平面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	重 複	備考
S K 127	N-6	凹形	1.19	1.14	0.14	SJ66	
S K 128	N-6	楕円形	(1.27)	0.89	0.52		
S K 129	N-5	(不整形)	1.04	(0.70)	0.23	SJ66・SK130	
S K 130	N-5	楕円形	2.18	1.11	0.29	SJ66・SK129	
S K 131	欠番						
S K 132	N-5・6	凹形	1.03	0.89	0.26		
S K 133	N-6	楕円形	1.30	1.08	0.30		
S K 134	欠番						
S K 135	M-6	(凹形)	0.88	0.67	0.50	SJ53	
S K 136	M-4・5	楕円形	1.76	1.00	0.33		
S K 137	M-5	楕円形	1.50	0.96	0.38	SJ54・SB1	
S K 138	M-5	楕円形	1.00	0.81	0.23		
S K 139	M-5	凹形	0.89	0.88	0.25	SJ57	
S K 140	L-6	凹形	1.24	0.84	0.27	SJ58	
S K 141	L-6	凹形	1.08	0.99	0.29		
S K 142	L-5	凹形	1.44	1.27	0.22	SK424	
S K 143	L-5	楕円形	1.18	0.83	0.31		
S K 144	欠番						
S K 145	N-6	凹形	0.68	0.68	0.21	SJ66	
S K 146	M-5	楕円形	1.07	0.87	0.35		
S K 147	L-5	楕円形	1.08	1.80	0.55	SJ58・SK424	
S K 148	J・K-6	不整形	1.80	(1.10)	0.58	SK427	
S K 149	M・N-7	凹形	0.80	0.76	0.19	SJ60	
S K 150	M-7	楕円形	1.01	0.81	0.27	SJ60	
S K 151	L-8	(楕円形)	(0.98)	0.86	(0.21)	SD27	
S K 152	K・L-7・8	凹形	0.90	0.90	0.27	SJ72	
S K 153	K-7	凹形	0.82	0.82	0.31	SJ72	
S K 154	K・L-7	楕円形	1.58	0.98	0.25		
S K 155	K-7	凹形	1.44	1.42	0.71	SJ72	
S K 156	K-7	楕円形	1.48	0.98	0.24	SK157・429	
S K 157	K-7	楕円形	(1.22)	0.88	0.26	SK156	
S K 158	L-7	楕円形	1.60	(1.00)	0.24	SK159	
S K 159	L-7	不明	1.00	(1.01)	0.40	SK158	
S K 160	K-6・7	凹形	0.94	0.84	0.21	SK161・173	
S K 161	K-6	楕円形	1.48	0.98	0.31	SK160	
S K 162	K-7	楕円形	1.20	0.94	0.30		
S K 163	L-7	楕円形	1.40	1.07	0.34		
S K 164	K-7	楕円形	1.88	1.08	0.53	SJ72・SK165	
S K 165	K・L-7	楕円形	1.88	0.92	0.25	SJ72・SK164	
S K 166	K-7	楕円形	0.94	0.80	0.16	SJ72	
S K 167	欠番						
S K 168	K-7	楕円形	1.28	1.04	0.33	SK174	
S K 169	L-8	長方形	1.60	1.03	0.25	SJ62・SK170	
S K 170	L-8	不整形	1.64	1.55	0.41	SJ62・SK169・SD27	近世
S K 171	K-6	楕円形	1.49	1.13	0.58		
S K 172	K-6	楕円形	1.32	1.08	0.36		
S K 173	K-7	楕円形	1.38	(0.88)	0.64	SK160・174	
S K 174	K-7	楕円形	(1.34)	1.04	0.29	SK168・173	
S K 175	K-6	凹形	0.95	0.85	0.30	SK181	
S K 176	L-7	楕円形	1.96	1.42	0.29	SJ68	
S K 177	K・L-6	楕円形	2.02	(0.74)	0.24	SK178	
S K 178	L-6	楕円形	2.57	(1.12)	0.20	SB4・SK177	
S K 179	K-6	楕円形	1.30	0.97	0.29	SK180	
S K 180	K-6	楕円形	1.38	1.12	0.70	SK179	
S K 181	K-6	楕円形	2.40	1.25	0.62		

土壌番号	位置	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	重 複	備考
S K 182	J・K-6	楕円形	1.50	1.00	0.17		
S K 183	J-6	長方形	1.76	1.07	0.22		
S K 184	K-6	楕円形	1.40	1.37	0.61	SK409	
S K 185	M-7	楕円形	1.31	0.98	0.24		
S K 186	K-6	楕円形	0.93	0.72	0.63	SK409	
S K 187	J-8	円形	1.78	1.77	0.61	SJ73	
S K 188	J-8	楕円形	1.55	1.33	0.16		
S K 189	J-8	楕円形	0.98	0.73	0.13	SJ73	
S K 190	J-8	楕円形	1.48	1.09	0.29	SJ73	
S K 191	J-8	円形	1.40	1.28	0.33		
S K 192	I-6	(円形)	1.76	1.72	0.36	SK221	
S K 193	I-6	(楕円形)	1.36	0.83	0.32	SK194	
S K 194	I-6	(円形)	0.90	0.85	0.17	SK193・195	
S K 195	I-6	(楕円形)	1.53	1.01	0.17	SK194	
S K 196	J-6	楕円形	1.67	1.15	0.30		
S K 197	J-6	楕円形	1.60	0.82	0.21		
S K 198	J-6	楕円形	1.91	1.38	0.25		
S K 199	J-6	楕円形	1.34	0.74	0.35		
S K 200	J-6	楕円形	1.37	1.21	0.63		
S K 201	J-5	楕円形	1.60	1.10	0.32	SK203	
S K 202	J-5	楕円形	1.57	1.03	0.26		
S K 203	J-5	楕円形	(0.70)	0.60	0.29	SK201	
S K 204	欠番						
S K 205	J-6	不整形	1.30	1.09	0.51		
S K 206	K・L-6	円形	0.92	(0.83)	0.23	SK332	
S K 207	I-8・9	楕円形	0.76	(0.70)	0.29	SJ89・SK208・209	
S K 208	I-8・9	楕円形	(1.00)	(0.88)	0.34	SJ89・SK207・209	
S K 209	I-8	楕円形	0.94	0.78	0.27	SJ89・SK207・208	
S K 210	J-7	円形	1.60	1.50	0.43	SJ76	
S K 211	J-5	楕円形	1.15	0.87	0.40		
S K 212	J-6	円形	1.06	0.90	0.17		
S K 213	J-6	楕円形	1.20	0.84	0.22		
S K 214	I-6	円形	0.98	0.95	0.35		
S K 215	I-6	楕円形	1.30	0.82	0.27		
S K 216	I-6	円形	0.86	0.82	0.21		
S K 217	I-5	円形	1.05	1.02	0.24		
S K 218	I-6	円形	1.38	1.27	0.17		
S K 219	I-6	楕円形	1.12	0.94	0.15		
S K 220	I-7	不整形	1.83	1.23	1.03	SD27	近世
S K 221	I・J-6	不整形	1.08	0.92	0.90	SK192・SD27	
S K 222	H-7	円形	1.20	1.04	0.25		
S K 223	I-7	楕円形	1.90	(1.28)	0.84	SB10・SK224	
S K 224	I-7	楕円形	1.11	(0.64)	0.26	SK223・SB10	
S K 225	I-7	楕円形	1.38	(0.77)	0.39	SK239	
S K 226	H・I-7	楕円形	1.38	0.90	0.19	SB10	
S K 227	I-7	楕円形	1.36	0.90	0.20		
S K 228	I-6	楕円形	1.20	0.87	0.17	SK229	
S K 229	I-6	不明	1.94	1.55	0.85	SK228・231	
S K 230	I-6	楕円形	0.97	0.84	0.29		
S K 231	H・I-6	不明	1.45	(1.31)	0.49	SK229	
S K 232	H・I-6	不整形	1.72	1.48	0.60		
S K 233	H-6	楕円形	1.20	0.90	0.22		
S K 234	I・J-7	楕円形	1.42	0.96	0.79	SJ76	
S K 235	J-6	楕円形	4.32	0.95	0.46		
S K 236	I-5・6	円形	1.08	0.93	0.44		

土壌番号	位置	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	重 複	備考
S K 237	H-7	楕円形	1.06	0.90	0.26		
S K 238	I-6	楕円形	1.38	1.15	0.70		
S K 239	I-7	楕円形	1.04	0.88	0.63	SB10・SK225・275	
S K 240	I-7	楕円形	1.23	0.88	0.63	SJ79	
S K 241	欠番						
S K 242	E-8	円形	1.18	1.15	0.20		
S K 243	E-8	長方形	1.60	1.30	0.29	SK244	
S K 244	E・F-8	方形	1.14	1.16	0.24	SK243・246	
S K 245	J・K-5	楕円形	1.21	0.80	0.46		
S K 246	F-8	円形	1.24	1.22	0.24	SK244	
S K 247	E-8	円形	1.55	(1.48)	0.14	SD23	
S K 248	F-8	楕円形	1.66	1.34	0.24	SJ111	
S K 249	F-8	楕円形	1.24	1.04	0.40	SK345	
S K 250	F-8	円形	1.20	1.10	0.32	SK346	
S K 251	欠番						
S K 252	欠番						
S K 253	J・K-5	楕円形	1.03	0.86	0.20		
S K 254	F-8	楕円形	1.22	1.12	0.32	SJ93・97	
S K 255	F-8	楕円形	1.16	1.00	0.31	SJ97	
S K 256	F-9	不明	(1.06)	(0.86)	0.17	SJ87・SD12・22・24	
S K 257	F-9	円形	1.46	1.28	0.31		
S K 258	F・G-9	楕円形	2.10	1.16	0.24	SJ84	
S K 259	F・G-9	楕円形	1.48	1.26	0.30		
S K 260	G-9	円形	1.55	1.54	1.38		
S K 261	欠番						
S K 262	K-8	不明	1.09	(0.52)	0.22		
S K 263	K-8	不明	1.38	(0.57)	0.33		
S K 264	欠番						
S K 265	F-9	楕円形	1.48	(1.02)	0.31	SD12・25	
S K 266	G-9	楕円形	1.04	0.72	0.32		
S K 267	G-9	楕円形	0.84	(0.74)	0.32	SK268	
S K 268	G-9	楕円形	1.26	1.14	0.27	SK267	
S K 269	G-9	不明	0.80	(0.45)	0.36		
S K 270	欠番						
S K 271	I-7	楕円形	1.34	0.82	0.85	SK239・275	
S K 272	H-7	楕円形	1.30	1.10	0.30		
S K 273	H-7	楕円形	1.26	1.02	0.32		
S K 274	H-7	円形	0.82	0.80	0.56	SK433	
S K 275	I-7	楕円形	1.20	0.72	0.36	SK239・271	
S K 276	F-5	楕円形	1.16	0.97	0.25		
S K 277	G-5	円形	1.00	0.93	0.55	SK107	
S K 278	G-5	円形	0.69	0.69	0.26		
S K 279	G-6	不明	0.90	0.90	0.21	SK410	
S K 280	G-6	楕円形	1.62	0.95	0.24	SJ102・SK412	
S K 281	G-5	楕円形	1.36	1.03	1.05		
S K 282	欠番						
S K 283	G-6	不明	0.87	0.84	0.38	SK410	
S K 284	欠番						
S K 285	G-8・9	不整形	0.89	0.74	0.49	SJ86	
S K 286	G・H-8	楕円形	1.48	0.95	0.30		
S K 287	H-9	楕円形	1.56	1.34	0.70		
S K 288	H-8・9	楕円形	1.26	0.96	0.39		
S K 289	G-9	円形	0.89	0.84	0.31		
S K 290	G・H-8	楕円形	1.82	(1.08)	0.25	SK305	
S K 291	H-8	楕円形	(1.05)	0.77	0.40	SK292	

土壌番号	位置	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	重複	備考
S K 292	H-8	楕円形	1.64	1.02	0.19	SK291	
S K 293	欠番						
S K 294	欠番						
S K 295	欠番						
S K 296	H-8	楕円形	1.54	0.92	0.26		
S K 297	H-8	楕円形	1.63	0.92	0.26	SK315	
S K 298	H-8	円形	0.81	0.74	0.22		
S K 299	H-8	円形	0.85	(0.69)	0.35	SK300	
S K 300	H-8	円形	1.51	1.40	0.29	SK299・301	
S K 301	H-8	楕円形	1.48	(0.98)	0.31	SK300	
S K 302	H-8	円形	1.38	1.24	0.25		
S K 303	H-7・8	楕円形	1.52	1.16	0.25		
S K 304	H-7	楕円形	1.28	0.98	0.25		
S K 305	H-8	楕円形	1.20	(0.70)	0.31	SK290	
S K 306	H-8	楕円形	(1.16)	0.86	0.33	SS6	
S K 307	H-7	楕円形	0.78	0.64	0.31		
S K 308	G-8	不明	0.88	(0.62)	0.25	SS6	
S K 309	G-8	円形	1.02	1.00	0.26		
S K 310	H-6・7	円形	0.74	0.74	0.26		
S K 311	H-6	楕円形	1.12	0.86	0.25		
S K 312	H-7	楕円形	1.22	0.96	0.24		
S K 313	H-7	楕円形	1.31	0.98	0.36	SK314	
S K 314	H-7	楕円形	1.08	(0.66)	0.29	SK313	
S K 315	H-8	楕円形	(1.01)	0.90	0.24	SK297	
S K 316	欠番						
S K 317	H-6	楕円形	1.04	0.77	0.32		
S K 318	G-6	楕円形	1.18	(0.55)	0.30	SJ102・SK106	
S K 319	G-6	円形	0.95	0.87	0.25	SJ47・102	
S K 320	G-6	楕円形	1.51	1.49	0.26	SJ101・102・SK327	
S K 321	G-6	不整形	(1.83)	1.35	0.28	SJ102・SK323・325・348・349	
S K 322	G-7	楕円形	2.00	1.40	0.40	SJ90・SB14・SD12	
S K 323	G-6	楕円形	(1.40)	1.22	0.24	SJ102・SK321・324	
S K 324	G-6	円形	0.87	(0.74)	0.25	SJ102・SK323	
S K 325	G-6	楕円形	1.32	(0.65)	0.26	SJ102・SK321	
S K 326	G-6	楕円形	1.60	0.91	0.28	SJ102	
S K 327	G-6	楕円形	1.48	1.00	0.60	SJ102・SK320・328	
S K 328	G-6	楕円形	1.98	1.11	0.27	SJ102・SK327	
S K 329	G-6	楕円形	1.40	1.00	0.24	SJ102	
S K 330	G-6	楕円形	1.67	1.05	0.22	SJ102	
S K 331	K・L-6	楕円形	1.29	1.02	0.37	SK181	
S K 332	K・L-6	楕円形	1.43	1.10	0.31	SK206	
S K 333	K-5・6	楕円形	2.50	1.43	0.89		
S K 334	K-6	楕円形	1.64	1.02	0.73	SK441	
S K 335	欠番						
S K 336	K-6	楕円形	1.31	1.04	0.60		
S K 337	G-6	楕円形	1.49	0.98	0.32		
S K 338	欠番						
S K 339	G-6・7	楕円形	0.88	0.75	0.32		
S K 340	F-7	円形	1.22	1.16	0.30	SJ101	
S K 341	F・G-6	円形	1.62	1.48	0.46		
S K 342	欠番						
S K 343	F-7・8	不整形	1.96	0.75	0.28	SJ97	
S K 344	F-8	楕円形	1.48	1.12	0.20	SJ84・111	
S K 345	F-8	円形	1.38	1.26	0.26	SJ97・SK249	
S K 346	F-8	円形	1.32	1.26	0.72	SK250	

土壌番号	位置	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	重 複	備考
S K 347	欠番						
S K 348	G-6	(楕円形)	1.59	(1.08)	0.23	SJ102・SK321・349	
S K 349	G-6	(楕円形)	(1.70)	1.20	0.27	SJ102・SK321・348	
S K 350	欠番						
S K 351	P-5	(楕円形)	(0.73)	0.64	0.16		
S K 352	P-5	不明	1.20	(0.64)	1.04		
S K 353	O-5	不整形	1.41	1.05	0.90	SJ55	
S K 354	O-5・6	楕円形	1.80	1.07	0.14		
S K 355	O-6	円形	0.92	0.92	0.16		
S K 356	N-6・7	不明	1.55	(0.91)	0.22		
S K 357	N-7	不明	1.20	(0.56)	0.26		
S K 358	E・F-6	円形	1.30	1.09	0.30	SK359	
S K 359	E・F-6	楕円形	1.50	0.92	0.27	SK358	
S K 360	E・F-6	楕円形	1.52	1.18	0.31		
S K 361	E-6	楕円形	0.97	0.80	0.45	SJ103	
S K 362	E-6	楕円形	1.33	1.07	0.30	SJ104・105	
S K 363	E-6	楕円形	1.30	0.65	0.21	SJ104	
S K 364	E-6	楕円形	1.15	0.80	0.26	SJ105	
S K 365	E-6	楕円形	1.00	0.78	0.31		
S K 366	E-6	円形	0.86	0.80	0.25		
S K 367	H-8	楕円形	0.85	0.70	0.27		
S K 368	H-8	円形	0.68	0.66	0.27		
S K 369	H-8	円形	0.56	0.50	0.31		
S K 370	H-8	楕円形	1.00	0.88	0.40		
S K 371	H-7	楕円形	1.02	0.82	0.20		
S K 372	H-6・7	楕円形	1.10	0.83	0.39		
S K 373	G・H-6	円形	1.20	1.03	0.25		
S K 374	G-6	円形	1.15	1.04	0.25	SJ102	
S K 375	F-6	円形	1.27	1.23	0.27		
S K 376	H-7	楕円形	1.00	0.96	0.31	SK433	
S K 377	H-5・6	楕円形	1.30	1.07	0.57	SJ47・SD12	
S K 378	F-6	円形	0.75	0.73	0.27		
S K 379	F-6	楕円形	0.97	0.60	0.18		
S K 380	F-7	方形	0.91	0.86	0.16		
S K 381	D-7	円形	1.87	(1.72)	0.52	SJ112・SS4	
S K 382	D-7	楕円形	0.94	0.83	0.72		
S K 383	F-7	楕円形	1.00	0.78	0.15		
S K 384	F-7	楕円形	0.86	0.76	0.44	SJ88	
S K 385	F-7	不整形	1.72	(1.00)	0.40	SS6	
S K 386	E-8	楕円形	1.57	1.03	0.27		
S K 387	E-8	円形	0.83	0.75	0.04	SD28	
S K 388	E-7	楕円形	1.30	0.96	0.14		
S K 389	E-7	楕円形	1.52	1.06	0.20		
S K 390	E-7	楕円形	1.76	0.96	0.16		
S K 391	欠番						
S K 392	D・E-6	楕円形	1.24	1.10	0.15		
S K 393	D-6	円形	1.08	0.95	0.20		
S K 394	D-7	楕円形	1.25	0.82	0.26		
S K 395	欠番						
S K 396	D-6	円形	0.88	0.78	0.26		
S K 397	D-7・8	楕円形	1.46	(1.15)	0.22	SJ107・112・SS4	
S K 398	E-8	楕円形	1.50	1.12	0.26	SJ81・82	
S K 399	欠番						
S K 400	E-8	円形	0.82	0.80	1.67	SJ81・SD22	
S K 401	D-7・8	不整形	0.89	0.75	0.60	SJ107・SS4・SD19	

土壌番号	位置	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	重 複	備考
S K 402	E-8	不整形	1.02	0.96	0.56	SJ82	
S K 403	E-8	円形	0.98	0.96	0.21	SD28	
S K 404	E・F-8	不整形	1.23	0.88	0.24		
S K 405	E-8	楕円形	1.15	(0.60)	1.54	SJ81・SK406	
S K 406	E-8	(円形)	1.53	(1.23)	0.92	SJ81・SK405	
S K 407	欠番						
S K 408	欠番						
S K 409	K-6	楕円形	(1.80)	1.02	0.33	SK184・186	
S K 410	G-6	楕円形	1.32	0.90	0.52	SK279・283	
S K 411	K-5	楕円形	1.79	0.97	0.43	SJ77	
S K 412	G-6	円形	0.83	(0.60)	0.22	SK280	
S K 413	B-6	楕円形	(1.20)	1.04	0.21	SK37	
S K 414	L-6	円形	0.92	0.86	0.14	SJ65	
S K 415	L・M-6	楕円形	1.58	0.76	0.54	SJ53・65	
S K 416	F-7	楕円形	2.02	1.20	0.16		
S K 417	M-6	楕円形	1.32	0.90	0.35	SJ52	
S K 418	S-4	円形	(0.65)	0.63	0.15	SJ7	
S K 419	M-8	楕円形	1.34	(0.51)	0.49	SJ61	
S K 420	L-5・6	楕円形	1.44	1.00	0.25	SJ57	
S K 421	O-7	楕円形	2.12	1.08	0.11	SJ35	
S K 422	C・D-7	円形	0.92	0.94	0.13	SS4	
S K 423	H-6	楕円形	1.61	0.85	0.29	SJ47・SD12	
S K 424	L-5	楕円形	2.86	1.84	0.65	SJ58	
S K 425	O・P-6	楕円形	1.22	0.60	0.21	SJ43	
S K 426	O・P-6	楕円形	1.85	1.15	0.10	SJ43	
S K 427	J・K-6	楕円形	1.20	1.11	0.38	SK148	
S K 428	E・F-5	円形	1.10	1.04	0.36	SJ16	
S K 429	K-6・7	楕円形	1.12	0.80	0.86	SK156	
S K 430	E-5	不明	1.02	(0.36)	0.15	SJ17	
S K 431	I-4	楕円形	1.40	1.16	0.34	SJ20	
S K 432	N-3・4	楕円形	1.28	0.86	0.18	SJ27	
S K 433	H-7	楕円形	1.30	0.84	0.58	SK274・376	
S K 434	L-5	楕円形	1.48	0.90	0.36	SJ32	
S K 435	O-7	楕円形	1.16	0.96	0.24	SJ35・40	
S K 436	E-9	円形	0.76	0.70	0.24	SJ78	
S K 437	P-7	円形	1.10	1.04	0.32	SJ42・SD10	
S K 438	P-7	方形	1.70	1.52	0.52	SJ42・SD10	
S K 439	E-6	長方形	2.74	1.20	0.48	SJ14・100・104	
S K 440	G-7	円形	0.76	0.72	0.70	SJ90	
S K 441	K-6	楕円形	2.00	1.08	0.28	SK334	
S K 442	D-7	楕円形	0.96	0.78	0.20	SJ106	
S K 443	D-7	楕円形	1.56	1.10	0.21	SJ106	
S K 444	K-7	楕円形	1.66	1.12	0.39		
S K 445	F-5	円形	(0.98)	0.98	0.26	SK29	
S K 446	L-6	楕円形	1.38	0.80	0.18	SB5	
S K 447	L-6・7	楕円形	1.12	0.74	0.20	SB5	
S K 448	K-6・7	円形	1.70	1.48	0.38		
S K 449	K-6	楕円形	2.00	1.06	0.58		
S K 450	J-6・7	楕円形	1.27	1.03	0.24	SD27	近世
S K 451	N-6	楕円形	2.54	1.22	0.11	SJ51・66	
S K 452	L-6	楕円形	1.69	1.14	1.16	SJ58・SK420・453	
S K 453	L-6	楕円形	0.75	(0.30)	0.22	SJ58・SK140・452	
S K 454	E-8	楕円形	1.04	(0.40)	0.15	SJ93・SK455	
S K 455	E・F-8	楕円形	1.03	0.91	0.36	SJ93・SK454	

グリッド	番号	形状	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	グリッド	番号	形状	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
O-6	14	楕円形	0.42	0.32	0.26	S-3	1	楕円形	0.66	0.50	0.32
O-7	1	楕円形	0.56	0.40	0.38	S-3	2	楕円形	0.46	0.34	0.20
O-7	2	楕円形	0.40	0.36	0.39	S-3	3	楕円形	0.74	0.46	0.15
O-7	3	円形	0.22	0.22	不明	S-3	4	楕円形	0.70	0.50	0.19
O-7	4	楕円形	0.68	0.62	0.60	S-4	1	楕円形	0.42	0.40	0.25
O-8	1	楕円形	0.68	0.56	0.67	S-5	1	楕円形	0.88	0.46	0.52
P-5	1	不整形	0.48	(0.26)	0.28	S-6	1	円形	0.30	0.30	0.15
P-5	2	楕円形	0.46	0.36	0.38	S-6	2	楕円形	0.54	0.52	0.19
P-5	3	楕円形	0.42	0.40	0.27	T-4	1	楕円形	0.48	0.46	0.18
P-6	1	楕円形	0.52	0.46	0.46	T-4	2	楕円形	0.42	0.40	0.17
P-6	2	楕円形	0.56	0.44	0.34	T-4	3	楕円形	0.40	0.38	0.22
P-6	3	楕円形	0.64	0.56	0.32	T-4	4	楕円形	0.76	0.70	0.15
P-6	4	円形	0.56	0.56	0.20	T-5	1	楕円形	0.42	0.38	0.27
P-6	5	円形	0.34	0.34	0.20	T-5	2	円形	0.33	0.32	0.08
P-6	6	楕円形	0.36	0.32	0.30	T-6	1	円形	0.44	0.44	0.22
P-6	7	不整形	0.72	0.44	0.21	T-6	2	楕円形	0.42	0.40	0.22
P-6	8	円形	0.30	0.30	0.19	T-6	3	楕円形	0.76	(0.60)	0.27
P-7	1	円形	0.24	0.24	0.48	T-6	4	楕円形	0.56	0.48	0.26
P-7	2	円形	0.34	0.34	0.40	T-6	5	楕円形	0.84	0.78	0.36
P-7	3	楕円形	0.24	0.22	0.81	T-6	6	楕円形	0.60	0.56	0.20
P-7	4	円形	0.22	0.22	0.85	T-7	1	楕円形	0.58	0.56	0.23
Q-7	1	楕円形	0.60	0.56	0.23	T-7	2	円形	0.48	0.48	0.20
Q-7	2	楕円形	0.38	0.34	0.22	U-3	1	楕円形	0.70	0.58	0.19
Q-7	3	楕円形	0.50	0.46	0.18	U-4	1	楕円形	0.36	0.22	0.42
Q-7	4	楕円形	0.40	0.32	0.22	U-4	2	楕円形	0.60	0.44	0.15
Q-7	5	楕円形	0.50	0.42	0.20	U-4	3	楕円形	0.40	0.34	0.18
Q-7	6	楕円形	0.48	(0.32)	0.15	U-4	4	楕円形	0.38	0.24	0.18
Q-7	7	楕円形	0.42	0.38	0.23	U-4	5	楕円形	0.46	0.24	0.18
Q-7	8	楕円形	0.48	0.42	0.34	U-4	6	円形	0.32	0.32	0.14
Q-7	9	楕円形	0.40	0.32	0.31	U-4	7	楕円形	0.34	0.28	0.13
Q-7	10	円形	0.46	0.46	0.34	U-4	8	楕円形	0.42	0.32	0.23
Q-7	11	楕円形	0.84	0.46	0.54	U-4	9	不整形	0.54	0.36	0.26
Q-7	12	円形	0.34	0.34	0.27	U-4	10	楕円形	0.58	0.38	0.20
Q-7	13	楕円形	0.32	0.28	0.36	U-4	11	楕円形	0.38	0.24	0.23
Q-7	14	楕円形	0.64	0.54	0.23	U-4	12	楕円形	0.46	0.38	0.23
Q-7	15	楕円形	0.48	0.40	0.27	U-4	13	楕円形	0.38	0.32	0.21
Q-7	16	楕円形	(0.50)	0.42	0.37	U-4	14	楕円形	0.46	0.28	0.19
Q-7	17	楕円形	0.84	0.60	0.63	U-4	15	楕円形	0.38	0.26	0.23
Q-7	18	楕円形	0.54	0.34	0.28	U-6	1	円形	0.54	0.54	0.24
R-3	1	楕円形	0.76	0.44	0.16	U-7	1	楕円形	0.54	0.44	0.25
R-3	2	楕円形	0.38	0.28	0.20						

第10表 石器一覧表

挿図	番号	器種	出土位置	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材
29	17	磨石	S J 1	10.50	7.95	3.95	475.9	安山岩
33	13	砥石	S J 2	6.45	3.20	1.00	25.2	凝灰岩
33	14	磨石	S J 2	7.85	7.15	1.85	136.9	砂岩
33	15	磨石	S J 2	12.10	10.10	4.60	668.8	安山岩
33	16	石皿	S J 2	10.80	11.35	5.55	806.1	安山岩
33	17	石皿	S J 2	12.80	14.30	8.20	1173.4	安山岩
33	18	石皿	S J 2	14.25	18.10	6.70	1392.6	安山岩
37	12	石鏃	S J 3	1.80	1.35	0.55	1.0	黒曜石
37	13	磨石	S J 3	3.50	3.10	3.85	35.6	安山岩
37	14	石皿	S J 3	15.50	12.90	4.30	961.0	緑泥片岩
45	28	砥石	S J 4	9.05	8.55	2.20	199.6	砂岩
45	29	石皿	S J 4	10.10	12.20	5.70	469.2	安山岩
45	30	石皿	S J 4	14.30	12.20	5.70	715.4	安山岩
45	31	石皿	S J 4	8.40	11.70	6.30	871.5	安山岩
48	17	石鏃	S J 5	2.00	1.50	0.50	0.9	チャート
48	18	石鏃	S J 5	1.30	1.50	0.40	0.6	チャート
48	19	石鏃	S J 5	3.30	2.10	0.60	2.6	チャート
48	20	石錐	S J 5	2.75	2.30	0.80	4.4	チャート
48	21	石鏃	S J 5	3.60	2.60	0.80	6.2	チャート
48	22	石皿	S J 5	5.10	9.50	3.30	169.4	絹雲母片岩
53	24	石皿	S J 6	5.05	16.30	5.20	363.4	安山岩
53	25	石皿	S J 6	13.75	9.15	8.25	1390.4	閃緑岩
65	8	打製石斧	S J 10	12.10	5.55	1.90	148.7	ホルンフェルス
70	23	石鏃	S J 12	1.60	1.55	0.45	0.7	チャート
76	28	石鏃	S J 14	3.50	2.15	0.40	2.5	チャート
76	29	磨石	S J 14	3.25	4.75	2.30	39.3	安山岩
86	77	石鏃	S J 15	2.05	2.05	0.40	1.2	チャート
86	78	Uフレ	S J 15	1.40	1.75	0.50	1.0	黒曜石
86	79	石核	S J 15	3.40	2.50	1.60	13.3	チャート
86	80	磨石	S J 15	8.70	3.08	1.48	59.2	砂岩
86	81	磨石	S J 15	8.35	7.80	4.15	281.0	閃緑岩
86	82	石皿	S J 15	10.40	13.10	4.90	705.0	安山岩
90	15	磨石	S J 17	11.80	48.50	2.25	170.3	砂岩
94	17	尖頭器	S J 19	2.10	1.85	0.70	1.9	チャート
94	18	スクレイパー	S J 19	5.50	4.75	1.70	44.4	ホルンフェルス
94	19	磨石	S J 19	3.95	5.60	2.45	50.5	安山岩
94	20	磨石	S J 19	7.10	3.70	1.60	38.8	砂岩
104	53	砥石	S J 21	12.50	4.40	2.30	171.1	砂岩
104	54	砥石	S J 21	9.95	5.60	1.15	78.2	砂岩
104	55	磨石	S J 21	9.30	5.40	4.30	236.7	砂岩
105	56	磨石	S J 21	8.90	7.25	3.85	365.0	安山岩
105	57	磨石	S J 21	9.55	7.75	3.85	406.9	安山岩
105	58	磨石	S J 21	12.50	7.80	3.55	374.8	安山岩
105	59	磨石	S J 21	12.30	8.12	4.15	600.6	安山岩
105	60	磨石	S J 21	9.90	9.25	2.40	319.5	砂岩
105	61	磨石	S J 21	7.20	6.72	5.50	324.1	安山岩
105	62	石皿	S J 21	9.75	11.35	5.50	530.9	安山岩
105	63	石皿	S J 21	17.70	21.15	8.35	2198.1	安山岩
109	33	磨石	S J 22	8.30	5.70	2.65	202.2	安山岩
109	34	石皿	S J 22	5.80	9.40	3.90	236.0	安山岩
109	35	石皿	S J 22	18.20	7.45	3.50	503.5	緑泥片岩
109	36	石皿	S J 22	11.50	9.00	7.25	592.2	安山岩

挿図	番号	器種	出土位置	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材
109	37	石皿	S J 22	10.90	10.30	2.90	319.2	絹雲母片岩
109	38	石皿	S J 22	12.20	7.65	4.85	635.6	安山岩
109	39	石皿	S J 22	11.80	9.20	5.10	552.4	安山岩
112	47	石鏃	S J 23	1.35	0.85	0.30	0.3	玉髄
112	48	Uフレ	S J 23	2.40	1.70	0.65	1.8	チャート
112	49	磨石	S J 23	10.00	6.35	3.75	376.1	安山岩
112	50	石皿	S J 23	12.40	6.90	5.80	385.2	安山岩
112	51	石皿	S J 23	11.45	12.00	4.70	603.7	安山岩
112	52	石皿	S J 23	15.20	11.75	2.70	489.0	緑泥片岩
114	38	打製石斧	S J 24	4.90	3.70	1.90	38.0	ホルンフェルス
120	61	垂飾	S J 26	3.10	1.60	0.90	7.1	トレモラ閃石岩
120	62	石鏃	S J 26	2.65	1.30	0.40	0.9	チャート
120	63	石鏃	S J 26	1.20	1.40	0.45	0.9	玉髄
120	64	石錐	S J 26	2.80	3.25	0.85	5.3	ガラス質黒色安山岩
120	65	磨製石斧	S J 26	11.75	5.10	3.50	283.3	粘板岩
120	66	磨石	S J 26	17.55	6.75	5.40	1006.2	安山岩
120	67	磨石	S J 26	12.90	6.65	3.35	536.4	砂岩
120	68	磨石	S J 26	5.80	8.15	5.30	275.2	安山岩
120	69	磨石	S J 26	11.00	4.15	3.10	214.9	砂岩
120	70	石皿	S J 26	15.70	7.20	4.50	353.0	安山岩
122	21	石錐	S J 27	2.25	1.05	0.45	1.0	チャート
122	22	スクレイパー	S J 27	1.75	1.75	0.50	1.5	チャート
143	48	石鏃	S J 34	3.35	2.35	0.90	5.2	チャート
143	49	石鏃	S J 34	2.10	1.55	0.35	0.6	黒曜石
143	50	石鏃	S J 34	2.00	1.40	0.40	0.6	頁岩
143	51	石錐	S J 34	4.45	2.65	1.55	14.9	チャート
143	52	石核	S J 34	4.25	3.35	1.55	19.9	チャート
143	53	スクレイパー	S J 34	6.65	3.30	1.65	31.1	チャート
143	54	Uフレ	S J 34	5.10	6.30	1.55	42.3	頁岩
143	55	くさび形石器	S J 34	2.25	2.95	1.25	10.3	チャート
143	56	打製石斧	S J 34	14.90	7.05	2.30	290.1	砂岩
143	57	打製石斧	S J 34	7.05	5.80	1.90	80.9	ホルンフェルス
143	58	砥石	S J 34	6.30	5.20	3.70	127.3	砂岩
143	59	砥石	S J 34	4.20	8.00	2.80	102.4	砂岩
143	60	磨石	S J 34	5.55	6.35	3.15	142.0	安山岩
143	61	石皿	S J 34	14.35	12.95	6.25	964.8	安山岩
147	36	石鏃	S J 35	2.05	1.15	0.45	0.8	チャート
147	37	磨石	S J 35	7.25	4.60	3.15	65.2	安山岩
147	38	石皿	S J 35	7.80	10.25	3.30	241.2	緑泥片岩
147	39	砥石	S J 35	13.90	5.90	3.10	391.1	砂岩
149	14	磨石	S J 36	13.30	9.30	4.25	873.9	安山岩
156	54	打製石斧	S J 40	4.80	4.95	1.00	27.7	砂岩
156	55	砥石	S J 40	7.60	5.00	2.10	72.9	砂岩
156	56	磨石	S J 40	8.00	5.50	3.80	225.5	安山岩
160	36	石鏃	S J 41	2.35	1.80	0.45	1.4	ガラス質黒色安山岩
160	37	石鏃	S J 41	1.80	1.50	0.45	0.7	チャート
160	38	石鏃	S J 41	1.85	1.75	0.35	0.8	チャート
160	39	くさび形石器	S J 41	3.10	2.10	0.90	5.7	チャート
160	40	石鏃	S J 41	4.05	1.90	0.70	4.0	チャート
160	41	くさび形石器	S J 41	3.00	3.10	1.10	11.0	チャート
160	42	磨製石斧	S J 41	4.75	2.55	1.00	19.7	角閃岩
160	43	石鏃	S J 41	7.00	4.35	1.25	61.1	砂岩
160	44	磨石	S J 41	11.05	7.15	4.00	458.7	安山岩

挿図	番号	器種	出土位置	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材
160	45	磨石	S J 41	8.90	6.40	2.30	151.7	安山岩
163	37	石錐	S J 42	2.10	1.00	0.75	1.1	玉髄
163	38	磨石	S J 42	11.85	7.35	4.75	522.9	安山岩
165	15	磨石	S J 44	14.40	13.15	12.20	254.7	安山岩
182	6	磨製石斧	S J 48B	14.60	6.40	3.50	603.3	ひすい輝石岩?
182	7	磨石	S J 48B	7.00	5.30	2.95	154.7	安山岩
182	8	敲石	S J 48B	15.70	4.15	4.00	358.5	凝灰岩
182	9	敲石	S J 48B	16.50	4.85	4.00	319.7	凝灰岩
182	10	石皿	S J 48B	23.80	16.60	5.15	219.4	緑泥片岩
184	42	石鏃	S J 48A・48B	1.90	1.55	0.40	0.8	チャート
184	43	スクレイパー	S J 48A・48B	1.55	1.80	0.70	1.6	黒曜石
184	44	スクレイパー	S J 48A・48B	2.85	2.70	0.85	8.0	チャート
184	45	Uフレ	S J 48A・48B	3.30	2.00	0.85	4.0	チャート
184	46	スクレイパー	S J 48A・48B	5.00	6.75	2.20	68.0	砂岩
184	47	砥石	S J 48A・48B	3.90	4.55	0.95	5.5	軽石
184	48	磨石	S J 48A・48B	3.45	2.85	1.20	3.3	軽石
184	49	磨石	S J 48A・48B	7.45	9.75	5.90	557.1	安山岩
190	27	磨石	S J 50	9.10	6.75	4.70	370.7	安山岩
190	28	磨石	S J 50	7.20	5.10	4.20	143.6	安山岩
190	29	磨石	S J 50	10.50	7.25	4.80	497.5	安山岩
190	30	石皿	S J 50	11.65	12.15	7.40	1175.5	安山岩
190	31	石皿	S J 50	18.00	8.10	2.60	396.6	緑泥片岩
193	27	石錐	S J 51	3.00	2.55	0.95	5.6	チャート
193	28	石錐	S J 51	2.25	1.25	0.65	0.6	チャート
193	29	石錐	S J 51	2.50	1.45	0.40	0.9	チャート
193	30	石錐	S J 51	1.80	0.85	0.30	0.3	チャート
193	31	石錐	S J 51	2.70	1.45	0.80	1.8	チャート
203	34	石錐	S J 53	1.85	1.00	0.90	1.3	チャート
203	35	石錐	S J 53	2.30	2.05	0.90	3.0	チャート
203	36	敲石	S J 53	11.10	6.50	5.15	447.7	安山岩
203	37	磨石	S J 53	11.50	9.55	4.70	536.7	安山岩
205	13	磨石	S J 54	17.50	6.85	5.90	897.5	安山岩
208	11	くさび形石器	S J 55	3.15	1.95	0.90	6.7	チャート
208	12	くさび形石器	S J 55	2.15	1.25	0.90	2.5	チャート
211	19	石鏃	S J 56	2.30	2.10	0.40	1.3	チャート
211	20	磨石	S J 56	6.95	6.10	4.35	224.7	安山岩
211	21	磨石	S J 56	10.40	4.70	4.95	268.0	安山岩
219	13	石鏃	S J 59	1.95	1.60	0.50	1.1	チャート
219	14	くさび形石器	S J 59	2.65	1.85	1.00	4.1	玉髄
234	7	石鏃	S J 66	1.20	1.35	0.25	0.5	チャート
253	29	石皿	S J 74	9.30	6.80	5.90	382.9	安山岩
253	30	石鏃	S J 74	2.15	1.30	0.50	0.9	チャート
255	12	Uフレ	S J 75	1.05	1.55	0.55	0.7	チャート
257	11	磨石	S J 76	1.70	1.90	1.85	1.5	軽石
263	56	石鏃	S J 77	2.40	1.65	0.40	0.8	チャート
263	57	石鏃	S J 77	2.05	1.60	0.40	0.8	ガラス質黒色安山岩
263	58	磨石	S J 77	5.65	4.10	3.60	76.9	軽石
263	59	磨石	S J 77	5.95	7.95	3.95	262.4	安山岩
263	60	石皿	S J 77	19.70	15.55	7.65	1954.3	安山岩
266	12	石鏃	S J 79	2.40	1.70	0.40	1.1	チャート
270	6	石鏃	S J 80	3.30	2.70	0.75	6.8	ガラス質黒色安山岩
273	16	石核	S J 81	9.15	7.75	3.20	230.1	チャート
273	17	磨石	S J 81	3.35	4.05	4.70	70.6	砂岩

挿図	番号	器種	出土位置	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材
273	18	石皿	S J 81	10.75	14.10	7.55	871.2	安山岩
273	19	石皿	S J 81	24.15	12.95	3.85	260.9	緑泥片岩
279	43	石鏃	S J 81~83	2.45	1.15	0.35	0.6	チャート
279	44	石鏃	S J 81~83	2.10	0.80	0.40	0.5	チャート
279	45	石鏃	S J 81~83	1.40	1.00	0.35	0.2	黒曜石
279	46	スクレイパー	S J 81~83	1.10	1.55	0.40	0.8	頁岩
279	47	砥石	S J 81~83	5.35	3.25	1.40	27.9	砂岩
279	48	磨石	S J 81~83	6.90	7.35	3.95	289.5	安山岩
284	28	スクレイパー	S J 84	2.80	5.90	3.30	47.0	チャート
284	29	磨石	S J 84	5.65	4.45	2.60	102.2	砂岩
284	30	磨石	S J 84	3.85	5.95	3.85	87.5	安山岩
286	16	磨石	S J 85	5.25	4.40	2.70	47.3	安山岩
295	25	石鏃	S J 88	1.60	1.40	0.40	0.5	チャート
295	26	石鏃	S J 88	1.55	0.95	0.30	0.3	黒曜石
299	21	石鏃	S J 90	2.30	1.20	0.30	0.4	ガラス質黒色安山岩
299	22	磨製石斧	S J 90	11.20	5.30	2.80	284.7	角閃石
299	23	Uフレ	S J 90	5.20	9.65	1.55	71.4	ガラス質黒色安山岩
299	24	磨石	S J 90	4.65	7.00	2.90	138.4	安山岩
306	22	磨石	S J 93	5.80	6.50	2.90	126.9	安山岩
309	29	石核	S J 94	2.75	2.95	1.15	9.2	チャート
309	30	磨石	S J 94	13.15	9.70	3.40	555.7	砂岩
314	19	石鏃	S J 96	2.60	1.35	0.50	1.1	頁岩
314	20	Uフレ	S J 96	5.40	3.90	1.25	27.1	ガラス質黒色安山岩
314	21	打製石斧	S J 96	13.75	6.85	2.30	186.8	頁岩
314	22	敲石	S J 96	12.45	7.15	5.05	626.6	閃緑岩
319	19	石鏃	S J 97	2.60	1.85	0.50	1.3	黒曜石
319	20	磨石	S J 97	7.95	6.00	3.85	178.8	安山岩
323	33	石錐	S J 98	2.00	1.70	0.25	0.9	チャート
323	34	磨製石斧	S J 98	2.35	2.15	7.50	4.6	粘板岩
323	35	石皿	S J 98	5.80	6.50	5.55	172.5	安山岩
323	36	石皿	S J 98	10.25	10.50	4.90	643.5	安山岩
323	37	磨石	S J 98	24.60	12.75	12.80	5579.5	安山岩
329	12	石鏃	S J 101	2.50	1.25	0.50	1.0	チャート
329	13	石鏃	S J 101	2.25	2.10	0.60	1.9	玉髓
333	6	石鏃	S J 103	1.70	1.40	0.35	0.6	チャート
335	20	石錐?	S J 104	3.25	2.45	1.00	6.8	チャート
337	4	敲石	S J 105	4.80	2.20	2.25	32.1	砂岩
342	7	石鏃	S J 107	1.75	2.00	0.35	1.0	チャート
342	8	打斧	S J 107	4.55	3.90	1.55	33.8	頁岩
345	41	石鏃	S J 108	2.85	1.75	0.30	1.3	チャート
345	42	石鏃	S J 108	2.25	1.45	0.60	1.5	チャート
345	43	Uフレ	S J 108	4.35	2.90	0.90	9.5	チャート
352	61	石製品	S J 109・110	7.35	5.00	2.10	32.5	軽石
352	62	磨製石斧	S J 109・110	11.60	5.40	3.60	367.6	角閃石
352	63	磨石	S J 109・110	5.70	5.35	2.15	28.6	砂岩
352	64	砥石	S J 109・110	5.20	6.70	2.25	55.3	砂岩
352	65	石皿	S J 109・110	4.00	3.75	3.40	37.0	安山岩
352	66	石皿	S J 109・110	8.35	5.05	1.70	109.3	緑泥片岩
354	9	Uフレ	S J 111	4.55	3.70	0.80	10.4	チャート
373	13	磨石	S K 14	3.60	3.05	1.60	16.1	砂岩
378	19	石鏃	S K 37	2.80	2.25	0.45	1.6	安山岩
378	20	Uフレ	S K 37	0.90	1.85	0.45	0.5	チャート
378	21	砥石	S K 37	5.45	5.00	3.15	48.7	砂岩

挿図	番号	器種	出土位置	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材
378	22	石皿	S K37	5.65	6.70	3.50	117.0	安山岩
381	11	磨石	S K40	11.50	6.65	3.80	390.3	安山岩
381	12	石製品	S K40	9.40	5.25	2.90	30.4	軽石
384	3	磨石	S K51	6.95	6.85	5.50	291.6	安山岩
384	19	石鏃	S K56	1.50	1.60	0.40	0.6	黒曜石
388	17	磨石	S K76	11.15	7.70	3.65	480.2	安山岩
389	16	石鏃	S K81	1.75	1.05	0.35	0.5	黒曜石
391	1	磨製石斧	S K89	6.75	4.60	2.85	134.0	ひすい輝石岩?
391	2	磨石	S K89	8.95	6.75	3.80	259.0	安山岩
391	3	石皿	S K89	11.90	13.70	8.00	1240.9	安山岩
391	4	石皿	S K89	5.15	5.95	4.40	158.6	安山岩
391	14	石鏃	S K92	3.60	2.10	0.45	2.3	チャート
394	34	磨石	S K137	13.75	8.35	4.30	774.6	安山岩
398	37	石鏃	S K169	2.50	2.05	0.45	1.3	チャート
405	29	磨石	S K223	10.65	11.70	12.60	2214.3	安山岩
405	30	磨石	S K223	7.10	7.90	3.80	282.0	安山岩
408	26	磨石	S K234	6.00	6.85	4.70	107.0	安山岩
408	27	磨石	S K234	4.30	4.90	3.60	41.7	安山岩
412	18	石錐	S K259	2.55	1.50	0.60	2.2	チャート
412	21	石鏃	S K260	2.30	1.15	0.40	1.0	チャート
412	22	石核	S K260	1.30	1.85	0.85	1.9	チャート
415	25	磨石	S K290	7.70	5.60	5.40	189.0	安山岩
417	5	打製石斧	S K296	8.95	5.45	2.45	128.2	ホルンフェルス
417	33	磨石	S K301	8.85	6.15	3.35	101.7	安山岩
420	18	磨石	S K315	8.35	8.60	4.45	445.5	閃緑岩
423	3	打製石斧	S K344	11.40	6.35	2.95	239.5	砂岩
423	8	打製石斧	S K356	7.35	5.55	2.55	103.6	砂岩
427	32	石錐	S K406	2.30	1.20	0.45	0.9	チャート
435	4	石鏃	第1号埋甕	2.25	1.25	0.45	0.9	チャート
435	5	石鏃	第1号埋甕	2.45	2.05	0.35	0.9	チャート
435	6	スクレイパー	第1号埋甕	2.15	2.05	0.80	2.7	チャート
435	7	スクレイパー	第1号埋甕	3.30	3.10	0.90	8.9	チャート
446	1	尖頭器	N-8	7.35	4.25	1.90	52.4	頁岩
446	2	石鏃	S S 4	2.30	1.50	0.55	1.4	チャート
446	3	石鏃	G-9	3.80	1.90	0.45	2.2	チャート
446	4	石鏃	N-7	3.45	1.80	0.45	1.8	チャート
446	5	石鏃	S S 4	2.25	1.70	0.45	1.1	チャート
446	6	石鏃	F-6	1.25	1.65	0.45	1.1	玉髄
446	7	石鏃	S S 5	2.10	2.00	0.45	1.0	玉髄
446	8	石鏃	F-8	2.05	1.80	0.30	0.6	黒曜石
446	9	石鏃	S S 5	1.95	1.60	0.55	1.3	チャート
446	10	石鏃	S D12	1.85	1.55	0.40	0.7	黒曜石
446	11	石鏃	L-5	1.80	1.10	0.45	0.5	チャート
446	12	石鏃	C-6	1.95	1.25	0.40	0.6	チャート
446	13	石鏃	N-7	2.10	1.45	0.45	0.7	黒曜石
446	14	石鏃	F-6	1.45	1.25	0.45	0.6	チャート
446	15	石鏃	F-9	1.80	1.15	0.35	0.5	チャート
446	16	石鏃	N-5	2.75	1.50	0.95	2.7	チャート
446	17	石鏃	H-4	2.20	1.60	0.50	1.4	黒色頁岩
446	18	石鏃	O-4	2.95	1.95	1.00	5.4	黒曜石
446	19	石鏃	B区一括	2.70	2.30	0.70	4.4	玉髄
446	20	石鏃	G-8	3.20	2.95	1.30	10.4	チャート
446	21	石鏃	K-6	3.25	2.60	1.00	7.2	チャート

3. 古墳時代

(1) 古墳跡

発見された古墳跡は、円墳2基(第1・6号墳)、方墳2基(第2・4号墳)の合計4基である。調査次に第3号墳とした遺構は第19号溝跡の延長部、第5号墳とした遺構は第2号周溝状遺構と変更した。

古墳跡は、調査区西端のB～H-4～8グリッドに分布する。第1号墳・第4号墳・第6号墳が約10mほどの間隔で南北に並ぶ。第4号墳・第6号墳と第2号墳の東西方向では約20mほど離れ、この空間には古墳時代の土壙墓が分布する。このように、神ノ木2遺跡から発見された古墳時代の墓域は、墳丘が築かれた高塚古墳と墳丘をもたない土壙墓によって構成されていた。

第1号墳(第448～450図)

調査区北西端部のB・C-5グリッドに位置する。南側の約1/3ほどが検出され、北側は調査区域外にある。重複する第14号溝跡によって、周溝の一部が削平されている。

墳丘盛土は既に削平され、周溝のみが検出された。円墳であるが、墳丘形は僅かに角張った様相がみられる。規模は、周溝内径約14m、周溝外径約18.5mと推定される。周溝幅2.80～3.35m、深さ0.50～0.96mを測る。周溝断面は逆台形で、立ち上がりは墳丘側の方が外側に比べて急である。底面には深さ0.10～0.15mほどの浅い土坑状の掘り込みが点在するが、明瞭な掘形をもたないことから周溝内埋葬土壙とは異なる。また、調査された区域からは、ブリッジ等の施設も検出されていない。

周溝に堆積していた覆土は、A-A'の断面図から、墳丘側から埋没が始まっていた状況を確認することができる。覆土は八層に分層され、概ね上層(1～3層)・中層(4・5層)・下層(6～8層)に大別される。

覆土下層には、地山のローム層を起源とした多

量のローム粒子・ロームブロックが含まれている。周溝肩部の崩落土層もしくは、周溝底部を平滑にするために人為的に埋め戻された土層と推測されるが、明確ではない。

覆土中層には、墳丘側に偏った状態で群馬県榛名山二ツ岳の噴火に伴い降下したFAと推測される白色火山灰が確認され、古墳築造時期を探る鍵層として、また周溝埋没過程を復元する資料として注目される。

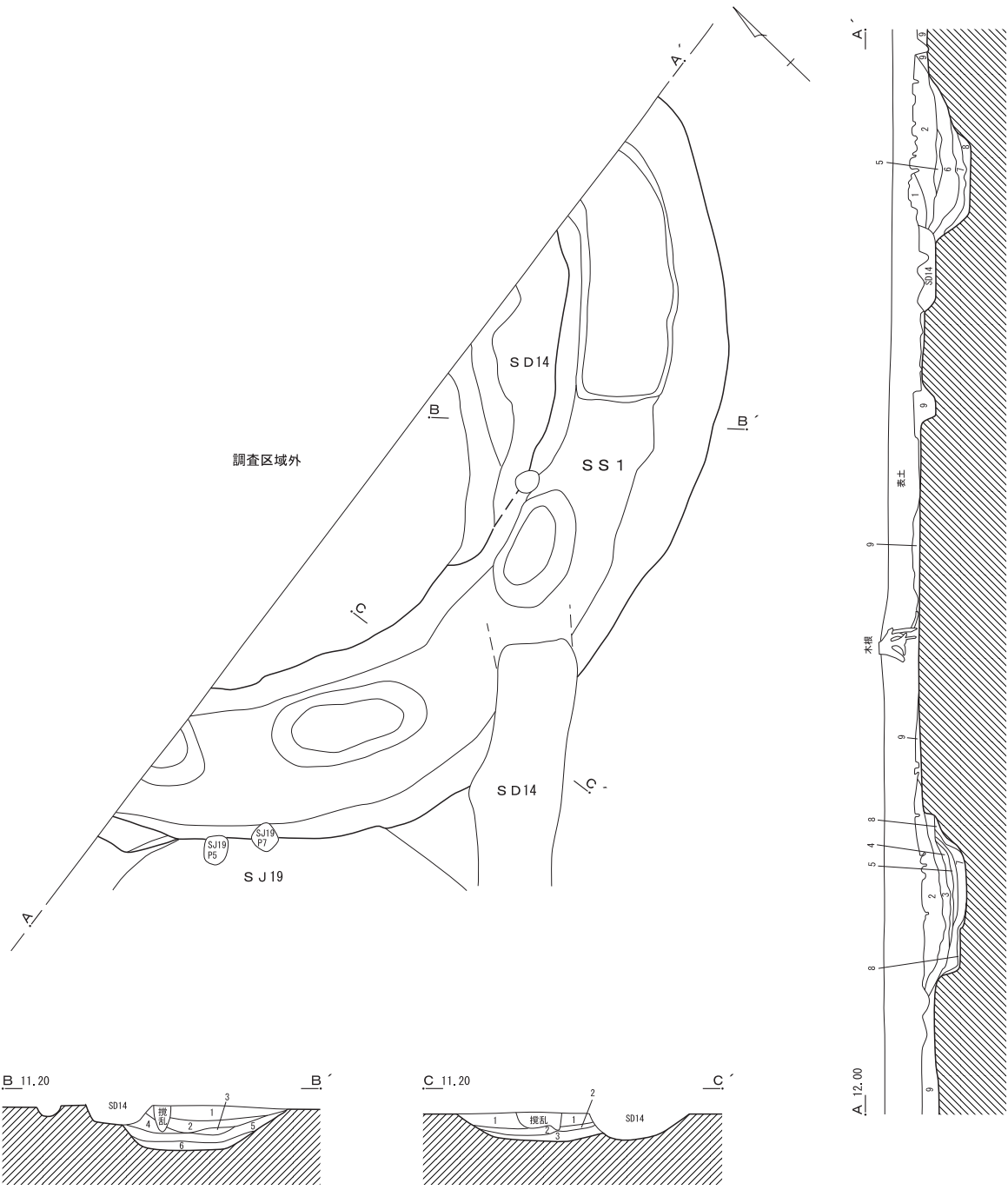
さらに、周溝の内外に堆積する9層は、周溝掘削以前の地山層と推定される。

遺物は検出された周溝の西側に集中して出土した。いずれの遺物も溝底から僅かに浮いた位置から発見され、FAと推測される火山灰が堆積していた4・5層に相当する。土師器の坏3点・甕1点、石製紡錘車1点が出土した。重なった坏2点・坏・甕が周溝に平行した一直線上にはほぼ等間隔に並び、いずれの坏も正位の状態であった。このような状況から、溝底部に人為的にならべられた可能性が高く、古墳祭祀行為に伴うものである。煮沸用具の甕と紡錘車が用いられた祭祀行為の形態は明らかにはできないが、注目される。

第2号墳(第451図)

調査区北辺部のF・G・H-4・5グリッドに位置する。南側の約1/4ほどが検出され、北側は調査区域外にある。

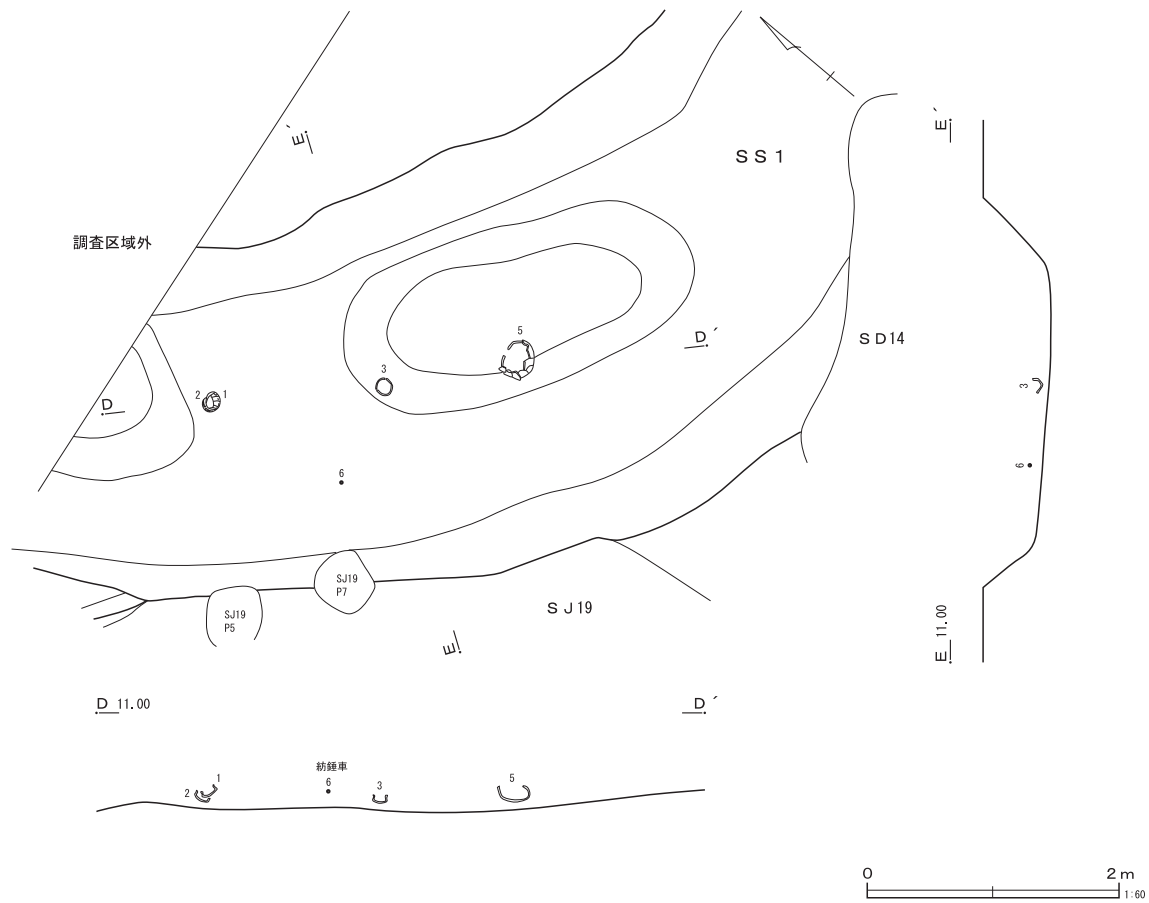
発掘当初は、前方後円墳の可能性が想定されていた。しかし、周辺地形の区画に前方後円墳を想定させる痕跡がみられないこと、H-4グリッドで周溝外辺の下辺コーナーが検出されたこと、軸を揃えた方墳の第4号墳が発見されたことから、方墳と断定された。墳丘盛土は既に削平され、L字形に屈曲した周溝のみが検出された。周溝は幅の広い南東辺が3.88～4.11m、幅の狭い南西辺が2.88～2.96mを測る。規模は、周溝内辺約8～10.5m前後、周溝外辺約16～18m前後と推定される。



- SS1
- | | |
|------------|----------------------------|
| 1 暗褐色土 | ローム粒子多量 |
| 2 黒褐色土 | ローム粒子少量 しまり強 |
| 3 暗褐色土 | ローム粒子多量 焼土粒子少量 しまりやや弱 |
| 4 暗褐色土 | ローム粒子多量 F Aと思われる火山灰若干 粘性あり |
| 5 灰褐色土 | F Aと思われる火山灰多 粘性あり |
| 6 暗黄褐色土 | ローム粒子多量 |
| 7 暗黄褐色土 | ローム粒子・ローム小ブロック多量 |
| 8 黄褐色土 | ロームブロック多量 しまり強 |
| 9 暗褐色土+黒色土 | 周溝掘削以前の地山層 |



第448図 第1号墳(1)



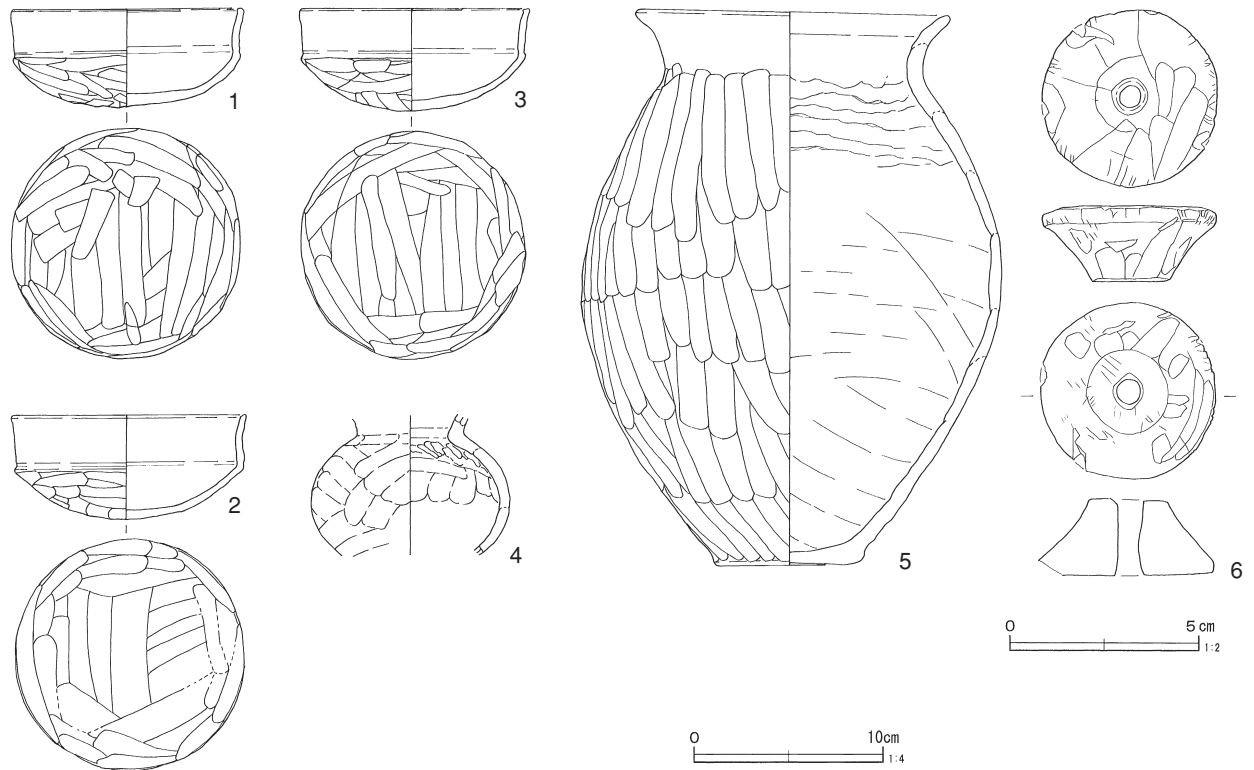
第449図 第1号墳（2）

軸方位はN-50°-Eを指す。周溝断面は薬研状で、墳丘側・外側を問わずに下半部は急に、上半部は緩やかに立ち上がる。全体的には、墳丘側の方が外側に比べて傾斜が強い。底面は平坦で、深さが1.04~1.08mほどの水平が保たれている。ブリッジや周溝内土壌などの施設は検出されていない。

周溝の覆土は、墳丘側から埋没が始まっていた状況を確認することができる。覆土は十三層（2~14層）に分層され、概ね上層（2~5層）・中層（6~10層）・下層（11~14層）に大別される。覆土下層は黄褐色土が主体に堆積しているにもかかわらず、ローム粒子・ロームブロックの含有量が

少ない。覆土中層は、多くのローム粒子・ロームブロックとともに、焼土粒子・炭化物が含まれている。覆土上層には、下半部から群馬県榛名山二ツ岳の噴火に伴い降下したFAと推定される白色火山灰が確認されている。古墳築造時期を探る鍵層として注目され、榛名山二ツ岳の噴火は、周溝がほぼ埋没してしまった時点であったことを物語っている。また、周溝の内外に堆積する15・16層は、周溝掘削以前の地山層と推定される。

遺物は図化した埴の破片のみで、築造時期は特定しがたいが、FAの堆積状況も加味すると、第1号墳よりも先行する古墳であることは明らかである。



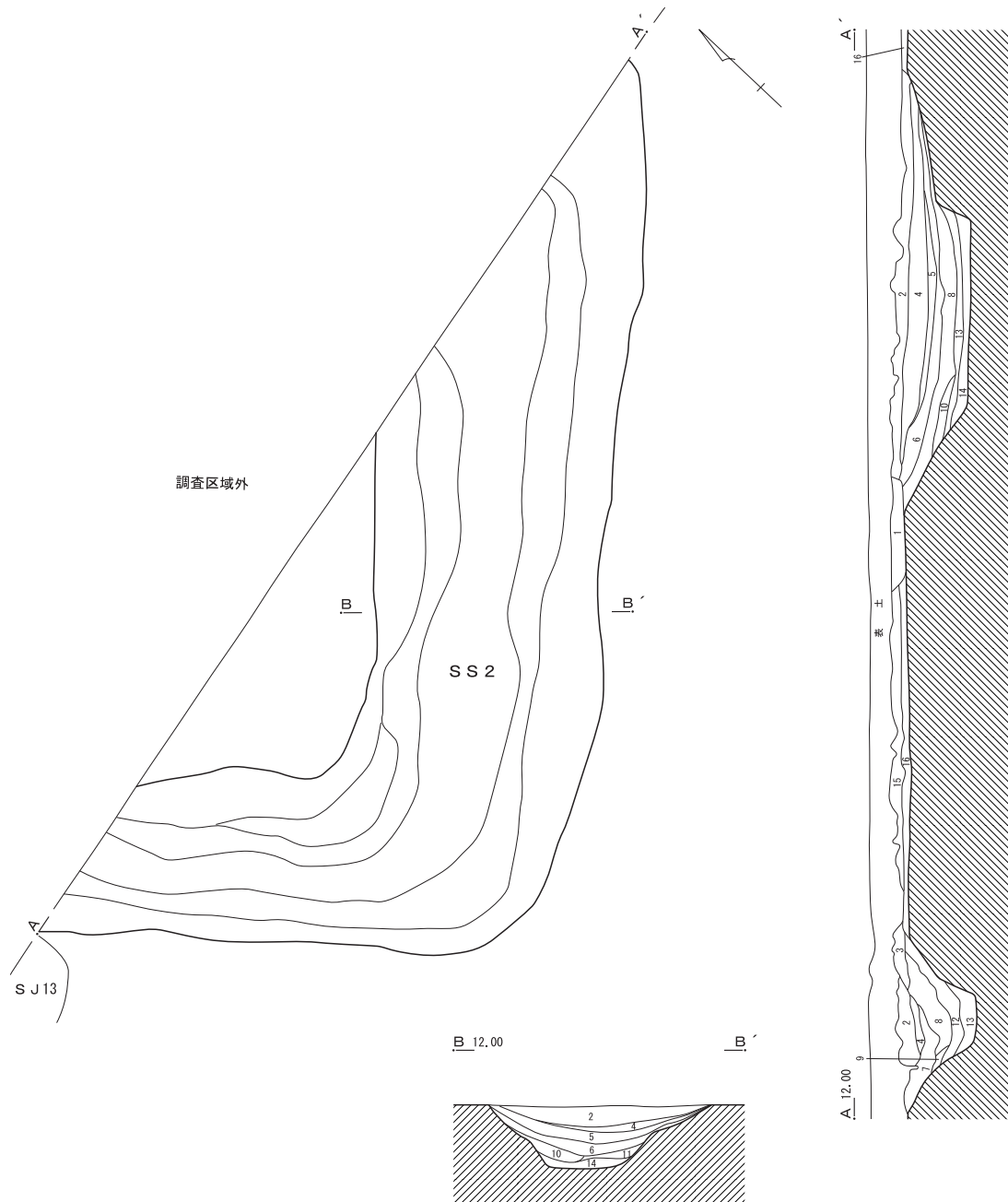
第450図 第1号墳出土遺物

第13表 第1号墳出土遺物観察表 (第450図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存(%)	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	坏	12.1	5.2		100	①ACGI	普通	橙	SS1-No1	263-1
2	土師器	坏	12.2	5.5		95	①ACGI	普通	橙	SS1-No2	263-2
3	土師器	坏	12	5.4		100	②ACGHI	普通	橙	SS1-No4	263-3
4	土師器	小型壺	最大胴径 (10.5)	[7.4]		20	②AGI	普通	にぶい橙	一括 ナデ	
5	土師器	甕	16.3	29.4	7.6	80	②ABCGHI	普通	にぶい橙	SS1-No5 ナデ調整が弱く粘土 紐積上痕を明瞭に残す。ハラ ケズリ	264-1
6	石製品	紡錘車	径4.6	孔径0.6	厚さ2.0	石質	滑石(XRD)	重さ	47.1g	SS1-No3	263-8(右)

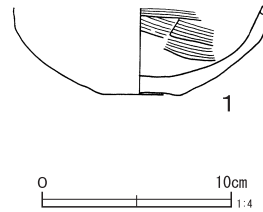
第14表 第2号墳出土遺物観察表 (第451図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存(%)	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	埴		[4.6]	3.8	25	②ACGI	普通	橙	一括 風化により外面調整不 明瞭	



SS2

- 1 灰黒色土 旧表土層への部分的な攪乱
- 2 黒褐色土 旧表土層 焼土粒子・ローム粒子多 しまり弱
- 3 黄褐色土 ローム主体
- 4 暗褐色土 FAを斑状に含む ローム粒子少量 しまり弱
- 5 暗褐色土 ローム粒子多 焼土粒子少量 しまり強
- 6 黄褐色土 ローム粒子多量 焼土粒子・炭化物 しまり強
- 7 黒灰色土 しまりやや強
- 8 褐色土 ローム粒子多 ロームブロック しまり強
- 9 褐色土 ローム粒子をほとんど含まない
- 10 黒色土 ローム粒子・ロームブロック少量 しまり弱
- 11 黄褐色土 ローム粒子主体 ロームブロック少量 しまり弱
- 12 暗褐色土 ローム粒子をほとんど含まない
- 13 褐色土 ローム主体 粘性あり・しまり強
- 14 黄褐色土 ローム粒子主体 ロームブロック少量 粘性あり
- 15 黒色土 周溝掘削以前の地山層 しまり弱
- 16 褐色土 周溝掘削以前の地山層 ローム主体



第451図 第2号墳・出土遺物

第4号墳（第452～454図）

調査区西端部のC～E-6～8グリッドに位置し、第19号溝跡と僅かに重複する。

墳丘盛土は既に削平され、周溝のみが検出された。方墳であるが、各辺の中央部が外側へ丸みを帯びて僅かに張り出している。軸方位をN-54°-Eに向ける。規模は、周溝内南西-北東方向13.25m×北西-南東方向14.20m、周溝外南西-北東方向19.25m×北西-南東方向19.25mである。墳丘部が長方形気味の方墳である。

周溝は北西辺中央付近・北東辺北隅付近・南西辺南隅付近で狭まり、北東辺中央付近・南西辺中央付近で広がる。幅は北東辺2.20～3.22m、南東辺2.34～2.70m、南西辺2.16～2.94m、北西辺2.18～2.96mである。

周溝底面は平坦ではなく、土坑状・溝状の掘り込みが連続した掘形で、底面標高も地点によってまちまちである。深さは、確認面の高さが緩やかに下がる北西辺・南西辺では浅く（0.27～0.40m）、底面標高も僅かに高い傾向がみられる。底面も割合と平坦で、断面形は逆台形である。立ち上がりは外側が急で、墳丘側は緩やかな傾斜を示している。一方、北東辺・南東辺では土坑状・溝状の掘り込みが著しく、深さは0.31～0.85mという落差の大きな計測値と、薬研状の断面形態に底面の凹凸の激しさが反映されている。

周溝覆土の堆積状況から、墳丘側から埋没が始まっていた状況を確認することができる。覆土は五層に分層され、下層（4・5層）には地山の黄褐色ローム層・ブラック・バンド層に起因する黄褐色・暗褐色のロームブロックが多量に含まれている。また、墳丘側に堆積する6・7層は周溝掘削以前の地山層ということが出来るものの、ほとんどは重複する縄文時代の住居跡の覆土であり、純粹な地山とは異なる。

遺物は、北西辺北半部から集中して出土した。有段口縁の壺2点（第454図1・2）と赤彩され

た丸底系小型壺1点（3）、短頸の小型壺（4）が溝底から浮いた状態で発見された（第453図）。配置にも規則性がみられないことから、墳丘裾部付近に並べられていたものが墳丘崩落・周溝埋没に伴って周溝内に転げ落ちたものと推測される。また、墳丘部北東四半部からは、完形の小型壺（5）も発見されている。いずれの土器も、底部穿孔などの仮器化行為は行われていない。

第6号墳（第455～457図）

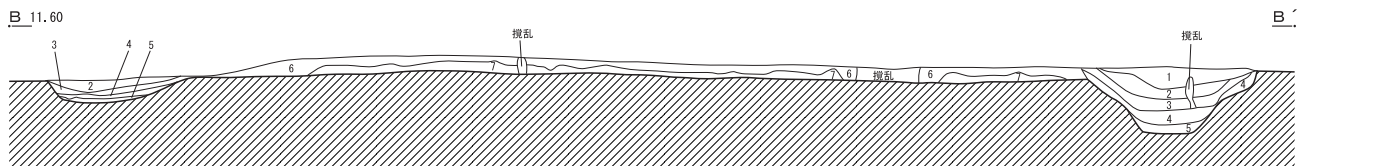
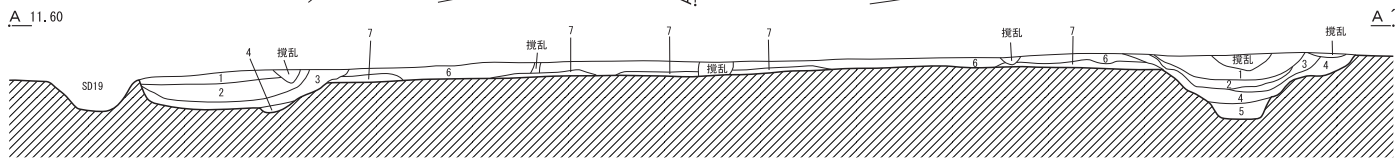
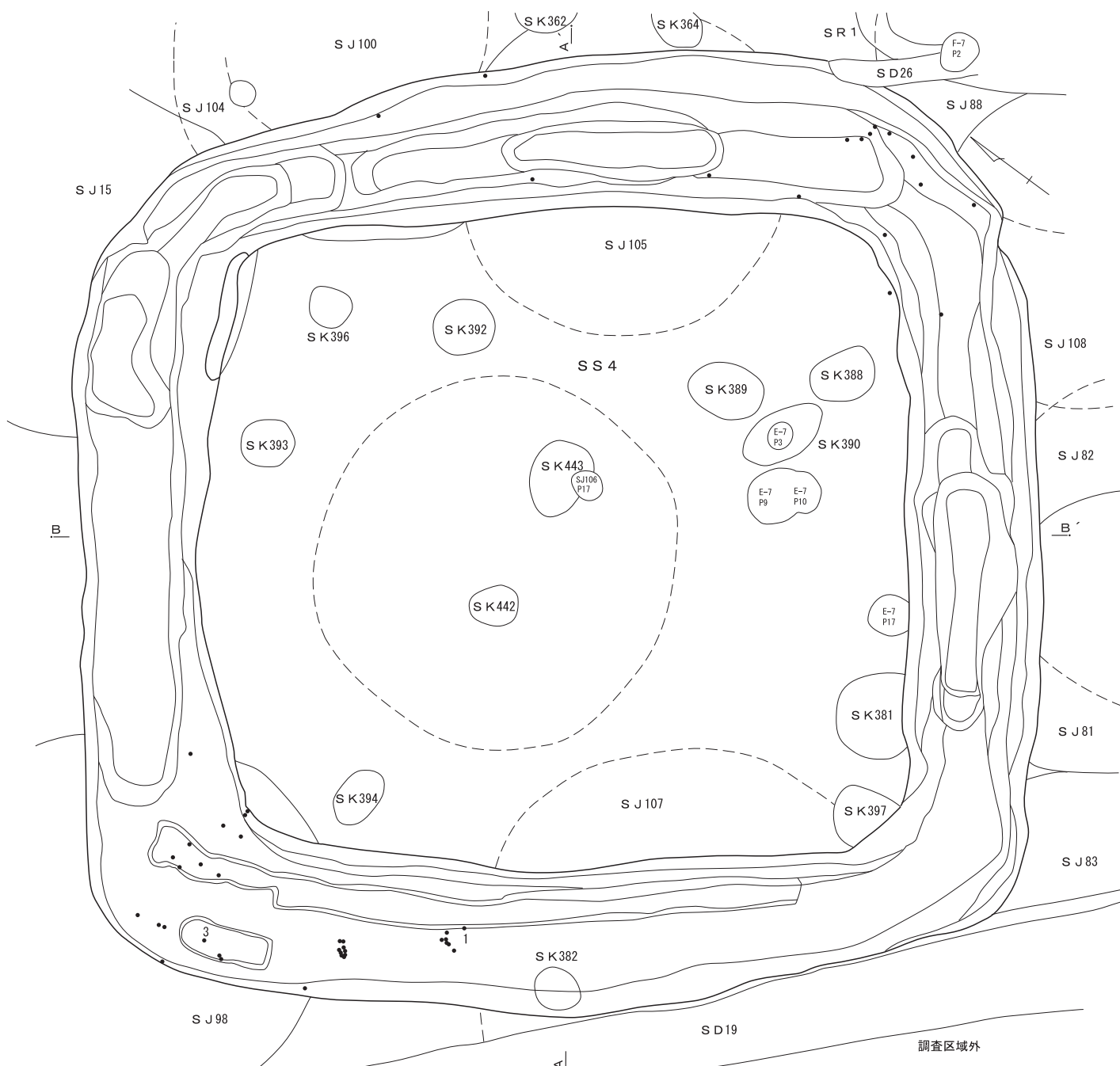
調査区西部のF・G・H-7・8グリッドに位置する。重複する第12・25・26号溝跡によって、周溝の一部が削平されている。

墳丘盛土は既に削平され、周溝のみが検出された。墳丘部の確認面の標高は、周溝外の周辺部よりも低い傾向が窺われ、約0.02～0.05mほどの比高差がある。僅かな比高差数値ではいろいろな条件が想定できるが、墳丘盛土の重みによって墳丘下の地盤が下がった可能性も考えられる。

墳形は円墳であるが、周溝外周は隅丸方形の直線的な箇所もみられる。規模は、周溝内径東西9.80m・南北9.92m、周溝外径東西15.04m・南北16.04mである。周溝幅は2.12～3.44mを測り、北側から西側にかけて広く、東側が僅かに狭い。周溝断面は逆台形～薬研状で、立ち上がりは周溝内外とも急である。

周溝底面は平坦ではなく、溝状・土坑状の掘り込みが連続した掘形である。特に南東部・西部に深い箇所があり、0.72～0.82mほどである。また北東部には深さ0.3mほどの幅約1mのブリッジ状の高まりがある。周溝自体は途切れることなく、浅いながらもしっかりと掘り込みがあるため、単純にブリッジとして捉えることはできない。このほか概ね0.4～0.56m前後の深さが保たれている。

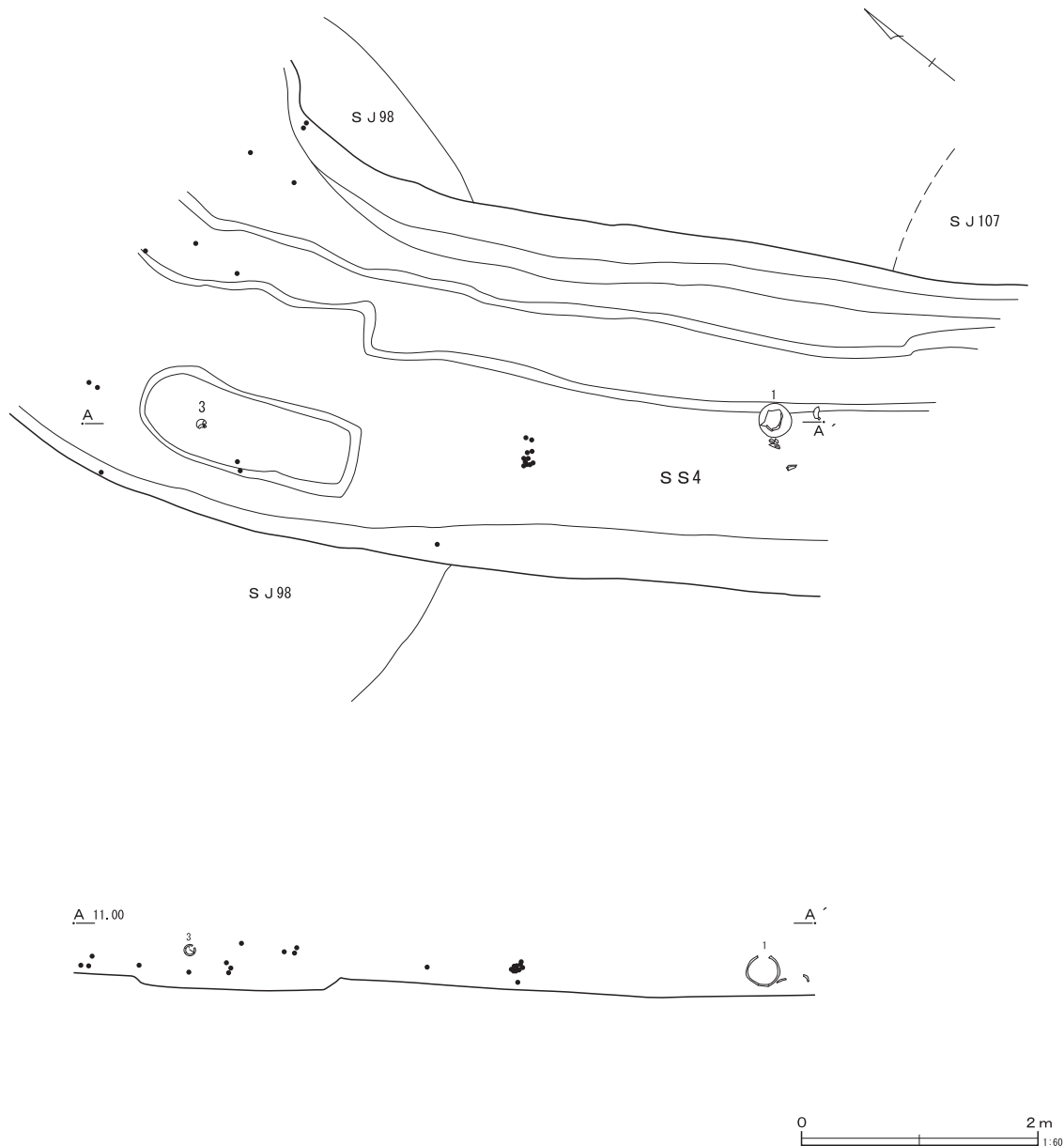
周溝に堆積していた覆土は、上層の1・2層と下層の4・5層に大別される。上層は黒～黒褐色土を主体とし、少量のローム粒子と焼土粒子・黒



- S S 4
- | | |
|---------|----------------------------|
| 1 黒色土 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 黒色土 | 焼土粒子・炭化物少量 |
| 3 黒褐色土 | ローム粒子多量 焼土粒子・炭化物少量 |
| 4 暗褐色土 | 黄ロームブロック・BBロームブロック多量 炭化物少量 |
| 5 暗黄褐色土 | 黄褐色ロームブロック・BBロームブロック |
| 6 暗褐色土 | 黄ロームブロック少量 墳丘盛土残欠層 |
| 7 暗褐色土 | ローム粒子少量 S S 4 築造時の生活面層 |



第452図 第4号墳(1)

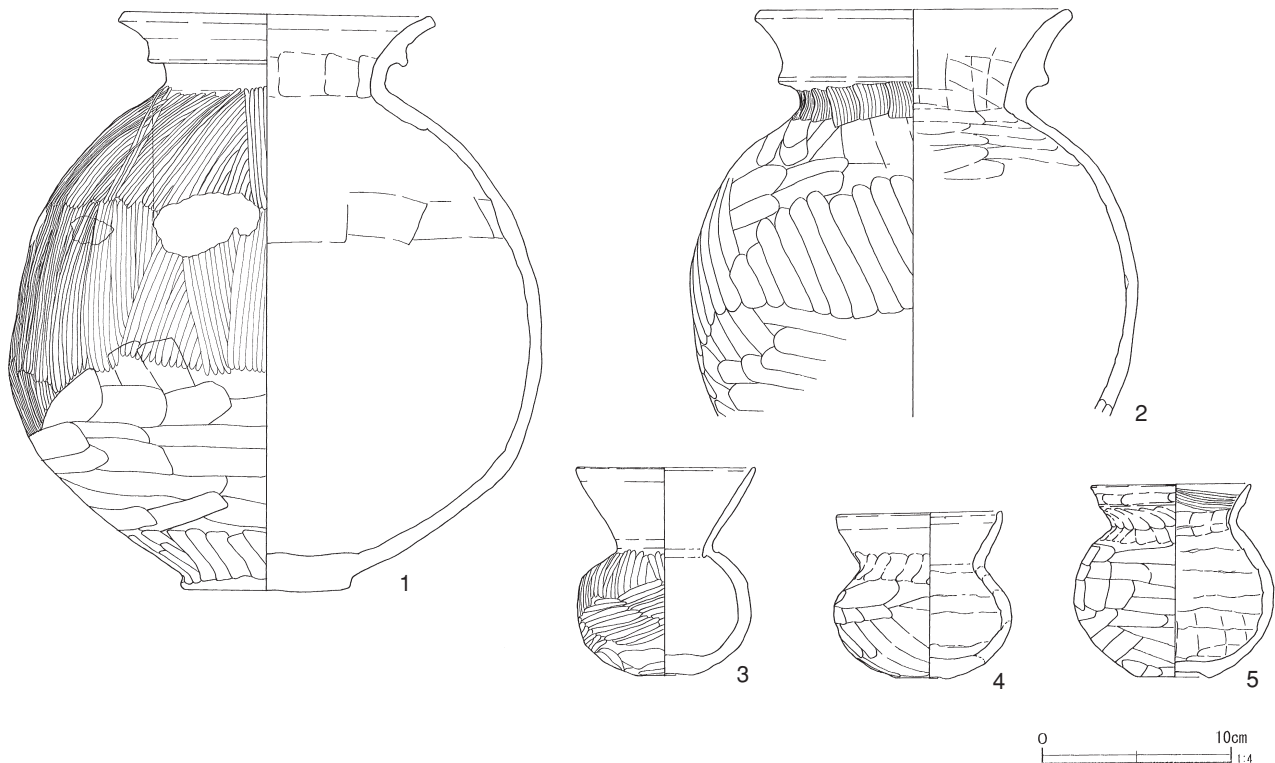


第453図 第4号墳(2)

色土ブロックが含まれている。下層には、多量のローム粒子・ロームブロックが含まれている。上層と下層の間には、群馬県榛名山二ツ岳の噴火に伴い降下したFAと推定される火山灰層(3層)が西側にのみ検出されている。また、墳丘側に偏って堆積していることも特徴的である。

遺物は3ヶ所から出土した。ひとつは、ブリッジ状の高まり部の東側から坏4点(1~3)・石製紡錘車1点(5)が発見されている。いずれも

溝底直上の出土であり、人為的な配置も予想される。しかし、坏は正位・逆位の状態が不規則なことから、古墳築造後早い段階で、墳丘裾部に並べられていた土器や紡錘車が周溝内に転がり落ちた可能性もある。注目されるのは、坏と石製紡錘車の組み合わせで、第1号墳では坏・甕・石製紡錘車が溝底に配置されていた。どのような祭祀行為が行われていたのかを復元することはできないが、祭祀具に石製紡錘が含まれていることは、神ノ



第454図 第4号墳出土遺物

第15表 第4号墳出土遺物観察表 (第454図)

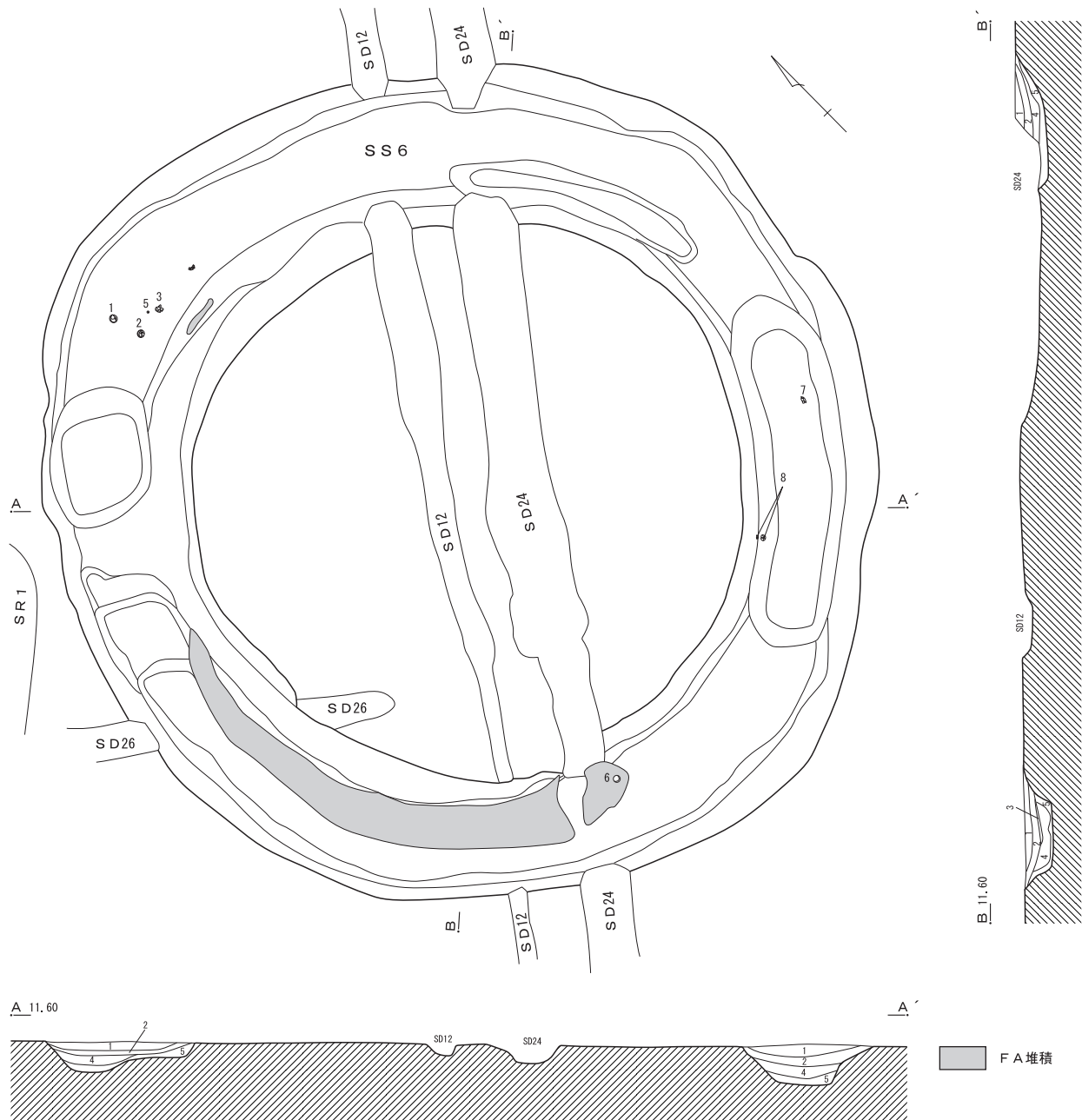
番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存(%)	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	壺	16	30.4	8.4	95	①ABCGIJ	普通	にぶい橙	SS4-No.2 指頭によるナデ ヘラケズリ	264-2
2	土師器	壺	16.2	[21.5]		30	②ACGI	普通	橙	SS4-No.13 タテ方向の跡横位 のナデ 指頭によるナデ	264-3
3	土師器	小型壺	(9.3)	11	2.8	80	①ABHI	普通	赤褐	SS4-No.1 ヨコナデ ミガキ ヘラケズリ	264-4
4	土師器	小型壺	8.6	8.8	2.5	90	③ACGI	普通	にぶい橙	SS4-No.6・15~19・24 ヨコ ナデ ケズリ	264-5
5	土師器	小型壺	8.4	10.2	3.6	100	②ACGI	普通	にぶい橙	墳丘北東四半部 粘土紐積上 痕明瞭 ナデ ケズリ	264-6

木2遺跡の円墳の特徴と考えられる。

次は、ブリッジ状の高まりの真反対にある土坑状の掘り込み付近の墳丘側の周溝肩部と覆土中層から坏2点(7・8)が出土している。

最後に、FA堆積範囲最南端では、FAの直上

から正位の状態で坏1点(6)が出土している。この坏は他の坏とは形状が異なり、若干の時間差として捉えることができるならば、古墳築造後、しばらくは古墳祭祀が継続して行われていた証拠となる資料である。

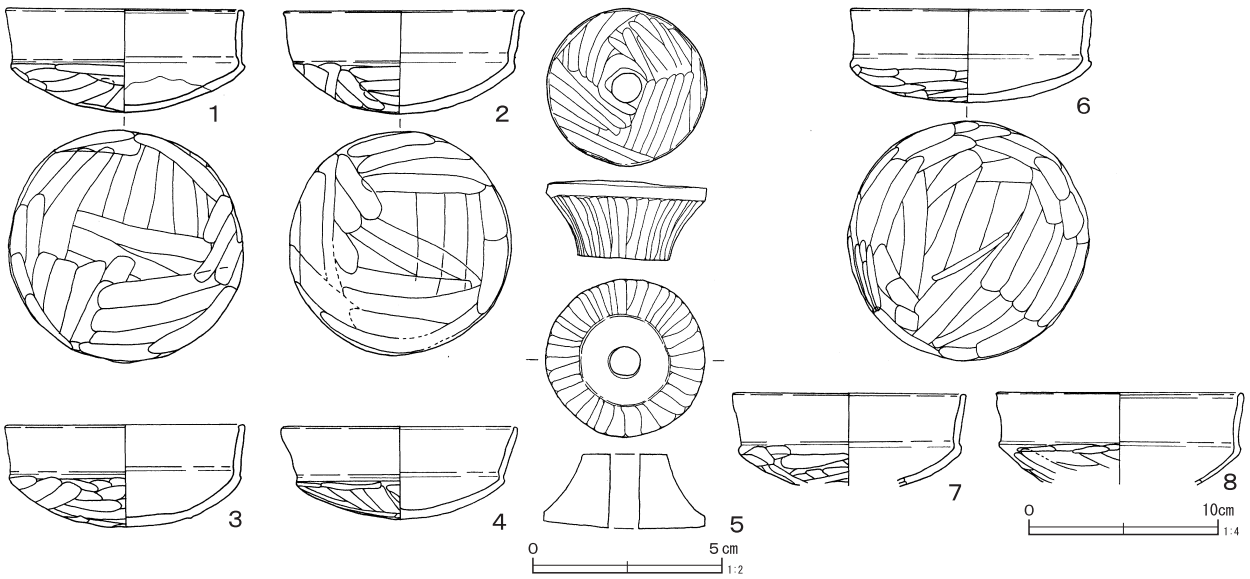
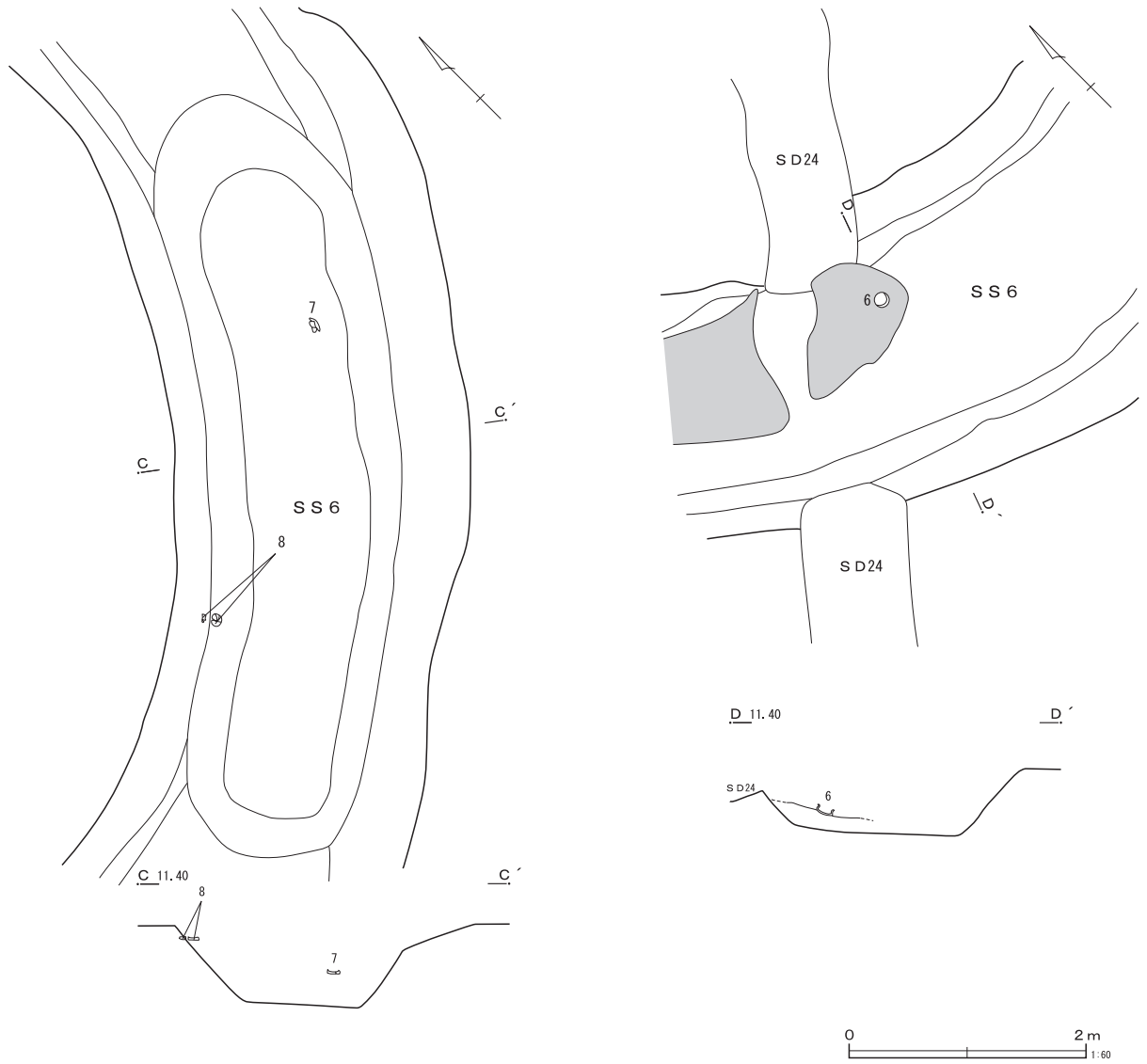


- SS6
 1 黒色土 ローム粒子・焼土粒子少量
 2 黒褐色土 ローム粒子・黒色土ブロック少量
 3 黒褐色土 F A堆積層(ブロック状の暗灰色火山灰)
 4 暗褐色土 ローム粒子やや多量 しまり弱
 5 暗黄褐色土 ロームブロック多量

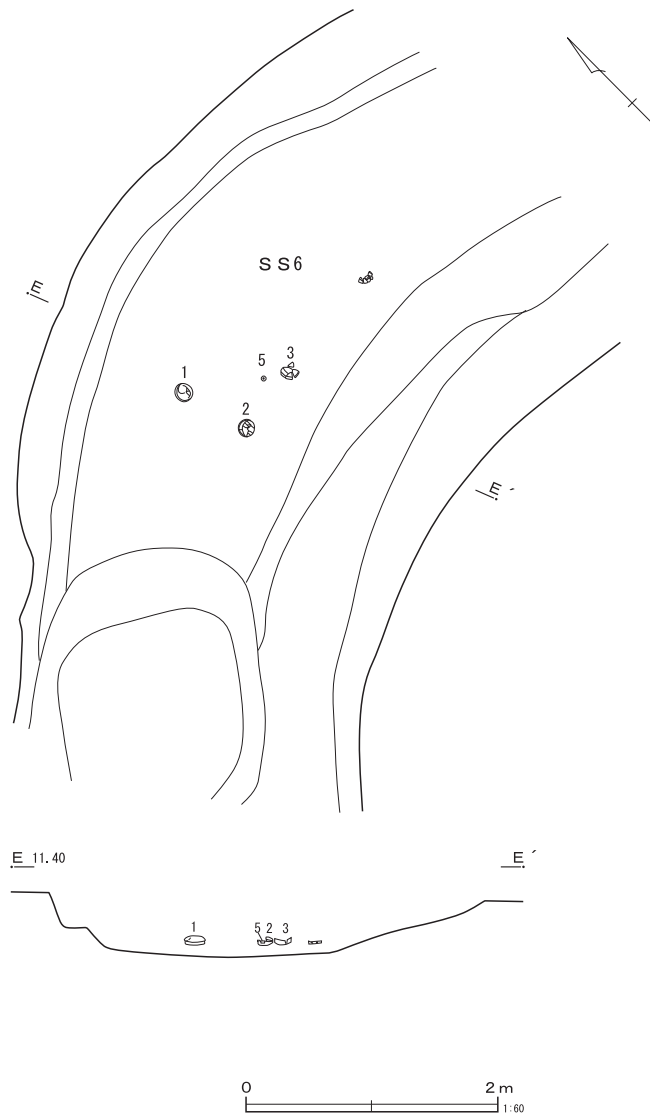
第455図 第6号墳(1)

第16表 第6号墳出土遺物観察表(第456図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存(%)	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	坏	12.3	5.5		95	②ACGI	普通	橙	SS6-No6	263-4
2	土師器	坏	12.6	5.6		95	②ACGI	普通	橙	SS6-No5	263-5
3	土師器	坏	(12.5)	5.4		60	②ACGI	普通	橙	SS6-No8	263-6
4	土師器	坏	(12.2)	4.9		30	②ACGHI	普通	橙		
5	石製品	紡錘車	径4.2	孔径0.8	厚2.0	石質	緑泥石(XRD)	重さ	42.0g	SS6-No7	263-8(左)
6	土師器	坏	12.4	4.9		95	②ACGI	普通	橙	SS6-No4	263-7
7	土師器	坏	(12.2)	[4.9]		20	②ACGHI	普通	橙	SS6-No1	
8	土師器	坏	(12.8)	[4.9]		15	②ACGI	普通	橙	SS6-No5・9	



第456图 第6号墳(2)・出土遺物



第457图 第6号墳(3)

(2) 土壙

発見された古墳時代の土壙は、第30・32・52・58・100・106・107号土壙の7基である。このうち、第30・32号土壙の2基は、第1号墳と第4号墳の間に位置する。第58・100・106・107号土壙の4基は、第2号墳と第6号墳に挟まれた空間に分布する。形態や規模、覆土の堆積状況、古墳との位置関係等から、第30・32・100・106・107号土壙の5基は土壙墓と推測される。

第30号土壙 (第458図)

D-5グリッドに位置する。

平面形態は長方形である。長軸長1.96m、短軸長1.94m、確認面からの深さ0.36mを測る。長軸方位は、N-75°-Eを指す。底面は平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。覆土は四層に分層され、下層部上方の3層には群馬県榛名山二ツ岳の噴火に伴い降下したFAと推定される火山灰が堆積していた。遺物は出土していない。

土壙の掘形形状・規模、覆土の堆積状況から、木棺直葬墓と推測される。最下層の4層が埋置された木棺の上面を覆っていた土層で、木棺の腐朽・墓壙の陥没に伴って土壙の底部に堆積した。この直上にFAを含む3層がフラットに堆積しているが、FAの降灰が木棺の腐朽・墓壙の陥没の前か後かは判断はできない。いずれにしても、FAの降灰時期とは大きな時間差はない。その後、上層の1・2層が自然堆積したものと復元される。このような堆積状況から、埋葬時期はFA降下直前と推測される。

第32号土壙 (第458図)

D-6グリッドに位置し、重複する第31号土壙よりも新しい。平面長方形の土壙の底面中央に、さらに平面長楕円形の土壙が掘り込まれた二段土壙である。

上段の長方形土壙の規模は、長軸長1.71m、短軸長1.19m、確認面からの深さ0.38mを測る。底面は中央に掘り込まれた下段土壙に向かって、長

軸方向・短軸方向ともに緩やかに傾斜する。壁は外傾する。

下段の長楕円形土壙の規模は、長軸長1.06m、短軸長0.35m、上段底面からの深さ0.24mを測る。底面は平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。

長軸方位は、N-3°-Eを指す。覆土は三層に分層され、2層には群馬県榛名山二ツ岳の噴火に伴い降下したFAと推定される火山灰が含まれている。遺物は出土していない。

上下二段に掘り込まれた掘形形状や規模、覆土の堆積状況から、木棺直葬墓と推測される。下段土壙の幅が狭いことから木棺の形式と安置方法には検討を要するが、上段土壙の南北に堆積している3層は、安置した木棺と土壙の隙間を埋め戻した土層である。FAを含む2層は埋置された木棺の腐朽・陥没に伴って土壙の底部に堆積したものと想定され、FAの降灰は木棺の腐朽・陥没の以前と推理される。その後、陥没した穴に上層の1層が自然堆積したものと復元される。このような堆積状況から、埋葬時期はFA降下直前と推測される。

第52号土壙 (第458図)

H-4グリッドに位置する。

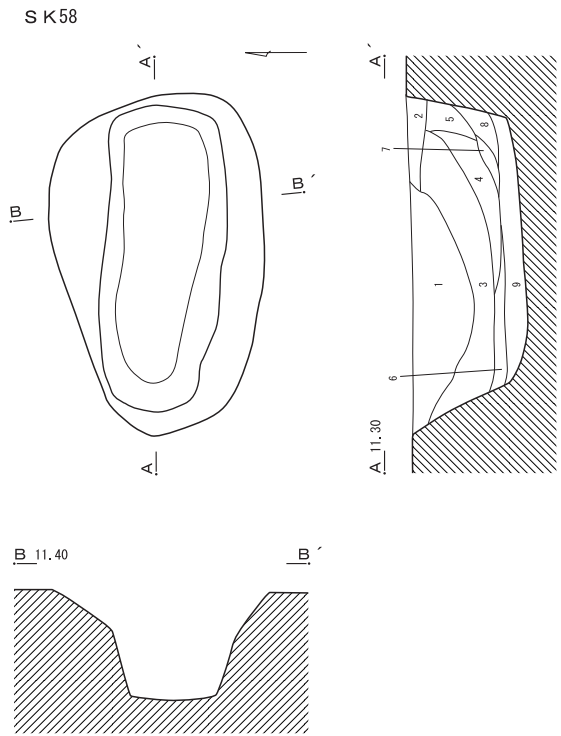
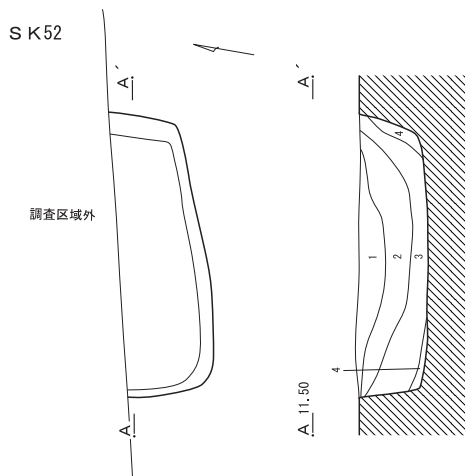
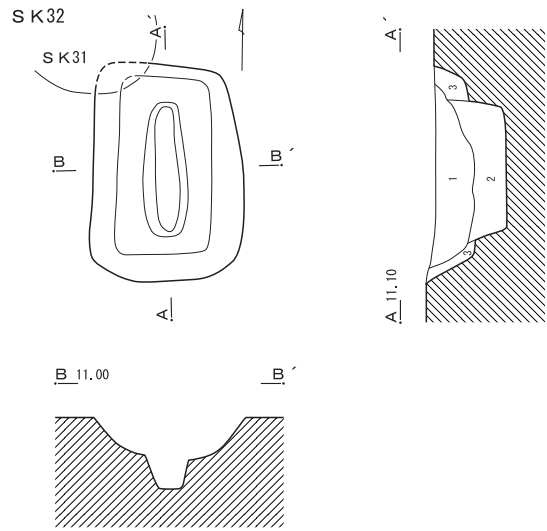
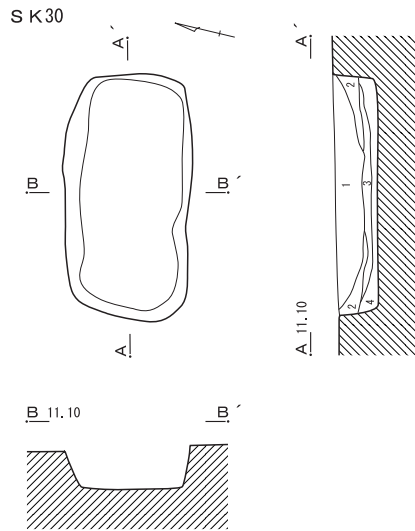
平面形態は長方形である。南側の縦半分が検出され、北半部は調査区外にある。長軸長2.25m、短軸長0.72m以上、確認面からの深さ0.56mを測る。長軸方位は、N-72°-Eを指す。底面は概ね平坦である。壁は直立し、東壁上半に崩れもみられる。

覆土は自然堆積で、最上層(1層)にAs-BP(天仁元年・1108の浅間山噴火に伴う火山灰)が含まれている。遺物は出土していない。

第58号土壙 (第458図)

G・H-5グリッドに位置する。

平面形態は隅丸長方形である。長軸長2.66m、短軸長1.68m、確認面からの深さ0.78mを測る。長軸方位は、N-97°-Eを指す。底面は平坦で

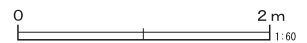


- S K30
- 1 黒褐色土 ローム粒子多量 しまり弱
 - 2 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量
 - 3 暗灰褐色土 FA少量 ローム粒子多量 ロームブロック少量
 - 4 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量

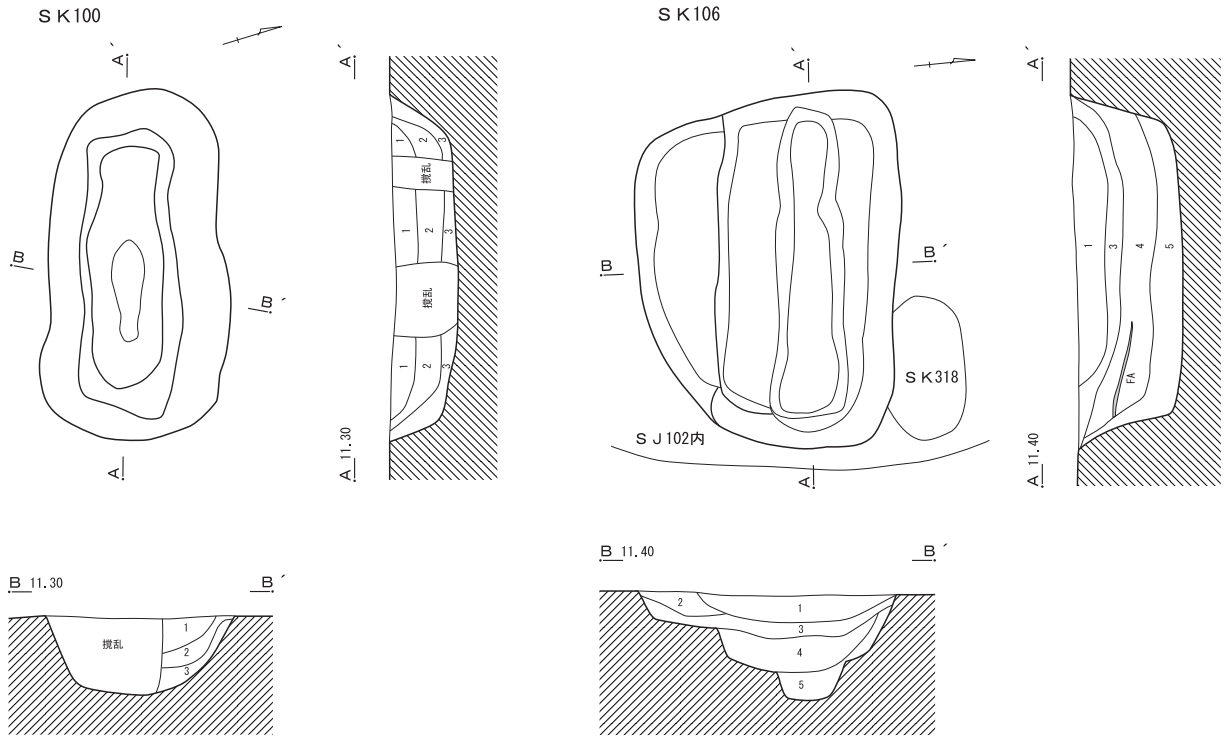
- S K32
- 1 黒褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック少量 しまり弱
 - 2 灰褐色土 FA少量 ローム粒子少量
 - 3 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量

- S K52
- 1 黒褐色土 基II + As-B P 焼土粒子多 炭化物少量
 - 2 赤褐色焼土 3mm以下の風化焼土粒子層
 - 3 黒褐色土 基II + ローム粒子多
 - 4 黄褐色土 基III + ローム粒子多

- S K58
- 1 黒褐色土 旧表土 + 焼土粒子・炭化物少量
 - 2 黄褐色土 基II + As-B P少量 焼土粒子多
 - 3 黄褐色土 基II + 旧表土
 - 4 黄褐色土 基II + ローム粒子少量
 - 5 黄褐色土 基II + ローム粒子少量
 - 6 黄褐色土 基II + ロームブロック多
 - 7 赤色焼土 基II + 焼土粒子多
 - 8 黄褐色土 基II + ローム粒子少量
 - 9 黄褐色土 基II + ローム



第458図 土壌 (1)



- SK100
- | | |
|--------|-----------------------|
| 1 黒色土 | 炭化物粒子・ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 黒褐色土 | 炭化物粒子・ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色土 | 炭化物粒子・ローム粒子・ロームブロック少量 |

- SK106
- | | |
|---------|--------------------|
| 1 黒色土 | 炭化物粒子・焼土粒子・ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色土 | ローム粒子多量 炭化物粒子少量 |
| 3 暗褐色土 | ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色土 | ローム粒子・炭化物粒子少量 |
| 5 暗黄褐色土 | ロームブロック多量 |

第459図 土壌（2）

ある。壁は長軸方向が外形気味に立ち上がるのに対し、短軸方向では上半部の壁の崩れが顕著である。本来は、短軸長1.4m前後の長方形の土壌であったものと推測される。

覆土は九層に分層され、最上層の1層は埋没後の攪乱層である。床面直上の7～9層を除き、2～6層にはAs-BP（天仁元年・1108の浅間山噴火に伴う火山灰）が含まれている。遺物は出土していない。

第100号土壌（第459図）

G-6グリッドに位置する。

平面形態は隅丸長方形で、耕作による攪乱のため、若干の変形が認められる。長軸長2.78m、短軸長1.42m、確認面からの深さ0.55mを測る。長軸方位は、N-68°-Wを指す。底面は長軸方向2.25m×短軸方向0.76mのしっかりとした長方形に形造られ、中央部には長軸長1.80m、短軸長0.57m、深さ0.06mの浅い楕円形の窪みがみられ

る。壁は外傾気味に立ち上がる。覆土は三層に分層される自然堆積である。遺物は出土していない。

掘形形状や規模、分布、他の古墳時代の土壌との比較から、土壌墓と想定される。しっかりと形造られた長方形の底面形状から箱形の木棺が、また底面中央の楕円形の窪みから割竹形・船形の木棺が埋置されていた可能性もある。一方、覆土の堆積状況からは木棺直葬墓と断定することはできない。

第106号土壌（第459図）

G-6グリッドに位置する。上段土壌の底面中央に、下段土壌が掘り込まれた二段土壌である。

上段土壌は、東西2.95m、南北2.08mの半円形の平面形態である。長軸長2.95m、短軸長1.40m、深さ0.60mの長方形の本体に、三日月形の浅い張り出し（深さ0.26m）が付随したような形をしている。覆土の堆積状況の観察からは明確にできなかったが、2基の土壌が重複している可能性も否

めない。長方形掘形の底面は、中央に掘り込まれた下段土壌に向かって緩やかに傾斜する。壁は外傾する。

下段土壌は上段の長方形掘形中央部に、短辺を揃えて掘り込まれている。規模は、長軸長2.42m、短軸長0.54m、上段底面からの深さ0.27mを測る。底面は極めて緩やかな凹面で、壁は直立気味に立ち上がる。

長軸方位は、N-86°-Wを指す。覆土は五層に分層され、中層の4層中には群馬県榛名山二ツ岳の噴火に伴い降下したFAと推定される火山灰が薄く堆積している。通常ならば、4層を4層下部層→FA層→4層上部層の三層に分層すべきではあったが、調査時に綿密に観察したが分層できなかった。遺物は出土していない。

上下二段に掘り込まれた掘形形状や規模、覆土の堆積状況から、土壌墓と推測される。下段土壌の機能を考えた場合、その幅は成人が仰向けになるのに充分であり、遺骸を安置した主槨と考えるのが自然である。また、このような特別な施設に遺骸を直接埋葬したとは考えがたく、棺に納めて埋葬したことが予想される。覆土の堆積状況には木棺の存在を窺わせる直接的な様相はみられないが、下段土壌を木棺を安置する施設と捉えることが最も素直な解釈と思われる。

第107号土壌（第460～463図）

G-6・7グリッドに位置する。上段土壌の底面中央に、下段土壌が掘り込まれた二段土壌である。長軸方位は、N-56°-Eを指す。

上段土壌は長軸長3.09m、短軸長1.30m、深さ0.65～0.80mの長方形である。南西壁には、幅0.35～0.58m、長さ0.53mの張り出しが付設され、その一部には天井が残存し、奥行0.20mほどの横穴状となっている。

下段土壌は長軸長2.04m、短軸長0.32～0.40m、上段土壌底面からの深さ0.22～0.37mを測る長方形である。底面は、長軸・短軸方向ともに中央に

向かってごく緩やかな傾斜がみられる。

北東側の上段土壌下端と下段土壌上端の間には、白色粘土が検出されている。長さ0.62m、幅0.41m、厚さ0.15mの蒲鉾状の形態で、上部土壌の底面直上に設置されている。下段土壌側は、下段土壌壁からそのまま繋がるような直立面が保たれていた。このような検出状況から、白色粘土は埋葬された木棺の木口部に設置されたものと判断される。さらに、覆土の堆積状況においても木棺が埋設されていたことを窺うことができ、木棺直葬墓と推定される。

遺物は、鉄製大刀1振・鉄製長剣1振・鉄鎌1丁・鉄鏃14本以上が出土した。いずれも埋葬に伴う副葬品である。

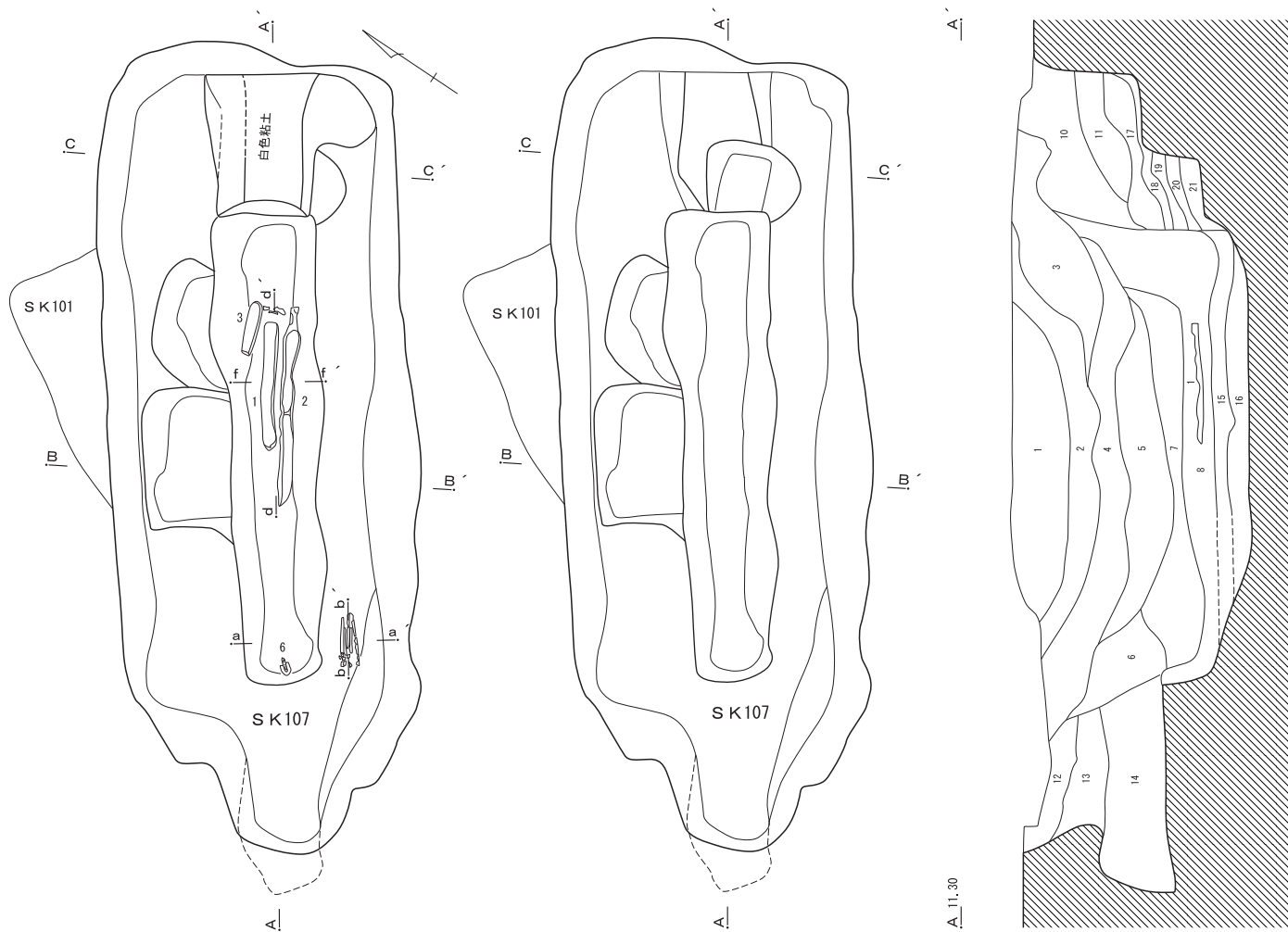
鉄刀・鉄剣・鉄鎌は、下段土壌の中央から北東側によった部分に位置する。高さは、下段土壌の底面より上方へ約0.2m、上段土壌の底面より下方へ約0.07mほどから出土した。鉄刀・鉄剣は柄を北東に、切先を南西に揃えて検出された。また用途不明の鉄製品破片3点も伴出した。

鉄鏃は、下段土壌の南西壁付近から短頸鏃1本が出土した。また、上段土壌の南隅からは、長頸鏃10本、短頸鏃3本の合計13本が検出された。13本の鉄鏃は、鏃身部先端を南西方向に揃えられ、折り重なるように発見された。おそらくは、盛矢具に納められた状態で埋納されたと判断される。

白色粘土や副葬品の出土状態から、白色粘土が施された北東側に頭位を向け、鉄刀・鉄剣・鉄鎌を遺骸に抱かせ、鉄鏃は遺骸の左側の足元に置いていた埋葬状況が復元される。

1は鉄製の剣である。茎部及び刃身部表面に木質が認められるため、柄と鞘は木製であったと考えられる。鏃はあまり顕著ではないが、刃の断面は菱形を呈している。

関は深めの角関で、茎は、茎尻に向かって内彎しながら細くなる。茎には目釘穴が2箇所設けられている。

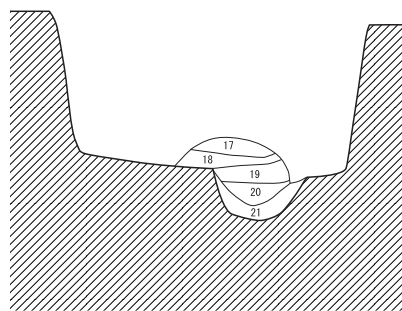
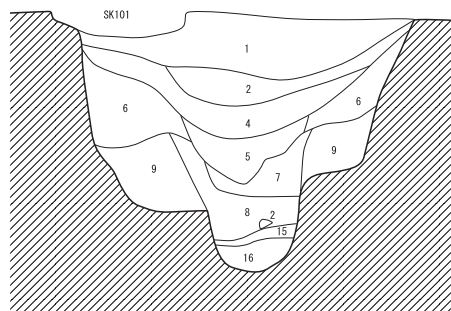


B 11.30

B'

C 11.30

C'



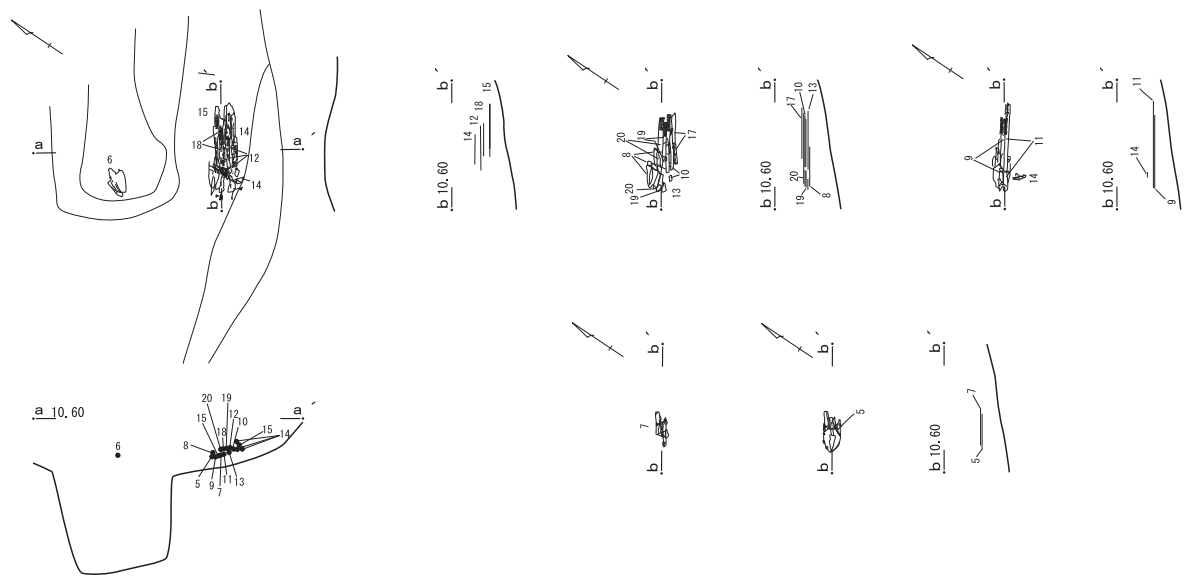
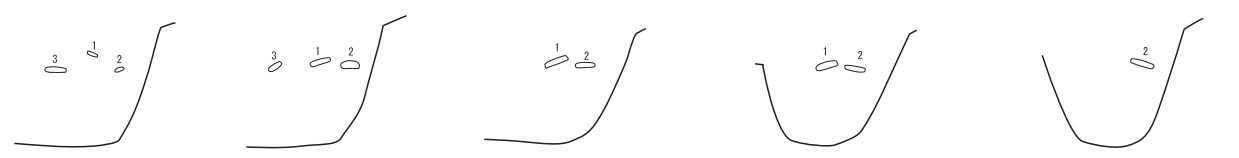
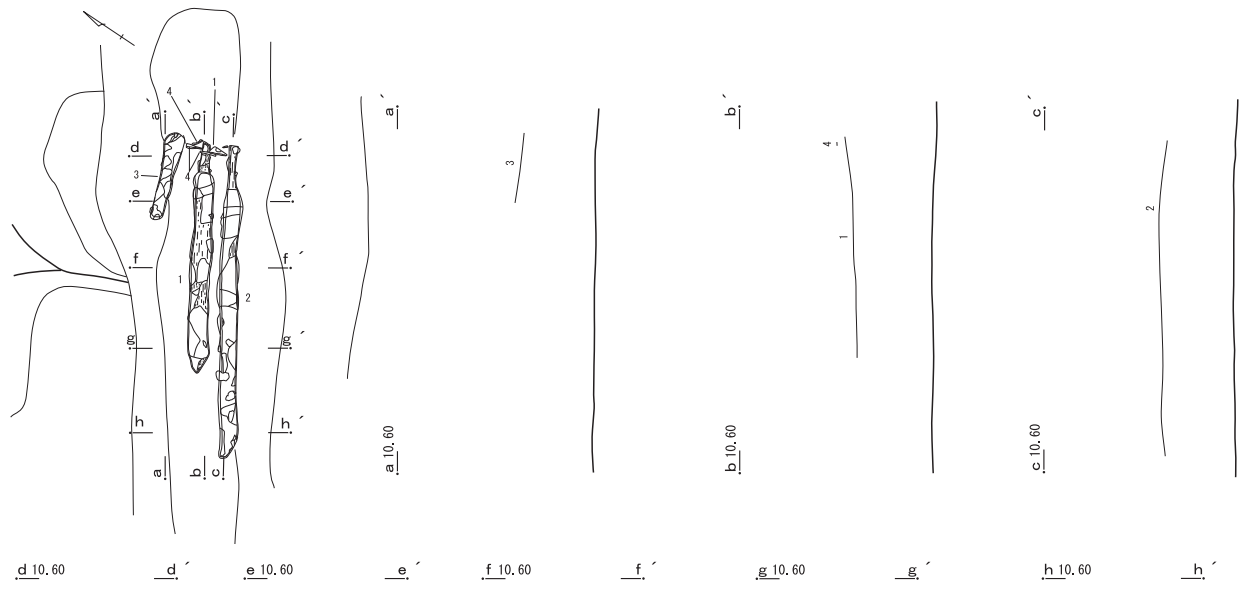
SK107

- 1 黒色土
- 2 黒褐色土
- 3 暗褐色土
- 4 黒褐色土
- 5 暗褐色土
- 6 暗褐色土
- 7 黒褐色土
- 8 暗褐色土
- 9 暗褐色土
- 10 暗黄褐色土
- 11 暗褐色土

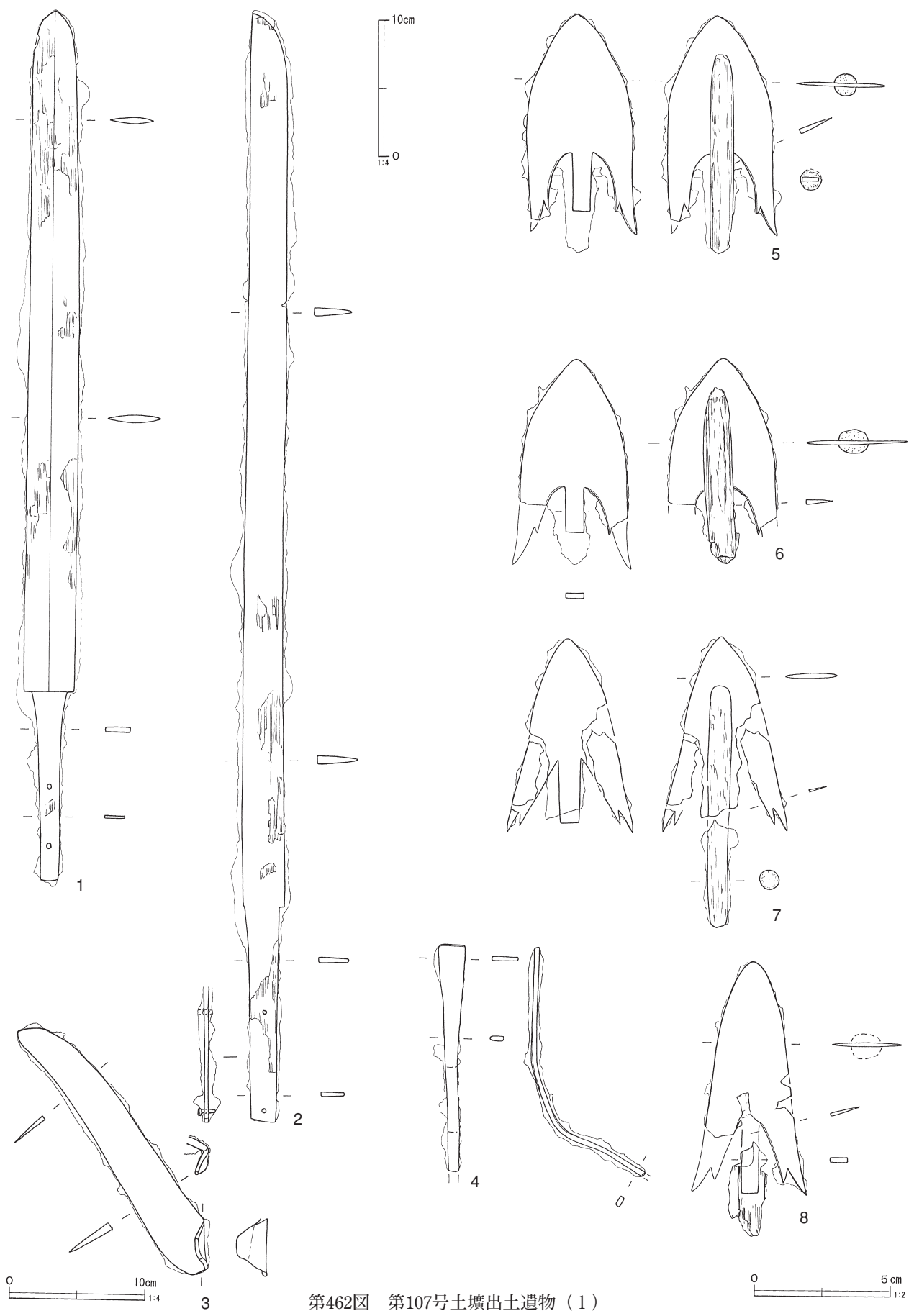
- 12 暗褐色土
- 13 黒褐色土
- 14 暗褐色土
- 15 暗褐色土
- 16 黒褐色土
- 17 白色粘土
- 18 暗褐色土
- 19 暗褐色土
- 20 黒褐色土
- 21 暗褐色土

- 1 黒色土 ローム粒子少量 埋置木棺の腐朽・陥没後に埋没
- 2 黒褐色土 ブロック状の黒色土・ローム粒子少量 埋置木棺の腐朽・陥没後に埋没
- 3 暗褐色土 ブロック状の黒色土・ローム土 埋置木棺の腐朽・陥没後に埋没
- 4 黒褐色土 ローム粒子多量 棺埋置段階に棺上面に埋め戻した土層
- 5 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックやや多量 棺埋置段階に棺上面に埋め戻した土層
- 6 暗褐色土 ロームブロック多量 棺埋置段階に棺上面に埋め戻した土層
- 7 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒子少量 棺埋置段階に棺上面に埋め戻した土層
- 8 暗褐色土 ロームブロック多量 棺埋置段階に棺上面に埋め戻した土層
- 9 暗褐色土 ロームブロック主体 棺埋置段階の棺側面部の固定土層
- 10 暗黄褐色土 ロームブロック・黒褐色土粒子多量 棺埋置段階の棺側面部の固定土層
- 11 暗褐色土 ローム粒子・白色粘土粒子少量 棺埋置段階の棺側面部の固定土層
- 12 暗褐色土 ローム粒子・ブロック、黒色土粒子やや多量 棺埋置後の棺側面部の固定土層
- 13 黒褐色土 ローム粒子少量 棺埋置後の棺側面部の固定土層
- 14 暗褐色土 ローム粒子・ブロック多量 棺埋置後の棺側面部の固定土層
- 15 暗褐色土 白色粘土粒子・ローム粒子少量 ロームブロック多量
- 16 黒褐色土 ローム粒子・炭化物粒子少量 ロームブロックやや多量
- 17 白色粘土 炭化物粒子・焼土粒子微量 棺頭部木口の閉塞材
- 18 暗褐色土 白色粘土粒子やや多量 炭化物少量
- 19 暗褐色土 白色粘土粒子・ローム粒子・炭化物粒子少量
- 20 黒褐色土 ローム粒子・炭化物粒子少量
- 21 暗褐色土 ローム粒子やや多量 炭化物粒子少量

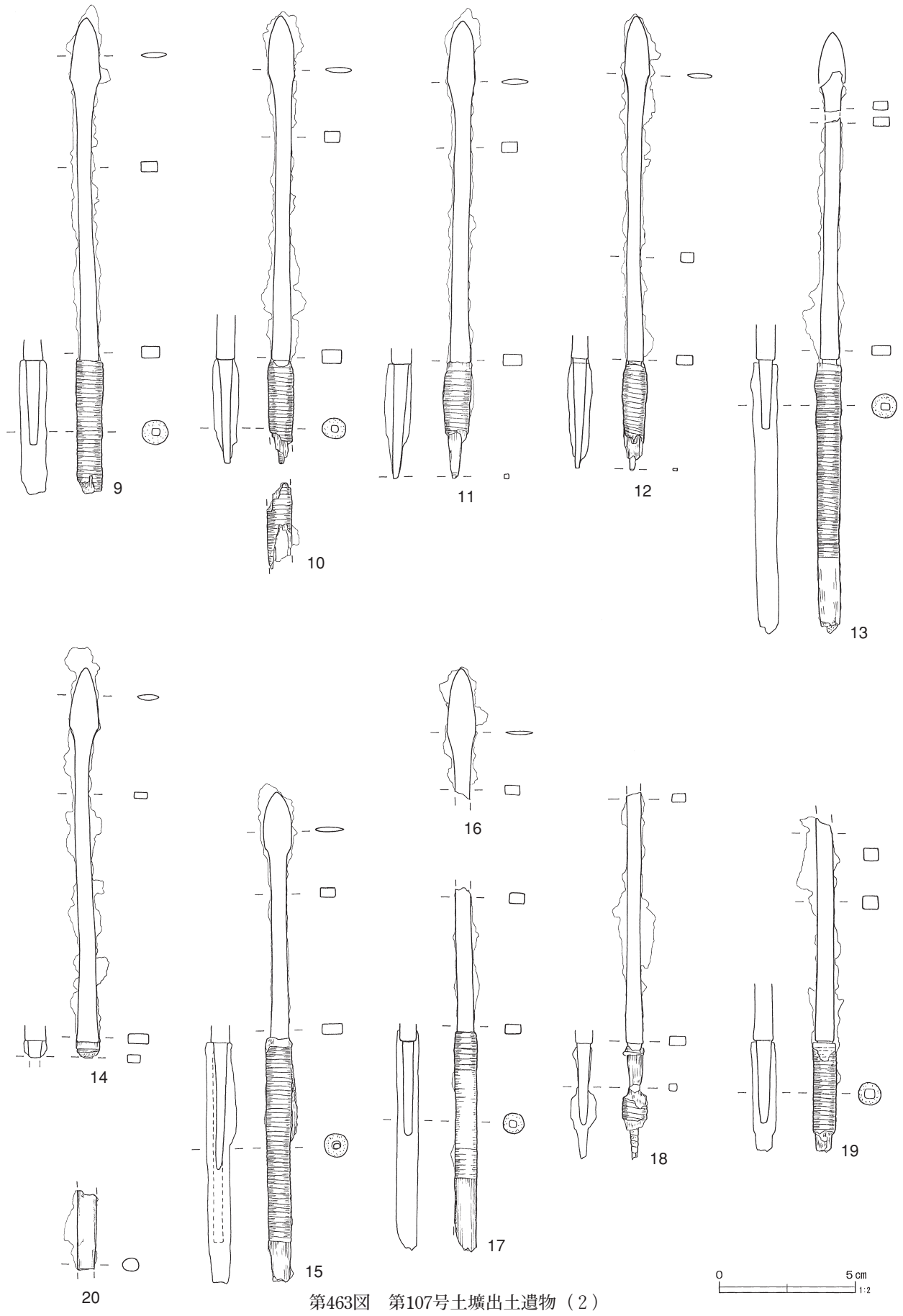
第460図 第107号土坑（1）



第461图 第107号土壤 (2)



第462図 第107号土坑出土遺物(1)



第463图 第107号土壙出土遺物 (2)

2は鉄製の大刀である。剣と同様に、木質の付着が認められ、木製の拵えをもつ大刀であった可能性が高い。関(まち)は、刃関は明瞭であるが、背関はわずかに認められる程度で、片関に近い。茎は、幅の変化がほとんどない直(すぐ)で、茎尻は直線をなす一文字尻である。目釘穴は2ヶ所に設けられ、鉄製の目釘が残っている。

3は鉄製の鎌である。わずかに内彎する曲刃鎌で、刃渡りが約19cmと大形の部類に入る。柄の装着部は刃に対して仰角をなし、これが柄と鎌の装着角度を示すものであれば、図示したように刃が極端に上向きに装着されるものとなる。

4は棒状で先端が幅広となる鉄製品である。不定形に曲がっており、その用途は不明である。剣の茎部から、剣と直交するように出土しているため、剣の拵えに関連する金具かもしれない。

5～19は鉄鏃である。6以外はまとめて出土

した。5～8は短頸鏃、9～19は長頸鏃である。

5・6は鏃身部がふくらを有する平造の三角形鏃である。二重逆刺を有し、茎部は平形である。7・8は平造の長三角形鏃で、5・6と同様に二重逆刺を有し、茎部は平形である。なお、7は遺存状態が悪く、形状は推定である。いずれも無機質化した矢柄が付着しており、茎の形状を確認するのが困難であった。

9～16はすべて両丸造で、鏃身関部は撫関、関部は角関である。16は接合しないが、鏃身部が失われている17～19のいずれかに合うものと考えられる。

長頸鏃は全体的に、矢柄と樹皮の口巻が良好に残っている。15におけるX線透過写真の観察から、矢柄に細長い穴をあけ、鏃の茎部を挿入してから樹皮を巻いて固定したものと推定される。

20は無機質化した矢柄の一部と考えられる。

第17表 第107号土壌出土遺物観察表(第462・463図)

番号	器種	全長(cm)	刃部			茎部			重さ(g)	取り上げ番号	
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)			
1	剣	64.3	50.2	3.8	0.6	14.1	2.5	0.4	438.1	No1・7	
2	大刀	81.7	65.9	3.0	0.6	15.8	2.4	0.4	598.6	No8	
3	鎌	22.2	(19.0)	3.7	0.6				85.6	No6	
4	不明品	長さ[9.4]	先端幅1.0 厚さ0.2							No2・3・4	
番号	器種	全長(cm)	鏃身部			茎部(5～8) 頸部(9～19)			茎部	重さ(g)	取り上げ番号
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ(cm)		
5	鉄鏃	8.0	8.0	3.9	0.2	2.2	0.7	0.2		21.4	No24
6	鉄鏃	[6.4]	[6.4]	[4.0]	0.2	1.6	0.7	0.2		18.0	No9
7	鉄鏃	(7.2)	(7.2)	(4.6)	0.2	(2.4)	(0.8)	—		12.8	No25
8	鉄鏃	8.6	8.6	[3.3]	0.2	(2.7)	0.6	0.2		14.6	No18
9	鉄鏃	15.7	2.3	1.1	(0.2)	10.3	0.6	0.4	3.1	19.0	No21
10	鉄鏃	14.3	2.2	1.0	0.2	8.3	0.7	0.5	3.8	17.3	No19
11	鉄鏃	[16.7]	2.2	1.0	(0.2)	10.3	0.7	0.4	[4.2]	19.1	No22
12	鉄鏃	16.7	2.2	0.9	0.2	10.5	0.6	0.3	4.0	14.3	No12
13	鉄鏃	(13.1)	(2.2)	[0.8]	—	(9.8)	0.7	0.3	2.5	15.2	No20
14	鉄鏃	[14.3]	2.2	1.1	0.2	13.7	0.7	0.3	[0.6]	11.2	No13・14・23
15	鉄鏃	13.8	2.2	1.0	0.2	7.0	0.7	0.4	4.6	16.4	No10
16	鉄鏃	[4.3]	2.3	1.0	0.1	[2.0]	0.6	0.4	—	3.8	なし(一括)
17	鉄鏃	[9.0]	—	—	—	[5.5]	0.6	0.3	3.5	11.9	No15
18	鉄鏃	[12.2]	—	—	—	[9.2]	0.6	0.3	3.0	10.8	No11
19	鉄鏃	[11.1]	—	—	—	[8.1]	0.7	0.4	3.0	14.3	No16
20	鉄鏃(矢柄)	[2.8]	—	—	—	—	—	—	—	3.9	No17

(3) 周溝状遺構

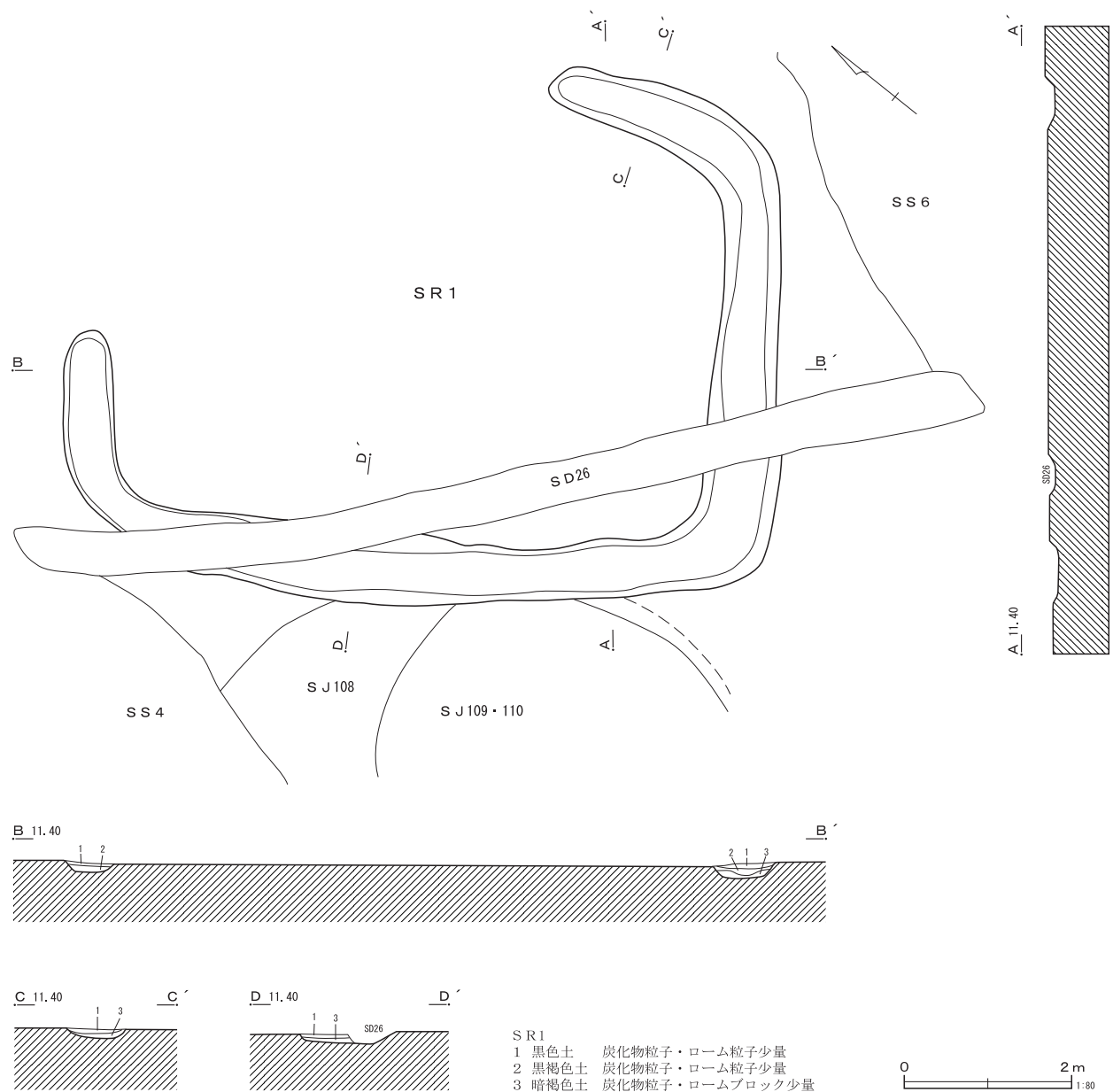
第1号周溝状遺構 (第464図)

調査区西部のE・F-6グリッドに位置する。重複する第26号溝跡によって、周溝の一部が削平されている。

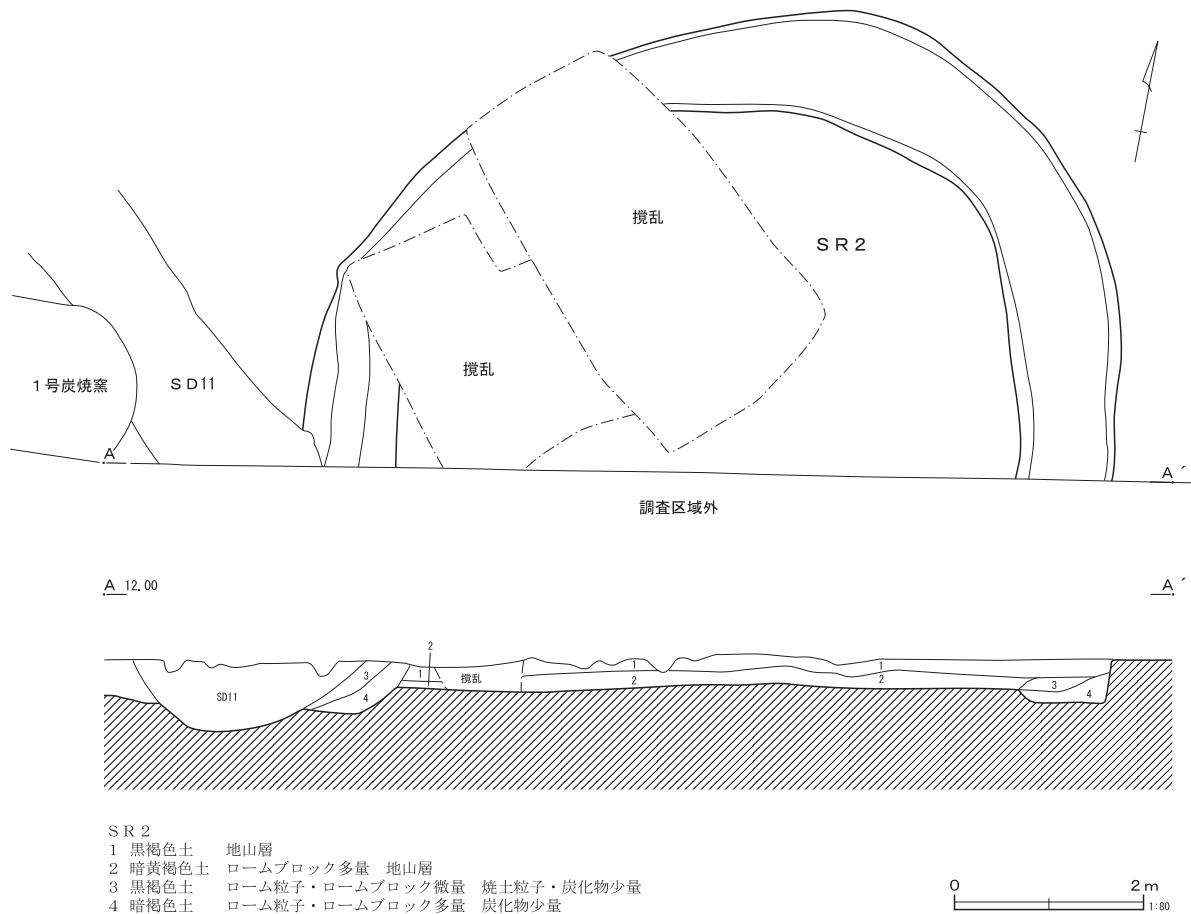
方形に巡る溝状遺構であること、第4号墳と第6号墳に挟まれながら重複していない位置関係にあることなどから、発掘時には第1号方形周溝墓として調査を開始した。築造時期は、第4号墳に先行する古墳時代以前と想定した。しかし、溝が

極端に長い長方形に巡ること、全周しない溝に方形周溝墓としての意図的な設計観が窺えないこと、溝の幅や深さに代表される溝の様相が同時期の方形周溝墓とは大きく異なることなどから、第1号周溝状遺構として報告する。用途は不明である。

周溝は、北西辺北半から北東辺北半を除く、北東辺南半～南東辺～南西辺～北西辺南半に巡る。南東辺は直線的、南西辺はやや弧を描き、南東辺は外側に開く。規模は、周溝内長軸長7.16m・短軸長4.94m、周溝外長軸長8.52m・短軸長6.40m、



第464図 第1号周溝状遺構



第465図 第2号周溝状遺構

周溝幅0.48～0.94m、深さ0.12～0.18mを測る。長軸方位はN-39°-Wを指す。周溝断面は逆台形で、立ち上がりは外傾する。底面は平坦で、ブリッジ・溝内土壌等はない。また、周溝に囲まれた方台部にも、周溝と関連する施設は検出されていない。

遺物は出土していない。

第2号周溝状遺構（第465図）

調査区中央部のN・O-7・8グリッドに位置する。北側の約3/5ほどが検出され、南側は調査区外にある。重複する第11号溝跡によって周溝の一部が削平され、また現代の攪乱も受けていた。

発掘時には円墳跡の第5号墳として調査を進めた。しかし、他の古墳の分布域から離れた地区に存在しこの間を繋ぐ同時期の遺構が存在しないこと、発見されている古墳の規模との格差が大きい

こと、周溝の幅・深さ・掘形等の状況に共通性を見出せないことから、調査途中から古墳跡とすることに疑問を抱いていた。規模・形態の類似から、周囲に存在する縄文時代の住居跡の掘形とも思えたが、覆土の様相の違いから住居跡とは異なる遺構と判断された。そのため、第2号周溝状遺構として報告するが、用途は不明である。

規模は、周溝内径6.52m、周溝外径8.51m、周溝幅0.78～1.18m、深さ0.13～0.34mを測る。周溝断面は逆台形で、立ち上がりは外傾する。底面は平坦で、ブリッジ・溝内土壌等はない。溝底に2本のピットが検出されているが、周溝遺構の関連は不明である。また、周溝に囲まれた円台部にも、周溝と関連する施設は検出されていない。

遺物は出土していない。

4. 近世

(1) 土壙

16基が検出された。遺物が検出されたものは少なかったが、土層などから近世以降と確認できたものを近世の土壙とした。

第2号土壙 (第466図)

V-2グリッドに位置する。平面形は長方形で、長径2.72m、短径0.90m、深さ0.48mである。

第5号土壙 (第466図)

U-6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径1.76m、短径1.47m、深さ0.10mである。

第6号土壙 (第466図)

V-6・7グリッドに位置し、平面形は円形で、長径1.10m、短径1.09m、深さ0.23mである。

第22号土壙 (第466図)

S-6グリッドに位置する。西側の一部が調査区域外となっている。平面形は楕円形で、残存する長径1.58m、短径1.57m、深さ1.15mである。

第27号土壙 (第466・468図、第17表)

T-2・3グリッドに位置し、平面形は楕円形で長径4.90m、短径2.66m、深さ1.00mである。

第468図1～12は検出された遺物で、1～8は18・19世紀の肥前や瀬戸・美濃産の陶磁器類である。9・10は焙烙、11・12は砥石である。

第28号土壙 (第466図)

V-5グリッドに位置する。北西側の一部が調査区域外となっている。平面形は楕円形で残存する長径2.37m、短径2.46m、深さ0.46mである。

第70号土壙 (第467・468図、第19表)

T-7グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長径2.42m、短径1.59m、深さ0.65mである。

第468図13～26は検出された遺物である。13～17、19・20は18・19世紀の瀬戸・美濃産の陶磁器類である。18は土製の鉢で、21は火鉢の底部の破片である。22～25は刀子などの鉄製品で、26は砥石である。

第71号土壙 (第466図)

T-6グリッドに位置する。第3号溝跡と重複する。平面形は不明で、長径0.56m、残存する短径0.36m、深さ0.11mである。

第86号土壙 (第466図)

P・Q-6グリッドに位置する。平面形は不整形で、長径2.80m、短径1.20m、深さ0.57mである。

第102号土壙 (第467図)

F-6グリッドに位置する。平面形は細長い楕円形で、長径2.20m、短径0.49m、深さ0.17mである。

第103号土壙 (第467図)

F-6グリッドに位置する。平面形は長方形で、長径2.17m、短径0.58m、深さ0.08mである。

第104号土壙 (第467図)

F-7グリッドに位置する。第105号土壙と重複する。平面形は楕円形で、長径1.26m、短径1.01m、深さ0.06mである。

第105号土壙 (第467図)

F-7グリッドに位置する。第104号土壙と重複する。平面形は長方形で、長径1.04m、短径0.72m、深さ0.01mである。

第170号土壙 (第467図)

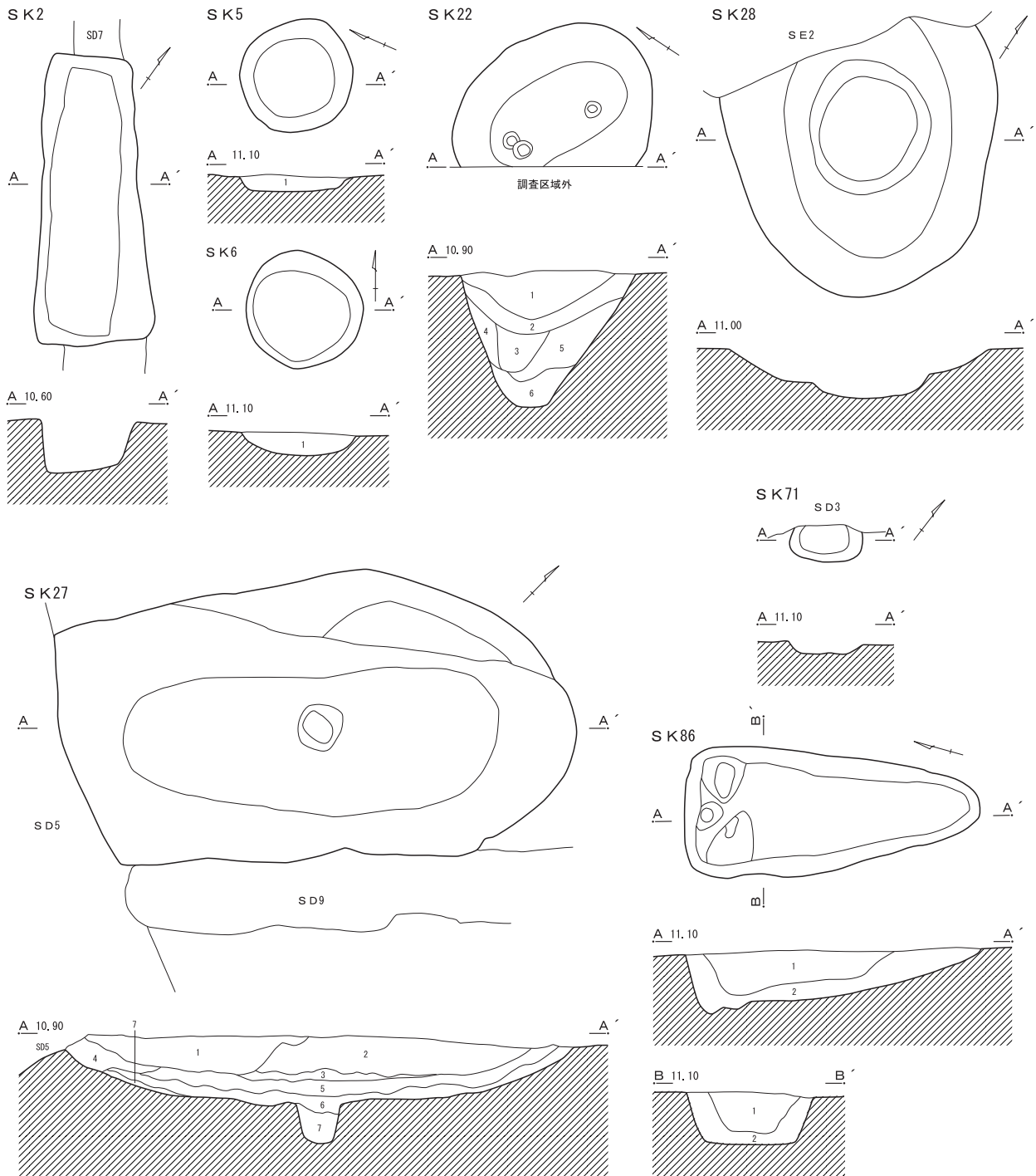
L-8グリッドに位置する。第27号溝跡と重複する。平面形は不整形で、長径1.64m、短径1.55m、深さ0.41mである。

第220号土壙 (第467図)

I-7グリッドに位置する。第27号溝跡と重複する。平面形は不整形で、長径1.83m、短径1.23m、深さ1.03mである。

第450号土壙 (第467図)

J-6・7グリッドに位置する。第27号溝跡と重複する。平面形は楕円形で、長径1.27m、短径1.03m、深さ0.24mである。



SK5
1 黒褐色土 ロームブロック少量 炭化物多量

SK6
1 黒褐色土 ロームブロック少量 炭化物多量

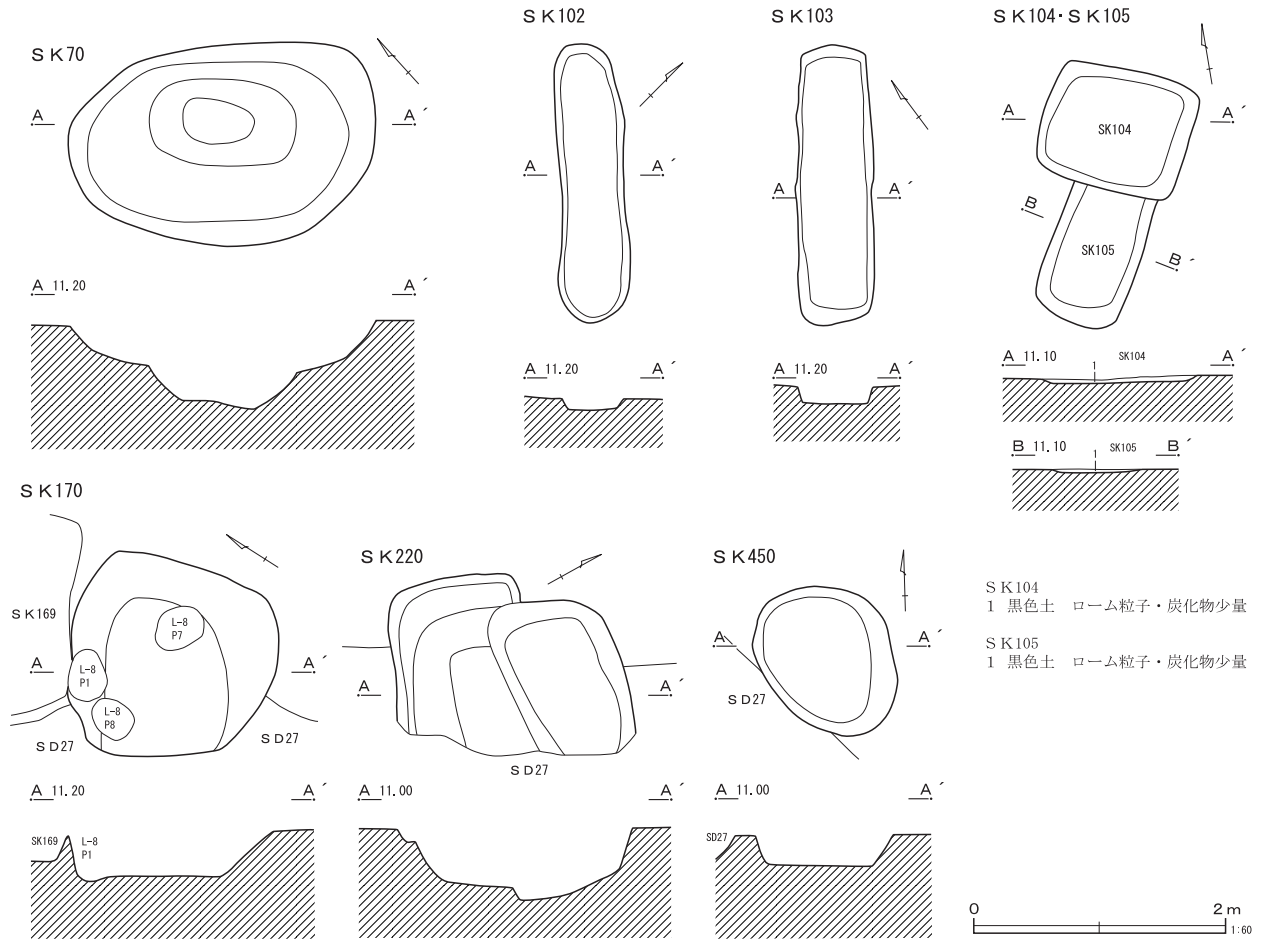
SK22
1 黒褐色土 白色微粒子微量 暗褐色土ブロック少量 炭化物微量
2 暗褐色土 暗灰色粘土粒子・暗褐色土ブロック多量
3 暗褐色土 ローム小ブロック少量 暗灰色粘土粒子多量
4 暗黄褐色土 ローム粒子少量 暗灰色粘土粒子多量
5 暗黄褐色土 ロームブロック多量
6 黒褐色土 ロームブロック少量 しまり弱い 第2黒色帯をブロック状に含む

SK27
1 暗灰色土 浅間A火山灰・炭化物多量 焼土粒子少量
2 明灰色土 シルト質 鉄分沈着
3 明灰色土 鉄分帯状堆積
4 暗灰褐色土 浅間A火山灰・ロームブロック少量
5 暗灰褐色土 暗灰色粘土主体 ロームブロック多量 炭化物少量
6 暗褐色土 暗褐色土・暗灰色粘土・ロームブロックの混土
7 暗褐色土 ロームブロック主体 暗褐色土微量 しまり弱い

SK86
1 黒色土 ローム粒子少量
2 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量



第466図 土壌 (1)

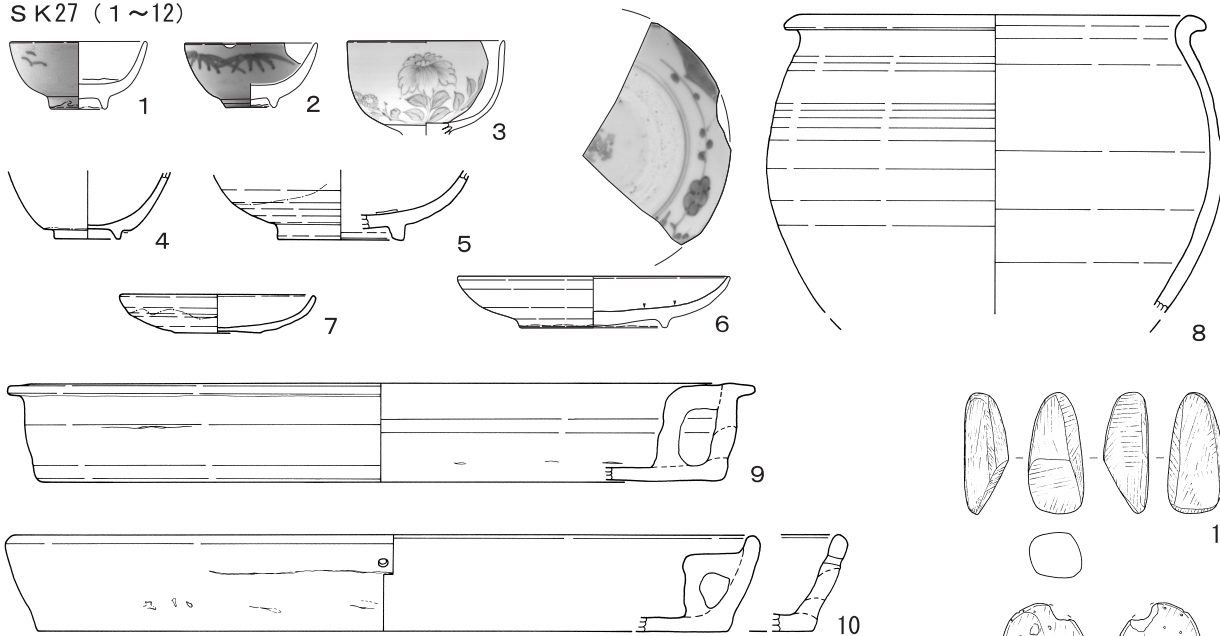


第467図 土壌 (2)

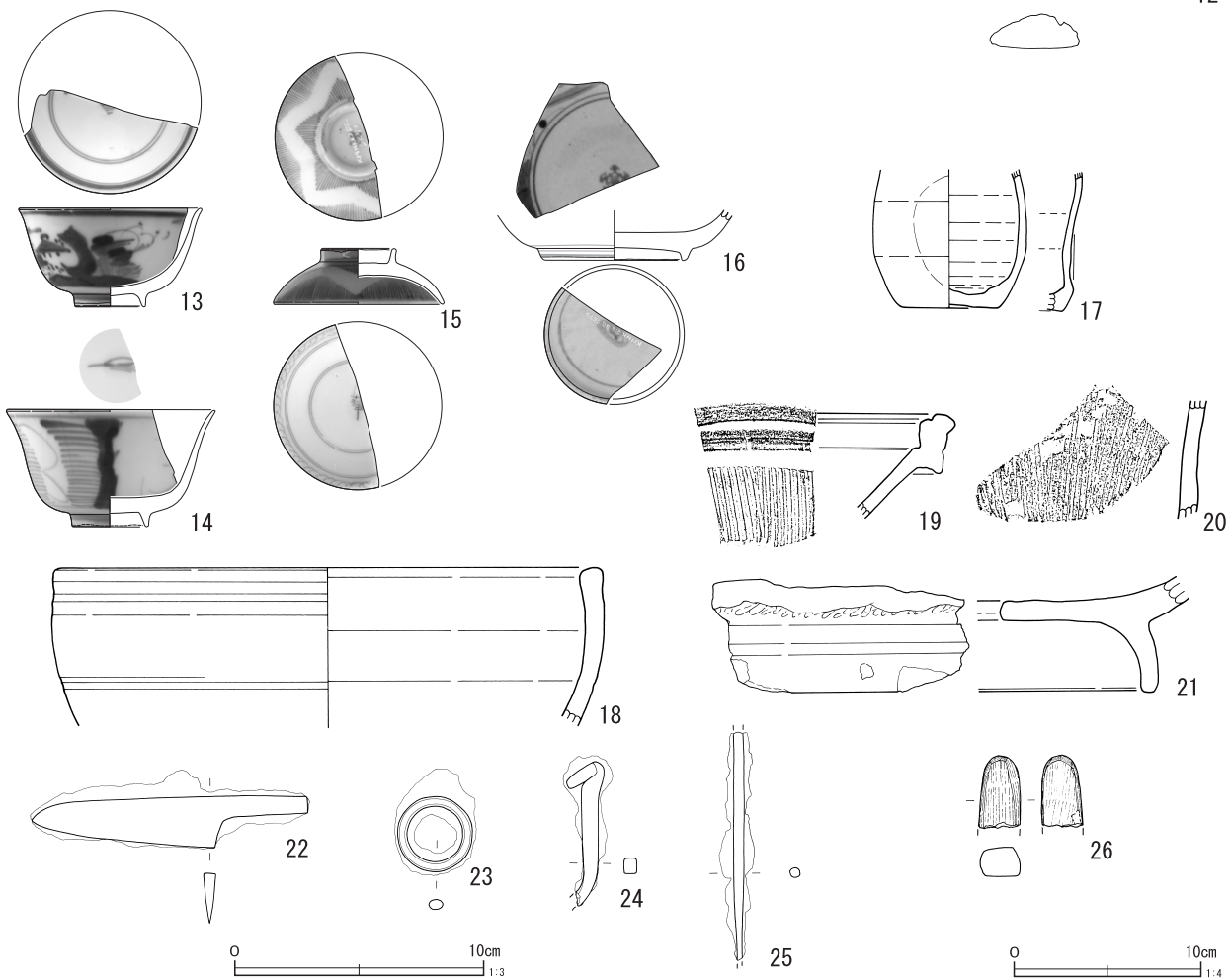
第18表 第27号土壌出土物観察表

図版	番号	種別	器種	産地	残存率	口径	底径	器高	釉薬装飾	成型技法	器種・器形の特徴	文様	備考
468	1	磁器	小坏	肥前	55%	7.4	2.8	3.6	灰釉	轆轤	削り出し高台	外面：笹又は鳥	畳付：砂粒付着
468	2	磁器	小坏	肥前	50%	[6.9]	2.6	3.4	灰釉	轆轤	削り出し高台	外面：笹文	畳付：砂粒付着
468	3	磁器	碗	肥前	50%	[8.2]	—	(5.0)	透明釉	轆轤		外面：草花文	
468	4	陶器	碗	瀬戸・美濃	30%	—	(3.4)	3.5	灰釉	轆轤	削り出し高台		
468	5	陶器	碗	瀬戸・美濃	15%	—	(6.6)	[3.6]	灰釉 (銅緑釉流し)	轆轤	付高台		見込み：円錐ピン跡 (2ヶ所)
468	6	磁器	皿	肥前	30%	(14.4)	—	(2.7)	灰釉	轆轤	削り出し高台	内面：草花文 見込み：蛇の目釉剥ぎ 五弁花文	高台：砂粒付着
468	7	陶器	灯明皿	瀬戸・美濃	40%	(10.0)	4.6	1.9	鉄釉	轆轤		見込み：輪トチ跡	
468	8	陶器	甕	瀬戸・美濃	15%	(20.5)	—	[15.6]	鉄釉 灰釉	轆轤			流し掛け
468	9	土器	焙烙		20%	(39.2)	(36.0)	[5.1]		輪積			外面：煤付着
468	10	土器	焙烙		5%	(39.0)	(36.4)	5.1		輪積			穿孔1ヶ所
468	11	石製品	砥石	長さ6.30 幅2.95 厚さ2.40 重さ46.5									
468	12	石製品	砥石	長さ6.50 幅4.80 厚さ1.85 重さ15.8									

S K 27 (1~12)



S K 70 (13~26)



第468図 土壙出土遺物

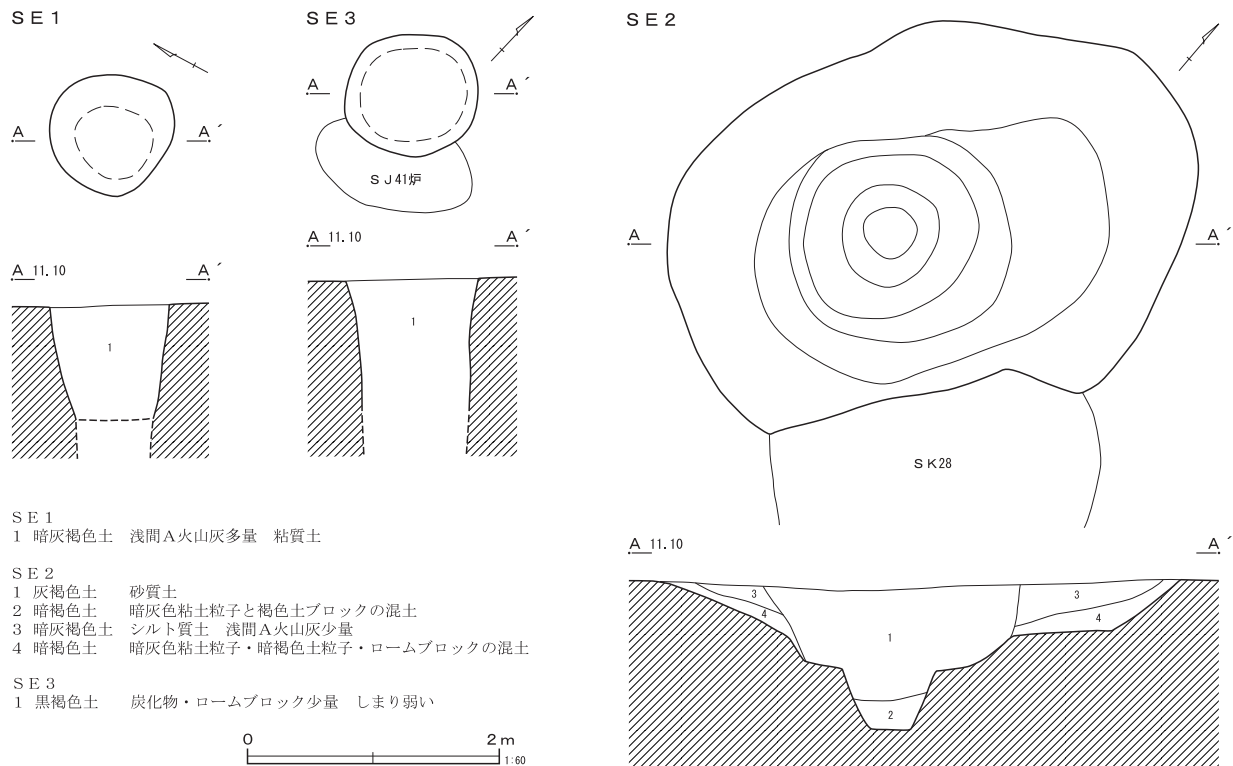
第19表 第70号土壌出土遺物観察表

図版	番号	種別	器種	産地	残存率	口径	底径	器高	釉薬装飾	成型技法	器種・器形の特徴	文様	備考
468	13	磁器	碗	瀬戸・美濃	40%	(9.7)	3.7	5.3	釉	轆轤	削り出し高台	外面：風景文/草花文 見込み：山水文か	
468	14	磁器	碗	瀬戸・美濃	40%	(11.3)	4.0	6.3	灰釉	轆轤	削り出し高台	外面：文様 見込み：銘	畳付：砂粒付着
468	15	磁器	碗蓋	砥部	50%	(9.2)	(4.0)	3.1	透明釉	轆轤	削り出し摘み	外面：摘み内角「福」 内面：天井「寿」か	
468	16	磁器	皿	肥前	20%	—	(7.4)	[2.7]	灰釉	轆轤	削り出し高台	内面：草花文 見込み：五弁花文 高台内：渦「福」	見込み蛇の目 釉は剥ぎ
468	17	陶器	徳利	瀬戸・美濃	50%	—	5.2	(7.5)	鉄釉	轆轤	胴：押圧 胴～底：窯道具跡		ペコカン
468	18	土器	鉢		5%	(28.5)	—	[8.5]		輪積			
468	19	陶器	播鉢	堺	5%	—	—	—	鉄釉	轆轤	卸目8本/条		卸目の摩減少
468	20	陶器	播鉢	丹波か	5%	—	—	—	焼締め	輪積	卸目9本/条		
468	21	陶器	火鉢		10%	—	—	[6.0]		輪積			養蚕火鉢か
468	22	鉄器	刀子	長さ11.0 幅2.0 厚さ0.5 刃長7.3 重さ38.4									
468	23	鉄製品	環状鉄製品	長さ3.0 幅3.0 厚さ0.5 重さ14.5									
468	24	鉄製品	釘	長さ[5.7] 幅0.6 厚さ0.5 重さ12.2									
468	25	鉄製品	棒状品	長さ[9.1] 径0.4最大 重さ7.8									
468	26	石製品	砥石	長さ3.85 幅2.25 厚さ1.65 重さ20.7									

(2) 井戸跡

3基が検出された。第1・2号井戸跡の埋土には、18世紀後葉以降に降灰した浅間A火山灰が混入し

ており、江戸時代後期に井戸として使用されていたと考えられる。第3号井戸跡もその前後に使用されたと考えられる。



第469図 井戸跡

第1号井戸跡 (第469図)

T-2・3グリッドに位置する。平面形はほぼ円形で、長径1.00m、短径0.97mである。短期間に埋め戻されたものである。

第2号井戸跡 (第469図)

O-6グリッドに位置する。縄文時代の第41号住居跡の炉跡を壊して掘り込まれている。平面形はほぼ円形で、長径1.08m、短径0.98mである。短期間に埋め戻されたものである。底面は検出することができなかった。

第3号井戸跡 (第469図)

V-5グリッドに位置する。浅く楕円形に掘り込み、その内側に丸くやや深く掘りこまれている。井戸の掘削途中で、埋め戻された可能性が考えられる。長径4.26m、短径2.96mで、深さは浅い上

段で0.43m、中央部の中段で0.70m、下段で1.16mであった。

(3) 溝跡 (第470～481図)

溝跡は42条が検出された。そのほとんどが区画溝として機能していたと考えられる。

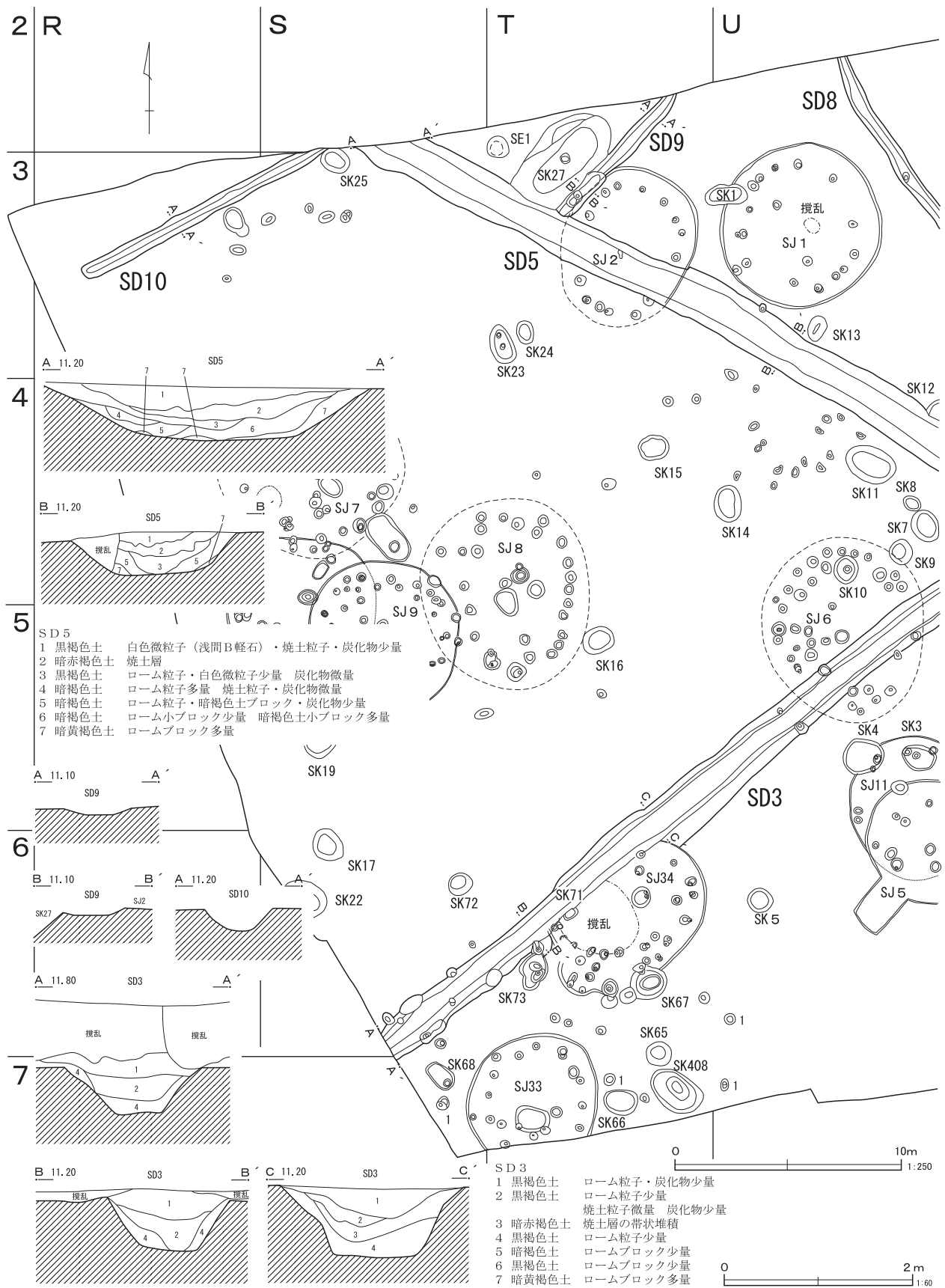
遺物は第27号溝跡から、18～19世紀の陶磁器が多量に検出されている。それ以前の年代の遺物は他の溝跡からも検出されておらず、溝跡のほとんどが江戸時代後葉以降に使用されたと考えられる。また覆土からは第3～5、11・14号溝跡が中世にさかのぼる可能性が考えられる。

それぞれの溝跡や出土遺物については、遺物観察表(第20・21表)と溝跡一覧表(第22表)に記した。

第20表 溝跡出土遺物観察表

図版	番号	溝番号	種別	器種	産地	残存率	口径	底径	器高	釉薬装飾	成型技法	器種・器形の特徴	文様	備考
476	1	15	土器	かわらけ		95%	8.8	5.5	2.1		轆轤		底：糸切未調整	灯明皿に転用
476	2	27	磁器	碗	瀬戸・美濃	100%	10.3	3.7	5.5	灰釉	轆轤	削り出し高台	内外面：文様に銘 見込み	
476	3	27	磁器	碗	瀬戸・美濃	55%	10.4	3.9	5.6	灰釉	轆轤	削り出し高台	内外面：文様に銘 見込み	
476	4	27	磁器	蓋物	肥前か	20%	(10.8)	(5.5)	6.3	灰釉	轆轤	削り出し高台	外面：草花文	口唇部～口縁部 内面：釉なし (ロハゲ)
476	5	27	磁器	碗	肥前	70%	(13.8)	5.0	7.2	灰釉	轆轤	削り出し高台	外面：雪輪梅樹文 高台内：渦「福」 見込み：五弁花文	くらわんか碗 高台：砂粒付着
476	6	27	磁器	碗	肥前	65%	(9.9)	3.8	5.0	灰釉	轆轤	削り出し高台	外面：草花文 高台内：銘	くらわんか碗
476	7	27	磁器	碗	肥前	50%	—	3.8	(4.0)	灰釉	轆轤	削り出し高台	外面：草花文 高台内：銘	くらわんか碗 焼成不良
476	8	27	磁器	碗	肥前	40%	(9.8)	—	(4.8)	灰釉	轆轤	削り出し高台	外面：梅樹文	
476	9	27	磁器	碗	肥前	55%	(7.8)	(3.6)	4.3	灰釉	轆轤	削り出し高台	外面：草花文	轆轤目顕著
476	10	27	磁器	小坏	肥前	40%	(7.8)	3.0	3.5	灰釉	轆轤	削り出し高台	外面：竹文	高台に砂粒付着
476	11	27	磁器	小坏	肥前	70%	7.0	2.8	3.5	灰釉	轆轤	削り出し高台	外面：笹文	高台に砂粒付着
476	12	27	陶器	碗	京・信楽	50%	(8.8)	(3.2)	5.3	灰釉	轆轤	削り出し高台		見込み：ハマ跡 1ヶ所 貫入多
476	13	27	磁器	碗	肥前	40%	(10.1)	(4.0)	5.2	灰釉	轆轤	削り出し高台	外面：二重網目文	くらわんか碗
476	14	27	陶器	碗	瀬戸・美濃	20%	(9.9)	—	[4.5]	灰釉	轆轤			貫入多
476	15	27	陶器	碗	瀬戸・美濃	70%	—	5.2	(3.7)	鉄釉	轆轤	削り出し高台		天目茶碗か
476	16	27	陶器	碗	瀬戸・美濃	75%	9.8	4.1	5.1	灰釉 鉄釉	轆轤	削り出し高台		腰折碗 貫入多
476	17	27	陶器	碗	瀬戸・美濃	30%	(9.8)	(3.8)	5.1	灰釉	轆轤	削り出し高台		腰折碗 貫入多
476	18	27	磁器	小坏	肥前	60%	(7.1)	3.2	3.9	灰釉	轆轤	削り出し高台	外面：草文	高台：砂粒微量付着
476	19	27	磁器	小坏	肥前	25%	(8.0)	—	(3.7)	灰釉	轆轤	削り出し高台	外面：草文	
476	20	27	磁器	蓋	肥前	95%	9.6	5.6	2.4	灰釉	轆轤	削り出し	内外面：文様 摘み内：角「福」	
476	21	27	磁器	碗	瀬戸・美濃	70%	11.8	6.2	6.2	灰釉	轆轤	削り出し高台	内外面：文様	広東碗 内面： 縦ナデ痕

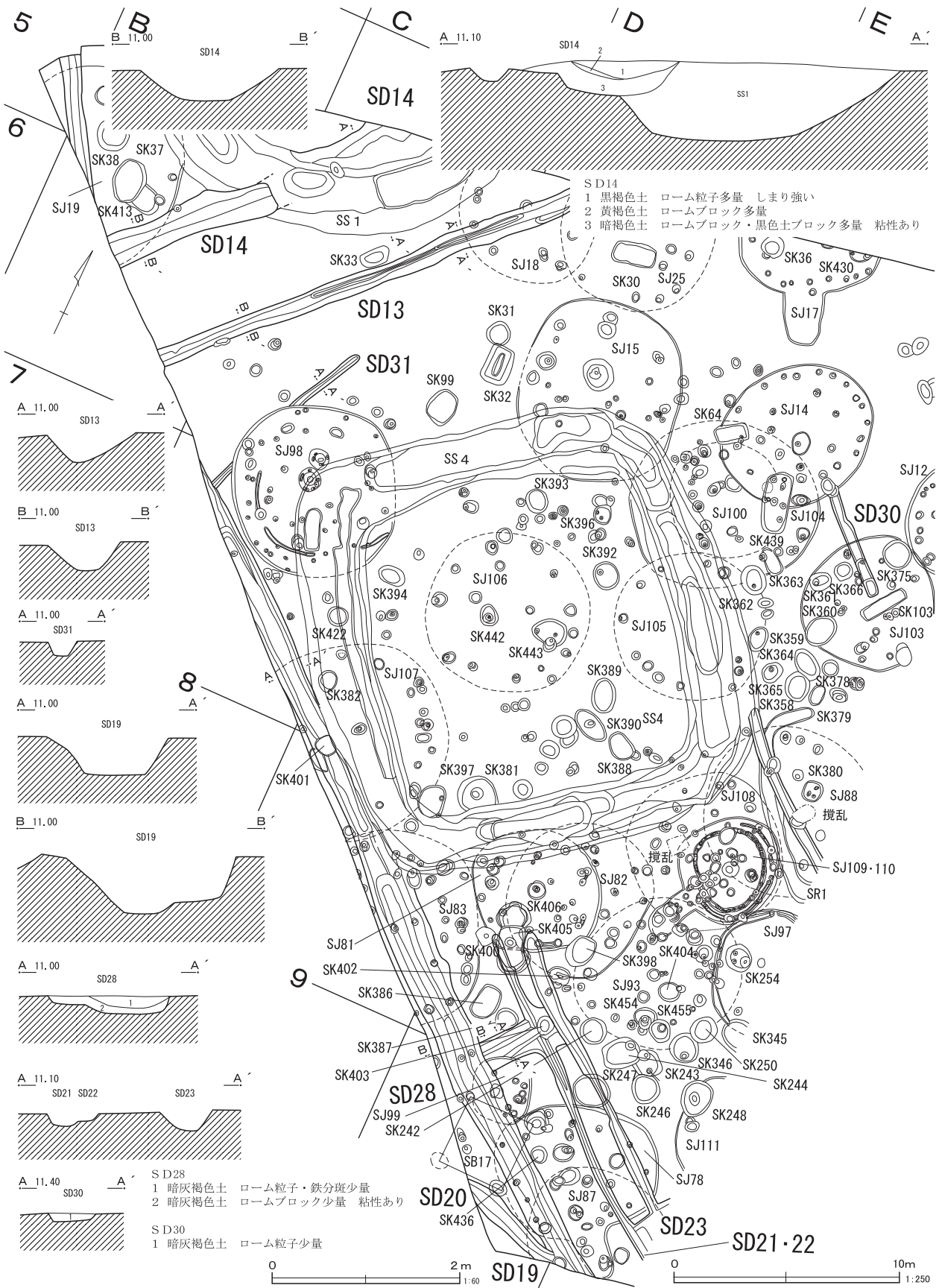
図版	番号	溝番号	種別	器種	産地	残存率	口径	底径	器高	釉葉装飾	成型技法	器種・器形の特徴	文様	備考
476	22	27	磁器	碗	肥前	30%	(11.6)	5.8	6.0	透明釉	轆轤	削り出し高台	外面：風景/東家	広東碗 見込み：ハマ跡（3ヶ所）
476	23	27	磁器	碗	肥前	85%	(6.4)	3.6	5.2	灰釉	轆轤	削り出し高台	外面：七宝繋ぎ文ほか 内面：斜格子文 見込み：五弁花文	筒形碗 高台：砂粒付着
476	24	27	磁器	碗	肥前	100%	6.3	3.5	5.0	灰釉	轆轤	削り出し高台	外面：文様 見込み：五弁花文	筒形碗 貫入多
476	25	27	陶器	香炉	瀬戸・美濃	40%	—	(10.4)	(3.4)	鉄釉	轆轤	三足		
476	26	27	陶器	鉢	瀬戸・美濃	20%	(16.5)	—	[7.2]	灰釉	轆轤 口縁：押圧			輪花 貫入多
476	27	27	陶器	皿	瀬戸・美濃	30%	(11.6)	(5.7)	2.6	灰釉	轆轤	付け高台		見込み：高台跡
476	28	27	磁器	皿	肥前	95%	11.8	4.3	4.1	灰釉	轆轤	削り出し高台	内面：斜格子文 見込み：蛇の目釉剥ぎ	見込み：高台跡
476	29	27	磁器	皿	肥前	50%	(13.2)	(7.2)	3.0	灰釉	轆轤	削り出し高台	外面：折枝文 内面：水/魚文 見込み：蛇の目釉剥ぎ 五弁花文	
476	30	27	磁器	皿	肥前	50%	(13.0)	(7.6)	3.6	灰釉	轆轤	削り出し高台	外面：折松葉文 内面：水文 見込み：蛇の目釉剥ぎ 五弁花文	
476	31	27	磁器	徳利	瀬戸・美濃	20%	—	[10.5]	—	灰釉	轆轤		外面：鉄絵	
476	32	27	陶器	鉢	肥前	10%	—	(12.0)	[7.0]	灰釉	轆轤	削り出し高台	鉄釉 白化粧土 内面：文様	三島手 陰刻目跡（1ヶ所）
476	33	27	陶器	鉢	肥前	5%	(38.6)	—	(6.8)	鉄釉	轆轤		白化粧土 内面：文様	三島手 陰刻
477	34	27	陶器	鉢	瀬戸・美濃	80%	(27.3)	12.3	8.1	鉄釉	轆轤	削り出し高台	内面：鉄絵（草文）	笠原鉢 流し掛け 内面・高台内：目跡
477	35	27	陶器	鉢	瀬戸・美濃	30%	—	(14.8)	(5.0)	灰釉	轆轤	削り出し高台		見込み：トチの釉の拭き取り跡2ヶ所
477	36	27	陶器	片口鉢	瀬戸・美濃	20%	(20.0)	—	(8.5)	灰釉	轆轤			
477	37	27	陶器	火容れ	瀬戸・美濃	35%	(9.6)	(6.0)	(7.8)	灰釉	轆轤			口唇部の釉の剥落 灰落兼用か割木瓜火入れ
477	38	27	陶器	搦鉢	備前	100%	40.1	16.9	16.0		輪積	卸目9本/条	見込み：環状痕	
477	39	27	陶器	搦鉢	丹波	5%	—	—	(4.0)	鉄釉 焼締め	輪積	卸目6本/条		
477	40	27	陶器	搦鉢	備前か	10%	—	—	(5.5)	焼締め	輪積	卸目不明		卸目の磨耗少
477	41	27	土器	かわらけ		70%	(8.7)	6.2	2.1		轆轤	底面：糸切り未調整		
477	42	27	土器	かわらけ		20%	(7.8)	(6.0)	2.0		轆轤	底面：糸切り未調整		
477	43	27	土器	かわらけ		70%	—	6.2	(1.1)		轆轤	底面：糸切り未調整		外面：タール付着
477	44	27	土器	かわらけ		70%	—	(6.2)	(1.2)		轆轤	底面：糸切り未調整		
477	45	27	土器	焙烙		20%	(24.8)	(20.0)	3.4		輪積			
477	46	27	土器	焙烙		10%	(34.7)	(30.6)	4.7		輪積		補修孔あり	
477	47	27	土器	焙烙		10%	(37.4)	(32.6)	5.0		輪積			
477	48	27	土器	焙烙		5%	—	—	(4.5)		輪積		補修孔あり	
477	49	27	土器	火鉢	在地系	5%	—	—	(6.5)		輪積			
478	50	27	土器	焙烙		35%	(38.6)	(35.0)	4.6		輪積		底部：補修孔あり	
478	51	27	土器	火鉢	在地か	5%	—	—	[4.7]	焼締め	板作			内外面：タール付着
478	52	27	土器	不明		20%	(11.8)	—	(9.8)					
478	53	27	陶器	甕		5%	—	—	[5.2]	焼締め	輪積			
478	54	27	瓦	軒棧瓦		5%	瓦当厚：4.3							
478	55	27	石製品	石臼	長さ [14.00] 幅 [18.85] 厚さ7.50 重さ1694.4									
478	56	27	石製品	硯	95%	縦13.7 幅6.4 厚さ2.2								陸中央に使用痕
478	57	27	石製品	砥石	長さ [4.00] 幅1.90 厚さ1.55 重さ15.0									
478	58	27	石製品	砥石	長さ6.90 幅3.10 厚さ1.90 重さ53.0									
478	59	27	石製品	砥石	長さ6.25 幅 [4.35] 厚さ2.50 重さ34.4									



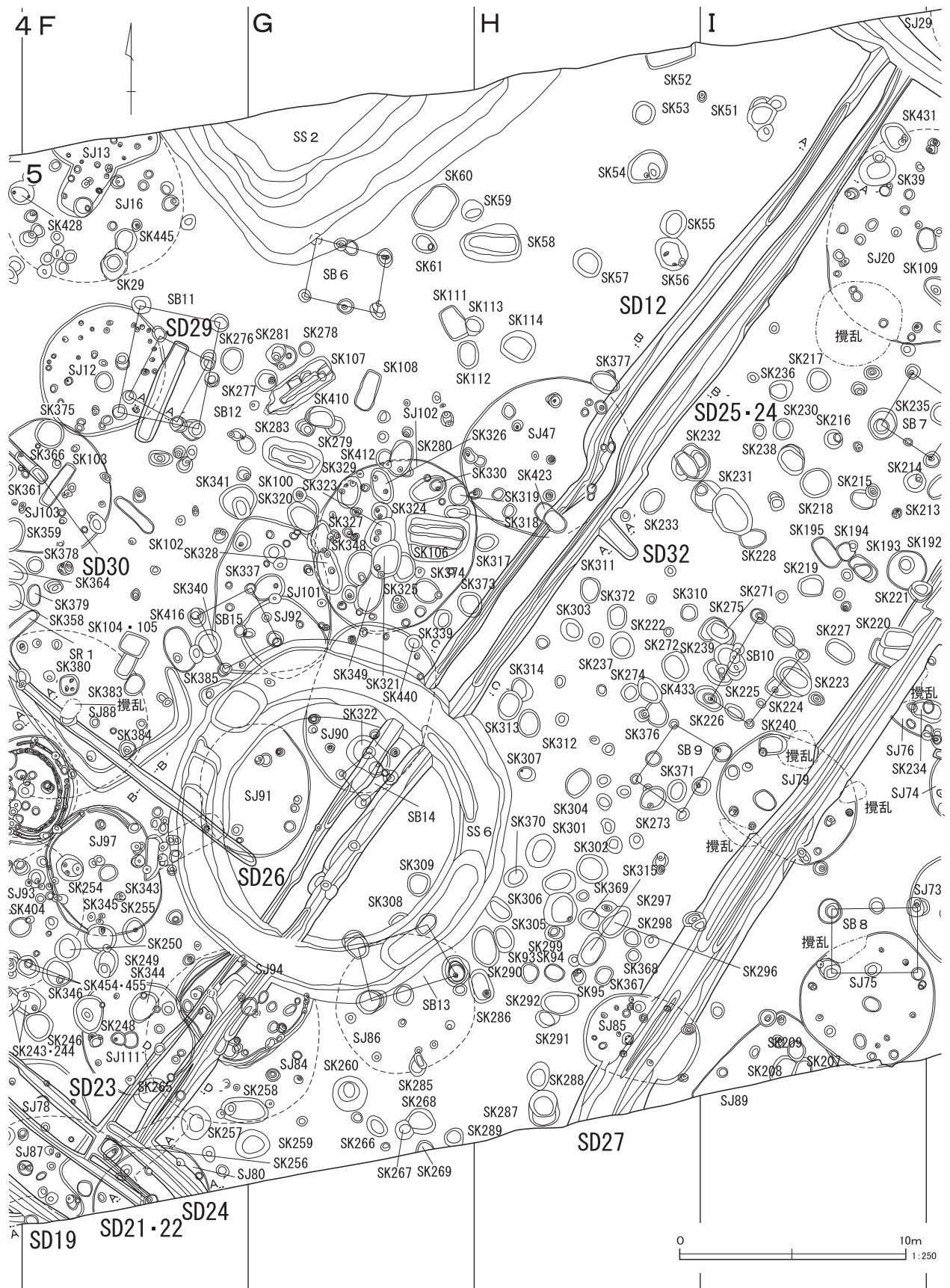
第470図 溝跡 (1)



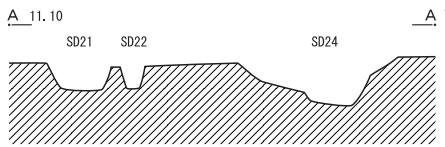
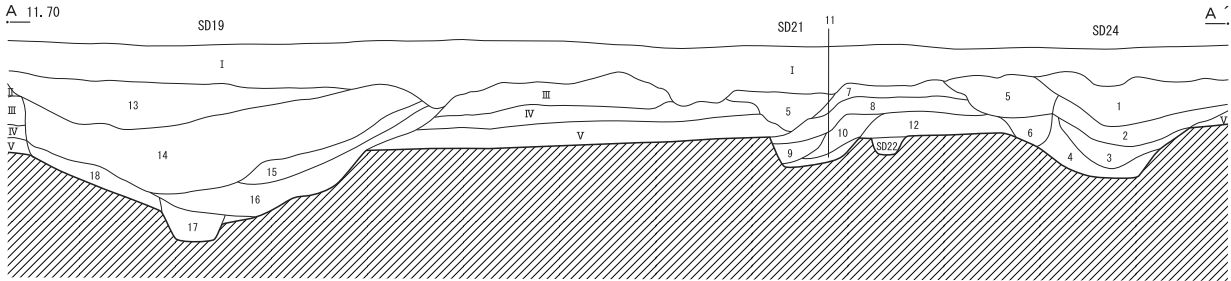
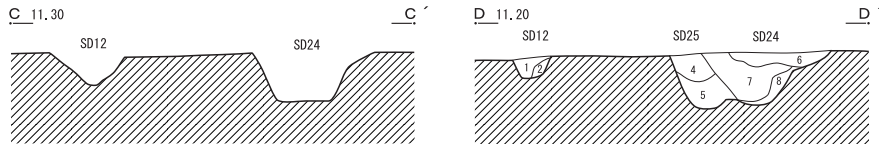
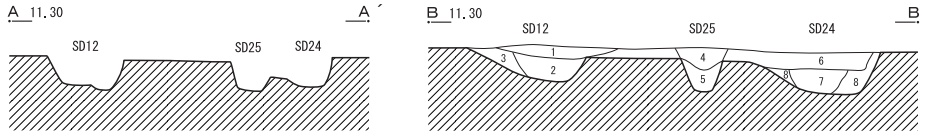
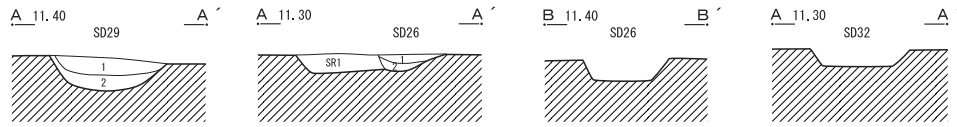
第471図 溝跡 (2)



第472図 溝跡 (3)



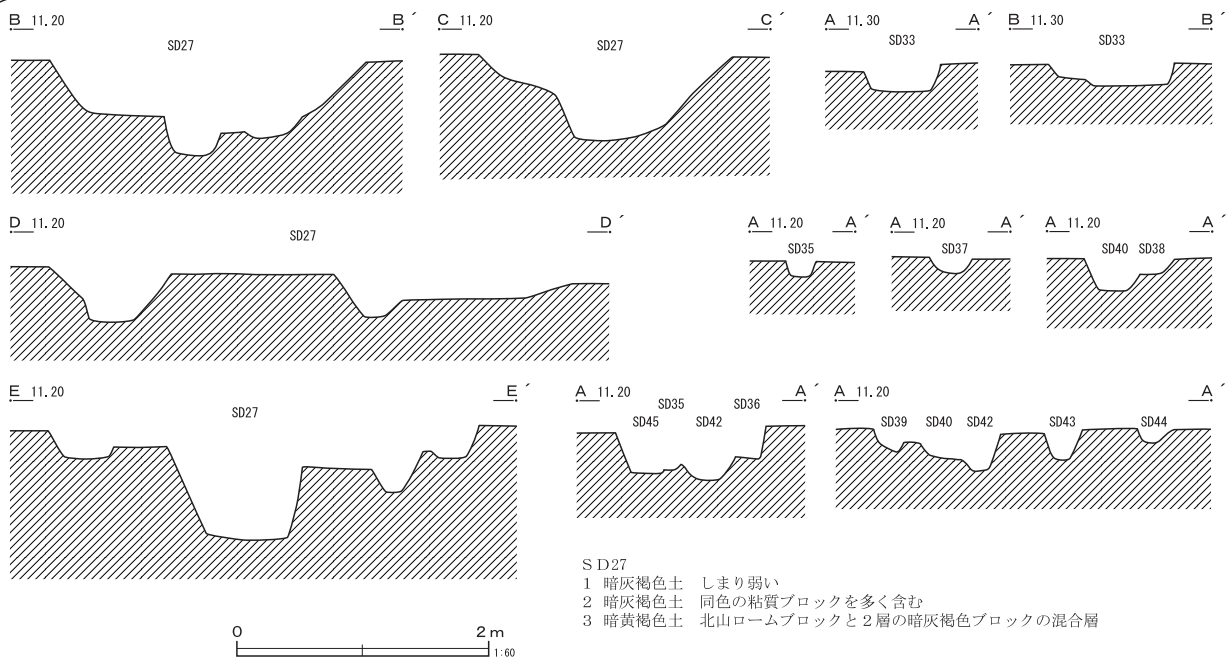
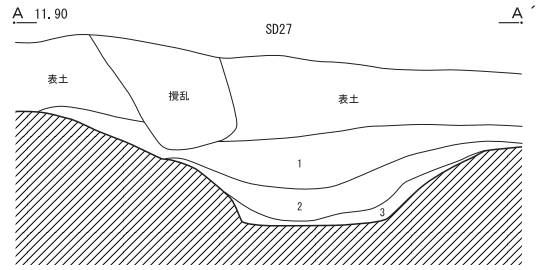
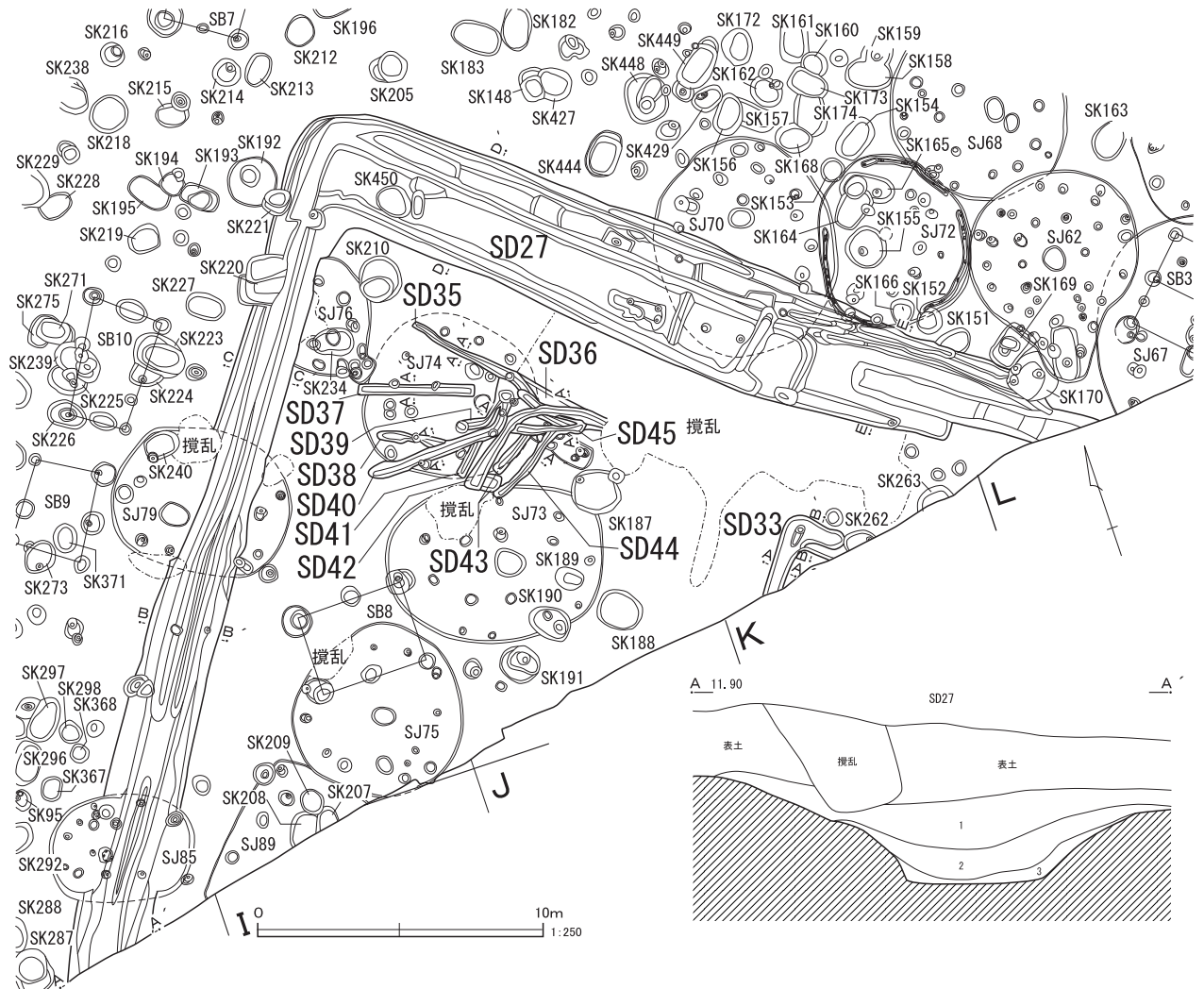
第473図 溝跡 (4)



- | | |
|--|---|
| <p>SD26</p> <p>1 暗灰褐色土 しまり弱い 砂質</p> <p>2 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック多量</p> <p>SD19・20・21・24</p> <p>I 灰褐色土 浅間A火山灰多量 近現代耕作土</p> <p>II 暗灰褐色土 ローム小ブロック少量</p> <p>III 暗灰褐色土 暗灰色粘土粒子主体に灰色粘土粒子を帯状に含む</p> <p>IV 黒褐色土 古墳時代以降の包含層</p> <p>V 暗褐色土 縄文時代以降の包含層</p> <p>1 暗灰褐色土 ローム粒子・炭化物少量 浅間A火山灰微量 SD24覆土</p> <p>2 暗灰褐色土 ローム粒子微量 暗灰褐色粘土ブロック・炭化物少量 SD24覆土</p> <p>3 暗灰褐色土 暗褐色土ブロック・土ブロックの混土 SD24覆土</p> <p>4 暗灰褐色土 暗灰褐色粘土ブロック・ロームブロックの混土 SD24覆土</p> <p>5 暗灰褐色土 ローム粒子少量 炭化物微量 SD21・24覆土</p> <p>6 暗灰褐色土 ローム粒子少量 暗灰色粘土ブロック多量 SD21・24覆土</p> <p>7 暗灰褐色土 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化物少量 しまり強い 道路構築土</p> <p>8 暗灰褐色土 暗灰色粘土粒子・ロームブロックの混土 しまり強い 道路構築土</p> <p>9 暗灰褐色土 暗灰褐色粘土粒子多量 炭化物微量 SD21覆土</p> <p>10 暗灰褐色土 焼土粒子微量 炭化物少量 SD21覆土</p> <p>11 暗灰褐色土 ロームブロック・暗灰色粘土粒子の混土 SD21覆土</p> <p>12 暗灰褐色土 褐色土粒子少量 暗灰色粘土粒子多量 しまり強い 道路構築土</p> <p>13 暗灰褐色土 褐色土粒子少量 暗灰褐色粘土ブロック多量 SD19・20覆土</p> <p>14 灰褐色土 灰褐色粘土ブロック主体に暗褐色ブロック少量 SD19・20覆土</p> <p>15 暗褐色土 ロームブロック・暗灰色粘土ブロック・黒褐色土ブロックの混土 SD19・20覆土</p> <p>16 暗褐色土 暗灰褐色粘土ブロック・黒褐色土ブロックの混土 SD19・20覆土</p> <p>17 黄褐色土 ロームブロック主体に暗灰褐色粘土ブロック少量 SD19・20覆土</p> <p>18 暗黄褐色土 ロームブロック・暗褐色土ブロックの混土</p> | <p>SD12</p> <p>1 暗灰褐色土 ローム粒子・暗灰褐色粘土粒子・炭化物少量</p> <p>2 暗褐色土 暗褐色土粒子・暗灰色粘土粒子の混土</p> <p>3 暗黄褐色土 ロームブロック・暗灰色粘土粒子の混土</p> <p>SD25</p> <p>4 暗灰褐色土 暗灰色粘土粒子・暗褐色土ブロックの混土</p> <p>5 暗褐色土 暗灰褐色粘土粒子主体に暗褐色土粒子少量</p> <p>SD24</p> <p>6 暗灰褐色土 ロームブロック・暗褐色土粒子・暗灰褐色粘土粒子の混土</p> <p>7 暗褐色土 暗褐色土粒子主体に暗灰色粘土粒子少量</p> <p>8 黄褐色土 ロームブロック主体に暗灰色粘土粒子少量</p> |
|--|---|



第474図 溝跡 (5)

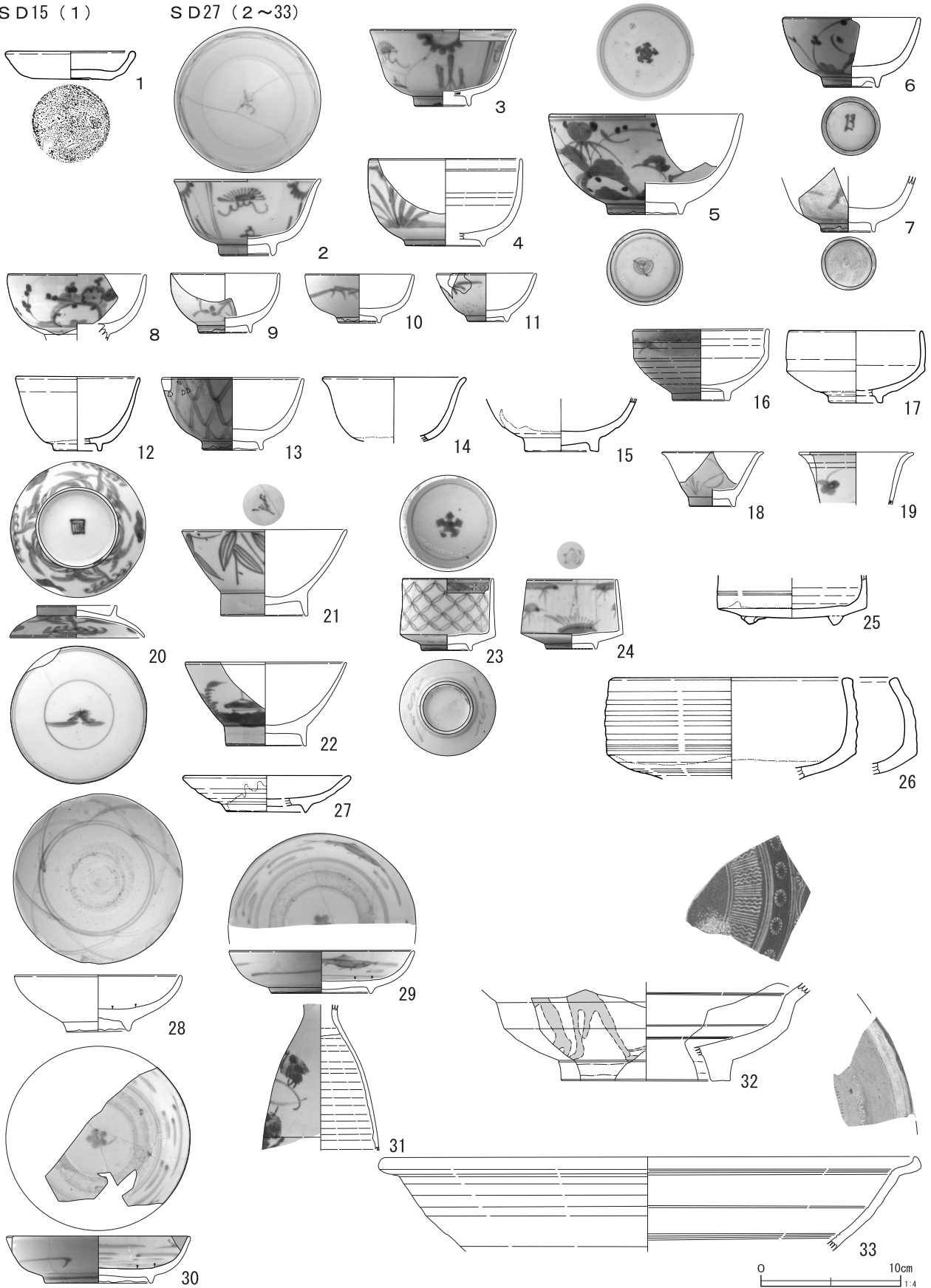


SD27
 1 暗灰褐色土 しまり弱い
 2 暗灰褐色土 同色の粘質ブロックを多く含む
 3 暗黄褐色土 北山ロームブロックと2層の暗灰褐色ブロックの混合層

第475図 溝跡(6)

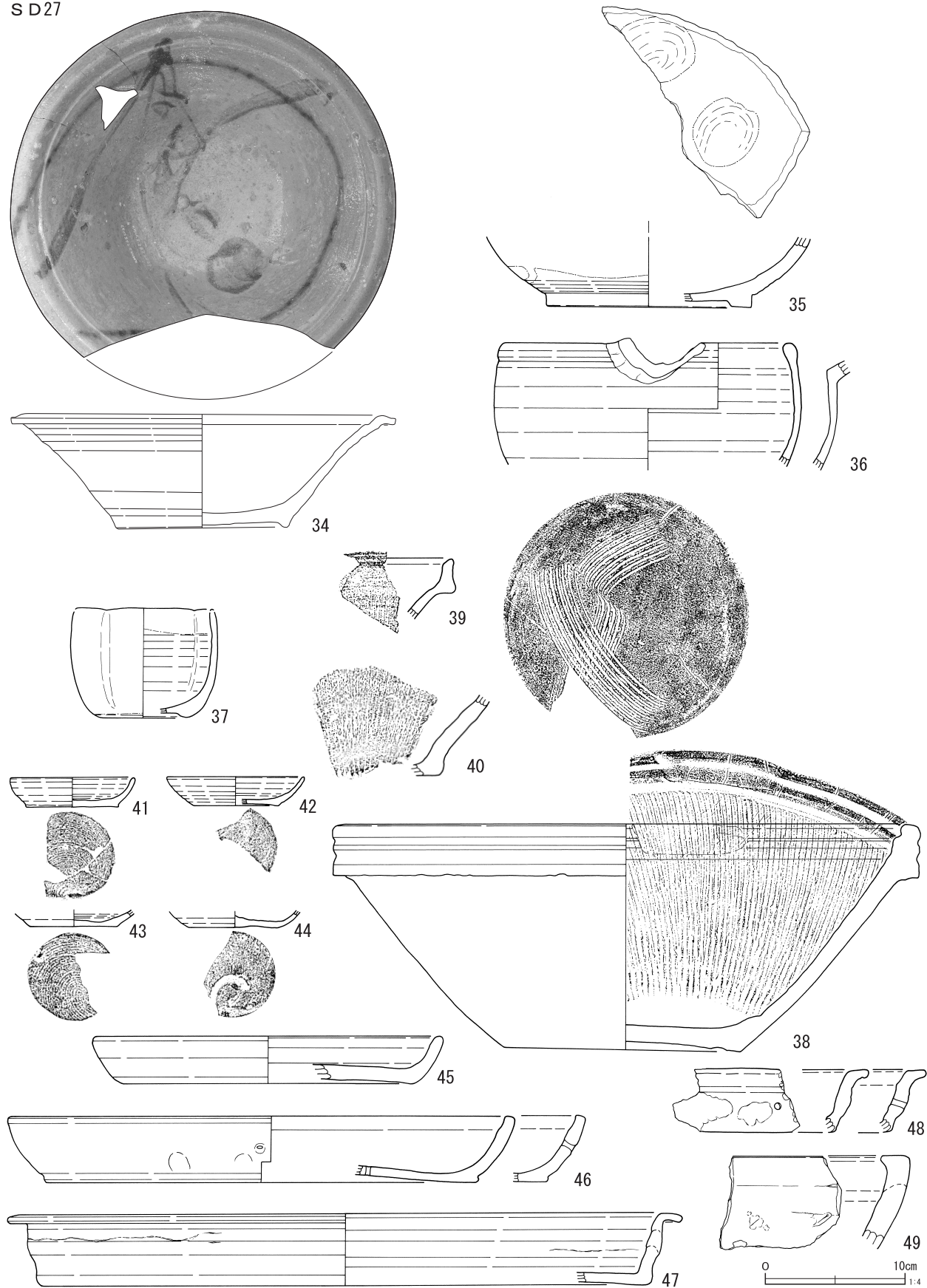
SD15 (1)

SD27 (2~33)



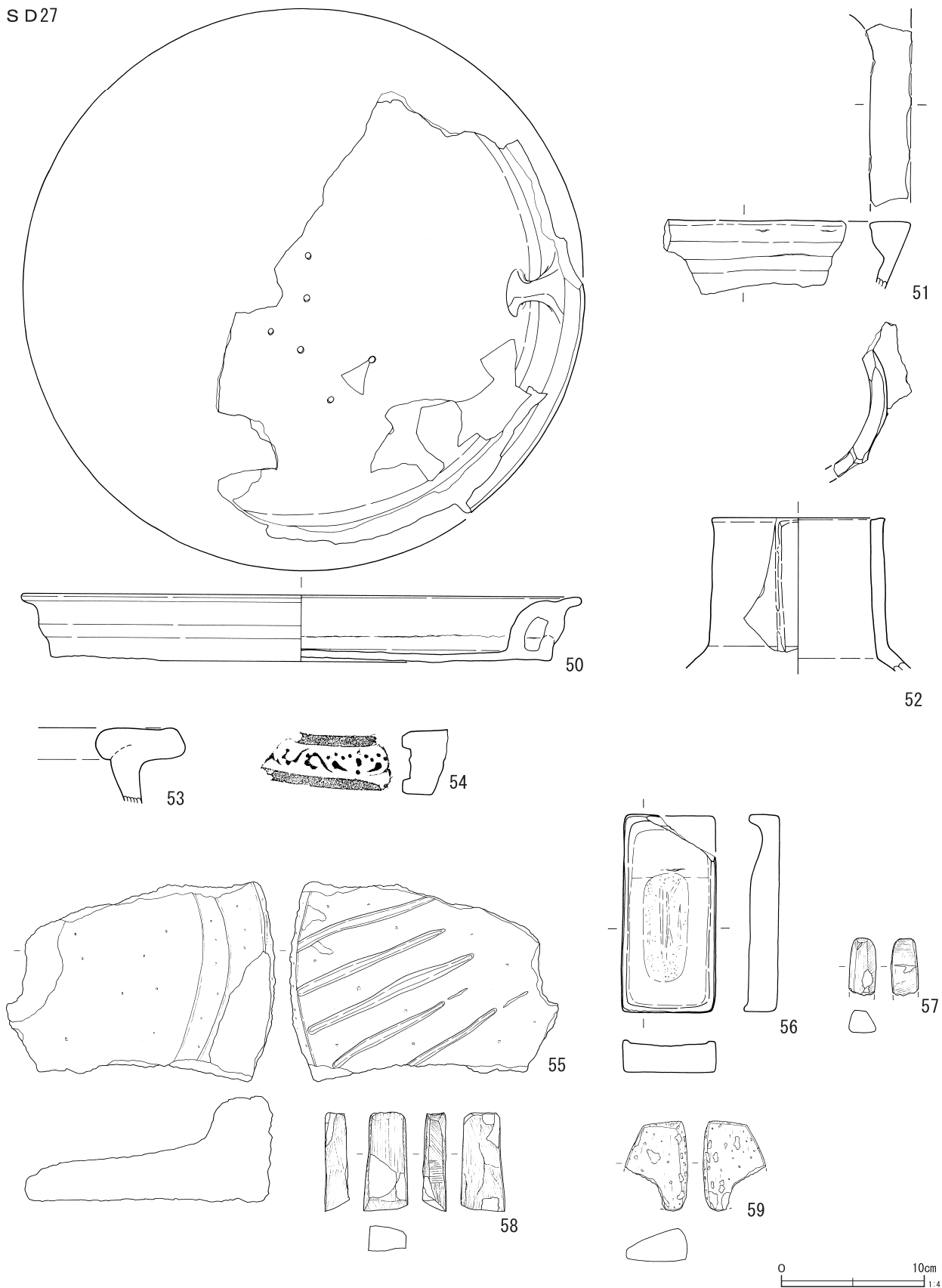
第476图 溝跡出土遺物 (1)

S D27

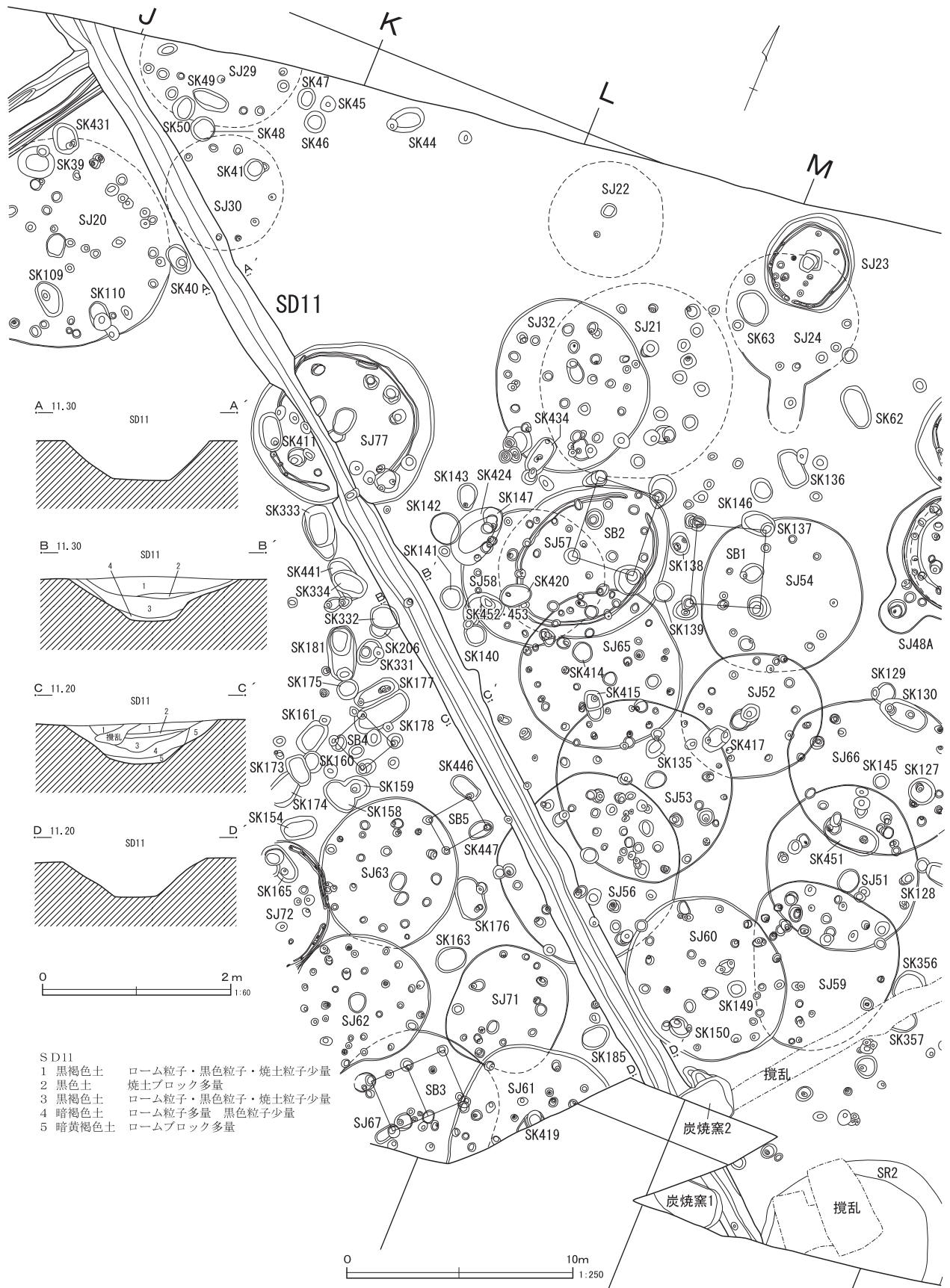


第477图 溝跡出土遺物(2)

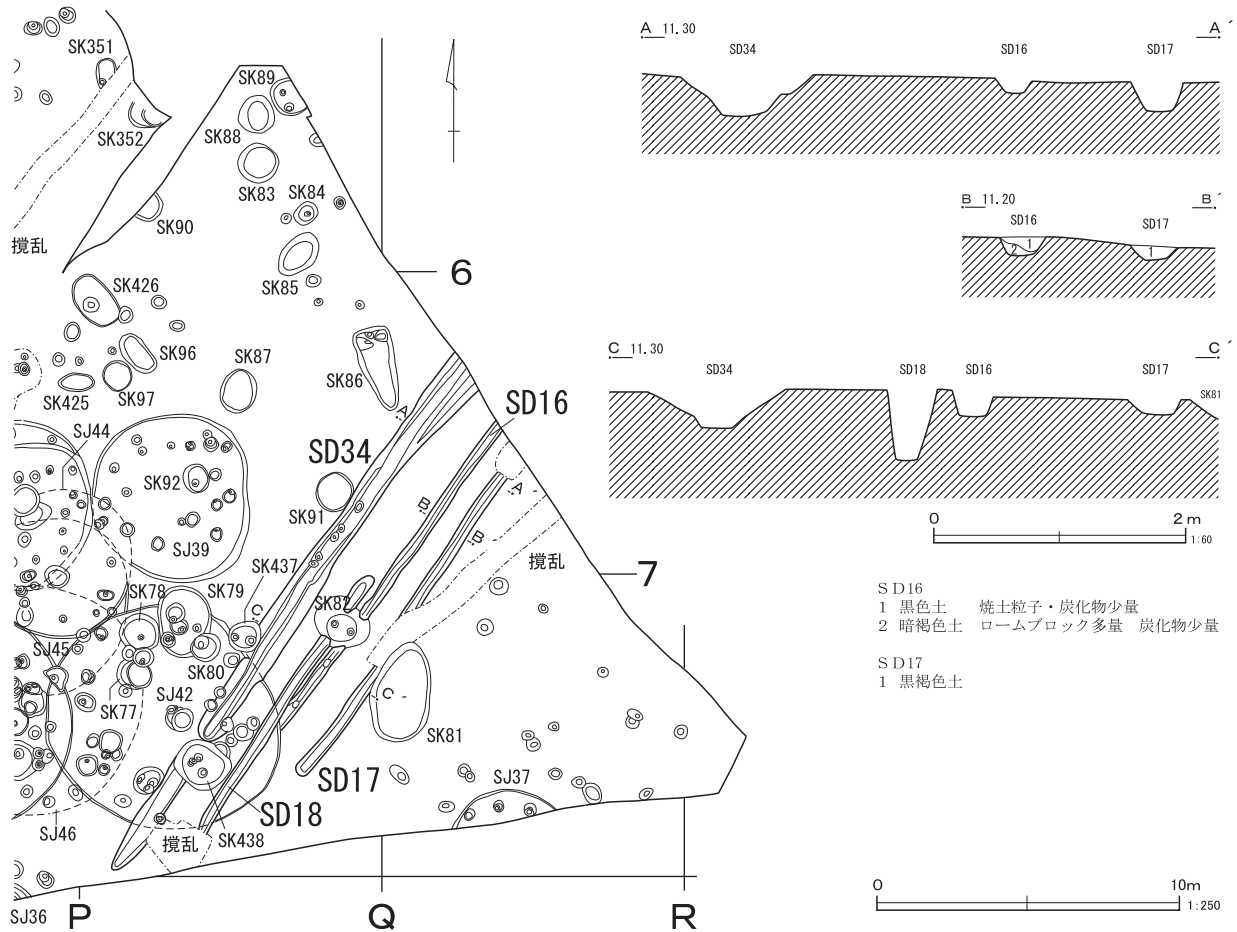
SD27



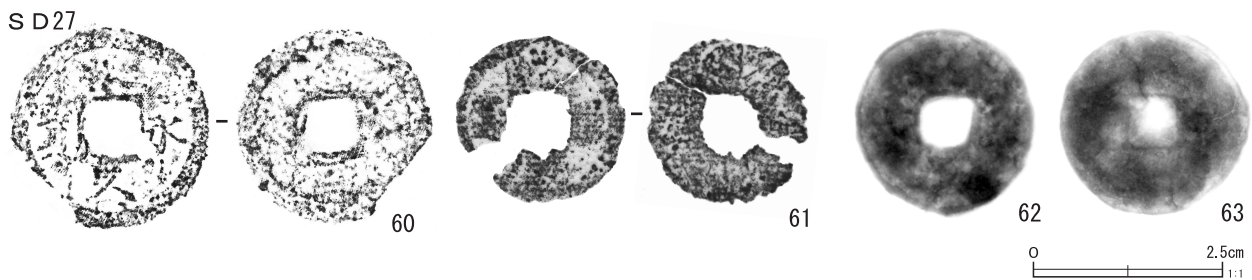
第478图 沟迹出土遗物(3)



第479図 溝跡(7)



第480図 溝跡 (8)



第481図 溝跡出土遺物 (4)

第21表 溝跡出土古銭観察表

図版	番号	溝番号	貨銭名	国・王朝	初鑄年	背面	銭径 (mm)		銭厚 (mm)	重量 (g)	書体	備考
							タテ	ヨコ				
481	60	27	文久永寶	江戸	1863	波	26.47	26.85	0.86	2.4		
481	61	27	寛永通寶	江戸			22.40	22.72	0.74	1.1		
481	62	27	鉄銭				25.26	25.38	3.98	4.4		錆が著しい
481	63	27	鉄銭				25.48	26.07	4.39	5.0		錆が著しい

第22表 溝跡一覽表

番号	位置	方位	方位	長さ (m)	幅 (m)		深さ (m)		重複
					最大	最小	最大	最小	
SD1	欠番								
SD2	欠番								
SD3	T-5・6 U~W-4・5 S-6 X-5・6 Y-6	N-52°-E	N-48°-W	72	2.24	1.34	0.98	0.56	SD4
SD4	W-2・3・4 V-4 X-2・3	N-40°-E		31.34	2.15	1.67	1.00	0.62	SD3・6・7・8
SD5	S-2・3 T-3 U-3・4 V-4	N-65°-E		29.94	2.04	1.43	0.51	0.38	SD9
SD6	V-2 W-2・3	N-36°-W		13.46	1.29	0.55	0.51	0.31	SD4
SD7	V-2・3 W-3	N-37°-W		16.9	0.74	0.39	0.20	0.12	SD4
SD8	U-2・3 V-3・4	N-46°-W		21.24	0.72	0.31	0.22	0.14	SD4
SD9	T-2・3	N-45°-E		7.12	0.77	0.61	0.16	0.06	SJ2 SD5
SD10	R-3 S-2・3	N-62°-E		11.94	0.81	0.56	0.28	0.15	
SD11	I-4 J-4・5 K-5・6 L・M-6・7 N-7・8	N-50°-W		61	1.95	1.18	0.55	0.26	SD12・24・25
SD12	F-8・9 G-7・8 H-5・6・7 I-4・5	N-37°-E		60.6	1.00	0.30	0.31	0.14	SD11・21~25
SD13	B-6 C-5・6 D-5	N-44°-E		20.7	1.01	0.75	0.37	0.26	
SD14	B-5・6 C-5	N-47°-E		12.98	1.62	1.33	0.45	0.13	
SD15	欠番								
SD16	P-7 Q-6・7	N-37°-E		12.4	0.41	0.26	0.16	0.11	SD18
SD17	P-7 Q-6・7	N-33°-E		11.8	0.44	0.30	0.24	0.11	
SD18	P-7	N-35°-E		10.26	0.51	0.35	0.58	0.44	SD16
SD19	C-7 D-7・8 E-8・9 F-9	N-47°-W		38.9	1.98	0.99	0.61	0.18	SD20・31
SD20	E-9	N-71°-E		4.68	1.01	0.52	0.37	0.31	SD19
SD21	E-8・9 F-9	N-56°-W		17.66	0.53	0.27	0.19	0.02	SD12・28
SD22	F-9	N-40°-W		3.46	0.31	0.18	0.17	0.11	SD12
SD23	E-8・9 F-9	—		13.52	0.83	0.29	0.26	0.14	
SD24	F-8・9 H-5・6・7 G-7・8 I-4・5・6	N-38°-E	N-40°-W	63.7	1.28	0.25	0.44	0.16	SD11・12・25・32
SD25	F-8・9 G-7・8 H-5・6・7 I-4・5	N-39°-E		58.4	0.50	0.23	0.37	0.10	SD11・12・24
SD26	E-7 F-7・8 G-8	N-53°-W		15.86	0.68	0.49	0.18	0.05	
SD27	H-8・9 I-6・7・8 J-6・7 K-7・8 L-8	N-34°-E	N-51°-W	55.8	4.53	1.98	0.90	0.25	
SD28	E-8	N-35°-E		3.57	1.40	1.26	0.19	0.13	SD19・21・23
SD29	F-5・6	N-22°-E		4.72	0.99	0.72	0.26	0.22	
SD30	E・F-6	N-45°-W		5.05	0.50	0.36	0.25	0.06	
SD31	C-6・7	N-27°-E		8.65	0.42	0.27	0.16	0.10	SD19
SD32	H-6	N-47°-W		2.03	0.88	0.72	0.18	0.14	SD24
SD33	K-8	N-35°-E	N-50°-W	4.18	1.04	0.57	0.24	0.19	
SD34	P-6・7 Q-6	N-34°-E		20.28	1.34	0.51	0.33	0.21	
SD35	J-7	N-46°-W	N-34°-W	3.28	0.48	0.22	0.32	0.11	SD36・39・40・42・45
SD36	J-7	N-46°-W		1.6	(0.52)	—	0.25	0.14	SD35・42
SD37	J-7	N-71°-W		4.12	0.43	0.33	0.13	0.11	
SD38	J-7	N-66°-W		2.24	0.42	0.22	0.13	0.09	
SD39	J-7	—		2.26	0.36	0.19	0.20	0.19	SD40
SD40	I-7 J-8	N-42°-E	N-90°-W	6.26	0.57	0.35	0.28	0.18	SD35・38・39・41・42
SD41	J-7・8	N-48°-E		1.34	0.33	0.30	0.25	0.21	SD40
SD42	J-7・8	N-50°-E	N-65°-W	3.05	0.59	0.30	0.43	0.36	SD35・36・40・45
SD43	J-7・8	N-60°-E		1.68	0.38	0.30	0.24	0.21	SD42・44・45
SD44	J-7・8	N-64°-E		2.9	0.34	0.24	0.23	0.11	SD43・45
SD45	J-7・8	N-71°-W		2.44	0.36	0.24	0.37	0.31	SD35・42・43・44

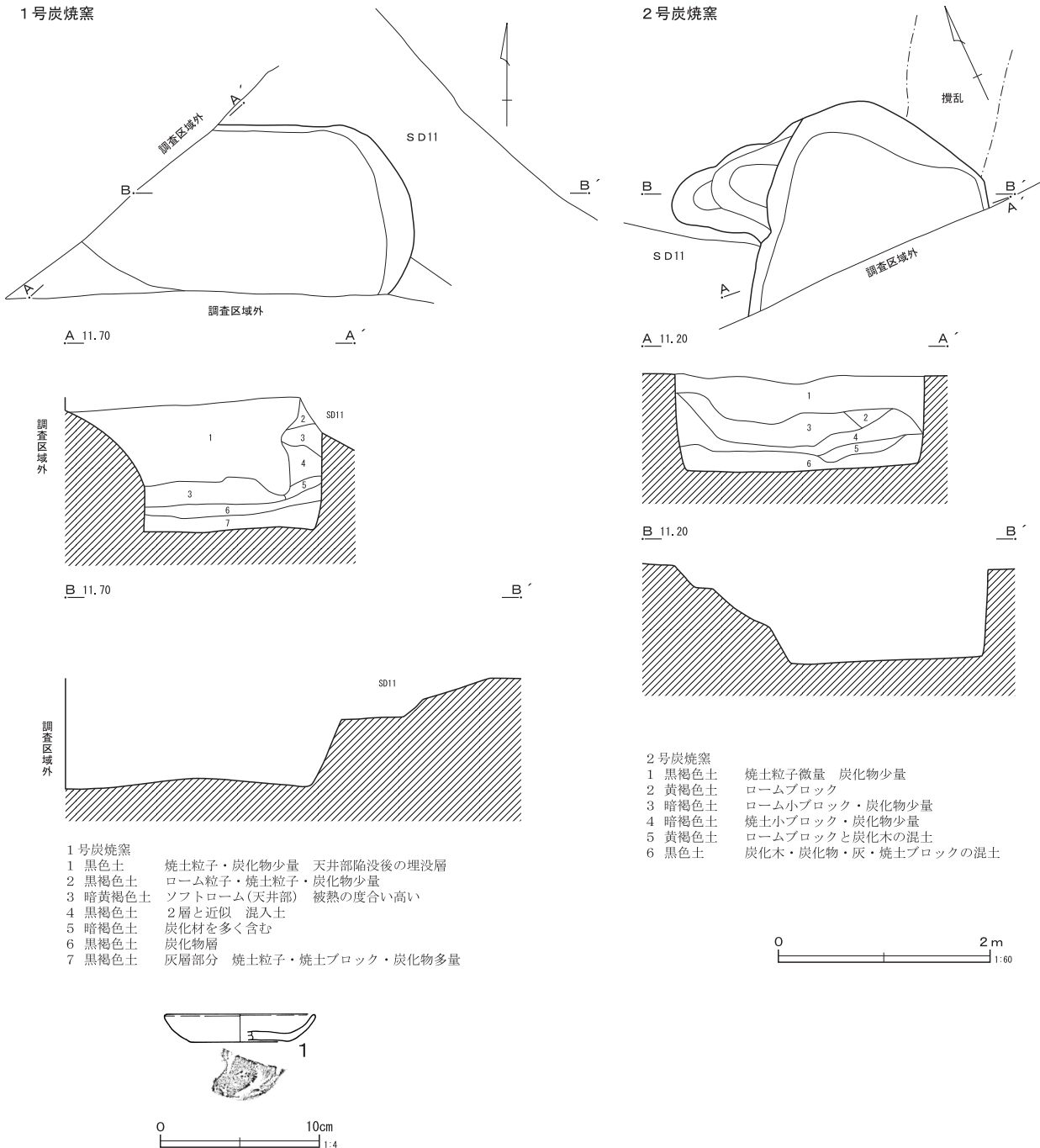
(4) 炭焼窯跡

2基が近接して検出されており、第11号溝跡と重複して検出されている。覆土の下層からは炭化木や多量の炭化物、灰や焼土ブロックが検出されている。時期は井戸跡や溝跡などと同じであると考えられる。

第1号炭焼窯跡 (第482図)

N-8グリッドに位置する。北側には第2号炭焼窯跡が近接して検出されている。西側と南側の一部については、調査区域外のため検出することができなかった。残存している部分から平面形は長方形である。

残存する長径2.41m、残存する短径1.74m、深さは確認面より0.95mである。



第482図 炭焼窯・出土遺物

遺物は第482図1の、近世のかわらけの口縁部から底部にかけての破片が1点検出されたのみである。

第2号炭焼窯跡（第482図）

N-7グリッドに位置する。南側には第1号炭焼窯跡が近接して検出されている。遺構の南側半分は、調査区域外のため検出できなかった。そのため平面形は不明である。また北西角部分は、斜めに段差を付けて階段状に掘り込まれている。

残存する長径2.81m、残存する短径1.50m、深

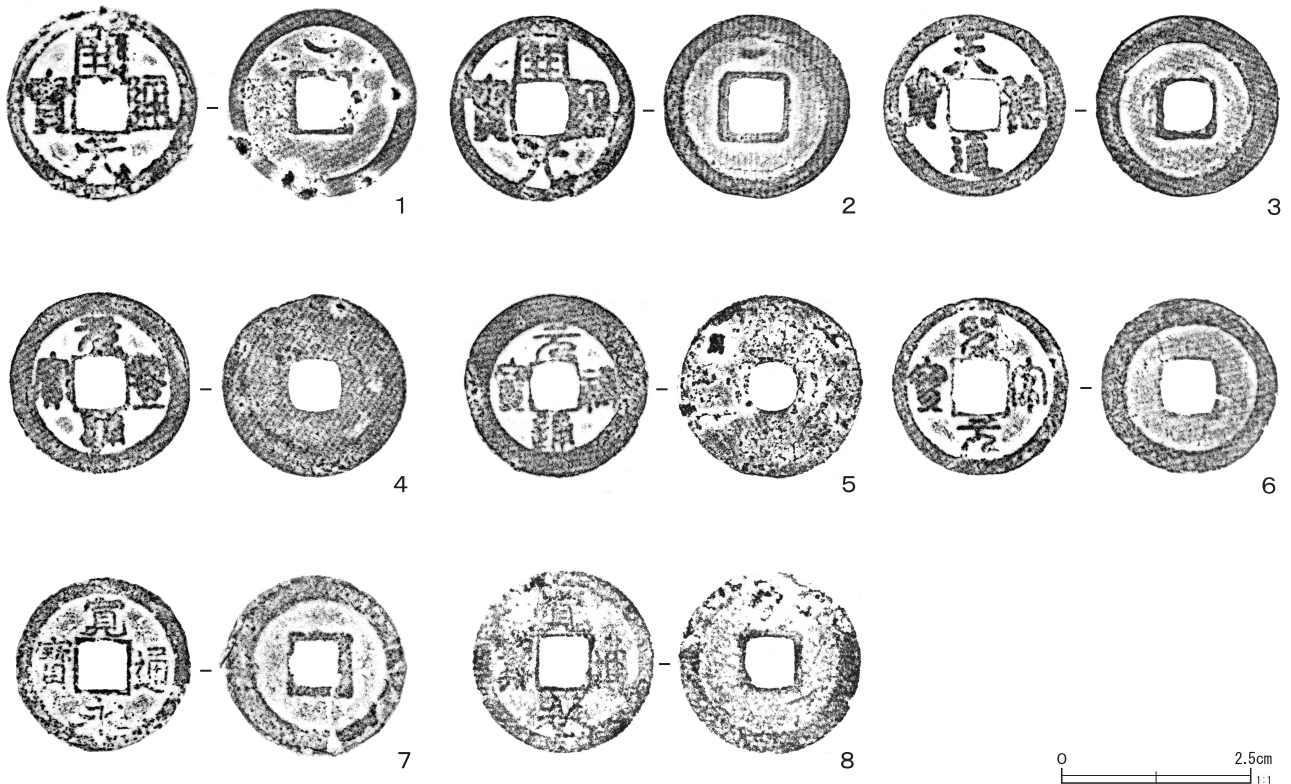
さは確認面より0.91mである。

(5) グリッド出土遺物（第483図）

調査区の古墳の周溝やグリッド内から検出された古銭については、一括して近世のグリッド出土遺物として図示することとした。8点が検出されている。古墳の周溝内からは6点が検出されており、第483図1・2の2点が唐銭、3～6の4点が北宋銭となっている。7・8は江戸時代の寛永通寶である。

第23表 グリッド出土古銭観察表

図版	番号	溝番号	貨銭名	国・王朝	初鑄年	背面	銭径 (mm)		銭厚 (mm)	重量 (g)	書体	備考
							タテ	ヨコ				
483	1	D-7	開元通寶	唐	621	上月	25.54	25.36	1.20	3.5	真書	第4号墳周溝内
483	2	D-7	開元通寶	唐	621	上月	24.91	24.91	1.24	3.8	真書	第5号墳周溝内
483	3	D-7	天禧通寶	北宋	1017		24.58	24.56	1.38	4.4	真書	第6号墳周溝内
483	4	D-7	元豊通寶	北宋	1078		24.47	24.51	0.94	3.1	篆書	第7号墳周溝内
483	5	D-7	元祐通寶	北宋	1086		24.65	24.68	0.98	3.2	篆書	第8号墳周溝内
483	6	D-7	聖宋元寶	北宋	1101		23.67	23.79	1.18	3.0	篆書	第4号墳周溝内
483	7	S-4	寛永通寶	江戸	1668		23.42	23.46	1.28	2.6		新寛永
483	8	U-5	寛永通寶	江戸	1668		24.57	24.50	0.84	1.8		新寛永



第483図 グリッド出土古銭

V 石器の理化学的分析

1 磨製石斧と玉類の岩石種

神ノ木2遺跡から出土した石器と石製品の中で、磨製石斧と玉類について、岩石種を検討した。

1.1 前提

岩石種を決定する場合には、産状と肉眼観察の知見を予備知識とした上で、薄片の偏光顕微鏡観察結果に基づいて判定が行われる事が多い。またEPMAによる定性的なデータが参照される事もあり、最終的な造岩鉱物種の決定には粉末法X線回折が必要となる。しかし、石器についてその材料となった岩石種を決定する場合には、非破壊が前提となるために、この様な方法を採用する事が出来ない。

ここでは現実的な方法として、柴田による経験に依拠した肉眼観察結果と実体顕微鏡観察結果および比重から得られた知見と、大屋による並行ビーム法X線回折で得られた鉱物名を勘案して、妥当と思われる岩石種を最終的に柴田が判定した。

1.2 被験試料

試料は、磨製石斧14点と玉類1点とした。

1.3 機器の取り扱いと設定

X線回折装置は、理学電気製RINT2100ultima+/pcを使用し、分析時には集中法光学系から平行ビーム法の光学系に設定を変更した。

なお、装置の設定を第24表に示した。

1.4 回折結果の解析

X線回折の結果は、回折角度毎のX線強度として得られるが、これの解析にあたっては、判別の為の専用ソフトでデータベースとの照合を行い、候補となった物質名を羅列させた上で、専用ソフトが示してきた各鉱物名候補について、データベースに登録されている回折線の位置と強度を測定値と比較して、候補の中から大屋が同定を行った。

なお、判別のためのソフトはJADE6.0を、データベースはICDD-PDF DataSets 1-51 plus 70-89 Release 2001を利用した。

第24表 X線回折装置の設定

ターゲット：Cu	モノクロ受光スリット：なし
管電圧：40kV	走査モード：連続
管電流：40mA	サンプリング幅：0.01°
カウンタモノクロメータ：固定	走査範囲：3~90°
カウンタ：シンチレーションカウンタ	積算回数：1回
発散スリット：0.5mm	スキャンスピード：1°/min
発散縦制限スリット：10mm	走査軸 2θ/θ°
散乱スリット：解放	θオフセット：なし
受光スリット：解放	光学系：平行ビーム法

1.5 データ参照上の留意点

- ①粉末法は無定位試料なので、ピークの強度自体も判別のための情報になり得るが、考古遺物を非破壊で分析する際の平行ビーム法では、配向した試料をそのまま取り扱う可能性が高いため、各ピーク毎の回折線の強度は、結晶の配向に左右されてしまい、データベースに登録された標準的な強度を示さないことが多い。
- ②配向により一部の回折線しか検出できない場合には、測定位置を変更した。
- ③一定の強度を得る目的により一部のスリットが開放してあるため、ピークの形態は先鋭さを欠いている。
- ④プロファイル中に記載した同定した鉱物種は、試料に含まれる可能性が高いと判断したものであるが、それ以外の鉱物種が含まれていないと断定するものではない。
- ⑤一般的にX線回折では、数%未満しか含まれていない鉱物は、検出が難しいとされている。
- ⑥固溶体の種類は膨大なため、選択した組成比が適切であるとは限らない。
- ⑦ピークのシフトと機械の誤差を識別するため、標準物質としてSiを使用した。
- ⑧比重の測定値については、温度変化に伴う水の密度変化、岩石中の空隙、電子天秤の測定精度などから、小数点第二位の値に若干の誤差が含まれている。

第25表 試料の観察結果と判定した岩石種

番号	挿図番号	器種	比重	特徴	判定した岩石種
1	120図65	磨製石斧	2.69	暗灰色・細粒 板状組織が明瞭	粘板岩
2	160図42	磨製石斧	3.05	暗緑色結晶が平行配列	角閃岩
3	182図6	磨製石斧	3.18	灰緑色で比重が大きい 7、11、13と類似	ヒスイ輝石岩？
4	299図22	磨製石斧	3.06	緑色結晶の集合	角閃岩
5	323図34	磨製石斧	2.61	暗灰色細粒 板状組織明瞭	粘板岩
6	352図62	磨製石斧	3.13	暗緑色長方形と灰緑色結晶の集合 9と類似	角閃岩
7	391図1	磨製石斧	3.14	灰緑色で比重が大きい 4、11、13と類似	ヒスイ輝石岩？
8	447図37	磨製石斧	2.94	被熱 変質した斑糲岩様組織	緑色岩
9	446図36	磨製石斧	3.13	暗緑色長方形と灰緑色結晶の集合 6と類似	角閃岩
10	446図34	磨製石斧	2.94	光沢顕著 不規則な筋状模様	トレモラ閃石岩
11	446図33	磨製石斧	3.17	灰緑色で比重が大きい 4、7、13と類似	ヒスイ輝石岩？
12	非掲載	磨製石斧	3.18	暗緑色長方形主体 淡緑色透明鉱物が充填	角閃岩
13	446図35	磨製石斧	3.15	灰緑色で比重が大きい 4、7、11と類似	ヒスイ輝石岩？
14	非掲載	磨製石斧	2.30	石英粒子の集合 空隙が多い	砂岩
15	120図61	垂飾	2.88	光沢顕著 不規則な筋状模様	トレモラ閃石岩

1.6 X線回折の結果と岩石種の判定

X線回折のプロファイルを第484、485図に、観察結果と判定を第25表に示した。

なおここに示したプロファイルはJADE6.0によって自動モードでバックグラウンド等を除去したものであり、生データではない。

1、5、14は、quartzを主成分とする堆積岩であると考えられた。1と5は粘板岩、14は砂岩と判定した。5からはclinoclloreを検出した。

8は、斑糲岩を起源とする緑色岩と判定した。clinoclloreとhornblendeを検出した。

2、4、12は、いずれもamphibole groupの鉱物を検出した。角閃岩と判定した。4、12に含まれる角閃石は、pargasiteの可能性が高い。2、4からは、clinoclloreも検出した。ここでは変成岩としての角閃岩と火成岩としての角閃石岩を厳密に区分せず、暫定的に一括して角閃岩とした。

6と9は実体顕微鏡観察では非常に類似していた。いずれからも角閃石類が検出できた。角閃石族の中では、tremoliteとある種のpargasiteは回折線が類似しているが、暫定的にpargasiteと同定し、pargasiteを成分とする角閃岩と判定した。

10、15からは、tremoliteを検出した。トレモラ

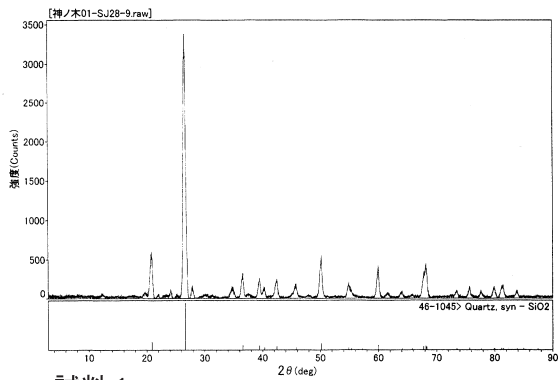
閃石岩と判定した。なおここは、Fe/(Mg+Fe)比によるtremolite—actinoliteの範囲中での位置が確定できないので、これらの系列に含まれる固溶体を一括してtremoliteと表現した。

3、7、11、13については、含まれている主要な鉱物をjaditeと同定した。縄文時代の遺物にはしばしばjaditeが見られるが、今回の試料のような外観を持つ岩石からjaditeを検出した例は見あたらない。現段階では試料から得られたプロファイルとICDD-PDFの間で良好なマッチングが見られる鉱物種がjaditeであるという点から、暫定的な判断としてjaditeを含む岩石、つまりヒスイ輝石岩と判定した。この暫定的な判断については、更なる検討が必要である事を明記しておきたい。

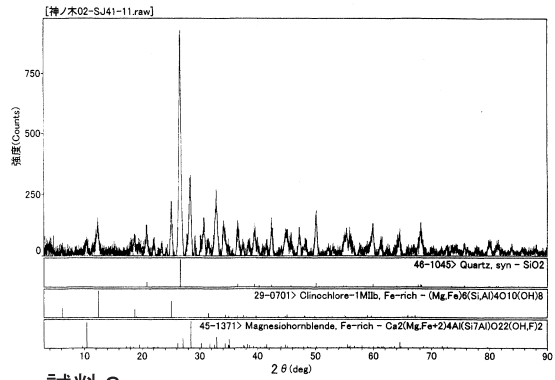
1.7 課題

角閃岩とした岩石は多様であり各々に特徴が見出せるため、類似した岩石の採取と各種データの対比による、精密な岩石名決定、産地の推定、石材名の付与を今後の課題としたい。

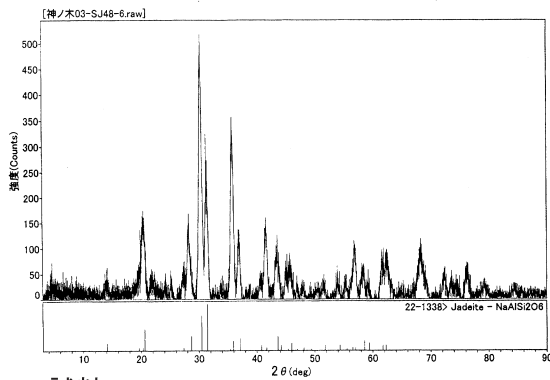
jaditeについては、埼玉県内からもjaditeを含む岩石の存在が報告されているため、これに該当する可能性を考慮した上で照合を実施し、暫定的な判断の正否について別途報告したい。



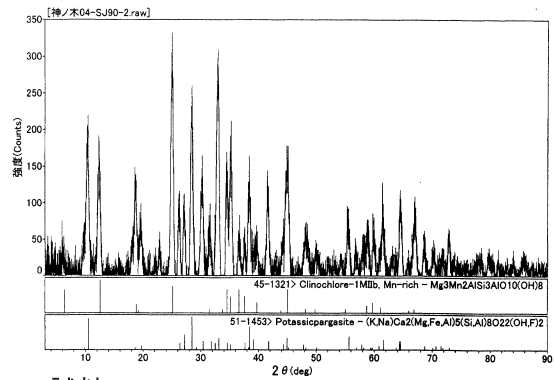
試料 1



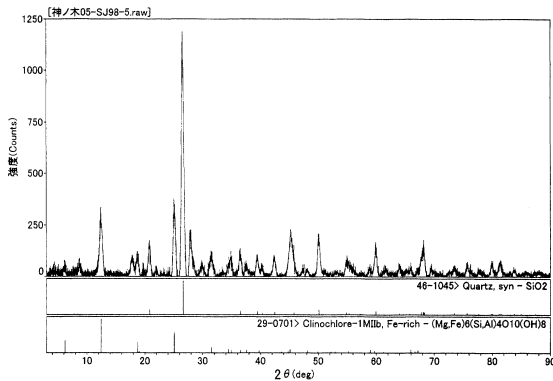
試料 2



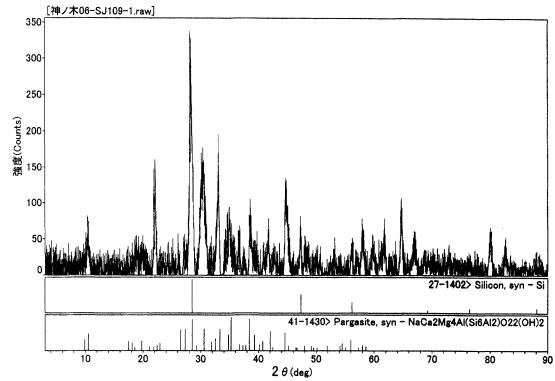
試料 3



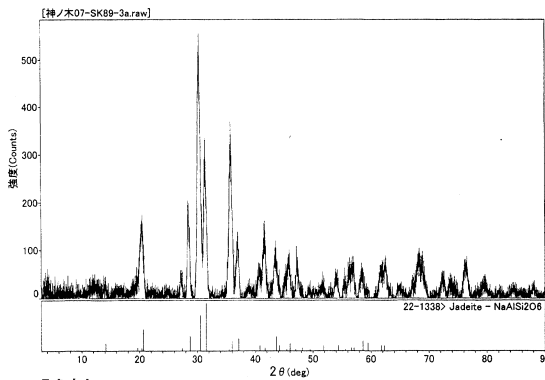
試料 4



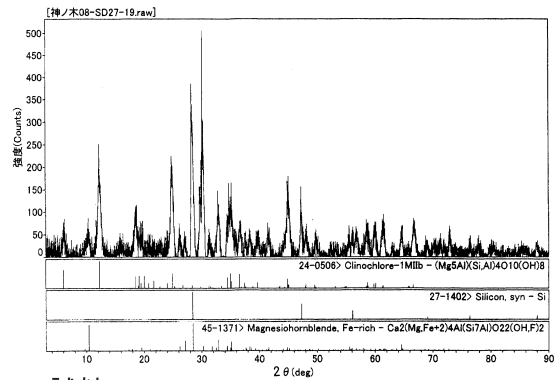
試料 5



試料 6

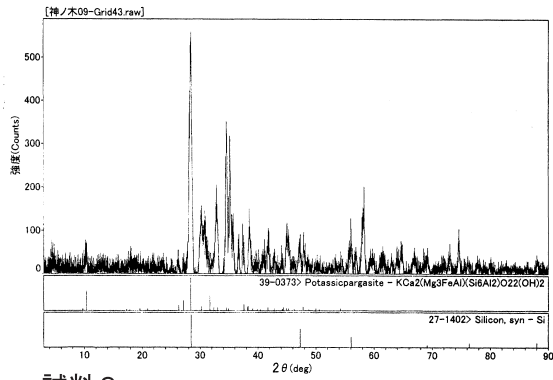


試料 7

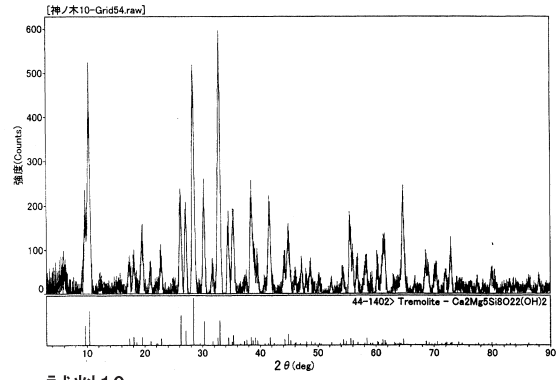


試料 8

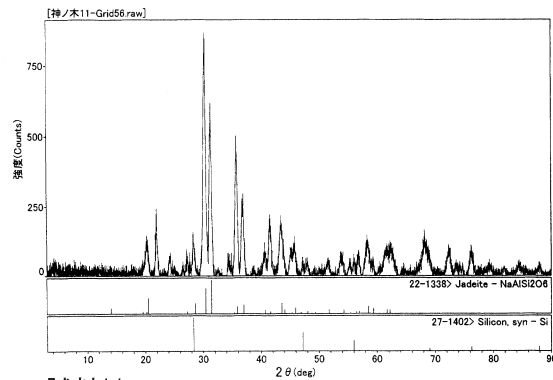
第484図 X線回折のプロファイル (1/2)



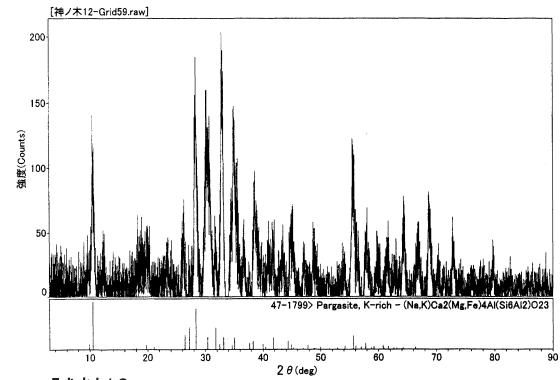
試料9



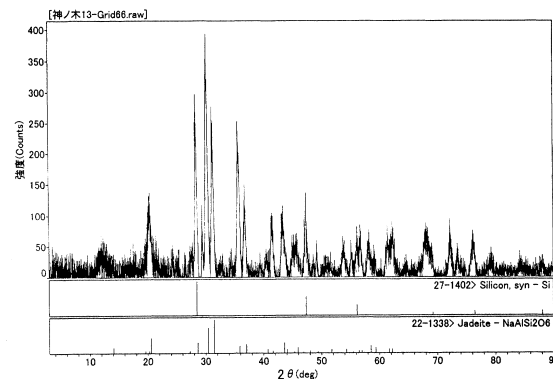
試料10



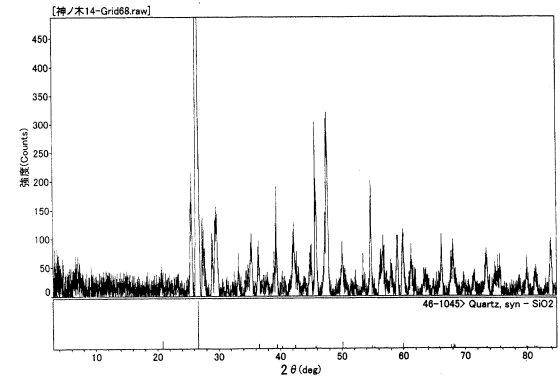
試料11



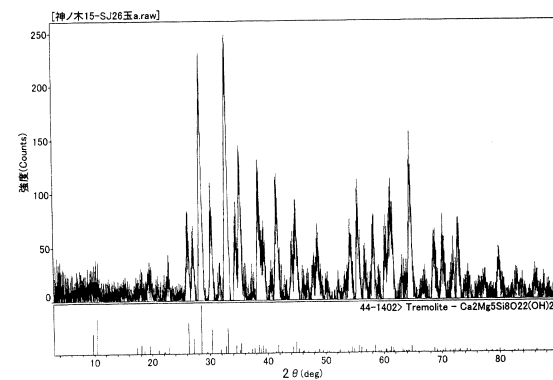
試料12



試料13



試料14



試料15

第485図 X線回折のプロファイル (2/2)

VI 調査のまとめ

1. 旧石器時代

神ノ木2遺跡は、九宮2遺跡と共に菖蒲町における最初の旧石器時代遺跡の発見及び調査である。調査の結果、石器集中3ヶ所からナイフ形石器を主体とする石器群が検出された。

加須低地の遺跡 大宮台地における、旧石器時代の遺跡分布は狭義の大宮台地南部や安行台地に集中する傾向がある。東部に関しても、白岡・岩槻・慈恩寺台地など南側の台地の輪郭が比較的確な地域に多く、宮代町、春日部市等で多くの遺跡が調査されている。加須低地は元来東部の台地から群馬県の館林台地まで連なる一体のものであるが、造盆地運動による沈降と、それに伴う複数の河川による浸食によって、自然堤防のような筋状の台地群になっている。

当該地域は埋没・低位台地上に旧石器時代の遺跡が存在することは知られていたが、本格的な調査はなかなか進んでいなかった。騎西町で旧石器時代の石器が複数の遺跡で出土していることが報告されたが、石器集中が確認されたのは、前遺跡の槍先形尖頭器を主体とする石器群のみで、他の遺跡では石器集中等は見つかっていない。

石器群の特徴 神ノ木2遺跡の石器群は、石器集中1と2は石器の出土層位やナイフ形石器の形態等から同一時期と考えられる。また、石器集中3は、剥片のみと帰属時期の判断は難しいが、分ける要因もない。

石器の総点数は103点と少なく、器種組成はナイフ形石器、搔器、敲石等のToolと縦長剥片、石核と単純である。石器石材はチャートが主体で黒色頁岩、ガラス質黒色安山岩が一定量を占める。

ナイフ形石器は4点出土している。縦長剥片を下位に用いており、基部と先端の一部に調整加工を施したものが主体である。石器集中1の1は打

面を除去し、石器集中2の1・2は打面を残している。調整加工は、前者1点は基部に急角度の規格的剥離、先端部は角度の浅い不規則な剥離が部分的に施されており、後者2点は前者と比べ石材の特質によるためか、調整加工は微細な剥離が施されている。石器集中2の3は縦長剥片を横に用いた、大形の台形状ナイフ形石器である。調整加工は、打面側は側縁を抉るように裏面からの剥離加工が施されている。端部側は裏面から折断するような剥離によって直線的に仕上げられ、外形は逆台形状を呈している。

搔器は上半部を欠損するが、縦長剥片の端部に刃部加工を施した先刃搔器と思われる。

以上のToolと合わせ、本石器群を特徴づけるものとして縦長剥片がある。打面は大きく単剥離面と複剥離面がある。正面の剥離面は、主要剥離面と同一方向で稜線が側縁と平行することから、単設打面の石核から規格的な縦長剥片が連続して剥離されたことが伺え、第20図25の石核と整合する。

最後に、本石器群の編年の位置であるが、調査時の観察で第V層中からの出土であったことが確認されている。第V層段階の石器群は第V～IV層下部段階として捉えられる場合が多く、その中で古段階に位置づけられている。しかし、調査事例が増える中で、第V層段階として分離可能な石器群もみられる。本遺跡の小規模な石器群をどこまで積極的に評価できるか問題はありますが、基部加工のナイフ形石器及び縦長剥片を石器組成の中で安定的に占める点など、他の第V層段階の石器群と共通する。また、大宮台地では提灯木山遺跡第3文化層、中原後遺跡とも共通する点があり、今後の検討課題としたい。

2. 縄文時代

(1) 中期の土器群について

遺構から検出された土器のほとんどが、縄文時代中期後葉から末葉の加曽利E式系を主体とした土器群であった。ここでは遺構出土の土器群の変遷を考えていくこととする。

検出された加曽利E式系の土器は、加曽利EⅢ式からⅣ式土器を主体としている。この時期については、1990年代以降、埼玉県内においても様々な再検討がなされてきている（谷井・細田1995・1997、橋本1994、金子1996・1997・2004、谷井2003、細田2002・2003など）。

ここでは、それらの再検討の結果もふまえて検出された中期土器群の変遷について考えていくこととする。

神ノ木2遺跡出土の中期土器の変遷

神ノ木2遺跡出土の中期土器は第Ⅰ～Ⅴ期に分類する。

第Ⅰ期（第486図1～27）

磨消懸垂文が出現する段階である。第Ⅱ期とともに、多くの住居跡がこの時期に相当している。

神ノ木2遺跡の縄文時代中期土器はこの段階から始まるものであるが、磨消懸垂文の出現直後ではなく、やや新相ととらえられる土器群が多い。

加曽利E系のキャリパー形深鉢土器は口縁部に文様帯を持つもので、胴部には磨消沈線文を垂下させる。口縁部の文様は、隆帯とそれに沿った沈線によって施文されている。胴部の磨消懸垂文はそのほとんどが、沈線施文→地文施文→沈線をなで返すという工程で、当初から無文部分には地文を施文しない。沈線の施文自体は浅いなで状となる。

1・25は口縁部に山形状の把手が貼付される土器である。4は口縁部の文様帯の幅がやや狭いもので、渦巻文と楕円区画文が交互にしっかりと施文される。これと同様の土器は、土壇内の伏甕と

して使用されている。第40号土壇（第380図1）、第245号土壇（第409図1）、第253号土壇（第411図1）出土の深鉢形土器がそれに当たる。

第Ⅰ期で特徴となるのは、地文に条線を施文する曾利系深鉢形土器との共伴である。6～8、12の曾利Ⅲ式系の土器がそれに当たる。重弧文系の深鉢土器に類似するもので、地文は沈線状の比較的太くしっかりした条線で、頸部と胴部には垂下隆帯を貼付する。ほとんどの隆帯上には円形刺突文が施文される。この系統の曾利系土器は第Ⅰ期にのみ検出され、第Ⅱ期には見られなくなる。

ほかには20・21・27のような壺形土器が伴う。口縁部は無文で、胴部には沈線で逆U字状文や蕨手文を施文する。

浅鉢形土器は9のように無文のものが多い。

連弧文系土器は、文様の崩れが見られる26などが伴う。全体の出土量は少ない。

また胴部渦巻文系土器は、22のように口縁部の残存するものが検出される。隆帯は隆起線状だが、上面をなで潰す。4単位の渦巻文内には連結隆帯などは施さない。渦巻文間は蕨手文で連結する。

第Ⅱ期（第486図28～53）

吉井城山類が出現する段階である。第Ⅰ期とともに多くの住居跡がこの時期に相当している。

口縁部文様帯を持たない吉井城山類が成立する段階であるが、28・35・36のような、口縁部文様帯を持つ加曽利E系の深鉢形土器も残存する。Ⅱ期と比較して、口縁部文様の崩れや、簡素化が進む。また磨消懸垂文の幅がやや広くなる。

吉井城山類は31・38のように、波状沈線文と逆U字状文と蕨手文の組み合わせる文様構成となる。逆U字状文は胴上下一体の文様構成で、まだ胴部括れ部分で文様が上下に分割されるものは出現しない。

またこの時期の特徴として、30や小形の41のように、壺形土器に把手を貼付する両耳壺の出現が挙げられる。両耳壺は30・33のように、胴部や肩

部に文様帯を持つ。これは、第Ⅰ期27のような壺形土器の系統下にあるものと考えられる。

浅鉢形土器は、29や52のように無文の口縁部を持ち、胴部には地文のみを施文するものが主流となる。

46は胴部大形渦巻文系土器で、口縁部文様帯を残存し、胴部に渦巻文を施文する。文様を施文する隆起線状の隆帯は、その両側を削るように沈線文が施文されており、隆帯の横断面形は三角形状となる。渦巻文内には連結する隆帯が出現し、内部を単位文化する。

第Ⅲ期 (第487図54～71)

吉井城山類の胴部文様が土器の括れ部分を境界に、上下に分割するものが出現する段階である。第Ⅲ期までは、住居跡も比較的多く検出される。

67は吉井城山類の土器で、分割された土器の下半部の逆U字状文は多単位化している。

また胴部大形渦巻文系の深鉢形土器は、いわゆる梶山類とよばれる土器に変化する。54・58・68のように、口縁部文様帯はなくなり、吉井城山類と同様に、括れ部分で上下に文様帯を分割する。68は1本隆帯で施文するもので、小形化するものである。

60・62・71で見られるように、口縁部文様帯を持つ加曾利E系の深鉢形土器も、この段階に残存する。文様は簡略化が進み、60・71のように沈線のみで描くものもある。また胴部には磨消沈線文を垂下するが、無文部分の幅が広がるのも特徴である。また全体に大形化が進む。

第Ⅳ期 (第487図72～74)

前段階と比較して、住居跡の数が明らかに減少する段階である。

前段階で上下に分帯された吉井城山類の、波状文や逆U字状文の端部が、鋸歯状の構成となる段階である。

また微隆起状化する隆帯を施文する土器は、神ノ木2遺跡では個体として検出されていないが、い

わゆる岩坪類が出現する時期である。

72は波状口縁に、橋状把手が1単位貼付されるものである。胴部上半には、いわゆる抱球文を施文する。文様の端部は鋸歯状を呈する。

また両耳壺は74のように、胴部に地文を施文するのみとなる。

この段階において、口縁部文様帯を持つ土器は神ノ木2遺跡では検出されていない。

第Ⅴ期 (第487図75～82)

第Ⅳ期と同様に、住居跡の軒数は減少している。今回の調査区内で検出された住居跡では、最終末にあたる段階である。

胴部に地文のみを施文する深鉢形土器が多く見られる段階である。

79～81は第33号住居跡の炉跡から、82とともに一括して出土した深鉢形土器である。口縁部は検出されなかったが、無文であると考えられる。

両耳壺は把手部分に、地文を施文することが多く、75・76・82の把手にも縄文を施す。

また77の注口土器も検出されている。瓢箪形注口土器の、括れ部より上部分を模していると考えられる。瓢箪形注口土器は第Ⅲ期ころから出現するが、77は変化を遂げている。

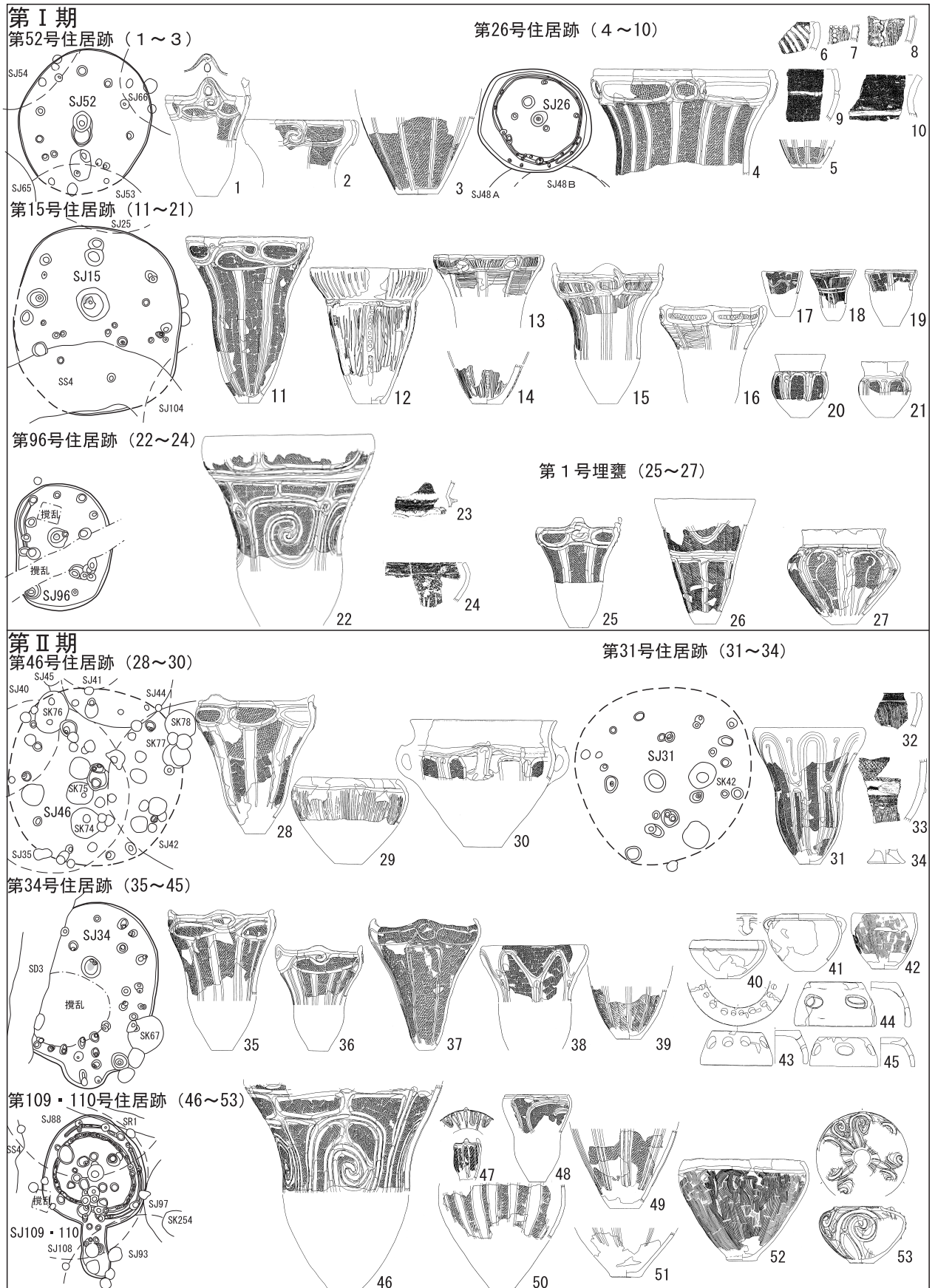
周辺地域の遺跡出土の中期土器と各期について (第488図)

周辺地域との比較を行い、第Ⅰ～Ⅴ期の各期について考えてみたい。

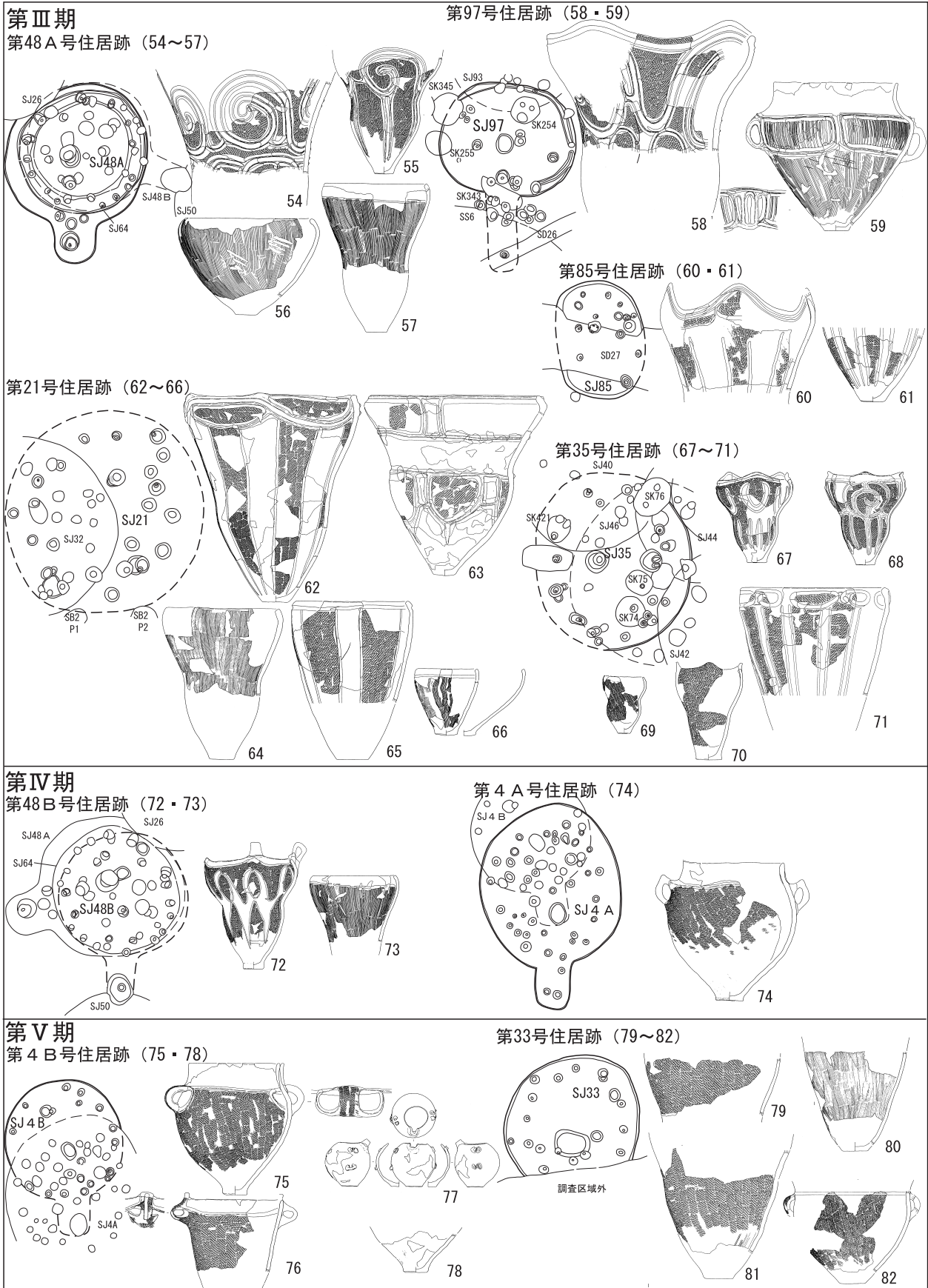
第Ⅰ期 (第488図1～16)

周辺の遺跡では、伊奈町の薬師堂根遺跡第25号住居跡(1～8)や、戸崎前遺跡第272号土壙(9～16)などが挙げられる。

この期については、従来は加曾利EⅡ式新段階とされてきた土器群であるが、金子直行氏の伊奈町大山遺跡第9次(金子1996)や、戸崎前遺跡(金子1997)の報告で検討を行った結果、磨消懸垂文出現段階としたもので、後続する吉井城山類



第486図 神ノ木2遺跡出土中期土器変遷図(1)



第487图 神ノ木2遺跡出土中期土器変遷図(2)

出現段階とで、加曾利EⅢ式を古と新に分類している。

神ノ木2遺跡においては、この第Ⅰ期から集落が始まり、胴部に磨消懸垂文を施文する加曾利E系土器が、第Ⅲ期まで続くことから、大木式との並行関係や金子氏の分類を参考にして、第Ⅰ期は加曾利EⅢ式古段階と認識することとした。

またこの期の特徴として、ほかには曾利Ⅲ式系の土器を挙げたが、同様の土器は4のように薬師堂根遺跡でも検出され、戸崎前遺跡においても曾利Ⅲ式系の土器が破片ではあるがこの時期に相当する土器群とともに第34号住居跡などから検出されている。この曾利Ⅲ式系の土器については、橋本勉氏や戸田哲也氏の論考（橋本2004、戸田2006）においても触れられている。第488図4などの系統の曾利Ⅲ式の土器は、橋本氏の指摘にもあるように、神ノ木2遺跡やその周辺の遺跡においては後続することなく、以降の段階においては検出されなくなる。

第Ⅱ・Ⅲ期（第488図17～36）

周辺の遺跡では第Ⅱ期が白岡町山遺跡第4号住居跡（17～19）、北本市提灯木山遺跡（20～23）、第Ⅲ期が騎西町修理山遺跡第1号住居跡（24～31）、白岡町山遺跡第2号住居跡（32～36）が挙げられる。

この期については、谷井彪氏・細田勝氏の検討（1997）では加曾利EⅢ式、金子氏の検討では加曾利EⅢ式新段階としたものである。またその後細田氏は、縄文セミナー「縄文中期後半の再検討」（2003）においてこの段階を6段階、7段階の2段階に細分している。

神ノ木2遺跡において当初は、吉井城山段階として、1段階に分類を行ったところ、住居跡の半分以上がこの段階に相当することになった。

そのことから吉井城山類と、隆帯によって大形渦巻文が施文される梶山類の変化を追って、もう一度出土土器の分類を行い、2期に細分すること

とした。

吉井城山類の変化は、第Ⅱ期とした山遺跡第4号住居跡18と提灯木山遺跡21と、第Ⅲ期とした修理山遺跡第1号住居跡26や山遺跡第2号住居跡35の比較でも明らかのように、文様が第Ⅲ期になると胴部の括れ部分で上下に分離することが大きな特徴として指摘できる。

梶山類の変化については、大きくは口縁部に文様帯を持つものと、持たないものの差が大きいと考えた。口縁部文様帯を持たないものがいわゆる梶山類と呼ばれるものである。この口縁部文様帯の差は個体差か時期差か判断が分かれるところであるが、いわゆる梶山類とされる口縁部に文様を持たないものは、吉井城山類と同様に胴部の括れ部分で上下に文様が分離している。周辺の遺跡においても、山遺跡第4号住居跡17の口縁部文様帯を持つものは、上下に文様が分離されない吉井城山類の18と共伴し、修理山遺跡第1号住居跡24や山遺跡第2号住居跡32のいわゆる梶山類については、上下に文様が分離する吉井城山類の26や35と共伴しており、梶山類の変化からも第Ⅱ期と第Ⅲ期を細分することが可能と考えられる。

第Ⅳ期（第488図37～39）

周辺の遺跡では、修理山遺跡第6号住居跡（37～39）が挙げられる。文様が上下に分離された吉井城山類の系統下にある土器は、逆U字状文や波状文の端部が鋸歯状となり尖るという大きな特徴が指摘される。

梶山類はこの段階には見られない。神ノ木2遺跡では、梶山類の大形の深鉢形土器は炉体土器として使用されていたが、この段階において修理山遺跡第6号住居跡では37が炉体土器として使用されている。

この段階の土器群は、上尾市宿北V遺跡第2号住居跡（上野1999）での検討からすれば、加曾利EⅣ式にあたると考えられる。

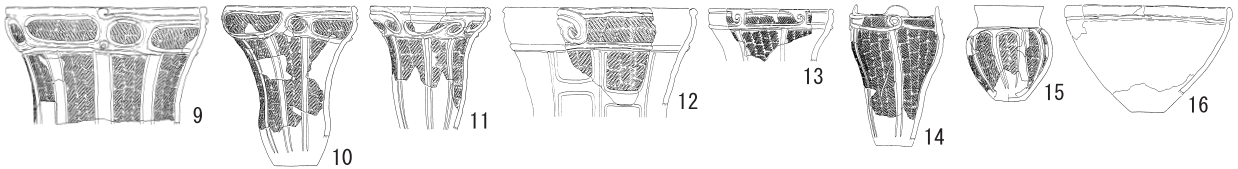
第Ⅴ期

第Ⅰ期

薬師堂根遺跡第25号住居跡 (1~8)



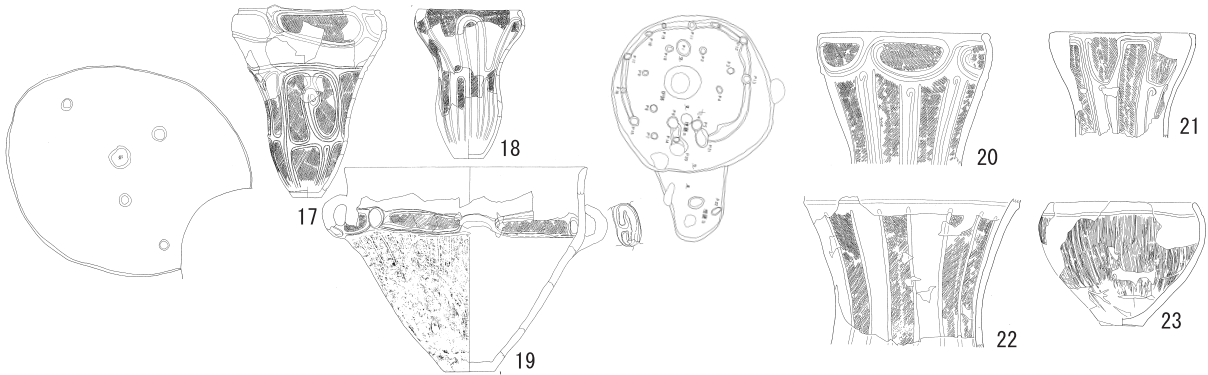
戸崎前遺跡第272号土壇 (9~16)



第Ⅱ期

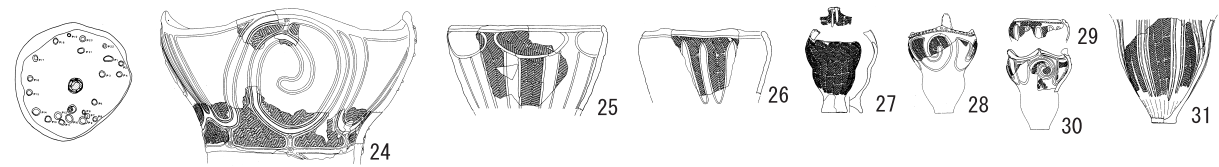
山遺跡第4号住居跡 (17~19)

提灯木山遺跡 (20~23)

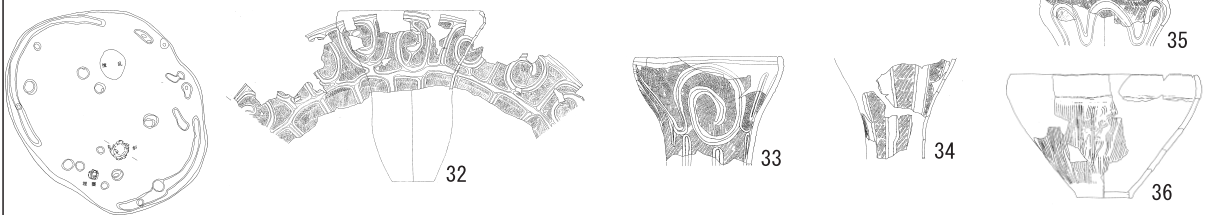


第Ⅲ期

修理山遺跡第1号住居跡 (24~35)

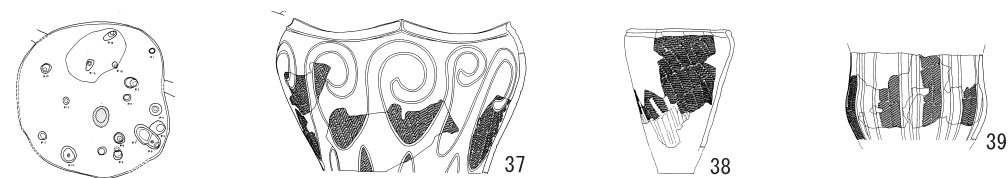


山遺跡第2号住居跡 (32~36)



第Ⅳ期

修理山遺跡第6号住居跡 (37~39)



第488図 周辺遺跡出土の中期土器

第Ⅳ期に後続する段階として設定した。神ノ木2遺跡においては、深鉢形土器は地文のみ施文するものが多く見られるようになる。

以上、各期について周辺の遺跡と合わせて考えてきた。各期を整理しておく、第Ⅰ期～第Ⅲ期までが金子氏の加曽利EⅢ式の範囲内であると考えられる。第Ⅰ期は前述の通り、加曽利EⅢ式の前段階としたものである。では金子氏の加曽利EⅢ式の新段階にあたる第Ⅱ期、第Ⅲ期についてであるが、これについては第Ⅱ期を加曽利EⅢ式中段階、第Ⅲ期を加曽利EⅢ式新段階と細分するのは可能である。

しかしながら、今回分類したものは神ノ木2遺跡内の土器の様相を分類したに過ぎない。また周辺の遺跡についても限定されたものであった。そのため、この分類が他地域の加曽利EⅢ式期の土器群と合致するとは限らず、第Ⅱ期と第Ⅲ期が混在する可能性も多分に予想される。

そのため、ここでは神ノ木2遺跡における住居跡などの遺構の重複関係も考え、加曽利EⅢ式の新段階を便宜的に2段階の変遷として捉えたということに留めておきたい。

また第Ⅳ段階を加曽利EⅣ式としたが、この段階については、同じ段階の宿北V遺跡2号住居跡出土の土器を筆者は、称名寺1a式が伴う段階として後期初頭に位置づけたことがある(上野1999)。しかしながらその後、飯能市上町東遺跡や日高市寺脇遺跡など、称名寺1a式土器が出土する住居跡の検出例が増加しており、第Ⅳ段階の位置づけについては再考する必要があるものと考えている。また、その後続する時期とした第Ⅴ段階の位置づけについても同様である。

神ノ木2遺跡の加曽利EⅢ式土器、EⅣ式土器の分類や時間的な位置づけに関しては、広域的に考えていかなければならず、また大木式土器や称名寺式土器との並行関係も絡んでくる問題でもあり、十分な検討が必要となってくる。

そのため、それらについては今後の課題とし、今回は出土した神ノ木2遺跡の土器群については、遺跡内における相対的な分類としておきたい。時期についても、中期後葉から末葉と認識することとする。

(2) 中期の遺構について

ここでは、前項において分類した第Ⅰ～Ⅴ期の各期における、神ノ木2遺跡の縄文時代中期の遺構について、住居跡を中心にその変遷について考えていきたい。

分類の対象とした住居跡は、炉跡や埋甕などが明確に残存するものとした。図示した住居跡の外形がはっきりしているものがそれに当たる。さらに、住居跡から土器が検出されない場合や、小破片のみが出土している場合は、各期に分類をしていない。また土壇については伏甕や埋甕などの埋設土器が検出されたものについて、分類を行うこととした。

第489図の1段目に図示したものが、神ノ木2遺跡の今回の調査区における縄文時代中期の遺構の最終的な様相として捉えられる。東西方向の両側は台地が落ちる東西端に近いもので、南側は台地の先端部となっている。北側方向にむけて平らな台地が続いている。調査区は集落のちょうど中央を東西に縦断している。住居跡は調査区の北側と南側にも分布していると考えられる。

今回分類する各期については、(1)で行った中期土器の相対的な分類に基づいて行っているものである。

各期の中期の遺構について

第Ⅰ期(第489図)

神ノ木2遺跡の中期の集落の開始期にあたる。第489図の中段が分布状況となる。住居跡は第15・23・26・40・52・72・77・81・94・96・98号住居跡の11軒がこの段階にあたる。土壇は第1・

40・245・253号で、第1号埋甕もこの段階に相当している。

住居跡は、調査区の西側よりに分布している。住居跡は検出されない区域を持って、東側と西側に離れて分布している。神ノ木2遺跡では、柱穴のみを検出する住居跡が多いが、この段階の住居跡は第23・26号住居跡のように、しっかりとした掘り込みを持つものが多い。また壁周溝を持つ住居跡もその多くを占めている。そのため柱穴も、壁際を巡るように配置されている多柱穴状になるものは少ない。

土壙のうち第40・245・253号土壙は大形の深鉢形土器が伏甕として埋設されたもので、深鉢形土器は口縁部の文様など外観が似通うものである。3基の土壙は、住居跡が分布されない内側から近接して検出されている。

第Ⅱ期（第489図）

第489図の中段が分布状況となる。第3・5・6・9・22・31・34・41・46・50・51・53・74・95・109・110号住居跡の15軒（109・110は1軒とする）がこの段階にあたる。土壙は第76・89・181・420号土壙がこの段階に相当する。

住居跡の分布は第Ⅰ期と比較すると東側に分布が広がっている。住居跡の掘り込みはごく浅く、柱穴は、壁に沿って巡る多柱穴状となっている。大きな変化としては、この段階に神ノ木2遺跡からは柄鏡形住居跡が出現することである。第74・109・110号住居跡が柄鏡形となっている。柄部分の幅は細く作り出している。第74号住居跡は、柄の先端部分に吉井城山類の深鉢形土器が埋甕として埋設していたことや、炉跡から出土した隆起線状の隆帯で施文された、大形渦巻文の深鉢形土器が、破片ではあるが口縁部文様帯が残存していることから、この段階としたものである。第109・110号住居跡は、炉跡に埋設された深鉢形土器が、胴部に大形渦巻文を隆起線状の隆帯で施文するもので、口縁部文様帯が残存していることから、こ

の段階としたものである。

分類した土壙から出土した土器は、第Ⅰ期とは違い大形の深鉢土器は第89号土壙に見られるのみで、他は中型や小型の土器が検出される。伏甕は見られなかった。楕円形状の土壙の長軸のどちらかに偏って遺物は出土し、長軸方向が南北方向の場合は、北側から遺物は出土している。土壙は調査区のほぼ中央から検出されている。

第Ⅲ期（第490図）

第490図の上段が分布状況となる。住居跡は第14・21・35・48A・85・88・97号住居跡の7軒がこの段階にあたる。土壙は第444号土壙がこの段階に相当する。

住居跡は、第Ⅰ期と同様に調査区のやや西側よりに分布している。また、第Ⅰ期と同様に住居跡の分布の中央部分は、住居跡の検出されない区域となっている。第Ⅲ期と同様に多柱穴の住居跡と柄鏡形の住居跡が混在しているが、他の遺構との重複などによって、柄部分が失われている可能性もある。

第444号土壙は、比較的小形の深鉢形土器が検出されている。第Ⅱ期と同様に土壙は楕円形ではあるが、遺物は土壙の南側部分からまとまって出土している。

第Ⅳ期（第490図）

第490図の中段が分布状況となる。第4A・48B号住居跡の2軒がこの段階にあたる。

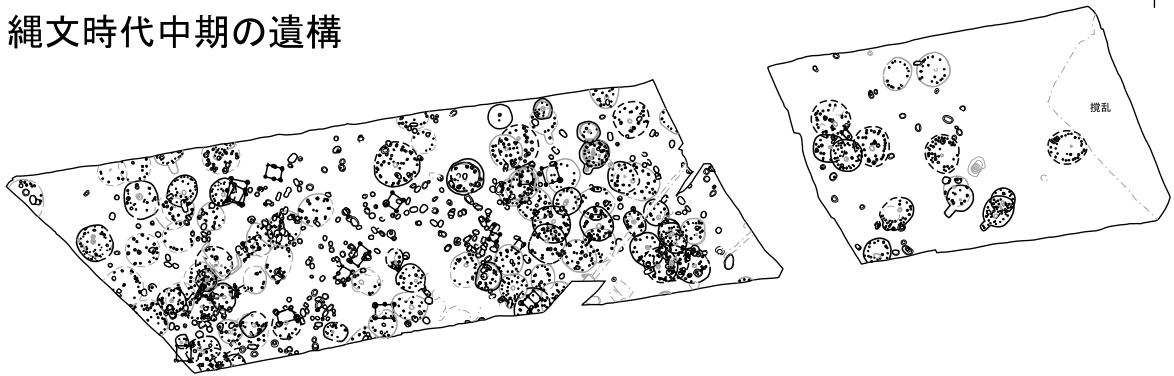
住居跡の分布は、明らかに減少している。住居跡間も距離がある。南西隅の柄鏡形住居跡がこの段階に相当するとしても1、2軒が増える程度である。分類の対象としなかった住居跡から出土している土器の破片の中にもこの段階のものはほとんど含まれていない。

住居跡以外の遺構については、この段階と確定できるものは検出されていない。

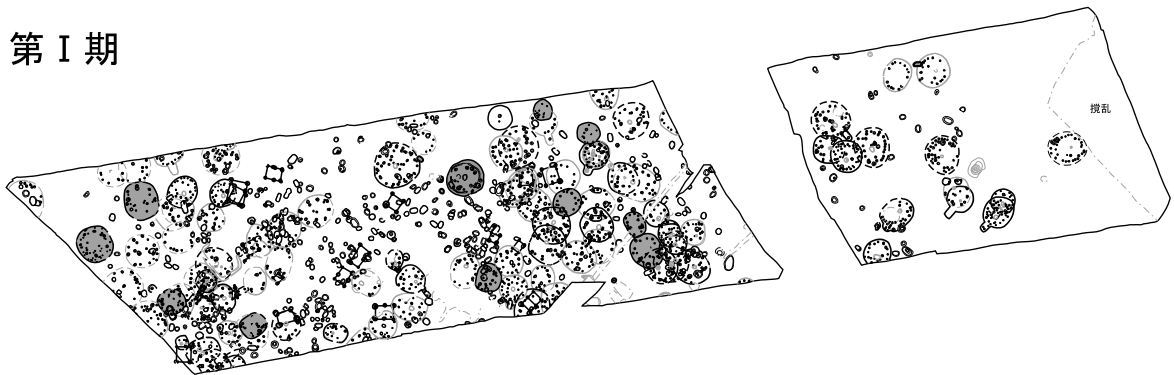
第Ⅴ期（第490図）

第490図の下段が分布状況となる。第4B・33

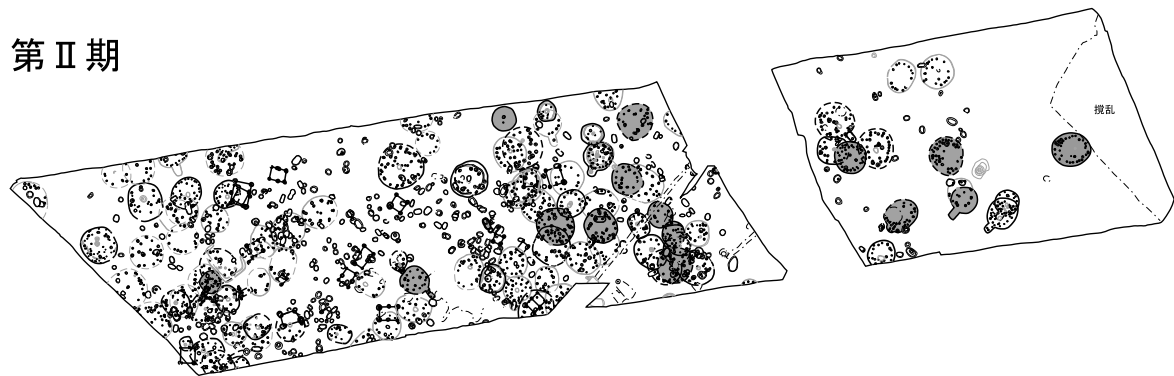
縄文時代中期の遺構



第Ⅰ期

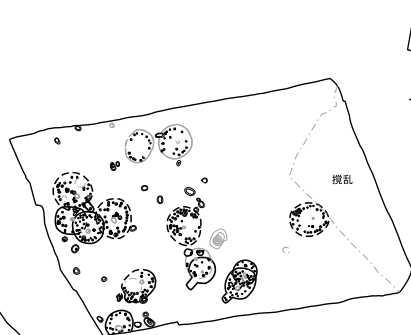
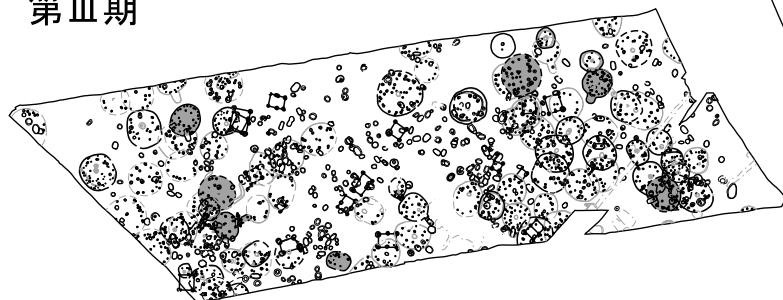


第Ⅱ期

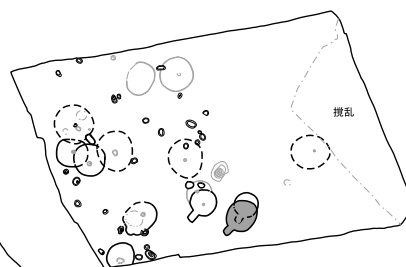
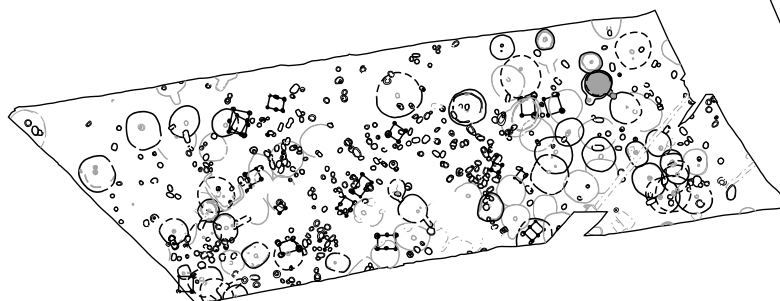


第489図 神ノ木2遺跡中期遺構変遷図(1)

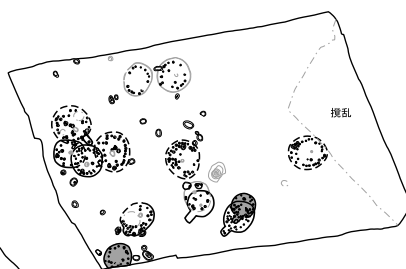
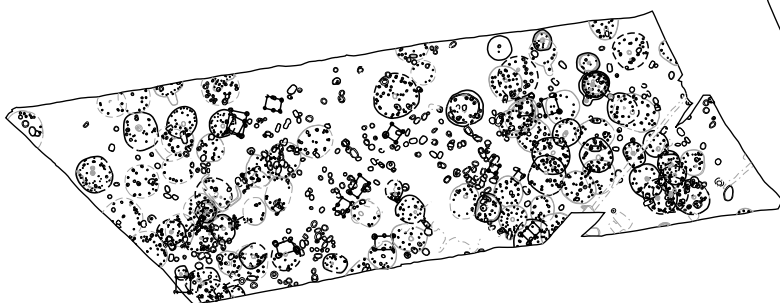
第Ⅲ期



第Ⅳ期



第Ⅴ期



第490図 神ノ木2遺跡中期遺構変遷図(2)

号住居跡がこの段階にあたる。

住居跡の分布は第Ⅳ期と同じ状況で、調査区内からは2軒が検出されたのみである。分類の対象にならなかった住居跡のうち、この時期に相当する可能性があるものは見られない。

住居跡以外の遺構についても同様で、この段階に確定できるものは検出されていない。

神ノ木2遺跡の中期の集落について

前項において、中期の遺構の変遷を土器の変遷の第Ⅰ～Ⅴ期に当てはめて考えてきた。ここでは、それらを踏まえて、集落について考えていきたい。

はじめに述べたように、調査区の東側と西側は台地の東西の落ち込み部分に近いもので、住居の東西の分布の幅は現在検出された状況とほぼ同じであると考えられる。北側と南側だが、南側は台地の先端に向けて幅狭くなっていくものの、十分な平坦面はある。また台地が続いていく北側部分も平坦面は充分ある状態である。おそらく住居跡は、北側にも南側にも続き最終的には環状集落的な様相を示していたと推測される。

遺跡の最終的な様相は、前述したように第489図の上段である。住居跡が検出されない中央部分は土壌が分布するエリアとなっている。

また細分して時期を確定することが困難なため、段階分類の対象とはしなかったが、今回の調査において掘立柱建物跡が16棟検出されている。住居跡が加曾利EⅢ～Ⅳ式という限定された時期のものであり、掘立柱建物跡もその時期に構築されたものと考えられる。第489図上段において、その分布を見ても土壌の分布域とほぼ重なっており、例外もあるが土壌を囲むように検出されている。また住居跡の分布の外側から検出されたものはない。従って掘立柱建物群は、土壌の性格とも関連するが、倉庫もしくは殯屋の性格も導き出される。

以上のことから考えると、神ノ木2遺跡の集落は最終的には1つの環状を持つ集落となり、環状の内側部分には土壌と、掘立柱建物跡を構築していると推測される。

1つの環状をなしていたという視点から、第Ⅰ～Ⅴ期の住居跡の変遷について見直してみると、集落は、環状の径を狭くしたり広げたりしながら変遷していったと考えられ、そのため内側に近い部分の遺構の重複が激しく、外側部分の遺構の重複が少なくなっているものと考えられる。

また、神ノ木2遺跡の環状集落の大半は、第Ⅳ・Ⅴ期の遺構が激減することから考えれば、第Ⅰ～Ⅲ期において完成されたもので、土器型式にすれば加曾利EⅢ式の1型式中に現段階では収まるものであると考えられる。

以上のような神ノ木2遺跡の集落を考える上で参考となる集落研究については、大宮台地上の縄文時代中期後半の環状集落について検討している金子直行氏の論考がある（金子2006・2007）。

金子氏は、縄文時代の中期型環状集落の解体過程について、遺跡群総体の中で構造的に明らかにしている。その論考からすれば、神ノ木2遺跡の時期は金子氏のⅤ～Ⅶ期に相当する。Ⅴ期が神ノ木2遺跡の第Ⅰ期、Ⅵ期が第Ⅱ・Ⅲ期、Ⅶ期が第Ⅳ期に該当する。金子氏の論考ではⅤ期以降爆発的に増加した遺跡は、Ⅶ期以降急速な減少に転じるとしている。その現象は神ノ木2遺跡でも同様である。金子氏が指摘するように、本遺跡の第Ⅰ～Ⅲ期にかけて大形集落化した神ノ木2遺跡は、集落を維持することが困難となり、第Ⅳ期以降分散化、分村化し、後期型集落の基盤形成を行っていったのであろうか。

神ノ木2遺跡に隣接する神ノ木遺跡からは後期の土壌が検出されている。その後の神ノ木2遺跡の集落を考える上での今後の課題としたい。

3. 古墳時代

(1) 柴山枝郷古墳群と土壙墓

柴山枝郷古墳群の変遷と特徴

神ノ木2遺跡から発見された古墳時代の遺構は、方墳2基・円墳2基・土壙墓5基と、土壙墓の可能性が高い土壙2基である。これらの遺構の分布は、調査区西側に集中する。神ノ木2遺跡が位置する台地の西側縁辺部にあたり、眼下には低地が広がる立地である。

神ノ木2遺跡の北西約180mの地点に、神ノ木遺跡が位置する。発掘調査の結果、周溝内径約11m・周溝外径約14.6mの円墳跡1基が発見された。周溝の覆土からは古墳時代の遺物が出土していないが、試掘調査時に墳丘裾部分と思われる箇所から古墳時代後期初頭の土師器坏3点が検出されている(昼間2000)。

神ノ木遺跡と神ノ木2遺跡との間には、古墳の墳丘の残痕や古墳跡は検出されていない。しかし、両遺跡の古墳跡が同一の台地の西辺部に古墳が築造されている立地条件や、古墳の時期や規模の酷似から、ひとつの「古墳群」として捉えることができる。つまり、方墳・円墳・土壙墓によって構成される古墳群が、約200m以上の範囲(範囲未確定)にわたって造営されていたのである。塩野博は『埼玉の古墳』の中で、神ノ木遺跡第1号古墳を芝山枝郷古墳群(「芝山」は誤記で、本来は「柴山」である)として紹介されている(塩野2004)。古墳群の名称については、小字名から「神ノ木古墳群」とする代替案も考えられ、検討の余地が残る。取り敢えず、本稿では、神ノ木遺跡・神ノ木2遺跡の古墳群を、「柴山枝郷古墳群」と便宜的に表記する。

武蔵国造の奥つ城とされる行田市さきたま古墳群の周辺地域では、国宝・金錯銘鉄剣を出土したさきたま稲荷山古墳の築造を契機として、数多くの古墳群の造営が開始される。その範囲は、妻沼低地・加須低地および、これらの低地を臨む櫛挽

台地・大宮台地ときわめて広い。また、大宮台地上に位置する鴻巣市では古墳群の造営とともに、馬室・生出塚という埴輪窯群も経営されていた。柴山枝郷古墳群も、このような時代のなかで展開していった古墳群のひとつである。

神ノ木2遺跡から発見された古墳時代の遺構のなかで、時期が特定できるのは第1・4・6号墳の3基の古墳と、鉄製武器類が副葬されていた第107号土壙1基である。

出土した土器から、最も古く位置づけられるのが方墳の第4号墳である。形式化された有段口縁壺や胴部下半をヘラケズリされた小型丸底土器等の特徴から、古墳時代中期中葉の5世紀中頃に比定される。もうひとつの方墳の第2号墳は埴の破片資料1点のみで、中期末の5世紀後葉頃と推定される。

第4号墳の周溝掘形は、古墳時代前期の方形周溝墓を彷彿させるものである。発掘調査中には「方形周溝墓とするか」、「方墳とするか」という選択に迷ったが、併存する円墳との規模、出土遺物の時期、第2号墳との方向性の一致から「方墳」とした経緯がある。一方、第2号墳は周溝がずば抜けて深く、調査着手段階から「古墳」として疑いのない遺構と捉えられていた。また、あまりにもしっかりとした周溝の掘形から、当初は前方後円墳の可能性も考えられていた。このような遺構の形態差には、明確な時期差が反映されているものと解釈できる。

円墳の第1号墳・第6号墳および神ノ木遺跡第1号古墳からは、土師器模倣坏が出土している。これらの土器年代を類推する参考資料として、比較的近距离に位置する鴻巣市新屋敷・生出塚遺跡古墳の出土土器があげられる。大谷徹は『新屋敷遺跡D区』報告書において、新屋敷遺跡古墳出土土器の編年を行っている。この作業のなかでは、古墳周溝に堆積していた群馬県榛名山二ツ岳の噴

火に伴い降下した火山灰（F A）を示標テフラ層として有効に活用されている（大谷1998）。

大谷編年に第1号墳・第6号墳および神ノ木遺跡第1号古墳出土土器を照らし合わせると、第1号墳がI a～I b期（5世紀末）、第6号墳がI b期（5世紀末～6世紀初頭）、神ノ木遺跡第1号古墳がI a期（5世紀後葉～末葉）に相当するものと思われる。また大谷編年では、F Aの降下時期をI b期とII期（6世紀初頭～前半）の間に位置づけられているが、第1号墳・第6号墳・神ノ木遺跡第1号古墳でもF Aと推定される火山灰の堆積が確認されており、出土土器の年代観を傍証している。

一方、鉄製武器類が副葬されていた第107号土壙を除く古墳時代の土壙については、出土遺物がなく、時期の特定は難しい。ここでヒントとなるのが示標テフラ層である。神ノ木2遺跡では、示標テフラ層としてF Aと天仁元年（1108）噴火の浅間山火山灰（As-BP）が検出されている。

第52・58号土壙は、覆土最上層からAs-BPが検出され、状況証拠からそれ以前の土壙といえる。また分布域や平面形態・規模等の条件を加味すると、古墳時代の土壙墓であった可能性が高くなる。

F Aは、第30・32・106号土壙から検出されている。第30号土壙では覆土下層上部、第32号土壙では覆土最下層、第106号土壙では覆土中層に堆積していた。木棺が埋設された土壙墓と推定し、木棺の腐朽・陥没をも含めた土壙の堆積過程の検討を要するが、通常はF Aが覆土中層に堆積する第106号土壙が最も古く位置づけられる。一方、覆土最下層に堆積する第32号土壙が最も新しく、6世紀初頭前後の年代が推定される。

次に、古墳周溝内におけるF Aの堆積状況を見ると、方墳の第4号墳にはF Aの堆積がなく、第2号墳では覆土上層下半部に堆積していた。第4号墳では周溝埋没後に、第2号墳では周溝の中程まで埋没していた段階でF Aの降下があったこと

になる。一方、円墳では、第1号墳が覆土中層から下層部に、第6号墳が覆土中層の周溝斜面部に沿って、神ノ木遺跡第1号古墳が墳丘裾部に限定的に検出されている。当然のことではあるが、周溝覆土内のF Aの堆積状況と、遺物の年代観には比例関係が成立している。

出土遺物の特徴やF Aを示標テフラ層として活用すると、方墳の第4号墳→第2号墳→第106号土壙→円墳の神ノ木遺跡第1号古墳・第1号墳・第6号墳・第30号土壙→第32号土壙という相対的な変遷を辿ることができる。大枠として、柴山枝郷古墳群の古墳・土壙墓が方墳の築造から円墳の造営・土壙墓への埋葬という展開過程を捉えることができる。

最も古い方墳の第4号墳では、方形周溝墓的な古い要素がみられる。続く方墳の第2号墳が、古墳らしい古墳として築造される。さらに、円墳群の造営が開始・加速し、古墳時代後期古墳群らしい様相へ向かっている。このように、方形の墳墓から円形墳墓へ移行した例として、戸田市南原遺跡（塩野ほか1969・1972、小島清一1996）、上尾市殿山遺跡・殿山古墳（赤石ほか1979）、鴻巣市（旧吹上町）袋・台遺跡（高橋・田部井ほか1982）をあげることができる。いずれも「方形周溝墓」から「円墳」への移行であり、方形周溝墓と円墳の重複関係も存在する。残念ながら、柴山枝郷古墳群とは様相が異なる。配置に計画的な間隔をもち、方墳から円墳へ段階的に移行した古墳群造営は、むしろ特徴のひとつとして捉えることができる。

柴山枝郷古墳群の造営において、土壙墓群の存在は注目される。一方では、相応の土木作業を伴う円墳群が築造されているのに対し、片や規模や土木作業量等に格段の違いが存在する土壙墓が、同時期に同一の墓域のなかに展開している。また土壙墓と円墳の位置関係には陪葬的な様相を窺うこともできず、整然と並立している。このように、

大きく格の異なる二種類の墳墓が併存することも柴山枝郷古墳群の特徴にあげられる。

さらに同時期の鴻巣市新屋敷遺跡の古墳群には樹立されている埴輪がまったく無いことも柴山枝郷古墳群の特徴に加えることができる。F Aの堆積状況を考えると時期的には小古墳にも埴輪が樹立され始める微妙な時期でもあるが、調査された古墳だけではなく、調査区内から埴輪片すら発見することはできなかった。これに対し、新屋敷遺跡は生出塚埴輪窯跡群と隣接することから、特別視することもできるが、柴山枝郷古墳群に埴輪が樹立されていないことは事実であり、埴輪受容に遅れをとった古墳群といえる。

最後に、発掘された神ノ木遺跡、神ノ木2遺跡からは、古墳時代の住居跡をはじめとする生活痕がまったく認められていない。純粹に、墓地としてのみ機能した空間であった。古墳や土壙墓に葬られた人々は、古墳群の西側に広がる低地の水田を耕し、隣接する箇所に住していたことが想像される。

第107号土壙の評価

第107号土壙は、発見された古墳時代の土壙墓のなかで、唯一、副葬品が検出された土壙墓である。鉄製大刀1振・鉄製長剣1振・鉄鎌1丁・鉄鏃15本が出土している。方墳の第2号墳・第4号墳と円墳の第6号墳に囲まれた区域に位置し、長軸は方墳の第2号墳・第4号墳を意識したような方向性を示している。この区域には、第100・106号土壙という2基の古墳時代土壙墓も所在するが、第107号土壙の規模は他の土壙墓から卓越し、長軸方位も相違する。

第107号土壙は、上段土壙の底面中央部に下段土壙が掘り込まれた二段土壙である。覆土が周縁部と中央部が垂直線によって明確に分層される堆積状況から、木棺直葬墓と推定される。周縁部の土層は、埋葬段階に木棺の周囲の掘形に充填した人為的な堆積層と解釈される。これに対し、中央

部の土層は、木棺の腐朽・墓壙の陥没後の自然堆積層で、堆積の方法的・時間的な差が垂直分層線に表れている。北東壁際からは木棺の木口部に設置された白色粘土が検出され、対面には横穴状の張り出しが付設されている。

副葬された鉄刀・鉄剣・鉄鎌は、下段土壙の中央付近から出土している。底面より約0.2mほど浮いた状態で、鉄刀・鉄剣の把が北東に、切先が南西に揃えられて検出されている。鉄鏃は上段土壙の南西隅から折り重なるように発見され、鏃身部先端が南西方向に揃えられていた。また、下段土壙の南西壁付近からは、短頸の三角形鏃1点が出土している。

このような遺構の情報や副葬品の検出状況から、埋葬状態の復元が可能である。

木棺には、箱形・割竹形・舟形等が考えられる。少なくとも、白色粘土に接する木口部が直立した面をもつ形式に限定される。鉄刀・鉄剣の把・切先や鉄鏃の方向から、埋葬された遺骸は頭部を白色粘土が設置されていた北東に向けていたものと断定できる。

鉄刀・鉄剣・鉄鎌がきれいに並んだ出土状況から、これらを遺骸に抱かせるように棺内に納めたものと推定される。一方、折り重なるように発見された鉄鏃は、矢を盛矢具に納めた状態で遺骸下半身の左側に埋納されたものと判断される。本来ならば、弓も一緒に納められたものと想像される。胡禄は左側の腰から下げられた状態なのか遺骸の左脚に沿って安置したものなのかは、木棺の大きさとも関連する問題であり判断は難しい。さらに、下段土壙の南西壁付近から1点のみ出土した大型の短頸三角形鏃には、魔除等の呪術的な意味合いが感じられる。

ここで問題となるのが、下段土壙の解釈である。

下段土壙は幅が0.32~0.40mと狭く、割竹形木棺や舟形木棺の痕跡と考えることも可能である。しかし、0.22~0.37mの深さをもつしっかりとし

た掘り込みで、単純に木棺の痕跡と捉えることは危険である。

次に、鉄刀・鉄剣が下段土壌のなかにきれいに並んでいた状況を、埋設された原位置がそのまま保たれていた状態と捉え、下段土壌を棺下に設置された副葬品埋納壙と想定することもできる。しかしながら、このような例は知られていない。仮に、副葬品埋納壙とするならば、納められた鉄刀・鉄剣・鉄鎌は下段土壌の床面直上にあつて然るべきである。にもかかわらず、床面から約0.2mほど浮いた状態で出土し、この間に堆積した覆土の解釈が不可能である。また、弓矢（鉄鏃）が埋納壙の外に副葬されていることとなり、理に合わない。よって、下段土壌を副葬品埋納壙という特別な施設として捉えることはできない。

最も素直な解釈は、下段土壌を木棺を埋設した土壌と考えることである。この場合、下段土壌の規模が、納められた木棺の規模と推測できる。しかし、大刀・剣・弓矢という武器に偏った副葬品から想像される埋葬された被葬者は「武人的な性格の強い成人男子」で、仰臥伸展状態で納棺されたことを前提とすると、被葬者の体格（肩幅）と木棺の大きさ（棺幅）に矛盾が生じる。これに対し、木棺木口の白色粘土の範囲が人為的な要素を含めた意味でも下段土壌幅に限定され、下段土壌幅＝木棺幅であることを示唆している。

埼玉県内に所在する二段墓壙例として、さいたま市植水3号墳主体部、鴻巣市新屋敷遺跡第51号墳主体部、さいたま市白鍬宮腰遺跡第1号埋葬施設跡・第2号埋葬施設跡があげられる。

植水3号墳は内径10.23mの円墳で、長さ3.55m×幅1.85mの上段土壌の中央部に、木棺を納めた長さ2m×幅0.55mの埋葬土壌が掘り込まれている。長軸両端には粘土ブロックが散在し、ガラス小玉83以上・ガラス丸玉（白玉）41以上・管玉11・滑石製白玉2と刀子1が副葬されていた（第491図・田代ほか1985）。

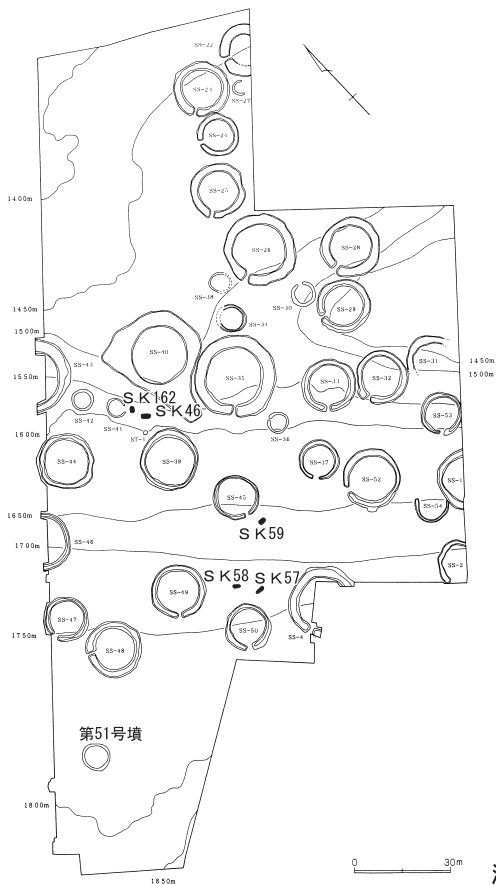
新屋敷遺跡第51号は、周溝内径7.7m・外径9.28mで、古墳群のなかでは小規模な円墳である。長さ3.06m×幅0.91mの上段土壌のなかに、周囲に白色粘土が施された長さ2.5m×幅0.47m×深さ0.20mの木棺を埋葬した主槨がある。副葬品は出土していない（第491図・大谷1996）。新屋敷遺跡第51号墳主体部例は、木棺を埋設するための土壌の幅が想像よりも狭いもので事足りることを示している。また、新屋敷遺跡では、小型古墳や埴輪棺等の従属的な埋葬施設が集中する区域から5基の土壌墓も検出されている（第491図）。F Aの堆積や短辺壁面がオーバーハングした例は、柴山枝郷古墳群の土壌墓との共通性を見出すことができる。

白鍬宮腰遺跡の第1号埋葬施設跡・第2号埋葬施設跡は、柴山枝郷古墳群・新屋敷遺跡と同様に、古墳群内に所在する土壌墓である。下段土壌は深さ0.12～0.15mと浅く、埋設した木棺の痕跡と推測され、木棺の木口部付近に白色粘土が用いられている。遺物は、第2号埋葬施設跡から鉄鏃2・刀子1が出土している（第491図・岩田1998）。このほかに、白鍬宮腰遺跡第2次調査で発見された第1号土壌（粘土槨・刀子1出土）も土壌墓に数えられる（第491図・山田ほか1989）。

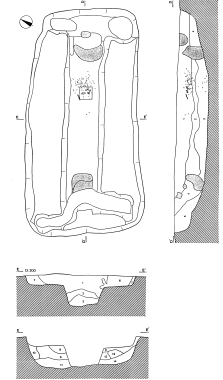
東松山市古凍古墳群は、古墳群内に土壌墓が発見された例として知られている。4基の土壌墓が検出され、このうちの3基の土壌から、それぞれ6世紀第Ⅳ四半期～7世紀第Ⅰ四半期の馬具類一式が出土している（第492図・江原1999）。

埼玉県外には、栃木県宇都宮市・壬生町の上原北遺跡例がある。11基の土壌墓のうちの2基が二段土壌である。また2基の円形周溝墓の主体部も「縦溝」式の底面二段掘り込みとなっている（第492図・青木ほか1989）。

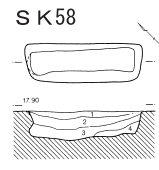
このようにみると、第107号土壌の下段土壌は木棺を埋設した土壌と考えるのが妥当と思われる。ただし、白色粘土に直立面という木棺痕跡が残さ



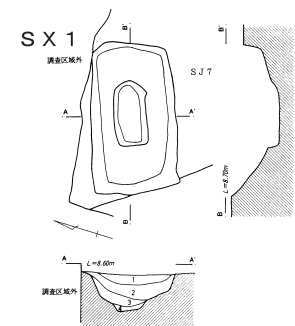
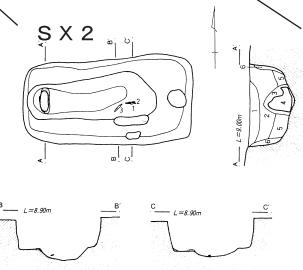
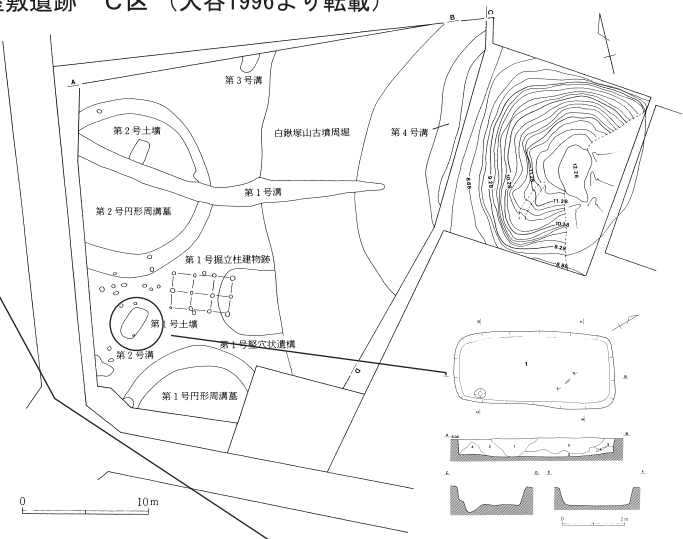
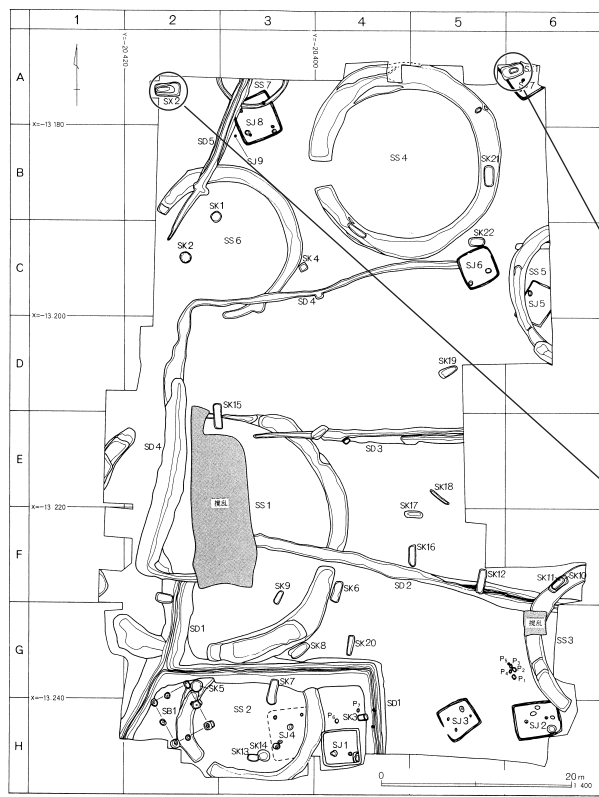
新屋敷遺跡第51号墳



さいたま市植水3号墳
(田代ほか1985より転載)

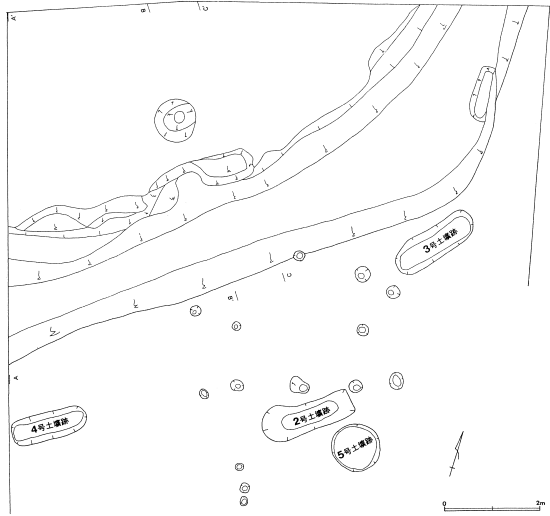


鴻巣市新屋敷遺跡 C区 (大谷1996より転載)

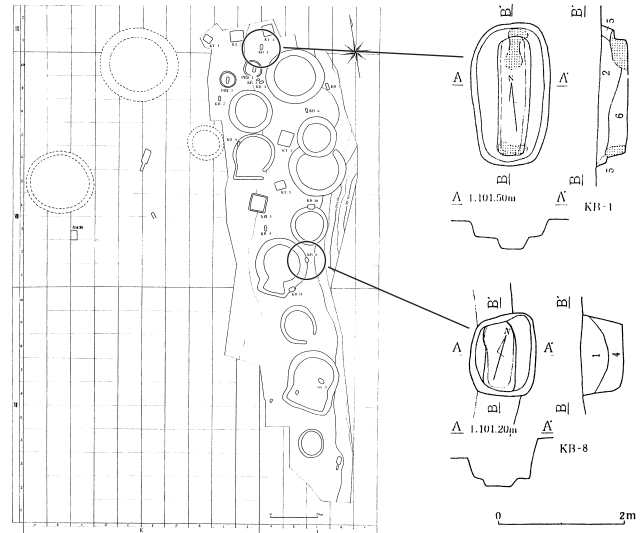


さいたま市白鉄宮腰遺跡 (岩田1998・山田ほか1989より転載)

第491図 埼玉県内に所在する二段墓墳例



東松山市古凍古墳群
(江原1999より転載)



栃木県壬生町上北原遺跡
(青木ほか1989より転載)

第492図 古墳群内の土壙墓例と栃木県に所在する二段墓壙例

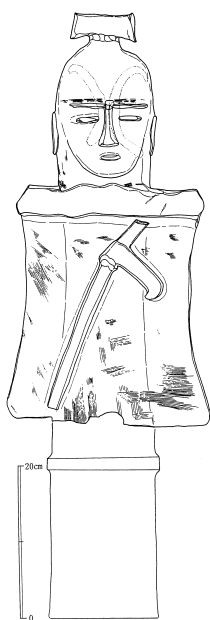
れていることから、田中新史の分類する「天井の木板を落とし込み、木棺全体を完全に地下深く納めるための明瞭な掘り込みをもつ」二段地下式構造の木棺墓（田中1985）とは異なり、下段土壙の深さよりも高さのある木棺が埋設されていたものと想定される。

副葬品が大刀・剣・弓矢という武器のなかに、1点だけ「鎌」という農具の混在に違和感がある。通常古墳の副葬品には、宝器・武器・武具類とともに農具が含まれていることから、当然の現象とみることもできる。しかし玉類の出土もない第107号土壙の限定性の強い副葬品の種類からは躊躇を覚えざるを得ない。そこで注目されるのが、熊谷市（旧江南町）権現坂埴輪製作遺跡1号粘土採掘坑から出土した「戈戟」と推定される大陸祖型の武器を持つ盾持人埴輪である（第493図）。戈戟は矛と鎌が合体したような形をした武器で、「刺」にあたる矛状の刃部とその根元から二手に枝分かれした「授」がある。戈戟は中国の戦国時代の車戦用武器であったが、漢代以降は騎馬戦用の武器となった。歩兵が騎兵を引っ掛けて馬から落とすために使われ、中国の古墳壁画には、左手

に盾、右手に戈戟を持った歩兵隊の姿が描かれている。日本における戈戟とみられる武器は、5世紀後半～6世紀前半の群馬県前橋市鶴巻古墳・茨城県三味塚古墳・淑浜古墳からの出土品と正倉院中倉宝物が刺授同体式例として知られている。また、5世紀後半の奈良県尾今田1号墳の矛とその袋部に接して鉤状の鉄製品が出土した刺授異体式例もある（塚田・新井1992）。このような例から、鎌に戈戟の「授」とした機能をもたせ、農具ではなく武器として副葬した可能性を考えておく必要がある。

柴山枝郷古墳群の被葬者層の復元

柴山枝郷古墳群では、ひとつの古墳群のなかに墳丘が築かれた古墳（方墳・円墳）と、無墳丘の土壙墓が併存している。土壙墓のなかにも木棺が埋納されたと推定される二段墓壙と、木棺の有無を断定できない一段墓壙が存在する。また第107号土壙という豊富な副葬品を有する木棺直葬墓の存在は、相応の土木工事を伴う古墳にその内容をはるかに凌駕する埋葬施設・副葬品等を想定させる。しかし、同時期の新屋敷遺跡の古墳には埴輪が樹立されるにもかかわらず、柴山枝郷古墳群で



(『江南町史』1995より転載)

第493図 熊谷市(旧江南町)権現坂遺跡
戈戟を持つ盾持人埴輪

は埴輪が受容されていない。また周溝覆土等から礫の出土がなく、墳丘の葺石や石室を想定することができない。埋葬施設は粘土槨か木棺直葬で、そのなかには眼を瞪るような副葬品も期待できない。このような状況から、柴山枝郷古墳群に埋葬された被葬者の階層性が極めて複雑であったものと推測させられる。

柴山枝郷古墳群に埋葬された被葬者についてたくましく想像すると、古墳の被葬者は第107号土壙の内容をはるかに凌駕する豊かな内容を備えた古墳ではないけれども、「古墳築造」という土木工事に人員を動員することが可能であった権力層といえる。これに対し、第107号土壙の被葬者は、物的には豊かな財産を所有していたが、「古墳築造」という土木工事に人員を徴用することのできなかった階層と解釈される。

この両者の違いは、権力階層差として捉えることが自然である。古墳被葬者は、人員の動員が可能であった「長たる血筋」と位置づけられる。片や、第107号土壙被葬者には、副葬品から豊かな武力・財力を所有していた武人的性格が強い人物

像が想定されるが、古墳という「政治的墳墓」を築造することが許されなかった血筋といえよう。「長たる血筋」が故に古墳が築造できた階層と、豊かな武力・財力を所有していながらも古墳が築造できなかった階層の関係は、後の世に譬えるならば、前者が伝統勢力の貴族的な階層、後者が新興勢力の武士階級という構図として想像することも可能なのではないか。

(2) 第107号土壙出土の鉄製品について

第107号土壙から出土した鉄製品は、剣1、大刀1、鎌1、鉄鎌14、用途不明品1である。ここではまず、武器類の型式学的分析から、その年代について考えてみたい。

剣は、茎が茎尻に向かって内彎しつつ細くなる、池淵氏の「ナデ中細茎」に分類されると考えられる。年代的には4世紀末～5世紀中葉の例が多いとされている(池淵1993)。

大刀は、茎の幅が変わらず、端部が直線をなすもので、白杵氏の分類でいう「一文字尻直茎」式に属する鉄刀である。浅い背関の存在を重視するならば、「均等両関一文字尻直茎」式に該当するが、この型式の鉄刀は類例が少なく、時期的な位置づけがなされていない(白杵1984)。ただし、同じく一文字尻茎で直角の刃関を有する片関の鉄刀は、4世紀～5世紀末の年代観が与えられており、本例の年代を考える上で参考になろう。

鉄鎌は杉山秀宏氏の編年研究(杉山1985)を踏襲する。短頸鎌のうち、2点(第462図5・6)は、ふくらを有して内彎し、そのまま逆刺に至る三角形鎌のうち、深い逆刺で重扶りを有するもの(A-II-D)で、あとの2点(同図7・8)は逆刺が発達し、重扶りを有する長三角形鎌(A-I-2-B)である。ともに、中期後半を中心に盛行した鉄鎌と考えられている。

長頸鎌は、判明しているものすべて同型式で、頸部が発達した逆刺のない長三角形鎌で、斜め

関・両丸造りのもの（B—I—3—B—1）に属すると考えられる。この型式にはTK216～208型式期の年代が与えられている。

以上の研究成果から、第107号土壙に副葬された武器類の年代は、5世紀後半に求められ、やや古い様相を呈する剣の存在を重視すると、5世紀第2四半期まで限定することが可能であろう。

この年代は、先に示された柴山枝郷古墳群の変遷において、2号墳及び第106号土壙とほぼ同時期にあたる。第106号土壙とは、その二段掘り込みをもつ構造に共通性があり、大きな年代の隔たりはないと考えられる。

次に、先に提示された鎌の武器としての可能性について、私見を述べたい。

その可能性を指摘した先学の論考としてあげられるものに、都出比呂志氏のものがある。都出氏は、鎌の分類にあたり、刃長30cmに達し、古墳での出土状況が武器ばかりとともに副葬されているものは、「戈のような、武器としての鎌の可能性を考えるべきではないか」と指摘されている（都出1989）。都出氏がその例としてあげられた大阪府堂山古墳は、副葬品を納めた副棺内から、豊富な武具・武器・農工具が出土しており（三木1994）、

鎌は長さ30cm前後で鈍角の装着部がつく大型鎌が2点と、長さ13～18cmの中型鎌（柄装着角度は直角）が3点出土している。大型鎌はヤリガンナとともに鉄刀の近くに置かれ、中型鎌は鋤（鍬）先とともにまとめて置かれていた。

古墳時代中期以降の古墳を瞥見した限りでは、鎌が斧とともに、武器と同様に被葬者の脇に副葬されている例は比較的多い。県内の例をあげれば、箱式石棺内から、剣2振りとともに鎌と斧が出土している本庄市生野山將軍塚古墳がある（柳田1964）。このような副葬品としての鎌を、武器もしくは村上氏の指摘するような「武威の象徴」（村上1993）として評価することは可能と考えられる。ただし、古墳における農工具類と武器類とのセット関係を、「軍防令」に規定された兵士の装備を適用し、当時の武人集団の装備として理解する考え方（関川1987）もあり、共伴＝武器と、安易に判断することは避けなければならない。

この問題にアプローチするために必要なのは、都出氏の指摘されているように、武器としての視点を取り入れた型式学的分析を進めるとともに、出土状況の綿密な考察を行い、「武器の鎌」と「農具の鎌」を識別することにあると考えられる。

引用・参考文献

- 青木健二ほか 1989『宮の森集落遺跡群』日本窯業史研究所
- 赤石光資ほか 1979『殿山古墳・殿山遺跡』上尾市文化財調査報告書第6集 上尾市教育委員会
- 池淵俊一 1993「鉄製武器に関する一考察—古墳時代前半期の刀剣類を中心として—」『古代文化研究』第1号 島根県古代文化センター
- 磯野治司 1996『提灯木山遺跡 第2次調査』北本市遺跡調査会報告書第2集 北本市遺跡調査会
- 岩田明広 1998『白鍬宮腰遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第227集
- 上野真由美 1999『宿北V遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第214集
- 白杵 勲 1984「古墳時代の鉄刀について」『日本古代文化研究』創刊号 PHALANX—古墳文化研究会—
- 江原昌俊 1999『古凍14号墳(第1・2次)』埼玉県東松山市埋蔵文化財調査事業団報告書第23集
- 大谷 徹 1996『新屋敷遺跡C区』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第175集
- 大谷 徹 1998『新屋敷遺跡D区』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第194集
- 奥野麦生 1990『山遺跡』白岡町遺跡調査会報告書第1集
- 金子直行 1996『大山遺跡 第9次』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第180集
- 金子直行 1997『戸崎前遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第187集
- 金子直行ほか 1998『薬師堂根遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第200集
- 金子直行 2004『浅間東遺跡Ⅳ』町内遺跡発掘調査報告書第4集 埼玉県松伏町教育委員会
- 金子直行 2006「縄文中期型環状集落解体への序章—時(クロノス)としての土器からみた「場(トポス)」としての集落変遷—」『ムラと地域の考古学』 同成社
- 金子直行 2007「縄文中期型環状集落の解体過程からみた縄紋社会—複雑系科学の視点から—」『縄紋社会をめぐるシンポジウムⅤ 縄紋社会の変動を読み解く 予稿集』 縄紋社会研究会・早稲田大学先史考古学研究所
- 騎西町 2001『騎西町史 考古資料編1』 騎西町教育委員会
- 小島清一 1996『南原遺跡Ⅵ』戸田市遺跡調査会報告書第5集
- 埼玉地区文化財担当者会 2007『埼玉の遺跡』埼玉地区文化財担当者会報告書第6集
- 塩野 博ほか 1969『南原(高知県)遺跡第1次発掘調査概要』戸田市文化財調査報告Ⅲ 埼玉県戸田市教育委員会
- 塩野 博ほか 1972『南原(高知県)遺跡第2・3次発掘調査概要』戸田市文化財調査報告Ⅴ 埼玉県戸田市教育委員会
- 塩野 博 2004『埼玉の古墳[北埼玉・南埼玉・北葛飾]』 さきたま出版会
- 菖蒲町 2006『菖蒲町の歴史と文化財 通史編』 菖蒲町教育委員会
- 杉山秀宏 1988「古墳時代の鉄鍬について」『檀原考古学研究所論集』第八 奈良県立檀原考古学研究所
- 関川尚功 1987「畿内中期古墳出土の鉄製農具について」『横田健一先生古希記念 分化史論叢』上 横田健一先生古希記念会
- 高橋俊男・田部井功ほか 1982『袋・台遺跡』吹上町埋蔵文化財調査報告書 吹上町教育委員会
- 田代 治ほか 1985『原遺跡』大宮市遺跡調査会報告第12集
- 田中新史 1985「古墳時代終末期の地域色—東国の地下式系土壙墓を中心として—」『古代探叢Ⅱ—早稲田大学考古学会創立35周年記念考古学論集—』 早稲田大学出版会
- 谷井 彪・細田 勝 1995「関東の大木式・東北の加曾利E式土器」『日本考古学』第2号
- 谷井 彪・細田 勝 1997「水窪遺跡の研究—加曾利E式土器の編年と曾利式の関係からみた地域性—」『研究紀要』第13号 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 谷井 彪 2003「縄文時代中期終末と後期初頭の接点—梶山類をめぐって—」『埼玉県立博物館紀要』28
- 塚田良道・新井 端 1992「人物埴輪と大陸文化」『月刊考古学ジャーナル』No.349

- 戸田哲也 2006「曾利Ⅲ式土器の伝播と変容」『ムラと地域の考古学』 同成社
- 富元久美子 1997『加納里遺跡17・18・22次発掘調査報告書』飯能の遺跡23
- 中平 薫ほか 2006『寺脇』日高市埋蔵文化財調査報告書第32集
- 橋本 勉 1994『原山坊ノ在家遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第144集
- 橋本 勉 1994『中妻三丁目遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第159集
- 橋本 勉 2004『加曾利EⅢ式土器の拡散とフィードバック（前）』研究紀要第19号 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 昼間孝志 2000『神ノ木遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第262集
- 細田 勝 2002『浅間東遺跡Ⅱ』町内東部遺跡群発掘調査報告書第4集 埼玉県松伏町教育委員会
- 細田 勝 2003「南関東加曾利E式について」『第16回縄文セミナー 中期後半の再検討』 縄文セミナーの会
- 三木 宏ほか 1994『堂山古墳群』大阪府文化財調査報告書第45輯 大阪府教育委員会
- 村上恭通 1993「朝鮮半島の副葬鉄斧について」『信濃』第44巻第4号 信濃史学会
- 柳田敏司 1964「埼玉県児玉郡生野山將軍塚古墳発掘調査概報」『上代文化』第34輯 國學院大學考古学会
- 山田尚久ほか 1989『白楸宮腰遺跡発掘調査報告書（第2次）』浦和市遺跡調査会報告書第123集
- 吉田 稔 1995『修理山遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第158集
- 渡辺清志ほか 1998『宿東遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第197集
- 渡辺清志ほか 2006『上町東／旭原』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書324集（飯能市）

報告書抄録

ふりがな	かみのき2いせき							
書名	神ノ木2遺跡							
副書名	一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事に伴う菖蒲地区埋蔵文化財発掘調査報告							
巻次								
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書							
シリーズ番号	第349集							
編著者名	西井幸雄 上野真由美							
編集機関	財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台4丁目4番地1 TEL 0493-39-3955							
発行年月日	西暦2008(平成20)年3月24日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号	。、”	。、”			
かみのき2いせき 神ノ木2遺跡	さいたまけんみなみさいたまぐん 埼玉県南埼玉郡 しょうふまちおおあざしばやま 菖蒲町大字柴山 しごうあざかみのき 枝郷字神ノ木 1463-1他	11446	046	36°02'38"	139°36'21"	20051003 ～ 20060331 20060410 ～ 20061228	9,820	道路建設
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
神ノ木2遺跡	集落	旧石器時代	石器集中	3ヶ所	ナイフ形石器・搔器			
	集落	縄文時代中期	住居跡	108軒	縄文土器・石器			
	古墳跡	古墳時代中期 後期	掘立柱建物跡	16棟				
			土壇	398基				
埋甕			1基					
方墳跡			2基	鉄剣・鉄刀・鉄鎌・鉄鏃		第107号土壇から鉄剣・鉄刀等の豊かな副葬品が出土した。		
円墳跡	2基	須恵器・土師器						
土壇	7基							
周溝状遺構	2基							
	近世・近代	土壇	16基	陶磁器・焙烙・かわらけ				
		井戸跡	2基	・古銭				
		溝跡	42条					
		炭焼窯	2基					
要約	<p>神ノ木2遺跡は、加須低地にある低位台地上に立地する。遺跡の北側を見沼代用水が、南側を野通川が東流している。調査区は標高約12mで、水田面との標高差は1m程度である。</p> <p>調査の結果、旧石器時代はナイフ形石器を主体とする石器集中3ヶ所が検出された。</p> <p>縄文時代中期では、住居跡108軒が検出された。出土した遺物から時期は中期後葉から末葉に限られており、この時期に営まれた拠点的な集落であったと考えられる。また、掘立柱建物跡が16棟検出され、当時の集落景観を考えるうえでの貴重な事例となった。</p> <p>古墳時代中期から後期では、古墳跡が4基検出された。また検出された土壇7基は、いずれも墓として使用されていたと考えられる。そのうち第107号土壇からは、鉄剣・鉄刀・鉄鏃などの副葬品が出土した。</p>							

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第349集

神ノ木 2 遺跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事に伴う
菖蒲地区埋蔵文化財発掘調査報告
(第2分冊)

平成20年3月19日 印刷

平成20年3月24日 発行

発行／財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108 熊谷市船木台4丁目4番地1

電話 0493 (39) 3955

<http://www.saimaibun.or.jp>

印刷／巧和工芸印刷株式会社